オイルショックの後遺症！ 秋山問題を追撃!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2007
108
880yen



覇王、運命の全米初陣!!
UFC67現地潜入徹底レポート！

ミルコ・クロコップ
ランディ・クートゥアー
ダナ・ホワイト UFC代表

炸裂するミルコのプライド!!

見たか、聞いたか、感じたか!?

♪ダン！ダン!! ダダン!!!

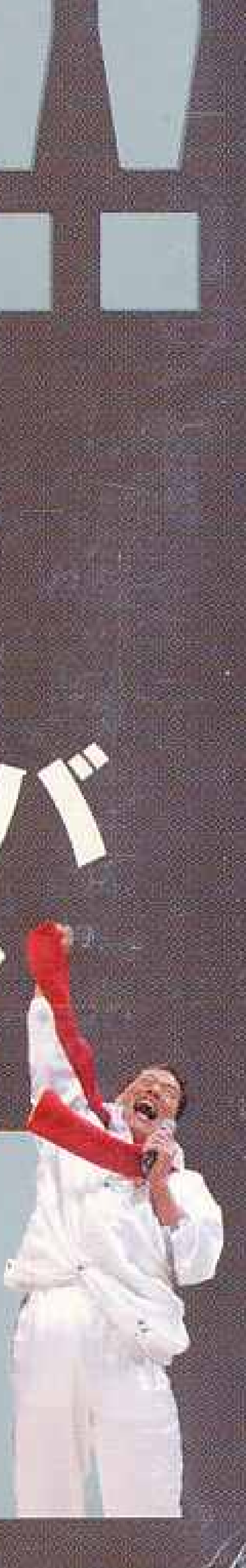
こちらもアメッリ〜カ！
2.24 PRIDEラスベガス大会を追え!!

五味隆典
ヴァンダレイ・シウバ
ダン・ヘンダーソン

あの秋山成勲をワルたちが斬る!!

アントニオ猪木

安部譲二／真樹日佐夫
星野勘太郎／松永光弘／永田裕志



kamipro 108 ♪ダン！ダン!! ダダン!!!

印刷・製本／図書印刷株式会社


PSP
PlayStation®Portable
SMACK DOWN VS RAW 2007
次世代WWEアクションを
体感!
明日発売!!
希望小売価格 5,040円(税込)
あの"エキプロ"が更なる進化を遂げる!!
世界最高のレスリングエンターテインメントWWEを体感する"エキプロ"・・・
日本のファンにも親しまれてきた本作は更にグレードアップしてTHQから登場。
WWEのスーパースター達の最新データに更新されていることはもちろん、
グラフィック、操作、全てが次のステージへ!
内容告知
●アドホックモードで最大4人対戦可能!(トーナメントロビーには最大16人入室可能)
●PSP版オンリー!"King of The Ring Tournament"追加!!
●プレーヤー同士でキャラクタートレード可能!
仲間同士でお気に入りのスーパースターのデータを交換!!
PS2版、Xbox360版 好評発売中!! 希望小売価格 各7,140円(税込)
THQジャパン株式会社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1丁目18番5号
ユーザーサポート
☎052-773-7507 (平日11:00~17:00) Email:feedbackjapan@thq.com
URL
http://www.thqgame.jp/wwe2007/
CERO C 15才以上対象
The names of all World Wrestling Entertainment televised and live programming, talent names, images, likenesses, slogans and wrestling moves and all World Wrestling Entertainment logos are trademarks which are the exclusive property of World Wrestling Entertainment, Inc. ©2006 World Wrestling Entertainment, Inc. All Rights Reserved.
©2006 THQ/JAKKS Pacific, LLC. Used under exclusive license by THQ/JAKKS Pacific, LLC. JAKKS Pacific and the JAKKS Pacific logo are trademarks of JAKKS Pacific, Inc. Developed by YUKE'S Co., Ltd. YUKE'S Co., Ltd. and its logo are trademarks and/or registered trademarks of YUKE'S Co., Ltd. THQ and the THQ logo are trademarks and/or registered trademarks of THQ Inc. All Rights Reserved. All other trademarks, logos and copyrights are property of their respective owners.
"PlayStation" および "PSP" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。



PRIDE、UFC、ボードッグ、生き残るのはどれだ!?

MMAバブル戦争大激化!

2007 No.108 CONTENTS

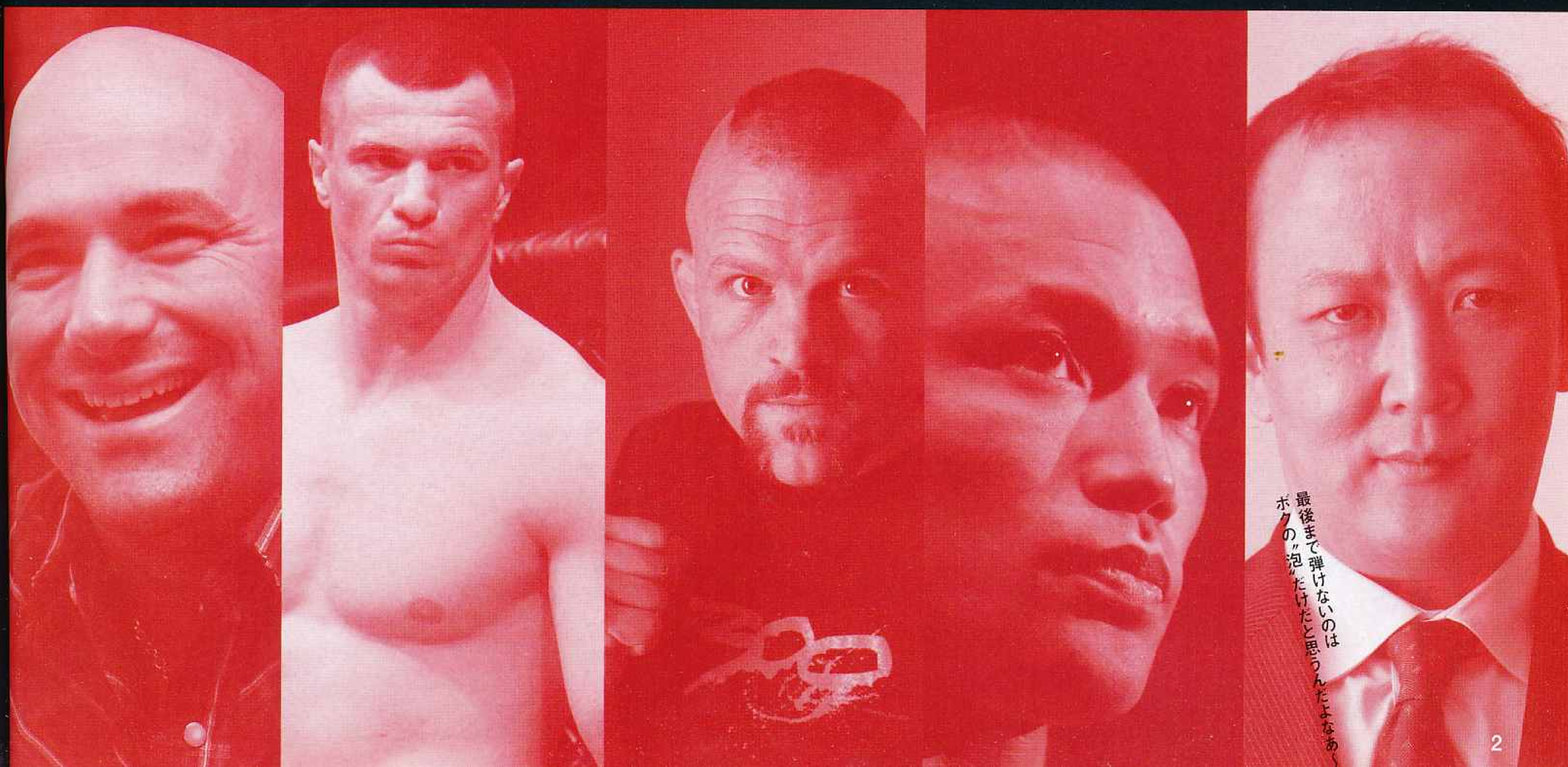
kamipro

表紙写真／Josh Hedges / UFC



戦国よりも幕末よりも、
そしてPRIDE vs K−1の抗争よりも
ハイテンションな時代!

MMA
バブルへGO!!



みなさん、バブリィですか――っ!?

え～、小川直也vs吉田秀彦戦が実現した05年の大晦日『PRIDE男祭り2005』を〝頂〟とし、いわゆる〝フジテレビ・ショック〟を機に「格闘技バブルは弾けた!!」だのなんだの指摘されていた格闘技界――。ところが、ここ日本から一歩外に足を踏み出してみると、マット界は史上最大のバブル景気に華やいでいる。

そもそもこのMMAバブルの原点とは何か?

あらためてざっくり説明すると、老舗格闘技団体UFCのファイター育成番組がアメリカで大ブームになった。それに伴ないPPV視聴者が急激に増加。正式な数字は明らかにされていないが、UFC一大会における平均PPV件数は、50～70万!! 収益はおよそ20億円! 日本市場はとても太刀打ちできない規模となっている。

そんなアメリカのMMA人気を当て込んで、巨大資本が次々と市場に参入。ファイトマネーの高騰、選手争奪戦は激化の一途をたどっている。つまり、『PRIDE』がなぜアメリカ開拓にこだわるかといえば、このまま日本にとどまっていては急激に膨れあがるMMAバブルに押されてしまい、自他とも認める〝世界最高峰の舞台〟を維持できなくなるからだ。

それにしても……なんたる心躍る戦乱模様なのか! 鳥肌、全部立ちかねない!!

古くは新日本プロレスvs全日本プロレスの引き抜き合戦、近年では『PRIDE』vsK―1の仁義なき戦いが、見る者の胸を熱くしてきたものだが、この〝バブル戦争〟はそれらをはるかに超える圧倒的スケール! 戦況をまったくご存知ない読者のために、その群雄割拠ぶりを報告しよう。さあ、お立ち会い!!

運命の3、4、5月!! 格闘天変地異がボッ発か?

まずは――今年はいよいよPPV100万件の大台に到達か!? 世界各国の戦士が夢見る格闘黄金郷、それはUFC――!!

おい、金ならこっちも持ってんぞ! 個人総資産価値1150億円!! オンライン・カジノの首領カルビン・エアーが率いる闇の新興勢力『ボードッグ』――!! 本誌特派員が本拠地の南米コスタリカに潜入。3月7日発売予定の『kamipro Special』で独占徹底リポートだ!

またまた新たな巨大資本!! アメリカの有力ケーブルテレビ局、ショータイムが主催する『プロエリートXC』! 旗揚げ前から株式公開をはたして、資産価値はいきなり168億円!

そして、忍び寄る魔の手に脅かされつつも、世界最強の剣闘士たちをいまなお擁する『PRIDE』帝国――! 2月24日には、再びラスベガス攻略戦に挑む!! やれんのか!?

んあ～!! こうなると、我らがサダハルンバ征夷大将軍だって黙っていないぞぉ!! 驚ガクのK―1モンスター路線でアメリカ人の目を丸くさせる!?

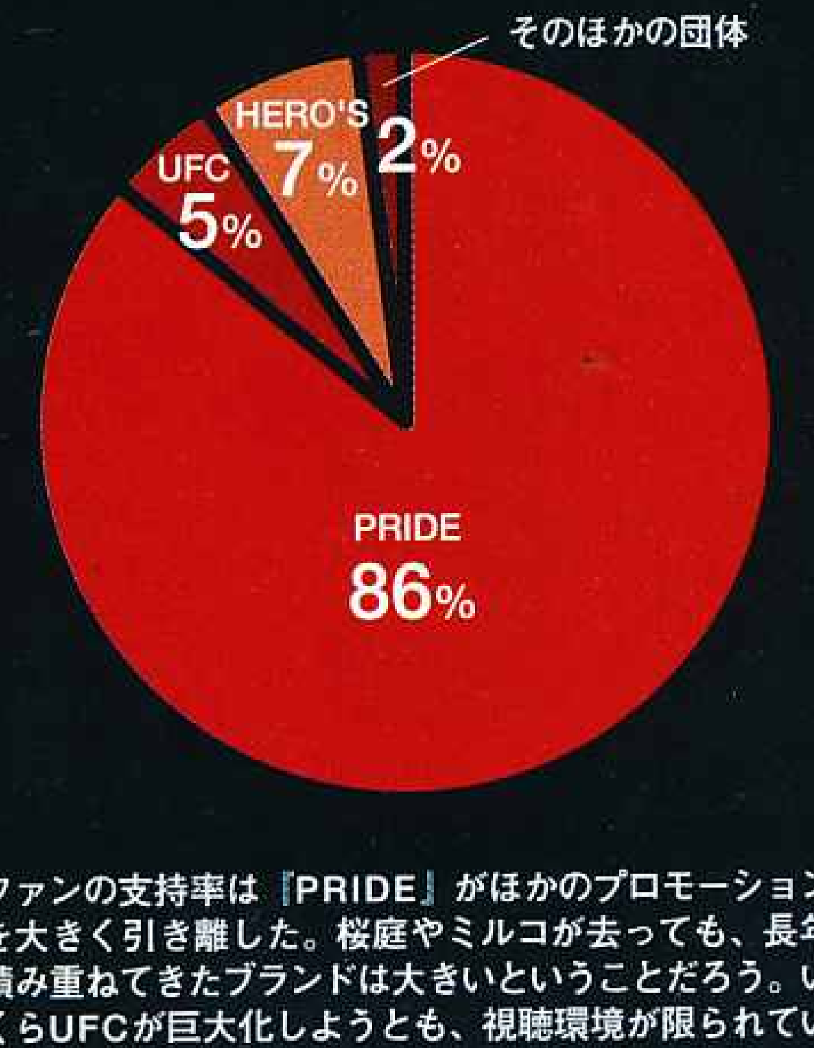
さらにさらに! 砲弾が飛び交う最前線のアメリカで、3～5月の時期に巨大地雷大爆発の気配が……!? 4月には、『PRIDE』が3度目となるラスベガス進出、『ボードッグ』はロシアでビッグマッチ、UFCはロンドン開催へ――。大会前後を含めて、何かが起こる3、4、5月!! となるのかもしれない。

とにかく、我々はこの〝バブル戦争〟の歴史的目撃者となることは確かだ!(ジャン斉藤)

地球的規模の“バブル戦争”意識調査!!

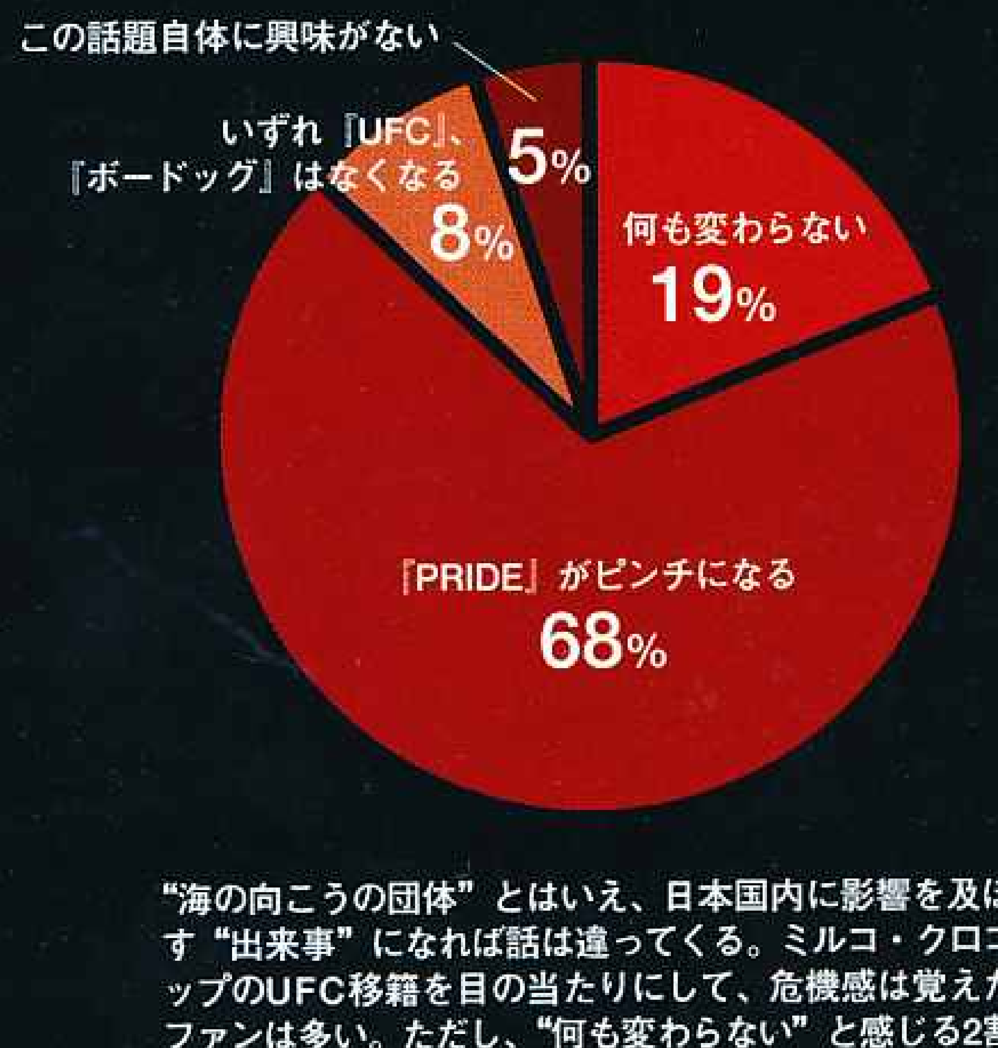
(携帯サイト『kamipro Hand』で実施)

Q1 地球的規模のMMAウォーズが勃発しているマット界ですが、あなたの好きなMMAプロモーションはどれですか?



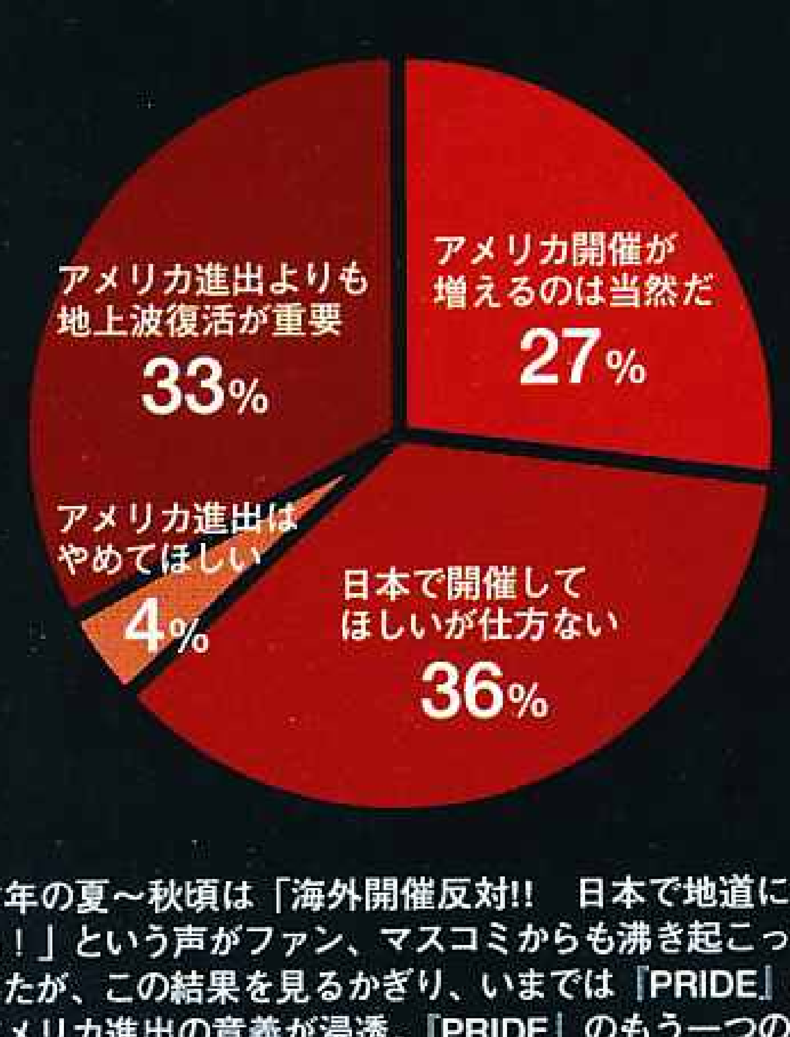
ファンの支持率は『PRIDE』がほかのプロモーションを大きく引き離した。桜庭やミルコが去っても、長年積み重ねてきたブランドは大きいということだろう。いくらUFCが巨大化しようとも、視聴環境が限られている“海の向こうの団体”はなじみが薄いか。

Q2 巨大なPPV市場を背景に勢いを増すUFC、オンライン・カジノ王カルビン・エアー率いる『ボードッグ』の登場で、今後のMMAシーンはどうなると思いますか?



“海の向こうの団体”とはいえ、日本国内に影響を及ぼす“出来事”になれば話は違ってくる。ミルコ・クロコップのUFC移籍を目の当たりにして、危機感は覚えたファンは多い。ただし、“何も変わらない”と感じる2割の層が存在することにも注目だ。

Q3 空前のMMAバブルでにぎわうアメリカMMAシーン。今年の『PRIDE』は、アメリカで4大会開催を予定していることはどう思いますか?



昨年の夏～秋頃は「海外開催反対!! 日本で地道にやれ!」という声がファン、マスコミからも沸き起こっていたが、この結果を見るかぎり、いまでは『PRIDE』のアメリカ進出の意義が浸透。『PRIDE』のもう一つの急務である、地上波復活を望む声もあとを断たない。



ミルコ・クロコップ、2.3 UFC圧勝デビュー！
なんと入場曲は"PRIDEのテーマ"!!

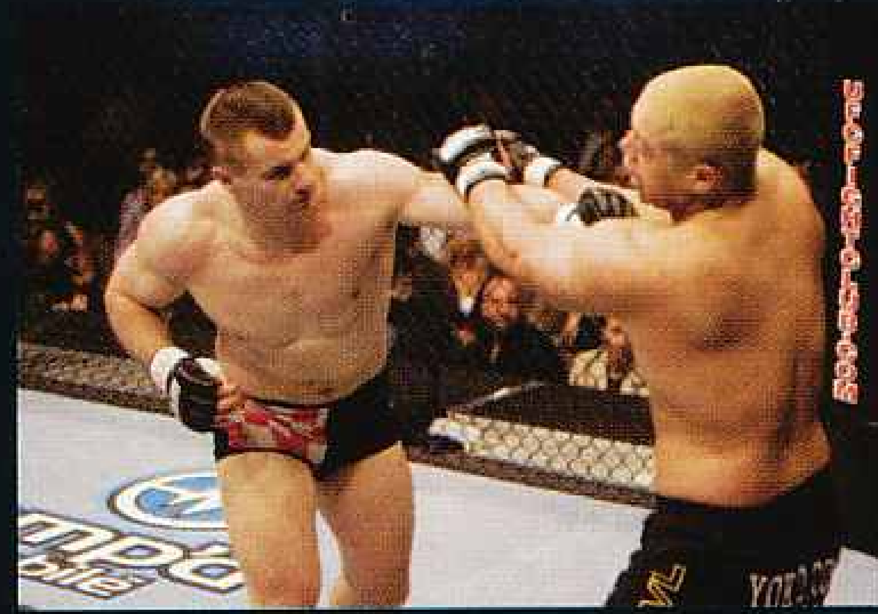
"誇り"だけは忘れない

文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也、Josh Hedges / UFC

2.3 UFC67 Las Vegas

Mirko CroCop OCTAGON DEBUT

［2.3 UFC67 -All or Nothing-］
米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
○ミルコ・クロコップ vs エディ・サンチェズ×
（1R4分33秒、TKO）


♪ダン！　ダダン!!!

UFCの会場では聞けるはずのない、あの聞き慣れた、そして魂を揺さぶるテーマ曲が館内に鳴り響いた。なんと、ミルコ・クロコップが『PRIDE』のテーマ曲で入場！

これぞまさに「鳥肌立った!!」。

UFC出場決定直後から語っていたとおり、PRIDE無差別級GP王者の誇りを胸に、威風堂々とオクタゴンへと向かうミルコ。その眼光はいつも以上に鋭く見える。

MMA世界大戦の本格開戦の号砲ともいえる、UFCによるミルコ〝引き抜き〟。そして2・3『UFC67』は、〝UFCファイター〟ミルコ・クロコップのデビューとなるはずだった。しかし〝引き抜かれた〟ミルコは、UFCファイターになるのではなく、〝PRIDEファイター〟として、UFCに乗り込んでいったのである。

このサプライズにどよめく館内。ライト層が多いと言われるUFCの会場だが、この日はミルコ・クロコップとクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンのオクタゴン・デビューということで、コアなファンがかなりの数、足を運んでいたのだろう。ミルコが『PRIDE』のテーマで入場したことを瞬時に察知した観客が予想以上に多かった。

さらにミルコの応援のために、在米クロアチア人応援団も多数来場。会場のあちこちで、クロアチアの国旗が掲げられ、それがテレビの映像に映し出される。これこそが「UFCに出て、アメリカ人にクロアチアという国を知らしめたい」と語っていたミルコの望んでいたことなのだ。

試合はワンサイドゲームだった。しかし楽勝だったわけではない。対戦相手のエディ・サンチェズはミルコの打撃を極端に警戒し、サウスポー相手の定石として、ひたすら左へ左へと回って逃げていく。

ミルコはそれを追って前に出て、左ストレート、左ミドルを打っていくが、なかなか捕まえきれない。リングより広く、そしてコーナーのないオクタゴンを目一杯使って逃げる相手をなかなか追いつめられないのだ。しかも、逃げながらときたま放つサンチェズの右フックは強烈。二度、ミルコの頭をかすめたが、もしこれがまともに入っていたら、ミルコといえどもダウンは避けられなかっただろう。

追っても追っても逃げていく相手。ようやく追いついたと思ったら、鋭い右フックが飛んでくる。ミルコにとっては見た目以上に苦しい闘いだったに違いない。

ミルコは〝オクタゴンの魔物〟に飲み込まれてしまうのかとも言われた。

しかし、ここでミルコは作戦を変更。左へ逃げるサンチェズに対し、〝吉田殺し〟の右ローキックで動きを止めると、左ストレート一閃。そして苦し紛れにタックルに来たサンチェズの首を抱えフロントチョーク。さらに後ろに倒れて逃れようとするのを冷静にサイドポジションで抑え、最後はマウントからパウンドを10発以上叩き込んで、TKO勝ち！

UFCデビューを勝利で飾るとともに、PRIDE無差別級GP王者の実力をアメリカの観客、そして何十万というPPV視聴者に見せつけた。

ミルコにとっては無事、初戦を勝利で飾り、ほっとすると同時に、オクタゴンの恐ろしさも感じた一戦だっただろう。最初にそれを知れたことは、ある意味、大きな収穫だったと言える。

UFC第2戦は、早くも4・21イギリス・マンチェスター大会に決まった。そこで勝利すれば次はいよいよUFCヘビー級タイトルマッチ。3・3ティム・シルビアvsランディ・クートゥアー戦の勝者と闘うことになる。

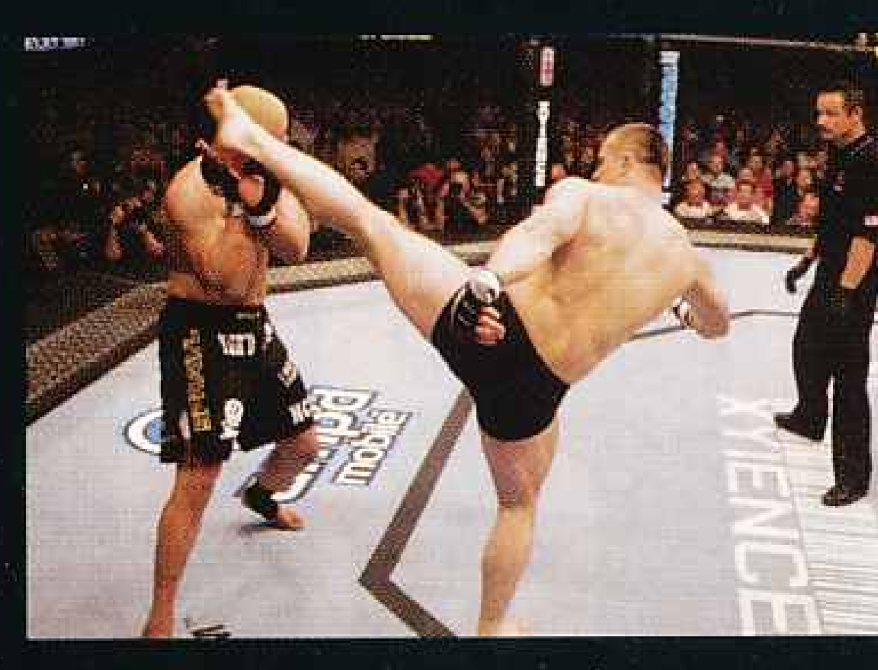
さらに、4・21マンチェスター大会には、チーム・クロコップの盟友ファブリシオ・ヴェウドゥムもミルコを追ってUFC参戦が決定。いきなりヘビー級トップコンテンダーの一人であるアンドレィ・アルロフスキーとの対戦が決定した。

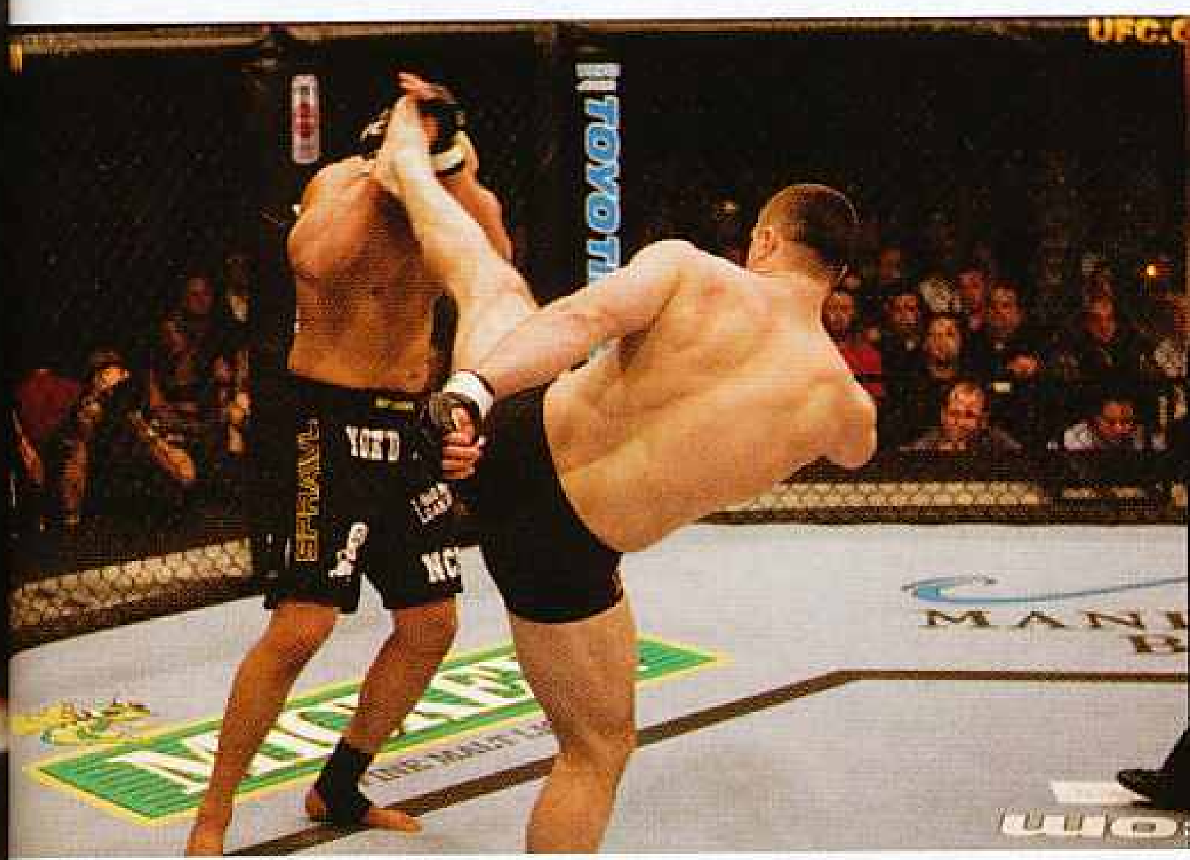
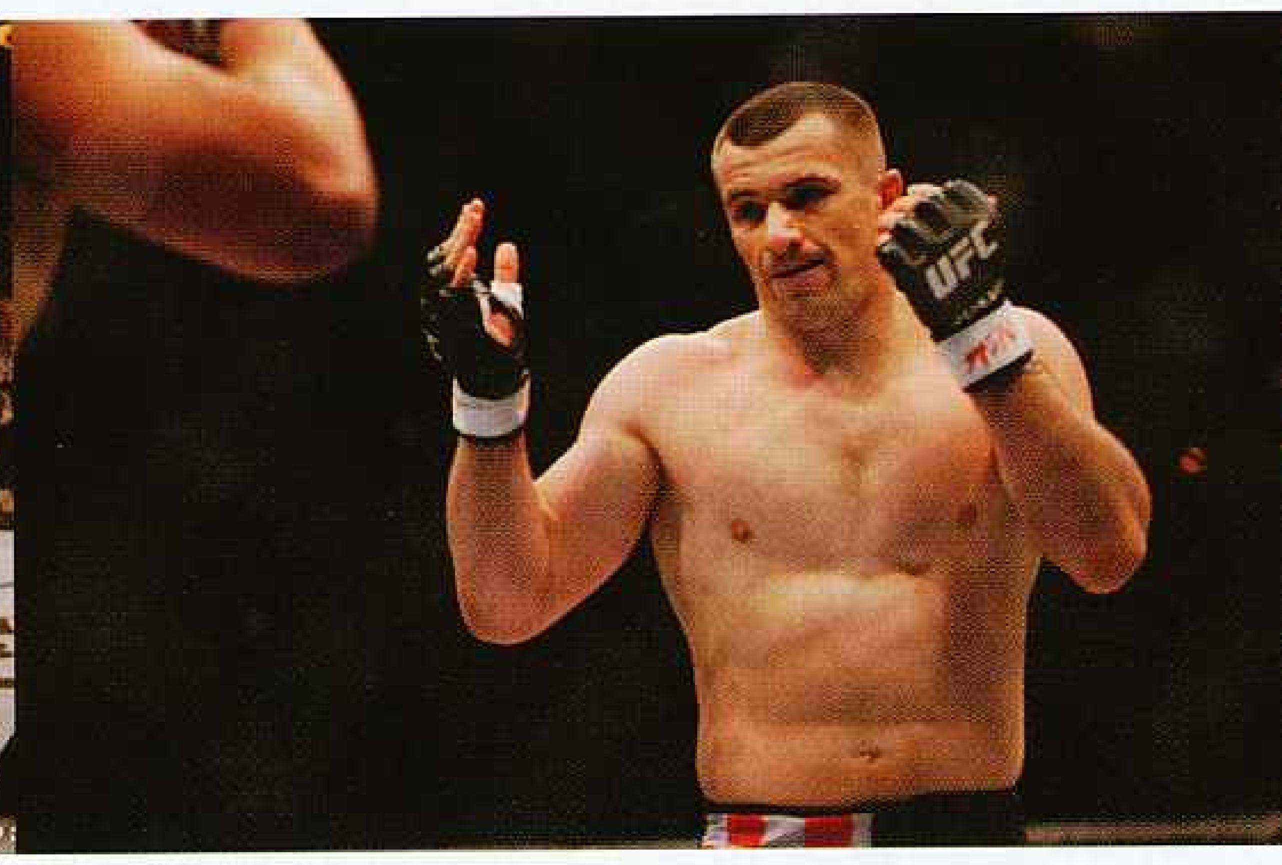
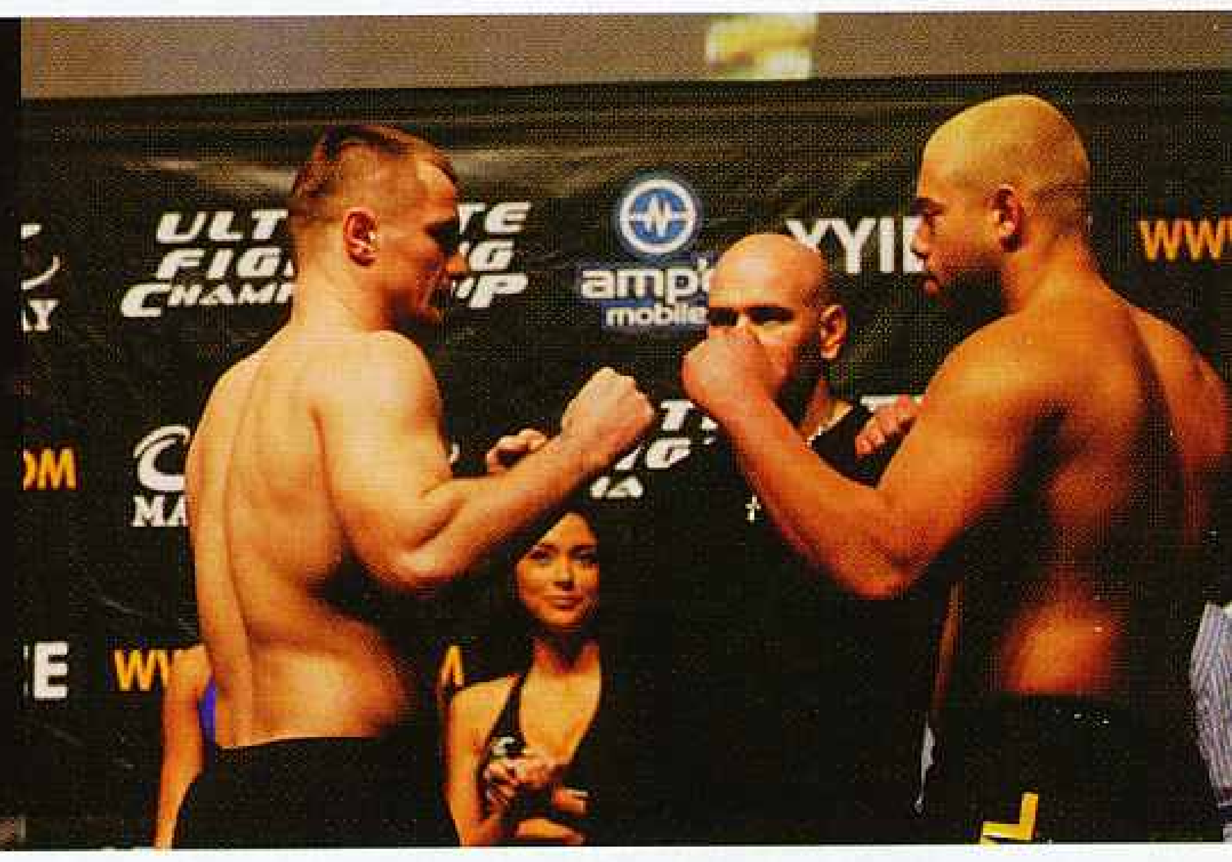
長らく盛り上がりに欠けていたUFCヘビー級戦線が、ミルコ一人の加入で俄然、活気を帯びてきた。

この熱は、団体の枠を越えて、かつてのライバルたちにも刺激を与える。エメリヤーエンコ・ヒョードル、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ジョシュ・バーネット。ミルコのUFCでの活躍が、間接的にPRIDEヘビー級の活性化をも促すのだ。

MMA格闘天変地異の〝震源地〟ミルコ・クロコップ。ミルコのあとに道はできるのか。されど、どこへ行こうと〝誇り〟だけは忘れない！





2.3 UFC67 新鋭エディ・サンチェズに圧勝デビュー!
野望への第一歩を記した翌日、ミルコを直撃!!

俺にとって最大の敵はオクタゴンでありPRIDE GP王者としてのプレッシャーだった

全世界の格闘技ファン注目のUFCデビュー戦を見事TKO勝利で飾ったミルコを、大会翌日の朝、ホテルで直撃！初体験となるオクタゴンでミルコは何を感じたのか？　そして、あの"ビッグ・サプライズ"PRIDEのテーマ曲で入場した真意とは何か？　野望への第一歩を記したミルコの言葉を聞け！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／シルク・ド・上杉

MIRKO CROCOP

UFC Debut Interview



──昨日は1ラウンドTKO勝ちでのUFCデビューおめでとうございます！　初となるオクタゴンでの闘いを終えて、率直な感想を聞かせてください。

ミルコ　肩の荷が降りたね。ほっとしたよ（ニッコリ）。

──やはり世界中のファンが注目した、PRIDE無差別級GP王者のUFC初戦ですからね。そういったプレッシャーはかなり感じましたか？

ミルコ　ああ。プレッシャーはあったし、正直言って緊張したよ。その緊張というのも、これまでのヒョードルとのタイトルマッチや、PRIDE・GP決勝ラウンドを前にしたときのような、自分の目の前に立ちはだかる対戦相手のレベルの高さからくる緊張とはまったく別のプレッシャーが両肩にのしかかっていた。

──大事な初戦であり、もしここで不覚をとるようなことがあったら、これまで築いてきた実績が全否定されるような危険性があったわけですからね。

ミルコ　しかも戦場は、これまで俺が足を踏み入れたことのないオクタゴンだからね。「いつもどおりに闘えばいい」と、自分に言い聞かせてはいたが、もしかしたらオクタゴンの闘いというのは、リングの闘いとはまったく違うのではないかという思いがよぎって、試合前は不安だった。

──やはり百戦錬磨のミルコ選手でも、そういった気持ちに陥りましたか。

ミルコ　初めて純PRIDEルールで闘ったヒース・ヒーリング戦（03年6月）のときも緊張したが、今回ほどじゃなかった。こんな気持ちになったのは、もしかしたら俺が初めてMMAで闘ったフジタ戦（vs藤田和之、01年8月）以来かもしれない。そしてその不安は、ある意味、的中したわけだしね。俺がエディ・サンチェズという選手を仕留めるのに4分半もかかるとは……それはルールの違い、リングとオクタゴンの違い以外の何ものでもないよ。

──実際、あそこまでオクタゴンを広く使われて逃げ回られるというのは、想定してませんでしたか？

ミルコ　まったくの想定外だった。というか、俺自身が「オクタゴンを広く使って左回りに逃げる」なんていう、ただそれだけの戦略にハマってしまったこと、それ自体が想定外だったよ。

──では、なぜそんな戦略にハマってしまったんでしょうか？

ミルコ　やはり俺にはメンツがある。PRIDE無差別級GP王者という肩書きであらゆる意味で、鳴りもの入りでUFCにデビューする俺が、8戦全勝とはいえ、自分と比べれば格下であり、スポーツブックのオッズでも7対1という差が明らかに出ている相手と対戦するのに、1ラウンドで仕留められなかったら、それは俺にとって名折れだろう。

──ミルコ・クロコップの名に恥じる、と。

ミルコ　そういう思いがプレッシャーとなり、KO勝ちを急ぎすぎたあまり、逃げ回る相手と〝追いかけっこ〟するハメになってしまった。しかも、エディは逃げ回りながらも、彼の唯一の武器である右のクロスハンドだけを狙ってきた。完全に相手のゲームプランの中で闘ったわけで、それはとても厄介だったし、その結果、仕留めるのに4分半もかかることとなってしまった。

──やはりそれが、オクタゴンの怖さですかね？

ミルコ　そうだね。オクタゴンに棲む魔物を見たよ。あれだけのスペースを円に使われるとはね……。だから世間では「圧勝」とか言われているようだが、俺自身は今回の試合内容、試合結果について、まったく満足してない。いまはただ、1ラウンドで仕留められたという結果にほっと胸を撫で下ろしているだけさ。

MIRKO CROCOP

──『PRIDE』とUFCでは、戦場の違いだけでなく、ルールの違いもあります。UFCでは4点ポジションでのヒザが禁じられてしまいますけど、終盤、サンチェズのタックルを切った際、思わずヒザが出そうになりませんでしたか？

ミルコ　観ていてくれたならわかったと思うけど、俺は彼のタックルをがぶったとき、身体が反応して危なくヒザを入れそうになったよ。

──やっぱりそうでしたか（笑）。

ミルコ　あのムーブは身体に染みついた動きだからどうしようもない。6年前に初めてMMAで闘うことが決まったときから、途方もない反復練習を重ねてきたのが、あの動きなんだからね。

──そんなので、反則負けになんかなったら大変でしたよね。

ミルコ　UFCのファイターはヒザ蹴りが来ないことを前提にして闘っているから、あいつらはがぶられても頭がガラ空きなんだよ。あんな無防備な頭にまともにヒザを入れたら、その場で失神は避けられなかっただろう。だから本当にギリギリで身体が止まってよかったよ。そういう意味では、PRIDEルールのほうが、実戦的だな。あんなふうに首を取られているのに、頭部をガードしないなんてナンセンスだね。

──サンチェズのように、あれだけ逃げ回るのも、『PRIDE』だったらイエローカードが出てますよね？

ミルコ　そうだね。レフェリーに言ってやってくれよ（笑）。ただ、昨日の俺は1ラウンドで仕留めなきゃいけない一心で、そんなことを考える余裕もなく、我を忘れて鬼ごっこさせられたよ（苦笑）。

──では、強豪相手にフルラウンド闘ったのとは別の疲れがありましたか？

ミルコ　あったね。4分半とは思えないような疲れだ。

──試合後、共同会見に出席しなかったことがちょっとした話題というか、アメリカ人記者のあいだで問題になっていましたけど、やはり試合の疲れもあっての欠席だったんですか？

ミルコ　いや、そうじゃない。会見に出席しなかったのは、その会見のことを誰も教えてくれなかったから。ただ、それだけだよ。



試合前、アスレチック・コミッションの人間にバンデージを巻いてもらうミルコ。ラスベガスでは、このようにバンデージ一つ自分で巻くことは許されず、すべてにチェックが入る。前日の公開計量などを含め、リング外も『PRIDE』とは違うことが多いのだ。





Josh Hedges / UFC

一刻も早く〝オクタゴン・バージョン〟の自分を作り上げなきゃならないことを痛感させられた

——あ、そうなんですか!?（笑）。

ミルコ　ここでハッキリ言っておくけど、俺はボイコットしたわけじゃなく、知らなかっただけなんだ。自分の試合が終わったあと、『PRIDE』だったら、その後に行なわれるメインイベントも自分の控室で観ていただろう。でも、今回はべつに俺が観る必要があるような試合には思えなかった。だからチーム全員で荷物のパッキングをして、控室を出たんだ。

——試合後、「会見に出てください」とは言われなかったんですか?

ミルコ　言われてない。それどころかUFCのスタッフも俺たちがパッキングしている一部始終を見ていて、そこで「もうホテルの部屋に戻るけど、OKかい?」と聞いたら、「こっちから抜けていってください」って道案内までされたんだぜ? 誰かUFCの人間が「このあと会見があります」と一言でも言ってくれたら、俺だって顔を出したさ。俺の責任にしないでほしいね。それをあとでガタガタ言われて、〝わがまま〟だなんだと言われたわけさ。まあ、いまさらわがままだと言われて悩む俺ではないけどね（笑）。

——ある意味、〝代名詞〟みたいなもんですからね（笑）。では、次のUFCでは、堂々と会見に出てきてくれますか?


ミルコ　いいよ。俺は『PRIDE』のときだって、試合前の記者会見は欠席しても、試合後のコメントルームにはきちんと顔を出していたからね。だから、これからも……ケース・バイ・ケースだね。

——ケース・バイ・ケースですか（笑）。

ミルコ　出る必要がある会見には出るけど、俺はファイターとして、契約に則って、試合でベストパフォーマンスを見せる。それが俺のすべき最も大切な仕事であって、それ以外の部分については、そのときの俺の試合の準備になんの影響ももたらさないのであれば、気持ちよく出席するが、そうでなければ試合に向けての準備が優先されるべきだ。それが最終的にはUFCのためでもあるという信念があるからね。俺がすべての試合で、すべての相手をKOしてこそ、ダナ（・ホワイトUFC代表）の大きな決断が正当化されるわけであり、彼の顔を潰すわけにもいかないしね。

——だからこそUFCでも〝俺流〟を貫く、と。昨日の試合にしても、UFCの会場で『PRIDE』のテーマ曲に乗って入場するなんていうのは、その〝マイペース〟の最たるものだと思いますが、どういった気持ちから、あの入場曲を選んだんですか?

ミルコ　いろんな思いはあるが、『PRIDE』で闘っているときと、同じ精神状態で闘いたかったんだ。『PRIDE』のリングとオクタゴンではいろんな意味で、まったく環境が違う。そんな新たな戦場で闘うにあたって、普段の自分の力を出すためには、精神状態を『PRIDE』で闘うときと同じ領域にシフトアップ、ギアチェンジする必要があった。そのための大切なツールがあの曲だったんだ。



Josh Hedges / UFC

ＰＲＩＤＥと同じ精神状態で闘いに挑むための大切なツールとしてあの曲を使わせてもらった

――初めてあの曲で入場するということについては、どんな気持ちでしたか?

ミルコ　興奮したし、俺はＵＦＣがそれをアナウンスしてくれなくても、ＰＲＩＤＥ無差別級ＧＰのチャンピオンとして、ここに闘いに来ているんだな、とあらためて感じながら歩いていたよ。あの世界一過酷な無差別級ＧＰを勝ち抜いたという看板を背負って、オクタゴンに入るには、あの曲以外に考えられなかったんだ。音楽というのは自分にとって、生活の中でも非常に大切なものだからね。

――そういえば以前、クロアチアの自宅練習場にお邪魔させていただいたときも、何度も『ＰＲＩＤＥ』のテーマを流して練習してましたもんね。

ミルコ　そうだね。あの曲を流すと気合が入るんだよ。やっぱりあの曲は、世界中のファイターの心を揺さぶる曲であり、みんなオープニング・セレモニーであの曲を聞いた瞬間、ギアが入ると思う。

――ベルトの価値が闘いによって高まるのと同じように、テーマ曲の価値も高まるんでしょうね。

ミルコ　だからこそ俺のために、わざわざショートバージョンに編曲してくれた、ＤＳＥのミスター・サカキバラ（榊原代表）、ミスター・カトー（加藤専務）、そして作曲者にはお礼を言いたい。たった一人でＵＦＣに乗り込む俺にとって、あの曲はとても心強かったよ。

――日本のファンもミルコ選手が『ＰＲＩＤＥ』のテーマで入場してくれたことに凄く喜んでいるようですよ。

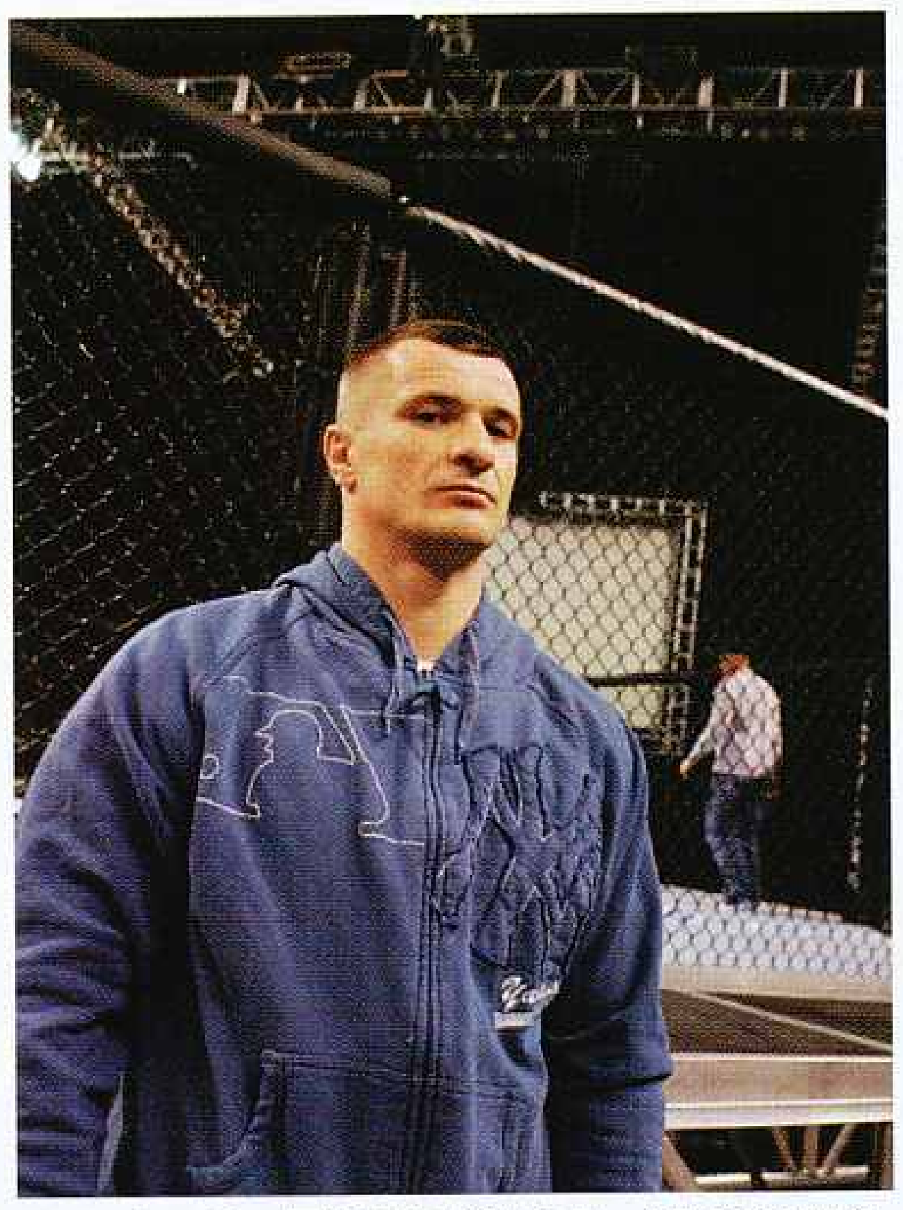
ミルコ　喜んでくれたのなら俺も嬉しい。日本のファンには、俺からのメッセージだと思ってほしいね。

――では、まずは一試合終えて、課題というのもたくさん見えてきたのでは?

ミルコ　見えたね。それはすべてリングとオクタゴンの違いからくるものだ。だから一刻も早く、オクタゴンを購入して、毎日そこで剥き出しの金網に頭や身体中をぶつけながらの練習しなければいけないと、いまは痛切に感じているよ。

――やはりそれぐらいオクタゴン対策は急務ですか。

ミルコ　そうだね。みんな俺がＵＦＣのチャンピオンにあたりまえのようになると思っているだろうけど、そんな簡単なことではないと、昨日の試合で痛感させられた。実際にオクタゴンに入ったら、オクタゴンの闘い方と戦略があって、それだけはきっちりと身体に覚えさせなければいけない。もちろん、俺がベルトを巻くのは時間の問題だと、内心では思っている。しかしこのルールの中で俺を攻略しようとライバルたちが血眼になって向かってくるわけだから、やはり俺も真剣にオクタゴンを自分のものにしなければダメだと思う。



Mirko Cro Cop■1974年９月10日、クロアチア出身。96年にK-1に初来日。01年に総合デビュー。03年からは主戦場を『PRIDE』に移し、ヒョードル、ノゲイラとともに「ヘビー級三強」の名をほしいままにする。06年にPRIDE無差別級GPに優勝。同年12月30日、UFCに電撃参戦を発表した。188cm、100.4kg。

MIRKO CROCOP

――そこまで痛感させられましたか。

ミルコ　とにかく、あの金網にフルスピードで激突したら、どんなショックがあるのかとか、金網に押し込まれたとき、どれぐらい脱出するのに苦労するのか、時間がかかるのか、そういったことを身体で感じなければならない。わかってもらえると思うが、俺はヘビー級では最軽量だからね。これからティム・シルビアをはじめヘビー級の上限リミットいっぱいの相手が、金網に俺を押し込んで、脱出させないような闘いを絶対にしてくると思う。「ストップ・ドント・ムーブ」がない以上、これから俺は、対戦相手とオクタゴン、両方と闘わなきゃならないんだ。そういう意味では、俺にとってＵＦＣというのは、『ＰＲＩＤＥ』以上に〝落とし穴〟が多い戦場なのかもしれない。だからこそ、〝オクタゴン・バージョン〟のミルコ・クロコップを早く作り上げないといけないんだよ。

――練習だけでなく、実戦でも慣れないといけないでしょうね。そして早速、次の試合が決まったようですが。

ミルコ　4月21日、ＵＫのマンチェスターで闘う予定だ。非常に楽しみだね。

――どういった点で楽しみなんですか?

ミルコ　今回、ラスベガスに多くの在米クロアチア人が応援に来てくれたけど、マンチェスターでやるとなると、クロアチアからだけでなく、ヨーロッパ中に住んでいるクロアチア人が俺のことを応援しに来てくれるような予感がするんだ。俺にとってクロアチア人の大応援団の前で闘うというのは初めてのことだからね。非常に嬉しく、そして興奮するよ。

――一種の〝凱旋試合〟でしょうね。

ミルコ　そうだね。とにかく4月21日、まだ誰と闘うがわからないが、大応援団の前で俺の闘いを見せて、そのあと、3月3日に行なわれるティム・シルビアvsランディ・クートゥアー戦の勝者に挑戦する。タイトルマッチはおそらく7月になるだろう。そして、その7月までには〝オクタゴン・バージョン〟のミルコ・クロコップをなんとしても作り上げないといけない。

――タイトルマッチにはランディ・クートゥアーとティム・シルビア、どちらに勝ち上がってきてもらいたいですか?

ミルコ　どちらでもいいよ。ティムは俺より二回り身体がでかいし、ランディはオクタゴンでの闘いを知り尽くしている。オクタゴンで闘うことを考えれば、どちらも厄介な相手であることは間違いない。でも、俺は止まることは許されないからね。無傷でＵＦＣとの契約6試合をすべて勝って、できればどこかでもう一度ヒョードルに挑戦させてもらいたい。俺にとっての究極の目標が打倒ヒョードルであることは、オクタゴンに闘いを移したいまでも変わらないし、それまで俺は負けるわけにいかないんだよ。

――わかりました。では、次のマンチェスターでの闘いも期待してます!

【07年2月4日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ&リゾートにて収録】



全権代理人・今井賢一氏が語る

ミルコ・クロコップ PRIDEテーマ曲で入場の舞台裏

まさにビッグ・サプライズだった、PRIDEのテーマ曲でのミルコの入場。UFCの会場であの曲を流すにためには、当然のごとく、多くの障害を乗り越えなければならなかった。ミルコの希望をかなえるため、『PRIDE』、UFC双方と交渉したミルコの全権代理人・今井賢一氏が、あのテーマが流れるまでの舞台裏を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges / UFC

――ミルコがUFC第一戦を無事勝利で飾ったわけですけど、今井さん自身、ほっとしましたか？

今井 ほっとしましたねぇ。試合が終わって緊張から解き放たれたのか、ホテルの部屋に戻ったら鼻血が出て止まりませんでしたからね（苦笑）。

――鼻血が出ちゃいましたか（笑）。

今井 やっぱりこれは、ミルコのオクタゴン・デビューまでの、さまざまなストレスが原因だったことは間違いないですね。ボクはK―1時代、プロモーター側として何度もラスベガス大会をやってきましたけど、今回、初めて〝選手側〟としてラスベガスに行ってみて、大会前のアスレチック・コミッション用のさまざまな書類の処理やドクターのメディカルチックからメディアへの対応にいたるまで、これまでとまったく違う緊張感がありました。ミルコをプロテクトし、試合、練習だけに集中させる。オクタゴンの中で闘うこと以外は全部、ボクにかり掛かってきたわけですからね。

――では、今井さんにまず聞きたいのは、あのビッグ・インパクト。『PRIDE』のテーマ曲で入場してきたことですけど、あれはどういったいきさつで流せることになったんですか？

今井 あれはUFC参戦が決まったときからミルコが希望してたことだったんですよ。日本のファン、PRIDEスタッフへの感謝の気持ちと、自分自身が「PRIDE無差別級GP王者である」と意思表示をするために、『PRIDE』のテーマで入場することを望んだんです。

――やはりミルコの希望だったたんですか。でも、あの曲を流すのには、いろんな障害があったんじゃないですか？

今井 ありましたねぇ（苦笑）。たぶんメディアの皆さんはわかってると思うんですけど、昨年7月にヴァンダレイ・シウバがオクタゴンに上がったときですら、『PRIDE』の〝プ〟の字も言わなかったUFCにあの曲を流すことを承諾してもらうのは一苦労でした。

――『PRIDE』とUFCは水面

PRIDEのテーマ曲で入場することに最終的なGOサインが出たのは当日のお昼前ぐらいでした

ドの激しいつばぜり合いをやっている真っ最中ですからね。

今井　まあ、どういったつばぜり合いなのかは、マネージメント側としては言及しないとして、UFCは現在アメリカ国内においては、自分たちのメディア戦略には絶対的な自信を持っているし、かつPPVや視聴率という数字の面でも結果を出していますよね。その影響力、露出を最大のライバルのためには使わせたくないという意図は、理解できないこともありません。ダナが初志を貫き通し、ズッファとして何十億円の資金を投下して、現在の活況を作り上げたわけですから、自分たちの興行を通して結果的にライバルのプロモーションに協力してしまうという事態を、徹底的に避けようとしているわけです。そんな中で、『PRIDE』の象徴である、あの曲で入場させてくれと言ったとき、どれだけの軋轢が予想されるか。それは火を見るより明らかですよね。

――ホントにとんでもないことですよね（笑）。

今井　だから、それは確かにタフなネゴシエーションでした。でも、最終的にはダナ・ホワイトがわかってくれたんです。そこに彼がプロモーターとして、ここまでUFCを巨大化させた、彼の資質を垣間見ましたね。ボクの言うことを信用してくれて、あの曲をかけてくれたわけですから。そのことに関しては感謝しています。

――UFCで曲を使う場合は、PPVのこともあり著作権関係の処理なども当然必要になるわけですよね？

今井　はい。だからそういうことを、まずクリアするために、最初に『PRIDE』側に使用許可を願い出たんです。『PRIDE』側としては、これまで選手個人に対して、あの曲を貸し出したことはないし、原則としてそれは許してこなかったわけですよ。でも、今回はわざわざ花道の短いUFCでの入場用に3分バージョンの曲を用意してくれた。それについては、榊原社長、加藤専務、作曲者の方にはホントに感謝の言葉を述べたいです。『PRIDE』が、本当に強い気持ちで「ミルコ頑張れよ」「PRIDEの代表として行ってこいよ」と送り出してくれた証拠だと思います。

――そのあと、UFC側に使用を申し出たわけですか？

今井　ボクは大会3日前にラスベガスに着いたんですけど、会場に行ってみたら、プロダクションスタッフが、「サウンドトラック・プログラミングのために、早くミルコの音楽をください」と言うんで、何も言わずに『PRIDE』のテーマ曲を渡したんですよ（笑）。

――シレーッと渡しましたか（笑）。

今井　みんなミルコのテーマ『ワイルドボーイ』だと思ってるから、「かけてみたらビックリするだろうな」と思いましたけどね（笑）。それで、その日の夜、ちょうどダナと今後のさまざまなことについてミーティングしていたんですよ。そこへスタッフからダナに電話がかかってきて、電話を切るなりダナがいきなり「ケン！　ミルコが『PRIDE』のテーマ曲で入場するって本当か!?」って言ってきたんです。

――そりゃあ、ダナだって驚きますよね（笑）。

今井　ボクはそこでもさらっと「うん、そうだよ」って答えてね（笑）。そこから先は彼もUFCのトップとして、さまざまなプライド、戦略、葛藤が頭をよぎったと思いますけど、落ち着いていろいろ話をして、最終的にわかってもらって、GOサインが出たのは、大会当日の午前11時ぐらいでしたね。

――当日のお昼前ですか！　現場のスタッフはたまったもんじゃないですね（笑）。

今井　ダナにもいろいろな葛藤があったろうことは間違いないでしょうが、ミルコの希望をかなえてやりたいという気持ちもダナは持ってくれたし、最終的にUFCが懐の広いところを見せてくれたというのかな。あの曲を流すことで、確かに『PRIDE』の宣伝にはなってしまうかもしれないけど、UFCにとっても、アメリカのMMAファンの分布で言われるハードコアなファン、イコールPRIDEファンに対してひとつのメッセージを発信できるし、長い目で見ればメリットがあるのかもしれないということで、「わかった」と言ってくれたんです。

――そうして、UFCの会場で『PRIDE』のテーマが流れるという、歴史的なことが実現したわけですね。

今井　ただ、一つ残念だったのは、あそこまでやったのなら、やはりミルコを「PRIDE無差別級GP2006王者」と紹介してほしかったという気持ちがありますね。

――そういえば、あのテーマ曲は流れましたけど、最後まで『PRIDE』という言葉は出ませんでしたね。

今井　ダナは「ミルコを100パーセント、全力を挙げてプロモートする」と約束してくれてるわけです。しかしあれを言わずに、どうやってミルコをプロモートするんだ、という話にもなりますから。それに「PRIDE無差別級GP王者がUFCに参戦してきた」ということをアナウンスするのは、UFCのクレディビリティ（信頼性）を上げるためにも、計り知れない貢献をするに違いないわけですから。それを意地の張り合いでスポイルするのは非常にもったいないし、MMAの業界にとって機会損失だと思いますからね。

――次回はぜひ、リングアナのブルース・バッファーに「PRIDE無差別級GP王者」とコールしてもらいたいですね。次の試合に向けてのダナとの話し合いは進んでいるんですか？

今井　4月21日のイギリス・マンチェスター大会に出場するつもりであると伝えたら、彼は非常に喜んでくれましたね。イギリスに新しいオフィスを開いて初めての大会、絶対に失敗できないヨーロッパ本格進出第一戦で、そこにミルコがいるのといないのとでは大違いでしょうからね。

――対戦相手は誰になりそうなんですか？

今井　それはこれから早急に決めることですね。ただ、ランディ・クートゥアーとティム・シルビアは3月3日にタイトルマッチがあるし、アンドレィ・アルロフスキーも4月の試合は決まってるので、その3人以外になりますね。ミルコのためにも早急に決めたいと思いますんで、また応援してやってください。

――わかりました。では次回、イギリスでもよろしくお願いします！

【07年2月6日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ＆リゾートにて収録】



ミルコを獲得したUFCの攻勢は止まらず!
ついに飛び出したトップファイター総取り宣言!!

世界最強の男はUFCが決める!

**ついにミルコ・クロコップの獲得にも成功し、その勢いはとどまることを知らないUFC。
それと比例するようにダナ・ホワイト代表の舌も絶好調!
ミルコ参戦から『ボードッグ』の暗躍、エド・フィッシュマン『PRIDE』買収の噂まで、
縦横無尽に語りまくり、ついにはトップファイター総取り宣言まで飛び出した!!**

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／シルク・ド・上杉

――今日は大会前のお忙しい中、貴重な時間を割いていただきありがとうございます。

ダナ　いやいや。日本のプレスの取材を受けるのは大事な仕事だからね（笑）。今回の大会には、日本で名を知られたミルコ・クロコップ、（クイントン・）″ランペイジ″・ジャクソンが参戦することだし。

――そのミルコの獲得はUFCにとっても長年の夢だったんですか？

ダナ　そうだね。彼は最強のファイターの一人だし、なにより私自身もミルコの大ファンだったからね（笑）。

――『PRIDE』にはエメリヤーエンコ・ヒョードルやアントニオ・ホドリコ・ノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバなどトップファイターがひしめいていますが、その中からミルコを選んだのには何か理由があるんですか？

ダナ　それは至ってシンプルだ。彼の『PRIDE』との契約が終了していたからだよ。だから手に入れたまでであって、これからはミルコ同様に、契約を終了したPRIDEファイターを狙っていくつもりだ。

――……狙いますか！

ダナ　次はそうだな。いま名前の挙がったファイター、全員を手に入れようか（ニヤリ）。

――ぜ、全員！　恐ろしいことを宣言しますね（笑）。

ダナ　UFCを真に世界最強を決める舞台にするためには必要なことだからね。

――では、最初のターゲットとなったミルコ・クロコップの魅力とはいったいなんですか？

ダナ　それは彼のファイトスタイルだよ！　アメリカのファンは、グラウンドよりもスタンドの攻防を好む。あの爆発的な打撃力はアメリカのファンにもビンビンと届くよ。だから、ミルコはこのまま勝ち続ければ、あっという間にヒーローになるだろうね。

――一説によると、ミルコのファイトマネーは100万ドルを超えるとのことですが、それだけの価値があるということですよね。

ダナ　……100万ドル？（笑）。

――何かおかしなことを言いました？

ダナ　いや、何がおかしいって、この業界に関わる関係者やファンの多くが本当のことを知らないで、「あの選手がどこそこの団体でいくら稼いでる」って騒いだりしているなって。

――つまり、UFCがファイターに支払っている金額は、そんなもんじゃないってことですか？

ダナ　そういうことだよ（ニヤリ）。たとえば、チャック・リデルは、それ以上の金額を手にしている。

――では、ミルコも100万ドル以上を稼いでいる、と？

ダナ　さあね。でも、一つだけ言えることは、私たちはこれまで多くのファイターを、ミリオネアにしてきたってことだ。これまでのどのオーガニゼーションよりも多くのファイターをね。まあ、我々の力がいかに巨大かということは、これからの動きを見ていただければ、ご理解できるだろうね（ニヤリ）。

――いやあ、やけに背筋がゾクゾクするんですけど（苦笑）。話は戻りますが、ミルコは3試合目でのタイトルマッチを約束してもらっていると言っていますけど、それは本当ですか？

ダナ　それは本当だ。今回のエディ・サンチェズ、そして二戦目も勝利すれば、次はティム・シルビアvsランディ・クートゥアーの勝者と闘わせようと考えている。時期的には夏頃になるだろうね。

――UFCデビューからわずか3戦でチャンピオンシップは異例のことですよね。


ダナ　それだけ我々は彼の実力を評価している。ただ正直に言うと、まだアメリカのファンはミルコのことをよく知らない。ミルコは日本や彼の母国であるクロアチアではスーパースターだが、ここアメリカでは、まだ何者でもないんだ。だから我々のやるべきことは、ミルコ・クロコップというファイターを多くのファンに知らしめていくプロモーションになる。

――でも代表からすれば、大金を投じてミルコを獲得した以上、ミルコの活躍は確信してるわけですよね？

ダナ　ちょっと話から外れるかもしれないが、世界最強のヘビー級ファイターは、ヒョードル、ミルコ、シルビアの3人だと確信している。だから、その中から誰が本当に世界最強なのかを決めるのが自分の仕事だと思っているんだ。

――なるほど、そのためのミルコ獲得でもある、と。

ダナ　そうだね。それにミルコやヒョードル、シルビア、チャックが引退したときのことを考えてごらんよ。彼らだって「自分が世界最強だった」って胸を張って言いたいだろう？　でもファンから「アイツは誰々と闘ってない」なんでゴチャゴチャ言われたら嫌な気分になるだろう。私がファ



ヒョードルもゴミもサクラバもみんな来い！
DANA
"The Leader of American MMA World"
WHITE
UFC代表 ダナ・ホワイト インタビュー

イターだったら、そんな状況はまっぴらゴメンだ。だから、本当に世界最強を決める舞台を作ってやろうって言っているんだ。

――ところで、ミルコの2戦目は、イギリスのマンチェスターだと聞いています。

ダナ　そうなるね。今度のイギリス大会は、UFCのオールスター戦にするつもりさ。それに加えて、イギリスはもちろん、イタリア、ドイツなど各国からファイターを参戦させようと考えている。その中でもミルコはヨーロッパ戦略のキーマンだと捉えているよ。

――やっぱりミルコは特別なんですね。ミルコがタイトルを獲ったあかつきには、その先にチャック・リデルとの階級を越えた一戦はありえるんですか？

ダナ　もちろんさ（ニヤリ）。

――チャックはいまアメリカで一番、有名なファイターですけど、もしその一戦が実現したら地球的規模のスーパーファイトになりますよね。

ダナ　そうなるだろう。アメリカのみならず、ヨーロッパ、日本……MMAが行なわれているすべての国のファンや関係者が注目することになるんだからね。チャックもミルコとの試合には興味を示しているし、ミルコと闘うためにヘビー級に階級を上げてもいいと言っているよ。チャックの素晴らしいところは、そうやって最強の相手を常に求めているところさ。ランペイジとのリベンジマッチのチャンスもあるし、（ヴァンダレイ・）シウバと闘いたいとも言っている。なんならヒョードルとだって闘ってもいいとさえ言っているんだからね。

――それだけ世界中からファイターを集めるとなると、たとえばミルコvsヒョードル戦が実現する舞台が『PRIDE』じゃなくてUFCになる可能性も？

ダナ　もちろん！　何があるかわからないのが、この世界だろ？

――ひょっとして、実際にオファーはかけているんですか？

ダナ　ヒョードル？　とっくにオファーはしているけど（あっさり）。

――とっくに!!

ダナ　そんなに驚くことじゃないよ。もしあなたがダナ・ホワイトだとしたら、ヒョードルにオファーするだろう？（笑）。

――まあ、そうですけど（笑）。でも、そのヒョードルは、"闇の帝王"カルビン・エアー率いる『ボードッグ』も獲得を表明していますけど。

ダナ　ああ、あそこね。冗談みたいな団体だろ？　Bodog is JOKE!!

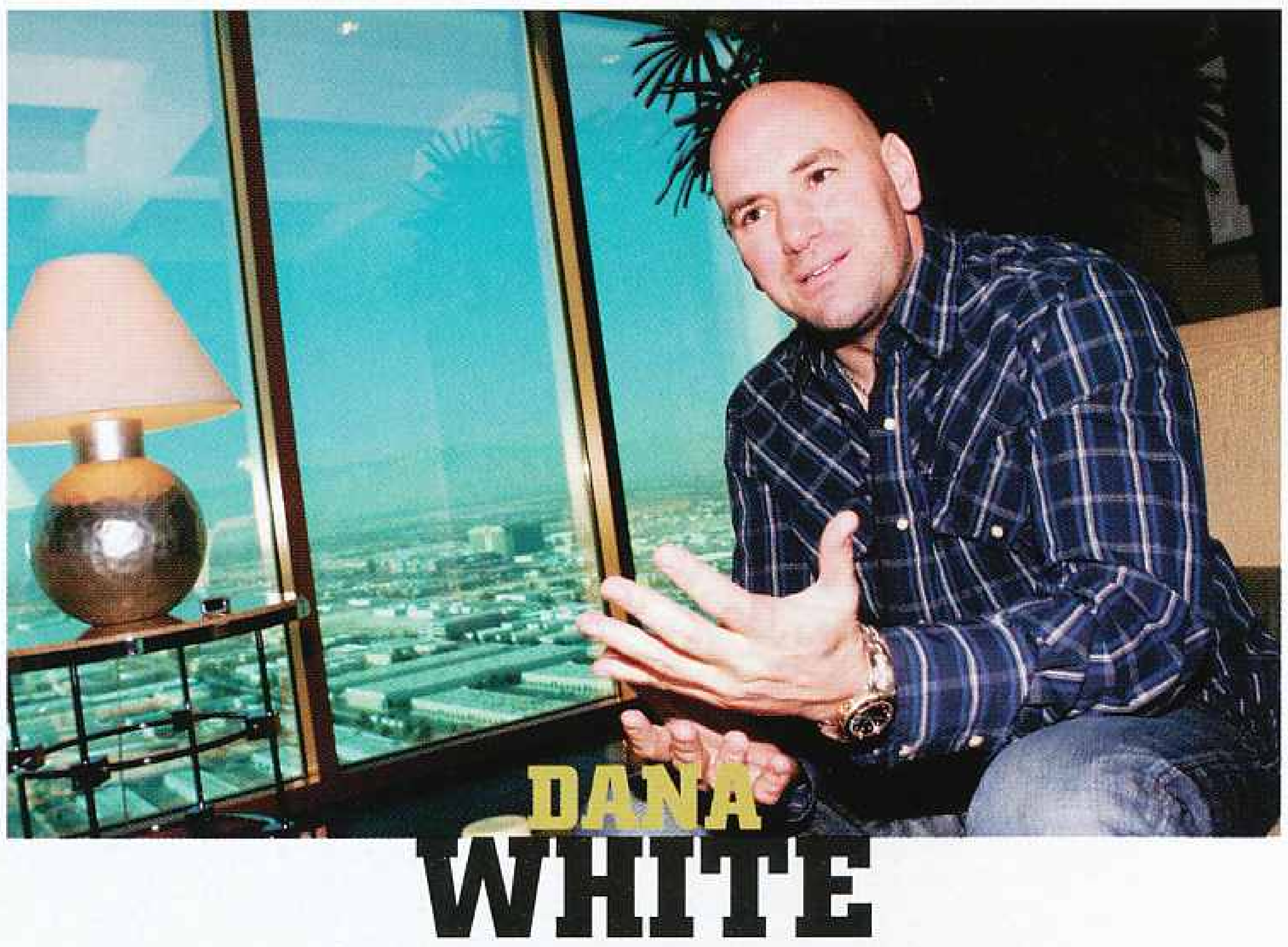
――ダハハハ！『ボードッグ』はギャグ団体ですか！（笑）。

ダナ　ジョークもジョーク！　この業界の熱心なファンなら、この意味はよくわかるはずだ。我々UFC、そして『PRIDE』は、MMAの発展のために血と汗を流してきたんだ。単なるビジネスだけのためじゃない。運営面、ファイター、試合内容、すべてにおいて"世界最高"の質を求めてこれまで闘ってきた。

――『ボードック』とは志からして違うんですか？

ダナ（『kamipro』107号のカルビン・エアーの写真を指さしながら）コイツはディックヘッドだ。自分のことをビリオネアだって？　バカじゃないのか!?　こんなヤツを載せているあなたたちもどうかしているな！（『kamipro』をデスクにバンバン叩きつけながら）。

――ダハハハ！　たいへん失礼しました（笑）。



ボードッグ・イズ・ジョーク！あの団体は冗談でしかない!!

ダナ　だいたいカルビン・エアーはこのビジネスのいったい何を知っているというんだ？　ヒョードルはUFCと並ぶ世界最高峰のリング、『PRIDE』の王者だろ。それがこんな『ボードッグ』みたいなジョーク団体で闘うことになったら、もう彼のファイター生命は終わりだな！

――そ、そこまで言いますか！

ダナ　だって、そうだろ？『ボードッグ』で何ができるというんだよ。誰が興奮できるというんだ！

――かなり憤慨されていますね。

ダナ　あたりまえだよ。彼には『ボードッグ』になんか出場せずに『PRIDE』に上がり続けてほしいと思っているんだ。そして、『PRIDE』との契約が終わり次第、UFCに来てほしい（笑）。

――ダハハハ！　いままでに名前の挙がった選手以外にも、UFCに上がってほしい選手はいますか？

ダナ　ゴミ（五味隆典）、ルア（マウリシオ・ショーグン）、KIDヤマモト（山本KID徳郁）。

――また、いいとこ突いてきますね～（笑）。五味選手については、彼自身もUFC参戦を希望していて、UFCライト級王者ショーン・シャークだけでなく、一階級上のGSP（ジョルジュ・サンピエール）やマット・ヒューズと闘いたいと言っているんですけど？

ダナ　おもしろい発言だ。実際、私もまさにそのプランを考えていたんだよ！　まずゴミには155ポンド（70・1キロ）で最初にショーン・シャークと闘わせて、チャンピオンになったあとで170ポンド（77・1キロ）で闘わせたいとね。

――すでにそんな考えまで！　山本KIDという名前も挙がりましたが、いまのライト級よりも下の階級を作るつもりなんでしょうか？

ダナ　いや、そうじゃないんだ。もしKIDが参戦するとなると、それは（UFCが買収した）WECだ。

――WEC？　UFCのレベルじゃないってことですか……？

ダナ　そうじゃない。WECをUFCの二軍だと考えているんだったら、それは間違いだ。WECはもう独自のテレビ契約を交わしているし、軽量級の最強を決める舞台になろうとしている。そこで、KIDをユライジャ・フェイバーと闘わせたいね。

――話は変わりますが、これまで『PRIDE』を支援してきたエド・フィッシュマンが『PRIDE』を買収するという報道が一部でされていますが、ご存知ですか？

ダナ　インターネットでそんな噂が流れてるそうだね。私が言えることは、ネットを見るのをやめなさいということだね（笑）。まるで信憑性がないニュースがさも真実かのように一人歩きしてる。

――では、エドの買収話はデマだと？

エド・フィッシュマンにMMAの何がわかるというんだ？

ダナ　仮に事実だとしよう。エド・フィッシュマンがMMAの何を知っているというんだ？　ってことだ。彼が『PRIDE』の何を知っているんだ？　彼が日本のマーケットのいったい何を知っているっていうんだ？　何も知らないじゃないか!!　カルビン・エアーと一緒だ！

――なるほど（笑）。

ダナ　素晴らしい歴史を持った『PRIDE』が『ボードッグ』と同じようなジョーク団体になってしまうのだとしたら、残念でならないね。

――逆にUFCが『PRIDE』買収に動いているという報道もありますよね。

ダナ（一転してにこやかに笑いながら）もし『PRIDE』が売りに出ていれば……もちろん買うよ。

――買いますか（笑）。

ダナ　それが格闘技界の発展にもつながるしね。なぜならUFCと『PRIDE』は世界の二大オーガニゼーションなんだ。もし『PRIDE』が売られていれば、UFCは買うべきだし、逆にUFCが売られていれば、『PRIDE』は買うべきだ。現実的なことを言えば、この二つだけが本当の格闘技団体で、残りはすべてジョークだ！

――すべてがジョーク（笑）。

ダナ　だってそうだろう？　しっかり運営されているのはこの二つの団体だけだし、MMAというスポーツへの深い愛情もある。もし、この二つ以外に名前をもう一つだけ挙げる必要があるとしたら、それはK―1だろう。彼らはキックボクシングがメインだが、このビジネスをよく理解している。UFC、『PRIDE』、K―1、この3つの団体がバランスをとっているのが、いまの世界の格闘技界の姿さ。

――決して『ボードッグ』はその中に入ってこないと（笑）。

ダナ（首を横に振りながら）あなたたちの口から、その忌まわしい団体の名前が出るだけで、笑いたくなるよ（厳しい表情で）。

――と言いながら、顔はまったく笑ってませんけど（笑）。

ダナ（無視して）『ボードッグ』や、それ以外の、あちこちで雨後の筍のように出てくる団体は、我々とはまったく違う。彼らはこのMMAバブルで一儲けしたいだけだろう。我々と一緒に語ってほしくないね！

――カルビン・エアーと一緒にしてくれるな、と（笑）。また話は変わりますが、昨年の『Dynamite!!』で、ダナさんのアイドルである桜庭選手と闘った秋山（成勲）選手が身体にローションを塗るという事件が発生しましたが……。

ダナ　その話は聞いたよ！　ヌルヌル事件だろ（笑）。

――ご存知でしたか！　地球的規模の事件だったんですね（笑）。

ダナ　もしその事件がもとでサクラバ（桜庭和志）がK―1を離れることになったら、ぜひUFCで闘ってほしいけどね。

――代表は以前から桜庭選手にラブコールを送ってましたね。

ダナ　そうそう。君たちも知ってのとおり、私はサクラバの大ファンなんだ。そして本当のことを言うならば、サクラバは6年前にUFCに来るべきだった。なぜだかわかるかい？『PRIDE』の犯した罪は、サクラバを体重の重い選手と闘わせて潰してしまったことだ。シウバやミルコ、ホジェリオ・ノゲイラと闘わせたんだぞ。私なら絶対そんなことはさせなかったね。

――でも、ホイス・グレイシーを復帰させて、当時最強のマット・ヒューズと闘わせるというのも、かなり残酷なマッチメイクだと思いますけど（笑）。

ダナ　ホイスが同体重のマット・ヒューズと闘うことが残酷だって？　だったら、ホイスvsアケボノ戦はどうなんだ？（笑）。

――ダハハハ！　あの試合はどっちにとって残酷だったかわかりませんけど（笑）。

ダナ　冗談はさておき、少なくともホイスとヒューズは同じ体重だったよ。でもサクラバはいつも体重というハンデを背負わないといけなかった。しかも相手は強豪ファイターばかり。考えてもみてほしい。どれだけそれがファイターの身体を傷つけるかを。サクラバは小さいながら、優秀なファイターだった。グレイシーを連破していた頃のようなマッチメイクを組んでいれば、彼はいま頃、国民的ヒーローだよ。自分が当時のマッチメイカーだったら、絶対に同体重の選手としか試合を組まなかったよ。まぁ、いまからでも彼がUFCに来るなら、ウェルカムだけどね。

――そうなると、また夢が拡がりますね。では、2007年のビッグプランがあればお聞きしたんですか？

ダナ　次の大会のメインカード、ティム・シルビアとランディ・クートゥアーの一戦は充分なビッグカードだね。またその勝者とミルコの試合、それからティト・オーティズとフォレスト・グリフィンの再戦、チャック・リデルvsランペイジのリベンジマッチ。どれもPPVで記録的な数字を弾き出す可能性を持った試合ばかりだ。

――では、そのカードを携えて、念願のニューヨークに進出する、と？

ダナ　そうだね。だけど、その前にクリアしなといけないのは、イリノイ州でのMMA合法化だ。シカゴで興行を成功させたあとにニューヨークに進出することになるだろうね。

――そうなると、会場はやはりマジソン・スクエア・ガーデンですか？

ダナ（満面の笑みで）ぜひMSGでやりたいね。おそらく実現するのは、来年初頭になるだろうけど。

――その舞台に立つことになるであろうミルコは、今日のUFCデビュー戦で『PRIDE』のテーマ曲で入場してくると聞きました。

ダナ　クールなアイデアだね（笑）。

――止めるつもりはないんですか？

ダナ　まったく。一つ言っておくけど、私は『PRIDE』を嫌ってはいないんだよ。彼らのショーは大好きだし、彼らとビジネスするのも好きだからね。

――それは本心ですか？（笑）。

ダナ　本当だとも（笑）。そして日本という国も大好きだ。だから我々は今年中に日本に進出するつもりだよ。もし現地でスポンサードしてくれる適切なパートナーが見つかれば、明日にでも日本に行くよ（笑）。

――それでは最後に〝今世紀最大のビッグマッチ〟についてもお聞きしたいんですけど。

ダナ　今世紀最大のビッグマッチ？　さっき言ったほかにそんなカードがあったかなあ……。

――あるじゃないですか！　ティトと代表のボクシングマッチが！（笑）。

ダナ　ハッハッハッハッ！　ああ、残念ながら、行なわれるみたいだね（苦笑）。あとは、アスレチック・コミッションの許可が必要なんだけど、申請が通れば、3月24日に実現することになるね。

――ホントにやりますか！　それはつまりWWEのビンス・マクマホン代表を目指しているということですか？（笑）。

ダナ　ノー！　とんでもない。一緒にしないでくれよ（笑）。これはティトと自分のあいだでの個人的な話だったのに、いつの間にか、アイツが話を大きくしたんだよなあ……。

――では、次回のインタビューは、〝ファイター〟ダナ・ホワイトとしての登場を期待しております（笑）。

【07年2月3日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、『THE HOTEL』にて収録】

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便

聞き手／デューク東郷　助手／シルク・ド・上杉

Vol.11



PROFILE
Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「残念ながら、プレスパスがもらえません」。

"PRIDE買収"の真相とは?

MMAバブル絶頂期を迎え、またしてもテレビ局のバックアップを得た新団体が旗揚げするなど、刻々と勢力図が変化するアメリカ格闘技界。そのうねりの中、『PRIDE』を取り巻く環境について衝撃的なニュースが世界を駆け巡った。いったい、何が起ころうとしているのか?

――どうしたの、スコット?　また辛気くさい顔をしているけど、いまアメリカMMA界は景気がいいんじゃないの?

スコット　うるさいなぁ、カジノで負けたの!　ラスベガス出張に来るたびに金をスルから、パーソナル・ファイナンスは火の車だよ。それにウチはUFCに優遇されてないから、ブームでも、そんなに大きな恩恵を受けていないの!

――はいはい、格闘技界の日陰で細々とやっているわけね(笑)。で、アンタのサイト『MMA WEEKLY』のことはおいといて、業界的にはダイナミックな話が多いんでしょ。新団体エリートXCがライバルの『ストライク・フォース』と電撃的に提携したりとか?

スコット　そうそう。でもこの話には裏があって、エリートXCはもともとボクシング業界出身のゲリー・ショウ氏がやっている団体。だからMMAには詳しくない人間も多いらしく、『ストライク・フォース』が契約していたフランク・シャムロックをメインに起用したことで、両団体で一悶着あったらしい。そこをなんとかエリートXCを放映する、有力ケーブル局ショータイムが取り持つことで両団体の提携が実現して大会が無事開催されたというわけさ。

――へー、そのショータイムってのは影響力があるの?

スコット　ショータイムは、他のケーブル局に比べてクオリティの高い番組を放送することで評価を得ている局。契約体系としては、プレミアム・チャンネルと呼ばれていて、日本でいえばWOWOWのような存在かな。実際、旗揚げ戦の放映は天井カメラも採用してよくできてたし、豪華なショーアップをしていたよ。団体のスタッフも、さっき言ったようにボクシング界での経験もあってイベントは慣れたものさ。

――ふ~ん、じゃ雨後の筍のように生まれては消える新団体が多いけど、エリートXCはしばらく安泰だ。

スコット　そうだね。実際、エリートXCを運営するプロエリート社は株式を公開しているんだけど、ショータイムがバックについたという好材料もあって、時価総額はすでに約1億4000万ドル(=約168億円)!

――こりゃまた、スケールの大きな話だね。あ、そういえば、スケールの大きな話で思い出したけど、アンタ、サイトで「エド・フィッシュマンPRIDE USA社長が、『PRIDE』買収」っていうテキトーな記事を書いたんだって!?

スコット　え~、ちゃんと取材してるよ。ソースは言えないけど……。

――ふ~ん。でも、この記事を読んだダナも、UFC67の大会後の記者会見で「インターネットを見るのをやめなさい」と一笑に付してたけど。

スコット　でも、そうやって言ってるってことは、少なくてもダナかその周りの人間がボクのサイトを見ているってことだろ?(笑)。

――はぁ。ま、詭弁はいいからそのデタラメ記事をかいつまんで説明してよ。

スコット　簡単に言うと、エドは、『PRIDE』をアメリカで成功させるために資本面と人材面で強化したいと言っているんだよ。

――で、『PRIDE』は実際どうなるのさ?

スコット　エドは『PRIDE』は世界最高だと評価していて、イベント自体は何も変える気はないらしい。ただアメリカでのマーケティング力を強めて、UFCに対抗できる組織にしたいんだって。そのためにも、いま持っている株式比率を増やしたいということさ。

――はぁ。でもそうなると、日本での興行はどうなるのさ?

スコット　さぁ、それについてはわからないなぁ。アメリカでの興行がメインになるのか、もしくはエドのコネクションで世界中のカジノシティで大会が開催されるのか。

――そうなったら、早く石原都知事にお台場カジノ構想を実現してもらわないと。というか、この買収話自体ホントなのか疑わしいけど!

スコット　(ムッとして)日本人は企業のM&Aには、感情的になりがちだけど、アメリカでは企業買収なんてフツーのビジネスだよ。競合社のM&Aも盛んだしね。実際、『PRIDE』にはUFCも先に買収のオファーを出しているんだ。

――にわかには信じがたい話だなぁ。どこかの掲示板の情報じゃないだろうね?

スコット　失礼な!　でも、どうやらいまのところ、DSEはどちらにも売る気はないみたいだ。ただ、アメリカで『PRIDE』が成長することを恐れているダナが買収したら、そのブランドを封印しかねない。で、WFAにやったみたいに、契約選手をそのままUFCに移籍させるだろうからさ。

――それは、つまらない展開だなぁ。

スコット　それを防ぐためにエドが手を挙げたんだろうね。『PRIDE』は今後、世界市場で生き残るためには資本のバックアップが必要だし、エドのようなアメリカのマーケットに精通している人も必要。また、エドも自身のカジノビジネスにとって『PRIDE』というソフトは魅力的。DSEも簡単に『PRIDE』の看板を売るわけにはいかないんだろうけど、両者はお互いに必要としているわけだから、出資比率などで歩み寄ることになるんじゃないかな。

――エド本人は買収するなんて言ってないという話もあるけどね。というか、それよりも、エドはついでに『kamipro』も買い取ってくれないかな(笑)。

【2月11日／ラスベガス・フーターズホテルにて取材】

USA Cool宅急便 NEWS

クレイジーホースが刑務所から出所!!

昨年、フロリダ州で誘拐、監禁、暴行容疑で逮捕されていたチャールズ・"クレイジーホース"・ベネットが、いつの間にか出所していた!　エリートXC旗揚げ戦に出場し、ひさしぶりにファンの前に姿を現したクレイジーホース。事件について、被害者であり告発したのが自分のガールフレンドであったことを明かし、DV(ドメスティック・バイオレンス)が逮捕につながったことを示唆すると、「彼女とは別れることになりそうだ」とコメント。なお巨額の保釈金が設定されていたベネットだが、"身内のトラブル"ということで、実際には3000ドルで済んだとのこと。今後さらに罰金として1500ドルを支払うことになる。なおベネットは「彼女に尽くそうとしていたのに、彼女がオレにした仕打ち(告訴)はひどいものだった。オレをトラブルに巻き込みやがって」とも発言、反省の色をまったく見せていない様子だ。

エリートXC

2.10(現地時間)
『Destiny』
米国ミシシッピ州サウスエイブン
デソート・シビックセンター

○チャールズ・"クレイジーホース"・ベネット
[1R 3:43 KO]
KJ・ヌーンズ×
※パンチ

○ヘンゾ・グレイシー
[2R 2:00 反則負け]
フランク・シャムロック×
※グラウンドでの頭部へのヒザ蹴り

ボブ・サップがついに復帰!!

"ザ・ビースト"がついにリングに!　イギリスの格闘技団体『ケイジ・レイジ』は4月21日のロンドン大会にボブ・サップが出場することを発表した。サップは昨年5月、K-1アムステルダム大会で試合直前に会場から失踪。その翌月、記者会見を開き、自分の正当性を主張してからはひさしく公の場に姿を見せていない。サップの対戦相手はまだ発表されていないが、イギリス人のスーパーヘビー級の選手になるとのこと。また『ケイジ・レイジ』は今年、北米でのPPV大会を企画しており、そこでサップとバタービーンの試合が行なわれる予定。



April Pishna

今夏、このいずれかの勝者にミルコが挑戦！
ミルコにベルトは渡さない！

UFCでのライバルたちがついにミルコ参戦について語った!!

RANDY "The Natural" COUTURE




UFC HEAVY WEIGHT CHAMPION TIM SYLVIA

3.3 UFC68

UFCヘビー級タイトルマッチ

［チャンピオン］ティム・シルビアvs
ランディ・クートゥアー［チャレンジャー］

UFCヘビー級王座奪取を当面の目標に掲げるミルコ。その野望の前に立ちふさがるのが、この二人だ！　203センチの巨体を誇り、驚異のKO率でUFCヘビー級の長期政権を築くティム・シルビア。そして、昨年引退を表明したものの、ついに現役復帰を決意した元UFCヘビー級&ライトヘビー級王者ランディ・クートゥアー。この二人が3.3『UFC68』でベルトを懸けて激突。そして、その勝者が今夏、ミルコの挑戦を受けることが決定した！　不動の王者と元二階級王者。どちらも相手に不足なし！　このUFCでのライバルたちが、ついにミルコ参戦について語ってくれた。



アメリカMMA業界でもっとも尊敬される男が
現役復帰、ミルコ参戦、そしてかつての盟友ダン・ヘンを語る!

「ミルコには オクタゴンの“罠”が 待っているだろう」

カリスマ性と人望を併わせ持った男
桜庭和志＋髙阪剛＝ランディ・クートゥアー！

RANDY "The Natural" COUTURE

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／シルク・ド・上杉

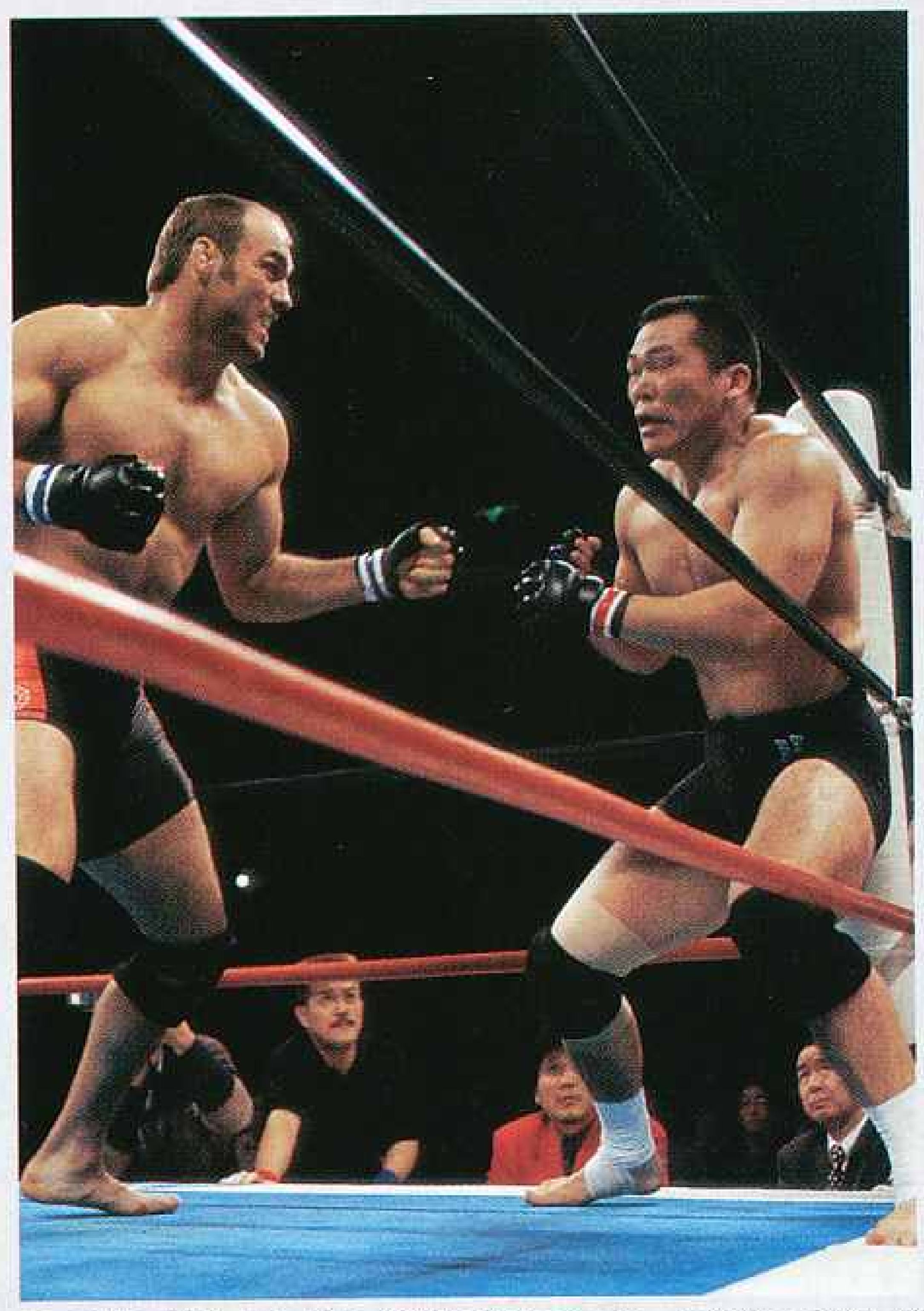
〝ＭＭＡ業界を作った男〟

ここアメリカでは、ファン、関係者、そして選手たちのすべてが、ランディ・クートゥアーのことをそう呼ぶ。もちろん、米ＭＭＡの原点である第一回ＵＦＣを開催したのはグレイシー・ファミリーだし、ＭＭＡをここまで巨大ビジネスにしたのは、ダナ・ホワイト代表率いるズッファだ。しかし、あえてランディを〝ＭＭＡ業界を作った男〟と呼ぶのは、それだけの実績と人望が彼にはあるからである。

97年にＵＦＣ参戦後、すぐにＵＦＣヘビー級王者となり、そこから10年近くにわたって、常にヘビー級、そしてライトヘビー級のタイトル戦線で闘い続けてきたクートゥアー。もともとグレコローマン・レスリング出身のアスリートで、40歳をすぎても常にベストコンディションで闘いに挑む、そんな彼の姿勢がＭＭＡのイメージを〝バイオレンス〟から〝スポーツ〟へと変えていった。日本で言えば、桜庭和志と髙阪剛を合わせたような存在、それがランディ・クートゥアーなのだ。

そのランディが3・3『ＵＦＣ69』において、約一年ぶりに現役復帰することとなった。しかも、いきなりティム・シルビアの持つＵＦＣヘビー級王座への挑戦。この一戦に勝ったほうが今夏ミルコ・クロコップの挑戦を受けることがすでに内定しているだけに、日本のファンにとっても見逃せない闘いと言えるだろう。

そんな大一番を前にしたランディを、本誌はラスベガス郊外にオープンしたばかりの彼のジムで直撃。そこで現役復帰の理由、そしてミルコのＵＦＣデビュー戦の感想などをうかがってきた。



アメリカでは絶大な人気と実績を誇るランディ。5年前まではたびたび日本でも闘っていたが、98年に修斗でエンセンに一本負け。リングスKOK2000ではジェレミー・ホーンや髙阪剛を破るも、準決勝でヴァレンタイン・オーフレイムに不覚をとるなど、本来の実力を見せられていない。もっとも得意とするオクタゴンでの闘いを日本で披露する日は来るか⁉

——クートゥアー・ジム、オープンおめでとうございます！　昨日オープンされたとのことですが、とても立派なジムですよね。

ランディ　ありがとう（ニッコリ）。ずっとジムを開く場所を探していたんだけど、8月にいいロケーションを見つけて、やっとなんとか昨日のオープンにこぎつけたんだ。半年もかかったよ（笑）。

——マットやウェイト機材も充実してますし、オクタゴンだけでなくリングもあって、本当になんでも揃っているようですけど、どんなところに、こだわりがありますか？

ランディ　すべてだよ。リングもオクタゴンも必要だし、グラウンドの合同練習用に大きなマットもほしかった。有酸素運動にはバイクが欠かせないし、サンドバッグもね。本当に全部さ。これらすべてのものがパッケージとして、一つの屋根の下にあることが、このジムの素晴らしさだよ。ムエタイも柔術もボクシングもここではまとめて練習できる。

——なるほど。ところで、このジムのオープンと次回大会の現役復帰が重なったのは理由があるんですか？

ランディ　いや、それはたまたまそうなったのさ。ジムもいったい、いつになったらオープンできるのかわからないような状況だったし、そんな中で復帰戦のオファーは来るし、とにかくいろんなことをこなしていくのに精一杯だったよ。そうしたらいつの間にか時期が重なるようになってしまってたんだ（笑）。でも、ちょうどよかったよ、これで、ここでトレーニングできるからね。

——そもそも現役復帰を決意したきっかけはなんだったんですか？　ＵＦＣのヘビーとライトヘビー二階級を制覇したあなたでも、まだ何かやり残したことがあったんでしょうか？

ランディ　いや、私はこれまで自分の成し遂げたことに満足しているよ。ただ、同時に私はまだＭＭＡで闘って勝つこともできるんだ。リタイアしてからは、ずっとビジネスで忙しかったけど、いまはまた少し余裕ができてきた。すると、トレーニングを続けていく中で一人のファイターとして闘いたいという気持ちが抑えられなくなったんだ。

——引退してからは、会社経営に乗り出したと伺いましたが。

ランディ　そうなんだ。引退後にアスリートのためのサプリメント開発会社を立ち上げたんだ。それと、じつはこのジムは3つ目のジムで、もうひとつのジムを4月に作る予定もあるんだ。

——ここだけでなく、そんなに多くのジムを経営されてたんですか⁉

ランディ　そうなんだよ（笑）。それに加えて、いまはＭＭＡイベントの制作会社も起こして、小さい興行のプランニングや運営を行なったりもしているんだ。またＵＦＣの大会ではＰＰＶのコメンテーターを務めているし、（ケーブルテレビの）ファイトネットワークでも実況の仕事をしているから、本当にずっと忙しかったんだ。

——イベント制作まで手がけていましたか！　それはお忙しいですね。

ランディ　そのショーではＵＦＣのライト級王者のショーン・シャークも出ているし、クリス・レーベンら『ＴＵＦ』出身の若手もいて、まだまだＵＦＣには規模は追いつかないけど、盛り上がってきているよ。

——では、そうやって事業でも成功されていて、富も名声もあるランディさんが、再び苦しいトレーニングをしてオクタゴンに上がろうとする一番のモチベーションというのはなんですか？

ランディ　それは、そうやって苦しい思いをしてオクタゴンに上がることが、自分自身にとっては楽しいことだからだよ。ファイト・イズ・ベスト・ジョブ！　それにいまはジムや会社の経営を私の妻のキムやほかのスタッフにまかせられるからね。彼女は本当に素晴らしいワイフなんだ（嬉しそうに）。

——内助の功にも恵まれているんですね。

ランディ　だから、自分はファイトに専念できるというわけさ。妻を含めて本当に、いい仲間に恵まれたよ。

——今回、ライトヘビー級からヘビー級に転向されたのには理由があるんですか？

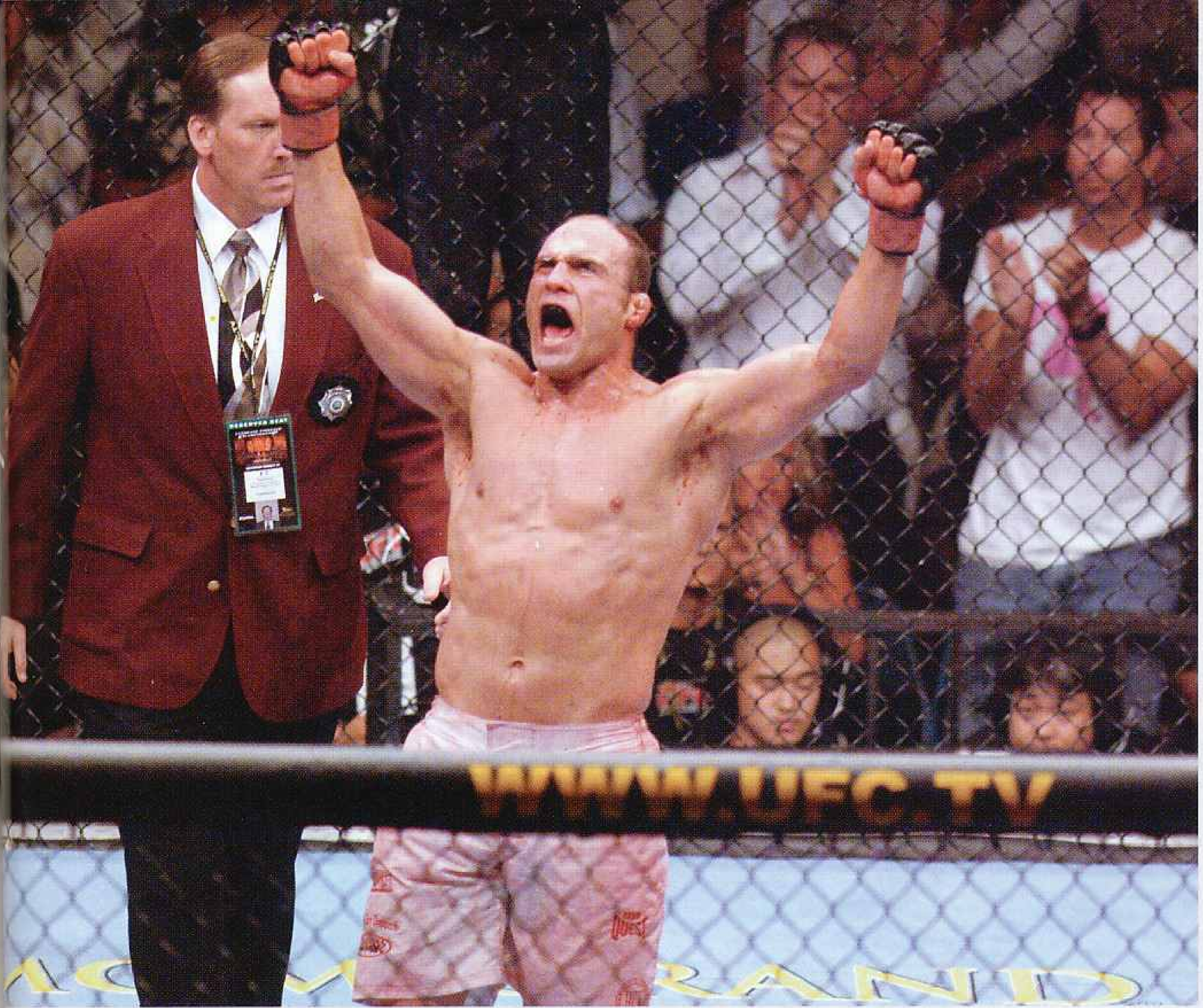
ランディ　それはタイトル挑戦のチャンスがあったからさ。オフィスがヘビー級の挑戦者としてオファーしてくれたのは、願ってもないチャンスだ。それにいまはミルコも『ＰＲＩＤＥ』からＵＦＣに来たし、ヒース・ヒーリングも参戦し、これから多く







ラスベガス郊外にできたばかりのクートゥアー・ジム。開放感のある広い建物の中に、リングとオクタゴン両方が設置され、最新設備も充実。アメリカでもトップクラスの設備を誇るＭＭＡジムと言っていいだろう。



April Pishna

の選手がUFCに上がろうとしているから、ヘビー級戦線はおもしろくなっていくんじゃないかな。さらに言えば、ヘビー級を制したら、再びライトヘビー級のベルトを狙ってやろうとも思っているんだ。

――では、チャック・リデルよりもティム・シルビアのほうが倒しやすいからヘビー級に転向したわけではないんですね。

ランディ　二人ともタフな選手だよ。ただ、確かにティムのグラウンドのレベルはほめられるものではないし、逆にその分野は自分の強みでもあるからね。ヘビー級に上げても勝つ自信はあるよ。

――シルビアは「ランディと闘うことは光栄だが、復帰していきなりタイトル挑戦というのは、王者の自分にとって侮辱であり、納得がいかない」といった発言をされています。

ランディ　私はティムを友だちだと思っているけど（笑）、そう考えるのは彼の勝手だよ。でも、私は今回の休養で身体のコンディションもよくなったし、フィジカルな部分だけを言えば、自分のキャリアの中でベストの状態だと言ってもいい。それを3月3日の試合でティムは知ることになるんじゃないかな。

――自分が挑戦者としてふさわしいことをオクタゴンで闘って証明してみせる、と。

ランディ　そういうことだ。それと一言つけ加えるなら、私もティムと闘えて光栄だよ（笑）。

――ところで昨日、そのUFCヘビー級戦線に参入してきたミルコの試合をライブで観戦されたと思いますが、どういった印象をお持ちですか？

ランディ　ミルコの試合は日本でも観たことがあるけど、相変わらず素晴らしいね。あの鋭い打撃は比べる選手がいないくらいハードだし、苦手といわれるグラウンドでも、サンチェズ相手に披露したマウントはとても安定していた。現王者のティムと闘ったら、どっちが勝つか本当にわからない。いい勝負になるんじゃないかな。

――僕らからすると、昨日のミルコはオクタゴンに慣れてないというか、オクタゴンに苦戦しているという印象を受けたんですけど、その点についてはいかがですか？

ランディ　確かにサンチェズはオクタゴンを最大限に利用して、逃げ回っていた。ああいうふうに回られると、オクタゴンでは追い詰めるのが難しいんだ。リングと違ってコーナーがないからね。ただミルコがオクタゴンの使い方を知っていれば、逃げ回られることもなかった。オクタゴンにはオクタゴンの特性があって、それに応じた闘い方があるからね。

UFC、PRIDEに続く団体はIFLになるんじゃないかと思う

――それを知らないからこそ、ミルコはサンチェズを仕留めるのに若干手こずった、と。

ランディ　それでもミルコは試合をしながら、あっという間にオクタゴンに慣れていったように感じたけどね。というのは、試合の中で、逆に金網に押し込められたときも、うまく身体をさばいて逃れていたからね。オクタゴンにはオクタゴンの特性があるから、これからミルコはほかのファイターとオクタゴンで闘っていく中で、いろんな“罠”に対応していく必要があるね。

――やっぱり、リングとオクタゴン両方を知っているランディさんからすると、その二つにはまったく違った闘い方があると思いますか？

ランディ　まったくもってそうだね。リングにはリングの、オクタゴンにはオクタゴンの戦術があって、それがこのジムでも金網とリングを両方置いている理由だよ。

――では、今後、『PRIDE』ファイターがオクタゴンに来る可能性もありますが、その場合、やはり金網対策は不可欠ですか？

ランディ　そうだね。自分は金網戦術について言うと、一日の長があるからこっちの舞台でPRIDEファイターを迎え撃つのは歓迎だけど、彼らに最高のパフォーマンスをさせるつもりなら、団体側もちゃんと選手を金網という新しい環境に慣れさせてあげる必要があるね。いきなり、トップファイターを闘わせるんじゃなくて、今回のミルコのケースみたいに時間を与えるというようにね。

――なるほど。その『PRIDE』のヘビー級ファイターたちについては、どう評価していますか？

ランディ　PRIDEヘビー級チャンピオンのヒョードルは、多くの人から“世界で一番強い”と評価されているファイターで、私もそれについては異論はない。そしてミルコも無差別級GPを制したという意味で、『PRIDE』の実力ナンバーワン・ファイターだ。ただ、ティム・シルビアもその二人と肩を並べる強さであることは、自分の口から言っておきたいね

――UFCヘビー級も負けてはいない、と。そこにはランディさんも含まれていますよね？（笑）。

ランディ　ありがとう（笑）。確かに『PRIDE』には強い選手が、ウヨウヨいるけど、UFCとどっちが強いかは、これから判明していくことだと思うよ。

――ちなみにヒョードルとミルコではどちらが強いと考えていますか？

ランディ　ヒョードルのほうがよりオールラウンド・ファイターだけど、スタンドでの攻撃力ではミルコのほうが上。ミルコはグラウンドが弱いと

ダンはアローナと同じ闘い方をすればPRIDE二冠王になれる

思われていたけど、それも成長しているし、どっちが強いか答えるのは難しいな。

―なるほど。では昨年『PRIDE』はアメリカに進出しましたが、あれはランディさんの目にはどのように映りましたか?

ランディ テレビで観たけど、ショーは本当に素晴らしかったね。演出面や、試合の打ち出し方がとくによかった。ただ一つ気になったのは、試合そのものがワンサイドゲームばかりで、勝ち負けに対する興味が薄かったことかな。メインのヒョードルvsマーク・コールマン戦しかりね。

―確かにあの大会はワンサイドゲームが多かったですね。

ランディ 唯一ゲームが拮抗していたのはダン・ヘンダーソンvsビクトー・ベウフォートの試合ぐらいだったからね。あと、興味があったのはヨウスケ・ニシジマ(西島洋介)とフィル・バローニの試合ぐらいだったかな。

―あの試合も結局一方的な試合になってしまいましたが(笑)。ところで、こうやって『PRIDE』がアメリカに進出してきたのは、格闘技界の活性化につながると思いますか?

ランディ いまアメリカでは、『PRIDE』だけじゃなくて、多くの団体が勃興して競い合ってる。それはアメリカMMA界の発展につながるし、世間からも多くの認知を得ていくことになるし、なにより闘う選手にとってはいいことだと思うよ。

―新団体が多く誕生したり、プロモーターがどんどん増加しているんですが、その状況についてダナ・ホワイトは「UFCと『PRIDE』以外はジョーク」と発言しているんですよ。それについてはどうお考えですか?

ランディ そういう発言は、非常にダナらしいね(笑)。でもそれは彼が言っていることじゃなくて、彼のUFC代表というポジションが言わせていることだと思っているよ。だから、私はそうは思ってない。小さいながらも頑張っているオーガニゼーションもあるしね。だからそういうショーがやらないといけないのは、『PRIDE』やUFCがやってきたように、ちゃんと団体を継続させて人々に賞賛されるような大会を開くことだね。

―なるほど、一朝一夕ではブランドを築くことはできませんよね。

ランディ まだ、それができている団体はないね。ただ、もしそこに近づく可能性のある団体を挙げるならば、それはIFLだね。

―へぇ~、IFLですか。

ランディ そう。IFLは都市別チーム対抗戦という新しいフォーマットで独自の道を持っているし、またテレビ局もついている。うまくやれば、成功する可能性もあるんじゃないかな。

―『ボードッグ』についてはいかがですか?

ランディ 『ボードッグ』は、まだ一度も観たことがないんだ。ただ、噂は聞いているよ。「ファイターにお金をバラまいている」ってね(笑)。その金額をPPV収益と入場料でちゃんと回収できるのかどうかは疑問だけど、そうするしかないだろうね。

―やっぱり、お金をバラまいてましたか(笑)。

ランディ それと、いまはWECがここにきて一気に成長している。ケーブル局のヴァーサス・ネットワークが付いているし、あの小さな団体がここまで大きくなったのかと考えると、このMMAビジネス全体の発展を感じざるを得ないね。

―UFCに買収されてから、急拡大しているWECですね。ところで、かつての盟友ダン・ヘンダーソンとはまだ連絡をとっていますか?

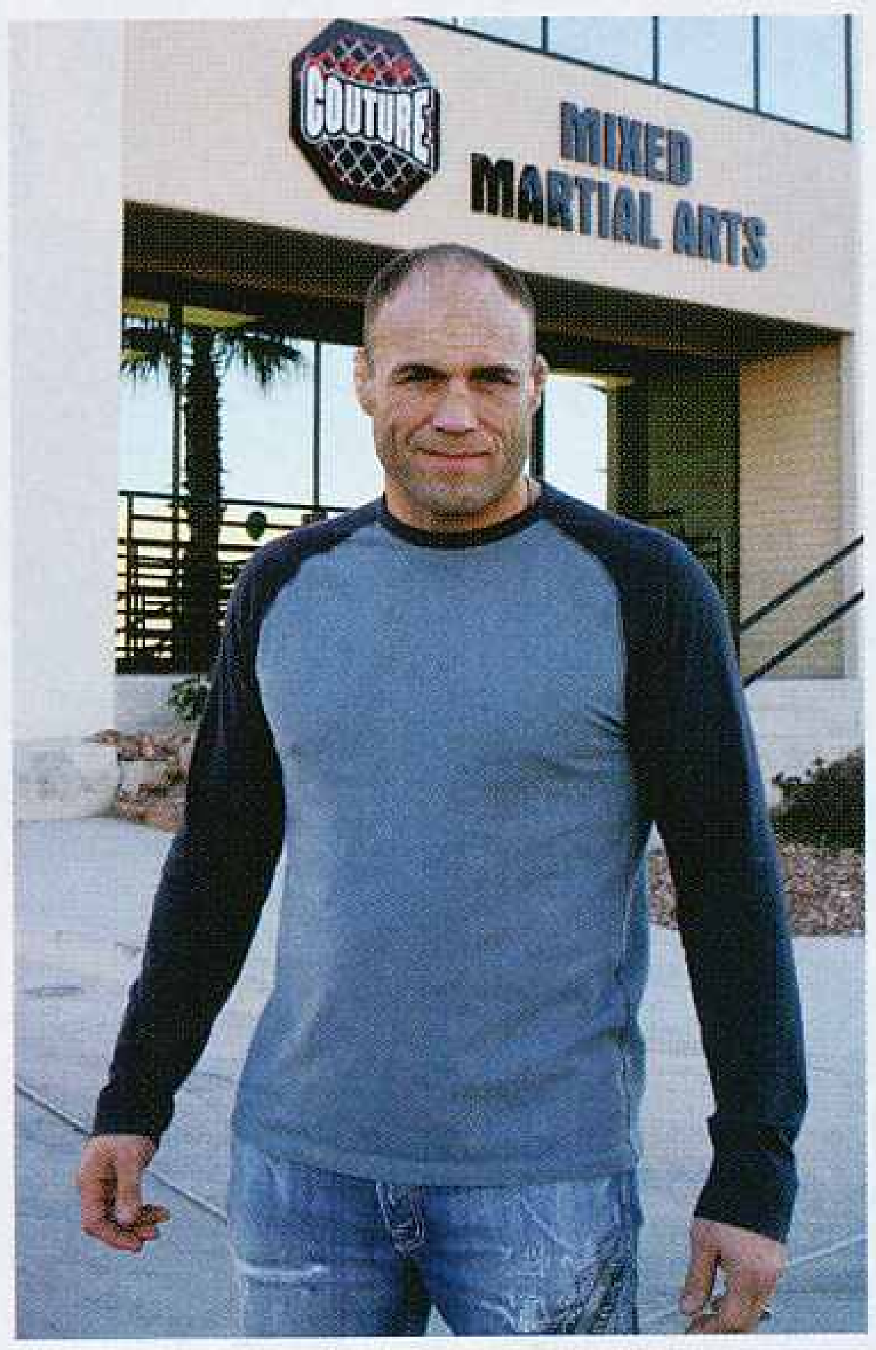
ランディ もちろんだよ。私はこっちでジムを開いて、チーム・クエストを離れてしまったけど、ダンとは連絡をとっているよ。彼はヴァンダレイとのビッグマッチがあるし、同じチーム・クエストのメンバー、マット・リンドランドはなんといってもヒョードルと闘うことになるんだから、応援したいね。彼らとは本当にいい友だちだからね。

―では友人だけに語りにくい部分もあるかと思うんですけど、(ヴァンダレイ・)シウバとダン試合はどういう展開になると思いますか?

ランディ じつは私はダンが初めてヴァンダレイと闘ったときにセコンドについていたんだ。

―ああ、そういえばそうでしたね。

ランディ あの試合で、ダンはもうちょっとで勝てるチャンスがあったんだ。シウバはダンのパンチで目を真っ黒に腫らしていたからね。シウバ自身もたぶん、あそこまでブン殴られてたのはあとにも先にもないんじゃないかな。ただ、今回の試合でダンにアドバイスをすることがあるとすれば、いくらパンチに自信があっても、正面からの殴り合いは避けることだね。私はダンと長い期間一緒に練習してきたから、彼のレスリングスキルの高さは知っている。だから、勝ちに徹するなら、ヒカルド・アローナのような闘い方をしたほうがいいね。そうすれば必ず、彼はPRIDEの二冠王になることができると思うよ。



Randy Couture■1963年6月22日、米国ワシントン州出身。97年UFCデビューし、ライトヘビー級とUFCヘビー級の二階級を制覇した唯一の選手となる。昨年4月のチャック・リデル戦後に引退を表明。今年3月、一年ぶりとなる現役復帰戦でヘビー級王座に挑戦する。188cm、100kg。

―では最後に、これから復帰されるランディさんに聞くのもへんな質問ですが、現役生活はいつまで続ければ、ご自身で納得できると思いますか?(笑)。

ランディ それはファイター個人個人で違うものだからね。私はこれまで恵まれてきて、34歳や39歳という高年齢でタイトルを獲ったことがあるし、いまや44歳にしてヘビー級タイトル戦に挑戦しようとしている(笑)。自分にとっての基準で言えば、自分にオクタゴンに上がるだけの体力が足りないと感じたときが引退のとき、と言うしかないね。そうなれば、自分のジム経営やほかの事業にエネルギーを注ぐしかないけど、いまのところは大丈夫だよ。

―日本のファンはランディさんの試合を長いあいだ、生で観てないわけですが、いつか日本で試合をしようというお考えはないですか?

ランディ それは私ではなくて、UFCに聞いてもらわないとね(笑)。UFCが日本に行けば、それが実現するだろうし。日本のファンは総合格闘技のことをもっともわかっていると思うから、そこで再び試合ができれば光栄だよ。


―いつか日本でお会いできることを期待しています。では、タイトル戦、頑張ってください!

【07年2月4日(現地時間)/米国ネバダ州ラスベガス、クートゥアー・ジムにて収録】



身長203センチ！ 史上最強のデクノボー王者
ミルコ迎撃を前にビッグマウス大爆発!!

「ミルコもヒョードルも小さすぎる！ 俺から見りゃ、二階級下のチビッコだ!!」



ミルコの細い身体をスラムで叩きつけて
重いパウンドの嵐を落としてやるよ！

UFC HEAVY WEIGHT CHAMPION
TIM SYLVIA

ミルコの目下のターゲットであるUFCヘビー級王座に君臨し続けるのが、このティム・シルビアだ。かつてミルコに「デカくて、ちょっと打撃ができるだけ」と“ノルキヤ扱い”されたこの男だが、その巨体と重い打撃を武器に、いまや長期政権を築いている。3.3クートゥアー戦を乗り越えれば、いよいよそのミルコとの対戦が実現。世紀の一戦を前にしたビッグマウスを聞け！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　通訳／シルク・ド・上杉

俺にとってミルコ戦は来たるべきヒョードル戦の前哨戦でしかない

——チャンピオン！　今日はお会いできて光栄です。それにしても近くで見るとホント、デカいですね（笑）。

シルビア　まあな。これが〝神に選ばれし階級〟の頂点に立つ男のサイズさ。

——そのUFCヘビー級戦線で、いまや敵ナシの状態ですけど長い期間タイトルを保持する秘訣というのはなんですか？

シルビア　それは意識の問題さ。常にチャンピオンであり続けようとすることだね。どんなジャンルにも言えることだと思うが、トップでいたい、という気持ちが強い人間が真にトップでいられる。そして誰よりも俺はそういった意識が高いのさ。

——「俺が最強だ！」という気持ちが人一番強い、と。

シルビア　そうだ。それと同時に、きっちり努力をするということも大事さ。俺はこれまで常に慢心することなく、対戦相手のことを最大限に警戒して闘ってきた。そして、師匠であるパット・ミレティッチやチームメイトと戦略を立てて、相手の弱点を突いてきたんだ。それこそが本当の総合格闘技ってものだろう。

——なるほど、見た目によらず綿密な作戦を立てて試合に臨んでいるんですね（笑）。

シルビア　あ〜ん？

——いや、なんでもないです。

シルビア　次の試合は、ランディ・クートゥアーが相手（3月3日、UFC68）。彼はグレコローマン・レスリング出身だけど、その対策はしっかりと積んでいるよ。

——そのクートゥアーは、今回のタイトル挑戦が、約一年前の引退宣言からの復帰戦となるわけですが、それについてはどう思いますか？

シルビア（憮然と）それは俺にとっては侮辱だね。

——侮辱？

シルビア　彼はリタイアする前まで3年間、ライトヘビー級でやってきたわけだろ。それで現役に復帰するや、いきなり俺のヘビー級王座に挑戦するだって？　俺にとっては侮辱でしかないね。UFCヘビー級タイトルというものは、そんなにハードルが低いものなのか聞いてみたいよ。

——しかしクートゥアーはUFCで二階級を制覇した選手で、もっとも尊敬されているファイターでもあるわけですよね？

シルビア　ああ、たしかに彼は、このスポーツの基礎を作った人間だし、レジェンドと言っても過言でない存在だ。俺自身、彼のことは尊敬しているし、こうやって闘えることを誇りに思うよ。しかし、だ。一方で、やはり怒りを覚えざるを得ないね。さっきも言ったように、彼は引退から復帰したばかりで、しかも階級を上げて、すぐにヘビー級のベルトを奪えると考えているわけだからね。

——しかし、それは逆に言うと、UFCのヘビー級戦線で、ほかにチャレンジャーがいないという状況があるんじゃないでしょうか？

シルビア　そんなことはないだろう。UFCに参戦してきたヒース・ヒーリングを倒したジェイク・オブライエン、チェッチ・コンゴ、それから4連勝中のブランドン・ベラなど、UFCには、まだまだ強いファイターがいるさ。そして、ミルコ・クロコップも『PRIDE』から来たしな。

——いまミルコの名前が出ましたが、



Josh Hedges / UFC

Tim Sylvia■1976年3月5日、米国メイン州出身。現UFCヘビー級王者。建設業に従事するかたわら、ボクシングとグラップリングのトレーニングを始め、01年にMMAデビュー。以降、KO・一本勝ち率約8割という戦績を誇る巨人戦士。ミレティッチ・ファイティングジム所属。203cm、118kg。

日本ではUFCより、PRIDEヘビー級のほうがはるかにレベルが高いと言われているんですが、そういった評判についてどう思いますか？

シルビア　ヒョードルが、世界で一番強いファイターの一人だということに異論はないよ。しかし、俺はアイツに負ける気はしない（キッパリ）。

——最強皇帝より強い、と！

シルビア　確かにPRIDEファイターが全般的に強いことは認めるさ。俺自身『PRIDE』が好きで、PPVでよく観ているからな。でも、繰り返すが、最強は俺だ。

——では、ヒョードルの米国デビュー戦が行なわれた、前回の『PRIDE』ラスベガス大会も観ていたと思いますが、そのとき会場で「UFCヘビー級王者、ティム・シルビアがヒョードルとの対戦から逃げた」とアナウンスがありましたが……。

シルビア（さえぎって）それは、真っ赤な嘘だ！　なんの根拠もないからな。俺のところには試合のオファーは一度も来てないぜ！　ヤツらは、そういうイメージ作りをしたいんだろう。UFCが『PRIDE』から逃げた、というね。ま、どうでもいさ。それも俺が、PRIDE無差別級GPを制したミルコ相手に楽勝すれば、誰もそんなことは言わなくなるだろうからな。

——ミルコに楽勝する⁉

シルビア　ああ、楽勝さ。アイツは俺と闘うには小さすぎる！　俺から見れば二階級下みたいなもんだ。ミルコとの試合は自分にとっては、来たるべきヒョードルとの最強王者決定戦の布石といったところかな。

——逆にミルコは3戦目でヘビー級タイトルを獲ると宣言していまが？

シルビア（余裕を見せながら）いいアイデアじゃないか。つまり俺と3戦目で闘うってことだろう？　こういう決着は早くつけようぜ。あの細い身体をスラムで叩きつけて、いままで味わったことのないような重いパウンドの嵐を落としてやるよ！

——彼のストライキング・スキルについてはどう評価しています？

シルビア　いい左ストレートを持っているよ。それにハイキックも凄い破壊力だ。でも、繰り返すがアイツは俺には小さすぎる。50〜60ポンドは体重差があるんだ。俺のプレッシャーを受けて、アイツが俺に蹴りを打ってこれるとは思わないけどな。

——では、ミルコ戦の戦術としては、前に出続ける、と。

シルビア　そうだ。さっきも言っただろう？　俺は『PRIDE』のファンだって。ミルコが距離を取らなきゃ闘えないファイターだってことは、PRIDEファンならみんな知ってることじゃないか？　ヒョードルやマーク・ハントがやったように、俺もミルコに圧力をかけて潰してやる。

——では、ヒョードル戦のゲームプランもすでに頭の中にありますか？

シルビア　それもミルコ戦と同じだろうな。なぜなら、ヒョードルも俺には小さすぎるからだ（ニヤリ）。

——ヒョードルさえも小さい！

シルビア　そうだな。あのサイズじゃ、俺にはあのロシアンフックは当たらないな。こっちはジャブだけで充分だ。上からのパンチを顔面に入れていく。組みついてきたら、弾き飛ばしてやればいい。簡単にネジ伏せてやるさ。

——はぁ〜、凄い自信ですね。

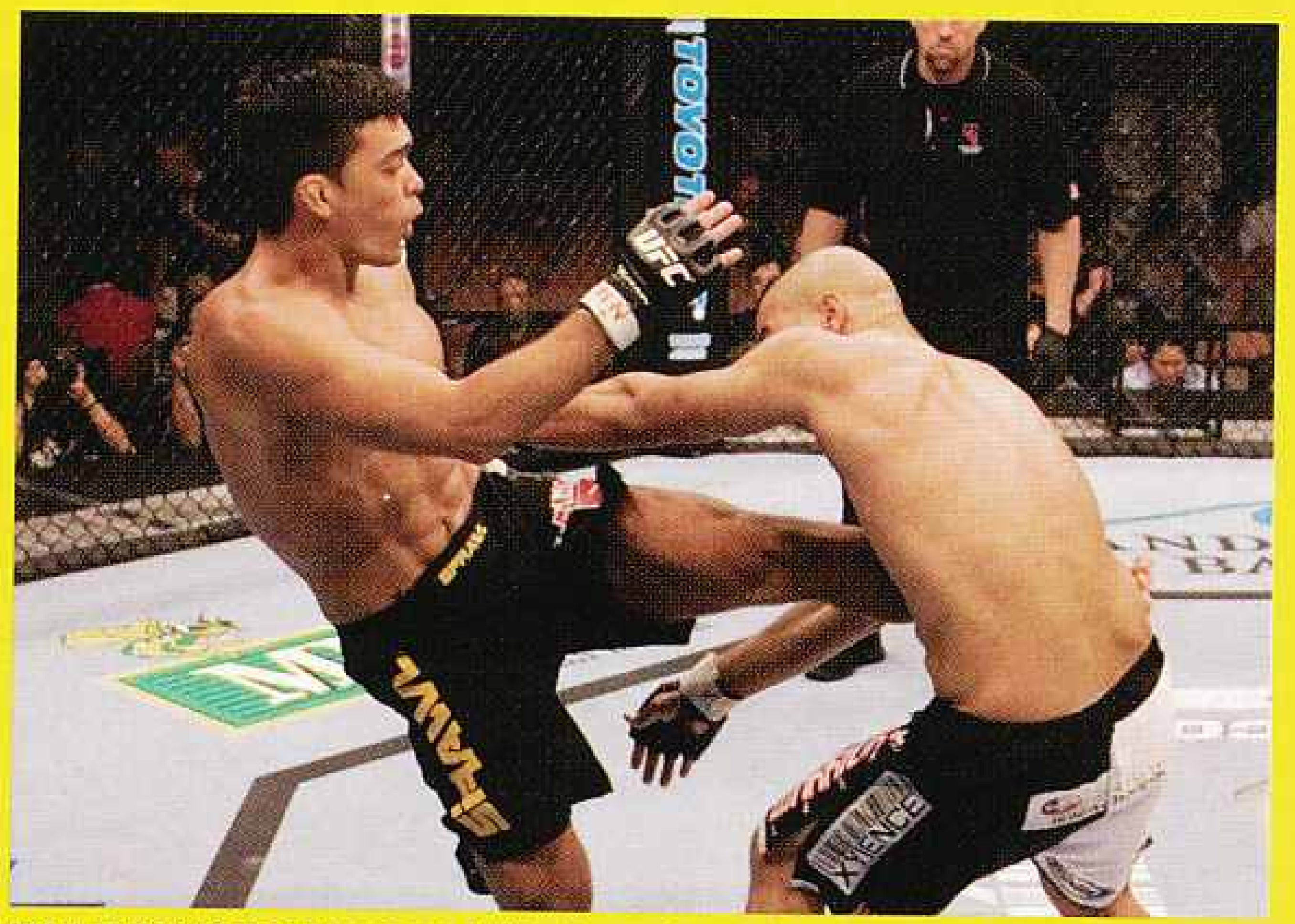
シルビア　まぁ、俺はおそらく、あと5年ぐらいで引退するだろうから、それまでにはヒョードルとの世界王者統一戦を制して、このMMAの歴史に名を残したいね。ファンだって観たいはずだろ？

——それは、ぜひ観たいですね。では、その日を楽しみにしています！

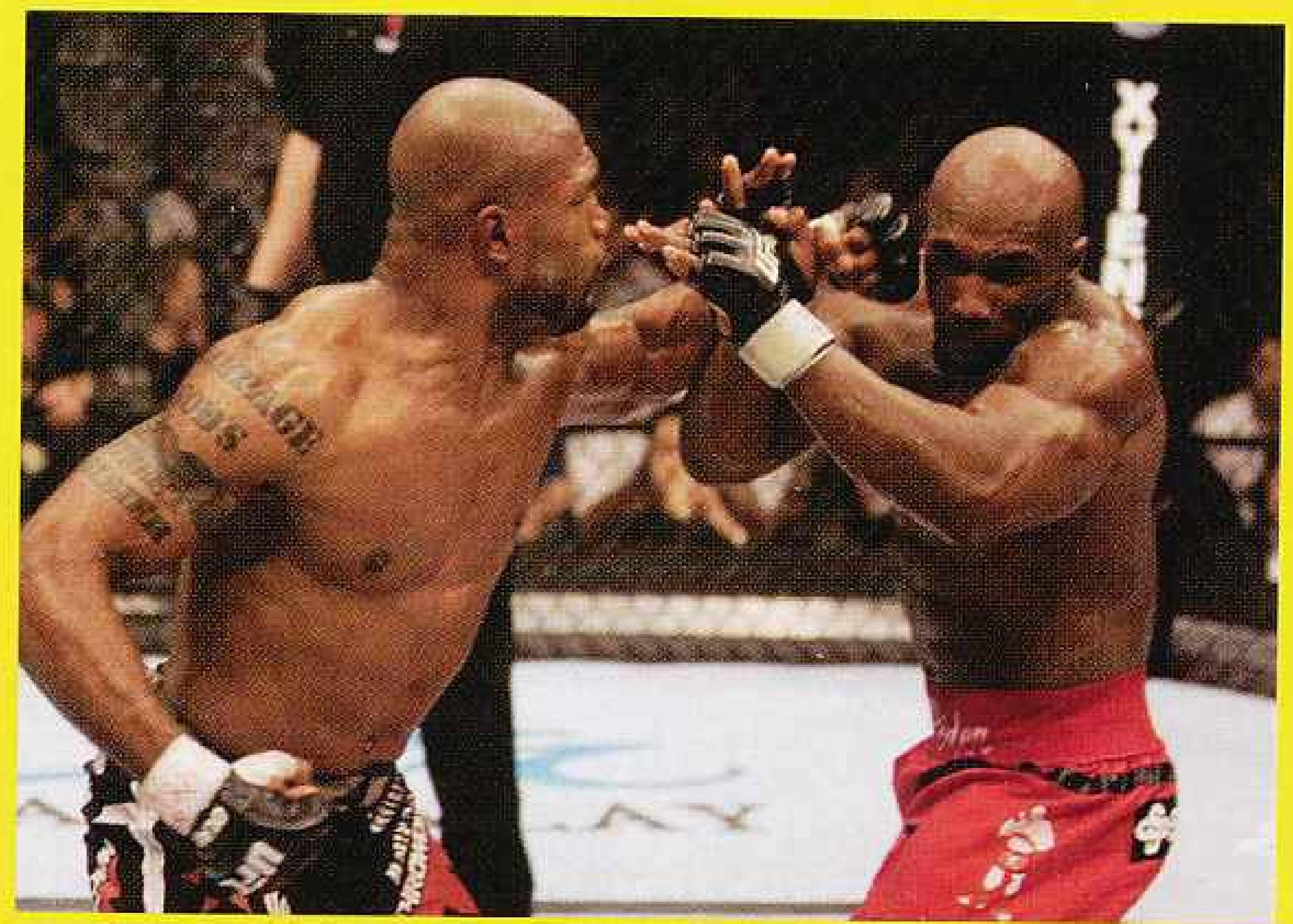
【07年2月2日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・カジノ＆リゾートにて収録】

2.3 UFC67 TOPICS

ミルコだけじゃない! ランペイジ、LYOTOもUFC快勝デビュー!!



“猪木最後の愛弟子”LYOTOがジャクソンと同じくWFAから闘いの舞台をUFCに。05年『HERO'S』でのBJペン戦以来、日本のリングからは遠ざかっているLYOTOだが、アンデウソン・シウバらが所属するブラックハウス入りした成果もあってか、ぽっちゃりした体型が俄然シャープに。ヘビー級王者シルビアをセコンドにつけたホーガー相手にスピンキックなど華麗な足技を披露し、3-0の判定で勝利! その闘いぶりはダナもベタぼめ。次はPPV本戦に出場なるか?



所属していたWFAがUFCに買収されたことにより、図らずも“米メジャーデビュー”を果たすこととなったランペイジ。かつて『PRIDE』でチャック・リデルをKOした実績から、じつはミルコ以上にその参戦が大きく宣伝されていた。いつものようにチェーンを首にかけて咆哮しながら入場すると、観客は大興奮。その歓声に応えるがごとく、ランペイジはマービン・イーストマンにショートアッパーを連打で叩き込んで、見事なKO勝ちを収めた。ミルコより先にリデルを倒すことになるかも!?



ホテルの玄関を入ると、ロビーにはUFCのブースが。設置されたテレビでは繰り返し大会プロモーション映像が流され、ショーケースにはチャンピオンベルトやトランクスが飾られていた。



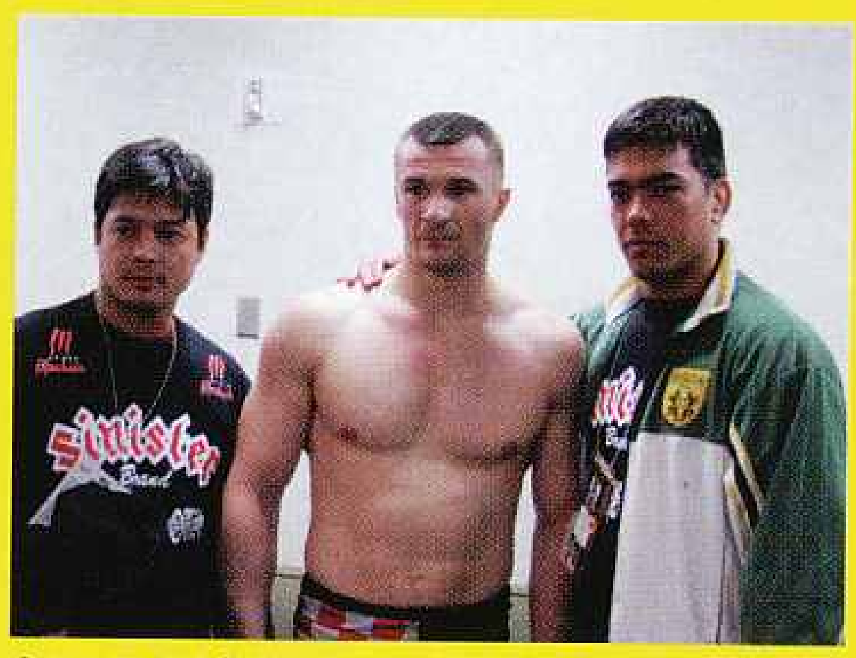
マンダレイベイ・リゾート&カジノの正面玄関には、なんとUFCのプロモーション絨毯が！ いくら会場になっているとはいえ、ホテルの“顔”を独占するとは……さすがUFCだ。



金色に輝くこの豪華なホテルが、『UFC67』が行なわれたホテル、マンダレイベイ・リゾート&カジノ。この建物の裏側に１万人以上収容の多目的ホールがあるのだ。



大会前日に行なわれた公開計量で、メインのウェルター級タイトル戦に出場するトラビス・ルターが重量オーバー。なんとノンタイトル戦に変更になってしまった。ひどいよ！



ミルコのUFC参戦によって、バックステージではLYOTOとの珍しい顔合わせも。このほか、ミルコは『PRIDE』時代から仲のよかったランペイジと談笑をしていた。



ショーケースの中をのぞいてみると、チャンピオンベルトやトランクスに混じって、なんとランペイジのチェーンまで飾られていた！ これもランペイジへの期待感の表われか!?

ミルコ『うるぐす』登場で騒然！ UFCの日テレ地上波放送はありえるのか？

ミルコ・クロコップ地上波登場！

2月4日（日）深夜、突然ミルコの試合がテレビに映し出され、驚いた方も多かっただろう。日本テレビ系『SPORTSうるぐす』で、2・3『UFC67』でのミルコUFCデビュー戦の映像が流されたのだ。しかも、「巨人V奪回へ㊙策」や「森本、セリエA初得点超緊急取材」を抑えてのトップニュースという異例の扱い。

これまで『うるぐす』では、ノアの武道館大会などが放映されたことはあったが、海の向こうのUFCの試合がニュースとして流されるのはこれが初めて。しかも、ノアと違いUFCは日テレが定期放映しているソフトですらないのだ。となると、この突然の「ミルコ『うるぐす』登場」の先には、当然、「日本テレビでのUFCの地上波放映スタート」ということが容易に想像される。はたして、それは実現するのだろうか？

そもそも日テレとUFCの関係は古い。97年、桜庭和志ブレイクのきっかけとなった第一回『UFC−JAPAN』を日テレは深夜ながら放送している。しかも現在、日本のUFC中継は04年よりWOWOWで放送されているが、一カ月遅れで、日テレのCS放送G＋（ジータス）でも流されているのだ。

先の『UFC67』で、ダナ・ホワイトも近い将来の日本進出をあらためて宣言。そして、その際にパートナーシップを組むテレビ局も見通しが立ったと発言している。「見通しが立った」という表現をしている以上、そのテレビ局は現在放送中のWOWOWではない。これこそが日テレを指しているのではないだろうか？

とりあえず、今後の動向に大注目だ。





教えてTK!!
観客、演出、
バックステージから、
ルール管理まで





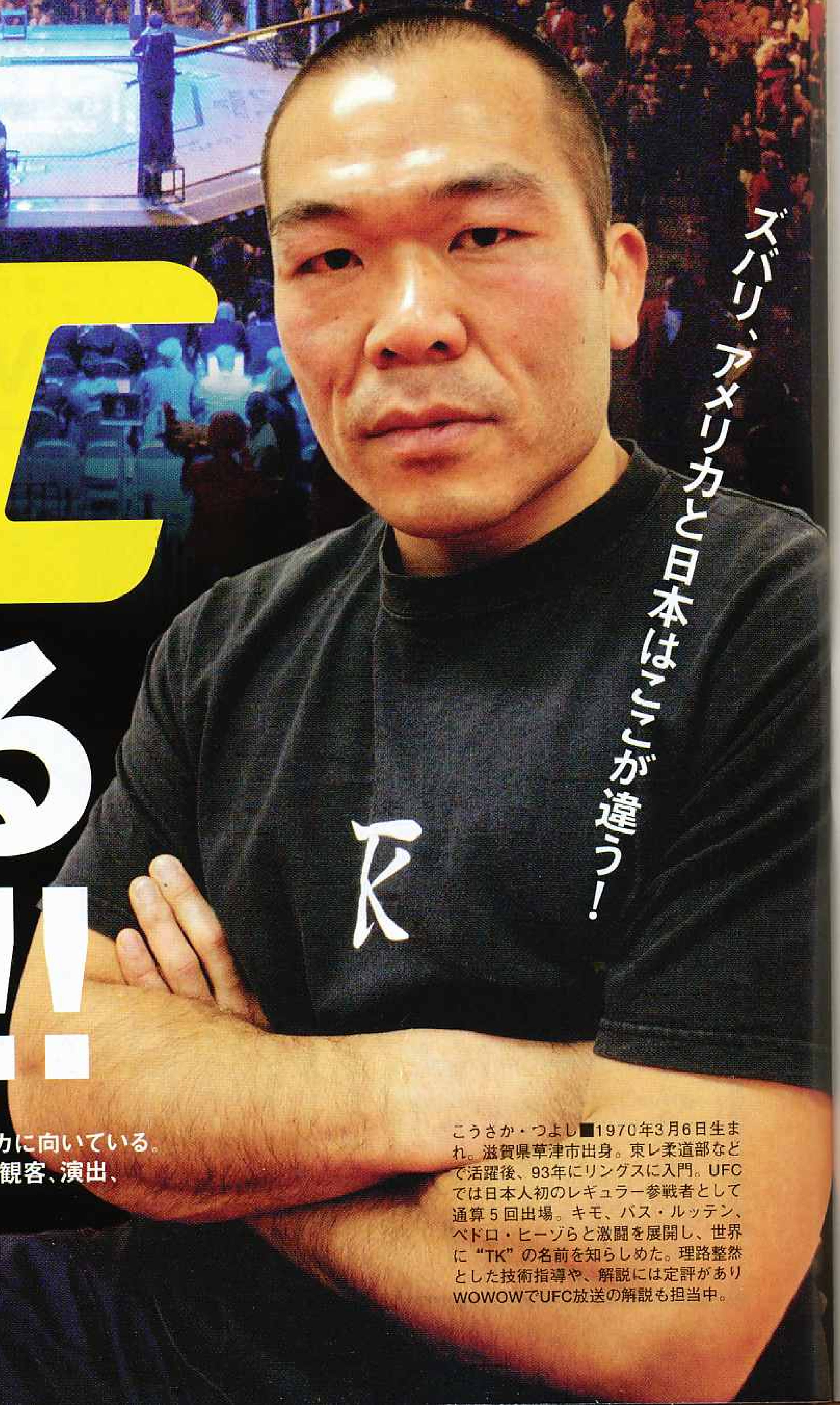






“元祖・日本人UFCファイター”

髙阪剛の UFC まるまる大辞典!!



ズバリ、アメリカと日本はここが違う！

いまや「めざせUFCで一攫千金！」とばかりに世界の格闘家の目はアメリカに向いている。そこで、元祖UFC日本人ファイターの“世界のTK”こと髙阪剛が、UFCの観客、演出、バックステージから、ルール管理までを一網打尽に徹底解説！

文／橋本宗洋　構成／真下義之　試合写真／乾晋也

こうさか・つよし■1970年3月6日生まれ。滋賀県草津市出身。東レ柔道部などで活躍後、93年にリングスに入門。UFCでは日本人初のレギュラー参戦者として通算５回出場。キモ、バス・ルッテン、ペドロ・ヒーゾらと激闘を展開し、世界に“TK”の名前を知らしめた。理路整然とした技術指導や、解説には定評がありWOWOWでUFC放送の解説も担当中。



1 アメリカの観客はここが違う!!

アメリカは大阪のファンの気質に近い。僕は、やりやすいですね



まず、お客さんの質は、日本とアメリカではあきらかに違いますよね。日本のファンは細かい攻防でもじっくり、マジメに観る。逆にアメリカでは、アグレッシブに攻めれば沸くし、**ものの10秒も膠着したら**ブーイングが起きますからね。

煽りVで「この選手は寝技が武器。とくに下からの三角絞めが得意」と紹介されても、**そんなの全然関係なし**ですから（笑）。寝技でもズバッと入れば沸くんですけど。要は事前の知識とか情報じゃなしに、目の前で起こっていることだけを見て、それに対して反応してるんですよ。そこは煽りVで感情移入して、っていう日本の観客とは違いますね。

日本のファンは、たとえばパウロ・フィリオの強さがどういうものかを知っているじゃないですか？ だからテイクダウンして抑え込んだら圧倒的に有利なんだっていうのを理解できる。でも、アメリカでは**〝抑え込んだだけで沸く〟ってことはない**ですからね。そういう意味では、**大阪のファンはアメリカに近いかもしれない（笑）**。そのほうがやりやすいんで、僕は好きですね。

それにアメリカのファンはとにかくノリがいいから、選手も乗れるんです。大歓声を受けて、相手にはブーイング。そういう状況で攻め込むのって**「こんなに気持ちがいいもんなのか」**って思いましたよ。

だから攻撃力を鍛えるんなら、アメリカで試合するのはいい修行になりますよ。攻めないとファンの声に背中を押されますから。

ブーイングも、そんなに気にならないです。むしろ**よけいに燃えられる**。それで意気消沈するってことはないですね。だいたい、ブーイングをする人だって本気で怒ってるわけじゃないから。みんな酒飲んで、ブーイングも含めて楽しんでやってるんですよ。「お金を払ってるんだから、そのぶん楽しまなきゃ損だ」って考えなんでしょうね。歓声にしろブーイングにしろ、その場で起きていることをまるごと楽しもうっていう姿勢の表われなんですよ。

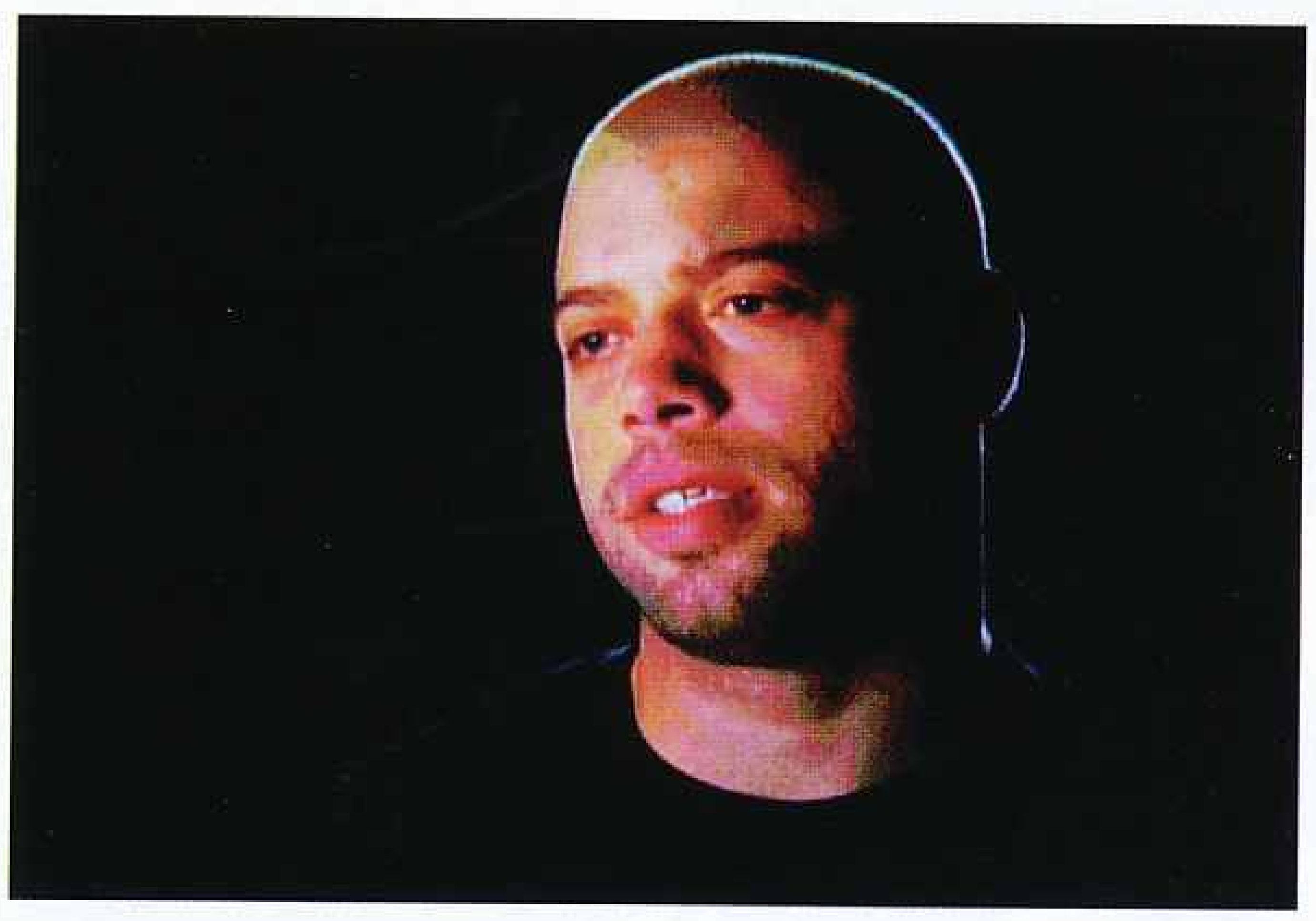
TKのワンポイントアドバイス

声援に背中を押されて気持ちよく攻めるのはいいけど、それで自分のキャパを超えちゃう危険性もあるんですよね。つい攻めすぎて墓穴を掘ってしまう。リコ（・ロドリゲス）とやって負けたときなんかは、まさにそうでした（苦笑）。でも、観客と一体になって試合をするっていうのは、プロとしていいことだと思いますよ。



2 演出、煽りVはここが違う!!

UFCの煽りVディレクターにはホントにムカつきました



『PRIDE』は煽りVで盛り上げて、派手なステージや花道があってっていう舞台ですけど、**いまのUFCの演出はあっさりしてます**ね。でも、選手の気持ちとしてはそう変わりないですよ。試合って相手があるものだから、選手の意識は相手に向かってるんですね。長い花道がどうしても必要なのは……まあ郷野（聡寛）くらいでしょう（笑）。

UFCは煽りVにも難しさはいらないんですよ。**「ぶっ倒してやる！」とか、そんな感じで充分！** 手のこんだ煽りVは日本ならではですけど、アメリカでは「長い」って言われるかもしれない（笑）。

煽りVっていえば、一度エラい目に遭いましたよ。インタビューや練習風景の撮影は現地入りしてからやるんですけど、宇野（薫）くんのセコンドで行ったとき、何度やってもディレクターが**「そうじゃない」、「もっと気持ちをこめて！」って、**なかなかOKが出ない。ディレクターが気にいった画やセリフが撮れるまで、何度でもやり直すんですよ。たぶん選手のことをソフト、素材として見てるんでしょうね。

ホントは「殺してやる！」みたいなことを言ってほしいんでしょうけど、宇野くんはそういうイメージじゃないから。それをディレクターに説明しても、「映像を作るのは私の仕事だ」って全然聞かないんですよね。逆に「なんでそんなにノリが悪いんだ」って、**しまいにはラジカセ持ってきてヘビメタ流し始めましたからね、メタリカを（笑）**。

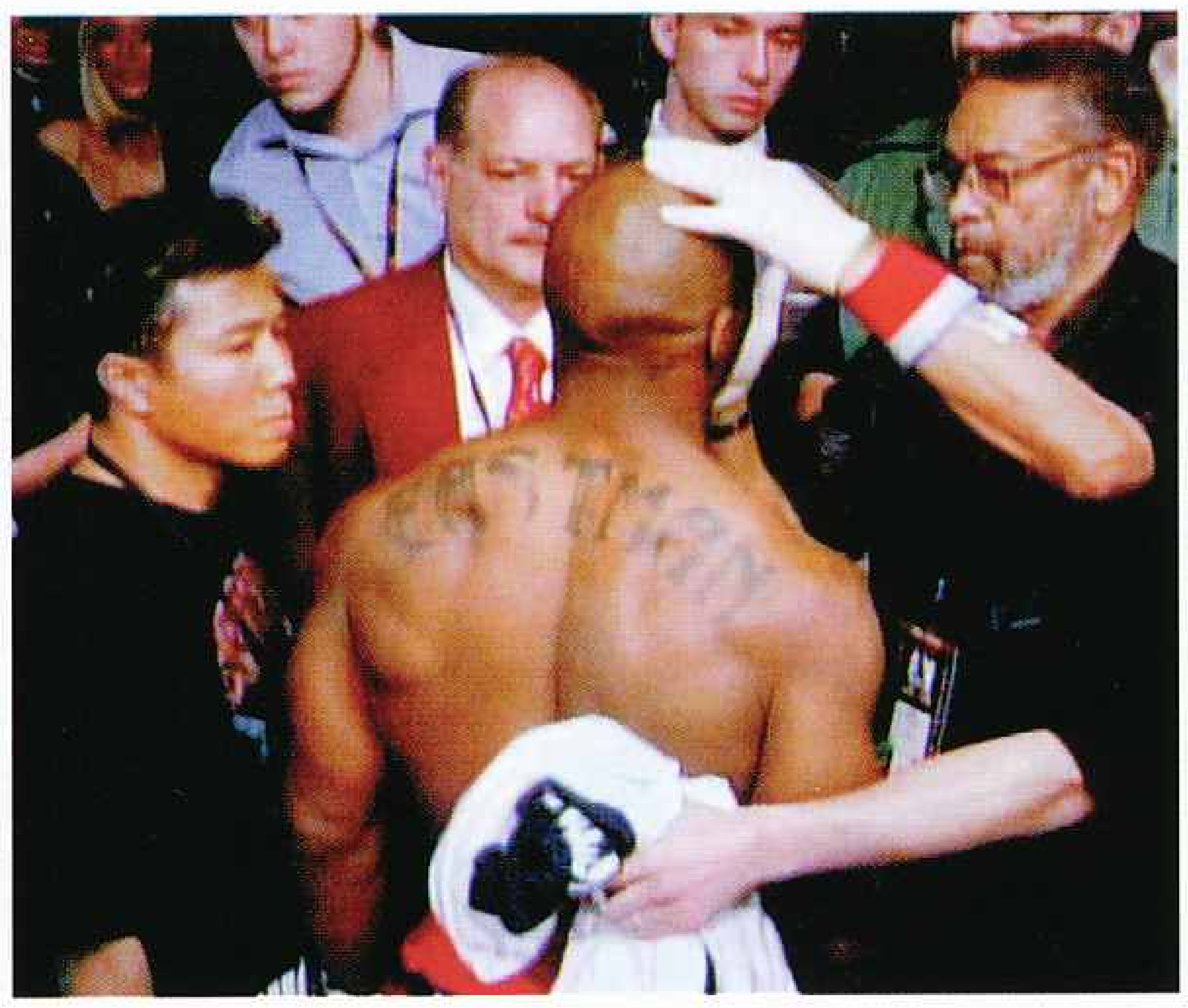
最後はもう、こっちがあきらめて表情を作ったりしてなんとか終わりましたけど、**結局3時間もかかっちゃって**。おかげで練習時間がなくなりました（笑）。あのときはホントにムカつきましたけど、いま思えば、

要は役割分担ってことなんですよね。映像に関しては映像のプロが100パーセント受け持つ。選手は試合のことだけを考えればいいっていう。選手のイメージとかキャラクターは、映像の人間にまかせておけばいいって考えなんですよ。

TKのワンポイントアドバイス

煽りVのディレクターは選手本来の個性をくみ取ってくれないですけど、結果、それがアメリカ人に向いているってこともあるんですよ。それに試合で勝っていけば、その選手のことがだんだん理解されますから。何回も出ているうちに個性を活かしてくれるようになるんで、そんなに気にしなくていいと思いますよ。







3 大会の仕切り、契約はここが違う!!

アメリカ人は融通が利かない!　でもプロ意識は高いですよ

日本のPPVはあくまで会場が主体で、それを放送するというスタンス。でもアメリカでは、**"PPVのために大会がある"**っていう考えなのかもしれないですね。

僕自身は経験がないんですけど、試合直前、選手が入場口でスタンバイしてるような状況でへんな間が空くことがあるんですよ。たぶんCMとかの時間調整なんでしょうね。**「この間は何？」**って、とまどうときがありますよ。

PPVは生中継だから、スケジュールも秒刻み。**「○時○分○秒になったら、ここに立っていてくれ」**という指示がくるんです。ウォーミングアップの途中だろうが、グローブを着けてなかろうがおかまいなしですよ。その係の人間は、とにかく選手を指定の場所に連れてきて、時間になったら送り出すっていう、そのことだけしか考えてないですから。これにはさすがに**毎回、ムカついてましたけどね。**

セキュリティの指示も細かいですよ。「この場所はセコンドパスでは入れない」となったら、いくら選手が「この人は仲間だから大丈夫。入れてくれ」って言っても絶対に通してもらえないんです。**融通が利かないんですよ。**

アメリカに住んでると、そういうことは多かったですね。車の修理でも、たいした修理じゃないのに「その部分の修理はウチじゃやってないから。よそに行ってくれ」とか。日本だったら、「いつもはやってないんだけど、まあこれくらいならいいよ」みたいなことが、アメリカでは一切ダメですからね。

試合の契約に関しても、UFCは細かかったですね。二回目以降は薄いものになったんですけど、最初に出たときにもらった契約書なんて、メチャクチャぶ厚かった！　**3～4センチくらい**はありましたね。僕はファイトマネーとか基本的な部分しか読まなかったんですけど、モーリス（・スミス）に聞いてみたら、要するに保障に関することが書いてあるんですよ。

「会場が火事になった場合」とか**「地震があった場合」、「テロが起こった場合」**とか、それぞれ別項目で事細かに決めてあるんです。「火事でアリーナの○パーセントが焼けてしまった場合、大会開催が不可能なのでファイトマネーは支払われない」とか。**「そんなこと、めったにあるもんじゃないだろ」**っていうことでも、あらゆる状況を想定して事前に決めておくんですね。

なんでも事前に決めておく、役割分担がはっきりしている、それで融通が利かないってのはアメリカ人の特徴ですね。最初はいちいち腹が立ってたんですけど、**慣れてしまうとラク**ですよ。まかせちゃえばいいわけですから。

「そろそろ控室から出て入場に備えなきゃ」とか、こっちが考える必要がないんです。それは誘導係にまかせておけばいい。時間が決まっているんで「じゃあこの時間までにアップしておけばいいな」って、それだけで済みますからね。あとは係が勝手に指定の場所まで連れてってくれますから。

こっちは**呼ばれたところに行って、言われたことをやってればいい。**そうすると試合だけに集中できるんですね。アメリカ式の細かい役割分担は、そういう面で凄くいいんじゃないですか。アメリカ人っていうのは**ルールを決めて、その枠の中からは出ない**んです。でも、そのルールに幅があって、その幅の中でいろいろ工夫したり、楽しんだりするのが得意な人たちなんですね。

日本人はその逆じゃないですか。ルールの幅は狭いんだけど、その隙間とか、グレーゾーンみたいなところを見つけだしていく。いい悪いじゃなくて、その違いがあるだけでしょう。……ってことに、僕もアメリカから帰ってきて気づいたんですけどね（笑）。

TKのワンポイントアドバイス

アメリカ人の融通の利かなさには、最初はホントに頭にきますよ（笑）。でも、アメリカ式だと割り切って、慣れてしまうことが大事でしょうね。細かい役割分担っていうのは、選手が試合だけに集中するためでもあるわけですから。イライラしてもこっちが損。まかせるところはまかせて、選手は試合に集中しましょう。



© DAVE CONTRERAS







4 試合のルール、やりやすいのはどっち？

“ヒジあり”は攻撃バリエーションが広がるだけじゃないんです！

以前のUFCではルールが流動的だったんですが、アスレチック・コミッション認可になって一定になりましたね。『PRIDE』との**最大の違いは“ヒジが有効”で、“4ポイントのヒザ、踏みつけが禁止”**ということ。

ヒジがあると、あらゆるポジションでKOできるようになる。たとえばサイドポジションだと、ヒジなしでは鉄槌くらいしかできないですよね。でもヒジがあればKOまでもっていけますから。全体にKO率が上がると思いますね。

ヒジの威力って、本当に凄いですよ。リコと試合をやったときに一発いいのをもらったんですけど、試合のあとに水を飲もうとしたら、ダラダラたれてくる。「なんだこれ？」と思ったら、**下唇を歯が貫通して、穴が空いちゃってた**んです（笑）。

ヒジがあると、「攻撃がそればっかりに偏るんじゃないか」って意見があるかもしれないですけど、実際にUFCを見てても、**そこまでヒジばっかりじゃない**ですよね。寝技の打撃って、僕は“ペナルティ”だと思ってるんです。ポジションが取れてない、ガードがしっかりできていないことのペナルティとして、殴られてしまう。

たとえばヒジを入れられやすいサイドポジションの場合、下の選手が何をやらなくちゃいけないか？っていうと、ガードをしながらワキを取られないようにするってことなんですよ。それって、**要は寝技の基本**なんですよね。寝技の基本をしっかりやっておかないと、そのペナルティとしてヒジを入れられてしまう。だから**ヒジがあるってのは攻撃の幅が増えるだけじゃない**んですよね。ディフェンスを見ていると、寝技の技術があるかどうかっていうのも際立つんです。

UFCでは金網に押しつけてヒジを入れる場面が多いんですけど、実際問題、**本当に効くヒジっていうのは一発か二発くらい**なんですよ。ディフェンスする側がしっかりした技術を持っていれば、入れられないで済むんです。ただ、その一発、二発で試合を決められるだけの威力がヒジにはある。その技術とか駆け引きがおもしろいんですよ。



ラスベガスの試合では、『PRIDE』でも4ポイントのヒザ、踏みつけが禁止になってますよね。その影響をもっとも受けそうなのが、（ヴァンダレイ・）シウバとか（マウリシオ・）ショーグンでしょう。でも、ショーグンなんかの試合を見てると、じつは**“その前”の段階がちゃんとあるんですね**。

相手が「なぜ踏みつけられるのに、あおむけになってしまうか」というと、カメになってグラウンドで攻められるのが嫌だから。つまり**ショーグンには相手を踏みつけやすい状態にもっていく寝技の実力がある**んですよ。そこまでの技術を持っている選手なら、踏みつけがなくてもそう苦労はしないと思いますね。

“踏みつけしか武器がない”選手だと厳しいんでしょうけど、いまのPRIDEファイターは、みんなそれ以外の技術も研究してるし、練習してますよね。だから、最初はラスベガスルールがやりにくいと感じるかもしれないけど、順応できていくと思います。それだけ、『PRIDE』の選手ってレベルが高いんですよ。

それと**UFCルールでは、セコンドのタオル投入がない**んです。試合についての権限があるのはレフェリー、ドクター、ジャッジだけ。それとUFCにはカットマン、出血を止める係がいますね。で、カットマンは試合前にセコンドを集めて説明会をやるんです。「この止血剤を使って、何秒傷口に押し当てる」って。あとから文句を言われないためなんでしょうけど、それで**実際に血が止まる**んですね。

その**レベルは日本より高い**です。それ専門にずっとやってる人ですから、「専門家が処置しても血が止まらなくてストップされたんならしょうがない」って、こっちも納得できるんですよね。

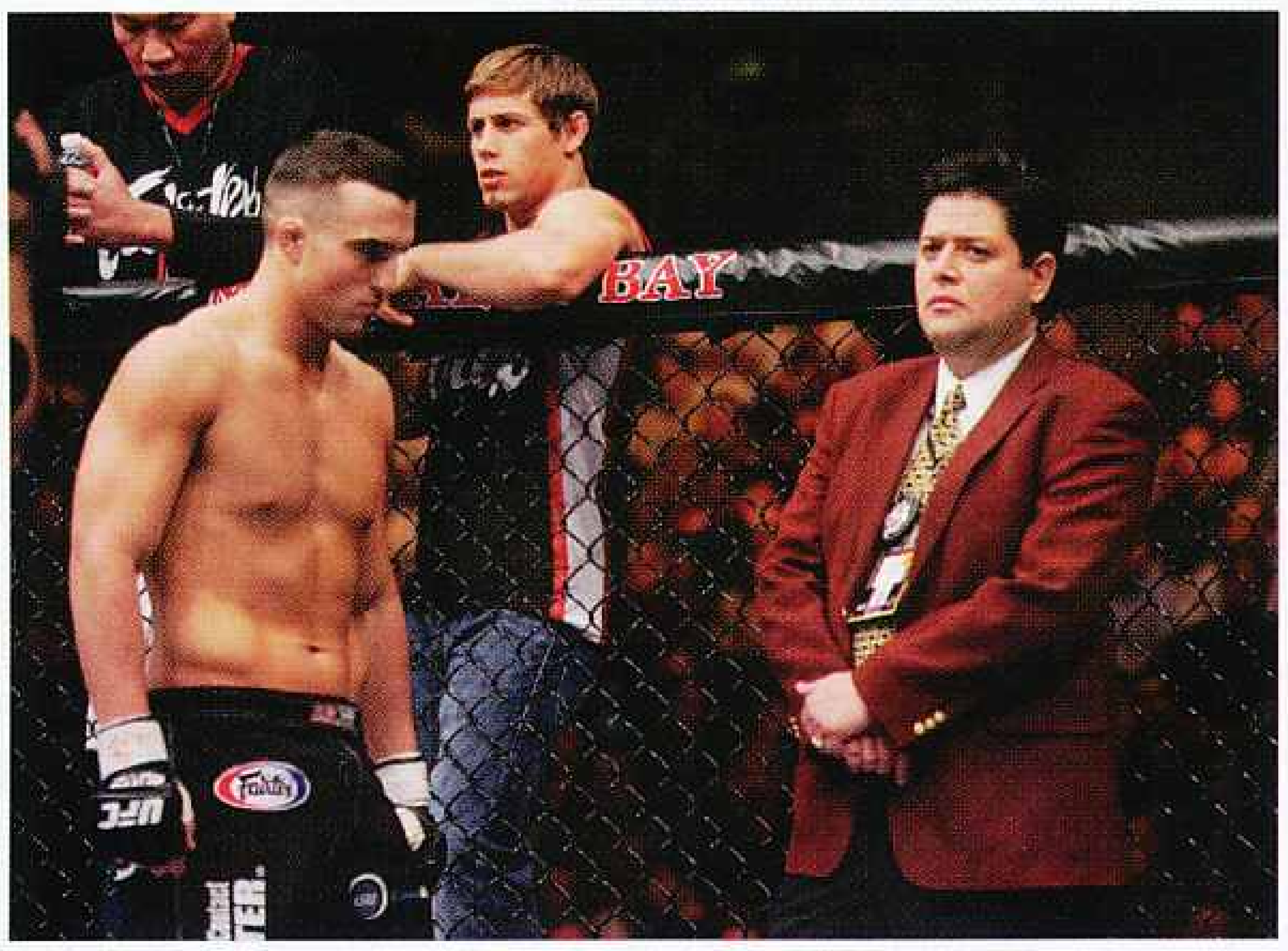
TKのワンポイントアドバイス

ヒジのあるなし、踏みつけのあるなしは試合に大きく影響しますが、対処できないことじゃない。大事なのは、基本的な技術をしっかり持つこと、研究と練習を充分にしておくこと。それさえできれば対応できますね。ラスベガスでのルールの違いも、ＰＲＩＤＥファイターなら乗り越えて、いい試合を見せてくれるでしょう。



5 ルール管理はホントに厳しい？

アスレチック・コミッション？ そんなに気にならないですよ



アメリカでは〝アスレチック・コミッション〟が試合を管理してるんですけど、選手としては、**じつはあまり意識しない**ですね。グローブチェックやバンデージチェックにしても、決められたことを守るのは誰が管理してても一緒ですから。ただ、コミッションの認可で「試合をさせてもらってる」という雰囲気は感じますね。

コミッションの認可があって初めて、大会が開催できるんだっていう。選手やセコンドも、コミッションにお金を払ってライセンスをもらうんですよ。選手75ドル、セコンド50ドルとかで。

コミッション関係者には、**「この人、総合なんて知らないだろうなっていうおじいちゃん」**もいますね。ドーピングチェックは、尿を採取するって点では『PRIDE』もUFCも一緒。ただ検査機関、どのレベルでチェックしているかに関しては、アメリカのほうが厳しいでしょうね。

あと、アメリカではコミッションの人間が**控室や通路でも不正を監視**してます。でも、いかにも「監視してます」って感じじゃなくて、選手にしてみたら「なんかいるなぁ」くらいの感じで、**まったく気にならないですよ**。ちなみに、その係の人も**おじいちゃんが多い**です（笑）。

試合前は、カフェインが入ってるからか**コーヒーを飲んじゃダメ**なんですよ。だから飲みものに関して「何を飲んでるんだ？」って聞かれることはありますね。で、「水だよ」って見せればOK。まあ試合前にコーヒー飲む選手もいませんしね（笑）。

大会スタッフとコミッションを合わせた人数を、日本のように大会主催者が全部用意するとなったら大変でしょうね。だから**日本でも、コミッションができるといい**と思います。総合格闘技って過渡期だから、これからもいろんなことがあると思うんですよ。そういう中で、安全管理やルールの統一をする機関が、将来的には必要になってくるでしょうね。

TKのワンポイントアドバイス

不正が起こらないための抑止力として、コミッションが細かい点まで監視しているのはいいことですね。それで集中力が妨げられることもないですし。まあ、そもそもこっちは不正をするつもりもないんで、「厳しすぎる」とか、気にしたことって全然ないですね。不正をしない選手なら、なんの問題もないですよ。



6 TKの結論!!

アメリカではとにかく身をゆだねろ！

日本人選手がアメリカで試合をすると、とまどうことも多いと思うんですよ。そうならないために**大事なのは「何も決めておかないこと」**でしょうね。

たとえば「集合が何時で何時開始ってことは、一時間くらい練習できるな」って思っても、待ち時間が長いかもしれない。「会場にバナナくらい用意してあるだろ」と思ったらなかったとかね。そういうことは本当によくあるんで、**自分で「こうだろう」って決めないほうがいい**。

何かを想定していて、それができないと「なんだよ！」となって、集中できなくなる。そしたら試合にも悪影響が出ますからね。だから、常に起こったことに対してリアクションするだけでいい。まかせておけば悪いようにはされませんから。周りのことは気にせず、選手は試合だけに集中しておくのが一番ですよ！

まだまだある！ なるほど・ザ・UFC雑学！

会場スポンサーって何？

UFCでは、判定のときに選手がTシャツを着たり、キャップを被ってますよね。**じつはあれもスポンサー**なんですよ。僕の場合、現地入りしたら雑誌の記者に声をかけられて、「大会期間中や試合後にこれを着てくれ」と。で、大会が終わると**その場でチェックを切ってくれる**んですよ。その頃は、だいたい100ドルとか200ドルでしたね。企業の年間契約みたいなもの以外にも、そういうスポンサーがいるんです。向こうの記者は大量にTシャツを持参していて、セコンドにも渡すんですよ。Tシャツってなんだかんだで着ますから、いい宣伝になるんじゃないですかね。

取材態勢はこうなってる！

インタビューのオファーって、日本では団体とか事務所を通してやることが多いですよね。大会が大きいとそういうのが必要なんでしょうけど、アメリカでは**ジムに直接、電話がかかってきますよ。「いま、ちょっと大丈夫？」みたいな感じで**。こっちとしても、時間さえ合えばそれで問題ないです。「やってくれるんなら」って感じで、構えたところはないですよ。もちろん、顔なじみの記者だからですけど。知り合うのは、やっぱり会場。「Tシャツ着てくれ」って言ってきた『FULL CONTACT FIGHTER』の記者なんか、どの会場にもいましたからね。

“賭け”って選手もできるの？

ラスベガスでは試合が“賭け”の対象になりますけど、**選手は「自分が賭けられてる」とか、気にしてない**ですね。自分の賭け率が不利だと、ちょっと「コノヤロ！」って思いますけど、まあそれくらいで。闘い方に影響はしませんね。セコンドでも簡単に賭けられますけど、賭博に関わる不正もないと思いますよ。それをやるくらいなら、試合に勝ったほうがよっぽどいいですからね。UFCではほとんどの試合にウイン・ボーナスがあって、**勝つとファイトマネーが上がる**んですよ。僕の場合は最大で倍増。それがあると、やる気が全然違いますよ。



携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

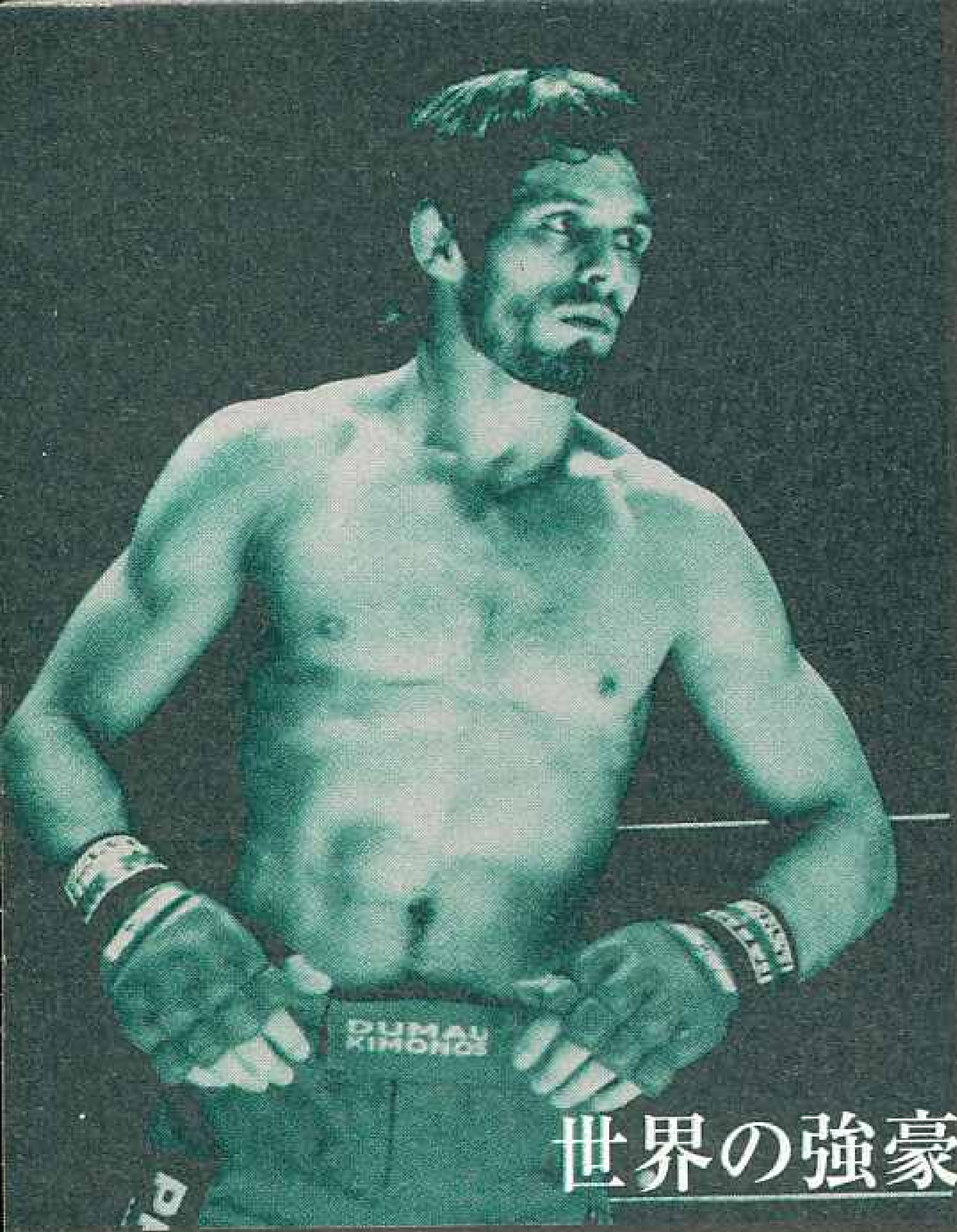
DoCoMo	iMenu ▶ メニュー／検索 ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
	※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA	トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
Softbank	メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
	エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

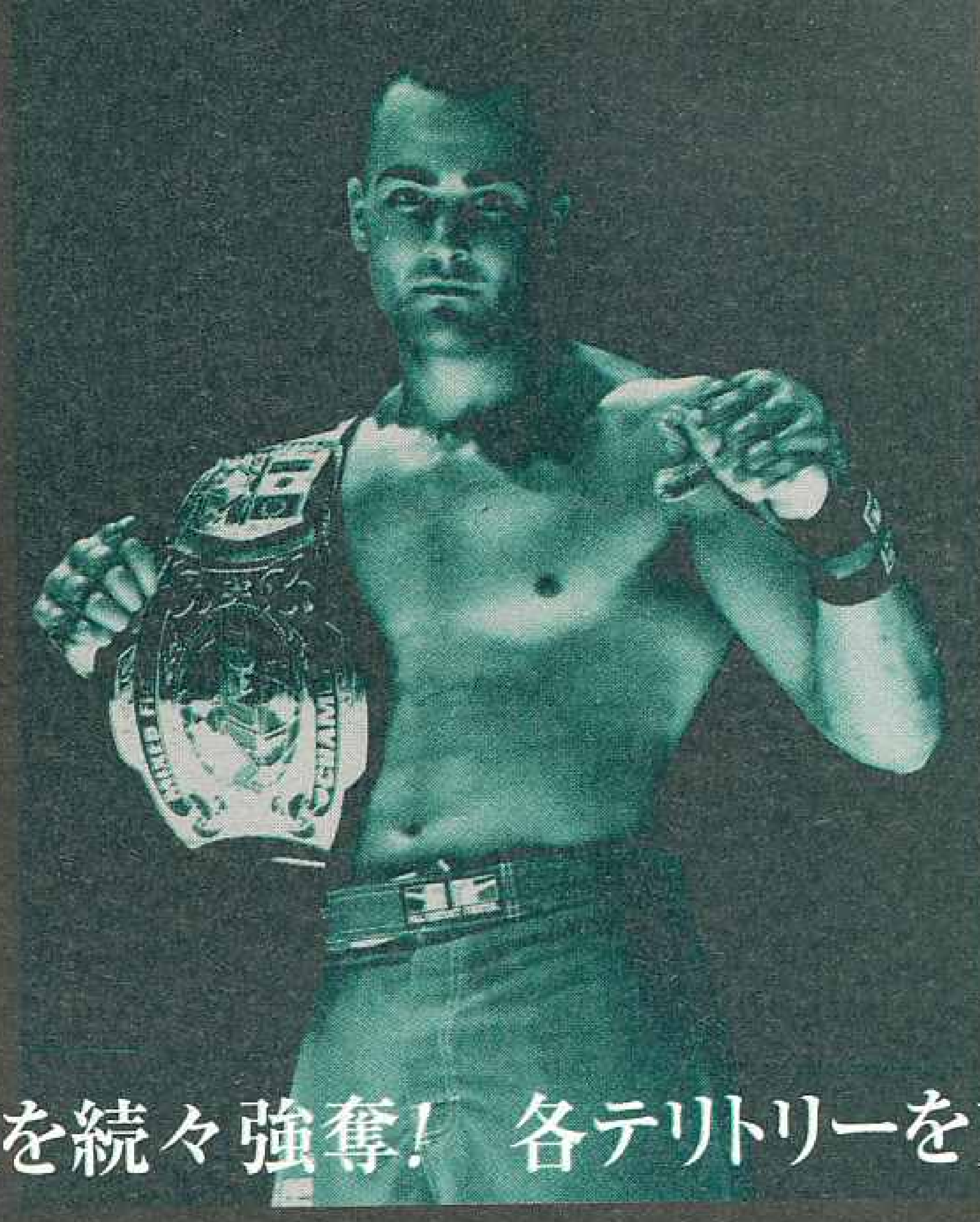
kamipro Hand

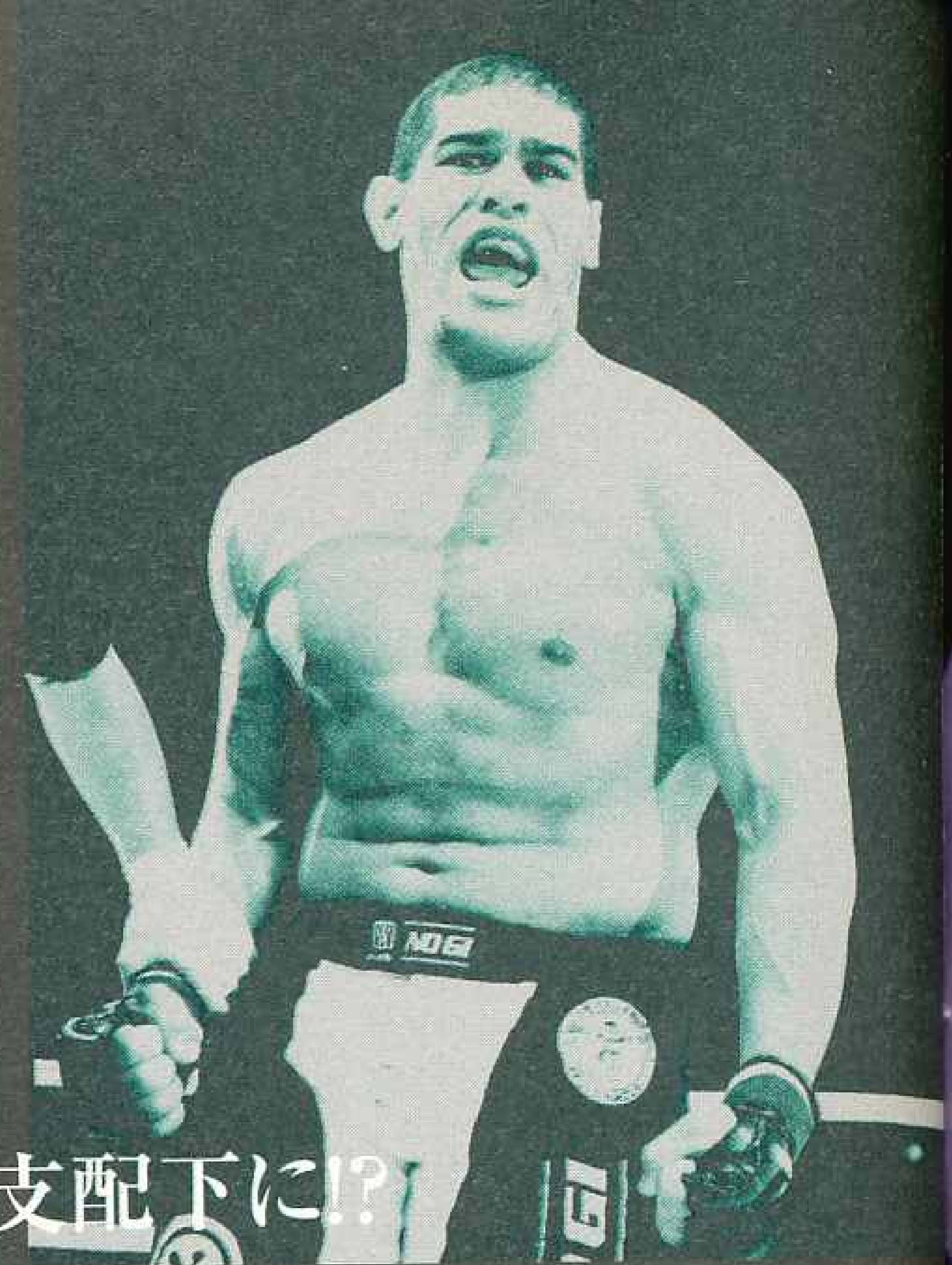
[QRコード]

リニューアル完了! 読みやすさと読み応えに自信あり! レッツ・アクセス!!

[お問い合わせ] (株) ダブルクロス 03-5368-1795





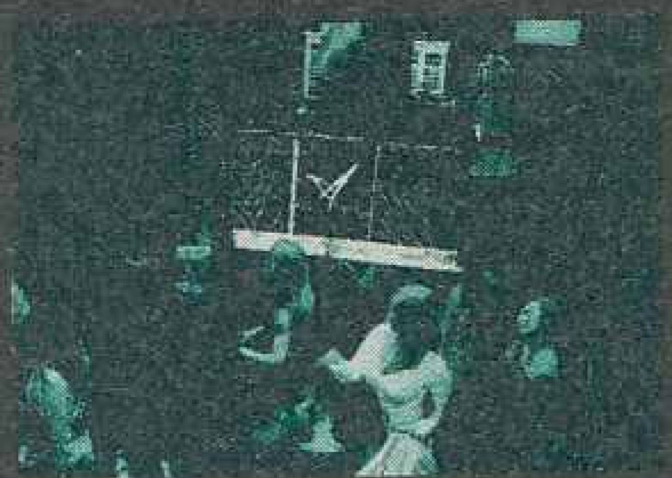




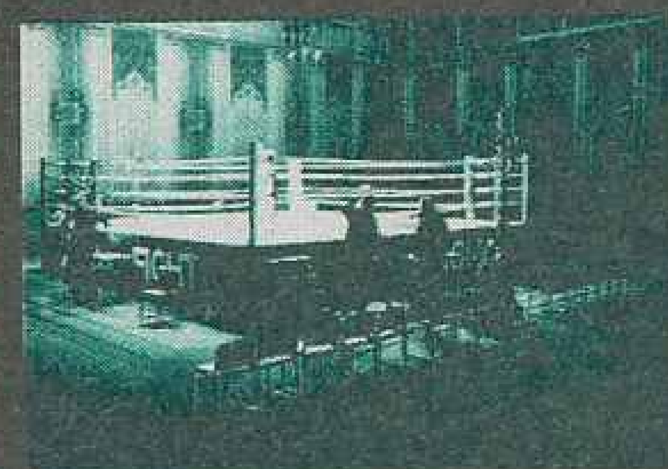
世界の強豪を続々強奪！　各テリトリーを支配下に!?

闇帝王（カルビン・エアー）の野望と罠







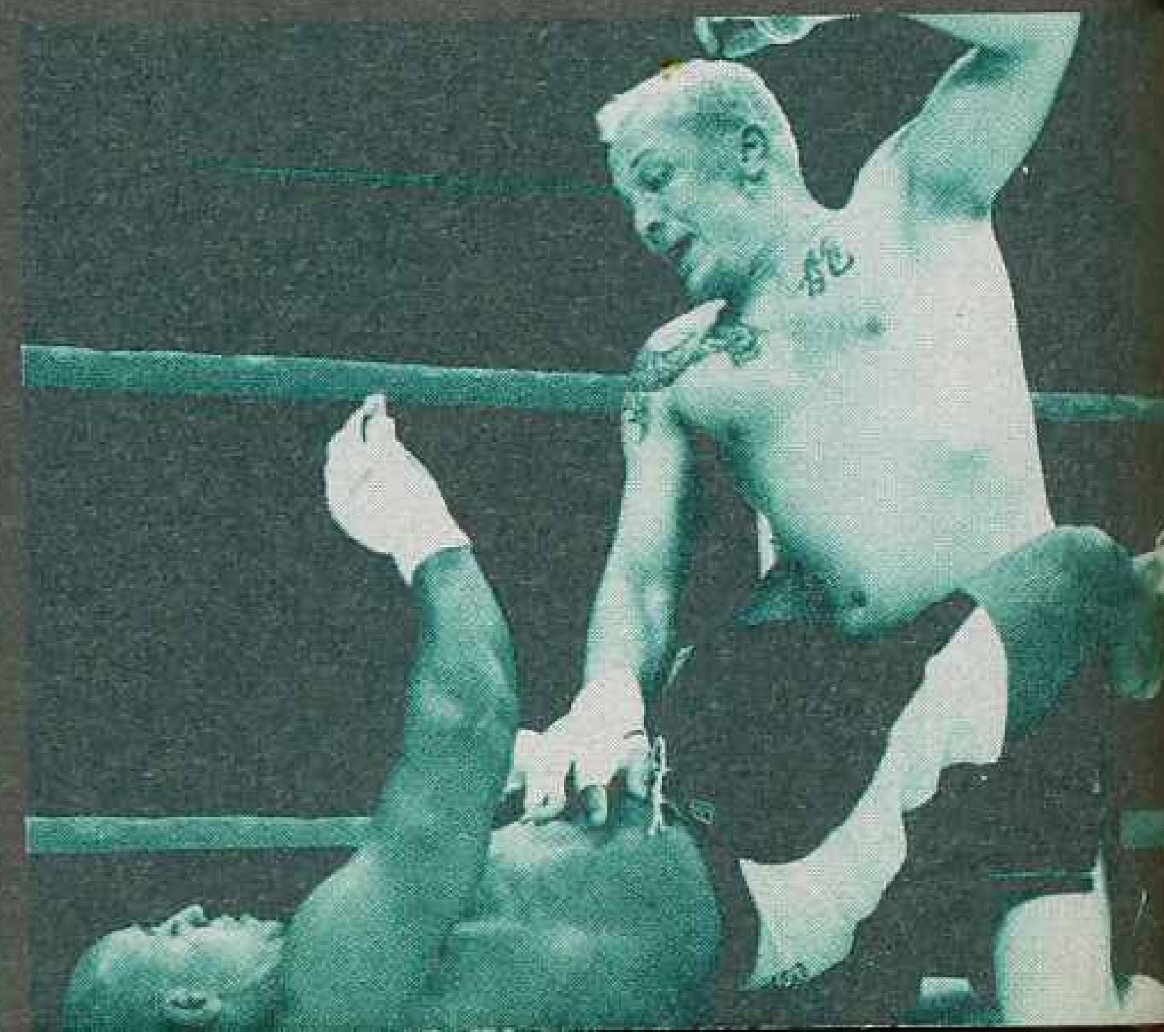


―止まらないボードッグの世界侵略を追え―

文／高崎計三　構成／松下ミワ　写真協力／bodog.com









ＭＭＡ界完全掌握を狙う ボードッグの、壮大かつ綿密なプロモーションとは

日本ではパンクラスとの提携で話題となっているが、あいかわらず、ボードッグの仕掛けはとどまるところを知らない。昨年12月にはバンクーバーで初のＰＰＶ大会を開催したが、年が明けてからも次々とプレスリリースを流し続けているのだ。

ボードッグが自前の大会を開催するかたわら、『ストライク・フォース』などほかの大会にスポンサードしていることはすでに知られているが、1月6日にはランディ・クートゥアーとマット・リンドランドの試合が中心となってオレゴン州ポートランドで開催した『スポートファイト』という大会を支援。リンドランドといえばヒョードルの同団体初参戦の相手とされており、ボードッグとの関係には納得がいく。

大会だけではない。こちらもアメリカで精力的に活動する『タップアウト・マガジン』のメンバーによる全米プロモーション・キャンペーンをボードッグがスポンサーすることも発表。これは1月6日の『スポートファイト』から4月15日の『コマース・クラブ・ポーカー』まで大小13におよぶ格闘技大会の会場周辺でデモンストレーションを行なうというもので、その中にはミルコの初参戦で話題となった2月3日のＵＦＣ67、二度目の米国開催となる2月24日の『ＰＲＩＤＥ．33』も含まれる。

このツアーはＭＭＡを題材にした映画『ネバー・サブミット』のプロモーションも兼ねており、道中では主要なジムを訪ねて人材を発掘したり、有名選手によるセミナーを開催したりするという。ネットを中心としたデジタルメディアで派手なプロモーション展開を繰り広げているイメージの強いボードッグからすれば、いささか地味な印象のある提携だが、これは同社がＭＭＡの世界によりしっかりとした根を下ろそうとしている証拠かもしれない。

ＰＲＩＤＥ王者ヒョードルは 4月、本当に出場するのか？

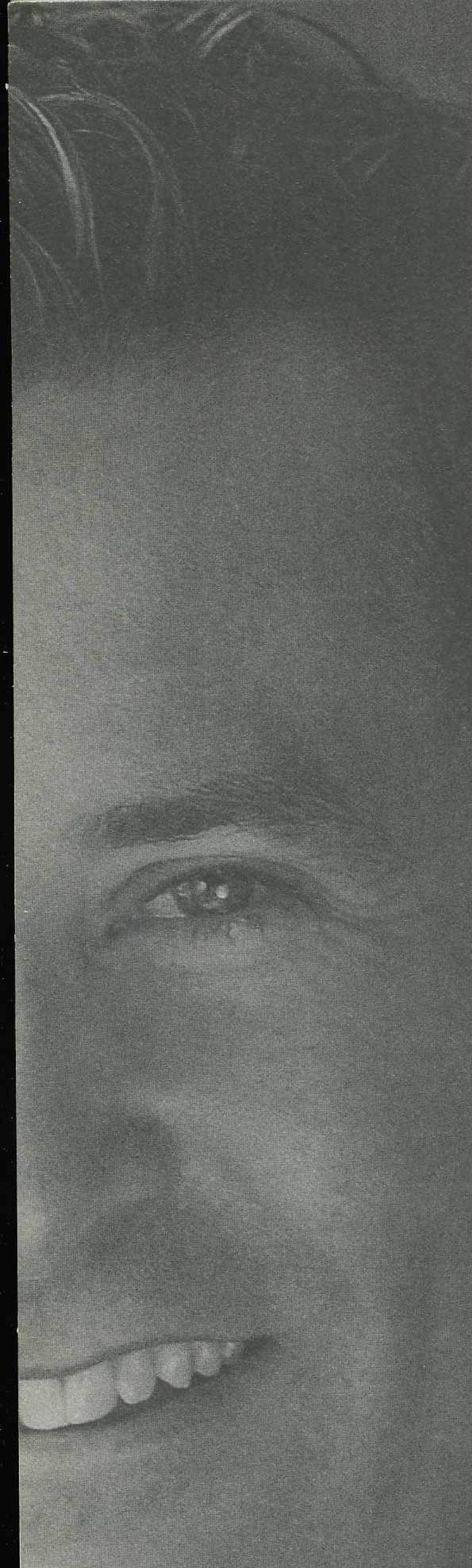
とはいえ、やはり『ボードッグ・ファイト』の本領が発揮される場はテレビ画面、およびＰＣのモニターということになる。コスタリカで収録された『ボードッグ・ファイト・シーズン1』がバンクーバーでのＰＰＶ大会でフィナーレを迎え、しばらく画面上のスケジュールは空欄となっていたが、12月にロシア・サンクトペテルブルグで収録された『シーズン2』が、いよいよ2月13日からオンエア開始された。この番組のスタートに関しては、当初1月23日とアナウンスされていたが、それが二週間延びて2月6日となり、最終的にまた一週間延びて結局、13日開始で落ち着いたわけだ。

これに伴ない、エメリヤーエンコ・ヒョードルが出場すると噂されることで一躍、注目を浴びているサンクトペテルブルグでの第二回ＰＰＶ大会も延期されている。こちらも当初は3月6日と発表されたが、まず一ヵ月後の4月6日に。これはティム・シルビアとランディ・クートゥアーのヘビー級タイトルマッチが行なわれるＵＦＣ68と日にちが近いため、バッティングを避けての措置とされるが、最新情報ではさらに一週間延びて4月13日が有力となっている。これはもちろん、『シーズン2』の番組開始が延びたあおりを受けてのもの。試合は収録済みなので、端折るわけにはいかないのだ。

『ボードッグ・ファイト』は基本的に各エピソードで放送される試合の勝者がＰＰＶ大会に出場できる仕組みとなっているためにこうなるのだが、まあそもそも、テレビ番組として考えたときに、スタート時期が平気で延びまくるというのもどうかという声も……。ちなみに前述のヒョードル vs リンドランド戦はいまだ正式にはリリースされておらず、あくまでも噂の段階。ほぼ確定的とは言われるが……。

忍び寄るボードッグの魔の手は ＰＲＩＤＥ、Ｋ−１、ＵＦＣへ

この2月にパンクラスの選手なども参加してコスタリカで行なわれた収録は、そのあとの『シーズン3』『シーズン4』に分けて放送される予定だという。現在の予定では『シーズン3』が4月、『シーズン4』が6月スタート。つまり、2月に行なった試合のオンエアが7月になる選手もいるわけだ。選手やマスコミ、関係者は守秘義務契約書にサインさせられており、結果は誰にも言えない。『ＰＲＩＤＥ』やＫ−１の大会



では通常、当日の深夜（午前3時という場合が多い）まで情報規制が敷かれるが、それどころの話じゃない。やはりボードッグと付き合っていくには、これまでとは違う感覚を身につける必要があるといえるだろう。

つい最近、その各シーズンのマッチメイクが公表された。『シーズン2』は16試合、『シーズン3』『シーズン4』は32試合。『シーズン2』はすべてロシアでの試合なのかと思いきや、じつは昨年10月、東京で行なわれた試合も含まれている。覚えているだろうか、10月4日、新宿FACEで行なわれた『MARS　ボードッグ・ファイト01』を。そこで行なわれたヤルノ・ヌールミネンvsイ・サンスと、シークレットファイトとして組まれた赤野仁美vsたま☆ちゃん、シャニア・バズラーvsロクサン・モダフェリの3試合だ。この日は収録用として二試合、シークレットファイトで一試合がほかにも行なわれているが、どうやらその3試合はダイジェスト扱いになる様子。その中には『PRIDE』に出場経験のある日本人選手も出場していたが……。

『シーズン2』で目につくのは、70キロ級の二試合だろう。ブラックマンバvsホドリゴ・ダム、イーブス・エドワーズvsマイク・ブラウンというカードだ。バンクーバー大会にも『HERO'S』で活躍するアントニオ・シウバが出場していたが、今回もK－1、『HERO'S』で名を馳せたブラックマンバが参戦。イーブスとブラウンはそれぞれ『PRIDE』、DEEPに出場経験がある。UFCファイターでもあるイーブスは番組的にも今回の目玉の一人だ。また、以前に総帥カルビン・エアーがインタビューでも語っていたレッドデビルのヘビー級戦士、ローマン・ゼンツォフも出場している。

収録が終わったばかりの『シーズン3』『シーズン4』にいたっては、まず32試合という数からして圧倒的だ。つまり64人の選手プラスセコンド陣を、世界中からわざわざコスタリカに集めるわけだから豪気な話である。すでにパンクラスから発表されているカード以外では、MFCウェルター級王者のエディ・アルバレス、『PRIDE』にも出場したペレ、それにチェール・シェノンやトレバー・プラングレーといった元UFC勢の名が目につく。ほかに日本からは坪井淳浩、たま☆ちゃんらも出場。観客を入れない大会でこれだけの選手を集められるプロモーションは、世界中でもまさしくボードッグしかないはずだ。これが壮大なる業界荒らしなのか、それとも業界のあり方そのものを変えてしまう激烈なイノベーションなのかは、結論を出すのはまだ時期尚早だろう。ボードッグの真の姿は、まだ見えていないと思ったほうがいい。

莫大な資金を武器にボードッグが仕掛ける次なる〝罠〟とは!?

ボードッグは、宣伝展開の方法もほかのプロモーションとは一線を画している。その典型的な例が、『レッドライト・ファイト』だろう。これはボードッグのロゴをあしらい荷台部分にリングを組んだトレーラーをいきなり街中に出現させ、路上でエキシビションマッチを始めてしまうという破天荒なもの。リングは荷台の大きさに合わせて細長く、選手はTシャツを着てヘッドギア、レガースを着用しているが、ラウンドガールまで用意する凝りっぷり。何よりもこんなものが突然現われたら、通行人はそりゃ驚くに決まっている。馬鹿馬鹿しいと思われるかもしれないが、その馬鹿馬鹿しいアイデアを大金を投じて現実にやってしまうところが、ボードッグ・イズムというものだろうか。

その一方で、得意のメディア戦略もさらに強化している。これまでは傘下のケーブル局のみで視聴世帯数に関しては不安もあったが、『シーズン2』からは大手のIONメディア・ネットワークにも進出。これにより、アメリカ国内で9000万以上の世帯が視聴可能になるという。また、IONではバンクーバー大会のプレイバックも放送する予定だ。

尽きることのない（？）莫大な資金を武器に、選手を集め、斬新な宣伝を展開し、なおかつメディア対策も強化を重ねているボードッグ。その行き着くところは、いったいどこなのか。

広報担当のエリック・ニコル氏は、筆者がパンクラスとの提携について問い合わせたメールへの返事を、こう結んでいる。

"The future is taking a new shape very quickly."――未来は極めて迅速に、新たなかたちをとりつつある。

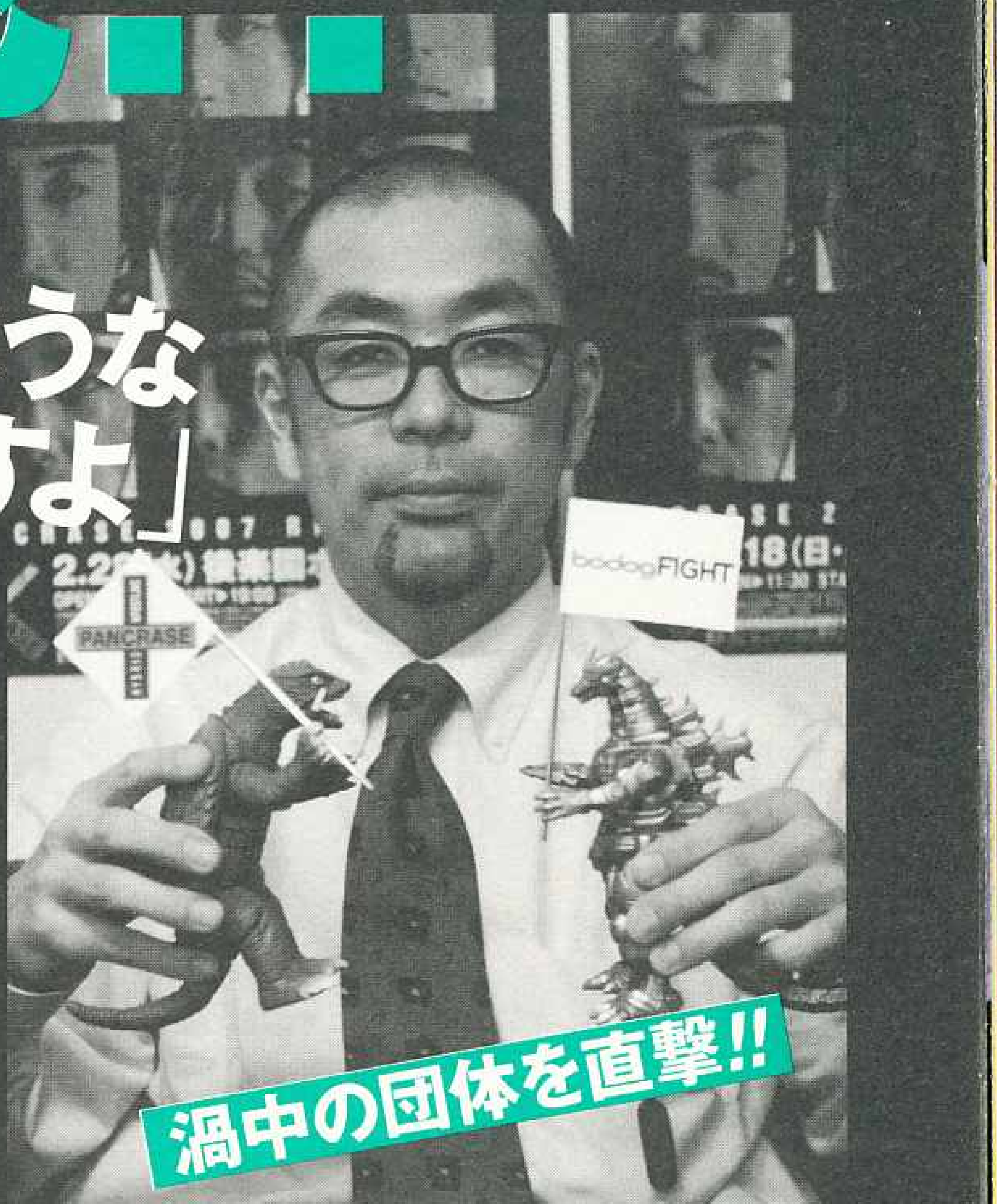
パンクラスが、なんと
噂のボードッグと業務提携!!

——この事実はいったい何を示しているのか?——

格闘天変地異の前兆!?

「その手があったか! と思うようなとんでもない計画があるんですよ」

パンクラス常務取締役 坂本靖



渦中の団体を直撃!!

“闇の新興勢力”ボードッグがついに本格的に日本侵食か!? そのボードッグが目をつけた団体こそ、昨年から深い協力関係にあったMARS!……ではなく、老舗の格闘技団体パンクラスだ。はたしてボードッグは何を狙っているのか。さらにこの提携によって日本の格闘技界の絵図はどう変わっていくのか。ボードッグとの業務提携を決めたパンクラスの坂本常務を直撃した。

聞き手／高崎計三　構成／松下ミワ

——パンクラスとボードッグとの提携が発表されてビックリしました！　それであわててお話をうかがいに来たんですが、『kamipro』には初登場ですよね？

坂本　初登場で光栄です。『kamipro』さんは歴代編集長が弊社のことをお嫌いのようなので、扱われる機会も少なかったですから。

——ああ、編集長どころか、編集部全体がそんな感じですね、あそこは……（汗）。

坂本　だから今回、社長の尾崎じゃなくて私であり、なおかつ高崎さんが来られてるわけですよね？

——まあ、今回の提携に関しては一番、中心になって動いたのが坂本さんだとお聞きしたからですよ。

坂本　なるほど。しかし提携に関しては尾崎が弊社のオフィシャルでもある『格闘王国』という携帯サイトでがっちりしゃべっているので、入会してそちらをご参照ください。では、以上で。

——そんなこと言わずに（泣）。このニュースは格闘技界でもかなり話題になってますしこちらもお聞きしたいことがたくさんあるんですよ。とくに現場レベルで動かれた坂本さんの口からお答えいただきたいんです。

坂本　そうですか、わかりました。ではなんでも聞いてください。

——ありがとうございます。ではまず、この提携に至った経緯から。

坂本　守秘義務です。

——いやいや（泣）、それじゃインタビューになりませんし。お願いします。

坂本　（写真の怪獣フィギュア二体を取り出し）こういうことですよ。

——ガメラと、メカゴジラですか？　坂本さんが怪獣フィギュアのかなり熱心なコレクターだというのはうかがってましたが。

坂本　あり得ない組み合わせってことですよね。昭和ガメラが老舗と呼ばれるパンクラスの旗を持ち、最新鋭のメカゴジラ、機龍がハイテクの武器を持ったボードッグですよね。それが対決しちゃいけないんだな、手を組んで頑張ろうという。……いいなあ、かっこいいなあ。ドガーン、ギュルギュル……（と、フィギュアで遊びだす）。

――あの～……。まあ言ってはなんですが、ガメラに比べたらメカゴジラは予算もバリバリですよね。

坂本　まあ、そうですね。あるいはロッキーでもいいかもしれません。片や科学的トレーニングの粋を集めて強くなったドラゴと、片や地道にトレーニングしてきたロッキーとで。いやいや、それより……。

――それで、提携の経緯に話を戻したいんですが。

坂本　ああ。まあ実際、話せないこともたくさんあるんですけどね。昨年11月の末ぐらいから、ボードッグさんが提携先を探しているという話はもらってたんですね。MARSさんとは年末いっぱいで契約が切れるから、と。それで色がついてない団体というと、パンクラスになるということで最初はメールのやりとりがあって、向こうの代理人の方が12月に来られて話をして。そこでだいたいの合意をして、それで持ち帰ったものをミゲル・イトゥラーテ氏（本誌でも昨年、インタビューしたMFCのマッチメイカー。ボードッグ・ファイトの運営面を取り仕切っている）が検討して、今回の発表に至った、というわけですね。

――「MARSと切れそうだ、じゃあ動け！」っていうわけではないんですね。

坂本　はい。パンクラスとしても、ボードッグさんというものが見えてなかったというのもありますし。私もネッターの人と同じぐらいの知識しかないですから、オンラインカジノが本業で、それが北米で禁止の動きがあるから今後どうなるんだろう、ぐらいですよね。本格的には、本当にお話をいただいてからですね。

――そもそもボードッグの印象は？

坂本　昨年12月のバンクーバー大会とか、その前のコスタリカでの番組でもプロモーションの映像とか、斬新なことをやってるなあとは思ってましたね。番組も無料でダウンロードできちゃうってのが凄いなあ、と。それにやっぱり巨万の富でいろいろ選手とか契約して、ホジャー・グレイシーを押さえちゃうとか凄い青田買いじゃないですか。もちろんグレイシーっていう名前はついてますけど。凄くダイナミックだなあという感じはしてましたね。アメリカの総合格闘技バブルで、大会もいろいろ多いじゃないですか。はたしてその中で、どういう位置にいるんだろうというのはよくわかってなかったですね。

――しかし実際に提携を考えるとなると、『PRIDE』とも交流のあるパンクラスとしては、ボードッグがエメリヤーエンコ・ヒョードルを出場させようとしていることは気にならなかったですか？

坂本　確かに考えはしましたよ。引き抜きだ、いやそうじゃない、っていうような話は誌面でも見ましたしね。ただ、そこは頭にはあったんですけど、最終的にはパンクラスにとってビジネスメリットがあるのかないのか、っていう判断ですよね。これまで契約に関して、引き抜いた引き抜かれたっていうのはずーっと続いてることですからね。

――実際、いま『PRIDE』のリングに価値観を置いている選手というのは、パンクラスにもいると思います。そうした選手たちの希望が、この提携でかなえにくくなるかも……というのは考えませんか。

坂本　『PRIDE』さんがそんな小さな団体だとは思ってませんから。

――なるほど！　器が違うと。

坂本　でも実際、それは考えますよねえ。北岡悟選手とか近藤有己選手とかは『PRIDE』に価値観を見出してますから。けど、ボードッグと提携すると、対等というか、並列になれるんですよね、パンクラスが。そこがメリットだなというのはあったんですけど。あとは北岡選手ですよね、『PRIDE』に出たいと言ってる。でも実力がある選手は、どこのリングに行っても通用しますからね。

――所属選手に、こういうことになったという説明はされたんですか？

坂本　しましたよ。北岡選手だけが過敏でしたね。

――「そんなとこと提携したら、『PRIDE』に上がれなくなる！」という？

坂本　そうですね。きちんと話をして、わかってくれたと思いますけど。あとはパンクラスの選手に共通していえるのは、パンクラスのリングを大きくしたいっていう気持ちなんですよね。提携することで自分が外に出られるっていうんじゃなくて、よりパンクラスのリングが活性化する、海外の強い選手が来て活性化するんであれば頑張りますっていう反応ですよね。

――みんなポジティブに受け止めてるわけですね。この提携で、パンクラスにもたらされる一番のメリットってなんでしょう。

坂本　世界の高くて厚い壁にどんどん挑戦

PRIDEに出たいという選手もいますけど、実力のある選手はどのリングに上がっても通用しますから

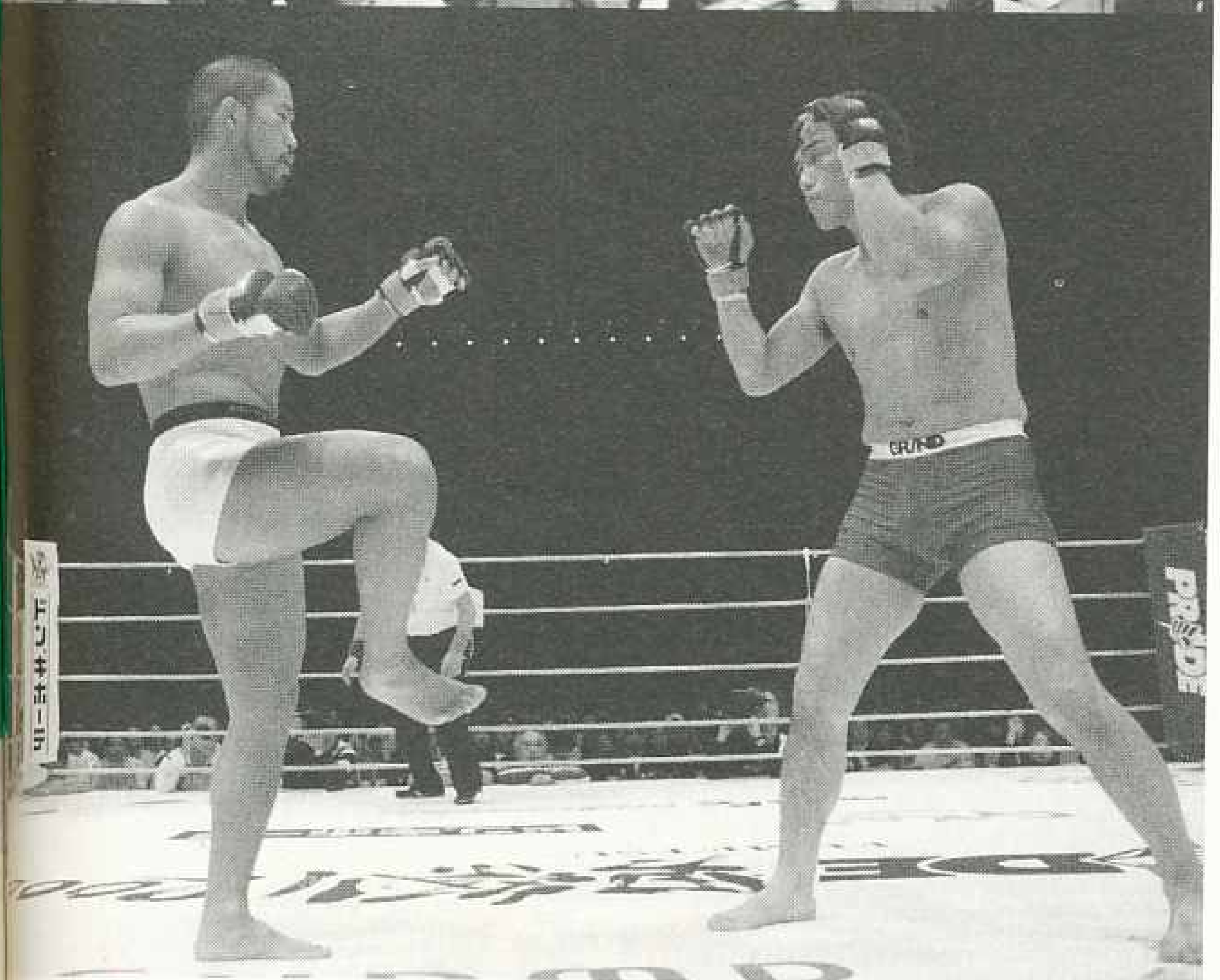


ボードッグとの提携が正式に発表された1月27日、併わせて髙橋義生、WINDY智美らパンクラス所属選手の「ボードッグ・ファイト」への参加など、提携内容の一部が発表された。しかし坂本氏が「ボードッグは秘密主義」と言うように、両団体の契約は謎の部分が多い。

パンクラスとボードッグが提携同意した4項目

- ★パンクラスと『ボードッグ・ファイト』の選手交流
- ★『ボードッグ・ファイト』と選手契約を結んでいるMFCウェルター級王者エディ・アルバレスのパンクラス参戦
- ★2月16日～2月18日『ボードッグ・ファイト』コスタリカ大会に髙橋義生、WINDY智美、竹内出、和田拓也が参戦
- ★2月28日、パンクラス後楽園大会に『ボードッグ・ファイト』からグスタボPCとチアゴ・シウバが参戦





"ヒョードル強奪疑惑"が色濃いボードッグだけに、『PRIDE男祭り』皆勤賞の近藤有己をはじめ髙橋義生や前田吉朗など、パンクラス所属選手を今後『PRIDE』のリングで見ることはなくなるのか。さらに、33ページのイーブス・エドワーズのように、彼らがお姉さま方とリッチに写真に収まる可能性も……!!

していけるってこと、要はリングの活性化ですね。それから、パンクラスのリングだと勝てるけど外に行くと勝てないとか、あるじゃないですか。でも一流の選手は場所を選ばないですよね。経験とかもあるんでしょうけど。そういう場をどんどん提供できる、と。10戦以下の選手は若いうちからどんどん海外に行って試合したほうがいいと思うし、ある程度の地位になってきた選手はその名前や地位を利用して海外の有名選手と闘えるっていうメリットもあるし。

――ボードッグと絡むことで、予想外の成長を見せる選手が出てくるかもしれないですよね。その点で期待したい選手は？

坂本　鳥生将大選手ですね。大阪の稲垣組で練習を積んでパンクラスゲート（大会の本戦前に行なわれる、プロ昇格への登竜門的試合）に出て、やっぱりプロになるならということで上京してパンクラスｉｓｍの入団テストを受けた選手です。昨年12月にディファ有明大会でデビューしました。

――意外な名前が出ましたね。それこそ色がついてない？

坂本　プロレスの海外修行みたいに、いろんな意味で大きくなって帰ってきてくれるといいですよね。髙橋義生、アライケンジなんかはスタイルができてますよね。殴る、っていう。それ以外の部分で伸びしろが大きいのは鳥生選手じゃないかな、と。

――逆に、パンクラスがボードッグに提供できるメリットというのは。

坂本　ないですね（笑）。

――ガクッ。終了ですか。

坂本　いや、いまはすべては話せないです。話せる範囲でいうと、提携していく中でこうしたい、というのは向こうからもあるんですけど、やっぱり向こうの狙いは日本市場進出なんですよね。いずれは……というのは考えてますから、そのときのパートナーとして。選手は豊富に持ってますし、今回もＳＫアブソリュートの選手も出てくれますしね。あの発表以降、ほかの選手からも「出してくれませんか」っていう話も来てますし、寝返ったかのように（笑）。これで選手なり業界なりにいい影響を及ぼしてくれたらいいなとは思いますね。選手と、来るべき日本市場、ってところですかね。それから、ボードッグって金網じゃなくてリングじゃないですか。その点でも、普段のままでいけるっていうメリットはあるかな、と。金網の闘いって、特殊ですからね。

提携発表以降、寝返ったかのように「出してくれ」っていう選手もいますよ

――今回の収録は32試合、世界中から64人もの選手を集めると聞いて、本当に驚きました。

坂本　しかも、コスタリカにですよ！　勇ましい会社ですよ、本当に。音楽とか出版とかやってますけど、今度は映画部門も立ち上げると聞きました。もうエンターテインメント全般に、コングロマリット的にやっていくんでしょうね。

――日本での提携第一弾となる28日の後楽園大会ですが、来日する二選手には何を期待します？

坂本　より高くて厚い、世界の壁。それによる、選手のモチベーションの活性化ですね。外国人選手がらみの対戦カードが増えてくると、日本人同士の微妙なカードとか組めなくなってくると思うんですよね。だから、より選手にとっては高いリングになっていくというか。

――生き残りが厳しくなるわけですね。最初のインパクトという意味では、北岡選手がバコーン！　とやられたほうがよかったりするわけですか。

坂本　いやいや、しのぎを削っての好勝負を期待したいですね。最終ラウンドまで行ってもいいんですけど、最後までどっちが勝つかわからない好勝負が見たいですね。

――バンバン・ビガロが来日第一戦で越中詩郎をリング上から場外に放り投げたとか、ああいうインパクトがほしいわけではない、と。

坂本　ありましたね、そんなことも（笑）。確かに今回の二人はまだまだマニア層にしか知られてない選手だと思うんですけど、逆にマニアの方からの評価は非常に高いんですね。こういう選手が定期的に上がってくるんであれば、パンクラスをこれから観ていこうと思ってもらえると思うんですよね。吉野家の社長が会見で言ってたんですけど、アメリカ産の牛肉をまた使いますと言ってもお客さんはもう戻ってこない、と。結局、慣れちゃったんですね、牛丼がないことに。人間、慣れってありますからね。

――良くも悪くも。

坂本　パンクラスも、お客さんが会場に行かないことに慣れちゃったのを、呼び戻すのって凄く大変なんですけど、この提携で少しずつですけど、感触はあるんですよ。そういう方々が、こんな選手が出るなら行こうと思ってくれるんだったら、提携する収穫はあるかな、と。

――さて極端な話、パンクラスはボードッグに買われるんじゃないか、という見方もありますが。

坂本　僕が経営者だったらパンクラスは買わないですね。選手以外、何の資産価値もないですから。ハッハッハッハッハ（笑）。

――ハッハッハって（笑）。でも実際、13年やってきてノウハウを持っているパンクラ

“その提案”を聞くと驚きますよ。あんな発想は異業種の人からじゃないと出てこない

スをまるごと手に入れて、「ボードッグ・ジャパン」っていう名前にしたいんじゃないかと。

坂本　うーん、さっきの日本進出の話でもそうですけど、やっぱりなきにしもあらずかな、とは思いますよ。個人資産6000億円以上なんて、いったい何をどうしていいかわからない額ですから。でもそれだったら、最初からそういう話をしてくると思うんですよね。非常にアクティブな会社なんで。MFCのように、ドーンとやると思うんですよ。一年様子を見て、大丈夫そうだから売ってくれませんかとか、まあなきにしもあらずですけど。企業が生き残っていくためにはいろんな選択肢があると思うので、そういう話も頭の隅に置いてはいますけどね。

——世の中には、札束で顔をひっぱたかれたいと思う人もいますよね。坂本さんの立場だと？

坂本　それが、いまいる選手とかファンにとっていいことになると思ったらそうすると思いますけどね。会社の経営陣なり、社長なりがいいというよりは。旗揚げからこの体質ですから、おそらくパンクラスの誰かが豪遊してるとか聞いたことないでしょ？

——ないですねえ（笑）。

坂本　5000円の経費にも厳しいですからね。

——いろんな業界で規制緩和の影響があって、それこそハゲタカ・ファンドなんて言葉もあるわけじゃないですか。見ようによっては、ハゲタカかもしれない。

坂本　それだったら『PRIDE』さんなり『HERO'S』さんなりを何十億って出してポンと買っちゃうと思うんですよね。テレビもやって、CSでもやって、ゴールデンの枠も買うよみたいな。でも、そういう感じではないですね。したたかに機が熟すのを待っているのかもしれないですけど。

——たとえば一年後にはどうなってるでしょう。

PANCRAS × BODOG FIGHT

坂本　……言えないなあ。いやパンクラスの大会が定期的に行なわれていて、そこで魅力的な選手がしのぎを削っていて。それを会場なりテレビを通して多くのお客さんが観てくれているっていうのが一番、いいんじゃないですか。それで、ロシアなりでボードッグの大きな大会が開催されて、ウチからも選手が参戦してきっちり勝てる、ひいては日本の格闘技界をもっともっと広げていってくれるなら、それが一番ですね。

——今後、サプライズはあるんでしょうか。

坂本　サカラッパを吹けと。

——盛大にお願いします（笑）。

坂本　ボードッグがパンクラスに求めているもの、っていう話が前にありましたけど、あるんですよ、ビックリするようなことが。それはでも、この一、二ヵ月で出るものではないんです。もっと中期・長期的なスパンで考えなければならないことで。でもそれが成功したら、凄いことになりますね。

——どんな凄いことなんですか？

坂本　その手があったか！　と誰もが思うようなことですね。私もワクワクしてますよ。何しろ、その提案を向こうから聞いたときは私自身が驚きましたからね。エイリアンというか、異業種の人からじゃないと出てこない発想ですね。ただ、具体化するまでには半年ぐらいかかりそうですけど。

——気になるなあ（笑）。でも異業種から出てくるものって、ときにはとんちんかんなものもありますよね。

坂本　そういうものとは、まったく違いますよ。確かに異業種から出てくるものって、必要性は感じてるんだけど業界的に壁を感じるとか、そういうものとかも多いんですけど、そんなのとはまったく違います。

——ちょっと、ヒントだけでも。

坂本　ボードッグって音楽とか、さっき言った映画だとか、コングロマリットとしてエンターテインメントの世界でやろうとしてますよね。これが実現したら、その部門の一つ、一事業になるようなスケールの話ですね。事業ですね、これは。

——デカイ大会をやるとか、そういう話ではない、と。

坂本　そうですね、格闘技と関係はしてるんですけど、そういうレベルではないです。でも、実現のためには高い山がありますよ。……言えないなあ。言っちゃうと、「ああ、それかあ」と思うようなシンプルなことなんですけどね。

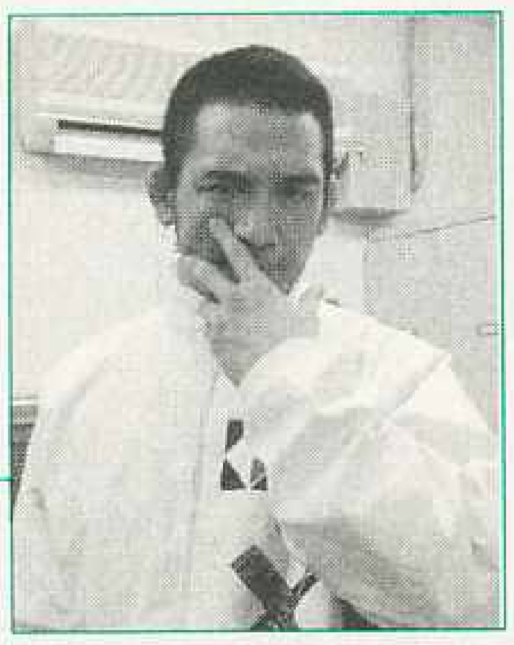
——では発表を楽しみにしてますよ。では最後に、この提携のここに期待してくれというのを。

坂本　パンクラスって、正式な社名は「ワールドパンクラスクリエイト」っていうんですけど、その名のとおりに世界に向けてパンクラスの選手が発信していく、あるいは世界中の選手がパンクラスを目指してくるという状況をクリエイトできるようになる、そういうことだと思いますね、今回の件は。期待してください。

【07年2月5日／大阪・某所にて収録】



パンクラス所属選手

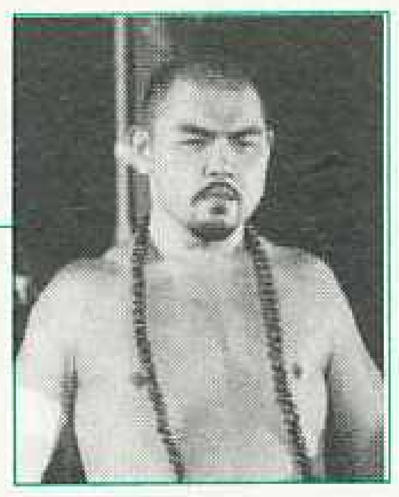


【パンクラスism】
伊藤崇文
近藤有己
渡辺大介
佐藤光留
北岡悟
大石幸史
金井一朗
川村亮
鳥生将大
WINDY智美



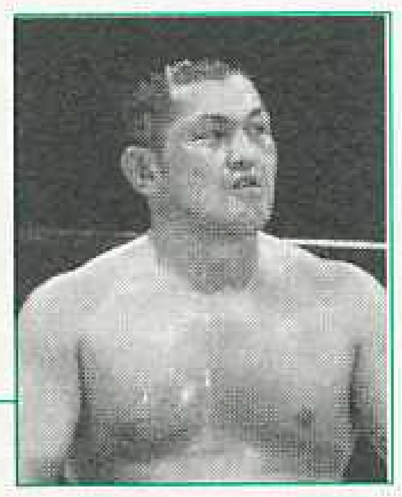
【パンクラス】
髙橋義生／アライケンジ

【パンクラス稲垣組】
武重賢司
前田吉朗
藤原大地
藤本直治
伊藤あすか
長谷川孝司



【パンクラス チーム玉海力】
玉海力剛
小椋誠志／ジミー明成

【パンクラスP'sLAB東京】
志田幹
島田賢二
五十里祐一



【パンクラスP'sLAB横浜】
本田朝樹／荒牧拓

【パンクラスMISSION】
鈴木みのる
冨宅飛駈



エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

kamipro Handリニューアル！ 新コラム3本がイッキにスタート!!

携帯サイト「kamipro Hand」が2月からリニューアル！　新コラムもイッキに3本スタート、
従来のコラムもさらにパワーアップ！　どこよりもおもしろい月～日のコラムメニューはこんな感じです！



鈴木みのる kamipro Hand 登場!!

2006年プロレス大賞MVPがHandに登場！　電話&メール着信、一発で目覚めること間違いなしの特製目覚ましボイスを更新！　Handではさらに「30の質問」にもチャレンジしてもらった！　やっかいな質問の数々に呆れながら答えてくれた鈴木みのる。これを読めば、本当は性格が悪くないことがわかるはず!?

Q お名前と、お名前の由来を教えてください。

A「名前は鈴木みのる。おじいちゃんがつけた。本名は『実』って字。アニキが誠で、2人あわせて『誠実』にしたらしいよ。全然誠実じゃないけどな。でも、うちのおかんは、もう子どもいらないから『留男（とめお）』にしたかったらしいよ（笑）」

Q 幽霊とか、おばけって信じますか？

A「信じるも信じないもなく、いると思うけど。（見たことは）たぶんあると思う。きっと見間違いなんだと、いまでも思ってるから（笑）。（UFOは？）UFOも見たことあるんだよ」

Q 携帯の着メロはなんですか？

A「そんなのなんだっていいじゃん！（笑）」

※名回答続出！ Hand「30の質問」をチェーック!!

新 月 三田佐代子の「あなたの知らない世界」

サムライTVキャスター三田佐代子がお伝えする「プロレスちょっといい話」集！
第1回「ボーゴvsズゴック、マッチメイカーはジョシュ・バーネットの巻」

（2月5日更新分より抜粋）

記念すべき第1回は、『ｋａｍｉｐｒｏ』読者の皆さまも大好きなジョシュ・バーネット選手についてです。私、ジョシュについての多くは『ｋａｍｉｐｒｏ』で知りました。ジョシュがいかに北斗の拳を愛しているか。ジョシュがいかにガンダムについて詳しいか。オトナになってからプロレスとガンダムを愛するようになった遅れてきたヲタク趣味の私ですが、いつかジョシュとガンダム談義をしたいなあと密かに夢見ていたものです。そして！　そんな夢がかなう日がやってまいりました。ジョシュが私の担当しているプロレスニュース番組にゲストでいらっしゃるというのです。私は考えました、ジョシュに何かお土産を持っていこうと。
……続きはHandでチェック!!　ステキなジョシュエピソード満載です！

火「kamipro取材日記」

『kamipro』編集部スタッフが週替わりで送る取材日記!!
これを読めば『kamipro』が100倍おもしろくなる!?

水 橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

「まいう～通信」が改題してパワーアップ！　業界最重量ライターが特選！　格闘技界の「じつはうまいもの」をこっそり伝授！

木 マッスル坂井の「ザッツ・エンターテインメント」

日曜日から木曜日へお引っ越し！　DDTテック代表&『マッスル』主宰のマッスル坂井がリング以外のエンターテインメントを紹介！

金 金沢克彦の「プロレス村から愛をこめて」

プロレス村の若頭“GK”こと金沢克彦だから語れる、
プロレス界の熱き事件簿!!

新 土 佐伯繁の「DEEPな毎日」

総合格闘技『DEEP』代表&『PRIDE』広報の佐伯繁さんの
七転び八起き&七転八倒な毎日をお伝え！

（2月3日更新分より抜粋）

今回は僕の人生について話します。つまり自己紹介です。何事も最初は挨拶から始まるでしょう。まずは僕自身を先に説明しないとね。

中学ではなぜかバレーボール部に入り3年のときはキャプテンもやりました。みんな驚くかもしれませんが、その頃は体重48キロしかなかったのです。これホント！

勉強のほうはまったくできなくひどいもんでした。ここだけの話、3年まで通知表が9科目で合計11か13でしたから。つまり3がひとつでそれ以外は全部1だったということです。かなりヤバイでしょ。ま、高校には行かないつもりだったんで関係なかったんだけどね。
……さらに秘蔵エピソードが飛び出す続きはHandをチェック！

新 日「USA・cool宅急便モバイル」

『kamipro』でも大好評連載中の『USAcool宅急便』がHandにも登場！
海外MMA情報ならこのコーナーにお任せ！

（2月4日更新分より抜粋）

――今日の『UFC』公開計量で、ついにミルコ・クロコップが公の場に姿を現わしたわけだけど、UFCファンの反応はどうだったの？
ケビン「さすがに計量まで来るぐらいのコアなファンが多く集まっているだけあって、ミルコは入場するやいなや、凄い喝采を浴びていたよ。身体も引き締まっていて、コンディションもよさそうだったし、これで派手にKO勝ちすれば、さらに人気が出るんじゃないかな」
――なるほど。ただミルコのキャラクターはアメリカ人には伝わりにくいだろうから、どうやってファンにアピールしていくのかが課題になるんだろうね。
ケビン「そうだね。ただ、ファイトスタイルはアメリカ人好みだし、人気は実力で勝ち取れると思うよ。それは、この日登場した『UFC』3戦目で、しかも英語を話せないアンデウソン・シウバがミルコより多くの歓声を集めていることからも証明されたと思うしね」
……海外MMA情報についてもっと知りたい人は、Handをチェック！

中川画伯のイラストギャラリーにUWAI28号&修二さん登場！　携帯にもメカの手が忍び寄る!!

追撃!!
桜庭vs秋山戦を考える!!

全46ページの総力特集!!

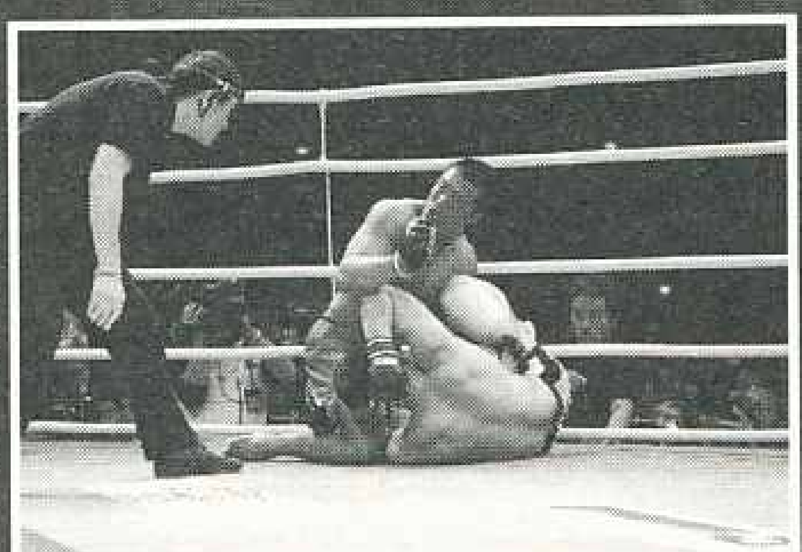
『オーレイ・クエンチ・ボディローション・エキストラ・ドライスキン』にマット界が震撼!!



※え〜、秋山選手が身体に塗っていたものは、オイルではないことが判明しましたが、"クリームショック"や"ローションショック"じゃ迫力がないんです。なので、これまでどおりこの問題を"オイルショック"と呼ばせていただきます。押忍!!

オイルショック後遺症座談会









秋山成勲が身体に塗布した『オーレイ・クエンチ・ボディローション・エキストラ・ドライスキン』の早口言葉が流行りだしかねない今日この頃、"桜庭vs秋山戦"問題はいまだマット界に大きな傷痕を残している。いったい我々はこの問題にどう向き合えばいいのか?　すべれんのか!?

――いやあ、本当にとんでもないことになってますね！

堀江ガンツ（以下、ガンツ） ん？　確かに一時は大騒ぎになったけど、もうだいぶ鎮火してるでしょ。それにこの号が発売されるのは2月の下旬だから、もう熱も冷めているはずだし。そんなに秋山成勲が許せない？

――は？　ボクが言ってるのは前田日明の〝山口日沈〟問題ですよ。本当に許せない悪人ですねえ、山口日昇は（笑）。日明兄さん、ボクたちと一緒に闘いましょう！

ガンツ ガハハハハ！　前田日明の便所の……もとい。ブログの件ね。

松林貴（以下、松林） 本当にさ、日明兄さんはおとなしくしていれば、それだけで勝手に幻想が高まるのにね（笑）。

ガンツ ブログで関係者の悪口書いて、2ちゃんねらーとやり合ってるなんて、ジミー鈴木とやってることが一緒ですからね（笑）。そこまで降りてくる必要ないだろうって。

松林 まぁ、昔、仲のよかった会長（山口日昇）や二宮清純に対する、日明兄さんからの歪んだかたちのラブレターってことでいいんじゃないの？

――ラブレター・フロム・アキラ。『kamipro Hand』でターザン（山本！）がやってたラブレター企画がようやく終了したんで、代わりに日明兄さんにやってもらいましょうか？

ガンツ ジミーの次はターザンのレベルかよ！　ま、いずれにしても、中国の皇子の生まれ変わりのすることじゃないわな（笑）。

松澤チョロ（以下、チョロ） そんなことはどうでもいいけど、なんで俺がこのオイルショック座談会に呼ばれているんだろう？　俺、大晦日は『インディー・サミット』に行っていたし……。

――あれ？　ヌルヌルはお好きじゃありませんでしたっけ？

井上崇宏（以下、井上） チョロくんも〝ヌルヌル〟ってキーワードだけで呼ばれたら戸惑っちゃうよなぁ（笑）。

チョロ （しばらく考え込んで）……あっ！　ありますよぉ、オイルショック！　あるライターさんから聞いたんですけど、渋谷だかに『ダイナマイト』っていう風俗店があって、そこで「格闘ローション・コース」っていうのがあるらしく、どうやらこれが「ヌルヌル、最高‼」らしいんですよ。ウヒヤヒヤヒャ‼

――（冷静に）このように風俗界にも影響を及ぼしたオイルショックですが、ホントここ一カ月はもの凄い反響でしたよね。『スカパー！　バトルLIFE‼』にはこの問題についてファンから問い合わせは来ました？

井上 いや、そんなに来ていないんじゃない？　もうすぐサイト自体が「無期限配信停止」することだし（笑）。

ガンツ 『kamipro』にはサクvs秋山の原稿を書いた橋本（宗洋）さんに対して、「丸坊主にしろ！」っていうメールが来たけど、橋本さんはもともと坊主頭なんだよね（笑）。

――エンターブレイン（本誌発行元）には？

松林 年始は（エンターブレインの）カスタマーサポートが4日まで休みだったんだけど、そこに電話をかけてつながらなかったファンが、なぜか人事部の「新卒採用お問い合わせ窓口」にメールを送ってきたみたいだね。本当にさ、正月早々落ち着け！　って感じなんだけど（笑）。

――アグレッシブだなあ。それにしても、FEGサイドが見解を発表して秋山に処分も下したのに、なかなかファンの熱は収まらないですよね。まあ、収まるわけがないんですけど。

ガンツ 収まらないのはなぜかというと、「FEGはまだ何かを隠している」「マスコミには箝口令が敷かれている」と思ってる人が多いってことだよね。

――各媒体には箝口令が敷かれているという話もあったじゃないですか？　なんだか不思議な記事削除も見受けられたし。でも、いつになっても『kamipro』には連絡がないから、逆に怖くなったんですけどね（笑）。

松林 そもそも今回、怒っているのは桜庭ファンなのかな？　それとも秋山が不正をしたってことについて怒っている人？

ガンツ 核には「桜庭の名誉を回復せよ！」というのがあるんでしょうけど、あとは「秋山が嫌いだ！」っていう人とか、FEGの興行そのものが嫌いな人たちのストレスのはけ口にもなって、巨大化した感じじゃないですかね。

松林 じゃあ、秋山の熱狂的なファンで「これまで応援してきたのに、今回の秋山には失望した！」ってことで怒っている人はあまりいないってこと？　冷静に考えるとさ、ファン的には一番の被害者ってそういう人たちだよね、おそらく。

ガンツ 冷静に判断すると、「秋山のファンはいなかった」ってことでしょう（笑）。

井上 あと、ここまで騒ぎがでかくなったのって、『PRIDE男祭り』の地上波がなくなったっていう影響も大きいと思うんだよね。いままではフジテレビ（『PRIDE』）もあったけど、今回はTBS一本だったから。TBSの番組の作り方を観て、あらためて「やっぱり、これじゃあいかんだろう‼」ってフラストレーションが溜まった人も多かったんじゃない？　ほら、世の中が不景気だと、ついついお巡りさんとか公務員の仕事ぶりに厳しいチェックを入れちゃうようなもんで（笑）。

ガンツ 「これを許したら、すべてテレビ局やFEGのやりたい放題になるんじゃないか？」っていう不安はあったでしょうね。

松林 桜庭vs秋山戦後の会場の反応はどうだったの？

井上 俺は現場で観てたけど、会場は「想定し得る結果が出て、それを素直に受け入れた」っていう感じでしたね。

松林 会場から「その負けには納得できない！」っていう雰囲気はなかった？

オイルショック後遺症に悩まされる（？）出席者

井上崇広

プロレス・格闘技サイト『スカパー！バトルLIFE‼』の編集業務などを行なっている『ペールワンズ』の総帥。一部のマニアからはターザン山本！　に引導を渡した強者として知られている。あだ名は〝井上きびだんご〟の35歳。

堀江ガンツ

本誌編集部。熱狂的かつ変態的UWF信者～リングスファンを経て、ダブルクロス入り。現在はミルコ番、ノゲイラ番、海外出張番、そしてニラサワ番などで絶賛活躍中。血中UWF度が凝縮された〝俺流〟格闘評論に定評がある33歳。

松澤チョロ

本誌電気部ステーション駅員（元キャットファイト人気男優）。携帯サイト『kamipro Hand』の制作のため、インディーを中心に飛び回る。メカマミーブームの仕掛人でもある。最近、〝ホームレス疑惑〟が浮上していた35歳。

松林貴

本誌・闇の御意見番。元『紙のプロレス』編集次長。現在＆過去＆未来永劫、命懸けで〝プロレス側には所属しない〟スタンスを貫く、要注意人物。性格は温厚だが、入稿時には鬼神に。年齢不詳のスパイ顔。パスポート偽造の疑いあり。

ジャン斉藤

本誌編集統括本部長、略して編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て、ダブルクロス入り。我らがアントニオ猪木が精力を傾ける永久電機など、アントン関連事業の調査・解明をライフワークとする31歳。当座談会の司会。

オイルショック後遺症座談会

井上　全然、そんなことはなかったですね。ある意味、会場で観ているぶんには説得力のある試合展開でしたから。テレビで見直したら、ビックリだけど（笑）。

——要するに、そもそも今回の舞台自体、その結末が予想されている空間だったんじゃないですかね。「秋山が勝つ‼」というような。

松林　つまり秋山のファンはいないけど、桜庭が負けたところで「納得」という空間だったんだ。

ガンツ　だから、従来のファンからすれば、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ‼』の作りも含めて、「格闘技界はこのままだとテレビの都合で決められちゃう」っていう皮膚感覚の危機感があるんでしょうね。ファンとしては『ＨＥＲＯ'Ｓ』に行っちゃった桜庭というのは、ある意味「裏切られた」というか、「向こうに行っちゃった」っていう気持ちがあったと思うんですよ。だけど、いざ桜庭がそんな『Ｄｙｎａｍｉｔｅ‼』でヒドい目に遭わされたらさ、「やっぱり俺たちが桜庭を守る‼」って気持ちが働いたんじゃないかな。〝敵の敵は味方〟というか（笑）。

松林　でも、ファンからすれば、「桜庭がやられちゃった」っていう事実だけは残っているから、いくら記者会見で裁定や処分が発表されたところで納得はしないだろうね。

ガンツ　そこは「ごまかされない！」って感じなんでしょう。

松林　じゃあ、どういう処分にしたらファンは納得するの？

ガンツ　それは「秋山追放」ってことなんでしょうけど、そのファンからの追放処分請求は、クリームを塗ってきたという〝罪〟に対する〝罰〟じゃないような気がするんですよ。とにかく〝治安維持〟のために、危ないヤツを遠ざけたいというかね。だから不思議なくらい「桜庭にあのインチキ野郎をぶっ潰してほしい‼」という声が挙がらないんですよね。これはやっぱり、ちゃんとした条件でやったとしても……。

井上　桜庭が秋山をぶっ潰せる保証はないね。逆にいかれちゃう可能性もある。

ガンツ　万が一「秋山はインチキ野郎だけど、桜庭より強い」なんて結果が出たら、ファンにとってそれは耐えられないことでしょう。だから「この再戦はやらせられない」という気持ちの中には、そういった最悪の結末に対する恐れも少なからずあると思う。

井上　それか、「一度不正を働いた選手が、再戦でも勝つ」っていうストーリーに、ファンはなんの共感も得られないから、という理由もあるかもね。

ガンツ　とにかく一番悲しい部分ですよ。あのボコボコにされた事実だけが残っているというのは……。

井上　秋山の「桜庭さんとまた笑ってリングで会えたら……」というコメントもさ、一度肌を合わせた感覚から生まれた余裕というふうにも感じるんだよね。まぁ、〝ヌルヌル参考記録〟なわけだけど（笑）。

——でも、桜庭は生き残ったという視点もあるわけですよね。要は、両者リングアウトに持ち込んだというか。

ガンツ　だから、試合中にタイム要請しての猛抗議というのは、ギリギリのところで「コイツに負けたくない！」っていうのが出たんじゃないのかな？　それは負けそうになったからという意味じゃもちろんなくて、プロレスラーとして「コイツにだけは星をあげたくない」っていう。プロレスラーにとって日本人同士で相手に勝たせるっていうのは、もう政権譲渡みたいな部分ってあるでしょ？　猪木さんが最後まで「藤波には……」っていうのと同じで（笑）。

井上　「長州にはあげられるけど、おまえにだけは！」って（笑）。

チョロ　おそらく田村なんかはそういうところをもの凄く持っていると思うんだよね。

ガンツ　そうそう。だからこそ、桜庭戦をなかなかやらないというのもあると思うし。今回のサクも試合前は純粋に競技者として、勝負に勝ち負けはつきものだから、負けたら負けたでしょうがないと思ってたんだろうけど、ヌルッとした瞬間に「こいつにだけは絶対勝たせない！」「〝桜庭に勝った〟という勲章は与えられない」となったんじゃないか、と。

——タムラーマンはそのような発想のうえで、前号のインタビューで「セコンドがもっと怒らなくてはダメだ！」と言っているんでしょうけど。

ガンツ　プロレスラーというか、桜庭の価値が脅かされているところで、「守らなければいけない人が守らないと！」っていうね。

——で、桜庭は秋山成勲という存在をある意味で消し去って、〝点〟だけで見れば、大晦日の勝者だと思うんですよ。でも、〝線〟を追えば、桜庭の今後が見えづらいところはありますよね。

松林　次に誰と闘ってほしいっていうのがないもんなぁ……。

チョロ　秋山絡みで観たい試合はもの凄くイメージしやすいんだよねぇ。それこそ田村戦もそうだけども、ファンの中には「強い選手に秋山をボコボコにしてほしい」って人もいるだろうし。だけど、桜庭って本当……。

ガンツ　ファンの声を聞くと、「『ＰＲＩＤＥ』に戻ってこい」っていうのはあるんだけど。

松林　でも、『ＰＲＩＤＥ』に戻ったところでねぇ……。

ガンツ　『ＰＲＩＤＥ』の会場に突然、あのテーマ曲が流れて、サクが登場したらもの凄く興奮するし、涙が出るかもしれないけど、「はい、その次はどうしましょう？」って話ですからね。



秋山成勲の謝罪会見でオイル問題の舞台裏が報告され、桜庭和志出席による会見で一応の終止符が打たれた今回の騒動。しかし、その“後遺症”はまだまだ尾を引きそうだ。

チョロ　過保護にじゃないけど、「グラップリングマッチでもいいや」って感じになっちゃうかもね。

ガンツ　いわゆる〝鈴木みのる状態〟（笑）。

松林　なんにも浮かばないんだよね、ハッキリ言っちゃうと。『PRIDE』に戻ったとして、〝点〟としては盛り上がるのかもしれないけど、ワクワクするものは見えづらいでしょう？　たとえば、いまの桜庭和志にまだ乗れるファンに、何を期待させればいいんだろう？

ガンツ　ファンの期待も、「これだけいい思いをさせてもらったんだから最後までついていきます」という感情ですからね。

——それはいたって健全なファン心理。でも、いまの桜庭が3月に試合をするのは本当に怖いですよ。だって、ケスタティス・スミルノヴァス戦の半失神、スパー中に倒れて緊急入院、それで大晦日の秋山戦の裁定は〝ノーコンテスト〟に覆ったけど、ダメージだけでいえば、3連続TKO負けと同じ状況なわけで。

松林　「しばらく休養してください」っていうのが正直な気持ちだよな、本当に。最近の桜庭の試合の光景というのは凄惨だってイメージがあるから。

——だから、桜庭和志のこれからは〝桜庭vs秋山問題〟とはギリギリのところで切り離して考えなければいけないんだと思いますよ。秋山の不正問題にだけに集約させても、ある程度のカタルシスを得られるかもしれないですけど。

ガンツ　だからへんな話、今回のことで、桜庭の今後について「どうするんだろう？」っていうのもあるんだけど、秋山の今後についても妙に気になるんだよね。

井上　うんうん。いまや秋山にこそ「へんな奴には絶対に負けてほしくない！」っていう感情が芽生えてきているからね（笑）。

チョロ　「おいしいヤツだ」と思って名乗りを挙げてくる選手じゃ増えるでしょうねぇ。お呼びでない人がどんどんと（笑）。

ガンツ　でも、それは最初に言わなきゃいけないよね。

——その点、やっぱり猪木さんは凄いですよ。いきなり『東スポ』で「LYOTOが怒っている！」って（笑）。

ガンツ　LYOTOは絶対に怒っていないと思うんだけどね（笑）。しかし、秋山という人間に悪い意味で興味が出てくるんだよなぁ。だってさ……これは俺が勝手に思っていることなんだけど、秋山っていまだに悪いことをした自覚がないというか、反省してないと思うんだよね（笑）。

松林　記者会見でも、そんな感じがしたよなぁ。

ガンツ　悪人って、何が悪いかっていうと、たとえば盗みを働いたりしても良心が痛まないというか、平然と生活していられる人が本当の悪い人間だと思うんだよね。そういう人って、いい言葉に変えると「ハートが強い」とかって言うんでしょ？（笑）。

井上　不動心！（笑）。

ガンツ　へんな話、多くのファンはそういう秋山を潜在的に恐れているというか、理解ができないから遠ざけようっていうのはあると思う。普通、「これだけ問題になったんだから、次はちゃんと正々堂々やってくれるはずだ」と思うんだけど、秋山の場合、〝再犯〟の危険性が限りなく高そうなイメージあるでしょ？（笑）。

井上　柔道時代の前科もあるしね（笑）。

ガンツ　だから秋山には、「失敗しちゃった」という部分での反省はあるけど、「俺は罪を背負ってしまった」という反省はないんじゃないかという妄想も成り立つ。後悔はしていると思うけどね。

井上　ホントね、ああいうタイプが一番怖いよ。自分の身体にはローション塗っといてさ、相手の顔面をボコボコに殴るセンスはやっぱ普通じゃねえよ。

——そもそも、子どもたちと一緒に手をつないで入場してたんですから。恐ろしいですよ!!（笑）。

井上　だから、競技者として怖いんじゃないんだよね。人間のセンスとして怖いという。

ガンツ　でも、そんな〝危険人物〟とやるには、桜庭は丸腰すぎでしたよね。たとえば、海外の路地裏を「俺は悪いことをしていないから」って歩いていたらピストルを突きつけられたと。「おまえ、ズルいよ！」って言ったって、「そりゃあ、そこにはズルい人はいっぱいいますよ」っていう。しかも、普通ならリングという路地には、レフェリーという警察官がいて犯罪を未然に防ぐはずなのに、肝心の警察官が「ナイフなら気づいたけど、ピストルだったから気づかなかった」みたいな、トボけたこと言ってるわけでしょ？

井上　なるほどなぁ。ある意味、観てるこっちもすっかり旅行者気分だったんだよなぁ。

ガンツ　だから本来は田村が批判していたように、セコンドというボディガードがいてしかるべきなんだけど、桜庭は『PRIDE』の頃からずっとあんな感じでやってきたわけで。それは今回みたいなことは起こるわけはないっていうことが前提なわけだよね。セコンドというのは、ちょっと指示出してくれたり、水くれたりとか、そういう人が必要だって感覚だけで。だけど今回はそういうまともな相手じゃなかったわけですからね。

——これまで〝悪〟の魅力がたまらないレスラーや格闘家って、たくさんいたわけじ

まだまだすべって転がる桜庭vs秋山戦！
携帯サイト『kamipro Hand』で
"後遺症"アンケート!!
（実施日時07年1月27日〜2月2日）

Q1　秋山成勲vs桜庭和志問題に関して、FEG側からの2回の公開記者会見が開かれ、秋山選手の処分、および関係者の処分が発表されましたが、現在の結論についてどう思いますか？

納得している	405票
納得していない。再調査すべきだ	852票
納得していないが仕方ない	549票
この問題に興味がない	11票

Q2　秋山成勲選手は現在「無期限出場停止処分」中ですが、もし試合をするとしたら、誰と闘うべきだと思いますか？

桜庭和志との再戦が観たい	207票
田村潔司との対戦が観たい	567票
誰とでもいいので試合が観たい	35票
しばらく試合は観たくない	1008票

Q3　桜庭和志選手には、復帰戦で誰と闘ってほしいですか？（フリーテーマ）

1位　田村潔司
2位　PRIDE復帰
3位　思い浮かばない
4位　秋山成勲
5位　カーロス・ニュートン

一応の決着がついた"桜庭vs秋山戦問題"だが、本誌携帯サイトのアンケート結果を見れば一目瞭然、多くのファンがまだまだ納得していない。桜庭和志の復帰相手アンケートも、1位＆2位に票が集中したが、どちらも現実的なプランではない。桜庭の"これから"がまったく見えないのである。3.13『HERO'S』名古屋大会に桜庭は出場予定だが、はたしてその相手は……。



アンケートモデル：この秋山問題で一番、株を上げた田村潔司さん

ゃないですか？ でも、秋山の〃悪〃な部分はというと……。

井上 やっぱ「ローション塗布」っていう反則のセコさからは〃悪の華〃は咲きづらいし、〃悪役ブルース〃も聞こえてこないという。ファン不在の反則というか、あまりにもファンを無視しているよね（笑）。

——つまり、エンターテインメント性が大きく欠けた犯罪ですよね。

井上 ファン不在といえば、中村カズの「ノーギャラでもいいから秋山選手とやりたい」なんていう柔道部物語もあったけど、あのセンスも完璧にファン不在だもんなぁ。「いや、ギャラを取って、きっちりおもしろいモン見せてくれよ！」って思っちゃう。

ガンツ 逆に田村なんかは無意識にファンに向けて投げてますもんね。

井上 うん。なんか全国のプロレスファン全員と手をつないで入場してきそうだもんなぁ（笑）。

ガンツ 「ここで何か言っといたら、のちのち自分の物語としておいしい」というのが、考えていないんだけど出ちゃうんですよ、田村は（笑）。そこが天才というかね。逆に考えて発言すると、まったくファンの心に響かないことを言ったりするんだけどね。吉田道場と対抗戦やりたいとか、ホイス・グレイシーとやりたいとか、成瀬（昌由）が持つリングス・トーナメント21のベルトに挑戦したいとか（笑）。

井上 でも、ストーリー展開として秋山vs田村戦だけは相当にありだなぁ。

オイルショック後遺症座談会

ガンツ 何もやっていないのに田村の株がどんどん上がっているという、この恐ろしさですね（笑）。

井上 「秋山には誰にも負けてほしくない」っていう感情の一方で、「田村に激勝してもらいたい」という感情がいま一瞬にして沸き起こったもん。なんて憎いお方（笑）。

——しかし、ここまでのヒールっていままで日本にいましたかね？

井上 う〜ん、やっぱ〃元祖・やりすぎコージー〃こと北尾光司だろうね。



一番の問題解決は、おそらく桜庭が秋山に完勝すること!! しかし、秋山は“無期限出場停止”のため早期のリング復帰はありえない。それまでこの消化不良をムリヤリにでも楽しむ“プロレス心”が必要なのかもしれない。

ガンツ 「タブーを犯した」のと、「何を考えているのかわからない」。そして、それなのに「こいつ、きっと強い」。

井上 ヒール三原則だね。なぜか我らが猪木さんにも符合（笑）。

ガンツ 「何をしでかすかわからない。しかも強そう。こいつ危ないから遠ざけるしかない」という。たぶん、今回と一緒なんですよね。

井上 だから、ルールを破ったくらいのレベルじゃあまり怖くないんだけど、マナーを守らない奴が一番怖い！ 北尾とか今回の秋山って、明らかにマナー違反でしょ。人間としてのマナーを平気で破る奴が一番怖いよ。

松林 それなら、〃最強〃髙田延彦の出番だよ（笑）。

井上 「やるだけです！」（北尾戦の決意表明調）。題して『髙田延彦のマナー教室』（笑）。

——北尾のときもそうでしたけど、ファンは声には出してないけど、「成敗してもらいたい」という気持ちは少なからずある。でも、『HERO'S』内の闘いじゃ絶対にダメだと思うなぁ……。

井上 たしかにあの「無期限出場停止」ってよくないよね。早く契約解除して『U-STYLE』にも上がれるようにしてくれないと（笑）。それに冗談ヌキで『HERO'S』の客層に、今度秋山のボディチェックをしたときに「オォ〜!!」って盛り上がれる視点ってないと思うんだよな。やっぱり一番うまく現場を作るのは、『PRIDE』ってことになっちゃうのかね。煽りVだけでブルッちゃいそうだもん（笑）。

ガンツ 立木文彦さんの声で「すべる！すべる!! すべれんのかっ!?」って（笑）。これで一番つまらない展開というのは、『HERO'S』で復帰して、バッシング後の亀田興毅みたいに、ちょっと礼儀正しくなったりとか、そこそこの強豪とそこそこのいい試合でしっかりやったりして、「これで文句ないやろ！」っていうこと。

松林 まったくスッキリしないよね。

ガンツ だから亀田同様TBSは丸く収めようとする舞台を作ろうとするかもしれないけど、こんなの丸く収まらないよ！（笑）。

松林 そう考えると厄介だな。けっこうな相手を連れてきてもファンは納得しないわけだから。

——たとえば、（セルゲイ・）ハリトーノフとかが秋山を残酷に叩き潰しても、このモヤモヤは解決しないでしょう。

ガンツ やっぱり桜庭及び桜庭周辺の人が、落とし前をつけるしかないでしょう。

——そうですね。〃永久追放〃という落とし前じゃなくて。

松林 でも、猪木さん的に言うと、これは最大のチャンスだよね。選手にとってもプロモーターにとっても。谷川イリュージョンに期待するしかない。難しいけど、これほどやりがいのある素材はないんだから。

井上 〃争乱を産む機械〃こと谷川さんの腕の見せどころですね。

ガンツ 俺はとにかく桜庭vs秋山の再戦はやってほしいな。だって、こんなに「サク、絶対に勝ってくれ！」って思える試合って、ホイス戦以来のことでしょう。絶対に負けてほしくないし、その反面、負ける可能性もあるからこそ、より燃えるというのもあるし。だからこそ、サクのファンには勇気をもって、再戦への後押ししてもらいたいな。たとえ桜庭vsヒクソンが実現しても、桜庭vs秋山の再戦ほどは燃えないと思うから。

——いずれにしても、単なる『HERO'S』内の秋山〃落とし前〃ストーリーで完結させちゃ絶対にダメですよね。では最後にチョロさんから何か意見はありますか？

チョロ う〜ん……いまだになんでこの座談会に出ているかがわからないんだよねぇ（笑）。

——あれ？ ヌルヌルは好きじゃなかったでしたっけ？

チョロ う〜ん。そういえば、渋谷だかに『ダイナマイト』という風俗……。

【07年1月26日／渋谷某所にてヌルヌル収録】



“北尾光司以来の大ヒール!!”

秋山成勲を誰が成敗するのか!?

“永久追放”

北尾光司をリングに上げた男、

元Uインターの頭脳

宮戸優光が語る



ファンのあいだで

秋山成勲追放論大噴出!!

秋山成勲 ヒールとしての価値

大晦日の桜庭戦で身体にクリームを塗布するという“悪事”が発覚し、いまやもっとも嫌われる“大ヒール”となった秋山成勲。「永久追放せよ」との声も上がるこの男は、今後プロとしてどうすべきなのか？　かつて同じように半ば永久追放となっていた北尾光司をリングに上げ、“大ヒール”として見事に興行成功させた“Uインターの頭脳”宮戸優光が、満を持して桜庭vs秋山問題を斬る!!

聞き手、人物撮影／堀江ガンツ　北尾の試合写真／平工幸雄　桜庭 vs 秋山の試合写真／乾 晋也

——宮戸さん！　大晦日に行なわれた桜庭和志vs秋山成勲戦がいまだに物議を醸しているわけですが、今日は、かつて"UWFインターの頭脳"と呼ばれていた宮戸さんに、イベンターという立場からこの問題について語っていただきたいんですけど。

宮戸　わかりました。ただ、それを語る前に今回の一件で秋山選手が"クロ"だと裁定されたのであれば、桜庭が失なったものは大きすぎるよね。視聴率は何パーセントぐらいだったの？

——平均で19・9パーセント、桜庭選手の試合は瞬間最高で25パーセントを記録してますね。

宮戸　だとすれば、多くの視聴者というのは「桜庭が負けた」っていうふうにしか観てないわけだから、桜庭がプロとして失なった商品価値の大きさといったら、もの凄すぎますよ！　そこで「クロになりました」と発表されたところで、あの日の視聴率以上の中で、そのことが証明されなければ、あの代償は返ってこないわけですから！

——あの記者会見が視聴率25パーセント以上獲ったという話は聞きませんもんね（笑）。

宮戸　そうそう。だから結局のところ、桜庭和志という選手のイメージは回復できてないわけですよ。そこをみんな問うてないでしょ？　本来、桜庭としたらこれは損害賠償モノですよ！

——ああ、なるほど。ファイターとして名誉毀損でもありますよね。

宮戸　そういうことですよ。これは桜庭の名誉も含めて、プロとしての商品価値を落としちゃったわけだから。これをどうしてくれるのか？　そのへんがちょっとおきざりにされている！　いくらあの試合で視聴率20パーセントを獲れても、その後の反則騒動にはワイドショー、ニュースとかでそこまで扱われてないでしょう？

——格闘技ファンはともかく、世間の関心は薄いですね。

宮戸　それがっかりしたというか、格闘界が置かれている現実というか問題点だよね。これがプロ野球とか、ボクシングの亀田兄弟が同じことをやったら、もうワイドショーで連日やるだろうし、週刊誌はどこでも書くだろうし。しかも一週間や二週間じゃ終わりませんよ!!

——徹底追究キャンペーンが起こりますね。

宮戸　あの事件がそのあと、それ以上の関心もなく通りすぎてしまっているところは寂しいし、関係者もそこは現実としてわかっておかなきゃいけない。桜庭にとっては、その関心のなさが自分が失なったものの大きさでもあるわけですよ。それが放っておかれるということは、桜庭にとっては一番でかいね。彼のイメージダウンと、商品価値のダウン。このダブルは大きすぎる。

——あの試合をテレビで観た人間で、こういう事態になっていることを知らない人は多いですからね。しかも、あの試合は桜庭選手が攻勢の場面が少なかったこともあって「塗ってなくても、桜庭はやられてたんじゃないのか」という声もあるんですよね。

宮戸　あれだけの観衆、視聴者の前でああいうかたちになっちゃったわけだから。そこで失なったものは、その裁定では覆らないからね。桜庭側の汚名は晴れないもん。だからそこは主催者サイドはどうするのかな？　という興味はありますよ。

——その主催者側にはなんのペナルティもないという現状もあります。

宮戸　それはおかしいでしょ！　最終的な責任は主催者にもあるわけだから。一応レフェリーがいるけど、レフェリーというのは主催者側のルールを含めた代行者であり、決して個人じゃない。

あの"反則"で桜庭が被ったイメージダウンは計り知れないし、まだ回復されてもいない！桜庭としたらこれは損害賠償ものですよ！

Yukou Miyato

——レフェリーやサブレフェリーは減俸とか処分が下ったんですけど、主催者側は「調査しました」で終わってるんですよね。

宮戸　ちょっとへんだと思うね。そこで、さっき言った「桜庭が失なってしまったものはどうするんですか？」という話になるわけです！　もともと100あった価値が50以下になっちゃってますよ、これは!!　だからそこを主催者サイドがどうフォローしてくれるのか？　と。

——そこで桜庭選手がその汚名を返上、名誉挽回するためには再戦というのがありますよね。でも、ファンのあいだでは「今度はちゃんとした条件でやっても秋山選手が勝つんじゃないか」という意見が多くて、やらせるべきじゃないという声もあるんですよ。

宮戸　この問題を再戦に置き換えちゃうのは違うと思うんだよ。かといって「秋山選手を追放」という終わらせ方もどうかと思う。

——格闘技のファイターって、イメージビジネスみたいなところがありますからね。

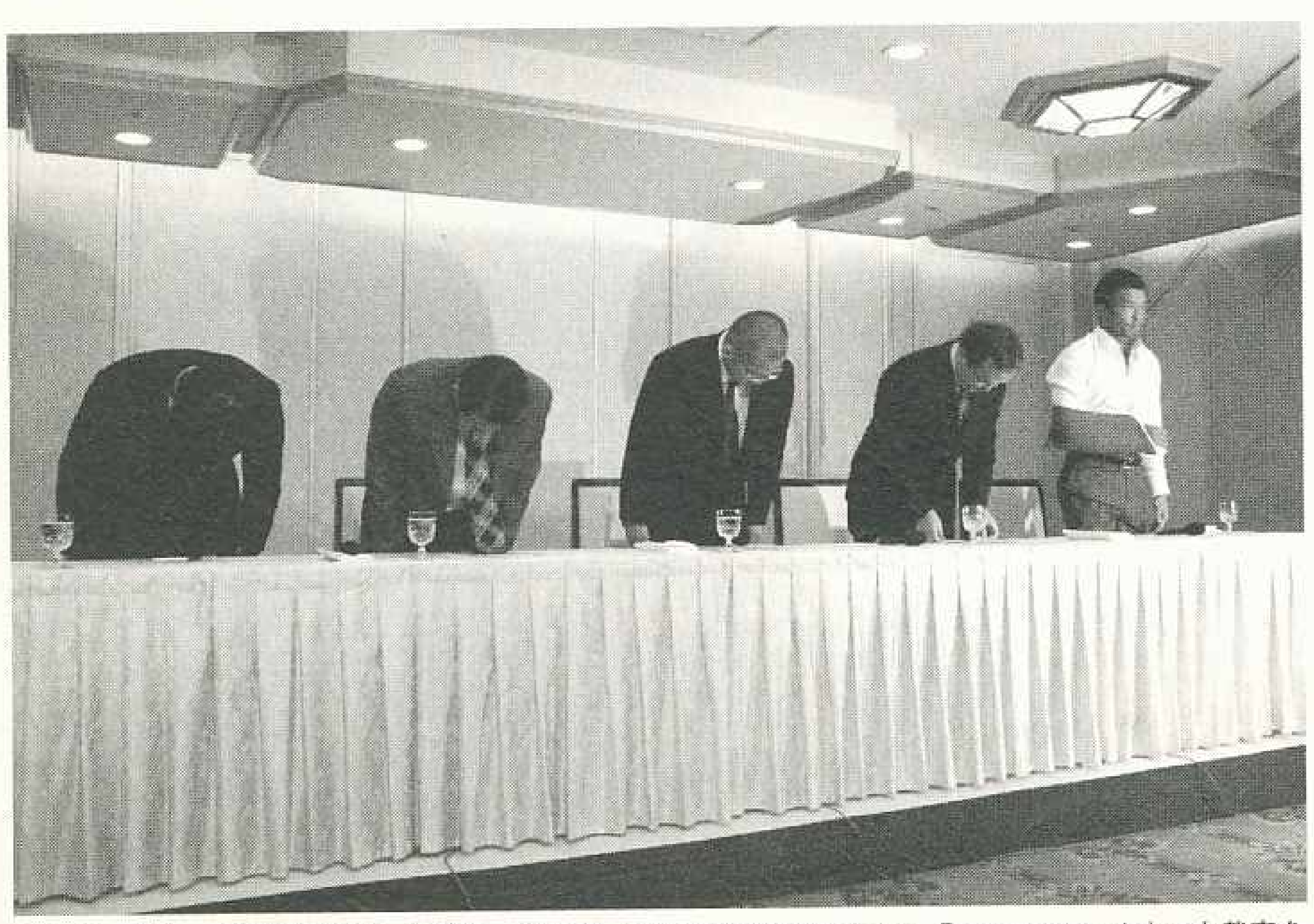
宮戸　そう！　まさしくイメージの世界ですよ。秋山選手も勝ったところまではよかったけど、そのあとには不正が発覚して「反則野郎」になっちゃったわけだから。

——「反則野郎」ですか（笑）。

宮戸　昔、「八百長野郎！」って言った人もいたけどさ（笑）。その「反則野郎」が今後どういう生き方をしていくのか、プロとして見られるわけですよ。ただ、そういう選手を興行に利用していいのかという使う側の問題もありますからね。

——モラルの問題もありますよね。

宮戸　そう。だから簡単にはいかないですよ。ただ、興行師側から言うと、よかろうが悪かろうが話題になってる選手だから、使いたい人は絶対にいるというか、いなきゃウソだよね。契約上の問題はあるんだろ



試合後、クリーム塗布が発覚した桜庭vs秋山は、「秋山のTKO勝ち」から「ノーコンテスト」へと裁定を変更。秋山に対し、ファイトマネー全額没収、無期限出場停止処分の厳罰が下されたが、これによって大晦日、多くの視聴者の前でボコボコにされる姿を晒された桜庭の名誉が回復されたわけではない。



新日本では長州力に「この○○○野郎！」と暴言を吐き、SWSではジョン・テンタ戦のあと「八百長野郎！」と叫び、度重なる不祥事でプロレス界を追放された北尾が、92年に武道家（空拳道）としてUインターに参戦。この“大ヒール”北尾と山崎一夫の試合は異常なまでの興奮に包まれ、これに勝った北尾のヒール人気は怪物的に巨大化。そして、そんな北尾をハイキック一発でKOした高田延彦は、一躍プロレス界の救世主として大スターとなったのであった。もしいま、秋山が桜庭、田村らと闘えば、このときの北尾以上のヒールとなるか!?

ヒールになった秋山選手は、興行師側からしたら、よくも悪くも話題の選手だから使いたいと思う人がいなきゃウソだよね

うけどさ。

――へんな話、秋山選手の興行的価値が上がっちゃった部分もありますよね。

宮戸　そういう悪役をみんなが成敗するのを待つわけだから。じゃあ、誰が成敗するのかという注目はありますよ。

――話題にもなりますしね。かつてUインターは、今回の秋山選手同様、大ヒールとなって半ばプロレス界を追放されていた北尾光司（※91年4月、SWSの神戸大会で行なわれた北尾 vs ジョン・テンタ戦で、北尾は試合途中でリングを降り、テンタに「八百長野郎！」と発言。そのあとリングに上がることなく、試合放棄による反則負け。SWSを追放となる）をリングに上げ、高田（延彦）さんが〝成敗〟したことで人気が爆発したことがありましたよね。

宮戸　あれについては、今回とはちょっとケースが違うと思うんですよ。あのときは追放という処分がおかしいよね。「八百長野郎」と言ったから追放なんて、団体側が半ば八百長を認めたようなもんじゃない！

――なんか〝暴露〟したから追放みたいな感じですよね（笑）。

宮戸　リングで起こったことをリング外で収めちゃったからね。だから「そこの団体が白黒つけないのであれば、Uインターがやりましょう」ということで、北尾参戦に至ったわけです。

――なるほど。でも、ファンからの反発は怖くなかったですか？

宮戸　いや、怖くはなかったですね。あのときはその発言の是非も問われてたし、だからこそ、そのことを含めてリングで決着つけようと思ってましたから。逆に自信を持ってやれましたね。でも、それで飲み込まれちゃったらという怖さはありましたよ。

――「北尾はトラブルメイカーだけど、もし強かったら、リング上では正義になってしまうんじゃないか」という怖さですよね。

宮戸　だからどの団体も賭けはしたくなかったんでしょう。リングで北尾選手を誰かが成敗できるかもしれないけど、できないかもしれない。でも、ウチは当時イケイケでしたから。

――当時のUインターは怖い者知らずでしたよね。

宮戸　まあ、みんな若かったからね。でも、いまや格闘技というジャンルはゴールデンタイムであれだけの視聴率を獲るようになっちゃったから、興行主義の部分を持ち込みづらいと思うんだよね。

――それこそ主催者側のモラルが問われますよね。

宮戸　でも、秋山選手が悪役のイメージがあるうちにやりたいというのは、ボクも興行をやってた人間だからわかりますよ。ヒールというのは、嫌われれば嫌われるほど興行人気が高まるわけだからね。ここで秋山選手は「俺はヒールだ」って開き直ったら、完璧に成立しますよ。

――ここまで来たら、汚名を背負って生きていくしかないわけですもんね。

宮戸　そうそう。ファンが許さない中でリ

「絶対に勝ってほしい」と観客が思いを込めて観るのは、興行としてもの凄く必要なんです。だから桜庭というのは希有な存在だよね

ングに上がるわけだから。本人は謝りたいだろうけど、ここはもう開き直って出ないと。だから北尾選手がウチに出たときも「あんな発言をしてごめんなさい」じゃなかったしね。そういうブーイングってけっこうつらいけど、徹底してやればプロとして相当なものですよ。現代に珍しい本物のヒール誕生だよね。

——いまのプロレス界にも"ヒール"と呼ばれる人はたくさんいますけど、それってホントのヒールというより、文字どおり"悪役"。悪い人の"役"をやってるだけに感じますもんね。

宮戸　そうだね。まさに悪役だよね。それじゃ"ヒール"じゃないんですよ！　ボク自身、Uインターをやってた頃は、他団体から見たら完璧なヒールで、プロレス界を引っかき回してる首謀者みたいなもんだったから。

——長州さんに「宮戸がくたばったら、墓にクソぶっかけてやる！」とまで言われた人ですもんね（笑）。

宮戸　でも、ボクは決して悪役を演じてるわけじゃなかったから！　だから、ルー・テーズさんに言わせると、プロレスラーにヒールもクソもない、と。ルー・テーズさんも決して"悪役"じゃなかったけど、世界チャンピオンとして、各テリトリーを回って地元のスターの挑戦を受けると、みんな地元の人を応援するに決まってるんですよ。すると、当然ルー・テーズのほうはヒールになっちゃうわけです。甲子園で阪神と巨人がやったら、巨人がヒールなわけですよ。

——悪いことをするからヒールというわけじゃないんですね。

宮戸　そう。プロレスでは汚いことをやるからヒールだと思われてるけど、もともとはそうじゃないんですよ。ただ、やっぱり甲子園でのヒールは巨人がふさわしいように、秋山選手の相手も誰でもいいわけじゃない。それなりの選手じゃないとダメだよね。

——なるほど。じつはウチで田村潔司さんが「秋山とやってもいい」って言ってるんですよ。

宮戸　へぇ～。それはおもしろいんじゃない？　もし、田村vs秋山戦が実現したら盛り上がるだろうね。

——観る側としても、U系と秋山選手の対立は燃えますよね。

宮戸　燃えるね～。それなら俺だって観たいもん！　ちょっとタムちゃんの記事見せてくれる？（ここで『kamipro』No．107の田村潔司インタビューの記事を読む）。うん、これはボクも桜庭の反則勝ちだと思う。そうならなきゃ嘘だね。

——そのインタビューで田村さんは「桜庭があれだけアピールしているのに、なんでセコンドは徹底的に抗議しないんだ！」と発言してますよね。ファンのあいだでは「もし宮戸や金原（弘光）が桜庭のセコンドだったら、違ったんじゃないか」という意見もあるんですよ。

宮戸　桜庭のセコンドは若い選手がついてたでしょ？　だから遠慮しちゃったんですよ。しょうがないよね。

Yukou Miyato

——そういう意味でも、昔のUインターの結束力は凄まじかったというか（笑）。

宮戸　でも、それが本来のプロレス団体なんですよ！　だからUインターもそうだけど、昔の新日本プロレスだったら乱闘になってるよ！　もし猪木さんが「油塗ってる！」って抗議してたらセコンドみんな出てくるよ！

——猪木vsウィリー・ウィリアムス戦のときみたいに、セコンド入り交じっての大乱闘になるでしょうね。

宮戸　だから、タムちゃんの言うとおり、セコンドについた若い選手も、もっと抗議してほしかったね。あそこでセコンドがなんらかの主張をしていれば、「何か不正あったんだな」って視聴者にもわかっただろうし。それが画面に乗らなければ、視聴者には伝わりませんよ。

——確かに「桜庭が何か言ってる」ぐらいにしか思わないですよね。

宮戸　そうだね。でも、桜庭が試合後そうやって抗議をしたことによって、ファンやマスコミが動き、主催者側まで動かしたわけだから。これはよかったと思う。

——そういう意味で、桜庭は多くの人が感情移入できる数少ないファイターですよね。

宮戸　そう。「絶対にこの人に勝ってほしい！」とファンが思いを込めて観るのは、興行としてもの凄く必要です。いま『PRIDE』にしても、新日本プロレスや全日本プロレスにしても、そういう試合って減ってるから。

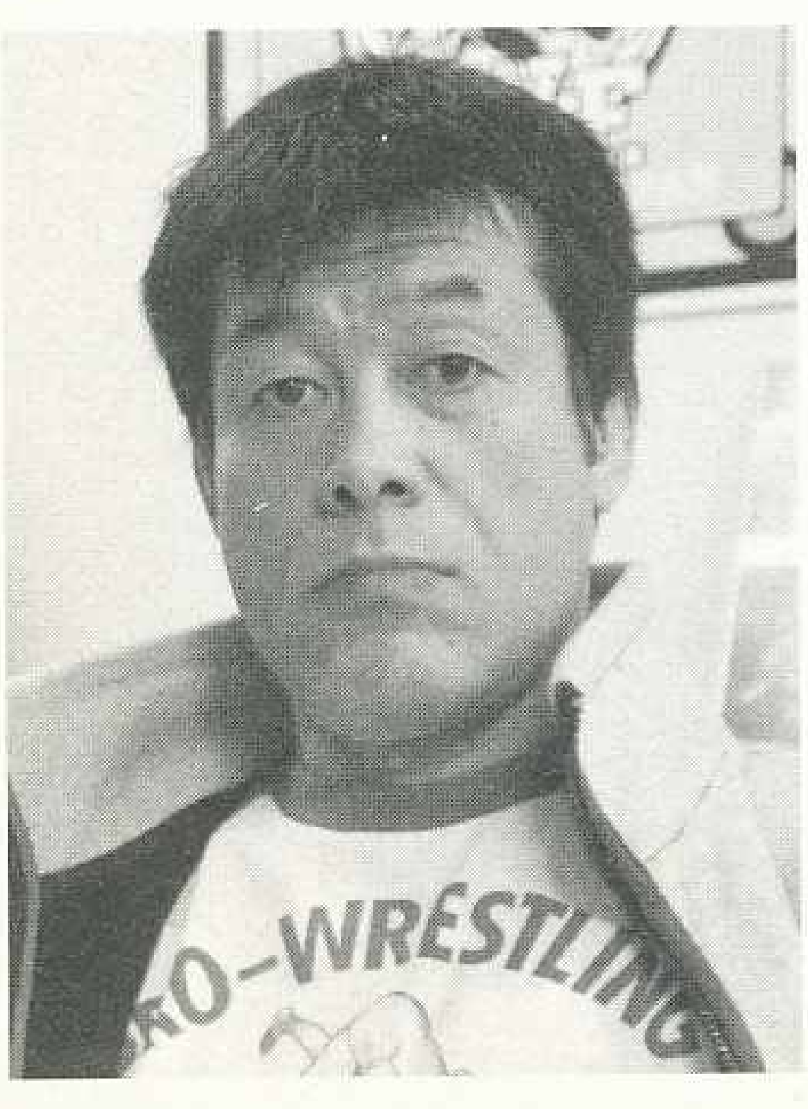
——「どっちも頑張れ！」って感じで。

宮戸　どっちも頑張れというか、どっちが勝ってもいいという世界になってますよね。でも、格闘技がほかのスポーツと違うのは、みんな潜在的にケンカを観たいわけだから。観るほうも「ぶっ殺せ！」ぐらいに血がたぎって観たほうが興奮するわけじゃないですか？　それが消えちゃって、あんまりスポーツ、スポーツとなるのは違うと思いますよ。次に秋山選手がリングに上がったら、大多数が相手のほうを応援するでしょう。だけど、「秋山、頑張れ！」というファンも中には絶対出てくるから。

——興行のデザインとしても、コントラストがはっきりしますよね。

宮戸　お客さんも熱くなれるしね。ただ、ボクは決して今回の秋山選手を肯定しているわけじゃないから。イベンターという立場から見たら、おもしろい存在になりうるということは間違いないんだけど。そこははっきりさせておきたい。桜庭も、今回のことはこのまま終わりにしてほしくないし、身体に気をつけて次は頑張ってもらいたい。それしかないですよ。

【06年1月26日／高円寺・「U.W.F.スネークピットジャパン」にて収録】



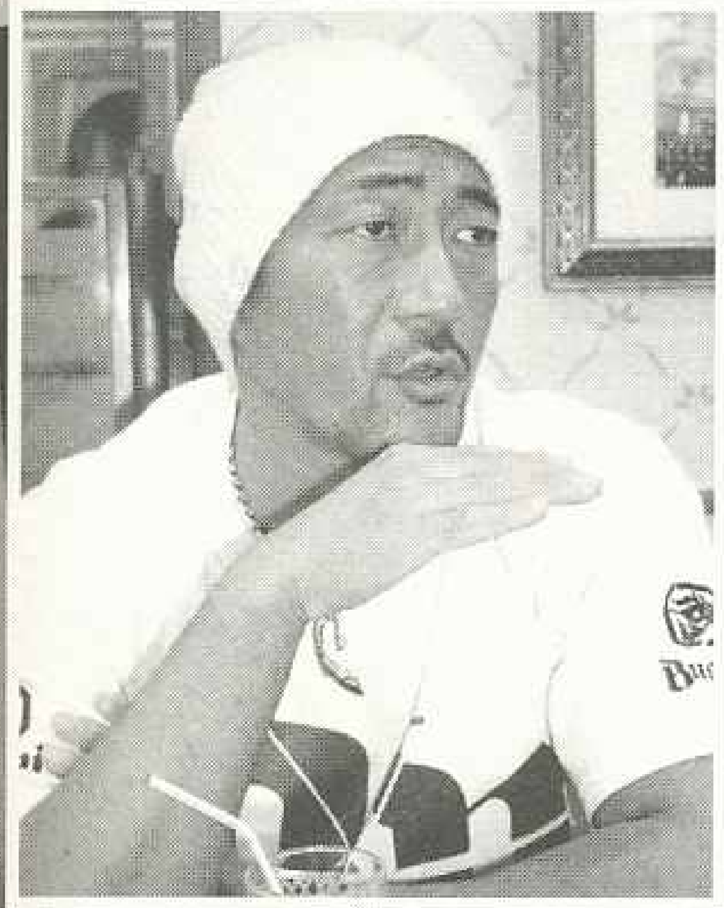
みやと・ゆうこう■1963年6月4日、神奈川県出身。75年、猪木vsロビンソン戦を生観戦し感激。プロレスにのめり込む。85年、第一次U.W.F.でデビュー。第二次U.W.F.を経て、U.W.F.インターでは"Uインターの頭脳"として舵取り、参謀役として活躍。95年に新日本との提携路線に反発し、退社。現在は『U.W.F.スネークピットジャパン』を主宰する。

U.W.F.スネークピットジャパン
東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
TEL.03-3337-1889

チーフトレーナーが見た「桜庭vs秋山戦問題」の真実！



現状では 秋山と一緒にやっていくつもりはない



チーム黒船 船長

山田武士

二度の会見で一段落した感のある一連の“桜庭vs秋山戦騒動”。しかし、ファン及び関係者のあいだでは、いまだに釈然としない部分があるのも事実。そこで今回は秋山成勲のチーフトレーナーとしてともに汗を流し、大会当日もセコンドについた「チーム黒船」船長の山田武士氏にローション問題から噂されるメリケンサック疑惑、桜庭戦での「すべらせろ」発言の真意、さらには、これからの秋山との関係まで、ざっくばらんに語ってもらった。

聞き手／ジャン斉藤、松澤チョロ　試合写真／乾 晋也

――一連の“桜庭vs秋山戦騒動”からは、だいぶ経ってしまいましたが、今日は秋山選手のセコンドについた「チーム黒船」の山田さんにお話をうかがえればと思ってます。

山田　よろしく。

――あちこちで報じられてますけど、山田さんは秋山選手がクリームを塗ってたのは知らなかったんですよね？

山田　全然知らなかった。でも、ネットとか凄いことになってるみたいだけど、メリケンとか言ってるヤツはどうかと思うよ（笑）。

――ネットを中心にグローブの中にメリケンサックを仕込んでたんじゃないかって話まで出てますからね（笑）。

山田　大の大人がメリケンなんか使わないでしょ（苦笑）。谷川（貞治）さんも釈明会見でも問題なかったみたいなこと言ってたしね。

――グローブは問題なかった、と。

山田　冷静に考えたらわかると思うんだけど。それに、みんな、桜庭さんが何を言ってたかを思い出してほしい。桜庭さんは「すべる」って言ってたわけで。

――秋山選手の身体が「すっごい、すべる！」ってことですね。

山田　もし、グローブに何か入ってたって感じたら「すべる」の前にそれを言うと思うし。

――「すっごい、硬いよ！」ですよね（笑）。

山田　そうそう。まあ、グローブに関してはファンとかはおもしろおかしく言ってるだけかもしれないけど。写真で秋山のグローブとか載ってて、ほかの選手のグローブと比べられてて、これだけ違うんだってネットとかに出たりしてたでしょ。その中に横綱（曙）の写真も出てたんだけど、横綱のバンデージ巻いたの俺だから。

――あ、そうだったんですか。

山田　なんで、横綱がスルーで秋山が言われてるのかもわからない。巻き方が違うのかって話だから。なんなら、横綱のほうが手がデ

カいからテーピングも一本全部使ってるし。

――ファンもそれくらい疑心暗鬼になってるんでしょうね。

山田 「EDWIN」のロゴが剥がれてたっていうのもツッコまれる原因なのかもしれないけど、ビジネス的にはスポンサーだから、ロゴがない状態でテレビや新聞に出たら困るのはわかる。だけど、それは俺には関係ない話。ロゴが剥がれたことを「なんで、ほかの人間やスタッフに言ってくれなかったんだ」と言われても、それは立会人がいることだし、グローブチェックもあとでやることだから。

――主催者サイドがチェックすることですね。

山田 そう。試合のギリギリで「闘うぞ！」ってなってるときに、セコンドが「大変だ！ ロゴが剥がれてる」とか言わないでしょ。

――そこはあまり気にはしないですよね。

山田 俺は（鈴木）悟のセコンドにもついてたんだけど、魔裟斗君との試合はK―1ルールだったからグロービング（グローブ装着）してテーピングが終わったら、悟は青コーナーだったから青のテープをする。その上から「EDWIN」って書いてるテープを巻くんですよ。

――テーピングにも「EDWIN」のロゴが入ってるんですか。

山田 そう。総合も同じようにグロービングチェックしてテーピングして、その上に「EDWIN」のテープを巻けば、剥がれるとかの問題はなかったと思う。

――なるほど。

山田 だから、ロゴとバンデージに関しては、べつになんの不正もない。TBSがそのときの映像を持ってるんだったら、俺は公開したほうがいいと思う。一般の人は見られないだろうけど、各マスコミとか記者会見やったときに見せてもよかったんじゃないかなって。

クリームを塗ってる映像は 俺は公開したほうがいいと思う

――関係者の中でも山田さんだけ映像を見せてもらってないんですよね。

山田 ミーティングに呼ばれて行ったんだけど、俺だけが見せてもらえなかった。だから、見てない立場としては、どういう状況だったのか、どういう雰囲気だったのかもわからないので、それに関しては何も答えられない。ただ、いくら「故意じゃない」と言っても、現役の選手が試合の10分前とかに、そういうのを塗るのはおかしいと思う。

――ファンに公開するのはともかくとして、マスコミには見せたほうがいいっていうのが山田さんの考えなわけですね。

山田 俺はそう思う。ここまで明らかになって文書とかも出てるのに、その文書に書いてあったのは、グローブを取りに行ったのはセコンド2名で「山田武士、円馬秀貴」と書かれてある。塗ってるときにいたのは「セコンド2名」と書かれていて名前は書いていない。そのくだりだけを読むと、俺も現場にいたんじゃないかと思う人がいても不思議ではないでしょ。

――普通はそう思っちゃいますよね。

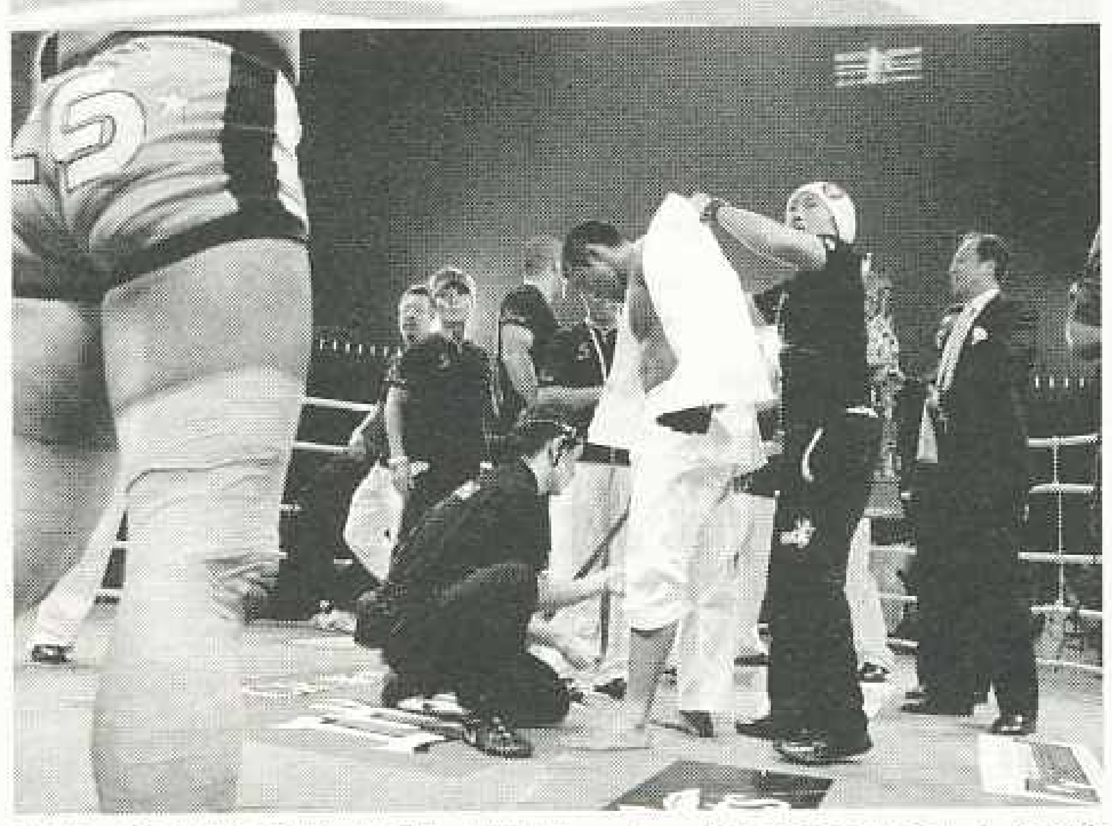
山田 俺は塗ってもいないし、現場にもいなかったから。

――そのときはすでに鈴木（悟）選手のセコンドにつかれてたんですよね。

山田 そう。だから、セコンドっていうのは、どこまでがセコンドというのかFEGには問いたい気持ちもある。実際、あの日のセコンドは清原（和博）さん、円馬選手、俺。この3人がセコンドと呼ばれる者なのに、一緒に入場して下にいた取り巻きもセコンドなのかって話になってしまうんで。それだったら「セコンドパスはなんなの？」って言いたくなるし。もしかして、俺のせいにしようとしてるのかなって。

――その文書を読んだらそう思いますよね。秋山選手は試合前に身体に何かを塗ってはいけないというのを知らなかったと言ってますけど、山田さんはその発言を聞いて率直にどう思いました？





桜庭vs秋山戦の試合中には山田トレーナーの「すべらせて！」との声が何度も聞かれたため、ファンのあいだでは「確信犯じゃないか？」との声も挙がっていたが、これには山田トレーナーは「知ってたら言わないって」と苦笑い。クリームを塗っていたことを知らない山田トレーナーは試合直後は桜庭の抗議に対し納得のいかぬ表情を浮かべていた。

山田 ……まあ、彼はホントに天然だから（笑）。

――そうらしいですね（笑）。

山田 それは置いといて、さっきも言ったように俺は現場を見てないし、彼がどういう状態で塗ってたのかわからないから答えようがない。いまマスコミはFEGからの発表で「故意じゃない。過失だった」ってことを発表して、それを前面に出さざるをえないんだろうけど、でも、俺の中では塗ったか、塗らないかだから。塗ったと証拠が出たのは真実だから「それは反則でしょ」と。そういう意味では、自分が知らなかったというだけで済まされる問題ではないし、トレーナーとして桜庭さんには本当に申し訳なく思ってます。

――ほかの媒体でも「もし逆の立場で自分側の選手が同じようなことをされたら納得できない」とおっしゃってましたね。

山田 ホント、そのとおりです。謝って済む問題じゃないですけど、セコンドとして責任も感じてますし、反省してます。

――山田さんは、当初疑惑が出たときに「塗ってない」と言っていたのは現場にいなかったからですか？ それとも秋山選手を信用していたからなんですか。

山田 はなっから塗るわけがないっていうのが頭にあったので、そう言うしかなかったし、それにあの日の試合の展開はまさに想像どおりだったので。

――内容的には圧倒してましたからね。

山田 「黒船」で石田（光洋）とずっとスパーリングしてて、石田のタックルも同じように切ってたし。全部、桜庭戦のときのように後ろを向いて足をスポーンと抜いたりしてたから。体重差もあるとは思うけど。

――理想どおりの試合運びだったわけですね。

山田 そう。それで桜庭さんから「すべる」というアピールがあったわけだけど、塗ってた

のを知らなかった俺からしたら「いつもの練習どおり」にしか思わなかった。何をそんなに騒いでるんだっていうのが正直なところで。

――試合中に桜庭さんがタイムのポーズをとったり、「すべるよ」って秋山選手にアピールをしたことは、どう思って見てました？

山田　それは試合中だから聞こえてない。パウンドを受けていたときにアピールしていたのも「すべる！」と言ってたのはビデオを見直したらわかったけど、そのときは（ケスタティス・）スミルノヴァス戦のように「止めるな！」と言ってるのかと思ったし。

――スミルノヴァス戦のときも同じようなシーンがありましたからね。

山田　そのときもレフェリーは止めなくて、そのまま殴られて、スミルノヴァスが疲れたところで逆転したんで。だから、同じようにだろうなと。それに、こっちの概念に「すべる」っていうことはないから。

――そうでしょうね（笑）。

山田　それと、俺の「すべる」発言も問題になってるみたいだね（笑）。

――試合中にセコンドの山田さんが何度も「はい、すべらせて」と言ってるのが中継でも確認できますね（笑）。

山田　それは実際に言ってるから。意味が違うんだけど。

――その「すべらせて」発言は単純に攻撃の指示なんですよね。

山田　地面を這うように、地面をするように蹴ろっていう意味。だって、知ってたら言わないでしょ？（苦笑）。

――確かに（笑）。

山田　小学生や幼稚園児じゃなくて、ある程度、社会的教育を受けた人間なら冷静に考えたらわかる話だと思うんだけど。

――その「すべらせろ」っていうのは指導者によって言い方は違ったりするもんなんですか？

山田　どこのジムでどう言ってるかはわからないけど、俺は（立嶋）篤史くんのトレーナーをやりだした十何年前から言ってる言葉だから。俺の中ではあたりまえのように使ってるし。今回のことで「そんな言葉はない」とか言われたから「へぇ～、そうなの」と思ったぐらいで。

――なんで言われるかわからないと？（笑）。

山田　だって「床をするように蹴れ！」とは言いづらいでしょ。だったら「すべらせろ！」って言ったほうが早いから。あと、俺の声は凄い通るって言われるんだよね（笑）。

――確かによく聞こえますよね（笑）。

山田　ただ、その件に関してはウォームアップ中に俺が秋山にミットを蹴らせてるときに「すべらせろ」と言ってるVTRがあったみたいで、そのVTRは桜庭さんのところにも提出してるって聞いてるし。桜庭さんは、それに関しては理解してもらってるみたいです。

――さっき、あり得ない話としてメリケンサックの話をしてましたけど、バンデージの巻き方が分厚く見えると言われている件に関してはいかがですか？

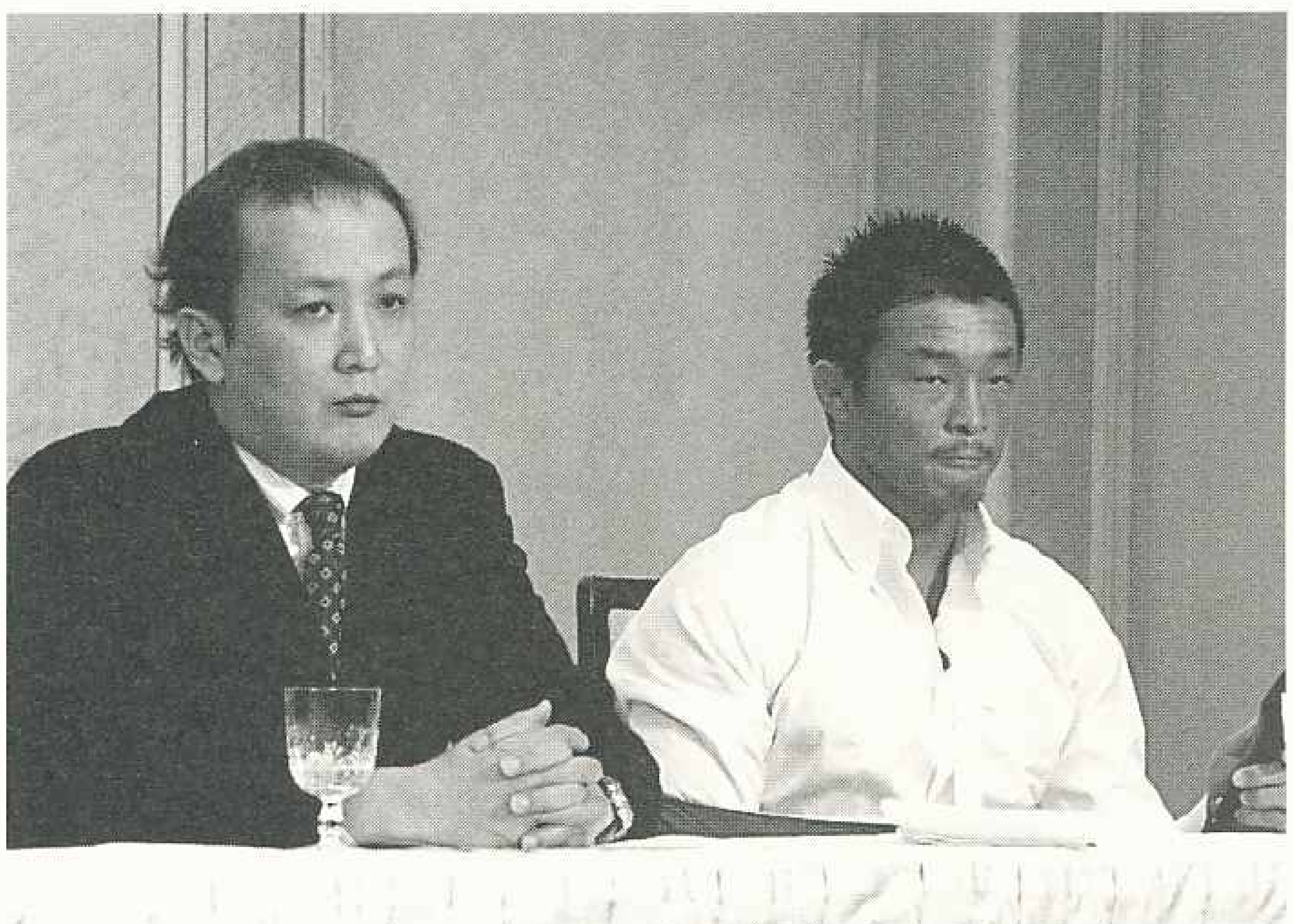
山田　あれは実際、分厚く巻いたんです。今回の作戦は殴るって決めてたんで。ああいう薄いグローブで1ラウンドが10分、2ラウンド5分あって、KOできればいいけど、15分間ガチンコで殴り合うと考えたら、やっぱり手が壊れちゃいけないなっていうのがあったんでキッチリ巻いただけのことで。で、これはほかでも言ったけど、秋山がスミルノヴァスと闘ったときのグローブのサイズは2Lだったから。

――で、桜庭戦のときは3Lのグローブを使ってたんですよね。

山田　そう。スミルノヴァス戦のときは普段の巻き方。常に、バンデージをちゃんと巻けば彼は2Lだから。で、マヌーフとやったときはバンデージを取った。殴ろうと思ってないから。それで、そのときはLを使ったんです。

――なるほど、なるほど。

俺は実際、「すべらせて」と言ってるけど、それは意味が違うからね



山田　で、今回の桜庭戦は普段の2Lよりもしっかり巻いたから3Lになっただけで。ただ、3Lのグローブ見たときは俺だって「デカッ、なんだこりゃ」って思ったけど（笑）。

――秋山さんの会見で「バンデージの量を平等にすべき」という格闘技専門誌の記者から質問が出たんですが……。

山田　それは最初から平等だから。支給されるのは各選手一本で、こっちは支給されたバンデージを使ってるだけだから、そこはルール的に問題ないからね。

――それぐらい格闘技専門誌と言われてるほうも冷静さを失なってる状況なんですよね。

山田　なるほどね。みんな厚く巻くことでどうこう言うけど、厚く巻くことで何ができないっていうと、まず握れない。クラッチが組めないってことだし、大きいグローブになれば寝技が不利になるし、どっちを選択するかってことで、俺らは殴るほうを選択しただけで。

――試合後のバックステージで、グローブはちゃんとチェックされてたんですよね。

山田　試合後、裏で身体を触られてチェックを受けたんだけど、そのときに秋山の腕が折れてたのがわかったし、痛いからって俺がバンデージを切ったし。それはカメラも撮ってたし、みんながいる中で切ってるからなんの問題もない。

――一連の会見後、秋山選手とはお話はされてるんですか？

山田　昨日、一緒にメシを食いましたよ。

――どういったお話をされたんですか？

山田　「迷惑をかけました」と。やっぱり、たくさんの人に迷惑をかけたのは事実だから、俺も知らなかったとはいえ責任がないとも思わないし。秋山は名前もあるから騒ぎも大きくなってるんだろうし。そういう状況で、ジムにも迷惑がかかるし「もう見ない」、「教えない」とは言った。

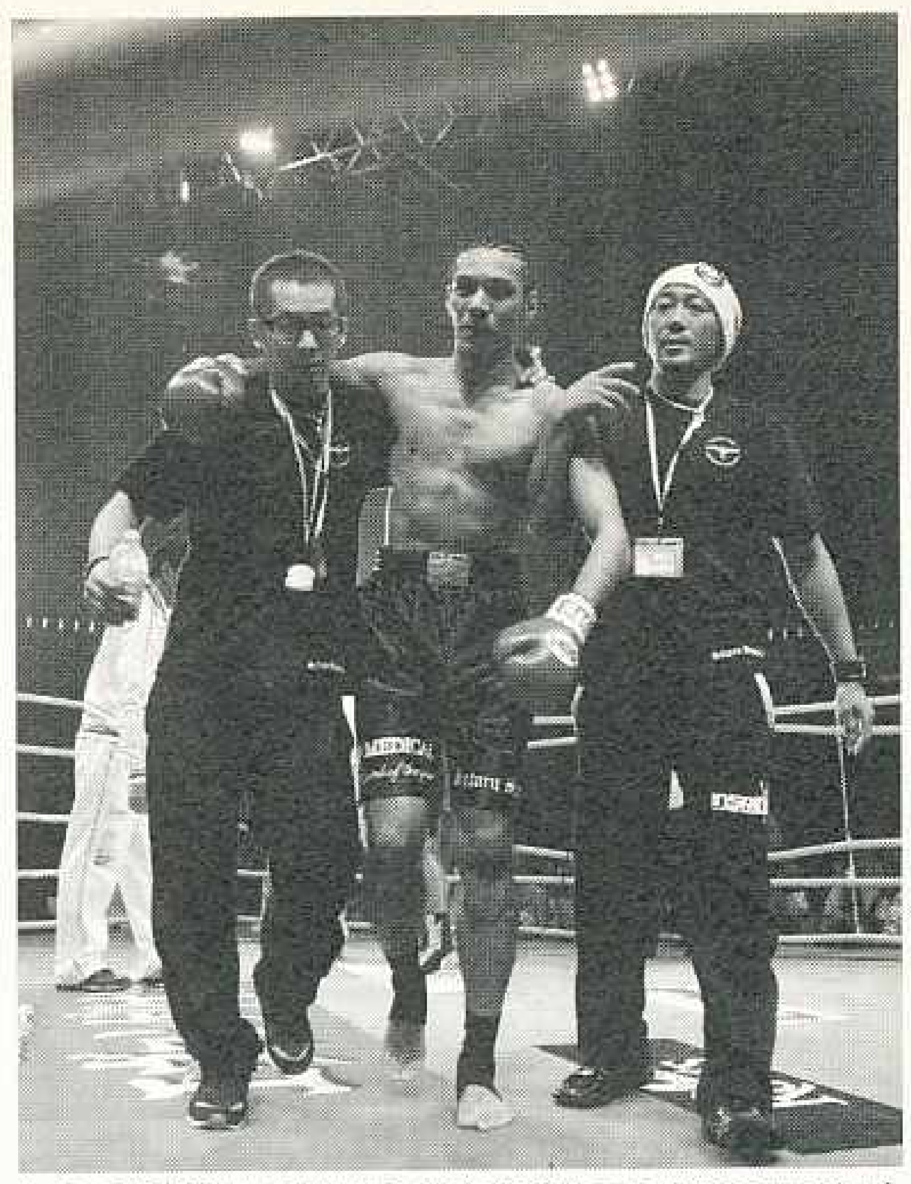
――もう教えることはない、と？

山田　「教えない」っていうか、「教えられない」っていうのが正直なところで。

――ほかの媒体では、今後について、まだどうするか悩んでるって言ってましたよね。

山田　本人と話をしたからといって、すぐに絶縁するわけでもないし、いろいろ変わっていくもんだと思う。どっちにしろ、いまは手も折れてるから練習もできないし。ただ、現状で言えば「いままでどおり教えるのは無理だよ」っていうのはハッキリ言った。

秋山には「現状ではいままでどおり教えるのは無理」ってハッキリ言った



セミで魔裟斗と対戦する鈴木悟のセコンドについていたため秋山がクリームを塗っていた現場にはいなかった山田氏。「そんなことをするとは思ってなかった」という山田氏は疑惑発覚まで秋山を信じ続けていたが……。

——それで秋山選手はどんな感じでした？

山田 凄いガッカリしてたし、俺がいないとキツいみたいなことは言ってた。ただ、それ以上に周りの人間にも迷惑はかかってるわけだから、秋山が「そばにいてください」って言って「いいよ」っていう問題でもないし。やっぱり、秋山のことはFEGも守ってる部分があるだろうし、チーム・クラウドもあるし、彼が所属してるプロダクションもあるし、みんなが守っている。でもへんな話、俺は剥き出しだからね（苦笑）。

——かばってくれる組織はないですよね、山田さんの場合。

山田 そうそう。ボクシング協会は俺を守らないし、ジムも俺に対して怒りもしなければ放任みたいな感じだから。そうなったときに自分のケツは自分で拭かなきゃいけないから。そのまま知らぬ存ぜぬで進んで行くと「黒船」船長としても良くないし。ほかのメンバーもいるわけだし、このままじゃいけないなとは思ってる。

——「黒船」で一緒に練習をしてる川尻選手や石田選手のブログまで荒らされたりしてたみたいですからね。

山田 そうみたいだね。でも、彼らは知らないし……というか俺が知らないものを、大晦日、ほかの場所で闘ってた人間たちはもっと知らないでしょ。ただ、関係ないから秋山が全部悪いとは思わないし。彼は彼なりに反省しなきゃいけないと思うし、俺は俺なりに反省するって考えたら、いまのままサラッと流して、練習して一緒にリングに上がることはできない。

——で、秋山選手は無期限出場停止ということなんですが……。

山田 無期限と言っても8ヵ月の場合もあれば、3年の場合もあるわけだから。もしかしたら一年経って凄い反省したのを見て、時の流れがまた二人を引き寄せて普通にコンビを組んでリングに上がってる可能性もあるから「絶対にもうやらない」とは本人にも伝えてないけど。「絶対やらないぞ」って言って、やったら嘘つきになっちゃうからね。

——難しいところですよね。今回の一連の騒動で山田さんは落ち込まれたりとか、考え込んだことってあると思うんですけど。

山田 それは、塗ったってことを知らなかったこと。それに関しては落ち込んだ。俺は塗ってないと思ったから「黒船」のメンバーみんなに「大丈夫だ」と言ったし、みんなも「山田さんがついてて、そんなことさせるわけがない」みたいに言ってくれたし。俺も「塗るわけないでしょう」って自信満々に言ってたんだけどね……（苦笑）。

——山田さんの性格だったら、その現場を見たら止めてたでしょうしね。

山田 普通に止めるし「何してんの⁉」って言うと思う。ただ、自分が現場にいなかったとはいえ、セコンドとして俺以外に止められる人間がいなかったというのは俺の力不足だと思ってる。悔しいけど。

——今回の件に限らず、いまの総合格闘技界に関する不安な部分って何かありますか？

山田 極論で言ったら「衣」を着るか着ないかをギリギリまで決めなくていいっていうのは、スポーツマンとしてはどうかなと思う。「なんで片一方が柔道衣着て、片一方が着てないの？」って。UFCとかではあり得ないし。あとセコンドも誰がついてもいいっていうのはちょっと……。

——3人までっていう人数の制限があるぐらいですよね。

山田 いまの体制だと3人を前もってピックアップして名前を提出すればパスはもらえるわけで。それもちょっとおかしいと思うし。あとは、やっぱりライセンス制度はなきゃダメだと思う。トレーナーもそうだし、セコンドも選手も。プロテストじゃないけど「昔、何々やってました」で試合に出してたら事故は起きると思うし。

——砲丸投げ出身とか、最近では元野球選手のK－1挑戦の話も出てますし、そのへんも難しいところですよね。

山田 でも、まだ総合は歴史も15年ぐらいだし、試行錯誤の中でやってるとは思うけど。あとはテレビっていうものがあるかぎり視聴率を獲らなきゃいけないから、サプライズを作らなきゃしょうがないっていうのもわかるし。ただ、業界としては変えていかなきゃいけないところって凄くいっぱいあると思う。靴履いていいのか履いちゃいけないのかとか、1ラウンド10分、2ラウンド5分というルールもそうだし、ストライカーは不利ですからね。

——ジャッジのつけ方も難しいし、

山田 とにかく平等で闘うようにしなきゃいけないんだと思う。ただ、それをいますぐ一気に直せって言っても無理なのはわかるし。有名人を上げるのもどうかと思うけど、興行側としてはお客が入らなきゃ次はないわけだし、難しいところだよね。

——選手もそれがわかるから、なかなか反論もできないんでしょうし。

山田 これから大変なんだろうと思うけど、そこは俺には関係ないんで。俺はトレーナーなだけで選手をどこに出したいとかはないし。選手が来て「何やってんの？」「総合やってます」「どういう試合したいの？」「こういう試合がしたいです」「じゃあ、こうなろうね」とか言うだけだから。

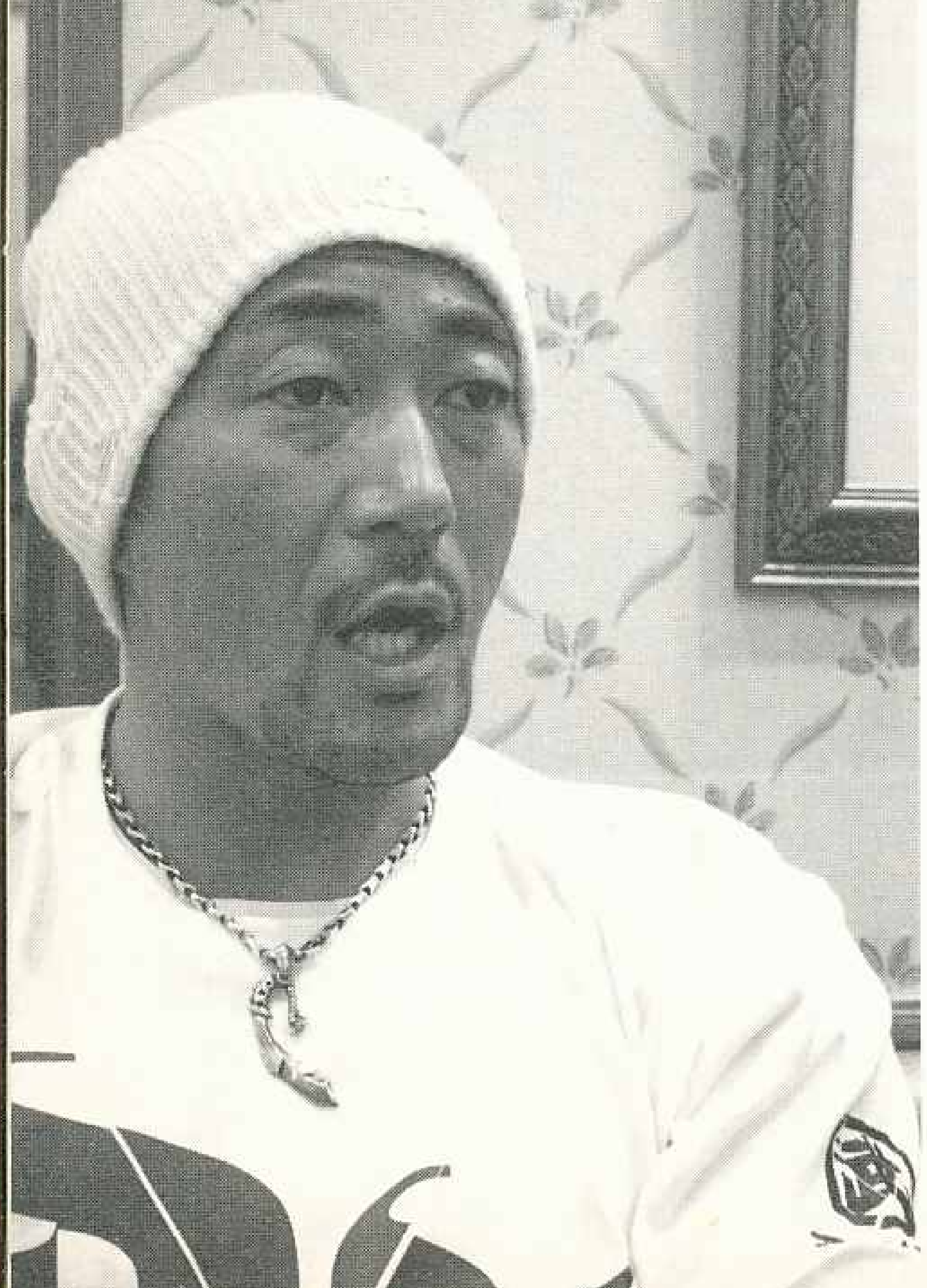
——もともと山田さんはトレーナー業を22歳の頃に始めたってことですけど、その前身についておうかがいしたいと思うんですが……、

山田 昔の話はやめましょうよ（苦笑）。

——教えてください。お願いします！（笑）。

山田 前から言ってるんだけど、過去の話をするのは嫌なんで。

——そうなんですか？



現状では 秋山と一緒にやっていくつもりはな

日が経つにつれ桜庭さんに対する謝罪の気持ちが増してきてます

秋山と一緒にやっていくつもりはない

山田　篤史くんのトレーナーを始めて「すべる」って教わったり（笑）、そういうのも歴史って言えば歴史なんだけど、昔こうだったって言うのは好きじゃないんで。

――山田さんは若い頃、かなりヤンチャだったんだろうなぁっていうのは、これまでの話からも充分うかがい知れるんですけど（笑）。

山田　いやいや、そんなことないですよ。

――でも、それだけいろんなところから選手が集まって、それを束ねるっていうのは、胆力っていうか、そういうのがないとできることじゃないと思いますし。

山田　みんなにも、それは言われるんだけど、まとめようなんて思ってないから。だって、奇人変人ばっかだから（笑）。

――格闘家は奇人変人が多いって言いますからね（笑）。

山田　みんな凄くいい子だけど、やっぱり我が強くないとプロではいられないし、リングで殺し合いはできないから。俺は、まとめようなんて全然思ってなくて、ただ一緒に練習して、一緒に殴り合うだけだから。ただ、（トレーナーに）向いてるんじゃないかとは思うけどね。俺は怒らないし。

――え、怒らないんですか？

山田　みんな、俺の外見とか見て凄い怒ったりすると思ってるだろうけど、ホント一回も怒ったことないから。声を荒らげたことも一度もないし。

――ちょっと意外ですね（笑）。

山田　普通、指導者って「俺はこうやってやってきたんだから、こうしろ！」とかいう人が多いみたいだけど、俺はそういうことも言わないし、できないことがあっても怒らないから。

――それは立嶋さんのミットを持った頃からそうなんですか？

山田　そう。篤史くんにボッコボコにされたし、ローは痛いし、ヒザはこうやるのかとか一緒にやりながら覚えていったから。だから、トレーナーとしての最初のスタンスとしては怒鳴り散らすことはやらなかった。トレーナーっていうのは一緒に勉強していくもんだと思ったし、教えるよりも選手のことを理解することが重要だと思ってる。

――見た目だけで判断しちゃいけないと（笑）。

山田　ホントそうだよ（笑）。

――いまは「JBスポーツ」に雇われながら、「チーム黒船」として頼まれた選手に個人的に教えるってかたちなんですか？

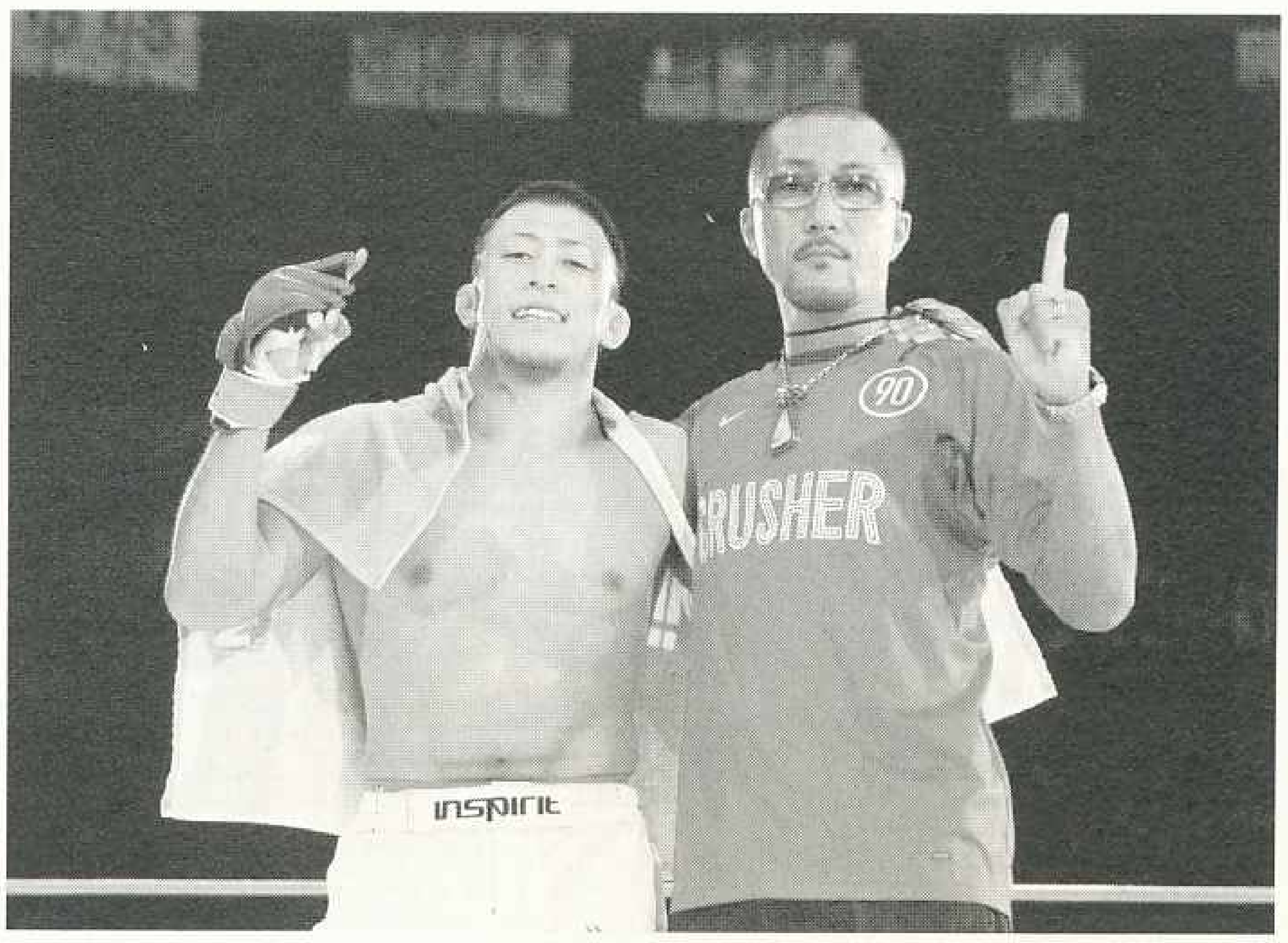
山田　そう。よく言われるんだけど、金なんか1円も発生してないから。

――そうなんですか？

山田　なんで「お金もらわないんだ」とか、「アイツ、金いっぱいもらってんじゃねえか？」とか言う人も中にはいるけど、それはないんで。なぜ、そういうふうにしてるかというと、俺は森川ジョージに義理があるから。

――森川ジョージさんといえば『はじめの一歩』の作者としても有名な漫画家ですよね。

山田　その森川ジョージが「JBスポーツ」のオーナーだから。そこで週3回行なわれてる午後1時から5時半ぐらいまでの合同練習を「チーム黒船」って言ってやってるだけなんで。好き勝手やって俺だけが小遣いを稼ぐのは義理を欠くから。



やまだ・たけし■1973年2月7日、埼玉県出身。「JBスポーツ」のボクシングトレーナーを務めながら、同所にて「チーム黒船」船長として、秋山成勲のほかに川尻達也、石田光洋、鈴木悟らを指導している。トレーナーとして初めて手掛けたのが『kamipro』NO105にて田村潔司と対談したキックボクサーの立嶋篤史。

――なるほど。森川先生との付き合いは、もう長いんですか？

山田　長いね。もう、13～14年になるかな。

――そういえば、最近、森川先生の漫画の中に山田さんに似たキャラクターが出てるみたいですね（※『週刊少年マガジン』に連載中の『はじめの一歩』に登場するマロン栗田は山田氏がモデルとされている）。

山田　あれは「黒船」をモチーフにして描いたのかもしれないけど、あれ描いたの一カ月前だからね。森川先生も絶好調だった「黒船」がこんなふうになると思わなかったでしょ（笑）。

――そうでしょうね（笑）。そもそも、森川先生と出会ったきっかけはなんだったんですか？

山田　いや～、先生のことは話さないほうがいいと思う。森川先生と俺は会長と弟子の世界だから。その延長で先生から気に入ってもらったのかなんなのかわからないけど「トレーナーにならないか？」って言われて、実際にトレーナーになって、いまに至るから。

――いま「チーム黒船」のトレーナーは山田さん一人なんですか？

山田　そう。べつに必要ともしてないし。トレーナーって棒とか持って「いけいけ～！」ってやってるイメージがあると思うけど、「黒船」ではそれは許されないから。

――トレーナーも選手と同じように身体を動かさなきゃいけない、と？

山田　いや、同じようにというか俺が一番に走ってなきゃいけないし、なんの回数でも俺が一番にやらなきゃいけないと思ってるから。いまはまだ動けるし、走れるし。みんなと同じメニューができるんだったら、それでいいんじゃないかって。俺はいま33歳だけど、これから平成生まれの一回りとか違う子がドンドン来るようになって、40歳とかになったら、さすがにキツイかな（笑）。

――40歳になっても普通にやってそうですけどね（笑）。

山田　まあ、いけるとこまで頑張りますよ。

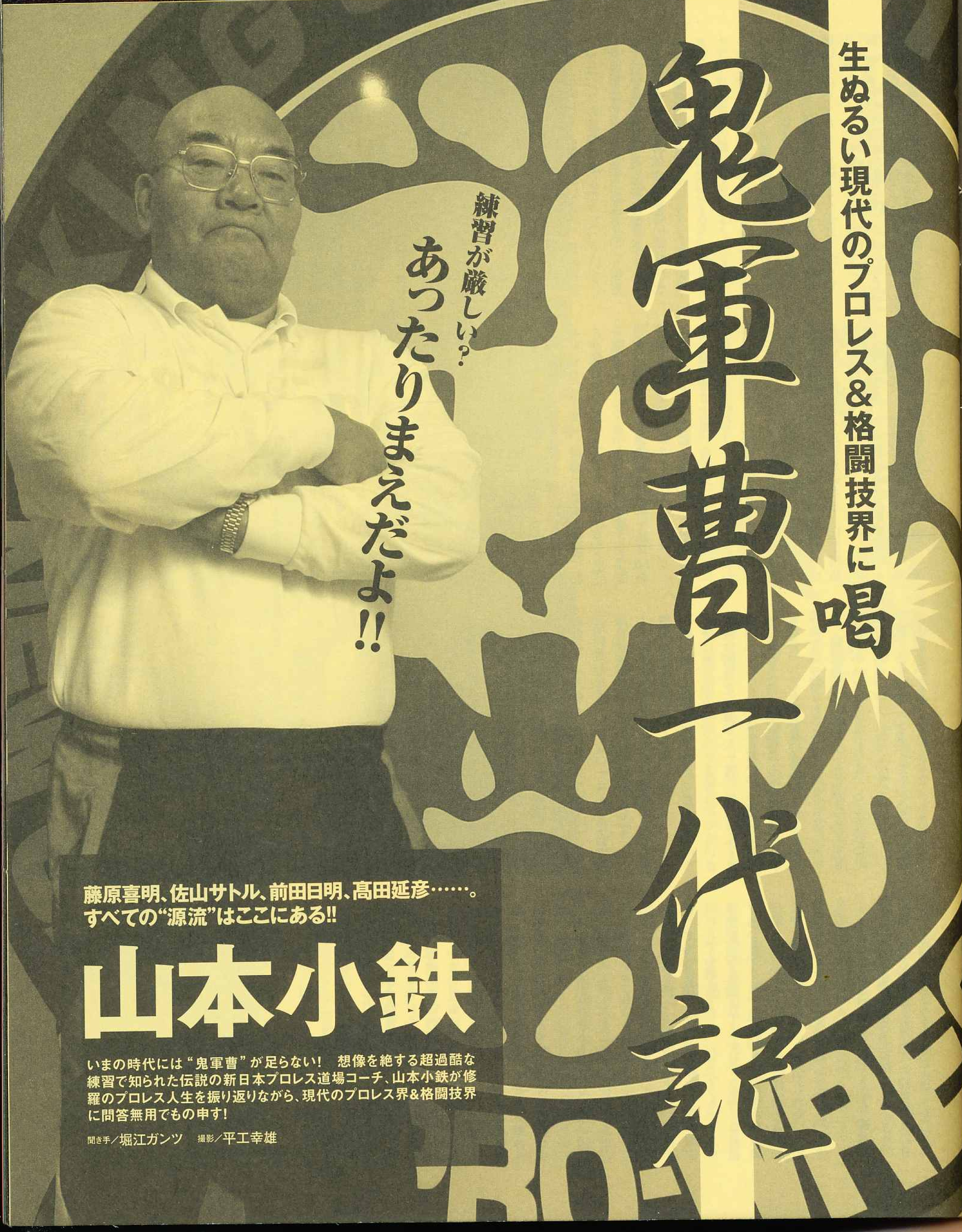
――最後に聞きたいんですが、山田さんには直接関係ないかもしれませんけど、秋山選手と桜庭選手は再戦すべきだと思いますか？

山田　それは桜庭さんが決めること。俺が決めることでもないし、すべては桜庭さんが考えたとおりにやればいいと思う。それを受けるか受けないかは秋山が決めることで。とにかく、いまの秋山に発言権はない。俺自身、日が経つにつれ桜庭さんに対する謝罪の気持ちが増してきてる感じですし。今後に関しては、すべて桜庭さんの納得するようなかたちでやっていくべきでしょうね。

――わかりました。今日はありがとうございました！

【07年1月22日／都内『サイゼリア綾瀬店』にて収録】

プロレス初心者・松下ミワが今回は"血の洗礼"を受ける!?



生ぬるい現代のプロレス&格闘技界に喝

鬼軍曹一代記

練習が厳しい?
あったりまえだよ!!

藤原喜明、佐山サトル、前田日明、髙田延彦……。
すべての"源流"はここにある!!

山本小鉄

いまの時代には"鬼軍曹"が足らない! 想像を絶する超過酷な練習で知られた伝説の新日本プロレス道場コーチ、山本小鉄が修羅のプロレス人生を振り返りながら、現代のプロレス界&格闘技界に問答無用でもの申す!

聞き手/堀江ガンツ 撮影/平工幸雄

―小鉄さん！　今日はよろしくお願いします！

小鉄　フフフ。いまさら俺に何を聞こうっての？

―いやいや、いま隆盛の格闘技ブームの源流は、小鉄さん時代の新日本プロレス道場にあるんじゃないかと思ってまして、道場で〝鬼軍曹〟と言われた頃の話を含めてうかがいたいんです。

小鉄　俺は鬼じゃないよ！　いまは〝ホトケの小鉄〟だよ（笑）。

―いまはホトケでしたか！　たしかにヘアスタイルは仏様というかお坊さんなんですが……（笑）。でも、当時の選手の誰に聞いても、小鉄さんは「鬼だった」と言いますよね？

小鉄　いや、だってさ、コーチが練習で竹刀を持つなんて当時はあたりまえのことだよ！　いまは相撲部屋でさえ「新人が逃げないように」と親方が竹刀を持たないでしょ！　そういう精神的な部分から鍛えるコーチがいなくなってしまったんだね（と嘆いて）。

―スパルタ的な練習を自粛する傾向ですよね。

小鉄　それじゃあ情けないよ！　昔の新日本プロレスの練習は厳しかったっていうけど、あれはあたりまえだったんだよ！　俺だって、いま65歳だけど、まだ練習してるよ！

―こんなゴツイ身体の65歳はいませんよ。

小鉄　朝だって毎日、足に1・2キロの鉛が入ったクツで5キロ歩いてんだから！

―1・2キロの鉛！　なぜにそこまで（笑）。

小鉄　それからフロに入って、食事して、少し家で休んで、道場に行って練習するのが日課ですよ。レスラーを辞めてからはテレビやラジオ、講演の仕事もするけど、俺が細い身体だったら、お客さんもガッカリするじゃない？　でも常に身体を鍛えていれば、言葉だって説得力が出る。そのくらい俺はこの職業に誇りを持ってるし〝プロレスラーは最強〟だと思ってるからね。

―……ただ、ここ数年は総合格闘技での敗北などが続いて〝プロレスラーは最強〟という看板が覆されてきてる現実もありますよね。

小鉄　だから情けないって言うんだよ！　レスラーは強くなかったらダメだろ？　強靭な身体で、スタミナがあって、重い体重で、打たれ強くて、殴られ強いのがプロレスラーなんだよ。これはあたりまえのことだよ！

―お客さんはそういう超人的な部分を見たくて、お金を払ってるわけですからね。

小鉄　そう！　俺らは〝お客様〟に食べさせてもらってるワケだからね。お客様は高いお金でチケットを買ってくれるんだから、それだけの気概を見せなくちゃいけないよな。俺の考え、間違ってる？

―いや、おっしゃるとおりです。

小鉄　そうでしょ！　いま野球選手でも高い年俸をもらっていながら、「練習がキツい」なんて言うヤツもいるけど、俺からしたら「じゃあヤメろ！」と言いたいよ、バカヤロー!!

―キツイならヤメろ！　と。

小鉄　でも、本当に一流の選手は、イチローや松井（秀喜）にしたって、プロの技術を見せるじゃない。阪神の金本（知憲）なんか怪我や骨を折ってても、「負けるもんか」と強硬に出場する。俺が阪神のオーナーなら、ああいうプロ意識のある選手には10億円払ったっていいよ！

―プロレスラーにもそういった気概の選手は必要ですよね。

小鉄　そうでしょ？　この不景気なプロレス界で「俺が一世風靡してやる！」と奮い立ってさ！　『PRIDE』やK―1に「誰でもかかってこい！」と乗り込んで、相手をブチのめして、「どうだプロレスの強さは！」とアピールできる選手がいたら、10億円払ってもいいじゃない？

―そのくらいの価値はありますよね。

小鉄　でも、いまの選手は試合で負けてたってマイクを持つじゃない？　俺からしたら「ふざけんな！」だよ。相撲の高見盛関じゃないけど、負けたらショボンと帰るのが普通だろ。

―小鉄さんご自身は、そういった気概は、若い頃に徹底的に叩き込まれたんですか？

小鉄　そんなの普通のことさ！　ウチは貧乏だったから、俺は小学校5年生の頃から新聞配達をやってたんだよ。俺は10人兄弟の6番目だから両親にもかまわれなかった。小学校時代から月謝を払ったり、ズボンの用意をしたり、自分のことは自分でしてきたからね。

―それは精神的にもかなり鍛えられるでしょうね。

小鉄　新聞を配ってるときに、家からおばさんが出てきて、「お兄ちゃん、ご苦労さんだね」と声をかけてもらったり、当時、雨が降ったときに新聞包むナイロン袋なんてないから、配達した濡れた新聞を見て「ダメじゃない！」と頭ごなしに怒鳴る人もいたよ。そういう、嬉しさも悔しさも知ってるから、「人をイジメてはいけない」とか、「助け合わなきゃいけない」なんて社会道徳は自然と覚えてきた。普通のことさ！

―小さい頃から、社会経験を積んで礼儀や道徳を身につけてきた、と。

小鉄　俺は大学は出てないけど、そういう部分は身に染みて知ってるから。でもいまの国会議員とか植草（一秀）教授なんて見てみろ！　エリートで賢い野郎が女子高生を盗撮したり、国会議員も不正で金をごまかしたり、とんでもない世の中さ。アイツらみんなブン殴りたくなるよ！

―植草教授を粛正！　たしかにAVすら見ない小鉄さんからしたら、とんでもない話ですよね。

小鉄　あんな大人を見てたら、いい子が育つはずないだろ？　そんなニュースを見てたら、子どもだって「大人は年中インチキをやってるクセに、偉そうなことを言いやがって」とナメられちゃうだろ。だから、俺はいま全国の小学校を講演で行脚しようと思ってるんだよね。

―鬼軍曹の全国行脚ですか！

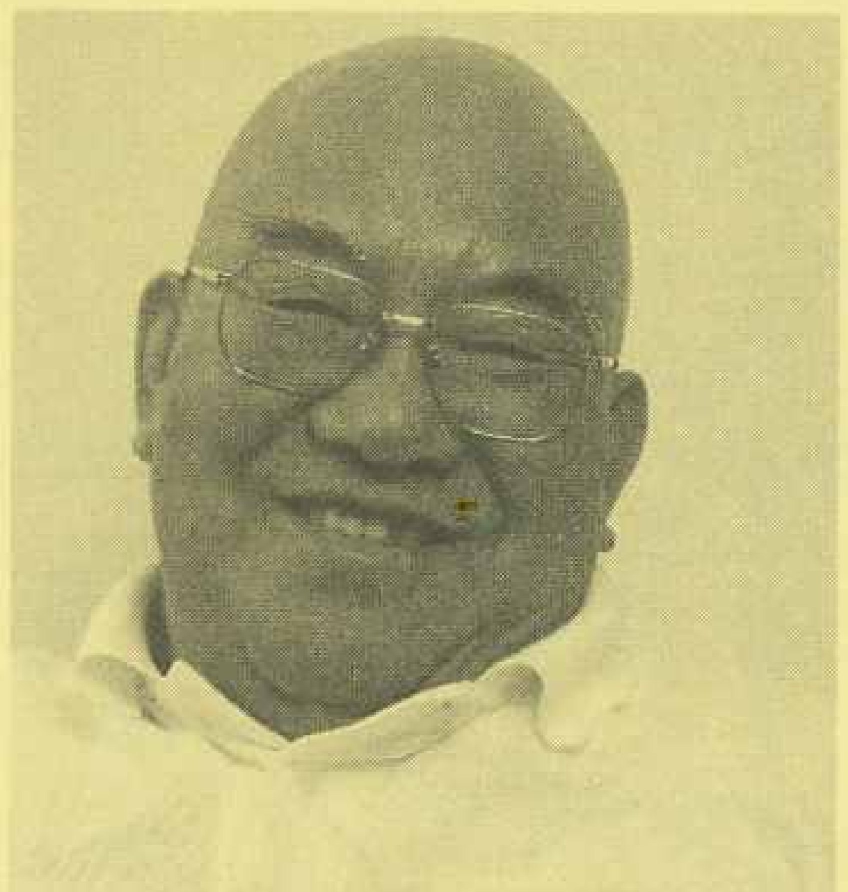
小鉄　いまの社会は小学生から正さなきゃ直らない。学校の先生も子どもにバカにされてるご時勢だから、俺みたいなコワモテのオヤジが一喝すればいいんだよ。俺みたいなオヤジが何百人といれば、この国は絶対に変わるよ！

―小鉄さんが何百人もいたら、凄い国になりますよ（笑）。ところで、小鉄さんはどうしてプロレスラーになったんですか？

小鉄　そんなの貧乏だからさ！　極論すれば、男は頭を使ってお金を稼ぐか、身体を使ってお金を稼ぐかじゃない？　俺はボディビルでも鍛えてたし、バスケットボールや新聞配達でも鍛えてたから、運動には自信があった。それで昭和28年頃、他人の家のテレビでプロレスを見せてもらったとき「ここから社会に入るのがいいかもしれない」と直感して、すぐに日本プロレスに入門したんだよ。

―当時の日本プロレスも、さぞや練習は厳しかったと思いますが。

小鉄　あったりまえだよ！　初日からいきなりスクワットを1500回もやったし、大



どーだい、この小鉄スマイル！　鬼軍曹なのに、プライベートでは「毎日、手を握って眠る」ほどの愛妻家でもあるから、その人間的奥深さはハンパではない。

プロレスラーは〝強さ〟がなきゃダメさ！　こんなのはあたりまえのことだよ!!

木金太郎さんとスパーリングやらされてメチャクチャにされたんだから。

――初日から、セメントの強さには定評がある大木金太郎さんですか！　それはムチャですねぇ。

小鉄　でも俺は「いまに見てろ！」と思ったし、「この業界は身体を大きくして鍛えないと務まらないな」と実感したよね。だから、練習が厳しくても逃げなかったし、逆に身体が大きくなるたびに喜びを感じた。スクワットなんか最高で7000回はやったからね！

――な、7000回！

小鉄　回数をやればいいわけじゃないけど、そういうズバ抜けた身体能力を見せなかったらダメさ！　知り合いに、登山家でプロスキーヤーの三浦雄一郎さんという人がいるけど、いま74歳で4キロのクツを履いて、毎日山を歩いてるってんだから、俺も「チキショー、負けるもんか！」って思うよね。

――とんでもない人と張り合いますね（笑）。でも、「コイツがここまでやるなら俺もやる」という競争心はたしかに大事ですよね。

小鉄　だから、何ごとにもライバルは必要さ。俺には星野（勘太郎）さんがいたし、昭和のプロレスラーはたいしたモノは食ってなかったけど、みんな凄い身体をしてたもん。

――星野さんも小鉄さんもパンパンにはち切れんばかりの凄い身体でしたから。

小鉄　星野さんとアメリカ遠征に行ったときも、控室で二人で黙々と練習ばっかりしてたら、外人から「コイツら、狂ってる」って呆れられてたよ。

――星野さんと小鉄さんのヤマハブラザーズは海外でも一世を風靡しましたよね。

小鉄　練習も試合もガンガンやってたから、アメリカでもお金を稼いだし、一週間に1000ドル、2000ドルは稼いでたからね。

――アメリカ遠征のときはテキサス州のダラスを牛耳っていた、〝鉄の爪〟フリッツ・フォン・エリックの自宅にもよく行っていたそうですね。

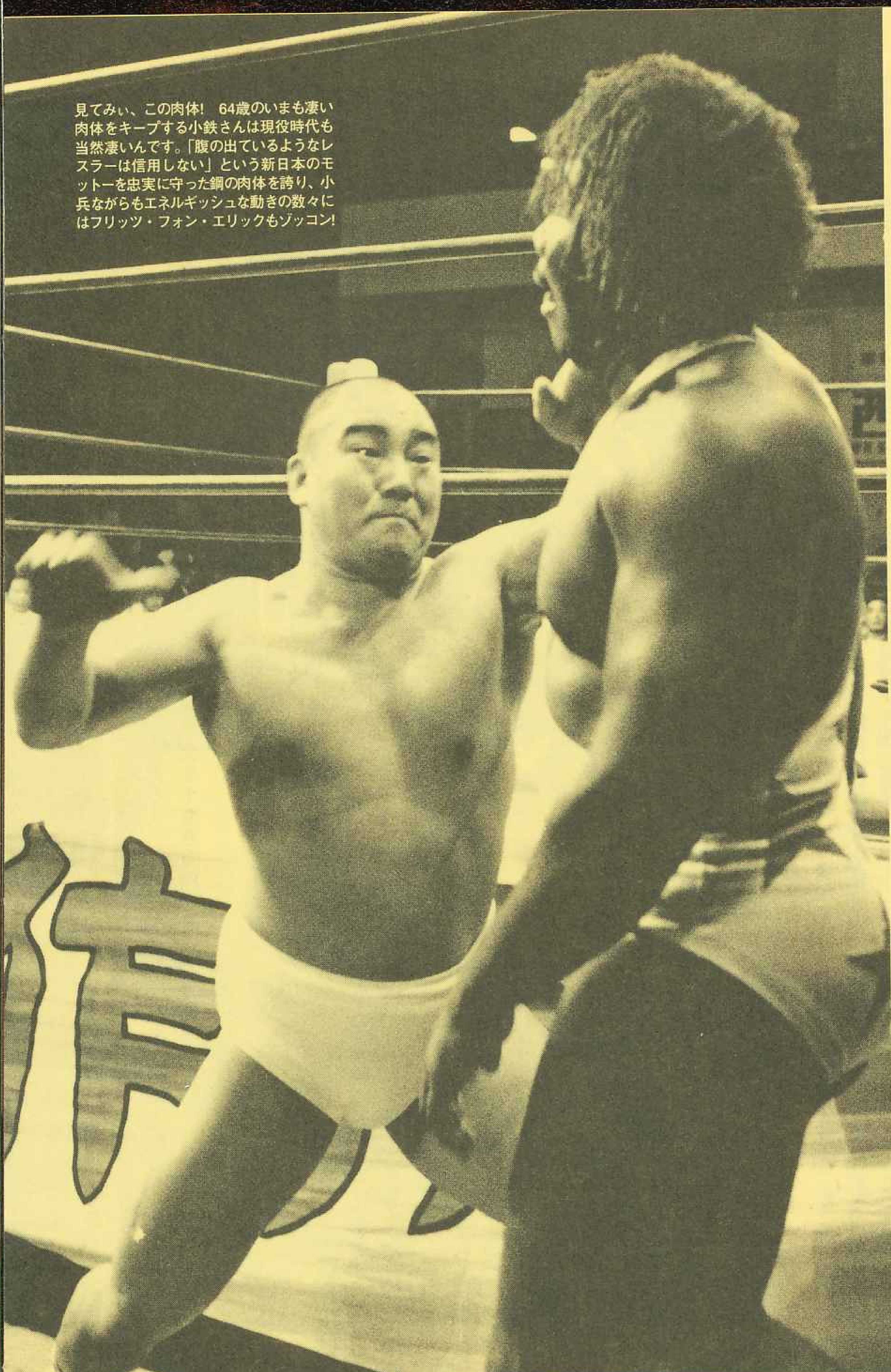
小鉄　そうそう。毎週、日曜日になるとエリックの家に行って、俺が料理を作って、エリックの家族や選手たちに日本料理をふるまってたからね。

――エリック家でちゃんこ番をやってましたか（笑）

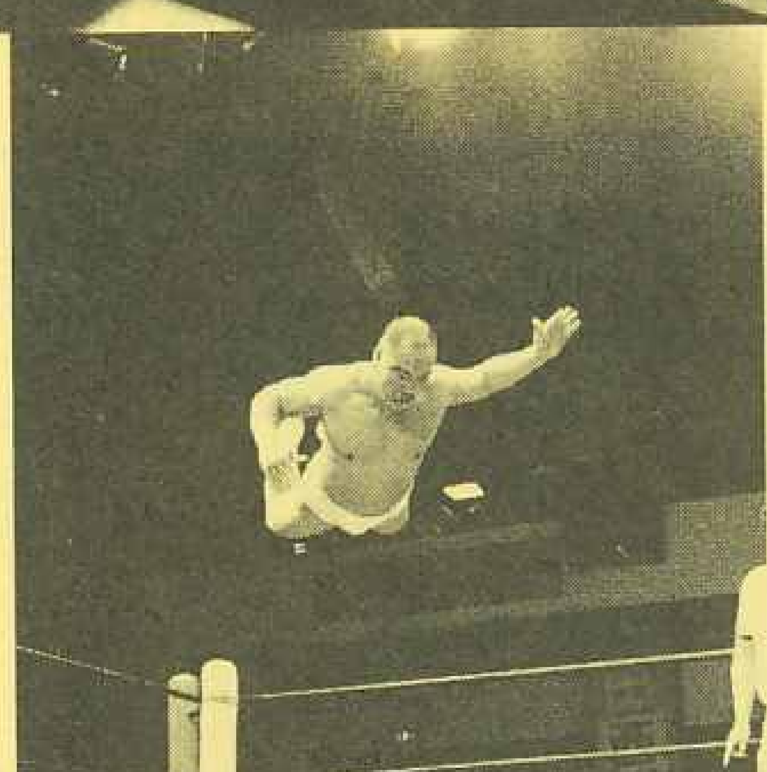
小鉄　スキヤキやちゃんこ鍋をよく作ってね。みんな「うまい、うまい」って喜んでたよ。だから、エリック一家とは仲がよかったし、エリックの息子のケビン（・フォン・エリック）が、こんなブ厚い木の板を持ってきて「おい、マサ！（アメリカでのニックネーム）、この板をカラテで割ってくれ」ってお願いされたりして、見よう見まねで割ったりもしたよ。

――ダハハハ！　エリック家とは家族ぐるみの付き合いだったんですね。

小鉄　フリッツは日本プロレスに来日したときから、俺と星野さんに目をつけてたからねぇ。当時、フリッツが会社に「あの二人を俺のテリトリーに預けないか？」と話をしたんだけど、先輩レスラーたちがやっかみで文句をつけたことで、そのタイミングで



見てみぃ、この肉体！　64歳のいまも凄い肉体をキープする小鉄さんは現役時代も当然凄いんです。「腹の出ているようなレスラーは信用しない」という新日本のモットーを忠実に守った鋼の肉体を誇り、小兵ながらもエネルギッシュな動きの数々にはフリッツ・フォン・エリックもゾッコン！



夏場は50℃近い道場の中、練習させたし、グラン浜田を殺しかけたこともあるよ

はアメリカに行けなかった。ま、そういう人たちは練習が嫌いだから、もう亡くなってるけどね。

――小鉄さんは昔から、日本プロレスが割れたあと「練習好きが新日本プロレスに集まり、練習嫌いが全日本に行った」って言ってましたよね（笑）。

小鉄　そう！　木戸（修）や藤波（辰爾）にしても、北沢（幹之）も、柴田（勝久）もみんな練習が好きだから、いまも元気な人が多いじゃない？　全日本のほうはどうなの!?

――元気じゃないというか、この世にいらっしゃらない方が多いですよね（笑）。その新日本に小鉄さんが行こうと思ったのは、どういうきっかけだったんですか？

小鉄　当時の日本プロレス社長は芳の里さん。経理の担当が遠藤幸吉で、現場担当は吉村（道明）さんだった。でも彼らは完全にドンブリ勘定だったのさ。

――それで「経理を改革しよう」という話が出てきた、と。

小鉄　そう。ある人を仲介してね。当時、俺は猪木さんとも馬場さんとも仲がよかったんだけど、あるとき猪木さんにボウリングに誘われたんだよ。

――猪木さんとボウリングに！

小鉄　そこでメシを食ったりしながら、経理の不正の話を聞いたんだけど、猪木さんに「俺と馬場さんで改革するから、ついてこい」と言われたから「ついていきます」と即答したよ。

――そのあと、その話が新聞に出てしまったんですね。

小鉄　そう。改革をしようとしただけなのに、「猪木が日本プロレスを乗っ取り」とか「クーデター」と新聞がおもしろおかしく書き立てた。そこで俺は社長に呼ばれて、「おまえも加わってたのか？　自宅待機しろ！」と命令されたけど、俺は「いや、会社を辞めます！」と断って、裁判を起こしたんだよ。

――えっ！　小鉄さんが日本プロレス相手に裁判を？

小鉄　この話は知らないだろ？　そのときの裁判で、当時で退職金を100万円もらったからねぇ。

――100万円！　当時のお金としたら凄い金額でしょうね。

小鉄　そりゃそうさ！　俺はクーデターの容疑がかかるなんてイヤだから「乗っ取りなんて企てていません」と裁判所で正々堂々と証言したよ。猪木さんはしなかったけど、俺は白黒ハッキリつけたかったからね。

――そういう部分でも、小鉄さんは道からハズれたことは許せない、と。

小鉄　そう。だから俺は今日の取材だって、キッチリと約束の時間を守るでしょ？　時間と約束を守らない人は大嫌いなんだよ。でも時間や約束を一番守らないのは猪木さんね！

――ダハハハ！　肝心のボスが守りませんか（笑）。

小鉄　猪木さんにはいつも俺が口うるさく言うから、いつもケンカしてるし、猪木さんには煙たいから、最後は仕事からホサれちゃうこともあるワケさ（笑）。

――猪木さんとはいろいろあったんでしょうね（笑）。しかし、そのあとの新日本プロレスでは、イチからの旗揚げでしたから、さぞや内情は大変だったでしょう。

小鉄　そりゃあメチャクチャだよ！　当時なんて興行のお金を払ってくれないプロモーターもいたからね。それに対抗するためにこっちも考えたよ。

――あ、お金を払ってくれない興行主がいましたか。

小鉄　そういうときは俺も一試合目にパッと試合をやっちゃって、すぐ会場入り口に行って、当日券を売りながら、イスの下に売り上げ金を入れるダンボールを入れて金庫番をするわけ。それでプロモーターが来る前に、売り上げを全部持って出ちゃうんだから、ヒドかったよ。（声をひそめて）あんなの○○○と一緒だよ。

――ダハハハ！　そういう丁々発止の世界から生き抜いてきたわけですね。

小鉄　俺にそんなことをやらしたら、誰も勝てないよ。地方興行に行ったときに、○○○と喧嘩したこともあったけど、俺は○○○の事務所だってレスリングシューズとジャージ姿で行くからね。それで、たいていは「まぁまぁ」と、ことを荒立てないようにまずは酒飲んで乾杯するわけ。普通なら、そこで和解金を払ったりするんだろうけど、俺は絶対に金は払わない。そこで一銭でも払ったらクセになるから、絶対に払っちゃダメさ。でも金は払わなくても、俺はそこで○○○に気に入られちゃうから、問題はないんだよ。

――昔の現場監督は、そこまで含めての仕事だったんですね。

小鉄　大変だったよ！　それに、外人レスラーが会場でお客さんを殴って血だらけにしたときも俺の出番さ。

――あ、そんなケアまでされてましたか？

小鉄　お客さんをすぐ控室に連れていって、傷口を見て「あ～、大丈夫、大丈夫！」とバンソウコウをバーッ！　と貼って2万円くらい握らせて、「ハイ、おしまい」なんだから（笑）。

――ダハハハ！　いまだったら裁判を起こされたりして大変でしょうね。

小鉄　いまはそんなことないけどね。あの頃の俺の仕事なんて、7つくらいあったもん。レフェリーを育てる、選手を育てる、自分の練習と試合をする、マッチメイクにプロモーターとの交渉、ポスターやパンフレットまで考えなきゃいけなかった。

――ポスターにパンフレットまで！

小鉄　そう。それから、新日本のライオンのマークも考えたのは俺だから！

――えっ！　あの有名なマークは小鉄さんが作られたんですか？

小鉄　あれは俺が作ったんですよ！　知らないの？　じゃあ、アンタたち、なぜあんなマークにしたのかわからないでしょ？

――ぜひ、教えてください！

小鉄　当時の日本プロレスのマークは〝王冠〟のマークだったわけよ。だから俺は、「チキショー！　あの王冠に勝つのはなんだろう？」と考え抜いた。それで「ヨシ！　こっちは王様は王様でも〝百獣の王〟だ」とライオンにして、スポーツの王様という意味を込めてキャッチを入れたんだよ。

――有名な〝KING OF SPORTS〟ですね。

小鉄　そう！　最終的なデザインはもちろんデザイナーにやってもらったけど、アイデアを出したのは俺だからねぇ。



小鉄学校の生徒たち。「小鉄のヤロー！　いまに刺し殺す!」と道場裏の木に包丁を突き刺していた若き日の藤原喜明を筆頭に、木戸修、柴田勝久、ドン荒川らの顔も。



新日本プロレス地獄の練習風景。「ヒザが痛けりゃ、スクワットしろ！　頭が痛かったら頭を殴れ！」という非科学的（？）な小鉄イズムが徹底され、強い男たちが続々と誕生していった。

――そんな多忙を極める中で、道場のコーチもやられていたんですよね。

小鉄　やってたねぇ。あとから前田（日明）たちに聞いた話だけど、道場の練習のスタート時間は朝10時からなんだけど、9時30分くらいから選手は道場の中で待ってて、俺の車が道場の前で停まる音がすると、直立不動で立ってたらしいからね。

――小鉄さんのキャデラックが道場の前に停まる音だけで、震え上がっていたと聞きますからね（笑）。

小鉄　それで、俺は朝10時になった時点で、道場の鍵を全部かけちゃうんだよ。遅れてきたヤツは絶対に道場に入れさせない！　それで窓を全部閉めきって練習させたんだけど、夏場なんか50℃近くもあったからね。

――室温50℃！　道場の中にいるだけで地獄ですね。

小鉄　それで水も飲ませず、3時間も練習させたんだから。よく脱水状態にならなかったと思うよ。

――いまの時代ならありえないでしょうね。

小鉄　だから、あのときの選手を支えていたのは精神力だけ。それに比べて、いまは道場の中に扇風機はあるし、暖房はあるんだから呆れちゃうよ！

――"冬は寒くて、夏は熱い"のがあたりまえだった、と。

小鉄　あったりまえさ！　……それに一度、俺は（グラン・）浜田を殺そうとしちゃったから。

――ダハハハ！　殺しちゃいけませんよ！（笑）。

小鉄　宮城県の気仙沼で合宿したとき、原っぱにリングを作って、集合したら、浜田がいなかったの。「浜田はどうした？」って聞いたら、「身体の調子が悪いって、布団でうなってます」と言うから、「アノヤロー！　さぼりやがって。すぐ呼んでこい！」と呼んだら、ホントに真っ青な顔してウンウンうなってた。さすがに「これはおかしいな」と救急車を呼んだら……急性盲腸炎だったよ（笑）。

――盲腸炎！　それはアブなかったですねぇ。

小鉄　もう少しで殺すところだったよ（笑）。

――前田さんなんかも、ことあるごとに「あの頃の道場の練習が自分のプライドになってる」と言ってますね。

小鉄　そういえば、去年、前田と食事をしたんだよ。前田が「山本さんの娘さんに会わせてください」ってしつこくて。

――まさか山本家のムコ入りを考えてるわけじゃないでしょうね（笑）。

小鉄　とんでもないよ！（笑）。そのときはウチの嫁さんと娘と俺と前田の4人でウチの近所のフランス料理屋に行ったんだけど、前田は時間もちゃんと守ったし、言葉使いも丁寧だったから、嫁さんが「凄く好青年じゃない？」と感心してたんだよ。でも俺は、「バーカ！　おまえらといるから好青年だけど、アイツは新聞記者には言葉も態度も横柄なヤツなんだ！」と言ってやったよ。

――ダハハハ！　前田日明も小鉄さんの前ではかたなしですか（笑）。話を戻すと、当時、ブラジルからイワン・ゴメスというバーリ・トゥードの選手も新日本に来てましたよね。

小鉄　ゴメスは79年に新日本がブラジル遠征したときに会場で挑戦してきたんだよ。で、俺は試合を終えたばかりの木戸と試合をやらせようとしたんだ。

――やっぱり木戸修は"殺し"を知ってる人ですからね（笑）。

小鉄　そのときはブラジルの政府からストップがかかって実現しなかったんだけどね。公開で果たし合いみたいなことはダメだってことで。でも、控室でゴメスに会って話を聞いたら、ブラジルで憲兵隊長をやってて大統領の護衛官だったらしいじゃない。それでも「レスリングを覚えたい」って頼むから新日本に連れてきた。アイツは身体は硬かったけど、力も極めるのも強かったよね。

――ゴメスも新日本の道場で一緒に生活されてたんですか。

小鉄　巡業にも行ってたよ。……これは、ときどき思い出すんだけど、東北方面の巡業で旅館で泊まっていたとき、早朝4時半頃にゴメスが「タイヘンダ！　タイヘンダ！」ってカタコトの日本語で騒ぐんだよ。

――朝っぱらから迷惑な話ですね（笑）。

小鉄　みんなも「何ごとだ！」ってビックリして起きたら、「空から白いものが降ってる！」って言ってるんだけど……ま、雪だよね（笑）。

――ゴメスは東北巡業で初めて雪を見ましたか（笑）。ゴメスもそうですけど、当時は「誰の挑戦でも受ける」と猪木さんが公言してる手前、道場破りも来てたんですよね？

小鉄　来てたねぇ。ただ、道場破りなんてのは、相手に対して礼儀を欠いたことですよ!

——やっぱり道場破りがきたら、「ただでは返さない」って感じなんですか?

小鉄　あったりまえだよ! 俺は道場破りがきたら、紙きれを持ってきて「怪我をしようと、命がなくなろうと新日本プロレスは関知しません」と誓約書を書かせたから。ウチの顧問弁護士に電話したら、「あまり効力はないけど、書かないよりはいい」って言われたからさ。

——とんでもない誓約書ですね(笑)。

小鉄　でも、道場破りっていうのは、そういうことだからね。昔はそんな奴らが一年に3人くらいは来てた。そこで藤原や木戸が相手をするんだけど、アイツらは意外と人がいいんだよ。俺が「(相手の骨を)折れよ!」と言ってるのに、折らないから、「折れってんだ! コノヤロー!」と逆に怒ったりもした。俺だったら絶対に折っちゃうよ!

——小鉄さんなら折っていた!(笑)。

小鉄　だから、Uインターのときに安生(洋二)がヒクソン(・グレイシー)の道場破りに行ったでしょ? あのあと安生と会ったときに、「おまえバカか! 道場破りってのはあっちの人間を3、4人倒したところで、絶対に返しちゃくれねぇんだ!」って説教したら、「……よくわかりました」って反省してたよ(笑)。

——道場破りとは違いますけど、あの当時、「(初代)タイガーマスクに挑戦」という企画もありましたよね。

小鉄　あったねぇ。昔の東京体育館で、素人がタイガーマスクに挑戦するという企画で、その予選で若手レスラーが素人の相手をしたんだよ。俺も遊び半分でわざと顔を殴らせたり、首を極めちゃったりしたけど、前田とか藤原なんかは、ムキになっちゃって困ったよ。



1980年より、テレビ解説を担当した小鉄さん。辛口の小鉄さんと過激実況の古舘伊知郎アナは"アンバランスの美学"と言われる名コンビに。写真左は古館アナの後任で、技に合わせた"タメを作るアナウンス"で知られた保坂正紀アナ。

——素人相手にムキになっちゃいましたか。

小鉄　どう見ても素人なんだから、少しは持ち上げてやんなきゃいけないじゃない。でもアイツらはそんな余裕はなかったね。

——小鉄さんに見られてた緊張感もあったでしょうしね。その当時、印象に残ってる弟子というと、前田さんや藤原さんが筆頭ですか?

小鉄　あの頃は髙田(信彦、現・延彦)や山崎(一夫)、(ドン・)荒川や栗栖(正伸)とか、どの選手も印象深いし、あんな変わりモンの集団をまとめるのは大変だよ!

——ま、そうでしょうね。しかし、当時の選手は「怖い、怖い」と言いながらも、小鉄さんを慕ってますから。

小鉄　そりゃあ、俺は選手の面倒を見たもの! 前田が「ウチのオヤジが倒れました」って言ってくれば、「すぐ帰れ、コノヤロー!」とポケットから10万円をパッと渡した。けっして会社の金じゃないよ? 選手を飲みに連れて行くときも、今日はこのグループ、明日はこのグループとまんべんなく連れていったしね。

——アメとムチを使いわけていた、と。

小鉄　そうだね。……ま、選手もよく俺の無理強いの練習についてきてくれたよね。いまはアイツらに感謝してますよ。

——小鉄さんも"無理強い"と言えるようになってきましたか(笑)。しかし、いまは大学出のレスラーも多いから、いわゆるトンパチがいないですね。

小鉄　みんな賢くなっちゃったよな。俺の時代の選手なんか、給料が出ても、一週間もすればギャラを全部使っちゃうから。「すみません! ちょっとハガミ(前借り)できないですか?」と毎月、頼みにきたもんだけど、いまの選手なんか、ギャラをもらったら3分の2は貯金するからね。

——そういう部分で、ちょっとさみしい気持ちもありますか。

小鉄　ちょっと、さみしいねぇ(しみじみと)。

——新日本は辞めちゃいましたけど、藤田(和之)や石沢(常光)は『PRIDE』や『HERO'S』にも上がってますよね。彼らの試合はご覧になってます?

小鉄　石沢は昨年の『Dynamite!!』で負けちゃったけど、……いまのままじゃダメだろう。もっと打撃の練習をしないとね。レスラーは腕が太いからパンチが遅いっていうけど、モハメド・アリなんか全盛期は腕周りが43センチもあったから!

——そんな太さでも速いパンチをくり出してたんですね。

小鉄　年中パンチの練習をやってたら、違ってくるよ。レスラーもタックルでマウントを取っただけじゃ勝てない! プロレスには奥の手だっていろいろあるんだから、俺が総合に出るならもっと悪いことするよ!

——悪いことしますか!(笑)。

小鉄　レスラーにはいざというときの裏技ってもんがいくつもあるんだよ! ここであなたに教えるわけにいかないけどね。

——一方の藤田に関してはいかがでしょう。

小鉄　藤田はいいモノを持ってるし、寝技をやらせたら強いからねぇ。藤田もタックルが得意だけど……もう、タックルも真正面から行ったら見破られちゃうよね。そういう部分でも俺なんか、次のことを考えてるから!

——タックルの打開策まで考えてましたか。

小鉄　あったりまえだよ! 俺は身体が小さかったから、現役時代に「デカい選手を倒すにはどうしたらいいか?」といつも考えてた。その昔、小沢(正志、のちのキラー・カン)と道場で柔道をやったときなんか、アイツの柔道着と一緒に胸の肉をつかんでブン投げてやったよ!

秋山の反則？　あれはやっちゃダメさ!!
俺がレフェリーなら完全に止めてたよ

――それはヒドい！

小鉄　小沢は「汚い！」と言ってたけど、勝負に汚いもクソもあるかってんだ。ただ……昨年の『Dynamite!!』で秋山（成勲）選手がクリーム塗っちゃったでしょ？

――あ、その問題についても、小鉄さんのご意見をぜひうかがいたいんですよ。

小鉄　ああいうことはやっちゃダメさ！　あんなの相手に対して失礼だよ。秋山はアマチュア時代には、道衣をすべらせていたらしいけど、プロの世界ではあんな小細工は見破られちゃうさ。俺がレフェリーだったら完全に止めてたよ！

――いやぁ、『Dynamite!!』は特別レフェリー、山本小鉄にしとくべきでしたね（笑）。でも小鉄さんは「勝負には汚い手を使っても勝て！」という立場なのに、クリームを塗るのは言語道断なんですね。

小鉄　そりゃあマズイさ！　昔も、身体にオイルを塗ったりするヤツはいたよ。猪木さんが韓国でパク・ソンナンと試合をやったときも、試合前に揉めちゃって、アイツらは身体にベッタベタにオイルを塗って出てきやがった。そんなのプロとして失格さ！

――小鉄さんも海外でそういう危険なことを仕掛けられたことはあります？

小鉄　あるある！　でもこれは言ってもキリがないよ。……だって俺たちだって悪いことしてたんだから。

――あれ、小鉄さんも反則してたんですか？

小鉄　（声をひそめて）これはいまだったら、やってはいけないことだよ……。でも当時の海外では試合に勝たなきゃ、金にならなかったんだから。だから俺なんかタイツの中に七味とうがらしを入れたり、コンドームの先に針で穴を空けて醤油を入れたり……。

――クリームどころか、七味とうがらしに醤油まで！

小鉄　コンドームの先にテープでフタをしておいて、相手の後ろにまわってシュッ！と醤油を目にかけるんだ。それで相手が七転八倒してるところをフォールして勝っちゃう。そりゃあ、お客さんは怒るよね（笑）。

――それはまた、言語道断ですねぇ（笑）。

小鉄　でもね。それでお客さんが「汚いジャップをやっつけろ！」とヒートして、会場にガンガンお客さんが来るわけ。俺らは興行収益のパーセンテージでギャラをもらえるから、その反則のおかげでテリトリーの稼ぎ頭になれたんだよ。

――必要に迫られてやられたわけですね。

小鉄　普段は「技と技を競い合う姿こそプロレスだ！」なんて言ってても、昔はそんなこともやってたからねぇ（笑）。

――ダハハハ！　そんな小鉄さんが注目してる選手はいますか？

小鉄　中邑（真輔）だね。アイツは天性のモノを持ってるし、天狗にならなければいいよね。でもさ、中邑が4年前に入門してきたとき、体重が102キロだったから、俺が「もっと大きくしたほうがいいよ」と助言したけど、「この体重がコンディションがいいんです」と俺の話を聞かなかった。

――小鉄さんの助言を聞かなかった！

小鉄　いまごろ、身体を115キロに増量してるでしょ？　もう丸3年も損しちゃってるワケ！　俺らはプロレスが商売なんだから、そういうことはわかるんだよ。テレビ解説してたときだってパッと観たら調子はわかっちゃうからね。

――小鉄さんは解説者としても有名ですけど、おしゃべりのほうは得意だったんでしょうか？

小鉄　いまはペラペラしゃべれるけど、もともとは口下手だったから大変だったさ。解説の仕事は猪木さんから「新聞社の人間が解説するだけじゃ説得力が足らない」ということで頼まれたから、これは本気でやらなきゃいけないと思って"しゃべり方教室"にも通ったしね。

――選手時代の小鉄さんを知らなくても、解説者としての小鉄さんを知らないプロレスファンはいませんからね。

小鉄　そりゃあ、一生懸命勉強したよ！　それに俺は解説が辛口だって言われたけど辛口じゃないんだよ。俺が言ってるのはすべてホントのことだからね。

――では最後に小鉄さんが、格闘技界全般で注目してる選手は誰かいますか？

小鉄　いまの日本にはいないねぇ。昔の日本人は勤勉とか真面目ってイメージがあったけど、変わってきちゃってるでしょ。最近は、公園でも運動しちゃいけないなんて、バカげた規則もあるけど、この飽食時代にそんなこと言ってたら子どもはドンドン太っちゃうし、骨も弱くなる！　日本人と外国人とは骨格から違うんだから、日本人には練習をするしか打開策はないんだよ！

――やっぱり日本人に必要なのは「練習！練習！」ですか。

小鉄　そう。バレーボールにしたって日本人の平均身長はまだ低いし、外国人にはかなわないでしょ？　そこで体格差を補うには技術しかない。そして技術を養うには練習しかないんだよ！　日本のスポーツ界は選手の指導方法に悩んでると思うけど、もっともっと厳しさを加えないとダメさ！

――いまのスポーツ界は甘すぎる、と。

小鉄　あったりまえだよ！　スポーツに携わるなら、まず練習！　練習！　それはどの分野だって同じだろ。「東大に行きたいなら、勉強しろ！」だよ！　違う？（と興奮して）。

――いえ、おっしゃるとおりです。

小鉄　会社だってそうだよ？　この前、事務所にレスラーが集まったとき、レスラーたちに「おまえたちは、気合いが足りねぇ！」と説教したんだよ。アイツら、会社に入ってきても"ちわ～す"なんて気の抜けた挨拶しやがって。だって、ウチは体育会系の会社だよ!?

――たしかにそうですよね（笑）

小鉄　体育会系の会社なら、"おはようございます！"とか"おつかれさまです！"と堂々と言えってんだ！「出前持ちの人や宅配便の人でも大きな声で挨拶してやれ！」って言ったよ。そういう部分から、元気を出していれば「新日本はプロレスの会社だけあって、気合いが入ってるなぁ」と感心するじゃない？　そこから始めないとお客さんだって、会場に来てくれないさ！　会社ってそんなもんだよ。違う？

――まったくもって、おっしゃるとおりです！　今日は大変にためになるお話をたっぷりとありがとうございました。

小鉄　ホントにためになった？　俺はまだしゃべれるよ！

――いやいやホントに大丈夫です。本当にありがとうございました！

【07年1月24日／新日本プロレス事務所にて収録】



やまもと・こてつ■1941年10月30日。神奈川県出身。63年に日本プロレスに入門、同年7月19日に北沢幹之戦でデビュー。アメリカ遠征時に星野勘太郎とヤマハ・ブラザーズを結成。帰国後、72年に新日本プロレス旗揚げに参加し、新日本の現場監督や若手レスラーのコーチとして活躍。80年4月に現役引退後は、テレビ解説者やレフェリーとして知られる。身長170㎝、体重100㎏。

プロレス初心者・松下ミワが今回は“血の洗礼”を受ける!?



特集

わるいやつら

各界の〝ワル〟が秋山成勲の〝悪〟を斬る!

大晦日の桜庭戦で「クリーム塗布」という、チンケかつ間抜けな反則を犯し、すっかり大ヒールとなった秋山成勲。しかし、ヒールといってもこれではあまりにもスケール感がない。ワルならワルらしく、悪の華を咲かせてみやがれ! というわけで、本誌は本物の〝ワル〟たちに、悪とは、ケンカとは、反則とは何か? を語ってもらった。いまこそルールブックには書かれていない〝男のルール〟を読め!

生の裏街道を知りつくす男が"ホンモノ"の反則を語る!!

安部譲二

アウトロー作家が見た桜庭vs秋山戦

"秋山問題"総力特集『わるいやつら』のトップバッターは、かつては"闇社会"の一員で、現在は作家の安部譲二!! 特異な自分自身の半生や、闘う男たちや人間社会の陰を題材にペンに走らせた安部氏は、秋山成勲の反則行為をどう捉えたのか?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

ベストセラー小説『塀の中の懲りない面々』で知られる安部氏の前身は、ご存知の読者も多いと思われるが、任侠な裏稼業であり、ボクサーであり、キックボクシングの解説者であり、実業家であり、日本航空のパーサーだった。そのバイタリティに富んだ人生は、安部氏が任侠道に精進している頃、あの三島由紀夫が小説『複雑な彼』のモデルにするほど。

このように人生のオモテとウラを知りつくし、そしてボクシングにも造詣が深い安部氏が明かす〝懲りない裏技〟にすべってみよう!! ……じゃなくて、震えろ！

――今日は〝秋山問題〟を枕に、力道山時代からマット界とつながりが深い安部さんに〝ワル〟を語っていただこうと思ってます。

安部　最初に断っておくと、俺はね、K―1とかはテレビでしか観たことないんだけど、正直言ったら、セメントでやったら死んじゃうと思うようなことをやってんだよ。

――死と隣り合わせなのは確かですね。最近は、あまりにも過激になっていて。

安部　あれで死人が出ねえのが不思議だし、魔裟斗と山本ＫＩＤ（徳郁）ってのはホントによくトレーニングしている。老いた俺の目で見ると、要するに、ショーには見えねえんだよ。

――いや、実際にガチンコでやってるんです。

安部　けどよ、ショーに決まってんだよ！

――ショーに決まってますか！

安部　だって、攻撃力のほうが守備力よりまさってるんだから。どんなにボディを鍛えようが、いいヒザが当たれば、まいっちゃうんだよ。おまけに、首から上は鍛えようがねえ。

――ガチンコでやっているから、今回、お話をうかがう桜庭（和志）選手にしても、もう身体はボロボロという状態なんですよ。

安部　俺はね、その桜庭って選手は一度も観たことがない。桜庭と秋山の試合も観てなくて、あとから人にいろいろ聞いたんだ。キミは観たんだろ？

――はい。観ました。かれこれ30回近く。

安部　教えてくれ！　そもそもこの試合は、オイルを塗ったりしなければならないほど、ガチンコでやってんのか？

――はい。そうなんですよ。実際にはクリームなんですけど。

安部　でも、こういう試合をガチンコでやると、2分もしないうちに終わっちゃわないか？

――確かに総合格闘技って、当初は1分や2分くらいであっさり試合が終わっていたんですけども、いまはかなりレベルが向上して、簡単に負けない闘い方を選手が身につけてきてるんですね。

安部　でも、そうすると選手の腰が引けちゃって、つまんない試合になるだろ？

――いや、選手のギャラがもの凄く高くなってきてるから、プロとしてのアグレッシブさがあたりまえのように求められてるんです。

安部　そんなに高いのか？

――もうかなり。いま〝世界最強〟と呼ばれているロシア人は、なんと●●円を要求しているという噂です（笑）。

安部　……猪木と馬場なんて、最初は4000円だぞ！（笑）。

――ハハハハ！　だから、いまはそれくらい価値のある試合をしないといけないってことでもあるんです。●●円に見合うかどうかはともかく（笑）。

安部　この人たちはどういう契約で試合をやってるの？

――基本は複数回契約ですね。ほとんどの選手は年に4～5試合はこなす感じで。

安部　2～3ヵ月に一試合か。大変な稼業だねえ……。もう俺なんかからすると、反則うんぬんという問題じゃないよな。せめてヒザは使えないようにしなきゃ。ボクサーも大変だけどさ、俺が20歳のときでも、セメントでこんな試合はやれないね！

――安部さんでも無理！

安部　だって死なないまでも、選手として致命的に壊されちまう可能性が高いもん。

――そればかりか、普段の生活に支障をきたすおそれもありますし。

安部　うん。大仁田厚は参議院議員になれたかもしれないけど、この連中は引退しても代議士にはなれないよ、きっと。演説なんかできな


「勝つためなら、なんだってやるのが
人間の本性なんだよ!!」
人生の裏
安
アウト



「ジョーに決まってるだろ!!」と安部氏が言い放つほど、過酷な闘いを強いられる現在の総合格闘技シーン。スミルノヴァス戦の半失神状態、練習スパー中に緊急入院とアクシデントが続き、大晦日の秋山成勲戦はノーコンテストという裁定が下ったが、桜庭は相当のダメージを受けた。今後の格闘技人生のためにも、療養が必要だと思われるが……。

試合を組んでくれたプロモーターの手前、選手は簡単に寝るわけにはいかねえだろ

いだろ。

──ああ、脳を打たれすぎてパンチドランカーになっちゃうケースは充分にあるでしょうね。

安部 俺は三島由紀夫さんになんべんも言ったよ。「ボクシングを習いたい」って言うから、「当たりどころが悪かったら、一生ヨダレを流しっぱなしになる」って。

──それでも、三島さんはボクシングを始めたんですよね?

安部 半年間だけね。紹介したジムの人間に「あの人はペンで商売やってるから、ボクシングを教えてやってもいいけど、頭は叩くなよ」って言ってさ。そうしたらね、やっとグローブをはめてスパーリングをやるようになったんだけど、三島さんが俺のところに来て「私はガマンなりません。ジムの人が加減してるのがわかります」だって（笑）。

──アブラムシ扱いされるのがイヤだ、と（笑）。

安部 だから俺は三島さんに言ってやったよ。「あたりまえでしょ。殴られたら、わたしみたいに〝タチツテト〟と〝ラリルレロ〟が言えなくなっちゃうんですよ。あたりどころが悪くてヨダレを流しっぱなしになっちゃったヤツもいるんですよ」ってね（笑）。

──いずれ総合格闘技のほうでも、そういう問題が噴出していきそうですね。

安部 これで人が死んでみろ！　誰もが「これを許したのがいけなかった！」って口をそろえて言いだすぞ。それに、試合を組んでくれたプロモーターの手前、選手は一発や二発で簡単に寝るわけにはいかねえんだろ。かなり頑張ってやんなきゃ、それにお客だって納得しないだろうし。

──それで、ファンはこの桜庭vs秋山戦の裁定、処分に納得してないんです。主催者側は徹底調査をして、秋山選手の反則行為を認めて処分したんですけど。

安部 （急にヒソヒソ声で）……いまはニュースから天気予報まですべてがあやしいけどな。いま一番、あやしいのはね、『あるある大事典2』。

──あっちはヌルヌルならぬネバネバの疑惑ですけど（笑）。

安部 そして次にあやしいのはTBSだ！（笑）。

──亀田（興毅）選手の件ですね。亀田選手はどうですか？　ボクシング通の安部さんの目から見ると。

安部 よく練習してることは確か。亀田兄弟は魔裟斗やKIDに比べると、まだまだ青いけど、まあよく練習してる。だから全部、TBSがいけないんだよ。あれだけ練習する若いヤツはいまの日本じゃ珍し

人間は勝たなきゃならないとき拳銃でもなんでも出したくなるんだ

いんだから、もっと練習を続けさせれば、い〜いバンタム級（の選手）になるぜ！　それをへんなふうに、ヨン様かハンカチ王子みたいにはやし立ててさ、練習するいい青年を無駄にしちゃあなあ……（悔やむような表情で）。

――え〜っとですね、じつはそのTBSが桜庭vs秋山戦を放送してまして（笑）。

安部　ああ、そうなのか。そのうちにTBSはヒグマと桜庭を闘わせるだろうな（笑）。

――そういう幻想がありますよね、いまのTBSには（笑）。

安部　まあ、ファンが秋山を「永久追放しろ！」って言いたくなる気持ちはわかるよな。桜庭が相手に油を塗られて負けた。おもしろくないだろう。納得がいかないだろう。俺が興行師だったら、どうするか？

――どうするんでしょう？　安部さんなら。

安部　レフェリーに全部、罪をおっかぶせる！（キッパリ）。

――安部さん。まさしくそんな終幕なんですよ！（笑）。

安部　そうだろ？（ニヤリ）。

――では、興行師として「秋山を永久追放べきだ！」という声にはどう対応すべきでしょうか？

安部　お客が何を騒いでもね、プロモーターは「はあ、はあ」って適当にうなずいて、聞いてればいいんだよ。

――いいんですか、そんなことで！（笑）。安部さんもかつてはボクシングの興行をやってましたけど。

安部　全然、儲からなかったけどな（笑）。興行師なんてな、自民党の代議士みたいにノラリクラリとやらなきゃ。ファンからアンケートを取って100人中100人が「秋山を永久追放しろ！」っていうから、そのとおりにしてたんじゃ、そんな興行にならないでしょ。やっぱり、この二人を再戦させるべきだろ。

――再戦となれば、絶対に盛り上がるでしょうからね。

安部　しかし、オイルを塗るってのは、あんまり得な手じゃねえと思うんだよ。オイルを塗ったらね、5分も闘ってるうちに自分の身体もすべるようになるし、相手も油まみれになんだから。あんまり、いい手じゃないよ。ところで（秋山は）どこに塗ってた？

――全身にクリームをまんべんなく塗っていたという話ですね。

安部　審判はチェックしなかったのか？　普通は試合前にするだろ。

――それが試合前に塗りたくって、試合で汗をかくと同時に毛穴から浮き上がって、身体がすべりやすくなるんですよ。

安部　なんか、油を飲んでたみてえな話だなあ（笑）。でも、桜庭が「身体に何かを塗ってる！」ってアピールしたんだろ？

――ええ。試合中にタイムを要求しました。でも、レフェリーはそのまま試合を続行させて。

安部　だったら、桜庭のセコンドがリングの真ん中で止めさせなきゃ！　「ウチの選手がこう言ってる！」と騒いで。まず、ポイントはそこだ。それと、この興行の審判がいくらかギャラを知らないけど、審判が試合に差しつかえないと思って許したんだから、もうその時点でどうしようもない。だって、あなた、人間の本性ってのはね、勝たなきゃいけないときは、なんだって考えるもんなんだよ。そこは審判がきっちりやらないと、どうしようもない。

――性悪説に立つとそうでしょうね。



安部　勝たなきゃなんないときは、持ってないから出せないけど、人間ってのは拳銃でもなんでも出したくなるんだよ。だからボクシングで噛みつくヤツもいる。フィリピンのマニラで耳に噛みついた試合を観たことがあるけど、やられた相手は試合中に失神してたね。

――あのマイク・タイソンも（イベンダー・）ホリフィールドに噛みついたこともありますね。

安部　あのときのタイソンはドン・キングにダマされて、ずっと一緒にやってきたトレーナーと別れちまったんだよ。あのね、選手が一番、信頼しているのはトレーナーやセコンド。でも、その仲間がいなくなった。ましてや試合前だぞ！

――本人は、観る側の想像を絶する精神状態という。そういえば、秋山選手も試合直前に問題のクリームを塗っていました（笑）。

安部　そんとき拳銃を持ってりゃあ、拳銃を撃ってる。拳銃がないから、噛みつくんだよ！

――秋山選手の場合は、それがクリームだった（笑）。まあ、本人は故意ではなかったという主張はしてるんですけど。

安部　そこは審判がちゃんとチェックしなきゃいけない。生き死にが懸かってるんだから、選手はなんでもやるんだ。それは格闘技すべて、そういうことの歴史だもん。

――でも、スポーツはクリーンであるべきという前提もあるわけじゃないですか？　そこは選手のモラルになっちゃうんですけど。

安部　潔癖症の日本人からすればね。日本人は毎日、歯を磨いてパンツを取り替える人たちなの。外国なんて、パンツなんか穿くヤツもいりゃあ、穿かないヤツもいて、歯なんて毎日は磨かない。

――それなのにスポーツマンシップなんて期待するな、と（笑）。

安部　外国人が汚い手を知っているのは、相手にやられないため。そこは麻雀やポーカーと一緒なんだけど、外国の選手ってのは、きれいな手と汚い手を同時進行で覚えてくんだよ。日本人はコーチからきれいな手しか教えてもらえない。自分でも知ろうとしないから、そりゃあ餌食になるさ。

――安部さんが知るかぎり、そういった〝イカサマ〟が一番うまかった選手って誰ですか？

安部　ボクシングのサンディ・サドラー。フェザー級の世界チャンピオンで、144勝して103KOだから、凄い強い選手だったけど。荒っぽいから〝ダーティー〟サドラーって呼ばれてた。

――しかし、凄い戦績ですね。

安部　この前、死んじゃったけどね。俺は彼のスパーリングパートナ



昭和45年、裏稼業の一員なのに、なぜか日本テレビのキックボクシング番組の解説者を務めていた安部氏。アナウンサーは[illegible]。当初、リングアナの依頼を受けたそうだが、安部氏が籍を置く"一家の親分さん"が[illegible]という。その後、[illegible]絡みの事件が明るみになり、即解雇されてしまった!!

俺が知ってるヤツがこの薄いグローブをはめて闘ったら、相手は確実に失明するだろうな……

ーをやっていたから、汚い手を全部、教えてもらった。「相手のフックよりフックが流れたときのヒジに気をつけろ」とか「フックのあとの上がってきたヒジに注意しろ」とかね。いまの日本のボクシング解説者たちは、そういう汚い手は知らないんだよ。だからよくオーソドックスな構えの選手がサウスポーにスイッチすると、解説者は「苦しまぎれにやってます」とか言ってるけど、そうじゃない。そうすると、相手のつま先を踏みやすくなるんだよ。たまらないぜ！　シューズで足の甲のつま先を踏まれたときの痛さっていうのは!!

――しかも"故意"か"過失"は判断しづらいですよね、その技は。

安部　それをコーナーかなんかでやられて、身体を入れ替えられてみろ。もうアウトだよ！　あとさ、試合前日に会場で計量をやるときなんか、日本の選手はマネージャーやトレーナーたちと一緒に帰っちゃう。でも、アメリカやメキシコやフィリピンのボクサーは計量が終わったら、トレーナーとか誰かしら会場に残るんだよ。なぜだか知ってる？

――いや、ちょっとわからないですけど……。

安部　リングのキャンバスをいじるためなんだ。足を使うタイプのボクサーは、キャンバスを張る。ファイタータイプはゆるめる、と。そうやって闘いやすくするんだよ（笑）。

――はあ～。そこまでやるもんなんですか（笑）。

安部　ほかにもいっぱいある。ボクシングだけで、もうイヤになっちゃうほど、いろんな反則ができるんだよ。で、ボクシングが使っていいのはナックルだけだが、この試合（総合格闘技）だと、ヒザもあるし、ありとあらゆる反則ができる。あのサドラーに、4オンスぐらいのグローブをはめさせて試合をやったら、相手は確実に失明するだろうな……。

――そ、そこまで！

安部　できる。たとえば、これはタイのボクサーの伝統芸だけど、気に入らない相手、なんか嫌な相手っているじゃん。それと闘って自分よりヘタだとわかると、わざと倒さずにパンチを口の周りに集中するんだよ。それでフルラウンド、絶対に口の周りしか打たない。テンプルにも打たない。そうなるとさ、いくらマウスピースをしてたって、終わったあとは一週間ぐらい固形物が食べられない。ヘタしたら、歯は一生、使いものにならない。かなりヒドイ手だよ。

――なぶり殺しですね、まさしく。

安部　やられたほうはたまんないよ。なんかいいパンチもらって倒れたいと思っても、相手は倒してく



昭和42年、スペインのマドリッド近郊で。ボクサーとして、"プラティー・ナオ"のリングネームでヨーロッパを転戦していたと安部氏は語る。それにしてもダンディすぎる一枚だ！

一番、有効で最悪の反則？ それは人気者になることだな

れないんだから。

――ちなみに一番、有効で最悪の反則ってどういうものですか？

安部 ああ、それは人気者になることだな。

――は？ 人気者!?

安部 うん。これもサドラーが言ってたんだけど、「観客はお金を払って俺を観に来るわけだから、審判は反則負けにできないんだ」と。

――なるほど！ 思いあたるフシがなくもないです（笑）。

安部 だからサドラーは「俺は一試合で15減点されたことがある」と言ってたよ（笑）。

――しかし、そこまで減点されても反則負けじゃないって（笑）。それでこれはあくまで噂なんですけども、秋山選手はグローブに何か入れてたんじゃないかっていう話もあるんですよ。

安部 それがね、昔のボクシングではそれが横行したんだよ。

――「あしたのジョー」の世界は現実だったんですか！

安部 だからボクシング連盟ではいろんな規定を作ってね、バンデージを全部一枚の包帯で使うことって決めたりね。あと、ちゃんとインスペクターがついて、控室でバンデージを巻くのを見届けて、巻いたバンデージの上にサインすることになったんだよ。そうやんねえと、バンデージの中にいろんなものを巻き込むやつもいるし。

――チェックがザルだったら、充分にありえる話ですよね。

安部 グローブだけでもいろいろできるんだよ。ダウンを取られて、ファイティングポーズを取るとき、審判はボクサーの目を見ながらグローブをもむんだけど。それはどうしてそんなことするかというとさ、倒れたときにキャンバスにおもいきり体重をかけると、グローブのアンコを寄せることができるから。

――つまり、アンコを寄せることで、より素手に近い状態にして……。

安部 最初の一発はベアナックルでブン殴られるぐらい効くよ！ そうすると。

――レフェリーがダウン時にグローブをチェックするのは、そういう理由だったんですね。

安部 いまはグローブもよくなったし、8オンスくらいのグローブだったら体重をかけてもそんなにアンコは寄らない。だからボクサーのほうもダウンを取られたとき、キャンバスに体重かけて起き上がるヤツはいなくなったよ。

――しかし、勉強になりますね、もの凄く（笑）。

安部 あと、ほんの参考に。俺は昭和56年、総長に許しをもらってカタギになったときに、いくつか俺の“裏技”を若い衆や舎弟に教えた。俺がカタギになるんだったら、これはもう誰かに教えてもいいやっていう特技がいくつかあったんだ。それの中の一つに競馬馬のドーピングがあんだよ……。

――いや、非常に興味深いお話ですね、それは（笑）。

【あまりにも裏技すぎるエピソードなので大幅に省略！】

――……いやあ、ちょっと凄すぎますねえ。

安部 これは誰にも伝えられなかったけどな（笑）。

――そのドーピングといえば、格闘技のほうもそういう問題があるんですよ。

安部 格闘技だけじゃねえだろ。●なんて一番忙しい▲▲▲▲▲ですら、シャブをブチブチできるんだよ。

――ハハハハ！ たしかに▲▲▲▲▲でも、できないこともないですね（笑）。

安部 ヒロポンが全盛の頃、俺はボクシングをやりながらブチブチ打ってた。こ～れは大変だぞ！

――さぞかし大変でしょう（笑）。

安部 ヒロポンをやりながらやった試合はホントにキツイ！ あの状態で何ラウンドも闘ったっていうのは凄いよなあ……（しみじみと）。

――でも、効果的な作用があるから打つんですよね？

安部 ……あなた、やったことないの？

――打ちながら、試合をするケースはマレだと思いますけど（笑）。

安部 今度、教えてやる！

――よろしくお願いします（笑）。

安部 まあ、それはともかく、怖さを忘れるために打つヤツはいるよな。たとえばね、○○の連中は怖さをなくすために睡眠薬を飲むんだよ。

――○○のことはそんなに詳しくないんですけど、競技前後の検査には引っかからないんですか？

安部 睡眠薬はションベンに出ないから。しかし、K－1の連中は、よくケツ割んないでちゃんとリングに上がるよな！ 5人のうち一人は試合場に来ないなんてヤツがいてもおかしくないぞ。

――格闘技というのは、それくらい恐怖感があるものだ、と。

安部 あの具志堅用高ですら、引退の記者会見で「もうこれでリングに上がらなくてよくなるから、ホッとしてます」って言ったんだ。あんな正直なヤツはいないけど、実際に格闘家なんて、「練習でケガでもして試合が流れねえかな」って思う瞬間があるはずなんだよ。「地震が起きて後楽園ホールが倒れちまえばいいのに」って（笑）。

――その恐怖をやわらげるためのドーピングってことですね。

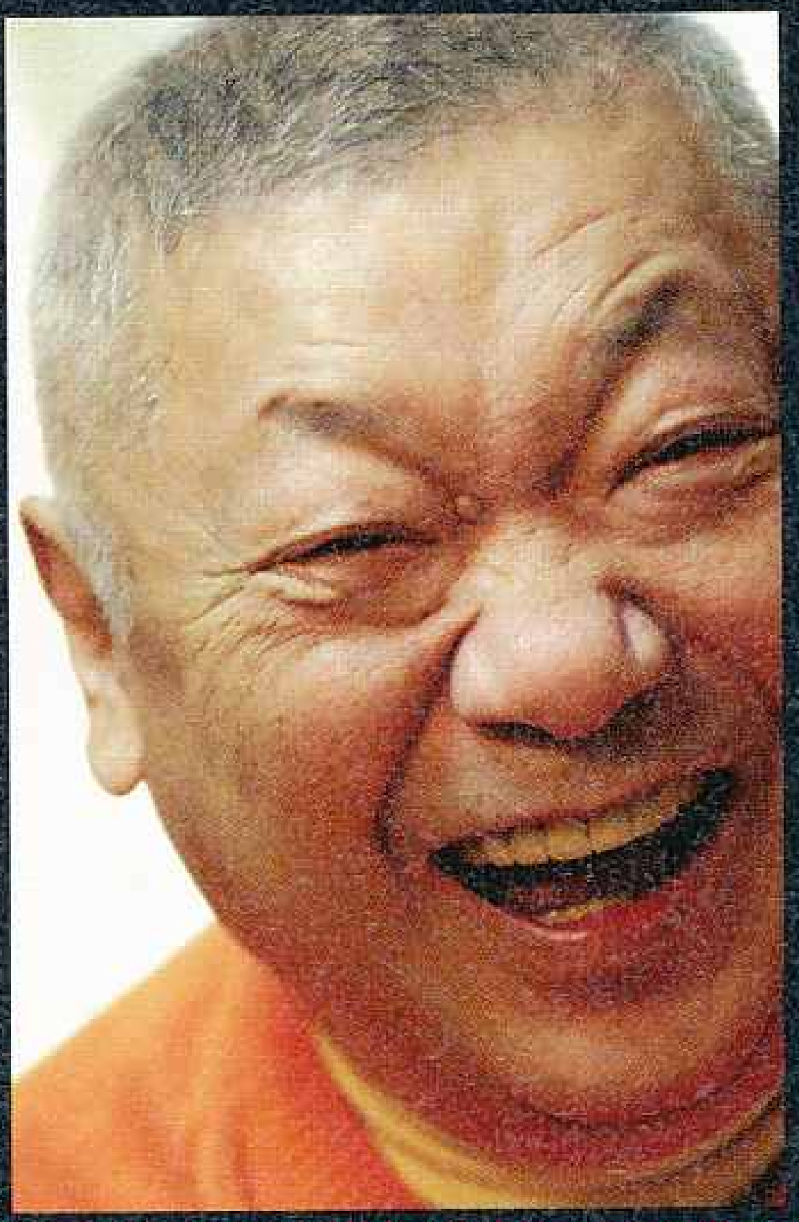
安部 うん。覚せい剤系のドーピングはみんなやらないだろうけど、睡眠薬系はありえるだろうね。やっぱり、ケンカってのは始まってしまえば怖くないけど、始まる前が一番、怖いんだ。それでね、あなたと話をして、70歳の俺が聞いたかぎりでは、いまの選手は大変な試合をやってるんだろうと思う。昔、グラディエーターがローマのコロッセオで、観衆に煽られて殺し合いをしていたのと、ほとんど同じだな……。俺はそっちのほうが怖いよ！

――つまり、人の生死をエンターテインメントとして楽しんでいるという残酷さ。

安部 廃人になりかねないことやってるんだよ。試合前に審判がちゃんとチェックするしかないけど、そんなリングに放り込まれたら、なんだってやりかねないよなあ……。

――いや、その“なんだってやりかねない”裏技を安部さんは知りすぎているというか（笑）。今日は裏技のご教授を含めて、たいへん勉強になりました！

【07年1月30日／都内・安部譲二宅にて収録】



あべ・じょうじ■1937年5月17日、東京都出身。中学時代から安藤昇が率いる安藤組に出入り。裏稼業時代は、その才覚で様々な職を渡り歩いたが、刑務所服役をきっかけにカタギへ。服役時代のエピソードをもとにした『塀の中の懲りない面々』がベストセラー。人気作家となる。

る本物のアウトローとは!?

樹日佐夫

が見た桜庭vs秋山戦

劇画『ワル』の原作者を務め、真樹道場宗師として格闘技界にも睨みを効かせる真樹日佐夫が"桜庭vs秋山戦問題"を一刀両断! "ワル"を語らせたら右に出る者はいないと言われる真樹先生の目に今回の騒動はどう映ったのか? 現在のマット界における"本物のワル"の正体も含め、このインタビューですべてが明らかに!! 心して読むように! 押忍!!

聞き手/松澤チョロ 撮影/菊池茂夫

真樹 今日のテーマはなんだ?

――もう、だいぶ落ちついてきてるんですけど、秋山vs桜庭戦問題を中心に「わるいやつら」について、真樹先生のご意見を聞かせていただければと思っております。

真樹 そうか。まあ、なんでも聞いてくれ。

――真樹先生は『BUBKA』とか他の媒体でも秋山vs桜庭戦についてコメントしてましたよね。

真樹 ああ、そういえば答えたなあ。

――インタビュアーの吉田豪に聞いたところ、載せられないようなヤバイ話も多かったらしいですけど(笑)。

真樹 載せられないところは切ればいいんだよ。

――了解しました(笑)。試合からは、だいぶ経ってしまいましたが、結局、秋山選手は試合前に保湿ローションを塗ってたと認めたわけですが、そのことはどう思われます?

真樹 俺も試合はテレビで観てたけどさ、あのときは全然わかんなかったな。ただ、盛んに桜庭が下からアピールしてただろ。

――殴られながらも、ずっと「すべる!」とアピールしてましたね。

真樹 桜庭は試合をやめちまえばよかったんだ。あいうときは無抵抗になって大の字になっちまえばいいんだよ。

――大の字になって無抵抗ですか。

真樹 そう。それに俺は何か塗ってるって聞いたときに「八百長じゃねえか? イカサマなんじゃねえか?」と思ったけどな。

――……と言いますと?

真樹 何か金が賭かってるのか、絶対負けられない事情がなければ、秋山もそんなことやらねえだろう!

――普通に考えればそうですよね。

真樹 それも、あんな人前でなぁ(笑)。テレビでみんな観てるんだしさ。ただ、秋山ってのは柔道のときもそんなことがあったんだろ?

――あったみたいですね。

真樹 べつに弱かねえんだから、あんなことしなくてもいいのにな。逆に桜庭は弱くなっちゃったよ。あんなことやんなくたって秋山は勝ったんだよ。

――ローション問題がなくても秋山選手が勝っていた、と?

真樹 そう思うよ。桜庭はオーラがなくなっちゃってたしな。よかった頃の桜庭なら、すべろうが何しようが相手をつかまえて倒したと思うしな。結果的に、圧倒的に勝っちまえばよかったわけだろ? それで、「コイツ、なんか塗ってる」ってアピールできれば一番カッコよかったんだよ。

――そうですよね。真樹先生は桜庭vs秋山の再戦は見たいですか?

真樹 俺はどっちでもいいんだけども、まあ桜庭がもう一回やりたいっていう気持ちがあるんなら、次は無期限出場停止を撤回するように手を貸してやればおもしろいだろうな。

――桜庭さん自ら、秋山選手の無期限出場停止を撤回してもらうようアピールする、と。

真樹 そう。亀田(興毅)の試合と同じで二回目は盛り上がるよ(笑)。

――盛り上がるでしょうね(笑)。

真樹 それを恩義に感じて、秋山は改心するかもわかんないしな。ただ、アマから来た選手だけど、そのときにも禁を犯してたわけだろ?

――そうなんですよね。

真樹 少し薬が効きすぎたわけじゃねえけど、まあ一回はいいじゃねえか。ホントに大器だったら、それでもの上がってくるだろうよ。秋山だって一応柔道家だろ?

――一応というか、柔道家ですね(笑)。いつも試合後には「柔道サイコー!」と絶叫してますし。

真樹 へぇ~、そうなんだ(笑)。だから、立ち技から来た連中よりもそんなに寝技は苦にしねえと思うんだよな。でも、そこまで塗ったら、バレバレになっちゃうだろ。少なくとも桜庭がわかっちゃったわけだから。

――ローション一本ぶんぐらい塗ってたみたいですからね(笑)。

真樹 それを聞いたから、さすがに塗りすぎだろって思ったけどな(苦笑)。そこまで危険を冒してやるには何か大金が裏で賭かってるのか、深読みせざるをえないよな。

――ち、ちょっと深読みしすぎのような気もしますが……。

真樹 まあでも、それで認めて処分を受けた秋山はアホだよな。

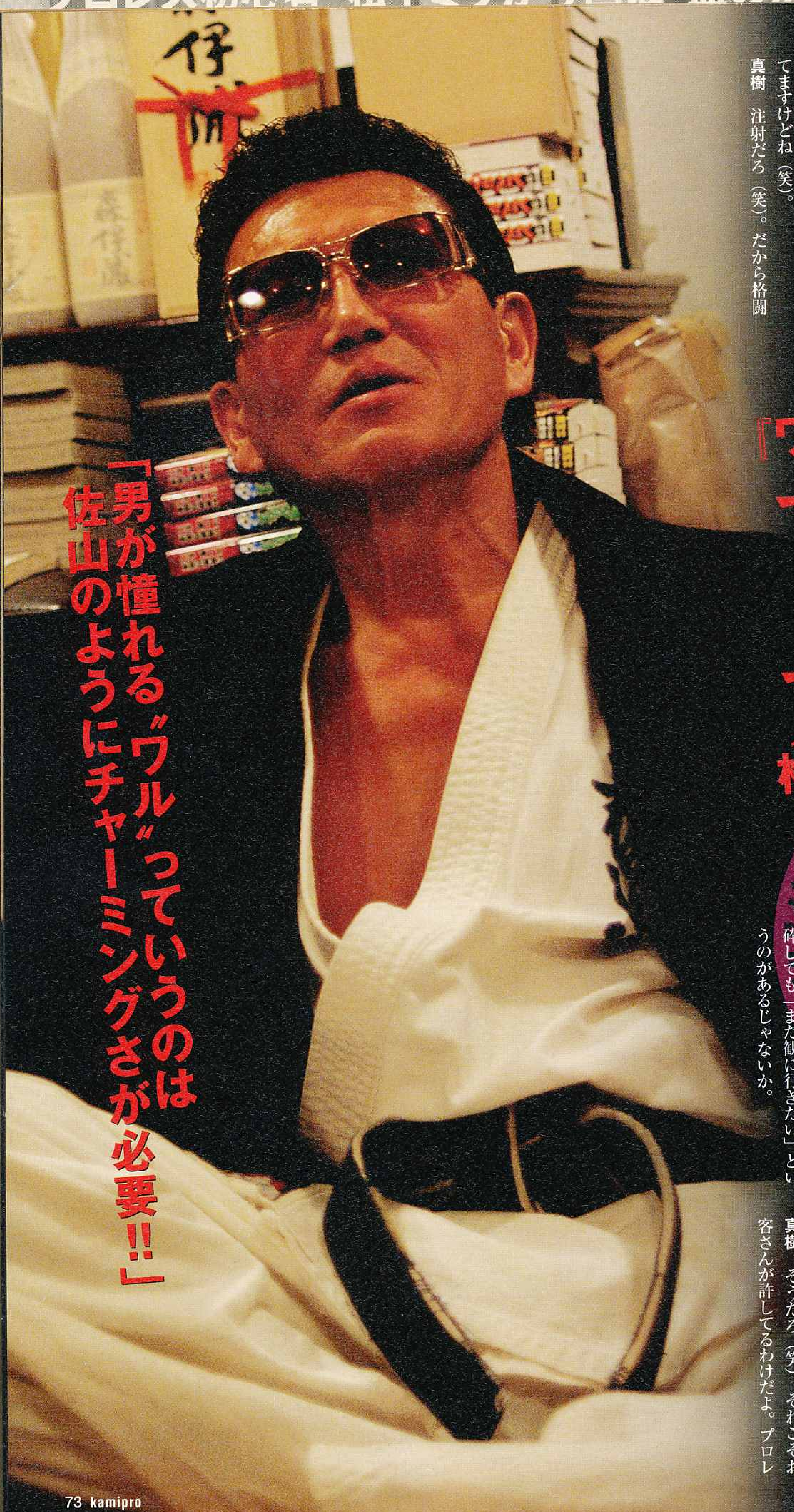
――処分は当日のファイトマネーの全額没収と無期限出場停止ですね。

真樹 まあ、半年ぐらいで許してもらうんだろうけどな。でも、俺からしたらプロ格闘技なんだから何があっても驚かないよな。

――古くからプロ格闘技に深く関わっている真樹先生から見たら、今回の騒動も驚くような話ではない、と?



「本物のワルにはチャーミングさも必要」と語ってくれた真樹先生。マット界でチャーミングな男といえば真樹先生も名前も挙げた佐山サトルのほかに曙さんの顔も思い浮かぶが……曙さんはワルじゃないですね。



「男が憧れる〝ワル〟っていうのは佐山のようにチャーミングさが必要!!」

『ワル』原作者が語る本物

真樹

格闘技界の重鎮が見た

成熟の“悪”を斬る

真樹　八百長なり、ギャンブルなりあっても驚かねえよ。だって、ムエタイなんかみんなギャンブルだろ?

――ムエタイはそうですけどね。

真樹　金賭けてないヤツは一人もいないぐらいの中で試合をやるから、逆に盛り上がっておもしろいということがあるんだよ。あれは国が許可してるからな。

――日本では国技である相撲も、ここ最近は、また八百長騒動で揺れてますけどね（笑）。

真樹　注射だろ（笑）。だから格闘技でも相撲でも、〝プロ〟というのはそういうダーティな面は切り離せないよ。「スポーツマンシップに則って正々堂々と闘います!」っていうのはアマチュアの世界だよ。プロはとにかく勝ちゃあいいんだから。勝ち方を問われることはないんだよ。

――プロなら勝ちゃあいい、と。

真樹　そう。ただ、負け方はあるよ。「二度とおまえの試合なんか見たくない!」というような負け方と、玉砕しても「また観に行きたい」というのがあるじゃないか。

――負けた上に試合内容もひどかったらプロとしては最悪ですよね。

真樹　だから負け方は大事なんだよ。勝ち方は汚くたっていいんだよ。プロは勝ってナンボだろう?

――まあ、そうですね。

真樹　プロレスは真剣勝負じゃねえって言ってしまえばそれまでだけど、ブッチャーなんかそうだろ?

――ブッチャーの凶器攻撃はローションどころの騒ぎじゃないですね（笑）。

真樹　そうだろ（笑）。それこそお客さんが許してるわけだよ。プロレ



秋山はワルというより、気が抜けてるというか、間が抜けてるよ（笑）

スがよくて、『PRIDE』やK−1は悪いということはないよ。

——大きな意味で、どちらも"プロ"の格闘技ですからね。

真樹　そう。なんでもあるからおもしろみが出るというか。正々堂々と闘うだけだったらガキの世界だよ。反則取られればしょうがねえけど。（マイク・）タイソンなんか間違いなくエンピ（ヒジ打ち）入れてるだろう？

——まあ、タイソンは間違いなくやってますね（笑）。

真樹　俺なんかはすぐわかったけど、わからないヤツはわからないからな。アイツはヒジがうまかったよな。

——耳をかじったりというのはわかりやすいですけどね（笑）。

真樹　プロの試合というのはお客さんも何か起こるかもしれないと期待して行くわけだからな、きれいな試合見たって喜ばねえよ。ましてや、バーリ・トゥードって「なんでもあり」って意味なんだろ？

——ええ。"プロ"ではないですけども、オリンピックもドーピング問題とか、いろんな反則はありますよね。

真樹　あれも許しちまえばいいんだよな。「みんなやれ！」と。

——その上で最強を決めろ、と（笑）。

真樹　そうだよ。やたらクスリに対して潔癖になるのはアマだからという意識なんだろうけど、いまはプロの選手もいっぱい出てきてんじゃねえか。テニスもみんなプロだろ？　それで金メダル獲られちゃったらなぁ。

——たしかに。それと一部では秋山選手がグローブの中にメリケンサックを仕込んでたんじゃないかという噂も出てるんですよ。

真樹　まあ、昔、そういうのもいっぱいいたよ。しかし、グローブの中に石とか入れてもあんまり効果ねえと思うんだよ。自分も痛いだろうしな。

——真樹先生の格闘技歴というか、すてごろ歴の中でもそういうシチュエーションは多々あったんですか？

真樹　試合以外は要するにデスマッチみたいなもんだからな。喫茶店でウェートレスが運んできたコーヒーをそのまま「バーッ！」っとかけられたりな。ヤクザは腕力に自信がないからなんでも使うんだよ。

——ひょっとして、ウェートレスを買収してたんですか？

真樹　いや、そうじゃなかったけどな。俺はたまたまサングラスかけてたからよかったけど、熱いコーヒーが目の中に入ってたら、すぐ袋叩きになってたよ。だから電話機でも武器になるし、腕力に自信のないヤツはそうやって頭使うんだよ。

——そういう意味ではバーリ・トゥードは「なんでもあり」と言われながら、なんでもありではないですね。

真樹　いまは噛みつきとか金的とかダメだから「なんでもあり」ではないよ。限りなくケンカには近いけど、あれはスポーツだよな。

——猪木vsアリ戦でも、新間（寿）さんが「鉄板が入ったリングシューズを履いてください！」と言ったという話もありましたけど、そういったことは昔からあったわけですね。

真樹　あるね。「バレなきゃいい」という考え方なんだよ。バレないヤツはバレないで済むだろうけど、きれいごと言ってたんじゃダメだよな。よっぽど実力差があればきれいごとでも相手に勝てるけど、みんな負けたら次は呼んでもらえないとか、プロは生活がかかってるわけだから。

——そういう意味でも、今回の秋山選手はなんらかの負けられない事情があったんじゃないかと深読みしてしまうわけですね。

真樹　そういうことだよ。でも、秋山は桜庭の力を過大評価してたのかもな。それが実際やってみたら、「なんだこの程度か」って思ったかもしれない。べつに俺は桜庭に恨みも何もないけどな。

——いまファンのあいだからは、今回、ローションを塗った秋山選手に対して「ふざけんな！」という声が多数挙がってるんですけど、真樹先生から見て、秋山選手は"ワル"としてはどう評価されますか？

真樹　俺に言わせれば、気がついた時点で桜庭も反則すりゃよかったんだよ。だからどっちもどっちだよ。秋山はワルというより、気が抜けてるというか、間が抜けてるよな（笑）。

——間が抜けてますか（笑）。

真樹　裏が何もないとすれば、「何を考えてるんだ？」って感じだよな。よっぽど桜庭の力を強いと思い込んで、バレたらバレたでしょうがないけど、勝つためになんでもやってみようと思ったんだろうな。

——ちなみに、これが実際に秋山選手が塗っていたものなんですけど（と言ってローションを手渡す）。

真樹　これは本来何に使うんだ？

——乾燥肌の人が使うようですね。

真樹　ああ、そう。これで、すべって桜庭はタックルできなかったというわけだな。

——真樹先生の幾多の闘いの中で、すべるって経験はありました？

真樹　俺は大雪の中で闘ったこともあるよ。ツルツルして、凄いすべったけど、あれは向こうもそうだからな。

——条件は同じだったと。でも、ハンデがある闘いというのも真樹先生ぐらいになると、いくつも乗り越えてきてるわけですよね。

真樹　まあ、あらゆるシチュエーションを想定しないとな。だってケンカっていうのは反則もありだろ？　卑怯もへったくれもないんだよ。プロの格闘技以上に勝ってナンボの世界なんだから。負けたらヘタしたら死につながるわけだから。

——ケンカに負けるってことは、そ

本物のワルは、自分の憲法、流儀をしっかりと持って生きてるんだよ

ういう可能性もあるわけですからね。

真樹　そういうこと。でも、秋山はもったいないよ。おもしろいキャラなのにな。無期限出場停止がどれぐらいになるのかわからんけども。

――逆にどういうかたちで表舞台に出てくるのか興味ありますよね。

真樹　そうだな。でもアイツはデビューした頃と比べると、だいぶ強くなったよ。まあ、無期懲役っていっても10年とか15年とかで出てくるんだから、無期限なんていうのは有期刑と一緒だよな。全然、無期限なんかじゃないよ。

――死刑囚ではないですからね（笑）。今回の秋山選手に関しては、「間抜け」の一言ですか。

真樹　そうだな。もっとバレないように巧妙にやらなきゃ。あれじゃあ、ワルというより、ただの間抜け。

――秋山選手は、以前本誌で連載していた真樹先生の『無比人』の主人公のイメージにピッタリなんじゃないかっていう人もいるんですよ。秋山選手がSMを嗜むのかは知りませんけど（笑）。

真樹　いや、『無比人』はもうちょっと悪いよ。それこそワルだよな。秋山はただの間抜けだよ。べつに反論もせず、バレちゃったらしょうがないで謝っちゃったんだろ？

――でも、「故意ではない」と言ってますけどね。

真樹　故意もへったくれもねえじゃねえか！　自分で塗っておいてさ。それは100パーセント故意だろう。

――100パーセント故意（笑）。

真樹　そんなこと言ってんだったらカッコ悪いよ。カッコよさと離れちゃったら、ワルというより悪だよな。

――"ワル"と"悪"とは違うと。

真樹　スポーツマンシップに照らせば悪いことだけどさ、もっと巧妙にやればいい。法律でくくれないものを持ってなきゃダメだよな。善悪じゃなくて美醜だな。俺から言わせると。

――美醜ですか⁉

真樹　醜いことはやらない、と。そういう自分のものさしを持って生きてきたヤツじゃねえとな。だから秋山なんかはワルとは言えねえだろ。たとえば人を殺したって、それは法律に照らせば殺人犯だけど、そんなことはワルにとってはどうでもいいんだ。後ろから斬りかかるとか、そういうやり方はワルとしてはしちゃいけない。自分の憲法をちゃんと持って、法律なんかクソくらえで意に介さない。自分の流儀を持っているかどうかだろうな。

――本物のワルは自分の憲法を持っている、と。



まき・ひさお■本名・高森真土。1940年6月10日東京都出身、劇作家、映画プロデューサー、真樹道場宗師などの肩書きを持つ故・梶原一騎の実弟。おもな著書に『実録 地上最強のカラテ』、『すてごろ懺悔』、『無比人』、劇画原作では『ワル』が有名。空手では東京総本部以下、新潟、千葉、神奈川、愛知、沖縄、ロシアの各地に支部を置き、キックボクシングでも真樹ジム愛知並びに真樹ジムオキナワを傘下に置く格闘技界のドン。

真樹　あと最低条件として群れをなさない。一匹狼じゃないとな。あとは"非行"と"不良"の違いだろうな。非行少年と不良少年って言うだろ？　非行少年っていうのはもうどうでもいいんだな。不良少年っていうのは、ちゃんとしたヤツになる可能性はいっぱいあるわけだ。

――たしかに"不良"っていう言葉は、いいイメージもありますよね。

真樹　不良という言葉には非常にいい響きがあるよな。非行というのはただ法律を犯してるだけで、おもしろくもなんともないよ。たとえば試験で100点取る自信があるのに、白紙のまま出すのが不良で、なんにもできないで書いた答えが全部間違えてるのは非行だよ（笑）。

――それは、かなりの非行ですね（笑）。

真樹　不良というのは自分の意志を持って試験をボイコットする、そういうことがカッコいいんだよ。全部問題解けないから結果的に0点じゃ、誰の共感も得られないよ。だから確固たる理由があって人を殺すよりも、つまんない理由で人を裏切るヤツのほうがよっぽど罪は重いよ。許される殺人というのもあるよな。やっちまったことを後悔せず、それで自分の生き方を語れる。「これこれこうだから殺しました」とハッキリと胸を張れるならば、法律というのはあんまり意味を持たなくなるな。

――勉強になります。そういう意味で、現役で活躍している選手の中で真樹先生も認められる"ワル"って誰かいますか？

真樹　佐山（サトル）じゃないかな。

――佐山さんは確かに"ワル"ですね（笑）。

真樹　約束も破るけど、アイツはいつまで経ってもおもしろいヤツだからな。憎めないっていうか。

――そういう部分も含めて"ワル"なんですね。

真樹　そういうこと。まあ、これは佐山に限らずだけど、プロ格闘家のやっちゃいけないことっていうのは、やっぱりファンを裏切ること。ファンを裏切りさえしなければ、殺し合ったってべつに罪にならないんだからさ。リングの上だったら（笑）。

――リング上なら合法ですよね（笑）。

真樹　やるんだったら徹底的にやんなきゃダメだよな。いくら汚い手を使ったって、レフェリーの目を盗めばいいわけだから。

――でも、アントニオ猪木という存在は、いい意味でも悪い意味でもファンを裏切ってビッグになったというところもありますよね（笑）。

真樹　猪木は裏切りの歴史だよ（笑）。俺はべつにそう思わないけど、それでもプラスアルファというか、サムシングがあるからいまだに第一線にいるじゃねえか。猪木が絡むと、なんとなくおもしろく思うだろ？

――「何かがあるんじゃないか？」と思わされますよね（笑）。

真樹　このあいだだって、ドタキャンして2回も3回も延期してさ。あれが猪木流の生き方だよ。

――『INOKI GENOME』ですね（笑）。

真樹　まあでも、猪木はワルじゃなくて策略家だよな（笑）。

――猪木さんは策略家ですか（笑）。

真樹　策略を巡らしてるからさ。もうちょっと佐山は単純だからさ。あとは、やっぱり本物のワルっていうのはチャーミングじゃないとな。悪いことするけど、憎めないヤツいるじゃねえか。

――それこそ佐山さんは非常にチャーミングですよね（笑）。

真樹　そうだろ。ちょっとのことで嫌われるヤツもいるし、やっぱり持って生まれたものというのはあるな。

――それは重要ですよね。

真樹　ただ殺伐としてるだけじゃ、人はついてこないよな。いっぱいワルの支持者がいて、初めて「俺は群れるのは嫌い」と。それが本物のローンウルフだよな。

――ほぉ～、勉強になります！

真樹　こんなところでいいか？

――押忍！　ありがとうございまし

――あ、どうも星野さん、今日はよろしくお願いします！
星野　今日は秋山と桜庭の話やろ？
――はい、そうなんですよ。〝ケンカ屋〟である星野さんにぜひ、見解をうかがわせていただこうと……。
星野　（さえぎって）そんなもん今日の新聞に全部もう出とったやないか！
――今日の新聞……ですか？　（困惑気味に）また何か情報が出てましたか。
星野　谷川さんが「視聴率を上げるためにやった」って書いとった！　そんなん出とったからもう談話することないよ。
――えっ……本当にそんなことが書いてあったんですか!?
星野　出場停止とかね、そんだけペナルティがあるんだったら俺もなんか言えるけど、あんなふうに書いてあるんやから、もうなんも言えんよ。真面目に語っとったら馬鹿みたいなもんや。
――っていうか、谷川さんが「視聴率を上げるために出場停止にした」って本当にそう言ってるんですかっ!?
星野　『スポニチ』見てみ！　谷川さんと俺は仲いいし、個人的にもやりとりとかしたこともあるしね。だからあんまりあっけらかんと言ったら相手に悪いやろが。
――ちょ、ちょっと待ってください!!　その新聞、ちょっといますぐ読ませてもらっていいですか!?　（と言って、新日本プロレス事務所に置いてあった『スポニチ』を借りてしばし熟読。記事には谷川FEG代表の写真と『紅白超えるため』という見

…小僧が“オイルショック騒動”を一刀両断!!

…野勘太郎

…見た桜庭 vs 秋山

喧嘩のことなら俺に聞け！　というわけで、特集第3弾は「喧嘩させたら右に出る者はいない！」とまで言われる猛者中の猛者、星野勘太郎である。本物の男の喧嘩、そしてリング上（と控室）での“作法”を桜庭 vs 秋山戦を通して激白した星野総裁は、まさに“さすが”という迫力。はては、秋山 vs 吉田戦を熱望する星野総裁だが、その真意とはいったい……!!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫



1月25日の『スポニチ』には谷川FEG代表のインタビューが掲載されており「秋山出場停止は紅白超えるため」と見出しが打たれていた。これを見た星野総裁は「視聴率のためにワザとやったんや!!」と激怒。確かに“視聴率のため”ではあるのだが……。

出しが掲載されている）。
星野　（新聞をのぞき込みながら）19パーセントかなんぼかそのくらい視聴率があったんやろ？　それで話題をひくために……。
――いや、ちょっと違……ふむふむ……、（新聞を読み終えて）なるほど！　星野さん、要はこういうことらしいです。秋山成勲選手をこんなに重い処分にしたのは、「FEGはちゃんとやってますよ」ということを世間にアピールして、次回の『Dynamite!!』で、あらためてちゃんとした視聴率を獲るためだということみたいですね。
星野　だから、視聴率のためやろが！
――ま、まあ、視聴率のためっちゃ、視聴率のためですね（苦笑）。
星野　内容を読んだ人はどう考えてもそう受け取るよ。
――確かに、この見出しではそう受け止めかねないですね（笑）。
星野　記事の内容はよく読んでないけどね、谷川さんがどういう意味で言ったのかはわかる。
――そうですか（笑）。それはそうと、星野さんはもちろんあの試合はご覧になってたんですよね？
星野　テレビで観たよ。好きだからね（ニヤリ）。
――ガチンコ好き（笑）。では、率直な感想としては？
星野　率直も何も勝てないやろ、桜庭は。すべるとかすべらないとかそれ以前の話であってね。べつに何も塗ってなくても（タックル）取れないんやないか？　あれ。勝負あったよ。俺の見た限りではね。
――勝負ありましたか！　もともと星野さんから見て秋山選手というのはどんな選手だと映ってますか？
星野　秋山は素晴らしいよ。いままでね、柔道で絞めたり投げたりとかしかやったことない選手にしては打撃がいいね。K―1でも充分闘える。ウソやないぜ。
――ただ、そういう素質のある選手が今回の一件で非常に残念なことをしてしまいましたよね。
星野　処分されたんやろ？　やけどね、処分っていってもどうすんの。なんで審判はちゃんと見なかったの。
――ま、まあ、そうですよね（笑）。それが非常に不思議なところでもありますけど。でも、秋山選手の身体を触ってチェックした審判は皆さん「わからなかった」と言われてますけどね。
星野　そんなもん「わかんない」で済むわけないやんか。審判が悪い！
――さんざん言われてるのが、クリームが汗と混ざると非常にヌルヌルしてすべりやすくなるんですけど、塗った瞬間はスベスベしていて触ってもわかりにくいそうなんですよ。
星野　そんなんあなたがわかるんだったら、審判だって百も二百も承知やない。
――それは試合後にわかったことなんです（笑）。
星野　（聞かずに）審判は商売でしょ？　そしたら職務怠慢よ。運営にしたって、この前は（前田）日明が途中で試合を止めようとしたりしてたでしょうが。危なくて止めたり

"喧嘩無敗"の突貫小僧た…

星野…

プロのケンカ屋が見た…

成熟の"悪"を斬る



「桜庭は再戦しても勝てんやろ。
俺はそれより秋山vs吉田が見たい!!」

してたけどね、あんなのガタがきたら選手は商売にならないじゃない。

──『HERO'S』には、レフェリーと同じくリングサイドの前田さんたちにも試合を止める権限があって、今回の桜庭vs秋山戦も最終的には平（直行）審判長が止めたということですもんね。

星野　だから、秋山はそんなもんヌルヌルしようと思って塗ったわけじゃないよ。みんなに迷惑かけることになるんやからね。

──なるほど。では、あくまで星野さんとしてはあれは審判のミスティクだったという見解だと。

星野　ミステイクよ。だから本人はかわいそうなんですよ。ちっちゃい頃から清く正しい柔道を習っててね、そんなことを考えるかね、普通。秋山はそういうふうに見えないけどねえ。だから審判が悪い！

──わかりました（笑）。それで、今日、星野さんには、秋山選手のことは別にして、いままで数々の喧嘩を体験されてきた星野さんだからこそ語れる"男の勝負論"についてお聞きしたいと思うんですよ。

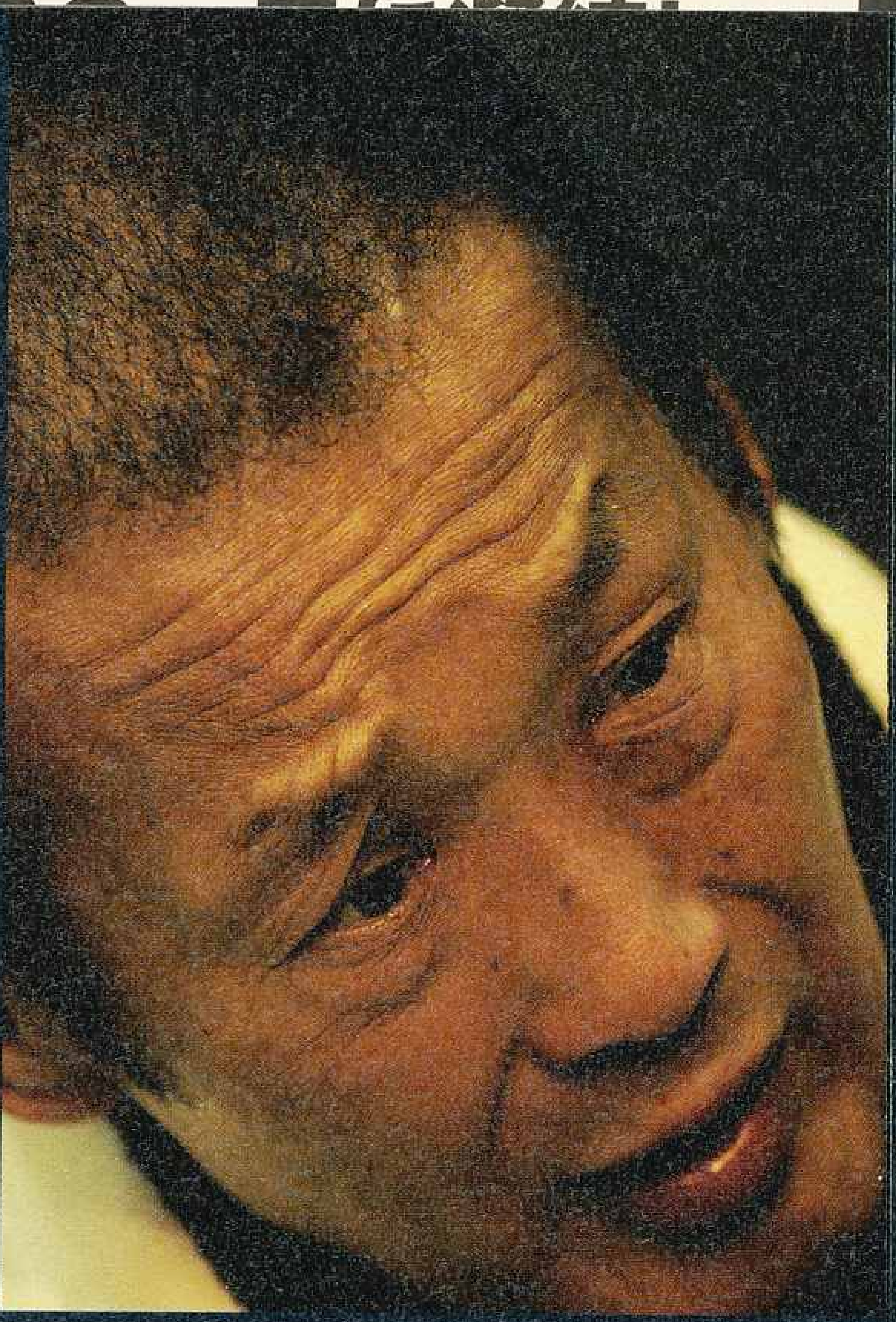
星野　ああ、喧嘩やったらこのあいだもやってきた（当たり前のように）。

──ダハハハ！　喧嘩してきたばかりですか（笑）。

星野　まあ、あれは喧嘩というほどのことでもなかったけどね。ちょっとイスを叩いてバラバラにしたんだよな（得意げに）。

──イスをバラバラに！　いったい何があったんですか!?

星野　ちょっと腹が立ったことがあったから。「あなたは私のうしろに



回っても勝てないからね」って言ってやったけど、それでもあんまりゴチャゴチャ言うもんだからイスをバーンとやってやってね。それで「（表に）出ましょうか」って言ってな。

――それは出たくないですねえ（笑）。しかし、そんな方だからこそお聞きしたいんですけど、星野さんとしては喧嘩はやっぱり正々堂々と闘うべきだと思いますか？

星野　ふんっ（あきれたように）。喧嘩というのはね、やっぱり早いもん勝ちなんだから。早く相手を叩きのめす。先手必勝よ。

――たとえば、武器を持って相手を殴るというようなことは……。

星野　（さえぎって）モノは持たないよ。モノを持ったことは一回もない。こっちは腕に自信があるんだから。

――では、相手がモノを持ってきたりとかは？

星野　そんなもん、モノを持つ前にやってやりますよ。勝つためには宮本武蔵みたいにやらないと。

――宮本武蔵みたいに（笑）。ということは、どちらかというと星野さんが仕掛ける側だったんですね。

星野　仕掛けるというかね、若い時分はこっちが気に食わんかったら相手も気に食わんのわかっとるから、それで喧嘩が始まるんだよな。鏡と一緒だよ。そんなんで〝よーい、ドン〟でやるわけないんだから。〝よーい、ドン〟の前にカーッとなったら早く手が出るやろ？　だから、いつでも先手必勝ですよ。秋山みたいにペナルティもあるわけないんだからね。

――確かに、ゴングも何もないわけですからね（笑）。そういう部分で喧嘩というのも「勝てば官軍」というところがあるんでしょうね。

星野　まあ、お山の大将だよな。だから、学生の頃とか強いもんとやっていくとどんどん名前が知れ渡るわけよ。よその中学でもなんでも。

――へんな話、〝喧嘩屋〟としての知名度が上がっていくわけですね。

星野　抜群ですよ（得意げに）。いまでも神戸に行ったって抜群だからね。

拳はいくら鍛えて固くしたって なんにも反則やないからね

――聞けば聞くほど凄いですねえ。ちなみに、秋山選手なんかは喧嘩の才能あると思いますか？

星野　あれも相当やったんやない？（ニヤリ）。ま、日明よりはやっとらんかもわからんけどね。

――やっぱり前田さんのほうが上（笑）。星野さんのそういう喧嘩体質はもちろんプロになってからもまったく変わってないんですよね。

星野　変わらない。控室でやったり、ホテルの裏の川縁に連れて行ったりしてね。

――まるで放課後に校舎の裏に呼び出すみたいな感覚ですね（笑）。

星野　川縁に連れて行ってボコボコにやるわけよ。まあ、呼び出したヤツも名前言ったらわかるけど、言ったらかわいそうやろ？（得意げに）。

――ま、まあ、ボクは聞かなくても全然いいんですけど。その喧嘩というのはいったいどういうことがきっかけになるわけですか？

星野　気に食わんかったから（キッパリ）。

――ダハハハハ！　たったそれだけ（笑）。ちなみに今回、秋山選手は「グローブに何かものを入れてるんじゃないか」という疑惑もあったんですよね。星野さんもかつてボクシングをされてましたけど、何かグローブにものを入れて……。

星野　（さえぎって）俺はそんなことはしないよ。

――いやいや、もちろん星野さんじゃなくて（笑）、周りにそういう話とかはあったんでしょうか？

星野　いやいや、ありえない。

――じゃあ、バンデージをガッチガチに固めてたりとかも……。

星野　（再びさえぎって）それはある！

――ダハハハハ！　それはあるんですか（笑）。

星野　多めにテープを重ねるみたいなね。俺はやったことないけどね。

――それはなくても勝てるから？

星野　まあ、そのとおりやね（ニヤリ）。いまでも強いですよ。この前は壁をどついて、壁をバキバキっていわせたしね。

――ええっ!?　イスに引き続き、壁まで!!　それって骨は大丈夫なんですか？

星野　骨はね、強くなるんですよ。打ってるとだんだんブヨブヨになる。それが固くなってね、だんだん強くなる。

――へえ～。それっていったいどういう原理なんですかね。

星野　拳のここ（指の付け根の骨の部分を触りながら）は軟骨みたいな感じらしい。だからブヨブヨになったら普通は注射で治したりするみたいやけど、ほっとくとどんどん固くなるんだよな。だから、頭も一緒ですよ。肉と骨の境目にブヨブヨができて、それが固くなる。（大木）金太郎さんなんかそれで頭が固くなったんだよな。

――大木金太郎さんの石頭はそんなふうにしてできあがりましたか！

星野　あの人も打ちすぎてブヨブヨなったやろ。どういう現象なのかわからんけど、ハンマーでガーンとやったりしとったからね。

――ハンマーで！　確かにキックボクサーなんかも砂袋なんかをスネでガンガン蹴って鍛えるという話をよく聞きますよね。

星野　固くなったら痛みが半減するんだよな。拳はいくら固くなったって反則じゃないからね（ニヤリ）。

――でもプロレスの世界では観客の見えないところで〝仕掛けて〟きたりとか、卑怯なことをしてくる選手もいたんじゃないですか？

星野　ああ、わざと目に指を入れてきたりね。

――そういうことされた場合、星野さんはどう対処されてたんですか？

星野　そんなもん、控室でボコボコ



ですよ（キッパリ）。

―ダハハハハ！　やっぱりボコボコ（笑）。

星野　それ以外ない。リング上ではちょっとお客さんの前だからね、プロとしてちゃんとした試合を見せないといけないけどね。でも、試合終わったら「来るなら来い」と。

―逆に言うと、一度リングに上がった何があっても試合をまっとうしないとダメだと。

星野　プロだからね。そりゃ、感情的になって一発やるときもあるけど。

―今回、桜庭選手は「タイム！」って言って試合を途中で止めようとしたじゃないですか。ああいう行為に対してはどう思いますか？

星野　あれは、一回タイムにして身体検査をやったほうがよかったんやないの。ちゃんと試合ができる状況にレフェリーがせんかったのがダメですよ！

―やっぱりレフェリーに問題がある、と。

星野　でも、クリームなんてマットでゴロゴロやってたらすぐなくなるんやないの？

―どうなんでしょうねえ（笑）。ただ、今回は試合時間が短かったがゆえにヌルヌルが凄く効いちゃったってことなんでしょうか。

星野　効いたっていったら、パンチのほうが効いてたやろ。

―そうですか（笑）。

星野　それが現実なんですよ。そうだろうが。それを覆すにはもう一回やらないとね。でも勝てるかね？　あれ。あんだけ打撃の差が出たら、今度やっても一緒だと思うけどな。

―まあ、再戦があったら本当に誰もが見ると思うんですけど「不正をやった秋山選手にはもう再戦のチャンスも与えるべきじゃない。」という声もファンのあいだにはあるみたいなんですよ。

星野　そいつらは観る資格ないな。

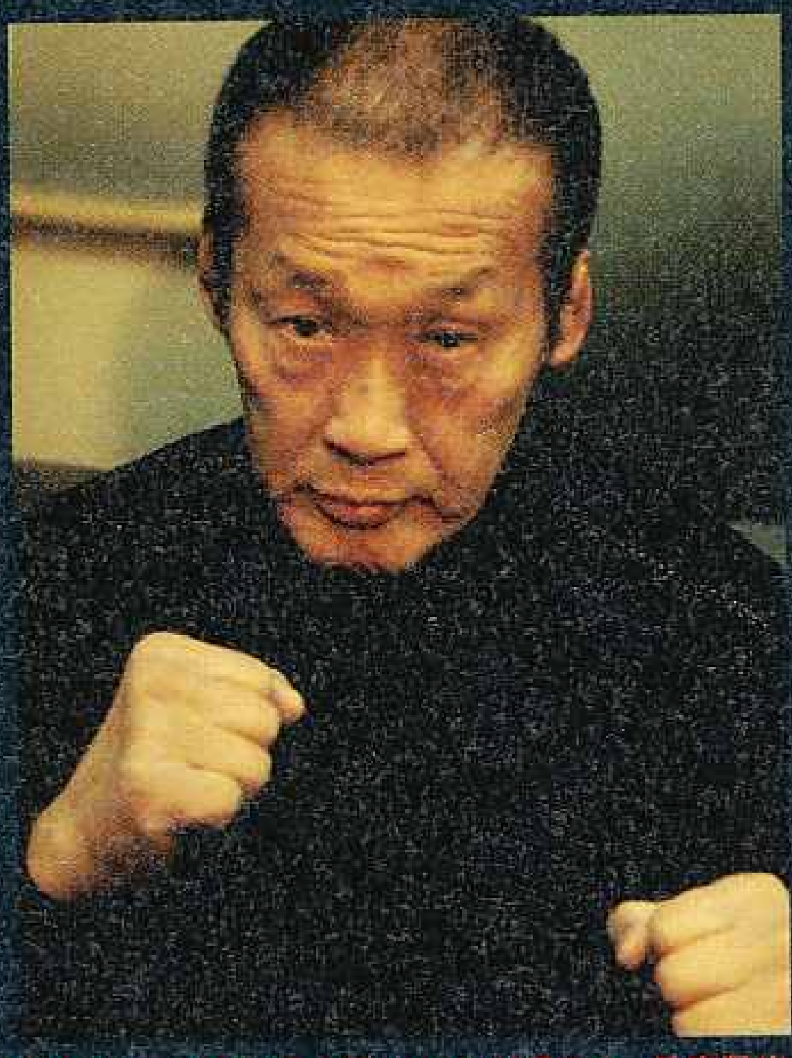
―むしろ、観る資格を没収しろ、と（笑）。

星野　（眉間にしわを寄せて）だってよ、おってナンボやないの。処分も受けたんやし。こういういい選手はなかなか出てこないよ。

―こういうことが起こったことで、いい意味でも悪い意味でも、次の秋山選手の試合は観てみたいことはたしかですよね。

星野　そうやろ？　でもねえ……俺はどっちかって言ったらね、桜庭との再戦はべつに見たくない。それよりも、本当は秋山vs吉田（秀彦）戦が見たいんだよな。

―桜庭戦をすっ飛ばして秋山vs吉田戦ですか！



ほしの・かんたろう■1943年10月9日、兵庫県出身。61年に日本プロレスに入門し、67年にはアメリカで山本小鉄とヤマハ・ブラザーズを結成し、大活躍。また、79年1月には国際プロレスのリングに乗り込み、G.草津&A.浜口からIWA世界タッグ王座を奪取。95年に現役レスラーを引退したが、02年8月からは魔界倶楽部総裁としてリングに復帰し「ビッシビシいくからな！」発言では『東スポ』でプロレス流行語大賞を受賞した。

星野　だって、桜庭とやったって今度も秋山が勝ちますよ。だから吉田だよな。でも秋山は打撃がいいから吉田も危ないんやないかと思うよ。俺の目ではね。これは、べつに秋山が好きだから言ってるんじゃないよ。俺、秋山のことはあんまり好きじゃないから。

―あ、好きじゃないんですか（笑）。じゃあ、同じ柔道出身選手ということで、小川直也さんはどうですか？

星野　……小川？　小川はあんまり見たくないなあ。

―ダハハハハ！　見たくないですか（笑）。

星野　だって、何しに出てきてんの？　あれ。プロレス一本でやったらいいのに。それに、プロレス代表で出るんだったら負けたらいかんよ。そうやろ？　あんなにドッカリしといて。『ハッスル』で負けたどころの騒ぎではないだろ！　……そういえば最近ぜんぜん音沙汰ないけど何してんだ？

―ええ、ちょっとお休みというか、ハッスル星に行っちゃったみたいなんですけど（苦笑）。

星野　（首をかしげて）わかんないねえ。まあでも、谷川さんは仕掛けるのうまいからね。絶対、秋山は次に何か考えてるよ。

―まぁ、良きにつけ悪しきにつけ、これだけ話題になってますからね。

星野　最高やないの。プロは話題になってナンボよ。さすが谷川さんやと思うわ。

―しかし、一つ問題があってですね。前田さんもこの件に関してはちょっと怒ってることがあるみたいなんですよ。

星野　あ、そう。それで日明はどういうふうに怒ってるの？

―前田さんはご自身のブログで見解を書かれてたんですけど、要は、星野さんがおっしゃったように、『HERO'S』の運営がしっかりしないといけないということと、秋山選手がこれほどまでにバッシングを受けてるというのはあまりにも問題が大きくなりすぎてて忍びない、と。

星野　（眉間にしわを寄せて）い〜いことじゃない。みんな観るやろ？　次の試合。

―ええ、そうなんですけど（笑）。それとですね、ネットなんかでは秋山選手の国籍問題に絡めて「前田は同じ在日で、いまは帰化した人間だから秋山をかばうんだろ」とかいう声があるようなんですけど、それにも憤ってるんです。

星野　……あのねえ、俺らそういうことあんまり言いたくないけど、俺らが韓国行ったら「何しに帰ってきたんだ！」とかって言われるんですよ。帰化しといて何をいまさら、と。それでこっちにおってもそういうこと言われたりしてね。でも、ハッキリ言ってそういう問題じゃないだろが、今回のは。

―まったくそのとおりですよね。

星野　だから、俺はやっぱり秋山vs吉田戦を見させろ、と。それが一番！

―あくまで秋山vs吉田でいきますか（笑）。

星野　秋山、勝つかもよ〜。打撃が素晴らしいから勝つんじゃないか。あれは持って生まれたセンスだからね。努力もしてるんやろうけどね。

―星野さんのお墨つきだ、と。

星野　こんなんやらなきゃどうすんの。吉田を（『HERO'S』に）ひっぱればいいよ。大晦日はそっちのほうが視聴率獲れるよ。

―たしかに、格闘技ファンと世間、両方の興味を引くカードではありますよね。

星野　『PRIDE』もアメリカで頑張っとるみたいやけど、日本でテレビでやらなかったら死んだのと同じや。吉田も歳とってそのうちだんだんダメになるよ。いまのうちにテレビでやれ！

―では、本日の結論的には「大晦日に秋山vs吉田戦を『HERO'S』でやれ！」ということで、今日はありがとうございました。

【07年1月25日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

谷川さんは仕掛けるのがうまいからね 絶対、秋山のことは次に何か考えてるよ

派ヒールが“メリケン疑惑”を大分析!!

松永光弘

器のスペシャリストが見た桜庭vs秋山戦

桜庭戦での“悪行”でいまや大ヒールとなり、さらにファンのあいだではグローブに凶器を仕込んだ疑惑もいまだ根強い秋山を、ヒールの大先輩であり、凶器のスペシャリストでもある我らがミスター・デンジャー、松永光弘が大分析！　プロレス界きっての理論派としても知られるデンジャーは、桜庭vs秋山をどう観たのか!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

――松永さん！　昨年末に行なわれた桜庭和志vs秋山成勲戦が、試合後1ヵ月が経とうとしているいまでもいろいろ騒がれているんですけど。じつはあの一戦で、秋山選手は身体にクリームを塗っただけでなく、グローブに細工をしてるんじゃないか、さらに凶器を仕込んでいたんじゃないかという疑惑がファンのあいだで根強いんですよ。

松永　そこでボクの登場というわけですか（笑）。

――そういうことです（笑）。凶器のスペシャリストである松永さんにこの試合について、おうかがいしたいんですけど。もちろんご覧になりましたよね？

松永　ええ、観ました。まず、試合の感想から言えば秋山選手は予想どおり強いなと。桜庭選手がKO負けでもおかしくないくらい苦戦したリトアニアの選手（ケスタティス・スミルノヴァス）にも軽く勝ってるので、ずいぶん力の差があるのかなと試合直後は思ってたんですけど、あとからああいうことが起きて。

――大変な騒ぎですよね。

松永　あれは秋山選手が塗ってたのを隠してたことが一番の問題ですよね。試合直後に「乾燥肌だからスキンクリーム塗ったけど、そんなにすべりますかね？」って自分から言えばよかったんですよ！

――言わなかったからこそ、確信犯だと、いつまで経っても思われてるわけですからね。

松永　あれってスポーツやった人ならわりと経験あることなんですよ。空手とか柔道とかやってる人でもクリーム塗って、汗かいたら「しまった！」と思って慌てて拭いたりとか。

――じゃあ、そういうものを塗ったらヌルヌルになるのは誰でも知っていると？

松永　知ってますね（キッパリ）。塗ったときはわかんないんですけど、汗をかいたら一発です。

――しかも塗ってたクリームがありえない量だったという話ですからね。「そりゃすべるだろう！」っていう（笑）。

松永　そうなんですか!?　普通そこまで塗らないですけどね。手に軽く取ったヤツをすり込むぐらいで。じゃあ、やっぱりわざとなのかな……。ただ、ああいう審判の目をかいくぐることってやろうと思えばいくらでもできるんですよ。自分がアマチュア時代はそういうことを考えたことは何回もありますからね（キッパリ）。

――ダハハハハ！　あるんですか（笑）。さすが生粋のヒールですねえ。

松永　まあ、考えただけでやらなかったですけど。空手の試合はアマチュアなので、細かい規則ないじゃないですか。せいぜいパンフレットに載ってる「つかみは5秒まで」だとか、「場外に出たら攻撃を止める」とか書いてあるぐらいですからね。たとえば、太股のところに革のサポーターをはめてやれば、ローキックが効かなくなるんですよ。

――ああ、なるほど。道衣着てるから見えないし。

松永　だからやろうと思えば、いくらでもできるんですよ。アマチュアの不正というのは。でも、プロでやるというのはあんまり聞いたことないですよね。

――逆にアマチュアのほうが「ルールに書いてなかったら、どんなことをしても勝ってやる」という頭になりがちなわけですか？

松永　それはあるかもしれませんね。ただ、やったら大ヒンシュク買うし、そんなかたちで勝っても自分として満足できないじゃないですか。だから考えたことは何度もありますけど、やったことは一度もないですよ。

――そういう不正は自分のプライドが許さない、と。

松永　ただ、空手の試合でつかみはOKとか、投げもありとかそういう試合では、道衣の袖を切ったことはありますね。

――ダハハハハ！　あるじゃないですか（笑）。

松永　そうすると持つところがなくなって、こっちが有利になるんですよ。そのぐらいのことはやったことありますけど。

――松永さんは学生相撲もやられてましたけど、相撲でもそういった“裏技”みたいなものはあったんですか？

松永　相撲は汗をかくことですね。ウォーミングアップしたときに、胸にかいた汗を拭かないでおくんですよ。そうすると、つっぱりがすべっ



理論派ヒー

松

凶器のス

「本当にメリケンサックで殴ったら顔面骨折じゃ済まないですよ!!」

ちゃうんで。あとは安い生地のマワシを買ってきてきつく巻くと、マワシが取れなくなるとか。そういう小賢しいマネはいくらでもありますけど、秋山選手は実力がある人なのに、そんなことで一気に株を落としてもったいないですね。強さだけで言えばいままでの柔道出身の選手の中で一番なんじゃないですか？

——総合格闘技への対応力やセンスはかなりありますよね。

松永 よく一番強いと言われるのは吉田秀彦選手ですけど、ウェイトの差を抜いたら秋山選手のほうが上のような気がするんですよ。二人の打撃の技術なんか全然レベルが違うじゃないですか。秋山選手は（メルヴィン・）マヌーフにも勝ってますからね。マヌーフは『PRIDE』でも通用すると思いますよ。あのスピードですからね。そんな選手に勝てるぐらい強いのに、なんでそんなことを……。

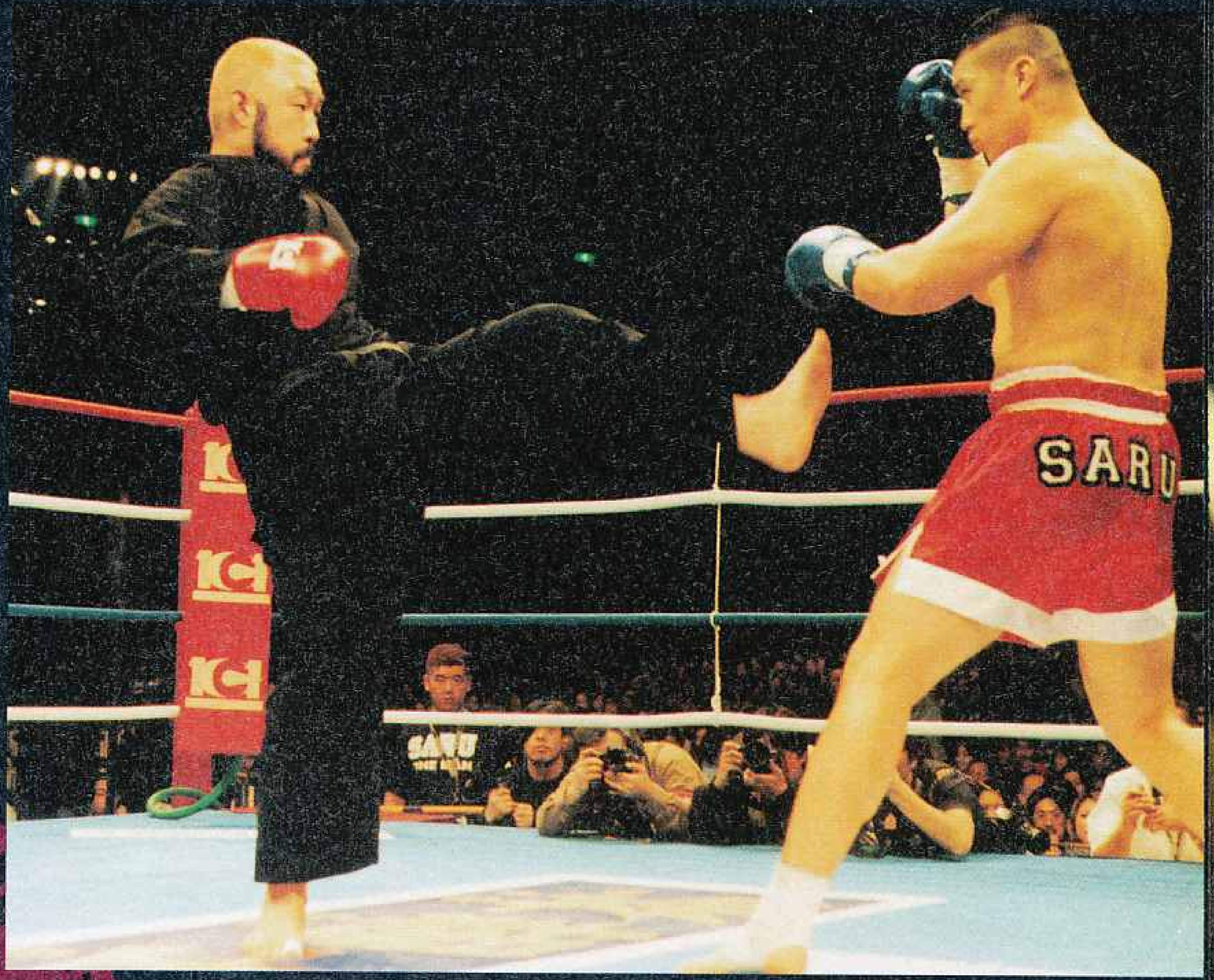
——こうなると、もう普通のスター街道は閉ざされたという感じですよね。

松永 いわゆる名誉はなくなっちゃいましたよね。……だから言えばいいんですよね！　最初から。

——やっぱり後ろめたかったのか、しらばっくれようとしたのか……。

松永 でも、なんでそんな簡単な不正が試合終わるまで発覚しなかったんですかね？　自分、一回K−1に出てるじゃないですか（00年3月19日、横浜アリーナ『K−1 BURNING 2000』vsグレート草津戦）。K−1のチェックの仕

方とかわかってますから。けっこう厳しいですよ、あそこ。
――あっ、そうなんですか？
松永　FAXで1・5メートルか2メートルぐらいの長さの決まり事を送ってくるんですよ。やっぱりしっかりしてるんだなと思いましたね。試合前に審判がいる前でバンデージを巻いて、グローブをはめるんですよ。その上から手首にテーピングで巻かれて、OKという割印を押されて。それは試合まで取っちゃダメですよという意味なんです。だからグローブの不正なんかできないはずなんですけど、総合のほうではやってないんですかね？
――ちゃんとやってるらしいんですけどね。ただ、実際に秋山選手が右手にはめてたグローブは、スポンサーのロゴがなかったので、すり替え疑惑が根強いんですよ。練習中にはがれたらしいんですけど。
松永　まぁ、ホントにはがれたかどうかは映像がないのでわかりませんけど、たとえグローブチェックをちゃんとしたあとでも、しょせん人間のやることなので、うまいことテーピング取って、違うグローブ借りてもう一回巻き直したら、それはわからないですよ（笑）。
――そんな簡単に不正できちゃいますか（笑）。



なんとデンジャーはKのリングをまたいだことがあったのだ！　最初にして最後のK−1参戦は、二代目グレート草津相手に、タオル投入による1RTKO負け。しかし、入場時には有刺鉄線バットでリングイン、試合後にはセコンドに火炎攻撃と己のスタイルを崩さなかった。

不正も凶器もやろうと思えばいくらでもできるんですよ！

松永　やろうと思えばできると思いますよ。ハンコのところだって最後に合うようにすればいいわけですから。しかも「ハンコを押しました、ハイ」というのは、あくまでも選手に対して「不正できない」という心理的なプレッシャーなだけで、べつに試合のあとで選手にもう一回ハンコのところをチェックするわけじゃないですからね。それでもあの厳重な中で、ホントに何か入れてたんですか？
――いや、さすがにそれはないと思いますけどね（笑）。
松永　でも、そんなもんはめてストレート打ったら自分の拳壊しちゃいますけどね。鉄槌みたいにするならいいですけど。自分がいた中京高校（現・中京大中京）は、齋藤彰俊も一緒だったんですけど、当時、愛知県で一番ケンカ好きが集まる高校だったんで、こういうのもよく出回ってたんでわかりますけど。
――出回ってましたか（笑）。では、メリケンサックというのは、ケンカでは実用的ではないんですか？
松永　実用的ではありますよ。けど、ホントにメリケンサックで殴ったら、顔面骨折じゃ済まないですよ！　まぁ、中京で出回ってたのは、もっとゴツいやつですけどね。
――松永さん自身は〝実戦〟で使用されたことはあるんですか？
松永　実戦ではないですね。ホントにケンカになったときに、わざわざカバンの中から出してというわけにもいかないし。みんな見せびらかして持ってはいましたけど、普段からはめてるヤツはいなかったですね。ケンカっていうのは、たいてい突発的に起こるものなので。果たし合いみたいにはなかなかならないし、ホントに果たし合いだったらもっと凄い武器持っていきますしね。
――ダハハハハ！　そんなことがあったんですか？
松永　我々が高校のときはありましたね。朝鮮高校と10対10の果たし合いというのが。
――まんま『パッチギ！』の世界ですね（笑）。
松永　そのとき日本刀10本揃えたって噂ありましたよ（笑）。自分、そのときは2年だったので、10人には入ってなかったんですけど。
――〝レギュラー〟10人は3年生が務めてたわけですか。
松永　2年でも齋藤はその10人に入ってましたけどね。その揉めたきっかけに齋藤が入ってたので。
――アキトシさんは入ってた（笑）。
松永　揉めた原因は齋藤が入ってた水泳部とのいさかいだったんですよ。自分は相撲部だったんで、関係なかったんですけどね。ただ、最初は10対10じゃなくて、学校同士の大規模なケンカになるって話だったんで、中京の猛者でもさすがに引いてる人いましたけどね。人数じゃ絶対勝てないぞという感じで。
――向こうのほうが人数が多いんですか？
松永　全然多いですね。こっちはケンカに自信のあるヤツしか名乗り挙げないんですけど、向こうは学校同士となると、弱いヤツまで全員結束して数で来ますからね。いくら強いヤツでも弱いヤツ3人相手にしたら勝てないですから。それに弱いヤツは自分が弱いの知ってるから、武器を持ってきますしね。
――いやぁ、スリルにあふれた高校生活を送っていたんですねぇ。
松永　でも、いまは中京も男女共学で進学校になっちゃったんで、全然変わっちゃいましたけどね。フィギュアスケートの安藤美姫とか浅田真央が後輩とか言われてもピンとこないですよ。
――ダハハハハ！　まさか向こうも松永さんがOBだとは思わないでしょうね（笑）。
松永　自分、それで凄い嫌がられるんですよ（笑）。「もういまはそういう学校じゃないから」って。相撲部も廃部になっちゃいましたしね。もう変わってしまったというより、同じ学校じゃない感じですね。
――さっきのケンカの話に戻りますが、そういう学校同士の果たし合いになると、もう武器はあたりまえだったんですか？
松永　だけど、あの当時よく流行った本宮ひろ志のマンガ『男一匹

実力があって汚い秋山選手はいいヒールだと思いますよ!

ガキ大将』とか『硬派銀次郎』みたいに、やるとなると素手でやってましたね。なんか武器使って勝っても、勝った感じがしないし。袋叩きということもなかったですね。人数が多くても一人ずつ出ていって、それをみんなで見守ってましたよ。

——不良にもルールがあるというか、仁義があるというか。今回の秋山選手を見ていて、嫌悪感や違和感があるのはそこなんですよね。「汚ねぇマネすんなよ」というか。

松永 いや、それは汚いどころの騒ぎじゃないですよ! そういう意味では、格闘技界初のヒール誕生ですよね。

——しかもガチで真性のヒールですよね。プロレスのヒールだと、松永さんを含めて素顔はいい人が多いって言われるじゃないですか。

松永 だけど自分は徹底してますよ。抗争してる相手とはいっさいコミュニケーションとらないですからね。

——えっ、そうなんですか?

松永 普段仲良くしていて、リングの上で「てめえ、コノヤロー!」ってやったって、そんなの伝わりませんよ。だからいまのプロレス界というのは、どこの団体を観に行ってもホンワカとしてるんですよ。昔のW★INGとかFMWは殺伐としていたじゃないですか。

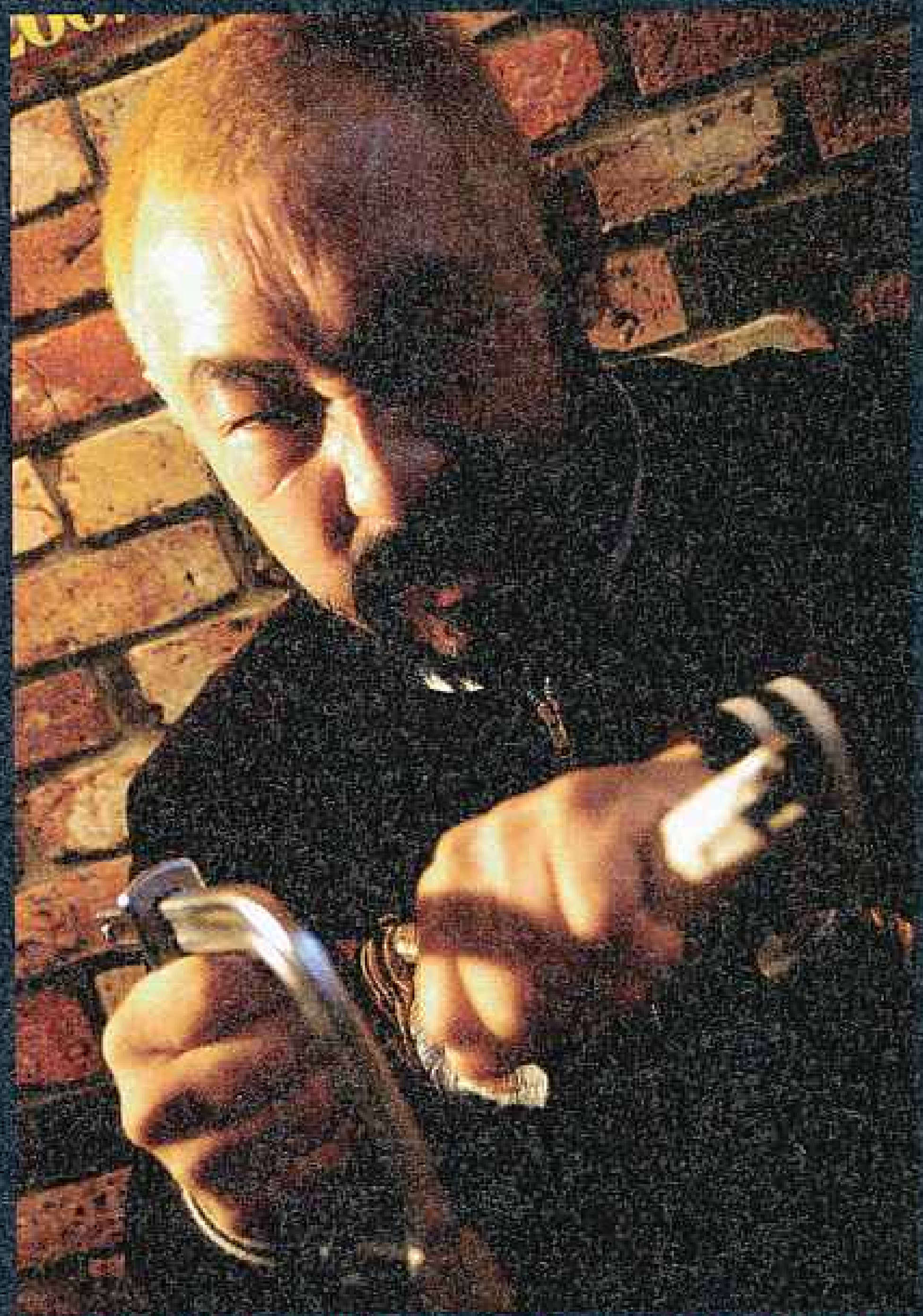
——明らかに試合後につるんでいそうな連中がユニットを組んでいるという印象がありましたよね(笑)。

松永 なんか温かい拍手と、温かい会場の雰囲気なんて、あんなの……。プロレスラーは仲悪くなくちゃダメですよ。W★INGとFMWなんて、ホントに仲悪かったですから!

——ダハハハハ! でも、それでこそ緊張感が伝わりますよね。

松永 だから、よく評論家が「もっと仲良くなって交流戦とかやらないと、プロレス人気は復活しない」とか言ってますけど、あれは嘘ですよ。新日本と全日本が仲悪かったからこそ、たまに一緒にやると凄い緊張感があったわけですよね。それこそ業界の人間とか、裏も表もわかっている人から見ても、何か異様な雰囲気が漂うような。そういうのが、いまは何もないじゃないですか?

——そういう意味では、もし桜庭vs秋山の再戦が実現したら、異様な雰囲気になるでしょうね。



1966年3月24日、愛知県出身。学生相撲、空手を経て89年にプロレスデビュー。W★ING時代に後楽園ホールのバルコニーからダイブを敢行し、“Mr.デンジャー”の称号を得る。以降、あらゆるデスマッチに挑戦し続けるパイオニアとして活躍。現在、プロレス活動と平行し、東京・亀戸でステーキハウス「ミスター・デンジャー」を営業中。TEL.03-3614-8929

松永 そう考えると、やっぱり再戦はやらないかんですね。桜庭さんといきなりやらなくてもいいと思うんですよ。再戦にこぎ着けるまでに、キツい関門を設けたり。

——でも、ファンとしてはそういうカードを組むことは逆に秋山選手にチャンスを与えてしまうという反発もあるんですよ。

松永 それはあるでしょうね。ましてや実力的に言えば、申し訳ないけど桜庭選手が勝つ可能性は高いとは言えない部分もありますからね。でもね、だからこそボクはやるべきだと思うんですよ。

——どういうことですか?

松永 でも、やっぱりヒールって憎たらしいぐらい強くないと、価値がありませんからね。ただ汚いだけじゃダメですから。

——なるほどなるほど。

松永 だから実力があってなおかつ汚い秋山選手って、いいヒールだと思いますよ(笑)。

——いいヒールですか(笑)。

松永 誰もが「あいつを懲らしめてくれ!」って思う選手ですからね。そういう意味では、秋山選手を懲らしめるためにバケモノみたいな刺客を連れてくるのも、おもしろいと思いますよ(笑)。

——それは谷川マジックが炸裂しそうですね(笑)。

松永 あと懲らしめるなら、ギャランティの面で制裁を加えて。「チャンスは与えるけど、ギャラは安いよ」と。そういった制裁を加えた上で、大晦日にまた桜庭選手とやって落とし前をつける、と。それで世間が注目してくれて、視聴率獲れたら一番いいんじゃないですか。だいたい無期限出場停止処分っていっても、しばらくしたら出てくるに決まってますから。モンターニャ・シウバだってそうじゃないですか。

——何ごともなかったかのように2カ月で無期限出場停止処分が解かれてましたよね(笑)。

松永 K—1の処分というのは、そういうもんですよね? だいたいボブ・サップが反則大暴走しても、ほとんどおとがめナシじゃないですか。あっちのほうがクリーム塗ってくるより、よっぽど反則だと思うんですけどね(笑)。

——ダハハハハ! 確かにそうかもしれないですね。

松永 だから、秋山選手も普通の競技でしたら追放になるかもしれないですけど、プロの世界ですからね。“ヒール”秋山成勲を誰が懲らしめるのか!? ってやったほうがいいと思いますよ。追放しようが何しようが、リング上で決着つけないと、結局ファンの溜飲って下がらないものですから。

——わかりました。では、今日は開店前のお忙しい中ありがとうございました。

松永 こちらこそ。また何かボクに話せることがありましたら、いつでもご連絡ください。

——じゃあ、次回は相撲にも詳しい松永さんに、いま世間を騒がせてる大相撲の八百長問題でも語ってもらいましょうか(笑)。

松永 あ! その話だったら、自分かなり語れますよ。だって数年前に週刊誌で八百長告発したのって、中京相撲部の先輩ですからね!

——ダハハハ! そんなデンジャーなつながりがありましたか(笑)。次の機会もよろしくお願いします!

【07年1月25日/亀戸「ミスターデンジャー」にて収録】

……い不良な"青い正義"がワルを語る!!

永田裕志

……マチュア出身のプロフェッショナルが見た桜庭 vs 秋山

「秋山は俺が裁く!」とばかりに登場してくれたのは、我らの正義"ブルージャスティス"永田さんだ! 学生時代、アマレス界のトップで活躍していた永田さんは、アマチュア競技の知られざる"真実"をおおっぴらにぶちまけ、さらにはプロレス界の"ヌルヌル問題"にまで言及。ここまで語っちゃう"ちょい不良"な永田さんを写真と一緒にお楽しみくださ〜い。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

——今日は昨年大晦日の『Dynamite!!』で秋山成勲選手が犯した許されざる蛮行について、〝青い正義〟こと永田さんに斬っていただきたいと思います!

永田　青い正義ですか（笑）。正義は正義でも僕の場合は一点の曇りもあるほうなんですけど、それでよろしければ。

——ハハハハ! 曇ってましたか（笑）。さっそくですが、永田さんは例の試合はご覧になりましたか?

永田　ええ。僕、当日は弟（永田克彦）のセコンドについたんで、同じ会場にいたんですけど、弟の試合が終わったらすぐ東京に戻ってきたので、家のテレビで観させていただきました。やっぱり凄い対決だったんで興味ありましたからね。

——ズバリ、率直な感想を!

永田　僕はですね、もっとお互いいろんな攻防があって決着がつくんだろうなって予想してたんですけど、ちょっと意外な決着で終わったんでねえ。おそらく桜庭選手が途中で「タイム!」って言った時点で、桜庭選手の中では一回試合がストップしてるんですよね。そこからまた気持ちを持ち直すのは正直ちょっとキツいだろうなと思いましたよ。

——あの時点で、桜庭選手の緊張の糸がいったん切れていた、と。

永田　秋山選手としてはなんと言われてもあのまま突っ込んでいくのが正解だったと思いますよ。でも、アッサリと言ったら語弊がありますけど、僕の想像していた試合ではなかったですね。

——ちなみに、克彦選手と秋山選手は控室は一緒ではなかったんですか?

永田　僕たちは桜庭選手と一緒でしたね。本当は秋山選手と一緒だったらしいんですけど、所（英男）選手と勝村（周一朗）選手を一緒の控室にしたいということで、弟と勝村選手だけ入れ替わったみたいです。

——じゃあ、試合前の秋山選手の様子なんかは見てはいない、と。

永田　でも、塗ってる場面が映像に映ってたんでしょ?

——そうみたいですね。大きな大会だったのでバックステージにもカメラが入って各所で撮影してたんでしょうけど。

永田　ああ、ウォーミングアップしてるところですとか、控室にいるところは撮りますよね。そういう番組を作られてますよね、K—1さんは。

——その中で堂々とクリームを塗っていて、一部ではそれが故意なんじゃないかと言われたりもしてるんですけど、克彦選手も過去に秋山選手と対戦（06・5・3『HERO'S』国立代々木第一体育館）したことがありますよね。克彦選手はこの件については何かお話しされてましたか?

永田　いやあ、僕、今年に入って会ってないんですよね、克彦とは。大阪ドームで別れて以来。

——2007年に入ってから兄弟の会話はない（笑）。

永田　ま、そういうこと抜きにして、克彦が秋山選手と対戦した時点では実力的にも差がありましたから。あの試合で克彦も自分のファイトスタイルを変えなきゃなって思ったみたいで。いい機会を与えてもらったんだと思いますよ。まあ、環境をガラリと変えて、というかなんというか……（苦笑）。

——なるほど（笑）。確かに、所属チームは変わりましたよね。

永田　ええ、おかげさまで（笑）。

——ちょっと話がズレましたが、クリームを身体に塗って試合に出るという行為については永田さんは率直にどう思いますか?

永田　事の善し悪しは抜きにして、ハッキリ申しましてアマチュア競技というのはこの手のことは日常茶飯事なんですよ!（キッパリ）。

——ダハハハ! 日常茶飯事でしたか!!（笑）。

永田　だから良くとらえれば、それだけ勝つことに対する執着心が皆さん強いんですよ。国内予選でも、勝つか負けるかって本当に天と地



06年5月3日『HERO'S』代々木第一体育館大会、秋山成勲vs永田克彦の一戦では、秋山は道衣を来たまま試合スタート。シドニー五輪グレコローマン銀メダリストの克彦も果敢にタックルを狙うが、秋山は自力でふんばり、ソバットでKOを奪ったのだった。



「アマチュア競技ではこの手のズルは日常茶飯事です!!」

ほどの差がありますからね。とくに僕がやってたレスリングという競技は、ただでさえスポットが当たらない競技なのに、スポットが当たる時期というのは4年に一回のオリンピックだけなんですよね。それに勝つか負けるかというのは想像を絶するほどの差がありますので、なんとしてでも勝たなきゃいけないという気持ちがそういう行為に導くというかね。ま、反則なんですけど。

――じゃあ、表に出てないだけで、そういう行為もあるにはある、と。

永田　正直ありますね。やっぱり「勝つ」というのが一番重視される世界じゃないですか。だから、オリンピックトライアルなんて本当に厳しいですよ。オリンピックに出るか出ないか、しかもメダルを獲るか獲らないかで人生ガラリと変わってきますからね。もっと低いところでは、大学4年生の国体の3位と4位も雲泥の差なんですよ。

――そんな世界でまで（笑）。

永田　いや、非常に切実でしてね。国体で3位になれば表彰状も出ますし就職しやすい条件が揃うわけですけど、4位じゃそれがない。金メダルと銀メダルも非常に差がありますけど、銅メダルとメダルなしだとそれ以上に違いがあるんですよ。だから教員採用試験を間近に控えた大学4年生が国体に出るっていうと、準々決勝の勝敗で本当に人生が変わってきますよ。

――じゃあ、準々決勝なんていうのは、じつは就職を懸けた闘いで

ちょい不良

永

アマチュ

もあるわけですか（笑）。

永田　本当にそう！　僕らはとくに体育大学でしたから、就職としては当時はだいたい教員が一番重きを置かれていたんですよ。そのための実績づくりということで、いままで実績がなかった人も最後の最後で頑張るんです。だから最後の大会で表彰状いただいたときの選手のうれしそうな表情というのは、この上ない！

——ダハハハハ！　4年間の苦しみはこのためにあったんだ、と（笑）。ちなみに永田さんの周りでもそういう反則行為が行なわれていたことってありますか？

永田　現実、日本の国内予選でもかつてオイルを塗って試合をやってつかめなかったという例はレスリングでもあったみたいですね。僕の仲の良い某選手なんかもアジア選手権なんかでやられたみたいですし（笑）。「横崩し」って技で、脇に腕をかけて回す技があるんですけど、試合前に脇の下にサロメチールを塗ってて、それで技がかからなくて勝ったっていう選手もいましたね。それ、先日僕の先輩から聞いた話なんですけど（笑）。

——サロメチールですか！（笑）。

永田　だから「勝てば天国、負ければ地獄」で、アマチュアでは大きな大会になるほど反則行為がどうしても出てくるんですよ。僕のアマチュア時代も韓国の選手なんかは、何をやってでも勝つという執念は凄かったですよ。そういったことを超えても勝たなきゃいけないというのがアマチュアなんですよね。

——もしかしたら反則をしてくるヤツがいるんじゃないかっていう心構えを持って出てる部分もあるわけですか。

永田　当然、反則は絶対許しちゃいけない行為なんですけど、そういう厳しい環境の中でも勝たなきゃいけない。必ず勝つ人がいるんですから。



脇の下にサロメチール塗ってて それで勝った選手もいましたし

——秋山選手はアマチュア時代から〝ヌルヌル疑惑〟があるみたいですけど、それは……？

永田　秋山選手とは一度お会いしたことあるんですけど、非常に好青年ですし、あんまりそういうふうには思いたくないんですけどねえ……。ただ桜庭選手からすれば絶対に許される行為じゃないということで、あれだけ怒りを露わにしたわけでしょう。だからよかったのは、K－1サイドがきちんと検証した上で後日裁定を出したことですよね。

——確かに、ああいった裁定の覆り方はなかなかないですよね。

永田　アマチュアレスリングだったら、たとえ反則行為が濃厚だとしてもマットを降りたらもう結果は覆りませんよ。ビデオ判定のチェックは多少ありますけどね。だって、柔道もそうじゃないですか。篠原（信一）さんの決勝戦の判定にしたって、どう見たっておかしいでしょ？

——ああ、ありましたね。シドニーオリンピックの柔道男子100キロ超級の決勝戦でフランスのドゥイエに不可解な判定で負けてしまって、篠原選手は銀メダルになってしまったというのが。あのときもかなり日本陣営は抗議した感じでしたけど、まったく覆らなかったですよね。

永田　ですから、ただプロの競技で反則行為を厳しく罰することで、どんどんそれがアマチュア競技のほうにも影響していけばいいなというのが本心ですね。

——アマチュア競技のチェック機能というのはそんなに緩いものなんですか？

永田　どうですかねえ。あからさまなのは注意されるでしょうし、試合が始まって背中に汗かいてたら「もう一回、拭いてこい」っていうようなチェックはありますけどね。だから、選手はみんな早く汗かこうと思って、試合前にアップしてるんですよ。ある程度パパッとタオルで拭いて、試合が始まったら汗が出るようにしてるというか。そういう意味では、チェックが緩いと言われれば緩いんでしょうかね。

——それが国際大会になるにつれてどんどん巧妙化していくということもあるわけですか。

永田　いかに見えないように反則をするかということですね。たとえばグレコローマンだったら足を使っちゃうとかね。韓国の選手とかうまかったですよー（しみじみ）。外側から足を掛けるというより、もう足をそこに置いておくんですよね！

——たまたまそこに足がありました、というふうに見せかけると。

永田　足を置いておくと相手は動きづらくなりますし、身体をあびせて倒してるときにしれーっと足を掛けることもありますよ。それが判定では「結果的に掛かったんだったらしょうがない」ということになるわけです。

——じつに巧妙ですねえ。

永田　またそれがレフェリーの主観によっては、完全に足が掛かってもポイントになっちゃう場合もあるんですよ。……いいのかなあ、俺こんなこと言って。

——ハハハハ！　今日は永田裕志選手によるアマリュア競技における不正告発インタビューをお送りしております（笑）。

永田　そういう打ち出し方をされると困るんですよ！（笑）。そういうことも、あるにはあると。

——スポーツマンシップの裏にはそういうギリギリのやりとりがあるということですよね。

永田　ドーピングだってそうじゃないですか。自分の競技能力を高めたいということでどれだけ練習しても、どれだけ科学が進歩してもドーピングはなくならない。それと一緒で、絶妙な工作というのはなくならないですよ。永遠についてまわるテーマじゃないですか。

——永田さんはグレコローマンの選手でしたけど、桜庭選手が今回やった片足タックルみたいなのがすべったら、やっぱり死活問題だと思いますか？

永田　桜庭選手の怒り方を見てもねえ。やっぱ彼もレスリングの選手でしたし、汗をかいた中で足を取りにいった経験がある選手ですから

ね。いくら裸足とはいえ、やっぱりすべり方が尋常じゃなかったんですよね。ただ……、こういう言い方をしては失礼かもしれないですけど、たとえばクリームとかまったく考えずにあの試合を観た場合、どっちかっていうと圧力的に秋山選手が押してたかなって思うんですけどね。そう考えると、非常に残念だったんですよ。そっから先の秋山選手を見てみたかったんでね。

——もの凄いミソがつきましたよね。正直、これから秋山選手はどうなるんだろうって部分もありますよね。

永田　やっぱり実力的にも素晴らしい選手ですから、こういう結果になったことを真摯に受け止めて、もう一回やり直してほしいなって思いますね。

——一部ファンのあいだでは、ここは永田さんが立ち上がって、秋山選手に試合でプロの厳しさを教えてやってほしいという声もあるみたいですけど（笑）。

永田　この件については、僕はあんまり関係ないでしょう（笑）。

——いやいや、弟・克彦選手の敵討ちというのでもいいですけどね

永田　それを言ったら、〝秋山〟には永田兄弟両方ともやられてますからね。秋山っていっても僕の場合はノアの秋山準ですけど（笑）。いやあ、永田家と秋山一族は相性が悪いかもしれないですねえ。

——ダハハハ！　ぜひリベンジをお願いします（笑）。ちなみに、永田さんが『イノキ・ボンバイエ』に出たとき、ボディチェックとかはどうだったんですか？

永田　けっこう厳しかったですよ。「整髪料もつけちゃいけない」って言われましたから。そのへんはナーバスになりましたよね。プロレスだと逆に筋肉のムキムキを強調するために、身体にオイル塗ってる選手とかたくさんいますから。ロード・ウォリアーズなんて、毎試合あたりまえのように塗ってましたよ。

——ウォリアーズはヌルヌルでしたか（笑）。

永田　「ホットスタッフ」っていう、筋肉が余計際立って見えるっていうオイルなんですけど、そういうのってプロレスラーの場合だとあたりまえのように使ってますよ。だから、一時期流行りましたよ。アメリカのレスラーにお土産に持って来てもらったりしてね。マサ（斉藤）さんとかよく塗ってましたし……、そういえば橋本（真也）さんまで塗ってましたね（笑）。

——ダハハハハ！　橋本さんの身体が強調されちゃっても仕方がないんですけどね（笑）。

永田　若いのに「おい、背中塗ってくれ」って頼んだりしてね（笑）。

——いい話ですねえ（笑）。でも、そういうのって相手のレスラーが塗ってたら試合がやりにくいとかはないんですか？

永田　あんまり意識はしないですね。そういうのも含めてプロレスですし。ただ、汗かくと胴クラッチなんかでも決めるポイントというのは違ってきますけどね。しっかり腰のところをクラッチしないと投げられませんし。

——永田さんはそれですべった経験とかは？

永田　ああ、中西（学）君が凄くすべってたことがありましたね。WCW時代にウルティモ・ドラゴンに「筋肉を強調するために塗ったほうがいい」ってアドバイスされたらしくて、身体にベビーオイル塗って、その上に霧吹きで水を振りかけてテカテカにしてたんですけど、さすがにそれはバック取ったときにズルズルってすべりました。「これ、すげえなあ」って（笑）。



ながた・ゆうじ■1968年4月24日、千葉県出身。アマレス全日本学生王者の肩書きを引っさげ、92年、新日本プロレスに入門。01年にはG1優勝、03年にはIWGPヘビー級王者の連続防衛記録の偉業を打ち立てる。「ブルージャスティス」「傷心の若大将」「ゆうたん」など、さまざまな愛称で呼ばれている永田さんだが、最近は白目を剥いた気迫ファイトから名づけられた「キラー永田」の愛称も定着している。183cm、108kg。

——ハハハハ！　秋山選手よりよっぽどヌルヌルだったと（笑）。

永田　あれは凄かったなあ。やっぱり水をかけるとさらに凄いんですよねえ（感心して）。

——オイルを塗ったあとに水が加わるともの凄くすべるというのは体験済みなんですね（笑）。ところで、今回秋山選手がクリームを塗った理由として乾燥肌だったからっていうのが言われてましたけど、選手って試合前にクリームを塗ったりとかするものなんですか？

永田　いや〜、どうなんですかねえ。僕は顔がやっぱり乾燥するタチなんで、よく塗ってはいますけど、総合格闘技のときは問題になると思ってそういうことはなかったんですけどね。だから、秋山選手の場合は不運だった部分も多々あるんだと思うんですけどねえ。

——なるほど。しかし、そういったお肌の問題というのはクリームで解決するよりも、永田さんが経営されてる『エニシング』のYOSA効果で解決はできないものなんでしょうか？　乾燥肌にはけっこう効果がありそうに思えるんですけど。

永田　（即答で）ああ、いいみたいですよ。

——ダハハハハ！　やっぱりYOSAは効果てきめんですか（笑）。

永田　いやあ、今日もね、ちょっと体調が悪くて腹下してたんで、入ってきたんですよ。

——今日も！（笑）。あれって、お腹にもいいんですか？

永田　僕の場合、風邪からきてる症状だと思うんですけど、風邪には凄くいいんですよね。だって、今日のインタビュー、口が立つでしょ？（流暢に）だから、汗というかですね、水分を体内から出すっていうそういうのがやっぱり身体には非常に……、って、これ、店の宣伝させてもらってよろしいんでしょうか？

——ダハハハハ！　まったく問題ありません（笑）。

永田　では、ちょっとだけ。要は、内部の毒素を出すということで、風邪にもYOSAが非常にいいということなんですよ。ですので、皆さんもぜひ『エニシング』にいらしてください！

——よくわかりました（笑）。というわけで、なぜか結論としては「風邪にはYOSAを！」ということでした。

【07年1月25日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】

社会の病巣!!

ニオ猪木

“秋山問題”徹底特集「わるいやつら」の締めを飾るのは、101号ぶりの本誌登場となるアントニオ猪木！　幾多の修羅場、地獄を潜り抜けてきた男が語る必要悪、絶対悪、そして秋山成勲!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／平工幸雄

いよいよ〝首領〟の登場である。

あの前田日明をして「何をやっても許されるのか!?」と言わしめた男、アントニオ猪木――!!

その個性はベビーフェイスの輝きではない。ヒールでもない。善悪を超越した希代の英雄の、見る者を快楽の世界に引き込んだ突発的および計画的〝猪鬼〟の行為を挙げればキリがない。

「一生、治らないでしょう」と冷酷に言い放った、パキスタンの英雄アクラム・ペールワンの腕折り事件。〝猪鬼〟は、現地の兵士がリングを取り囲む中、ヨダレを流しながら「折ったぞーッ!!」と絶叫した。また、パク・ソンナン戦では目をくり抜きかけ、韓国の観衆は暴動寸前の騒ぎになった。

坂口征二はそんな〝猪鬼〟に「人間不信」の置き書きを残し、姿を消した。長州力は「感謝すらない」との捨てゼリフを吐いた。〝1・4事変〟でだまし討ちに遭った橋本真也は「絶対に許さない!!」と血の涙を浮かべ、かつての参謀、新間寿は「闘魂とは人の誠意を踏みにじる勇気！」とまで言いきった。

しかし、恐るべきは、その一連の〝猪鬼〟の行為は、図らずも極上のエンターテインメントとして、我々の心に着地している。

たとえば、前田日明の長州力襲撃事件を「プロレス道にもとる行為!!」と断罪した件。その正論と本来のイメージとのギャップに、〝猪鬼〟の狂気性を感じてしまうのだ。

その〝猪鬼〟が考える〝悪〟とは何か？　そして、秋山成勲のスケール感皆無の卑怯さをどう見たのだろう？　それでは、読みますかーっ!?

――猪木さん！　今日は、最近えらく物騒な世の中をバッサリ斬っていただきたいんですよ。

猪木　はい。どうぞ！　ンムフフフ。

――猪木さんの目から見て、最近の世の中というのはどうですか？　バラバラ殺人とか、凶悪な事件が頻発してますけど。

猪木　ひと言で言やあ、**異常**だね！　そこまでやる動機というものが見えてこない。そこまでやってしまう原因が俺には見えないし、わかんない。

――要するに、犯罪行為そのものよりも、事件の動機や原因の得体の知れなさに違和感があるということですね。

猪木　まあ、人それぞれ原因はあるんだろうけどさ、その**残忍性**はちょっと**常人**には理解しにくい。バラバラ殺人事件にしても、どうしてそこまでするかな、と。昔はどこかへ運んだり、隠したりするために死体をバラバラにしたんだけど、いまはなんだか違うでしょ？

――隠蔽の目的もあるんでしょうけど、ちょっとスザンなんですよね。

猪木　だから**変質的**になってるよね。それで、これは昨日と一昨日のことなんだけど、あるお坊さんのお祝いの集まりと言っていいのかな。そこでちょっと俺が**お坊さんに気合い**を入れたんですよね。

――お坊さんに気合い！　普通は逆ですね（笑）。

猪木　ムフ！　まあ、ある意味では逆じゃあないんだけどね。お坊さんだから偉いというわけじゃなく、お坊さんたちも修行の身だからさ。もっと言えば、俺のほうが**人生の経験**が豊富だったりするわけだし。

――常人ではとても体験できない人生を歩んできてますよね、猪木さんは。

猪木　だから、いまはお坊さんだけじゃなくてもさ、**誰もが救いを求める世の中**なんですよ。たとえば、親子にしても関係が離れている。まあ、そこは**修復させようとしても難しい**んだけどね。親子の関係の中にちゃんとした絆があればいいんでしょうけど、あまりにも軽いものになっちゃってるから。

――ハードなコンタクトはしてない、と。

猪木　そうそう。普段から顔を突き合わせていても、親と子がまったく会話もしないとかね。だったらもう切り離してしまえ！　って。ずっと遠くに離れればね、親は遠くにあって思うものというか。そう遠くなったとしても、その子どもたちに親よりももっと信頼できる受け手は現われればいいだけの話だし、もしくは、子どもが**自分自身の力で成長すればなんとかなる**。それは非常に逆説的な発想になってしまうんだけど、

プロレス初心者・松下ミワが今回は"血の洗礼"を受ける!?



いじめの問題の本質というのはそういうことじゃないのかなと思ってね。いまは、**いじめられた子がヒーローになってしまうような雰囲気がある。**たしかにいじめるほうに大きな原因はあるけれど、俺から言わせれば、いじめられるほうにも原因があんだよ！

——この問題をいじめる側だけに集約させてはいけないということですか？

猪木　俺たちの時代はそんなことは山ほどあったよ！　でも、**それを乗り越えてきたからこそ、いまの俺たちがある。**

——猪木さんは、ブラジルでは過酷な移民生活を送ってきましたね。

猪木　うん。現実の社会に出てもさ、社長がその社員のことが嫌いだったら、そいつはそこにいられないじゃん。でも、その社員はなんとかしてその局面を打開していかないといけない。もしくは、それに耐えるか、耐えないか。要するに子どものときから**いじめの免疫性**があるか、どうかってことでもある。だから、いじめはある意味で**社会構造の中に必要**なんじゃないかな。極端なことを言えば、アフリカなんかでは、**負けた者や弱い者から死滅**していくんですよ。

——普段の生活からして、生きるか、死ぬかの勝負だ！　という。

猪木　ズバリ、**闘いは人間の本質**ですから！　だいたい**精子だって闘ってる**わけでしょ。それで、一番強いヤツが生き残って生命になっていくわけだからね。

——猪木さんの精子は、もの凄く強かったんじゃないかと思いますけどね（笑）。

猪木　まあ、**最近は足腰が弱いから、ちょっと遅れをとってしまっているというか。ダハハハハ！**



——そうですか（笑）。

猪木　そんなジョークはともかく、この話をもっと大きく広げるならば、**地球**にとって**人間は“がん”**なんですよ。人間の作りだす文明がいくら発展しても、地球を変えることはできない。宇宙へ行くことはできるけど、宇宙を変えることもできない。それでも人間というがん細胞は、地球という健康体に道路を作ったり、しまいには

いじめ？　俺たちの時代にはそんなことは山ほどあったよ!!

海まで汚してしまっている。だから、そもそも人間という生き物は、**排除**されてしかるべきものなんだけど、人間というがんが存在することで、地球のあるべき姿を考えるきっかけにはなるからね。ある意味で人間も必要といえば、必要なんでしょう。

——猪木さんからすると、いじめが必要だとまでは言わないですけど、あって当然ということなんですよね？

猪木　当然とは言わないよ。**ただし！**　人間が生きていくうえで**確実に避けては通れない**ということなんですよ。ないほうがいいに決まってるよ、そんなの！　でも、それはある意味では**人間をたくましくしていく障害**となって、精神を強くすることになる。そういうふうに捉えれば、まあ、**何があろうがどうってことないんですよ、たいがいのことは。**

——ここまでお話を聞いて思ったのは、悪には必要悪もあれば、絶対悪もあるということなんです。

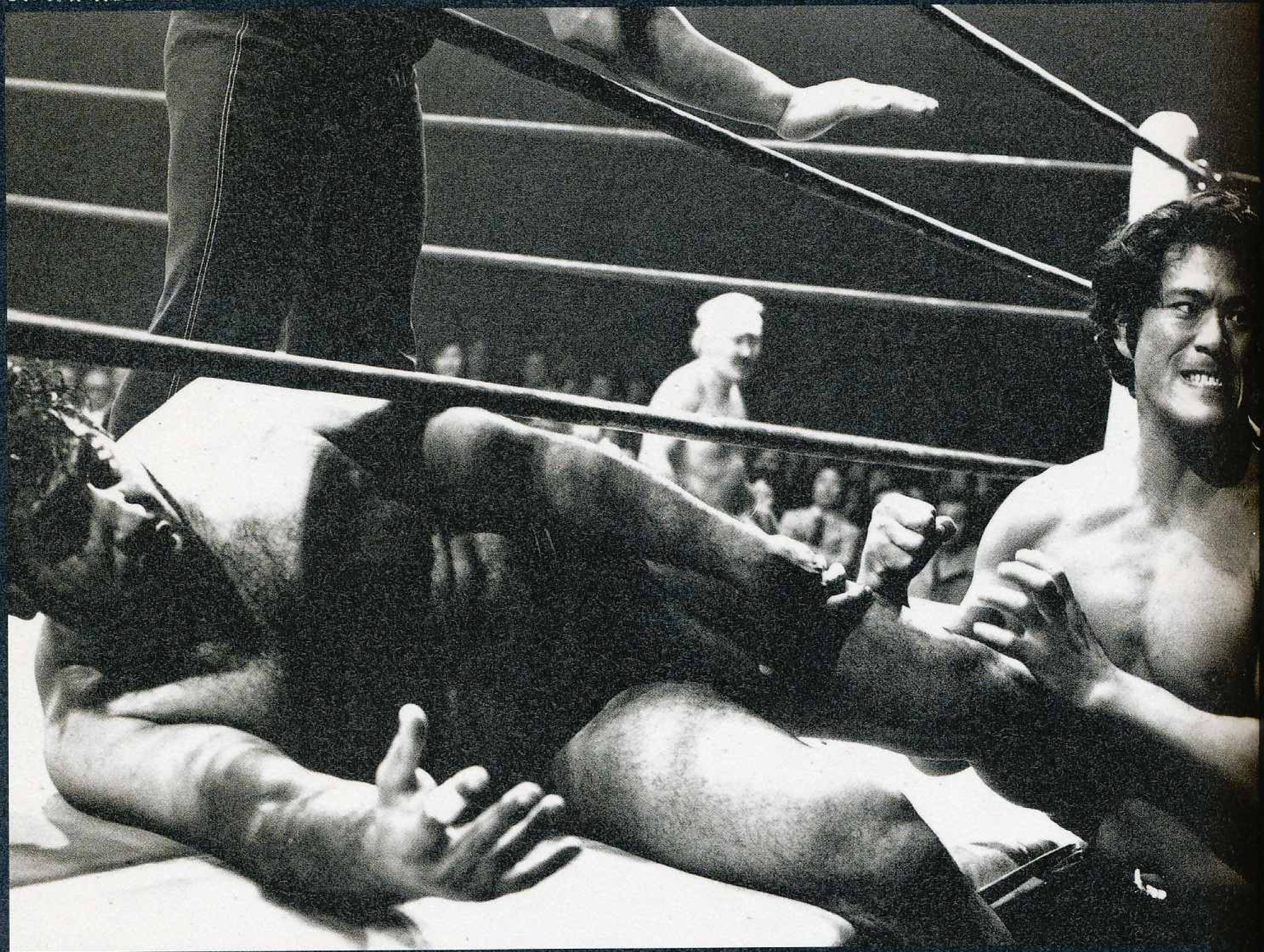
猪木　うん。まあ、プロレスで考えればさ、プロレスには5カウントまで反則行為が許される。やっていいとは言わないよ。ただ、それは凄く**人間的な魅力**ではありますよね。**プロレス＝八百長論**だということではなくて、だからおもしろいんだよ、と。それに**反則行為**というのは、プロレスは別にしても、時間を守らなかったりとか、日常で毎日あるわけだよね。やっていいとは言わないが、**ある程度**まではルールの中で**許される**という。

——猪木さんはこれまで、ルールを逸脱した修羅場をたくさん経験されてきましたよね。アクラム・ペールワン戦だったり、パク・ソンナン戦だったり。ヘタしたら、観客に殺されかねない状況だったじゃないですか。

猪木　それは俺に**その実力があった**からであって。要するに、竹刀で木刀と闘うのじゃ違う。木刀で真剣と闘うのもまた違う。**「おまえは真剣を持つのか？　じゃあいいよ！」**って即座に対応するのが我々の時代というか。相手がそうくるのであれば、そのときは俺も**逸脱した闘い**をするしかない。**やらないとやられてしまうわけですから。**そうすると、**一般大衆が観たいものとは違う闘い**になるよね。

——そこはやっぱり、“いつ何時”という精神を持っているからこそ、逸脱できるものなんですか？

世紀の悪役ジェット・シンを退治するアントン！　当時は人気絶頂のスーパーベビーだったが、その表情からはあのシンを超える“ワル”っぷりをのぞかせている。真の英雄とは、正邪がないまぜとなった者しかなれないのだろう。



猪木　いや、俺の場合はそういう問題でもないんですよ。だってリングを降りてもさ、**いつ潰されてなくなるかわからないことがたくさんあった**わけですから！　**ズバリ言って。**

――たしかに、アントン・ハイセルや政界スキャンダルにしても、アントニオ猪木という存在自体を懸けた闘いでしたね。

猪木　この世界に入ってかれこれ**47年**。これまでの人生を振り返ったときに「これで俺は終わってしまうんじゃないか……？」なんて将来を案じたことはある。まあ、**最終的に消えてなくならなかった**からよかったけど、もしかしたら**完璧に地に堕ちてしまう**可能性だってありえたわけでしょ。でも、そういうときこそ、**俺は夢を持ってやってたから！**

――どん底に落ちたときこそ夢を持つ！

猪木　うん。夢がなかったら、**地に堕ちた人間は他人を恨まないといけない。俺は人を恨む前に、そのときにはもう次に踏み出してきた。**スキャンダルと闘いながらも、もう一方の自分はもう先に進んでるという。それで幸運なことに生き残ることができたんです。まあ、**たいていは消えてなくなるんだけどね。**

――そう考えると、相当にタフですよね、猪木さんって。

猪木　だから、生き残った俺のところにみんな寄ってくるんだと思うんだよ。いまはメールとかもあるからね。いじめの問題なんて大人だったらカッコ悪いから大きな声で訴えることはできないけど、メールでバンバン送られてくるわけですよ。まあ、それは聞いてあげるだけでもそれはそれでね、パッと元気が出て、翌日は「スイマセン。元気が出ました！」って声が戻ってくるから。

――猪木さんの中には、人助けをしなければならないという精神が無意識にあるんですか？

猪木　そこは**もうしょうがない**って感じだね。

――へんな話ですけど、自分自身のことを「悪いヤツだなあ」って思う瞬間ってあったりします？

猪木　（あっさり）**ありますよ。**俺はズルいよ！

――ズルいですか！（笑）。

猪木　**ズルいよ。**うん。人を使うことがうまいからね。

――なるほど。それはいい意味でのズルさですね。

俺は人を恨む前に、そのときは夢を持って次に踏み出してきた

猪木　要は自分ができないときは他人の力を借りる。それは統率力やリーダーの資格でもあったりするからね。極端なことを言えば、人間は**〝支配する側〟**になるか、**〝支配される側〟**になるかだと思うんですけど。

——猪木さんはズバリ、〝支配する側〟の人間ですよね？

猪木　いや、それが俺はもともと**支配することがイヤ**なんですよ！

——……とても〝支配される側〟には見えないんですけど（笑）。

猪木　まあ、〝支配する側〟でもなく、〝支配される側〟でもなく、俺は**先頭に立つ人間**というか。繰り返すけど、俺はそんなに**人を支配したいと思わない**。というか、**できない！**　そこが**俺の弱点**だと思いますね。

——〝支配する側〟に回れないのは、なぜなんですかね？

猪木　それは自分に逆らう者をすべて切ってしまうという**冷酷さがない**からかな。冷酷さがないもんね、**俺**。

——猪木さんにはないですか！　冷酷さが。

猪木　**逆にないところが良さ**でもあったりするんだけど。ムフ！

——う〜ん。それは意外ですねえ。

猪木　いや、これは**セミナー**を受けるとよくわかるんですよ。自分がどういう人間であるか？　ということを**セミナー**なんかを体験しながら理解しましたから。**セミナー**でわかったことは、俺はどちらかというと、**世間が持つイメージ**とは逆に、**〝受け〟**の人間なんですよ。

——アントニオ猪木は〝受け〟の人間！　それはまた衝撃的な持論です（笑）。

猪木　うん。**人を批判することができない**んですよ。俺はどちらかというと、**自己批判はできる**けど、他人の批判ができない。だから**政治家には向かない**。ムフフフ！

——よくよく考えると、政治家の自己批判って、ある意味で自殺行為ですよね。

猪木　でも、「いや〜、俺が悪かった！」とか頭を下げるぐらいの度量の政治家もいていいのにね。

——猪木さんは最近、自己批判されたことって何かありますか？

猪木　もう**たくさん**ありますよ！　でも、自分で卑下して落ち込むことはないけどね。逆に他人を批判することがもの凄く**本能的に得意**な人がいる。でも、その人は、自己批判になるとまったく筆が止まっちゃうことがあるわけね。それはもうホントに両極端に分かれるね。

——ちょっと話は戻りますが、先ほど仕掛けてきたら仕掛け返すっていうことでしたけど、先に仕掛ける冷酷さもないんですか？

猪木　**ないね**。こちらから仕掛けるということは。ただ、**試合の場合は別**ですよね。

——あ、試合は別（笑）。その答えを聞いて安心しました。ボクには猪木さんが先に仕掛けるシーンしか頭に思い浮かばなかったので。かつてのグレート・アントニオ戦にしても、あまりにも残酷な仕打ちじゃないですか。

猪木　（即座に）残酷じゃないよ！　**あんなの**。

——ハハハハ！　あの凄惨さで残酷じゃない（笑）。

猪木　**一発、蹴っ飛ばして終わり**じゃん。ダハハハ！

——いや、それがもの凄く残酷だなって（笑）。

猪木　いやいや、俺は優しいよ。でも、試合は**〝非日常的な舞台〟**。やるか、やられるかの世界ですからね。そこの**場面**はしようがないじゃん！

場面ですよ、ズバリ。

二重人格の精神構造を持っていないと、生き残れない

——そういう場面だから、いたしかたない（笑）。

猪木　うん。まあ、『PRIDE』がいくら凄いって、**目ン玉を抜く試合**はないけど。ムフ！

——ハハハハ！

猪木　俺は**経験があるから抜ける**んであってね。やっぱり、昔のアメリカなんて、ヨソ者が来たら、**プライドとプライドのぶつかり合い**になってくるじゃない。そうなったら、もうしょうがないよ！　**ホントはやりたくないけどさ。**

——まあ、そうですよね。目の玉を抜くなんてことは（笑）。

猪木　でも、**二重人格**じゃないけど、そういう**精神構造**を持っていないと**生き残れない**わけですよ。

——その二重人格という意味では、たとえベビーフェイスでもヒール的な才覚がない人間はスターにならないと思うんです。

猪木　うん。**単なる善だったらそれで終わり**だろうね。そこから何か大きく広がるわけがない。

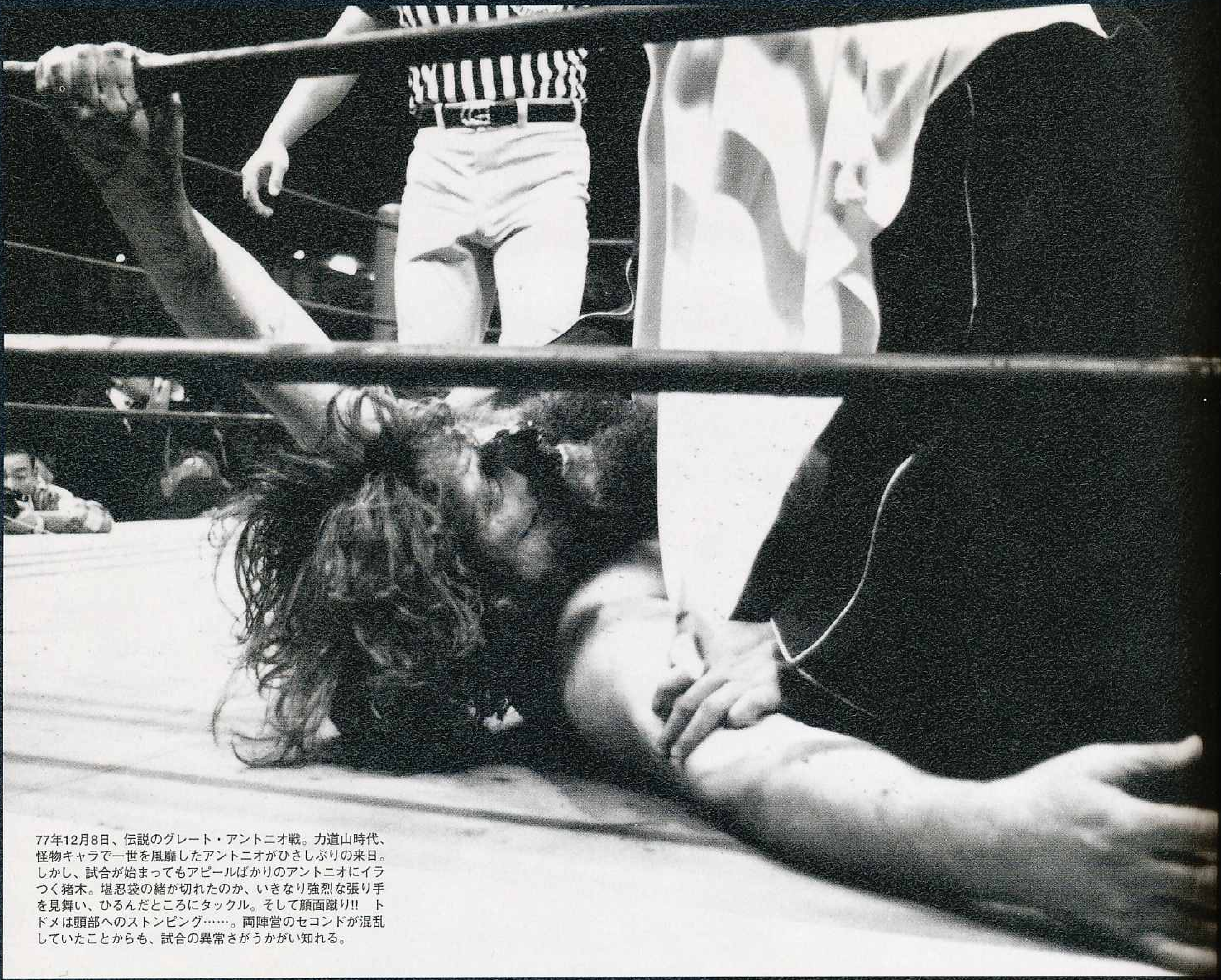
——そして、単なる悪でも広がらないわけですよね？

猪木　**ただ標的になるだけで終わってしまう。**っ

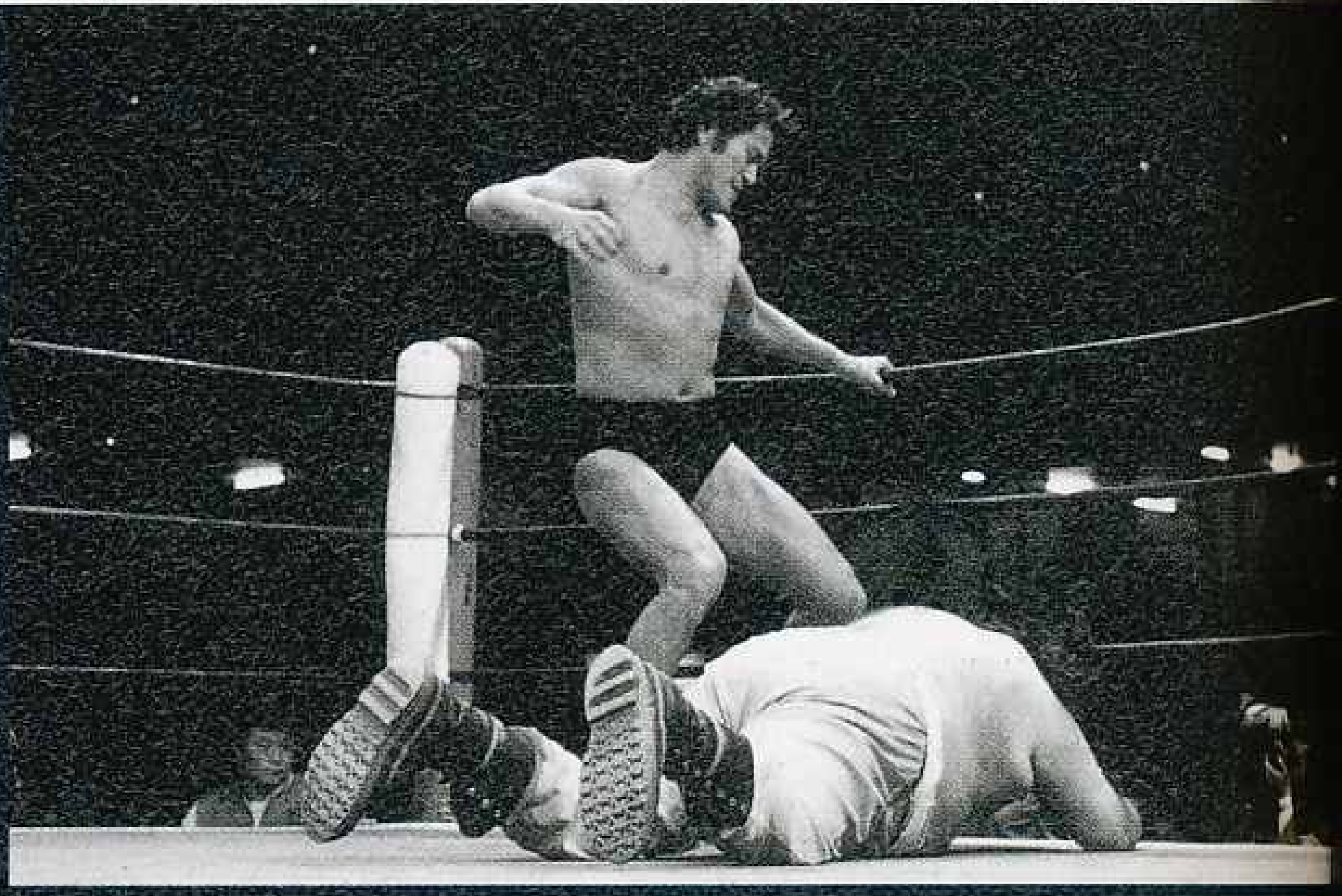




100年の一度の大事件、小川直也vs橋本真也の"1・4事変"（99年1月4日）。プロレスを超えた小川のシュート行為は、じつはアントンの指令だったと多くの関係者が証言しているが、当の本人は『1・2の三四郎』のお面をかぶって観戦。リングでガチの大乱闘がボッ発すると、そのまま退場したのだった……。ヒ、ヒドイ!!



77年12月8日、伝説のグレート・アントニオ戦。力道山時代、怪物キャラで一世を風靡したアントニオがひさしぶりの来日。しかし、試合が始まってもアピールばかりのアントニオにイラつく猪木。堪忍袋の緒が切れたのか、いきなり強烈な張り手を見舞い、ひるんだところにタックル。そして顔面蹴り!!　トドメは頭部へのストンピング……。両陣営のセコンドが混乱していたことからも、試合の異常さがうかがい知れる。



グレート・アントニオ戦？ 残酷でもなんでもないよ!!

まり、**両輪の幅**があればあるほど、人はおもしろい。それこそ**プロレス**なんですよ。いまのプロレスは、プロレス的じゃなくなっちゃっただけの話でさ。逆にいえば、ほかのイベントのほうがみんなプロレス的なんじゃないかな。

——『PRIDE』にしても、K－1にしても、亀田三兄弟にしても。

猪木　ボクシングにしてもなんにしてもいろいろ裏があったりするわけだけど。ただ、その**裏をいちいち突ついてたら、ホントつまんねえ**じゃん。

——それを言っちゃあ、おしまいよ！　という。

猪木　みんなそれぞれが商業ベースの中でやってるんであって。たとえば、チャンピオンというのは強いからチャンピオンなんだよ。でも、チャンピオンの勢いや力が落ちているときに挑戦者をぶつけるという方法がある。それこそが**マッチメイク（の妙）**なんですよ。だってホントに強いヤツとばっかり闘っていったら、もう勝てないじゃんか。それじゃ**広がらないでしょ、世間には**。

——亀田興毅の売り出し方なんて、いま言われたとおりの方法論ですし。彼の二面性については猪木さんから見てどうですか？

猪木　まだ**子ども**ですね。でも、（二面性を）**演じられるだけ凄い**と思う。

——ああ、いまの時代だと、普通は照れがあってなかなか演じられないところはありますよね。

猪木　そうそう。そういう意味では関西人のほうが、なんかこう合うんじゃない？　言葉からしたって。「そうでございます！」なんて言ったって、全然お客さんは乗れないもんなあ。そうやんかぁーッ！（いきなり大声で）。こっちのほうが響くでしょう。ムフー！

——はい（笑）。でも、猪木さんは凄いですよね、関西弁でもないのに。

猪木　**俺は迫力だから。**



猪木のシュートな鉄拳制裁!! 04年11月13日、新日本プロレスの大阪ドーム大会。メインの藤田和之＆カシンvs中西学＆中邑真輔戦終了後、おもむろにリングに上がったアントンは、「遠慮するなって言ったろ!?」と怒鳴るや、中邑に強烈なナックル!! 突発的なアクションに思えるが、手にタオルを巻いて自分の拳を保護しているところに、“猪鬼”の素晴らしき精神性が見える……。

「黙れ、コノヤローッ！」って（笑）。ただ、それに乗っかってくれる人もいるけれど、乗っかってくれない人もいるんですよ。俺の考えることはどうしても**時代の先を走っている**ところがあるから。**99パーセント、ノー**を突きつけられるケースがよくある。

――それは事業の方面でたびたびあることなんですか？

猪木 そうですね。何年かしたら「あれは凄かったですね」とか言われることもあるけど。それが世の中のためになること、そうじゃないことってあるじゃない。ただの**私欲**で走る人間がいる。でも、俺は単なる**私欲**じゃなくて、いまは**サンゴの問題、電機の問題、石油やオイルの問題**……そこから格闘技やプロレスを通じて青少年が元気になるようなプロジェクトですから。まあ、どれもこれも手つかずで、まあ、手はつけてあるんだけど、なかなか世の中で評価されるまでにはいかない。

――実際、永久電機のプロジェクトのほうはどうなってるんですか？ 最近は音沙汰なくて、電機マニアのボクなんかは凄くさみしいんですけど。

猪木 電機はだから、**俺が発明者じゃない**から。ある意味で事業家としてチャレンジであってね。そのスタンスでものを言わせてもらえば、低コストじゃないと世界には通用しないよ、と。いまはいろんなメーカーがあるんですけど、後発としては燃費がいいだけでもダメだし、効率がいいだけでもダメ。そこの工夫は必要なんですけど、**ちょっと遅れてまして**。実際、生産には入ってるんですけどね。

――いよいよ電機が動きますか！

猪木 ただし！ 何年も**金にならない事業**に投資するのは、**俺自身の苦しみ**でもあったんです。

――もうかれこそ4～5年近く経ってますからね。

猪木 それでも、それは世の中が必要としてるからこそ、ここまで我慢してたり。もう表面化しているけど、日本のエネルギー問題というのは、中国がすべてを握っているんですよね。**中国人が牛肉を食べ始めた。ロシア人も牛肉を食べ始めた。それで大変なことになっている。**中国が経済成長を遂げたことで車社会になった。それでガソリンが高騰しているという。

俺の考えることは、どうしても時代の先を走ってしまう

――それにしても猪木さんって、昔からエネルギー問題に対する探究心は凄まじいですね。

猪木 まあ、かつてはブラジルで、公害になっていたサトウキビのしぼりかすをエネルギーにできないか？ と。

――アントン・ハイセルのプロジェクトですね。

猪木 いまでこそバイオの力で脚光を浴びているんだけど、なぜあの時期に俺がエネルギー問題に着手したかといえば、食料問題が必ず来ると確信していたからですよ。俺は**5年、10年、20年先**を読んでいたわけじゃなくて、そういう情報を耳にしたら、**すぐにそう思える自分がいた**んだよね。何かを思ったら、すぐに行動してしまうという。まあ、そこは**普通の人間には理解しがたい**とは思うんですけどね。

――猪木さんの事業って、ビッグスケールすぎるところもありますから（笑）。

猪木 そこは、**目に見えるものを信じられる人**と、**目に見えないものを信じられる人**の差だとは思うんですけどね。だからといってさ、**俺一人がやって間に合う時代じゃないんだよ**、と。もう手遅れになっているんですよね、**ズバリ**。

――いま猪木さんが手がけている事業の中で一番、熱を持って取り組んでいるものってなんですか？

猪木 やっぱり、**プロレス**が気になってるんですよ。

――プロレスですか！ 猪木さん



これも“猪鬼”!? 「リングに上がったらぶっ殺す!!」と絶叫！ リングに群がる観客にストンピングを見舞った『猪木祭り』百八つビンタ騒動!! 暴動に至る経緯や模様を知らないなんていう『kamipro』読者はまずいないと思うが、ご存知ないそこのキミ！ いますぐ本誌バックナンバーをあさって確認するように!! 奇跡ですよ、これは！

悪さするにしても、元気のいいおちんちんになってくれ!!

は「プロレスにはもう触りたくない」ということをたびたび言われてましたが……。

猪木　いや、こんなことでいいのかな？と思うんですよ。これは**ひがんでるわけでもなんでもなく**、俺らにはいまの人たちにはない経験があるわけで、危機をどう乗りきるかというノウハウを持ってるわけですよ。いまはやっぱり意表を突いていかないといけない。そうしていかないと、（プロレスは）なくなりはしませんけど、これは**もう花が咲くことはないだろう**な、と。花を咲かせるために、いろんなアイデアはあるんですけどね。

――格闘技のほうはどうでしょうか？

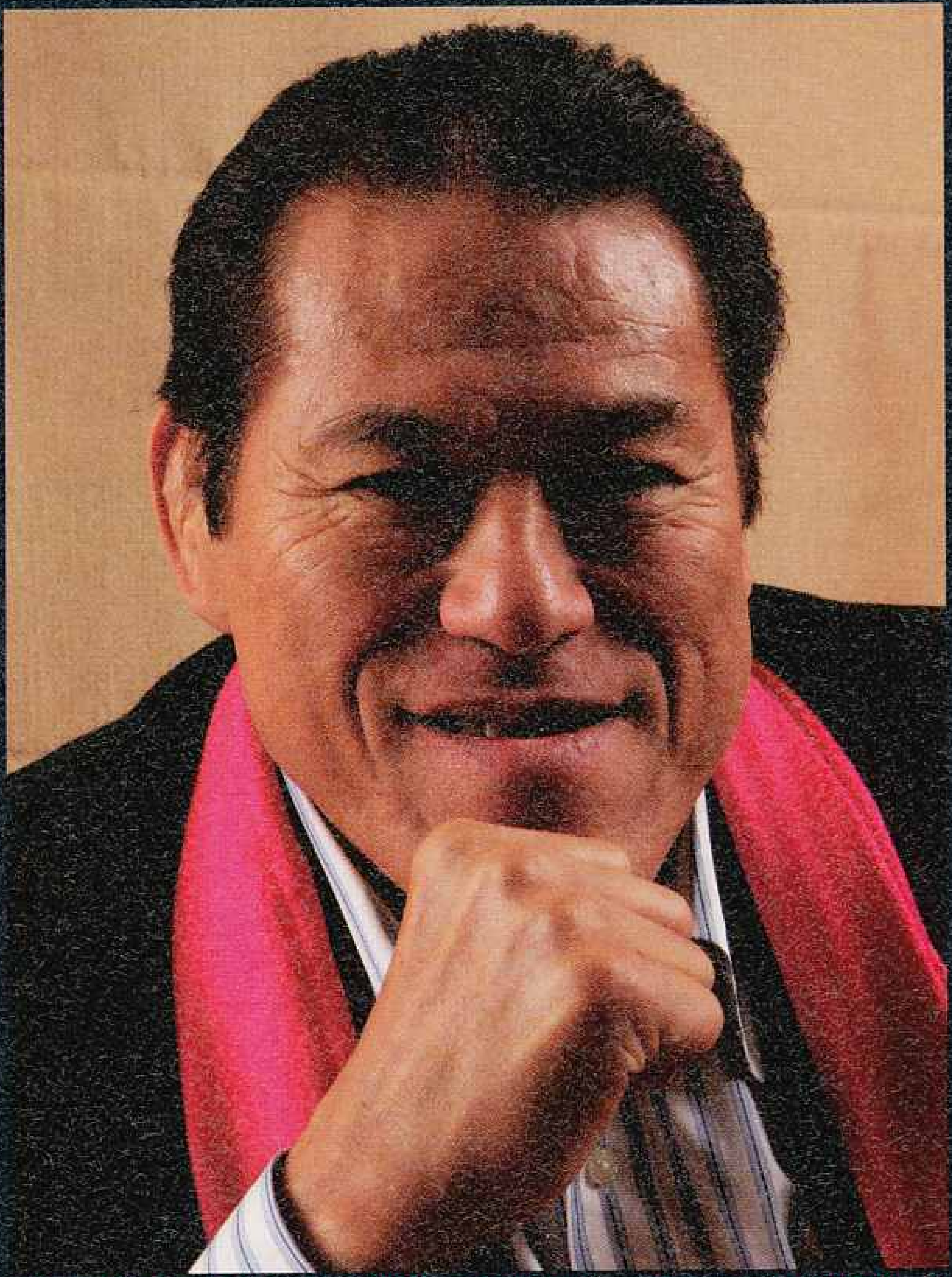
猪木　一つは**裏社会**が絡んじゃいけない！という。まあ、**俺は絶対に認めない**し、世間も認めないだろうけど、それはもしかして**必要悪**なのかもしれないけどさ。

――裏社会は必要悪ですか！

猪木　俺は認めないけど、だって、**世の中ってそうじゃない**。ゼネコンの談合事件にしても、ずいぶん前に絶縁宣言をしたけど、後ろではつながっていたじゃん。

――企業側からすれば、談合は必要だっていう声も上がってますね。

猪木　そうやって**世の中には矛盾がいっぱい**あるわけですよ。俺もそこに腹を立てて怒っていた時代もあったけど、だからこそ規制や法律が必要なんであってね。



あんとにお・いのき■1943年2月20日、神奈川県出身。過酷なブラジル移民時代、遠征中の力道山にスカウトされ、プロレス入り。格闘技世界一決定戦シリーズで実現したモハメド・アリとの世紀の異種格闘技戦は、のちの日本マット界に大きな影響を及ぼした。現在の『PRIDE』やK-1の源流となった試合である。国会議員としての政治活動、エネルギー事業の奔走、北朝鮮での『平和の祭典』開催など、リング外でも華々しく活動していた。いまもなお、魔性のアクセル全開中!!

――ああ、ルールを作るための必要悪ってことですか。

猪木　そういう意味では、プロレスも好きなことをやれよ！って。反則は5カウントまで許されるんだからさ。だからプロレスは**人間味**があっておもしろいんだよ、と。ただ、格闘技はある意味で暴力とイコールになってしまう可能性がある。とんでもない大事故でも起きてしまえば、一気に社会問題になっちゃう。そこは商売優先じゃなくて、選手を保護するためにルールで止めないとね。いまなんて、**際限ない状態**でしょ。ヘタしたら、**間違いが起きてしまう。**

――日本には「足蹴にする」という言葉があるくらいだから、文化の土壌として、相手の顔を蹴り上げる格闘技は向いてないところがあるとは思うんです。

猪木　うん。俺も「アルティメット（＝総合格闘技）は日本人には向かないよ」って言ったことあるんですよね。日本人はあそこまで残酷にはなれない。まあ、そうすると、最初のバラバラ事件の話と矛盾するかもしれないけどね。

――いまや、とことん冷酷になれる国民性がある、と。

猪木　だから、変質的になってるんですよね、いまの日本は。

――話はちょっと変わりますが、猪木さんの反則や暴走って、観る側のボクらからすれば、非常に麻薬的な魅力だったんです。ところが、いまの選手って単なるギミックにしかすぎなくてもの足りないか、ただただ不快感しか残らないかのどちらかで。そこは人間力のなさなんでしょうけど。

猪木　うん。いまは**"本当"のヒール**がいないですから。お客さんが「コノヤロー!!」って怒鳴りたくなって、なおかつ**楽しめる悪玉**がいない。やっぱりそこはさっきも言ったけど、**ヒールはベビーフェイスの要素もないとダメ**なんですよ。そうしないと、この業界のパワーになれない。

――それで、最後に聞きたいのは、渦中の秋山（成勲）選手のことなんです。ファンからすれば、いまのところ、もの凄く不快感しか残らないヒールなんですけど。

猪木　（あまり興味なさそうに）彼のことはよく知らないんだよ。**触ったこともないし。**

――報道なんかでお耳にされてると思いますが、猪木さんからするとどうですか？　身体にクリームを塗るという行為は。

猪木　んな**ケチなこと**しないでよ。やるんだったら**徹底的にやれよ！**って。

――ハハハハ！　行為としては"小悪党"ですよね。

猪木　ズバリ、俺から言わせれば、そんなの**ワルでもなんでもないというか！**

――猪木さんからすると、まだまだワルじゃありませんか！

猪木　だったら、もっと悪役になってさ、「あの野郎を誰かがブッ殺せ！」ってなるぐらい開き直ればいいんだよ。**大悪**であればね、**一戦争**というものがありますから。**1人殺せば犯罪で、100人殺せば英雄**。どうせだったら、100ぐらいの反則をやれっつんだよ。ンムフフ！

――なるほど（笑）。いやあ、今日はお話を聞いて、魅力的なワルというものは、行為そのものじゃなくて、精神性に潜むものだと確信しました。……猪木さんの精神のように（笑）。

猪木　まあ、これは彼だけだけじゃなくて、ほかの連中にも言えることだけど、悪さをするにしても、**元気のいいおちんちん**になってくれ！って。**元気のないおちんちん**じゃ、**おネエちゃんにもモテない**からね。**ダハハハ！**

【07年1月25日／ホテルオークラにて収録】

ヌルいやつら

撮影／平工幸雄　構成／坂井ノブ

総力特集「わるいやつら」の掉尾を飾るこの企画。なぜかこのタイミングで「罪を憎んでヌルヌルを憎まず」「このままではヌルヌルが悪者扱いされてしまう」と、一人のプロレスラーが立ち上がり、編集部にいきなり殴り込みをかけてきたのだった。いまだにくすぶり続けるヌルヌル問題に一石を投じる問題企画！



ヌルいやつら No.001 中澤マイケル（DDT）

なかざわ・まいける■1975年10月8日、神奈川県川崎市出身。05年にDDTでデビュー。デビュー前から「マイケル」（由来は先日引退したお笑い芸人）と呼ばれていた。マッチョなボディと股間を強調するため、試合中は「ヘンタイ」コールが起こる。今年1月からはオイルを使用したヌルヌル攻撃も開始。元力士・星誕期と抗争を展開中。対戦相手をことごとくヌルヌルにする"ヌルい"ファイトを繰り広げている。180cm、90kg。



パッと勢いよくトレンチコートを広げてヌルヌルのマッチョボディを誇示！　スキンクリームを股間に差している！



突然ドアが開いてトレンチコートにニットキャップ、黄色いサングラスといういでたちの怪しすぎる男が現われた。



仕事にいそしむ編集部のごく普通な日常の風景。数十分後、ここでかつてない惨劇が発生するとは誰も思っていない。



対応した本誌練習生・辻ちゃんが中澤マイケルと押し問答。「わるいやつら」特集はあるけど、どこかで噂がねじ曲がったのだろうか。

ヌルいやつら No.002 辻ちゃん（本誌練習生）



つじ・ちゃん■1981年6月27日、佐賀県嬉野市出身。『ゴング』～『ゴン格』を経てなぜか『kamipro』入り（いまだ練習生）。ハ●プロの辻ちゃんとは決して似ても似つかない死んだイワシのような濁った目、曇ったメガネ、無駄に長い後ろ髪などプロレスオタクふうの薄汚い風貌が特徴。年齢詐称疑惑も浮上している。プライドだけは高く反抗的な態度をとるため、また本名が辻"将人"（まさと）なので"反逆のカリスマ"などと呼称されている。176cm、73kg。



助けを乞う辻ちゃんだが編集部全員が無視。仕上げは残ったクリームを辻ちゃんに口内発射！　身体の中からヌルヌルになるらしい。



ヌルヌルの顔面をヌルヌルの股間に押しつけて激しくグラインド。「いい匂いするでしょ？」とカメラに向かって語りかけるマイケル。



クリームを辻ちゃんの汚い顔面に塗り込むマイケル。壮絶なビジュアルだが、マイケルはご満悦の様子。

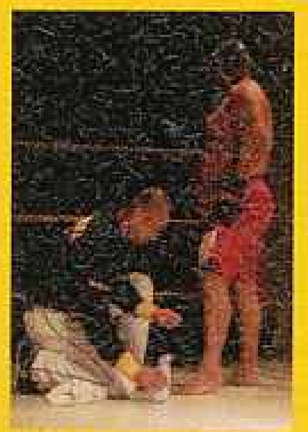


業を煮やしたマイケルが辻ちゃんにクリームをぶちまける！　あっという間にクリームを二本使いきってしまった。

マット界にも波紋が広がりまくり ヌルヌル問題はここまで広がった！







©ガッツワールド

ここに登場してもらったマイケル以外にもマット界にはヌルヌルの波紋が広がっている。プロレスリングSUNではパンサー・クロウが身体をヌルヌルにして登場している。そして、1.20ガッツワールド新木場1stリング大会には真打ちがついに登場した。偽造スペシャリスト・一宮章一による「ア偽山（あぎやま）成勲」だ。セコンドにはそっくりさんの「ミドル清原」を従えている。試合前には堂々と脚にクリームを塗り、相手をボコボコにするという徹底した偽造で歓声を集めた。ヌルヌル問題の波紋は、まだまだ広がっている状態だ。

教訓

ヌルヌルは人を幸せにする



薄汚かった辻ちゃんがヌルヌルになった途端、こんなに爽やかな笑顔を浮かべるなんて！　これがヌルヌルの効果なのか!?「ヌルヌルっていま問題みたいに言われてますけど、使い方を間違えてるんです。本来、ヌルヌルは人を幸せにするものなんです!」とマイケルは力説する。たしかに辻ちゃんも幸せそうだ。ヌルヌルな二人で新ユニット「ヌルいやつら」を結成!?

プロレス初心者・松下ミワが今回は“血の洗礼”を受ける!?



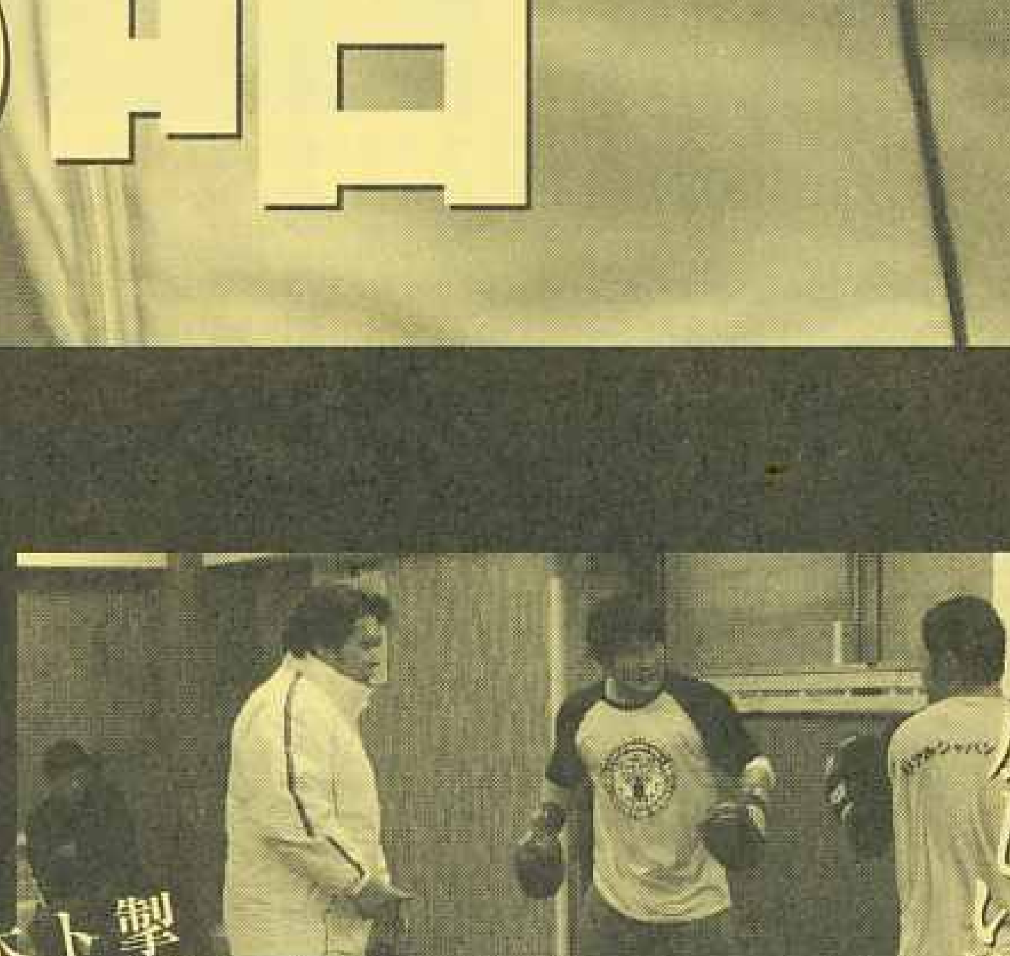
プロレス再復興へ
伝説の男たちがついに立ち上がった!!

初代 タイガーマスク×小林邦昭

よみがえれ“金曜夜8時”
永遠のライバルがここに再会!

“真の強さを持つプロレスラー育成”に向け、リアルジャパンプロレスを立ち上げた初代タイガーマスクこと佐山サトルと終生のライバルである“虎ハンター”小林邦昭がここに再会! 佐山が指導する超ハードな掣圏真陰流の練習から、二人を育てた“原点”を探る最強対談!

聞き手／堀江ガンツ、真下義之　撮影／平工幸雄



掣圏真陰流、トレーニングを本誌が目撃!!

“最強のプロレスラー”を育成する。これが“世界一厳しい道場”だ!!

「佐山が、編集部の方に掣圏真陰流の練習をぜひともご覧いただきたいと申しております」。

今回、佐山サトル・掣圏真陰流興義館総監と小林邦昭さんの対談をお願いした際、佐山総監のマネージャーから、こんな申し出をいただいた。

〝最強のプロレス〟の復興、そして真の武士道精神を追求するため、リアルジャパンプロレスを立ち上げた佐山総監が実践コーチする練習となれば、これは当然、凄い内容に違いない……。取材陣は気を引き締める思いで当日を待った。

取材当日、小林さんも練習時間には掣圏真陰流道場『興義館』に到着。にこやかに出迎えた佐山総監だったが、練習の前には引き締まった表情で、道場生への叱咤が飛ぶ。

「いいかァ！　強くなけりゃプロレスラーじゃないってのは、宣伝文句じゃないぞ！」

リアルジャパンの精神性を言い表わしたような佐山総監の言葉。そこからスタートした練習は、この言葉を裏づけるようなハードな内容だった。

道場にピリッとした緊張感が張りつめる。怪我をしている道場生が多いため、この日は二名の若手が折原昌夫（フリー）コーチについてスクワットから練習開始！　タックル、両足タックル、シャドーなど次々とメニューをこなしてゆく道場生たち。だが、その休憩時間はわずか30秒！　という過酷なもの。

そして、掣圏真陰流トレーニングの〝神髄〟ともいえるのが、格闘技とプロレスの融合だ。いま総合の基本練習をしていた道場生が、折原コーチの指導のもとパーン！　と音を出して、受け身、投げ技などプロレスの基本練習に取り組む。こういう練習が自然とメニューに組み込まれているのは、かなり新鮮な光景だった。

さらに首相撲などを経て、本格的な総合の練習へ移る道場生。ここでは5分1ラウンドのマウント、極め技といった寝技のスパーリングと、グローブを着けての激しい打撃スパーリングが、佐山総監の指示でランダムに行なわれる。そして休憩はやはり30秒！　つまり、道場生はここまでほぼ休みなしで動き続けているわけだが、佐山総監からは容赦ない怒号！　しかもこれがブッ続けで、9ラウンドも続くのだから、その妥協なき姿勢には驚くしかない。

当然のように息が上がり、動きが鈍ってゆく道場生。佐山総監はなんと日本刀を持ち出し「前へ出ろ！　コラ！」と叱咤するが、端から見ていても道場生は体力の限界に達しているのがわかる。

この体力と精神の臨界点ともいえる地点こそ、精神力を磨いていく格好の場面なのだろう。佐山総監はさらなる気合いを注入するため、スパー中の道場生に回し蹴り一閃！　続いてビンタも一閃！　するとあれほどバテていた道場生の目が生き返り、声にならない叫びを上げて、相手に立ち向かっていくから、驚くしかない。総監も「それだよ！　その姿勢で行け！」と声をかける。

ほぼ、2時間ノンストップで行なわれた過酷な練習もいったん休憩。ここから再度、受け身の練習へ。途中、小林さんが2代目スーパータイガーにフィッシャーマンズ・スープレックスを伝授、といった交流も見られた。

まだまだ終わることを知らない練習の中、佐山総監、小林さんと中座してインタビュー対談を行なうことになったが、佐山総監と道場生たちの度を超えた本気度がビンビン伝わってくる内容だったことは間違いない。

普段は「よろしくお願いしま～す」と物腰のやわらかな佐山総監だが、道場という神聖な場所、そしてハードな練習指導後ということもあって、そこには鬼教官と化した総監の姿があった……。



――佐山さん！　小林さんとの対談の前にまずは今日の練習のことをうかがいたいと思いますが……それにしても凄まじい練習でしたねぇ。あの張りつめた緊張感にはシビれましたよ！

佐山　まだまだ、ぜ～んぜんダメですよ。

――え？　あの練習内容でも、いつもよりキツくないんですか？

佐山　ま、今日は怪我してる選手が多くて、練習が二人だけになっちゃったからキツいことはキツいんだけどね。

――ほぼ休みなしのハードな内容でしたけども……。

佐山　（さえぎって）ガチンコならあたりまえですよ！　どこの道場だってやっていることだし、修斗はもっと厳しかったからね。

――小林さんは今日の佐山さんの練習をご覧になっていかがでした？

小林　まぁ……ビックリしたねぇ（笑）。だって2時間くらいノンストップで練習をやらせてたじゃない？

――休憩もたった30秒ですしね。しかし、最近の格闘技ジムは、一般の会員さんも練習してるからか、今日のような殺気や緊張感はなくなってますよね。

佐山　そんなこと関係ないねぇ。この世界、それじゃ通用しないでしょう！　ウチは理想的なプロレスラーを育てるために、〝世界一厳しい道場〟を目指してるし、普段は緊張感も厳しさもこんなもんじゃない。じゃないと試合になんか勝てないから！（キッパリ）。

――本来、普通の人が入ることが許されないのがプロの道場なわけですよね。

佐山　そう。このくらいの厳しさはあたりまえですよ。それに、いま総合の技術が上がってますよね。だから、マウントが入る、打撃が入る、寝技が入る、そういった技術を含めての〝最強〟でなければ、もうプロレスラーとは言えないでしょう！

――そこも含めて、勝てる技術が必要になってくると。

佐山　それこそプロレスラーの真の姿でしょうね。ウチはプロレスでも妥協のない試合を見せていきますし、『PRIDE』やK―1にもドンドン上がっていける強い選手を作っていきますから！

――プロレスラーはここ数年、総合格闘技では戦績が悪いという現実もありますね。

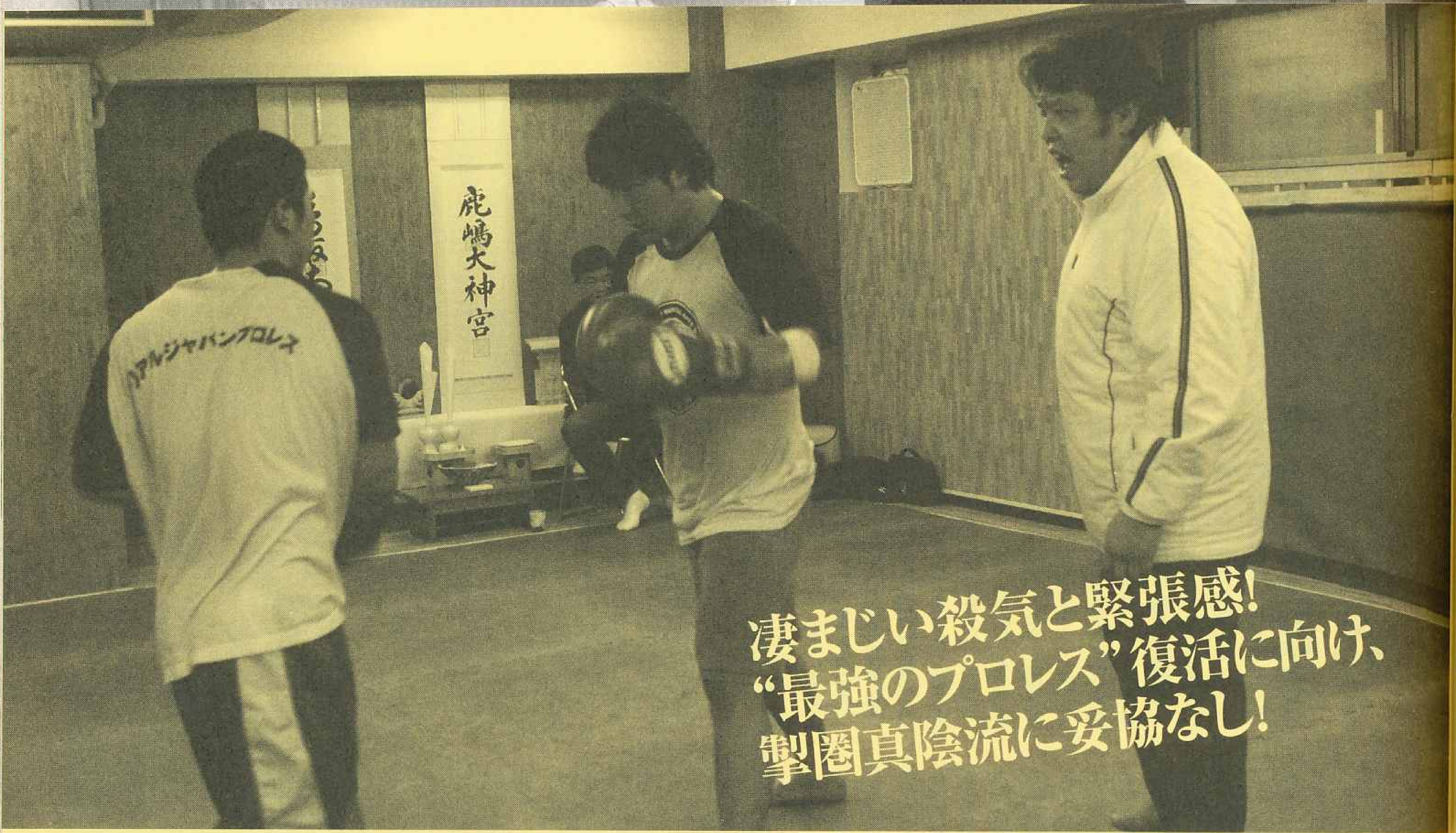
佐山　『PRIDE』でもプロレスラーが負けてますけど……負けてもいいよ？　ただ、格闘技の技術を熟知した上で「負けても惜しかった」とか、「勝敗以上のモノを見せた」という部分があるなら納得できるけど、そうじゃなければプロレスラーとはいえないでしょうが。

――確かにそうですね。

佐山　ウチの厳しい練習で技術や心に加えて、体力もつけていけば、絶対に強い選手ができるし、スーパーヘビーの外人選手にだって負けない体力がつくだろうし。いったい、どんな凄い選手ができるんだろうと楽しみですよ。

――近い将来がホントに楽しみです。





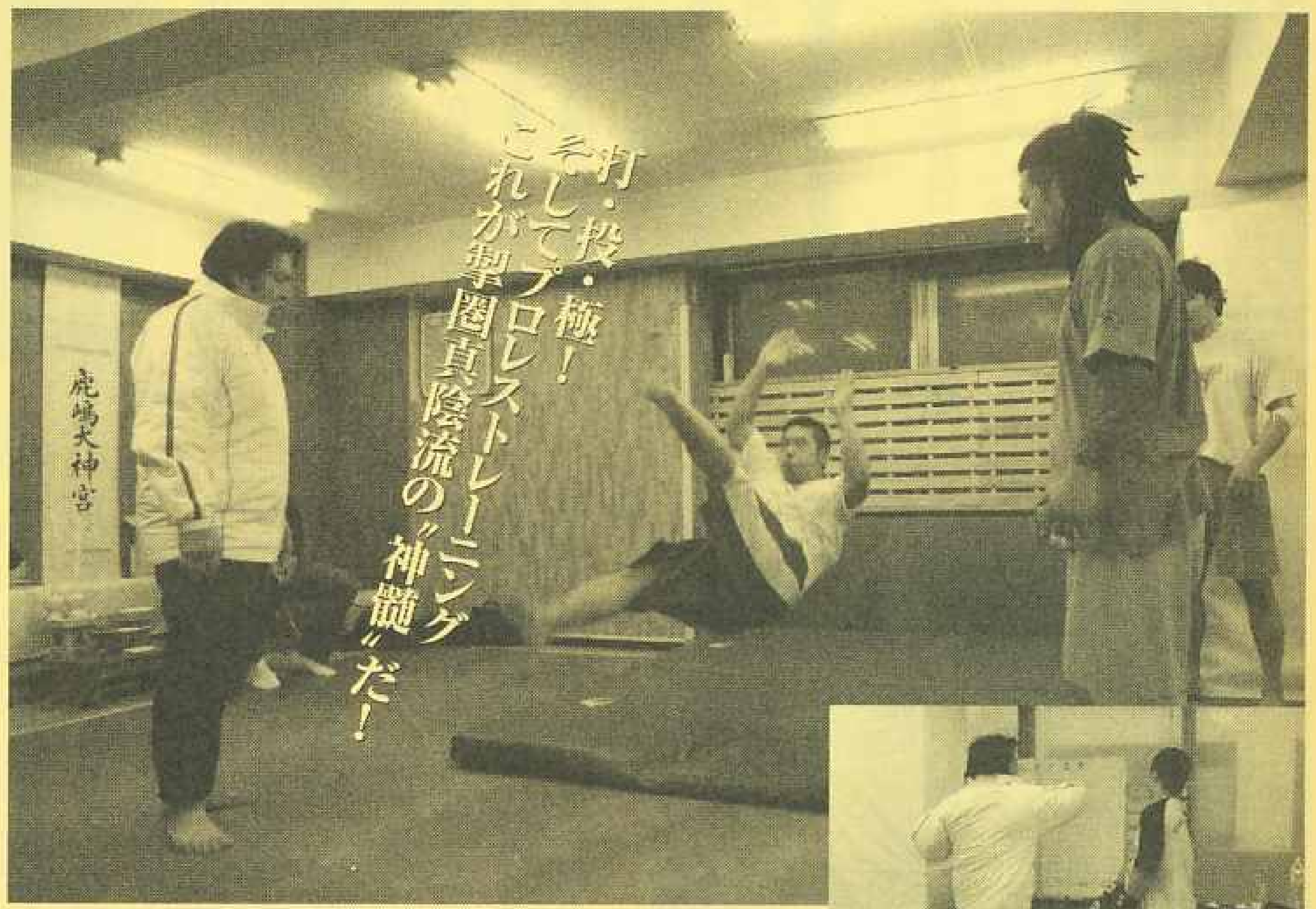








格闘技の技術とプロレスの融合を掲げる掣圏真陰流の練習は、プロレスラーの基本、スクワットからスタート。タックル、首相撲、寝技、打撃といった総合の練習から、受け身まで、フルコースメニューがズラリと並ぶ。



(写真上) 折原昌夫コーチの的確指導で、プロレス流の受け身を練習する道場生。落ちる角度やスピードが徹底チェックされ、回り受け身などさまざまなパターンもこなしてゆく。(写真右) ブッ通しのスパーリング中、前に踏み込めない道場生。この限界点突破のため、佐山総監から気合い注入! 道場生の目の色が変わった!



3月7日リアルジャパンプロレス後楽園大会で、日高郁人とのデビュー戦を控えた、2代目スーパータイガーがスピーディなソバットを公開。当日は、どんな動きを見せてくれるのか注目だ。



リアルジャパンプロレスの革新的な方向性である、総合格闘技の技術と連動したプロレス技。片足タックルから移行できる"実戦的な"ボディスラムを道場生に指導する佐山総監。



練習前に道場生たちが集合。佐山総監から「いいか? 俺たちは勝つための練習をやるんだよ!」「プロレスラーが強さを失なったら、もうおしまいだろ!」と激しい叱咤が飛び、一気に緊張が高まる。

新日本プロレス時代に怖かった先輩？やっぱり山本（小鉄）さんでしょう（佐山）

佐山　……それに加えて、この道場で一番大事にしてるのは礼儀とか姿勢！　精神的な部分を重んじてますから。いま街中で人が倒れていても助けようともしない連中がいるけど、ウチはそういった助け合いもできる、常識や礼儀をわきまえた人間として徹底教育してます。そういう意味で、ウチは完全な縦社会ですから。

――よくわかりました。……それでは、そろそろ小林さんとの対談に入っていきたいんですが、今日の練習の最初に佐山さんから、「強くなけりゃプロレスラーじゃないってのは、宣伝文句じゃない」という言葉もありました。やはりお二人の新弟子時代の新日本プロレス道場はそういう教えだったんですか？

佐山　もちろん、当時は新日本プロレスこそ最強だと信じてたし、〝世界でも5本の指に入る練習の厳しさ〟だと思ってたからね。

小林　俺も入門のときに覚悟はしてたけど、そこまで厳しい縦社会を経験してないから、考え方も変わりましたよね。

――しかし、当時の新日本も佐山さんにしても、最強の男を作るためには、体罰もいとわない部分がありますよね。

当時の練習はほとんどキ○○イの領域 それをみんなやらされていたから（小林）

佐山　（声をひそめて）……ただ、これはあまり言えないけど、ああいった体罰はジェスチャーだから。俺が殴ってるのは手の先なんです。本当に手のひらで殴ったら怪我しちゃうでしょ？

――体罰する側もきちんと危険性を考えているわけですね。

佐山　でも長い付き合いの選手は、俺の手の内をわかってるから。以前は気合いを入れるために竹刀でブン殴ってたけど、その竹刀なんかも先が割れてて殴られても痛くないことを知ってる。だから最近はナメられないように木刀を持っていくんだよね。

――竹刀じゃなくて、木刀!!

佐山　俺は遠慮してるつもりだったんだけど。それで殴ったら、6針くらい切れちゃったこともある（笑）。

――木刀で6針ですか！　昔の新日本道場も小鉄さんは竹刀を持ってコーチされてみたいですけど、お二人も殴られたりしました？

小林　いや、俺らは要領がよかったから、そんなに殴られたことはなかったね。

佐山　ただ、何ごとも「空気を締める」ということは必要でしょう。日本人は若いときから精神が鍛錬されていないから、そんな連中がゆるい集団生活をしたら、自分本意ばっかりで、〝強いプロレス団体を築く〟という目標が薄まってしまうし、みんな「俺が、俺が」となって分裂しちゃいますよ。

小林　とくにこの業界は分裂や独立が多いですよね。プロレスラーはみんなお山の大将になりたいんだよ。

佐山　そういう考えはウチでは絶対に許されないですから！　俺も修斗をやってきて、プロレス界と同じような分裂が起こった。修斗で技術は教えたけど、精神的な部分を教えなかったのが失敗だと思ってるんです。俺は若い選手が金髪にしたり、イヤリングしたり、礼儀を欠いた言動をしたりしてると頭にくる！　コーチの折ちゃん（折原昌夫）は、プロとして自立してるからいいけどね。

――未熟な連中がチャラチャラしてるのは許せない、と。

佐山　若者をおかしなふうに先導するヤツらは許せないですから。そういう精神的な部分を構築することがこの道場では求められてるし、それを今日は皆さんに見てもらいたかったんですね。

――精神の構築に重きを置いてるわけですね。

佐山　そう……そこは、いま私が研究してる〝催眠〟にもつながっていきますよね。じつはこの部屋は催眠の部屋なんですよ。

――あ、ここが曙さんも訪れた〝催眠〟の部屋でしたか！

佐山　皆さんが考えてる以上に、いま催眠を勉強してますから。昨日は世界一の催眠の先生と4時間以上、この部屋に入ってましたしね。

――4時間以上催眠ですか……。話を戻すとお二人が新日本プロレス時代で、一番怖かった先輩は誰ですか？

佐山　それはやっぱり、山本（小鉄）さんでしょう。

小林　山本さんは怖かったよねぇ。当時の練習なんて、スクワットなんかでも1000回、2000回は普通で、最高は3000回くらい休みなしでやらされましたから。ほとんどキ○○イの領域だよ。でもそういう練習をみんなやってたからね。

――ただ、山本さんのことをいまだにキライって人はいませんよね。

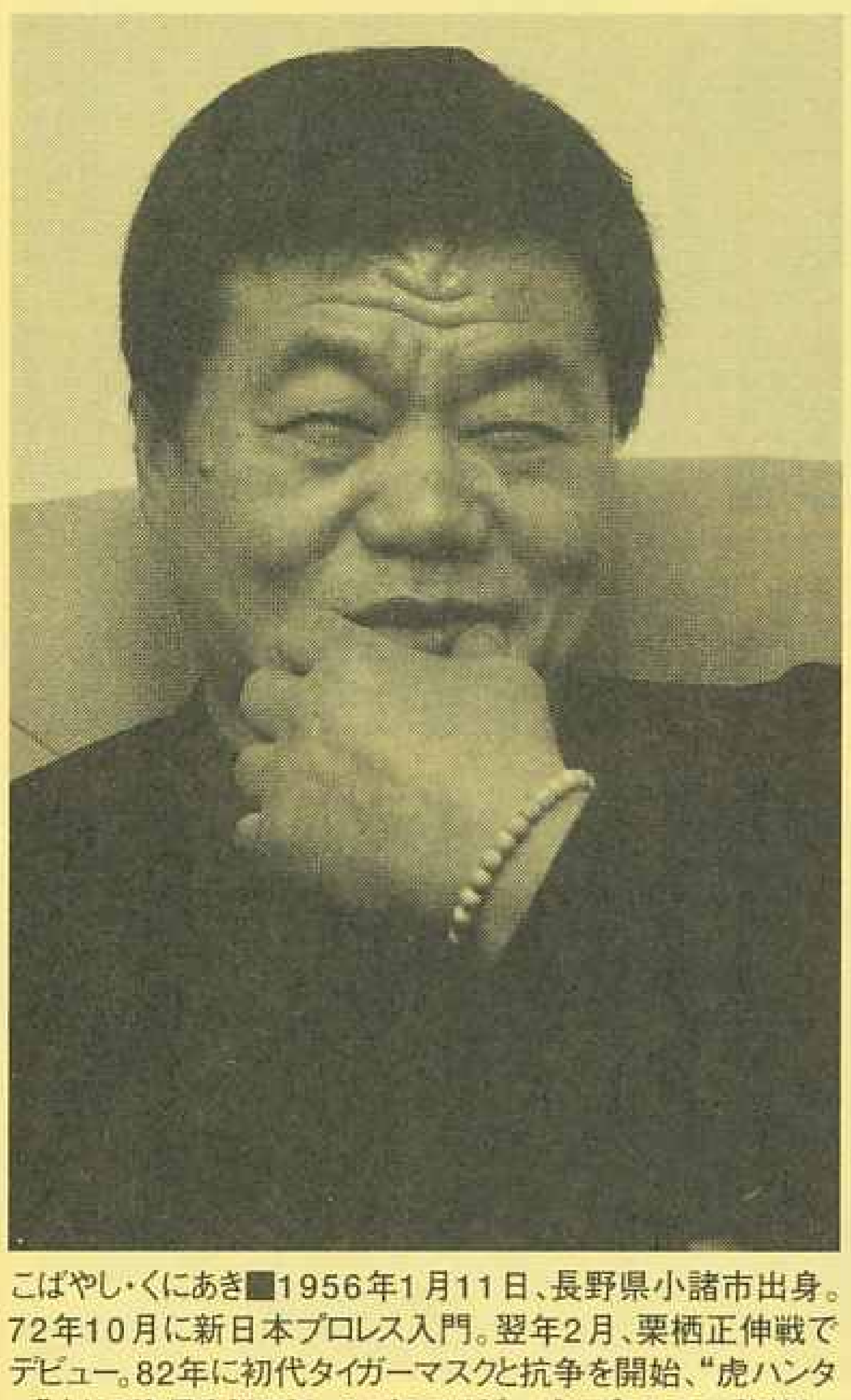
佐山　いないね。山本さんは凄くいい人だと思ってますよ。それに、山本さんに殴られたほうも、なんで殴られたかをわかってただろうし。

――殴られてる最中は、藤原（喜明）さんみたいに「小鉄のヤロー、ブッ殺してやる！」って思ってた人もいるでしょうけど。

佐山　でもウチの道場生は、そうい



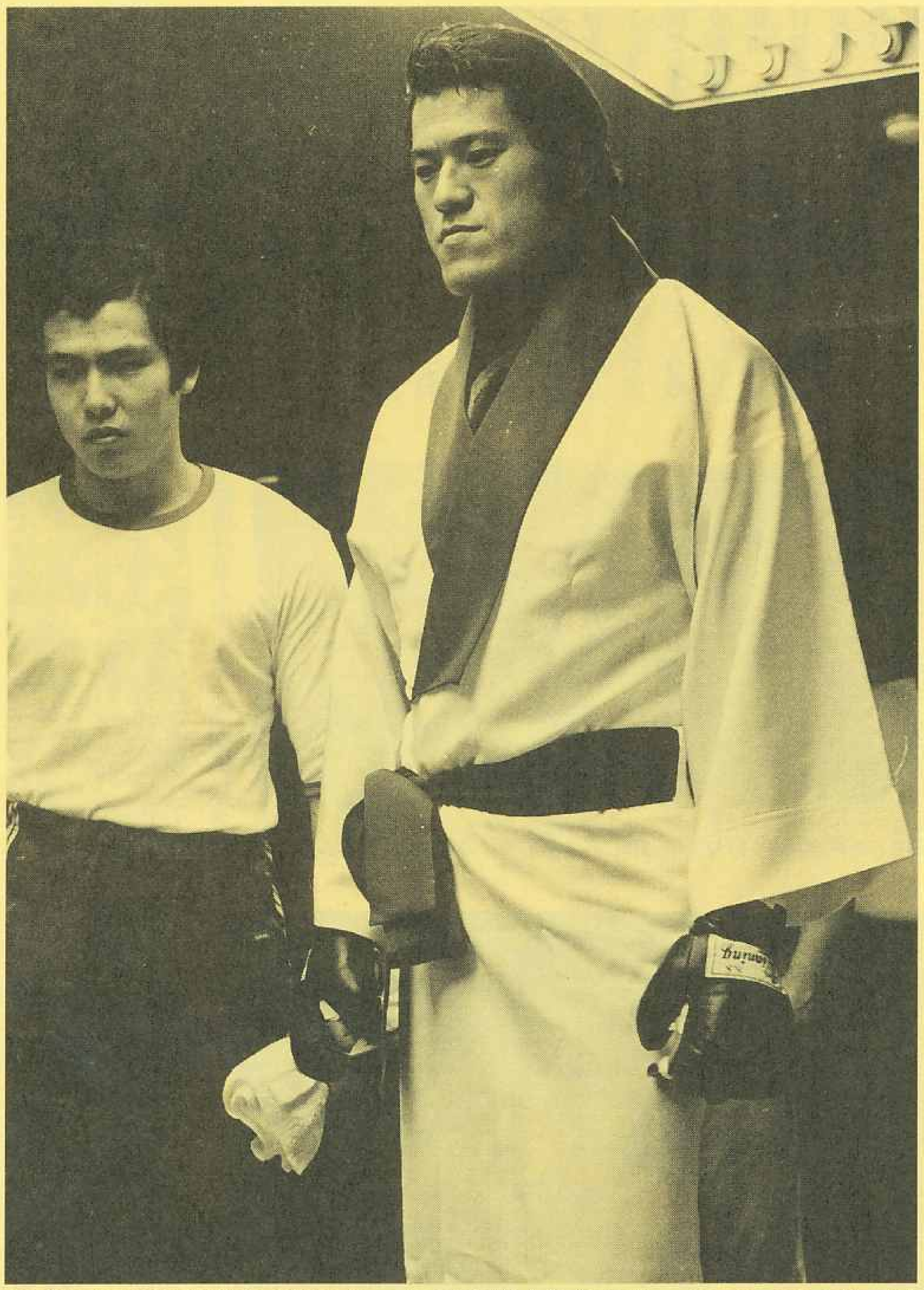
さやま・さとる■1957年11月27日、山口県下関市出身。75年7月に新日本プロレスに入門、76年5月に魁勝司戦でデビュー。初代タイガーマスクとして一世を風靡した天才レスラーでありながら、修斗の創始者として格闘技界にも多大な貢献を果たす。現在は掣圏真陰流の創師として"真のストロングスタイル"追求のために06年にリアルジャパンプロレスを旗揚げ。



こばやし・くにあき■1956年1月11日、長野県小諸市出身。72年10月に新日本プロレス入門。翌年2月、栗栖正伸戦でデビュー。82年に初代タイガーマスクと抗争を開始、"虎ハンター"として注目を浴びる。84年にはジャパンプロレスへ移籍し、全日本プロレスに参戦。86年に新日本に復帰、第4代I　WGPジュニア王座獲得。00年4月にライガーを相手に引退試合。現在は新日本道場の管理人として新日本を支える。



プロレス初心者・松下ミワが今回は“血の洗礼”を受ける!?



1977年10月25日の日本武道館、まだヤングライオンな佐山サトルとプロボクサー、チャック・ウエップナーとの異種格闘技戦を控えたアントニオ猪木の姿。猪木のグローブがすでにオープンフィンガーなのが興味深い。この20日後に佐山は同じ日本武道館の『格闘技大戦争』（全日本キックボクシング主催）でマーシャルアーツミドル級1位、マーク・コステロとキックボクシングルールで激突！ この一戦はプロレス内異種格闘技戦ではない、相手の土俵で闘ったガチンコ他流試合の先駆けであり、結果として判定負けを喫したものの、のちの修斗、さらには総合格闘技ブームの隆盛を生む“起源”となる試合だったのだ。

うことは少しも思わないでしょう。そういう部分でもちゃんと統制を取ってありますから！

—そこまで統制済みですか！ そういった新人時代を経たあとで、小林さんは佐山さんと海外遠征でも一緒だったわけですよね。

小林 そうだねぇ。ただ……昔の海外遠征は2、3年行くのが普通だったからね。俺なんか「一生、メキシコでトルティーヤ食ってんのかな？」って不安になったよ（笑）。

—ダハハ！ メキシコには佐山さんが先発で行かれたようですけど、不安はありましたか？

佐山 俺はありませんでしたねぇ。一人も気楽で楽しかったですし。もちろん小林さんが来てくれたときは嬉しかったけども。

—お二人はメキシコで一緒の部屋だったんですよね。

小林 そう。この人は、あるとき部屋の鍵が開かなくて、かなりぶ厚いドアを回し蹴りでブチ破っちゃったりね（笑）。

—そこは一軒家みたいな場所だったんですか？

佐山 グラン浜田さんが住んでた借家に、二人で居候してたんですよ。

—借家なのに、ドアをブチ破ったと（笑）。

小林 しかも弁償もしないで、出てきちゃった。

佐山 でもあの家、最後は地震で倒れたらしいよォ。だから手間がはぶけてよかったんじゃない？（笑）。

—ダハハ！ ヒドイですねぇ。

小林 それから、スーパーに空気銃を買いにいったりしたよね。部屋の壁に的を作って、二人で空気銃をバンバン撃って穴だらけにしちゃった。さすがに浜田さんに「弁償しろ！」って怒られたけど、それも弁償してないよね？

佐山 ま、地震で倒れたからいいんですよ（笑）。

—メキシコ時代の練習や試合はどんな感じだったんですか？

佐山 メキシコは試合数が多すぎて、練習はあまりできないんですよ。

小林 基本的に、ルチャリブレのお休みはクリスマスくらい。それ以外は試合の連続だったね。休暇がほしいときは一ヵ月前に3日ほどオフィスに申請して、その3日間でアカプルコに海水浴に行ったりするんだけど、自己申告しなかったら休みはないんですよ。

—じゃあ、年間で300試合くらいですか？

小林 一日に何試合もやるときもあるから、300試合じゃきかないよね（笑）。

—その当時の、若いお二人にはメキシコ人のガールフレンドもいたと思うんですけど。

佐山 いっぱいいたねぇ〜。

—あ、いっぱいいましたか？

小林 いない！ いない！ いつも「なんでこんなにモテないのか」って二人でボヤいてましたから。

佐山 ふふふふ。そういうことにしておきますか。小林さんはタイガーマスク時代もそうだけど、もう世界各国でモテてましたからねぇ！

—そういえば、去年、佐山さんと闘竜門のメキシコ大会でお会いしたときに、「○○○○さんの彼女があそこのVIPS（ファミレス）にいた」って教えてくれましたよね。

佐山 そうそう。○○○○もメキシコ遠征に来たんだけど、最初はモテなくってねぇ。当時、○○○○には奥さんがいたから、この話はヤバイ、ヤバイ（笑）。

—当時のメキシコでのお二人の楽しみってありましたか？

小林 いや、楽しみってとくにないよね。二人とも酒は飲まない、煙草もやらないから。50ccくらいのバイクに二人乗りして、『ヒガンテ』っていうスーパーに買いものに行くくらいだね。

佐山 そこで一緒に、空手の道具を買ったんだよね。

—メキシコでブルース・リーふうのパンタロンを買って、二人でマネをしていたらしいですね？

佐山 そうそう。二人でブルース・リーのマネして、家でスパーリングしてたわけ。それで一度、アカプルコの会場でタッグマッチで小林さんと闘ったことがあるんですけど、その試合中に「アレをやってみよう」とひらめいて、勝手にブルース・リーみたいな攻防を始めちゃったの。そうしたら、お客さんがすっごいウケちゃってねぇ！

—ダハハ！ 日本式のカンフースタイルを披露した、と。

小林 当時、メキシコでは日本人はみんな空手家だと思われてたから、かなりウケたよね（笑）。

—それがタイガーマスクvs小林邦昭の原点になるんですか？

佐山 いやいや、原点は小林さんとの若手時代の試合ですよ！ プロレスで一番肥やしになったのは、若手時代の練習と試合ですから。当時の新日本はセメントを基調として、派手な技は出させてくれなかったし、それで試合を組み立てなきゃいけなかったからねぇ。

—限定された状態で、いい試合をしなくちゃいけない、と。

佐山 そこで学んだのは、しっかりした基本があれば、少ない技でも本格的な試合は見せられるということですねぇ。

小林 猪木さん自身、前座が派手

なことをするのを嫌ってましたから。それにしょっぱい試合をしてると猪木さんが試合中に竹刀を持って、リング上で折檻し始めたりしたりするしね。

──それは緊張感ありすぎですね（笑）。二人の試合カードは多かったんですか？

佐山　うん。若手としたら黄金カードだったでしょう。俺らの試合で第一試合から会場の空気が締まった。プロレスって派手な世界に見えるけど、派手な世界の裏に、地味な基本の積み重ねをやっておかないと意味がないからねぇ。

──そして「プロレスラーはいつ何時でも負けてはいけない」という教えが徹底されていた、と。

佐山　そう！　俺は道場破りにも負けなかったし、当時の新日本の道場にはイワン・ゴメスというブラジルのバーリ・トゥードのチャンピオンも留学してたけど、ゴメスとのスパーリングでも負けなかった。当時の道場は凄いレベルでしたもん。

──佐山さんはマーシャルアーツミドル級第一位のマーク・コステロとの異種格闘技戦（77年11月14日、6R、佐山の判定負け）でキックボクシングルールの試合をしましたよね。

佐山　あのときも自分は勝利を信じてたし、「ヘンな試合はできない」と思ってた。でも、よく考えたらパンチとローキックしか教わってないんだからね。

──教わったのは、パンチとローキックだけでしたか。

佐山　巡業の合間に二年間、ちょこちょこ練習したくらいですから。よくあんな状態で試合をしたと思いますよ（笑）。でも、そのときのオフなんて、道場で朝10時から練習して、午後にメシ食って、ちょっと休んで、キックのジムに行って、帰ってきて道場でウェイトトレーニングという具合ですから。

──まさに練習づくめですね。それで雑用仕事もやって、巡業の試合後は旅館でどんちゃん騒ぎもしたわけですか？

佐山　メシは一緒に食べましたけど……僕はどんちゃん騒ぎはやらないですよ。

小林　でもメシを食うのだって、当時は練習みたいなモンですから。

佐山　ふふふ。小林さんはいまでいう〝フードファイター〟だもん（笑）。

小林　旅館なんかでは、ドンブリじゃなくて、おひつで二杯食べてましたからね（笑）。

佐山　おっそろしいねぇ～。合宿所ではドンブリで何杯くらい食べてました？

小林　……毎日、20杯くらいかな。

──ドンブリ飯を20杯！

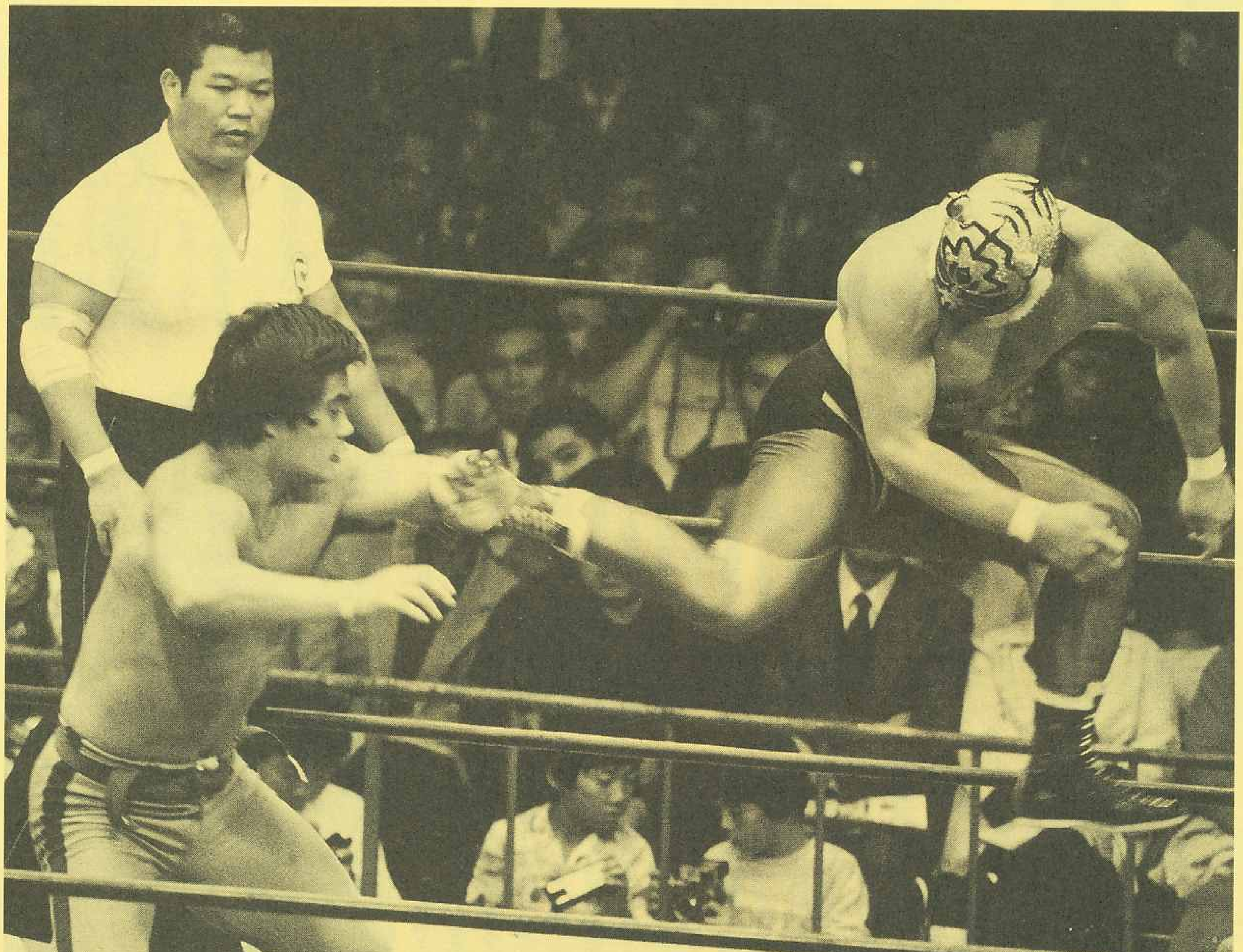
小林　朝に10杯食べて、夜は10杯は食べてましたから。でも、先輩に無理矢理食わせられるんだから、美味しく食べられるのは、最初の4、5杯くらいで、あとは詰め込むだけですよ。でもそのくらい、みんな食ってたじゃない？

佐山　いや、そんなには食ってないって！

──小林さんに限った話に思えますけどね（笑）。いまこうやってお二人は会われてますけども、佐山さんが新日本を離れて以降は、プライベートで会ったりされてたんですか？

佐山　いや、全然会ってなかったね。親兄弟と一緒でいつでも会えると思ってたから、とくに連絡もしなかったんですよ。

〝10チャンネルの金曜夜8時〟という責任をまっとうしようと思ってた（佐山）



1982年、人気絶頂を誇った初代タイガーマスクに対し禁断の“マスク剥ぎ”を敢行！　一躍アンチヒーローとなった“虎ハンター”小林邦昭。二人の試合は観客の異様な熱を生み、この抗争によってテレビ視聴率も一気に20パーセントを突破！　新日本プロレスブームの原動力となった。



プロレス初心者・松下ミワが今回は"血の洗礼"を受ける!?

お互いの技術への信頼感があったから、安心して試合ができたね（小林）

小林　佐山がタイガーマスクになってからも、新日本も離れたあともしばらく会わなかった。

――タイガーマスクと小林邦昭が抗争してた時代なんて、食事なんて絶対できないですよね。

佐山　いまだってそういう感じはあるから。小林さんと一緒に食事してて、「あ、小林と佐山だ」なんて言われたら、一瞬「わっ！　どうしよう？」って思っちゃうからねぇ（笑）。

――当時の二人の関係は異常にヒートしたものでした。

佐山　ただ、これだけは言いたいけど、タイガーマスクは絶対に一人じゃできないから！　小林さんやダイナマイト（・キッド）、ブラック・タイガーが一緒に凄い試合をしてくれたから成立したワケだよねぇ。

小林　こっちも噛みつきがいがあったから、一緒に上に上がっていけたんだよね。

――ただタイガーマスクが人気絶頂の頃、覆面を被っていた佐山さんは私生活では人気絶頂ではなかったんですよね。

佐山　よく言われるんですけど……それって凄く便利なんですよ。街に出ても騒がれないし、悪いことだってできるもん（笑）。

――ダハハハ！　悪さもしましたか。

佐山　ま、悪いことはやってないですけどね（笑）。

小林　俺がタイガーマスクと抗争する前に、巡業バスで一緒だったことがあるんだけど、地方でバスを降りたら、高校生の修学旅行の集団が「猪木だ！　坂口だ！」と騒いでいて、「タイガーマスクはどこだ？」って探してるんですよ。でも佐山は俺のすぐ目の前にいたから、「ここにいるのになぁ」と思って、吹き出しそうになったよね。

――まさに『ワールドプロレスリング』の黄金時代ですね。

佐山　俺たちも「10チャンネルの金曜夜8時という責任をまっとうしよう」という気持ちや、「凄いことをやってる」って自負があったからねぇ。いまのプロレスがその位置へカムバックするなら、それ以上のことをしなければダメでしょう。だからプロレスラーは『PRIDE』だって、K－1だって勝っていかなきゃ！　そのためにも、我々はプロレスの攻め方も変えていきますから。

――プロレスの攻防自体を変えていきますか？

佐山　若手時代に俺や小林さんがやってた序盤のレスリングのムーブに加えて、マウントに入ったり、逆十字を狙ったり、パウンドにいったりという攻防を取り入れます。そのあとにクロスチョップみたいな技が入ってもいいし。

――じゃあ、試合はある種、格闘技の攻防にも近くなっていく、と。

佐山　そうですね。プロレスなんだけども格闘技の攻防があり、そしてプロレスの基本技も見せられるということだよね。

小林　今日のスパーリングなんかも、組みついた瞬間にスイッチが入ったように、火花が散る感じの攻防だったもんね。

佐山　うん。最初からお客さんが拍手喝采するんじゃなく、静かに集中してグーッと観られる、しっかりした基本技の積み重ねが必要。それを教えるには我々も格闘技を熟知しなければならないし、総合格闘技でも勝てる体力や技術を学ばせたいんですよ。

――試合としてはタイガーマスクと小林さんみたいな攻防が理想ですか。

佐山　そうですねぇ。よく言うけど、タイガーは飛んだり跳ねたりの選手じゃないんですよ。俺からしたらマスクなんか布切れですし、その布切れに染み込んだ汗は、新日本の道場で基本技を練習した汗なんですね。

――だから当時のタイガーマスクvs小林邦昭は攻めも凄いけど、受けも過剰なんですよね。

小林　そこの信頼感があったから、試合しててもお互いが安心してできましたから。

佐山　感情をむき出しにはしてるけど、安心して試合できたよねぇ。だから、プロレスで本当に興奮する部分って、飛んだり跳ねたりよりも感情の爆発ですよね。鈴木みのるはプロレスがうまいわけじゃないんだけど、その部分のコントロールがうまいんですよ。

――そういった精神を踏まえたプロレスを今後のリアルジャパンプロレスには期待したいですね。

佐山　小林さんには昨年末、自分のセコンドについてもらったけど、また会場に来てもらいたいよね。今日は、2代目スーパータイガーにフィッシャーマンズ・スープレックスも教えてもらいましたし。

小林　凄いよね。僕が3年3ヵ月かかって仕上げた技をいきなり持っていっちゃうんだから（笑）。

佐山　ちょっと、技を盗んだみたいに言わないでよ！（笑）。

――しかし、今日は小林さんも刺激を受けられたんじゃないですか？

小林　そうだねぇ。……ま、俺はこの門下生じゃなくてホントによかったよ（笑）。

佐山　そんなこと言わないでよぉ！　またよろしくお願いしま～す！

――ダハハハ！　今日はお二人とも本当にありがとうございました。

【07年1月29日／都内・掣圏真陰流本部道場『興義館』にて収録】



初代タイガーを苦しめた、小林邦昭の代名詞！　といえばご存知、フィッシャーマンズ・スープレックス。この技を小林が2代目スーパータイガーに伝授！　はたして3.7後楽園のデビュー戦で披露なるか？

これぞプロレスの失地回復戦！

3・7後楽園大会で、2代目スーパータイガー、日高郁人とのデビュー戦決定ッ!!

「おまえは虎になれ！」と3月7日のリアルジャパンプロレス後楽園大会にてデビューする2代目スーパータイガー（以下、S・タイガー）の対戦相手が、ZERO1・MAXの日高郁人に決定ッ！

2月8日に掣圏真陰流本部道場「興義館」で記者会見が行なわれたが、対戦相手の日高は、「我々の理想とするプロレスを体現できる選手」として、初代タイガーマスクが指名したもの。初代タイガーは「2代目S・タイガーには日高選手の胸を借りて成長してほしいし、どんな洗礼を受けるのか楽しみ」とコメント。

会見に出席した日高も「2代目S・タイガー選手は何をしてくるかわからない怖さがある。今回はリアルジャパンプロレスさんが掲げる"真のストロングスタイル"にふさわしい試合がしたい」と前向きな発言。

そして、180センチ、95キロという体格で、格闘技経験豊富という以外は、素性が不明の2代目S・タイガーはこの日の会見でも終始ノーコメント。神秘のベールに包まれた2代目S・タイガーのデビュー戦にとにかく注目だ!!



対談後、スリーショットに収まった初代タイガーマスクと小林邦昭、そして2代目スーパータイガー。3.7後楽園で新たな虎伝説がスタートする！

リアルジャパンプロレス

プロフェッショナルレスリング・失地回復戦

～猛虎遺伝子・2代目スーパータイガーデビュー戦～

東京・後楽園ホール／3月7日(水) 18:30試合開始

[メインイベント タッグマッチ60分1本勝負]

初代タイガーマスク&X
vs 鈴木みのる（パンクラスMISSION）&X

[2代目スーパータイガーデビュー戦　シングルマッチ]

2代目スーパータイガー（リアルジャパンプロレス）
vs 日高郁人（ZERO1-MAX）

[第1試合　ZERO1-MAX提供試合　シングルマッチ　30分1本勝負]

浪口修vs高西翔太

[第10回掣圏真陰流トーナメント]

※ 4選手によるワンデイトーナメント

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメントインタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林　★田代まさし　★猪木快守
★イーデス・ハンソン　★阿修羅原　★鶴見五郎
★サムソン・クツワダ　★康芳夫　★倉持隆夫
★田中健一　★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　344ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う人生ガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジュラルド・ゴルドー　★後藤達俊　★小畑千代
★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎　★中島らも
★大槻ケンヂ　★シーザー武志　★ダニー・ホッジ
★高山善廣×金原弘光　★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス＆格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録！ 圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　304ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

プロレス初心者・松下ミワが今回は“血の洗礼”を受ける!?



松下ミワ
まつした・みわ■『PRIDE』やダン・ヘンダーソンについては豊富な知識を誇るが、プロレスは超初心者。だが、新日本道場に一日入門したり、“ドラゴン”藤波夫妻に夫婦円満のコツを聞いたりして少しずつ理解はしてきた模様(何を!?)。

金沢克彦
かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして絶賛活動中。新日系レスラーからの信頼度は絶大！な凸凹大学校講師。通称GK。

特別講師

“黒い呪術師”

アブドーラ・ザ・ブッチャー

3年G組 金沢先生

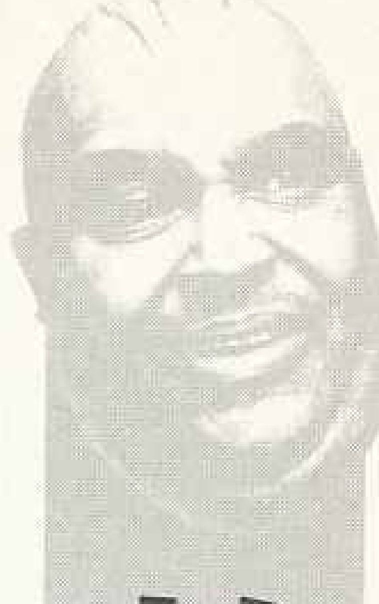
新日本プロレス凸凹大学校“ドキドキヒール殺法編”

“生きる伝説”ブッチャー先生に凶器の使い方を教わろう！

新日本凸凹大学校が前々号&前号の藤波夫妻に続いてお迎えするのは“生きる伝説”アブドーラ・ザ・ブッチャー先生です！　え？　新日本っていうより全日本のイメージが強い!?　細かいことを言うんじゃないよ！　しっかり新日本のことも聞いてるし、いまだに現役バリバリで活躍している“生きる伝説”に話をうかがう貴重な機会を逃す手はない。というわけで3年G組金沢先生と生徒・松下ミワがブッチャー先生に「ヒール哲学」と「凶器の使い方」のレクチャーを受けてきたぞ！　プロレス初心者は生きて帰れるのか!?

講師／3年G組 金沢先生　生徒／プロレス超初心者 松下ミワ
撮影／平工幸雄　構成／坂井ノブ

教えて!! ブッチャー先生のヒール哲学



GK 今日は偉大なるヒールレスラーのブッチャーさんにお会いできて光栄です！ まずブッチャーさんにこの企画の主旨を説明させてください。シュートファイトのことばっかり詳しくてプロレスをまったく知らない彼女に、私がいろいろ教えるという企画なんです。

ミワ （おびえながら）よ、よろしくお願いします。

ブッチャー ＯＫ（ギラッと目を光らせながら）。で、ティーチャー。今日は彼女に何を教えるんだい？

GK まずブッチャーさんの偉大さを彼女に伝えるために、お話をうかがいます。偶然にも僕は明日、45歳の誕生日なんですけど、その45年前にアブドーラ・ザ・ブッチャーというレスラーが誕生したんですよね？ 僕の人生のぶん、ブッチャーさんはずっとプロレス界のトップを走っていたことになります。

ブッチャー イエス。まあ、デビューしたのは47年前だけどね。

GK それぐらい長くトップにいた人だから、おそらくいまの30代以上の人はみんなブッチャーさんの名前を知っていますよね。

ブッチャー もっと若い人でも知ってるだろう。人の多いところにいると、子どもたちは「ブッチャー！」って寄ってくるんだ。

ミワ へぇぇぇぇ。凄い！

GK 僕らが小学生や中学生の頃は、かならずクラスに一人か二人は「ブッチャー」っていうあだ名の子がいたよね。ちょっと体格がいい子で。

ミワ 私の学校にもいました（笑）。いまの仕事を始めるまでプロレスのことはまったく知らなかったですけど、ブッチャーさんのことは知ってましたから！

GK それぐらい人気とインパクトが大きいってことなんだよ。

ミワ 身体も凄く大きいんですよね。普段どれぐらい食べるんですか？

ブッチャー そんなに食べないよ。腹が減ったときにちょっと食べるぐらいさ。

ミワ ホントですか？ でも、体重は落ちないんですよね？

ブッチャー いや、昔に比べたら60パウンド（約30キロ）ぐらい落ちたよ。

ミワ それでもデカいですよね（笑）。

ブッチャー 私はケツがデカいんだよ（笑）。

ミワ さっき階段を上がるブッチャーさんを見て、私もそう思いました（笑）。45年前から活躍されてるということは……いまおいくつなんですか？

ブッチャー 2歳だよ。

ミワ えっ……（固まる）。

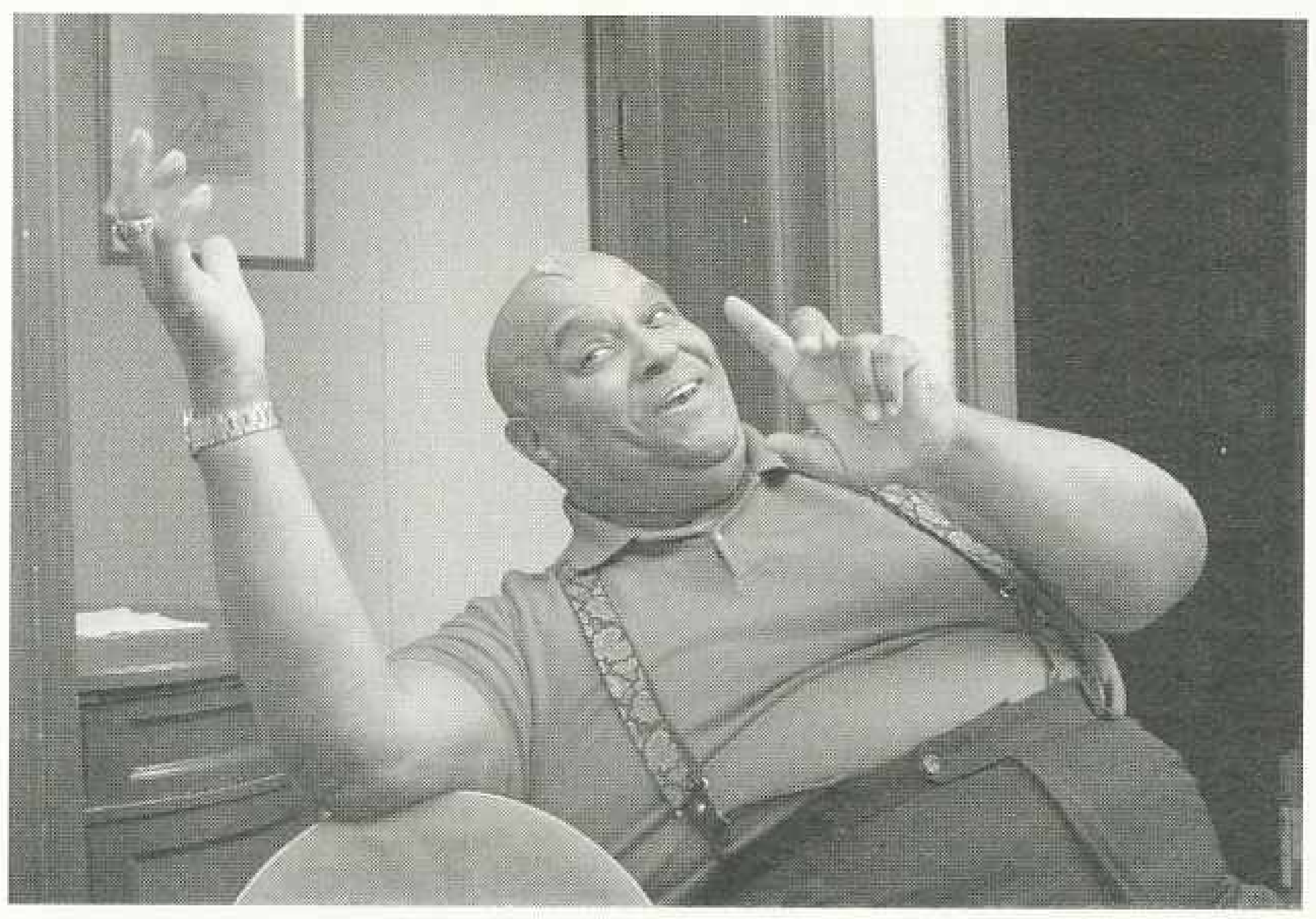
ブッチャー ジョークさ（笑）。66歳だよ。1941年生まれだから。

GK ブッチャーさんはいまでも若いですけど、同時期に活躍されていた人がどんどん亡くなっていきますよね？

ブッチャー 天の上の人が私のことをちゃんとトリートしてくれてるんだと思うよ。

GK ブッチャーさんは身近な人が亡くなっていくことで、死に対する怖さとかは感じないですか？

ブッチャー ノー。時が来たときに人は死ぬんだよ。みんなは有名な人が死んだときにしかそういうことは言わないけど、ちゃんと地道に働いてる人もみんな時が来たら死ぬんだ。ユーもいつかは死ぬし、ミーもいつかは死ぬ。有名だろうが無名だろうが関係ない。みんな一緒さ。



リラックスしたムードのブッチャー先生。しかし、時折飛び出すジョークにミワが固まる場面も。やっぱ迫力が凄い！

いまは同じようなレスリングばかりで バイオレンスとアクションが足りない

GK ちなみに先だってブッチャーさんとも闘った大木金太郎さんが亡くなられたんですけど。

ブッチャー ああ、彼とは韓国や日本、アメリカで何度も闘った。亡くなったという知らせを聞いたときはつらかったね。やっぱり身近な人とか闘ったことがある人が死んだ話を聞くのはつらいものさ。

GK でも驚いたのは、亡くなったときに本当の年齢がわかって、じつは77歳だったんですね。ブッチャーさんとバリバリ闘ってたときは、ほんとは50歳ぐらいだったというのはもの凄い驚きです。

ブッチャー まあ、彼のホントの年齢も私は知ってたんだけど（笑）。

GK このあいだの追悼イベントにはブッチャーさんも行かれてましたよね。

ブッチャー イエス。イノキもいたよ。昔、オオキが生きていたときはよく一緒に教会に行ったものさ。韓国やアメリカで会ったときはね。

GK 彼女は今回の取材をするにあたって初めてブッチャーさんの試合を観たんですよ。フォークでテリーを刺した試合（1977年オープンタッグ選手権）でしょ？

ミワ はい。

ブッチャー ああいうハードコアなスタイルを始めたのは私なんだ。それまで、あんな試合は誰も観たことがなかったはずだよ。

ミワ 痛くないんですか？ 血とか凄くいっぱい出るじゃないですか。

ブッチャー フフフ、そりゃ痛いさ。

ミワ 私なんかブッチャーさんの額の傷を見るだけでもかなり痛いんですけど。

ブッチャー まあ、ユーはガールだからそう思うんだろうね。

ミワ 男の人は痛くないんですか？

ブッチャー いや、痛いって言ってるじゃないか（笑）。リングに叩きつけたり、場外に落としたりすることは痛いことなんだ。でも、もう痛みには慣れてしまった。

ミワ 噂で聞いたんですけど、額の傷はちょっと叩いただけで血がブワーッと出るんですよね？

ブッチャー いや、ちょっと叩く程度なら大丈夫だよ。でも、火傷したと



いまも伝説として語り継がれるブッチャーのフォーク攻撃。テリー・ファンクの腕をえぐって大流血させた77年オープンタッグ選手権と79年世界最強タッグ決定リーグ戦（写真）は大きなインパクトを残した。

きは大変だったな。一ヵ月ずっと病院にいて、何もできなかったよ。

GK （ボールズ・）マホーニーとやったときですか？

ブッチャー イエス。最悪の場合は盲目になる可能性もあったね。

ミワ えええ～～!?

GK ところでブッチャーさん、いま日本ではプロレスよりMMAのほうが世間一般に浸透してる状況なんですよ。

ブッチャー 人間はバイオレンス、残虐なものを観たいという欲求があるんだよ。昔のプロレスは血が出たり、ハードコアスタイルでやってたけど、いまのプロレスはレスリングしかしてないじゃないか。シュートファイトはホントに血が出たり、残虐性があるから人気があるんじゃないか？

ミワ なるほど。

ブッチャー テリー・ファンク、ドリー・ファンク・ジュニア、ブルーザー・ブロディ、ジャンボ鶴田やテンルー（天龍源一郎）とか昔のレスラーはみんなバイオレントだったじゃないか。昔はそういうものを見せてたけど、いまのレスラーはそういうものを見せない。だから、シュートファイトの人気があるんじゃないか。昔は会場に行ったら、みんなお客さんで埋まってたもんさ。

ミワ もの足りない感じがするんでしょうね。

GK プロレスはやっぱりスポーツライクになっちゃダメですか？

ブッチャー いまはバイオレンスなものはなくて、同じレスリングばかり見せてるからお客さんが入らないんだろう。フットボールでもバスケットでもホッケーでもアクションはある。昔はプロレス会場に来てたお客さんは叫んだり、立ち上がったりしてたけど、いまはもう漫画を読むような感じさ。もっとアクションが必要なんだ。タイガー・ジェット・シンでもアクションがある。イスを持ったり、お客さんの中に入っていったり。いまのプロレスにはそういうアクションが足りないね。

GK 日本のプロレスがいまテレビもいい時間帯にやってないし、シュートファイトのほうが人気があるということに対して、プロレスの人気が復活するには、何が必要だと思いますか？

ブッチャー もっとバイオレンスとアクションが必要だ。昔とは違うんだ。もっと違う個性を活かさないと。もうブッチャー、テリー、ババ、ツルタを好きなファンは消えたんだ。もっと新しいスターやギミックが必要なんだよ。

GK ちなみに今年のプロレス界でMVPを獲ったのが、鈴木みのるという男なのですが。彼がプロレスファンになったきっかけは、ブッチャーさんにフォークで刺されるテリー・ファンクがカッコいいと思ったからだそうです。

ブッチャー フー？　ミノル・スズキ？　ああ。コバシと闘っていた選手か。MVPを獲ったのか？　私がさっき言ったスター選手というのは、マネーを持ってこれる選手のことだ。

GK 小橋選手はお客さんを集めますよね。ムタ（武藤敬司）もお客さんを連れてきますよね。

ブッチャー ジャンボ鶴田やテンルーもそうだった。顔がいい選手だと女の子が集まるのさ。

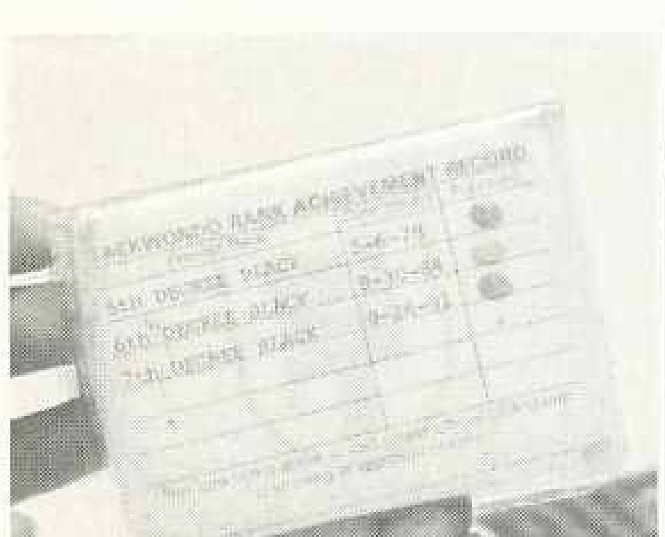
GK あと悪いヤツも必要ですよね。

ブッチャー そうだな。とにかく個性を出さないと誰も興味を持たないよ。

GK ブッチャーさんがプロレスでデビューしてすぐ、「プロレスというのはエネルギーとエネルギーのぶつかり合いなんだということに気がついた」と自伝『幸せな流血』（東邦出版）に書かれてましたよね。

ブッチャー 相撲だってぶつかるからおもしろいのさ。ただ組み合って何もないんだったらおもしろくないからね。

GK おお、じつは最近の「相撲はぶつかり合いがないからおもしろく



テコンドー七段のライセンスを見せてくれた。たしかに本物！　自伝によれば空手七段のライセンスも持っているという。凄い！



読者がMMAの記事を読みたいというなら MMAを載せればいい。それがビジネスだ！

ない」ってこのあいだ、武蔵丸親方がまったく同じことを言ってたけどね（笑）。

ミワ　ホントですか（笑）。

GK　曙と小錦とのテレビの対談でそう言ってた（笑）。

ブッチャー　二つの巨体がぶつかったら「オオッ!!」ってなるだろ？　いまはテレビでレスリングを観るよりも、顔にペイントしたり、奇抜な髪型をしているレスラーばかりだ。必要なのはアクションなんだよ。

GK　これもブッチャーさんの本に書いてあったんですけど、ジノ・ブリットに「アマチュアレスリングの練習をしよう」と言われたとき、ブッチャーさんは「自分にはそういうものは必要ない。俺は空手をやってきてるから、それを中心にやるんだ」と答えてましたよね。

ブッチャー　イエス。自分にはアマチュアレスリングは必要ないということは試合を観てわかったね。私のスタイルはチョップとイスと凶器攻撃だから。それに私はテコンドー七段なんだ。

GK、ミワ　ヘェェ～～～。

ブッチャー　これがライセンスさ（といってライセンスを見せる）。

GK　いつ頃のやつですか？

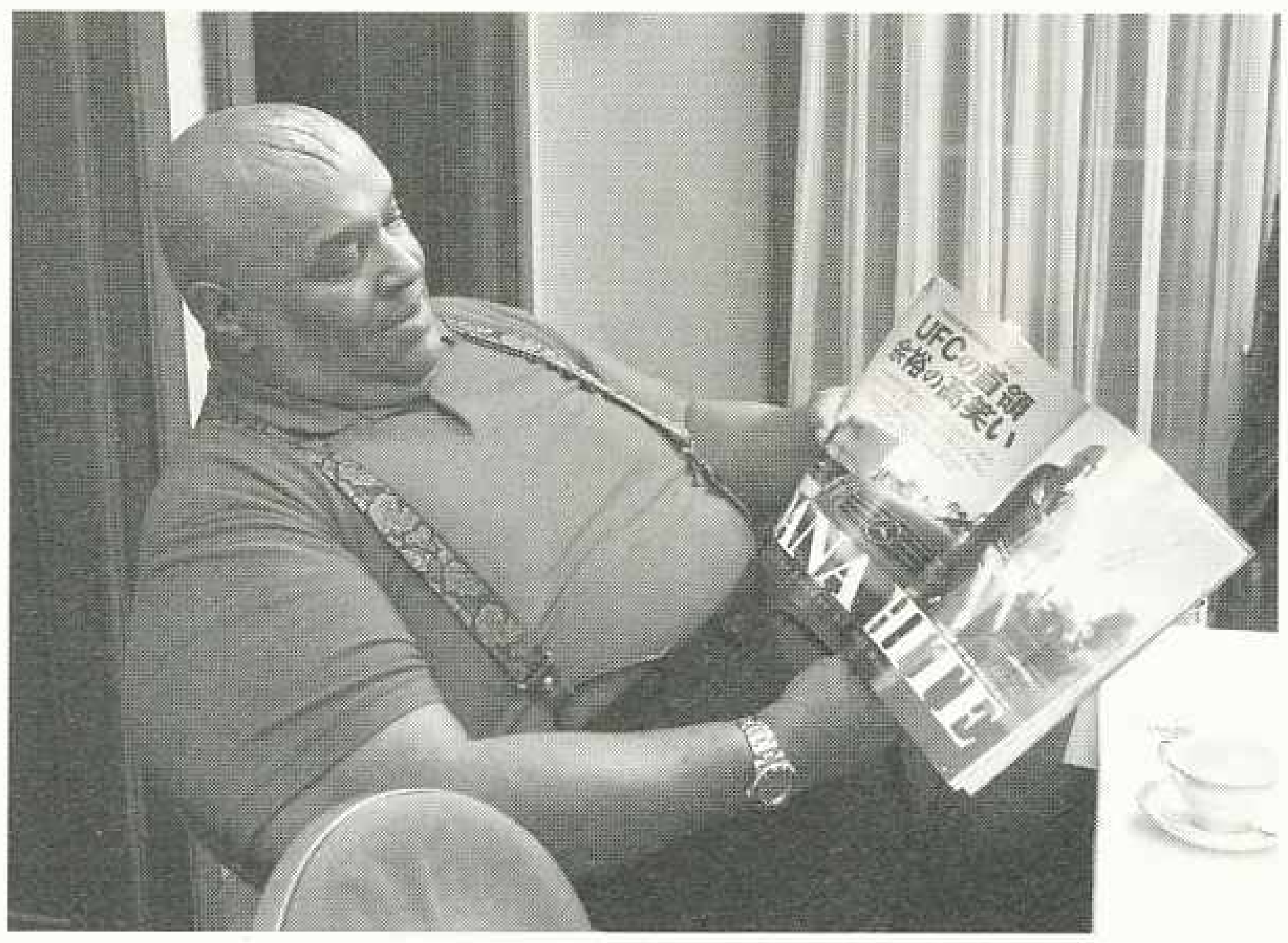
ブッチャー　91年に取得したんだ。

GK　凄いですね～。（帽子を被りながら）先ほども言いましたが、私はこの企画で彼女のティーチャーをやってるんですよ。

ブッチャー　（帽子を指さして）ギミックだ！

一同　ダハハハハ！

ブッチャー　いまのプロレスにはギミックがない。これが足りないんだ！


本誌バックナンバーに目を通して「MMAばかりじゃないか!」とブッチャー先生。しかし、日本マット界の事情を聞くと納得。頭の回転の速さはハンパじゃない！

GK　ちなみに先日、藤波（辰爾）さんの自宅を訪問したときもこれを被ってました（笑）。藤波さんはご存じですよね？

ブッチャー　ああ。フジナミはいいレスラーだ。ティーチャーはそこで何を教えたんだい？

GK　僕は藤波さんの日本とニューヨーク、メキシコ、オーストリアを股にかけて闘っていたときの話を聞いたんですけど、彼女は夫婦円満の秘訣を聞いたんですよ（笑）。

ブッチャー　あそこは奥さんのほうがボスなんじゃないのか？（笑）。

ミワ　素敵なご夫婦でしたよ。

ブッチャー　女は男と組むことで成長していくんだ。いまは社会的に力を持った女の人が多くなってきているだろう？　ババのところもそうだった。彼女（元子さん）は会社全体に目を光らせていたけど、ババは「心配するな」となだめる役目だったな。

GK　抜群のコンビネーションでしたよね。

ブッチャー　ババがオールジャパン（全日本プロレス）をスタートさせたときから私も参加していたんだけど、亡くなったときに、なぜか私は葬式に呼ばれなかった。

GK　それはやっぱり寂しかったですか？

ブッチャー　もちろん寂しかったさ。

GK　たしかデストロイヤーさんは呼ばれましたよね？

ブッチャー　でも、テリーもドリーも呼ばれなかったんだ。私たちがオールジャパンを大きくしてきたのに。

GK　ブッチャーさんはずっと全日本で活躍してましたけど、一時期新日本のリングにも上がりましたよね？　初登場のときに白いスーツを着て「リッスン・トゥ・ミー！」ってお客さんに言ってたのが印象的だったんですけど。

ブッチャー　ああ。覚えてるよ。

GK　でも、猪木さんとの試合はなぜかヒートしませんでしたよね。原因はなんだと思いますか？

ブッチャー　イノキが私を恐れてたからだろう。

ミワ　そもそもなぜ新日本に移籍しようと思ったんですか？

ブッチャー　モア・マネー。もっとお金がほしかったからさ。

ミワ　そんなにいっぱい新日本でもらえたんですか？

ブッチャー　私とベッドをともにしたら教えてやってもいいよ（笑）。

GK　ダハハハハ！

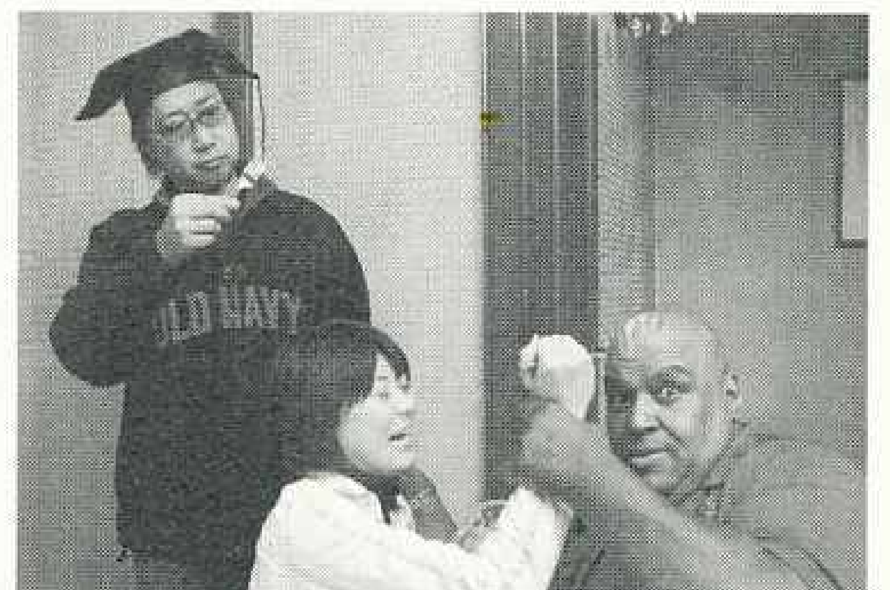
ミワ　え……（固まる）。先生、私どうしたらいいんですか？

GK　（おびえるミワを無視して）君がベッドに行く前に俺が説明してやるけど、その当時は新日本と全日本の引き抜きが凄くて、ブッチャーさんを新日本が引き抜いたら、全日本がスタン・ハンセンを引き抜いた。そして、タイガー・ジェット・シンを引き抜いたら、ブルーザー・ブロディを引き抜いた。

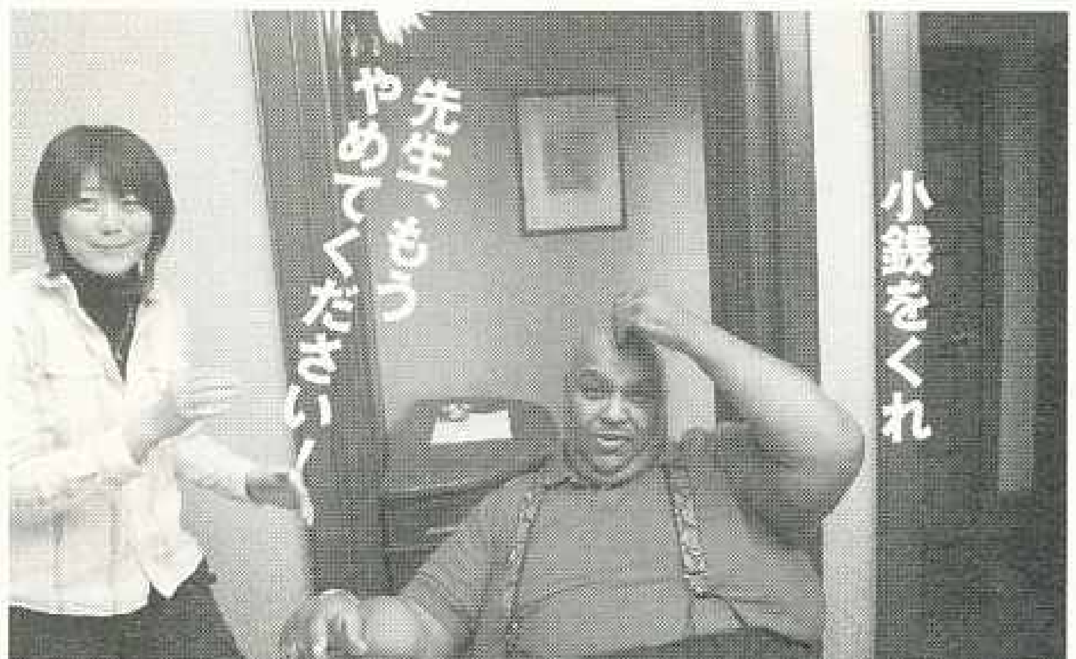
ミワ　引き抜き合戦だったんですね。

ブッチャー　私がいなくなったとき、オールジャパンは人気が落ちたんだけど、また私が戻ったら人気が出たんだ。

GK　ええ。全日本に戻ると、たしかに元の人気が戻りましたよね。やっぱりファイトスタイルとしては全日本のほうがやりやすかったんですか？



フォークを片手にブッチャー先生の凶器レクチャーがスタート！　ちょっと触れたら額が大流血すると信じ込んでいるミワは「刺してみろ!」と熱血実演指導のブッチャー先生にビビりまくり。



「小銭をくれ」とブッチャー先生。何をするかと思ったら、それを額に持っていく。今度こそ大流血!?　ミワは泣きが入った。



なんと、ブッチャー先生は額に深く刻まれた傷に小銭を立てるという脅威の芸を披露してくれたのだった。これには金沢先生もビックリ。

ブッチャー　ああ。ニュージャパンよりはね。もしババとイノキが一緒になってやってたら、こんなに団体が多くはならなかっただろう。もし力道山がまだ生きていたとしても、同じことが言えるだろうね。シュートファイトも盛んになってなかっただろうな。

GK　なるほど。じつは『kamipro』は総合格闘技のことばかり扱ってる雑誌なんですよね。僕はもともと『週刊ゴング』の編集長を6年やってたんですけど、竹内宏介さんの弟子なんです。

ブッチャー　そうなのか？　ミスター・タケウチのことは知ってるよ。

GK　いま僕はフリーランスでやってますけど、この子（ミワ）を鍛えてそのうち『kamipro』の誌面の半分をプロレスに変えたいと思ってます（笑）。

ブッチャー　いや、べつに変えろと言ってるわけじゃないんだ。イッツ・ビジネス。みんながMMAの雑誌を買うんだったら、MMAの記事を載せるべきだ。マネーが稼げるならそれでいいんだよ。

ミワ　ブッチャーさんの話のように、いまMMAの世界でもファイトマネー次第で選手がどんどん移籍している状況なんですけど。それってやっぱり当然のことですかね？

ブッチャー　そうなったら忠誠心は関係ない。もしテレビ業界からユーに仕事の話が来たとしよう。マネーのいいほうと契約したいだろ？

ミワ　う〜〜ん……いまはお金がほしいですね（笑）。

GK　ダハハハハハ！　原稿を書くよりテレビ媒体のほうがギャラはいいので、僕もテレビの仕事は好きですね。

ブッチャー　それがビジネスだ（ニヤリ）。

GK　お金の話になるんですけど、日本でブッチャーさんのライバルだったタイガー・ジェット・シンは事業で成功して、凄い大金持ちだという話を聞いてるんですが。

ブッチャー　彼はビジネスマンだ。でも、いくらリッチで金持ちだって言ってても、税務署がホントのことは知ってるからね。

ミワ　ブッチャーさんもステーキ屋を経営されてるんですよね？

ブッチャー　ああ。4店舗やってるね。3つがアメリカにあって、一つは韓国にあるんだ。

GK　日本のプロレスファンもお店に行くみたいですね？

ブッチャー　イエス。日本人のファンもよく来るよ。

ミワ　日本ではやらないんですか？

ブッチャー　スポンサー次第さ（笑）。

ミワ　プロレスラーのほうが引退したあとに、ブッチャーさんみたいに事業を始める人もいらっしゃると思うんですけど。

ブッチャー　私はまだ引退してないよ（笑）。リタイアしてすぐに亡くなってしまう人、どこかに消えてしまう人の方が多いけどな。事業をやってる人間はほんのわずかさ。

GK　ブッチャーさんはもうずっと死ぬまでレスラーですか？

ブッチャー　たとえ一ヵ月に一回しか試合しなくても、私は引退しない。フィーリングや感動を忘れたくないからね。

ミワ　アメリカでも試合はやってるんですか？

ブッチャー　時々ね。

ミワ　いまもリングに上がり続けるのは、お金よりもむしろフィーリングや感動のほうが大事だからですか？

ブッチャー　まだ観客をクレイジーにさせる力はあるんだよ。まあ、フィーリングや感動も大事だけど、やっぱりマネーのほうが上さ（笑）。

ミワ　徹底してますね（笑）。最後に一つだけ聞きたいんですけど、リングでは悪い人はプライベートでも悪いんですか？

ブッチャー　知りたいか？　じゃあ、私とベッドをともにしたら教えてやろう（笑）。

ミワ　……先生、私どうしたらいいんですか？（笑）。

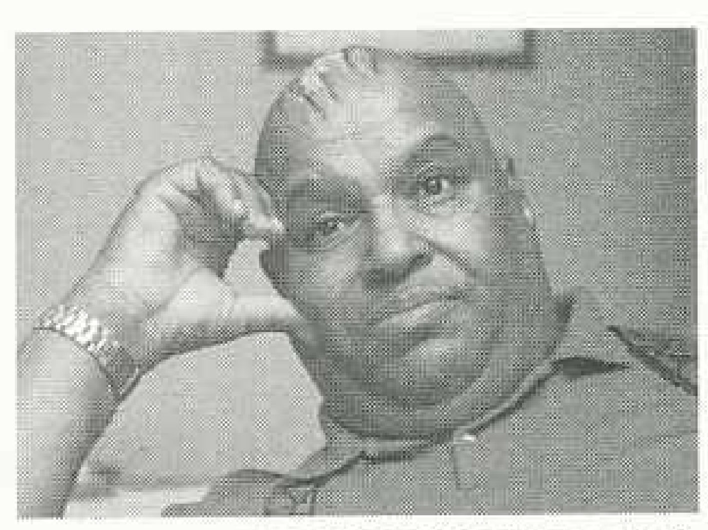
GK　放課後のことまで面倒見られないから、好きにしなさい。

ブッチャー　フフフ、ジョークさ（笑）。

【06年12月12日／赤坂プリンスホテルにて収録】



最後は噛みつき攻撃のレクチャー。相手の額をおもいっきり噛むべし！　噛むべし！　嬉しそうな金沢先生に対して、松下は恐怖のあまり完全に表情が凍りついている。


ABDULLAH THE BUTCHER■1941年1月11日、カナダ・ウィンザー出身。1970年に日本プロレスに初来日。以後、全日本プロレスや新日本プロレスなど世界中で大暴れ。凶器を使用した残忍なファイトを繰り広げる一方で、CMなどにも出演してお茶の間での知名度も抜群。得意技は地獄突き、毒針エルボードロップ。

［金沢先生 今月の通信簿］
もっとがんばりましょう

金沢先生コメント

本当に噂どおりだった。ブッチャーさんの答えは最終的に、すべて「マッニィー」（※マネーだけど、そう聞こえる）なのだ。師匠であり、ライバルでもあった故ザ・シークとの関係を聞いても、答えは「マッニィー」だ。でも、ブッチャーさんが求める「マッニィー」は物質的なものではなく対価なのだと思う。それがプライオリティではなく、彼のアイデンティティを象徴するものなのではないか？　凶器とか額の傷ではなく、本当のブッチャーさんにミワは気づいたのだろうか。じゃあ、もう少し頑張ってみようか（ホントに先生みたい！）。

松下ミワコメント

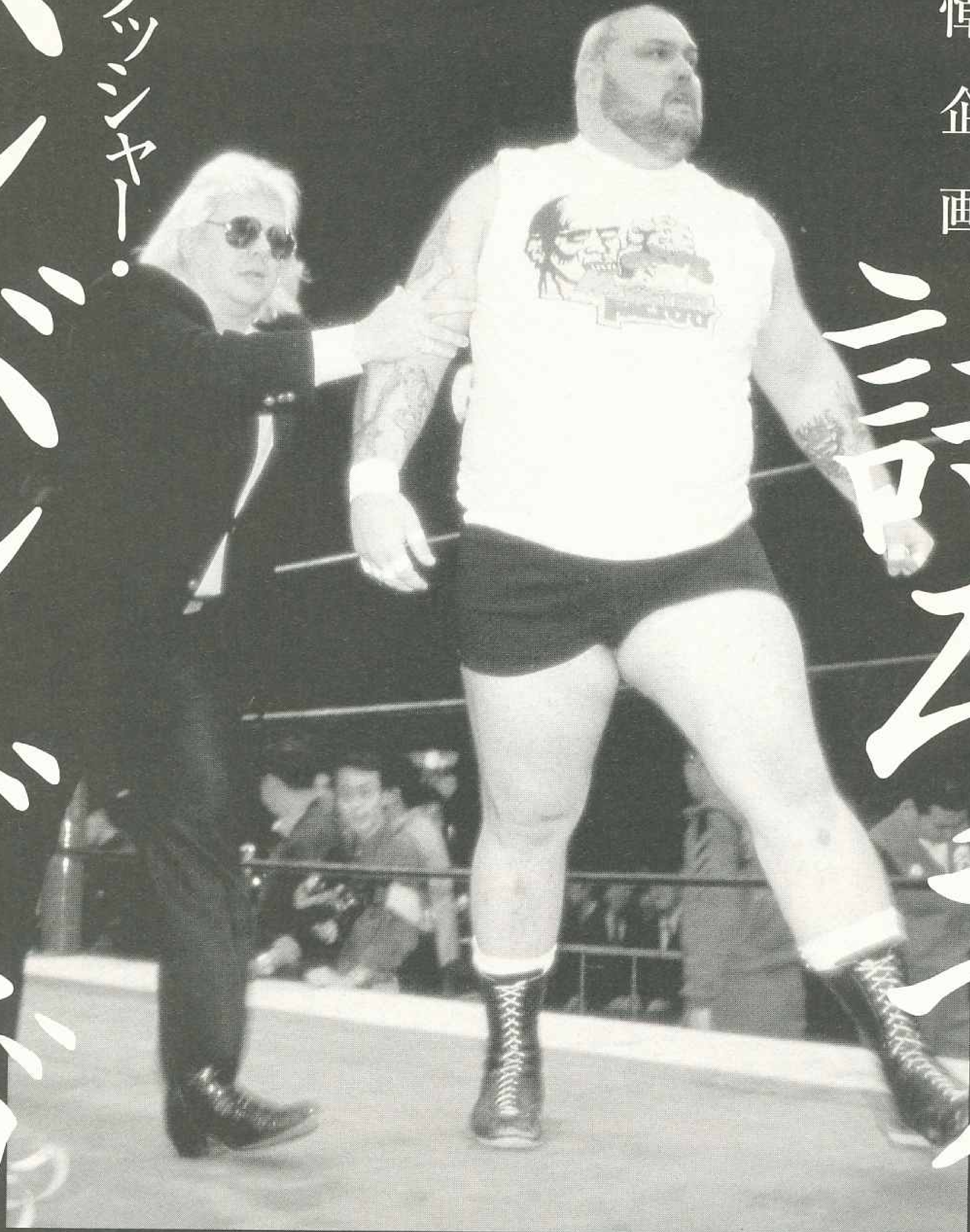
怖かった〜！　とにかく怖かった!!　ブッチャー先生に人差し指をヒクヒクさせながら「カモ〜ン（低音で）」と言われたときは、生きた心地ゼロ！　10円玉を取り出したときも、「きっとこの人はギザギザ頭に10円玉をこすりつけてわざと流血してみせる気だ！　そうに違いない!!」と勝手におびえてしまいました。いやあ、プロレスラーって本当に怖いんですね！……それにしても、ブッチャー先生にかじられてる私って〝リアルおびえ顔〟でかなり固まってますねぇ。次回からは、キラー永田さんみたいに白目剥いてでももっといい顔できるように修業したいと思います。

追悼企画

最後の〝まだ見ぬ強豪〟が天国へ――。

語ろう

クラッシャー・バンバン・ビガロ



“入れ墨獣”クラッシャー・バンバン・ビガロが今年1月19日、まだ45歳という若さで天国へと旅立ってしまった。幻想あふれる「モンスター・ファクトリー」から日本へ初登場して以来、90年代の新日本プロレスを代表する外国人レスラーとして誰からも愛されたビガロさん。『kamipro』では、そんなビガロさんを偲び、縁の深い人物を集め生前のビガロさんについてたっぷりと語ってもらいました！

司会／松澤チョロ
構成／山本宗忠（THE PEHLWANS）
試合写真／平工幸雄

――ここ数年、亡くなるプロレスラーが非常に多くて、毎月誰かしら亡くなっているんじゃないかと錯覚してしまうくらいなんですけど、残念ながらビガロさんも他界してしまいまして、今回こうして縁あるメンバーに集まっていただきました。

阿部タケシ（以下・阿部） 微妙なご縁ですけどね（笑）。

――（無視して）今日はビガロさんの在りし日の思い出を語っていただければと思うのですが、今回のメンバーには、ここ最近『FRIDAY』にレギュラーのごとく登場されているハチミツ二郎さんにもご登場いただきました（笑）。

ハチミツ二郎（以下、二郎） もはや連載ですからね（笑）。

――これは、最終的に『FRIDAY』襲撃へと派生していくわけですか？（笑）。

二郎 逆に「襲撃待ちしているのかな？」って思うんですよね（笑）。だって、俺クラスの芸人が3週連続登場っておかしくないですか？

――最初はトップ記事でしたしね（笑）。

二郎 ビガロがいたら連れて行くだけで威圧感あったのになって（笑）。

――たしか、最初に蒼井そらさんと撮られたときに着てたのが『BAMBAMBIGELOW』のRevolucionの長袖Tシャツでしたよね（笑）。

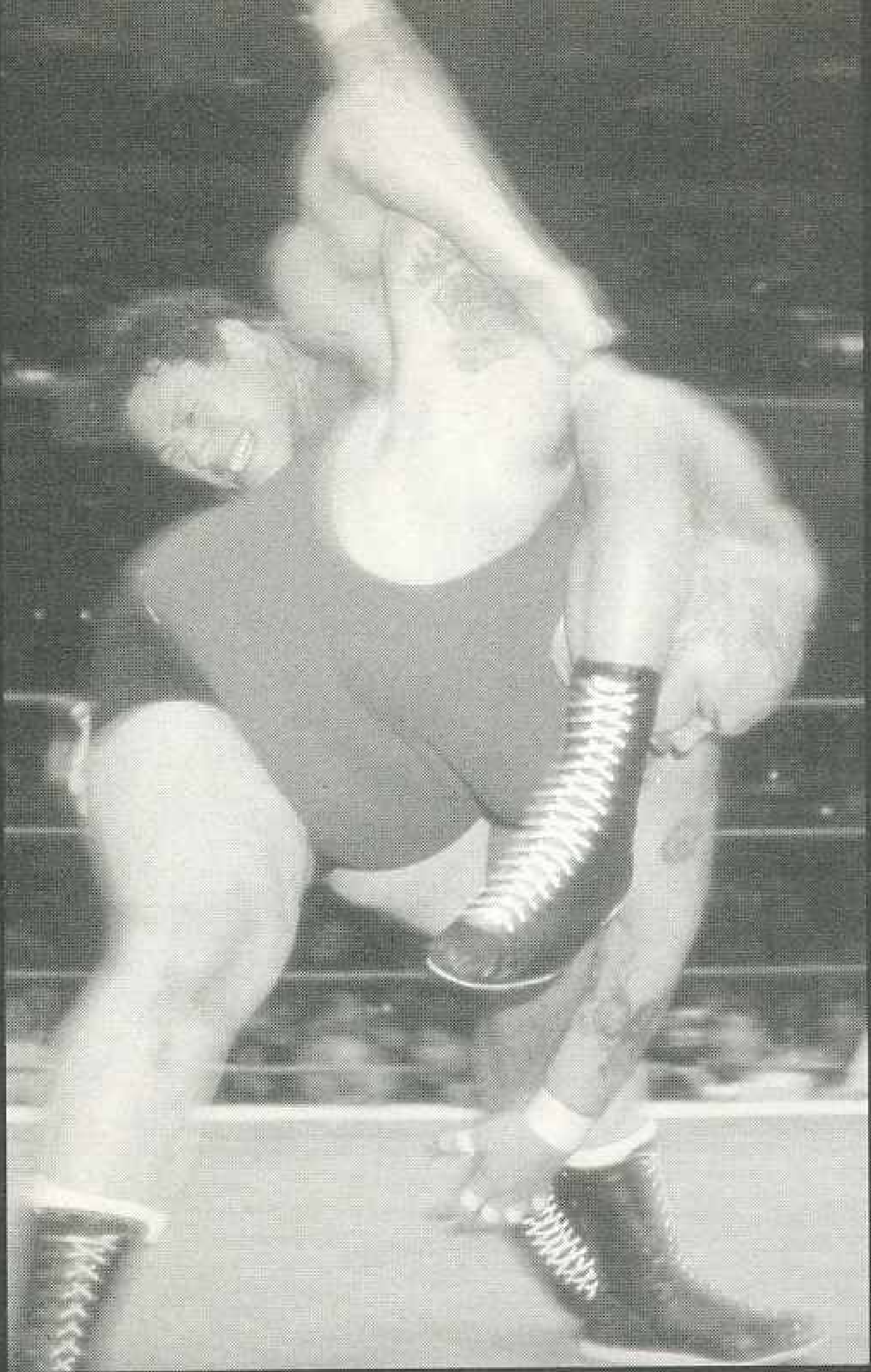
二郎 そうなんですよ。何かとビガロとは縁があるみたいで（笑）。そういえば昔、成田空港でヤクザがビガロを見てビビったっていう話もありましたよね。古舘（伊知郎）さんが言っていたからホントかどうかわかんないですけど（笑）。

GAMY ああ、そんな話もあったねぇ（笑）。

――二郎さんは西口プロレスで試合もしてますけど、やっぱり〝動けるデブ〟的なところでビガロはお手本になってたりするんじゃないですか？

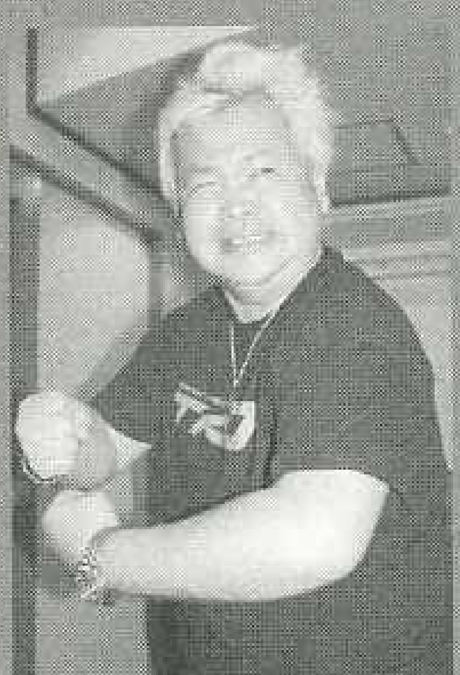
オレにとってビガロはお笑いのお手本そのものですから（二郎）

二郎　いや、オレにとってビガロはお笑いのお手本そのものですから（キッパリ）。
一同　アッハハハハ！
二郎　ビガロ的にMCと絡んでいかなければいけないとか。あとは、営業とかで、子どもやおばあちゃんを舞台に上げて何かをやらせるときに、みんな「子ども、おばあちゃんじゃダメだろう……」と思わせといて、こっちが負けるみたいな。
——なんとなくわかります（笑）。
二郎　たぶん、ビガロを見てなかったらもうちょっとヘタですよ。ビガロを見始めたときって、自分はまだあまり負けるほうのレスラーに注目してなかった頃で。ビガロvs北尾（光司・90年2月10日／東京ドーム）のときで中2ですからね。
阿部　じゃあ北尾派だったんですか？
二郎　いやいや、負けの美学を理解してなかっただけで。で、その試合でなんかちょっと〝カラクリ〟がわかり始めたんですよ（笑）。
阿部　あの試合で気づき始めちゃった（笑）。
二郎　「あのビガロが北尾のギロチンで負けるわけねえだろ？」って（笑）。
阿部　しかも飛ぶ方向を間違えたギロチンでしたからね（笑）。
二郎　ビガロを見てたか、見てなかったかで、だいぶ変わったと思いますね。（浅草）キッドの玉さん（玉袋筋太郎）がよく言うんですよ。「ビガロをできるかどうかだ！」って。その会話だけで何を意図したものか理解できたのも、ビガロを見てたからで。見てない人が聞いても、なんのことかわからないですからね。
GAMY　入場だけ見ても、手の動きとかジェスチャーとか、レスラーチックな動きで凄く魅せるんだよね。客の肩を組んで連れ回したりして、もうその客の顔が引きつってたし（笑）。ホント、プロとして行動が完成されてたよね。
二郎　それを20代でやっていると思うと凄いですよね。
GAMY　当時まだ25〜26歳だからね！
二郎　オリエンタルラジオとか見たほうがいいッスよ。
一同　アッハハハハ！
——で、GAMYさんはプロレスファンにもお馴染みのショップ『BAMBAM BIGELOW』のオーナーをされてるわけですけど、もちろんネーミングはビガロさんからなんですよね？
GAMY　そうだね。オレが東京に出てきて初めて行った大会が、1987年2月5日の両国国技館、猪木vsビガロ戦だったんですよ。ビガロが初来日のときで、ビガロ席が100席用意されててね。
阿部　ありましたね、ビガロ応援シート（笑）。
GAMY　『ワールドプロレスリング』でマネージャーのラリー・シャープとビガロが煽って、「視聴者に100名分のビガロ席を用意した！」って番組プレゼントをしたんだよね。その応援シートにはビガロの絵が描かれてる小旗ももらえたわけですよ。それがほしくてね！　そのときの印象が強いのと、あとそれまでの外国人と違って〝まだ見ぬ強豪〟の中ではモノ凄くブレイクしたレスラーなんだよね。新日の扱いも凄く良かったし。
阿部　そうですよね。最後の〝まだ見ぬ強豪〟って言ってもいいかもしれない。
GAMY　だいたい来日前に〝まだ見ぬ強豪〟っていっても、実際は中堅どころでやらされるのがオチで、あんなプッシュされた外国人はいなかったでしょ。
阿部　（ディック・）マードックや（アドリアン・）アドニスでも、あそこまではなかったですもんね。ホーガン以来の扱いの良さでしたね。
GAMY　その年の暮れにベイダーが来たけど、ベイダーは『世界のプロレス』（※ウォリアーズのブレイクのキッカケにもなったテレビ東京で放送されていた海外マット中心のプロレス番組）で普通に出ていたから、「ああ、『世界のプロレス』で観たヤツが来た」っていうのがあったけど、ビガロはまったく見たことなかったのに、初来日の初戦でいきなり猪木戦というモノ凄いポジションだったもんね。
二郎　そのあと、下関かどっかで前田日明にも勝っているし（87年4月10日）。
GAMY　また、あの前田を首固めで丸め込んでるっていうのがいいよね（笑）。
阿部　出身が「モンスター・ファクトリー」っていうのも完璧ですよね（笑）。
二郎　結局「モンスター・ファクトリー」出身で成功したのはビガロだけなんですけどね（笑）。もう二人くらい来たけど全然ダメだった。
——そのインパクトとお店を出すタイミングって同じくらいなんですか？
GAMY　いや、初来日が1987年でしょ？　お店を出したのは1996年だから。そういう「ドカーン!!」っていうインパクトを求めてというのもあったし、それと『レッスルマニア11』（95年4月2日）でのローレンス・テイラー戦のあと、ビガロがしばらく休んだんですよ。
——知らない人のために簡単に説明すると、当時のNFLのスーパースターのテイラーとビガロはメインで闘って、終始引き立て役に徹し、場内をおおいに盛り上げつつ、最後は、またしても3カウントを取らせてあげたというか（笑）。
GAMY　ホント、プロだよね。そのあとで、かなりギャラを稼いだっていうのもあったと思うんだけど「引退か!?」って報道もあって、「ビガロがいなくなるのはイヤだな……」と思って店名にしたんだよね。候補としてはワンマン・ギャングとかも挙がってたんだけど（笑）。
——ワンマン・ギャングもいいですけど、日本で最後に上がったのが谷津さんのSPWFなんで、ちょっと落ちますね（笑）。
二郎　そういう意味ではビガロは名前に



1987年1月の初来日時からメインでアントニオ猪木と対戦するなど、新日本からの期待も大きかったビガロ。初参戦の際にはビガロを育てたプロレスラー養成所「モンスター・ファクトリー」主宰者ラリー・シャープもマネージャーとして同行していたが、その活躍とは裏腹に徐々にフェードアウトしていった。

座談会出席者



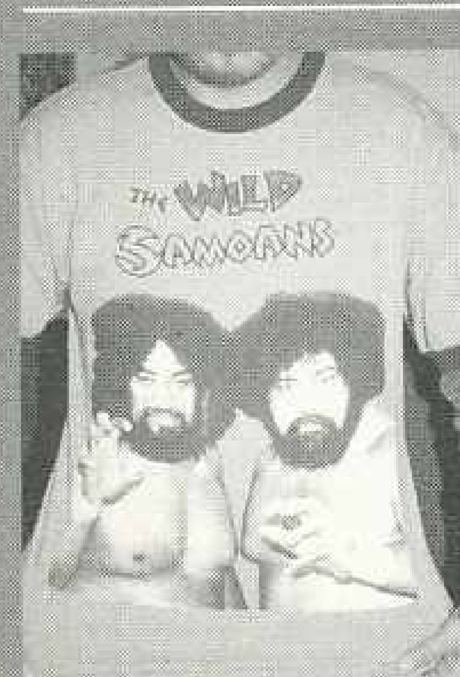
ハチミツ二郎

はちみつ・じろう■本名・高野二郎。オフィス北野所属のお笑い芸人。松田大輔とのコンビで大活躍中の東京ダイナマイトのツッコミ担当。先日、地上波進出を果たした西口プロレスではレスラーとしても活躍。先頃、『FRIDAY』で蒼井そらとの交際が発覚した、自称〝日本一モテる肥満体〟。猫ひろしの名付け親としても有名。



GAMY

ぎゃみー■かつてはアントニオ猪木やマサ斎藤、現在はキン肉マンのライセンスウェア等でおなじみ、東京・下北沢のThe Outsider Shop。オーナー兼マッチメイカーGAMY（ギャミー）の手による、ファッションセンスにあふれ、かつプロレス愛に満ちたデザインは業界内外で評価が高い。因みに旗揚げ10周年。http://www.bambam88.com/



阿部タケシ

あべ・たけし■フリーライター。WWE日本公演の時だけ忙しくなる〝季節労働者〟。『テリー・ファンク自伝』、『ストーンコールド自伝』、『エディ・ゲレロ自伝』（すべてエンターブレイン刊）などの日本語版における監修を担当。現在はWWEモバイルにて『阿部タケシのグレート・カッシカン・バッシュ』をひっそりと連載中。

当時〝未知の強豪〟の中で抜きん出ていたのがビガロだった（阿部）

インパクトありましたよね。〝クラッシャー〟で〝バンバン〟で〝ビガロ〟だし（笑）。そしてあのビジュアル。

阿部 「♪バ～ン、バァ～ン・ビィガロ～」っていうテーマ曲も抜群だったし（笑）。あと、名前がシリーズ名になったのってビガロが初めてじゃないですかね。

GAMY 「ブレイジング・チェリーブロッサム・ビガロ」ね（笑）。

二郎 自分は小5の頃だったんですが、そのときはまだゴールデンだったんで、すぐに学校で話題になりましたからね。頭に入れ墨で。あの入れ墨は18歳くらいで入れたんですよね？ フミ（・サイトー）さんの本に書いてあったと思うんですけど。

阿部 バイクがモノ凄く好きで、バイク仲間はみんな全身タトゥーなんだけど、そのときはまだビガロは彫ってなかったんですよ。で、プロレスラーを志したときにインパクトをつけようと彫ったみたいですね。

二郎 たしかインタビューで「誰を見てプロレスラーになろうと思った？」って質問に対して、「キングコング・バンディだ」って答えてましたからね。

GAMY いいセンスしてるよね（笑）。

——皆さんは急死した一報をどのように知ったんですか？

二郎 オレはGAMYさんから聞いたんですよ。

GAMY そう。オレはお店のほうに「死んだって本当ですか？」ってファンから電話があったのが最初（笑）。

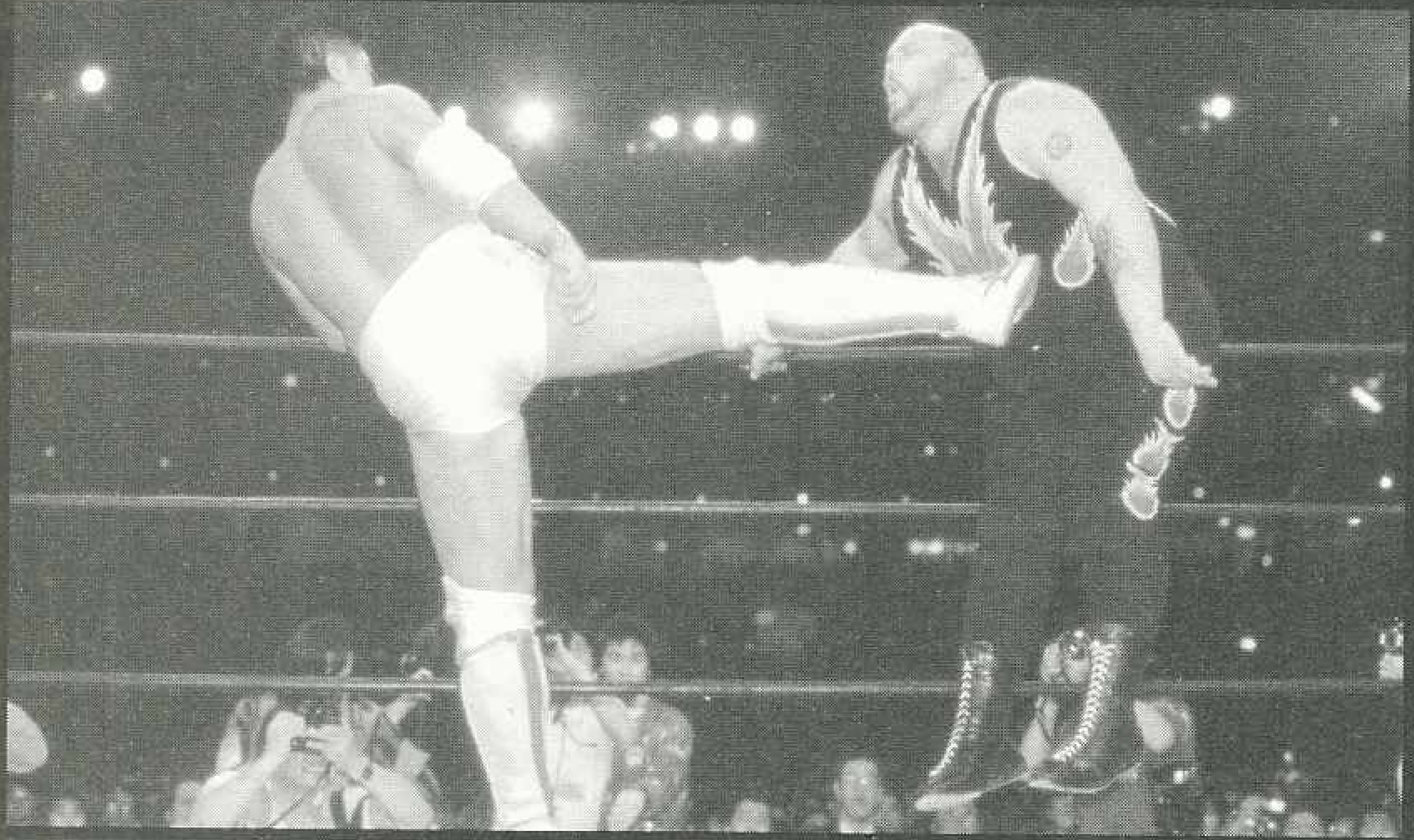
阿部 そのファンは「『BIGELOW』なら知ってるだろう」と思って電話したんでしょうね（笑）。

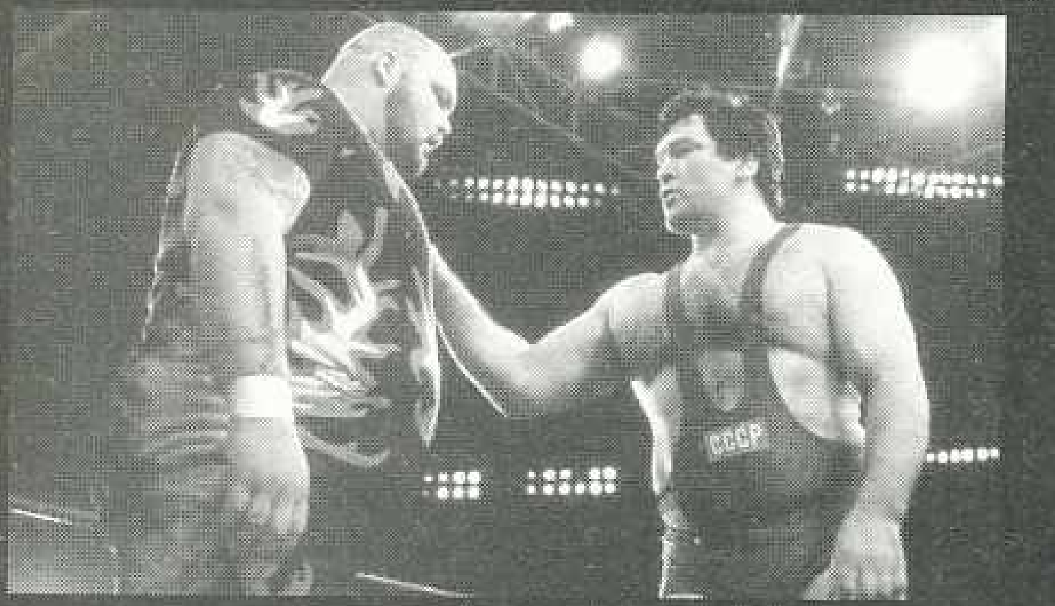
GAMY で、その電話を受けたスタッフがオレに電話してきて「死んだんですか？」って言うから、「知らない！ 検索してみよう！」って調べたら、WWE公式サイトの記事が引っかかったと……。次の日にサイモンさん（新日本プロレス社長）から電話があったんですよ、「落ち込んでないですか？」って。「昨日、いい時代の新日のビデオをたくさん見ましたから、あの時代を取り戻してくださいい！ それが供養になりますよ!!」って言ったんです。ちょうどパソコンで調べている頃に阿部さんからもメールが来て。

二郎 阿部さんは外国人のレスラーが死ぬと一番早くメールが来るんですよ（笑）。エディ（・ゲレロ）のときもそうでしたね。

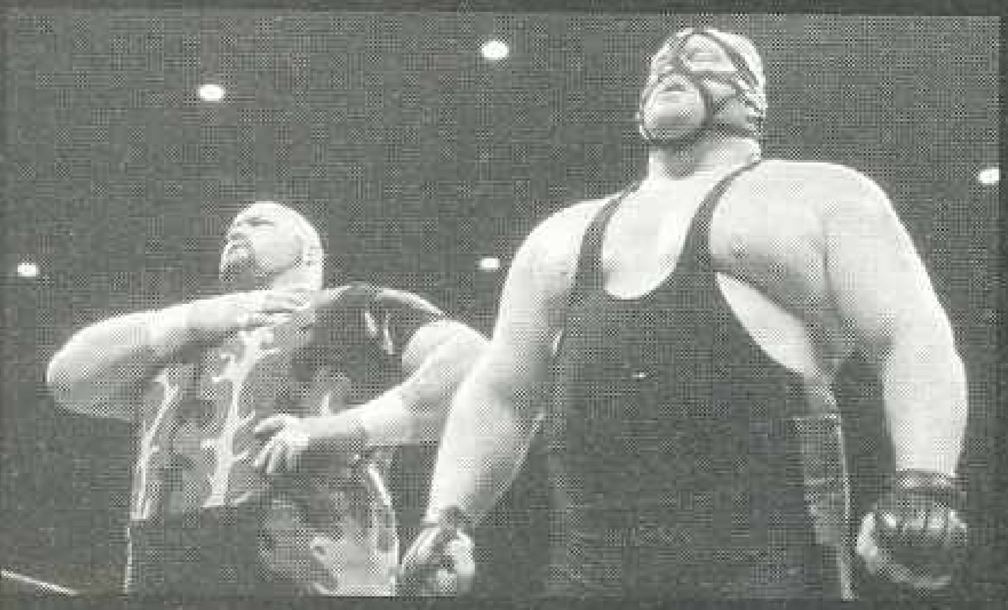
阿部 向こうに住んでいる日本人の友だちがいろいろ教えてくれるんです。今回もその友だちからメールがあって、そのときはまだWWEのサイトを見ても載ってなかったんですよ。それに、こないだレザー・フェイスの件もあったばっかりだったんで「ウソでしょ？」って感じだったんだけど、そのうちに海外のサイトでドンドン出てきて「……やっぱり本当なのかなぁ？」って。

——最後にビガロが報じられたのって、弁当のデリバリー屋さんの経営みたいなことをやっているって記事ですよね。その前はバイクで女性を同乗していて、事故を起こして女性に大ケガさせてしまったというのも『東スポ』にデカデカと報じられましたけど。





ビガロと言えば、東京ドームでのサルマン・ハシミコフ＆北尾光司のデビュー戦、そして『レッスルマニア』でのNFLのスーパースター、ローレンス・テイラーのデビュー戦の相手を務めたことがあまりにも有名。結果的に3試合とも敗れてはいるものの、相手の良さを十二分に引き出しキッチリと場内を沸かせてみせるビガロは職人として日本マットのみならず世界中の団体から重宝された。ベイダーとのVB砲はハンセン＆ブロディの超獣コンビ亡きあとの最強外国人タッグとして一世を風靡した。



二郎 もっと前に、火事になった近所の家から子ども二人を救出したという話もありましたよね。

GAMY あった、あった！ 全身ヤケドになっちゃったというヤツね。

阿部 破壊王みたいですよね（笑）。

二郎 燃えさかる家から子ども二人を抱えて出てきたっていうのは、ビガロ・ファンタジーの最終回みたいな話ですよね。ディズニー映画にできそうですもん。モンスターが最後、火事の中に飛び込んで子どもを助けるという。

——いろんな意味で幻想があったレスラーですよね。

阿部 ビガロの全盛期の頃って、ずっと個性的な外国人レスラーがいなかったんですよね。新日で言うと、WWFとの提携も終わってちょっとした冬の時代があったときで抜きん出る外国人がいなかった。で、UWFが出てきて日本人対決っていうのが凄くクローズアップされて、外国人レスラー不要論みたいなのも出てきた頃だったんですけど、そんなときに出てきたビガロはとてもインパクトがありましたよね。

GAMY ビガロがきっかけだったんだよね。そのきっかけを機にベイダーが来て、WCWと提携して、新日がいい方向にドンドン回っていった。外国人レスラーの流れだけじゃなくて、新日の流れも含めて、いいきっかけを作ったと思うんだよね。

阿部 当時はメディアが全然普及していなかったから、来る外国人みんな〝未知の強豪〟だったんですよね。その中でも抜きん出ていたのがビガロだった。

GAMY 当時は情報源が『世界のプロレス』しかなかったからね（笑）。そこに出てると「あ、知ってる！」みたいな。

二郎 『世界のプロレス』を見てれば、ミッシング・リンクも見られましたからね。でも、ビガロは出てなかったですよね。

GAMY クラッシャー・ユーコフ名義では何度か出てるんだけどね。とにかく、新日の87～92年くらいまでの凄く濃くて勢いのあった5年間で、VB砲（ベイダー＆ビガロ組）が最強外国人だったのが印象深いよね。だから、新日本での5年とWARでちょこっと、あとFMWにしか来ていないわりには、モノ凄く日本にいたような感じがするんだよね。記憶に残るレスラーというか。その時代はベイダーもいてスタイナーズもいて（スコット・）ノートンもちょうど出てきて、ホーク（・ウォリアー）も来て、三銃士がちょうど伸びてきた時期。新日が最高のときだったから、とくに印象深い。名バイプレイヤーであり外国人エースだったわけだからね。

阿部 ハンセン＆ブロディが外国人最強コンビって言われていますけど、ブロディが亡くなって、VB砲はそれに代わる最強コンビでしたからね。

GAMY IWGPタッグの武藤＆馳戦（92年3月1日／横浜アリーナ）！ あれ、最高だったなぁ。

二郎 あと、（東京ベイ）NK（ホール）2連戦でやたら北尾をイジメている試合もありましたよね（笑）。

阿部 マサさんが北尾と全然タッチして

最後の〝まだ見ぬ強豪〟が天国へ――。

追悼企画 語ろう バンバン・ビガロ



頭に入れ墨、炎の全身タイツという個性的なルックスで側転やムーンサルトといったムーブも難なくこなしたビガロは〝動けるデブ〟として関係者からも高い評価を受けていた。

あげないというね（笑）。

GAMY まず最初にVB砲vs長州&北尾戦（90年4月27日）があって、2戦目がマサさん&橋本&北尾vsベイダー&ビガロ&ウイリアムス戦（90年5月24日）。ベイダーが北尾を場外へ放り投げるんだけど、北尾の受け身が危なっかしくてね。ベリーロール式で（笑）。

阿部 あの試合はおもしろかったなぁ。公開処刑でしたからね。

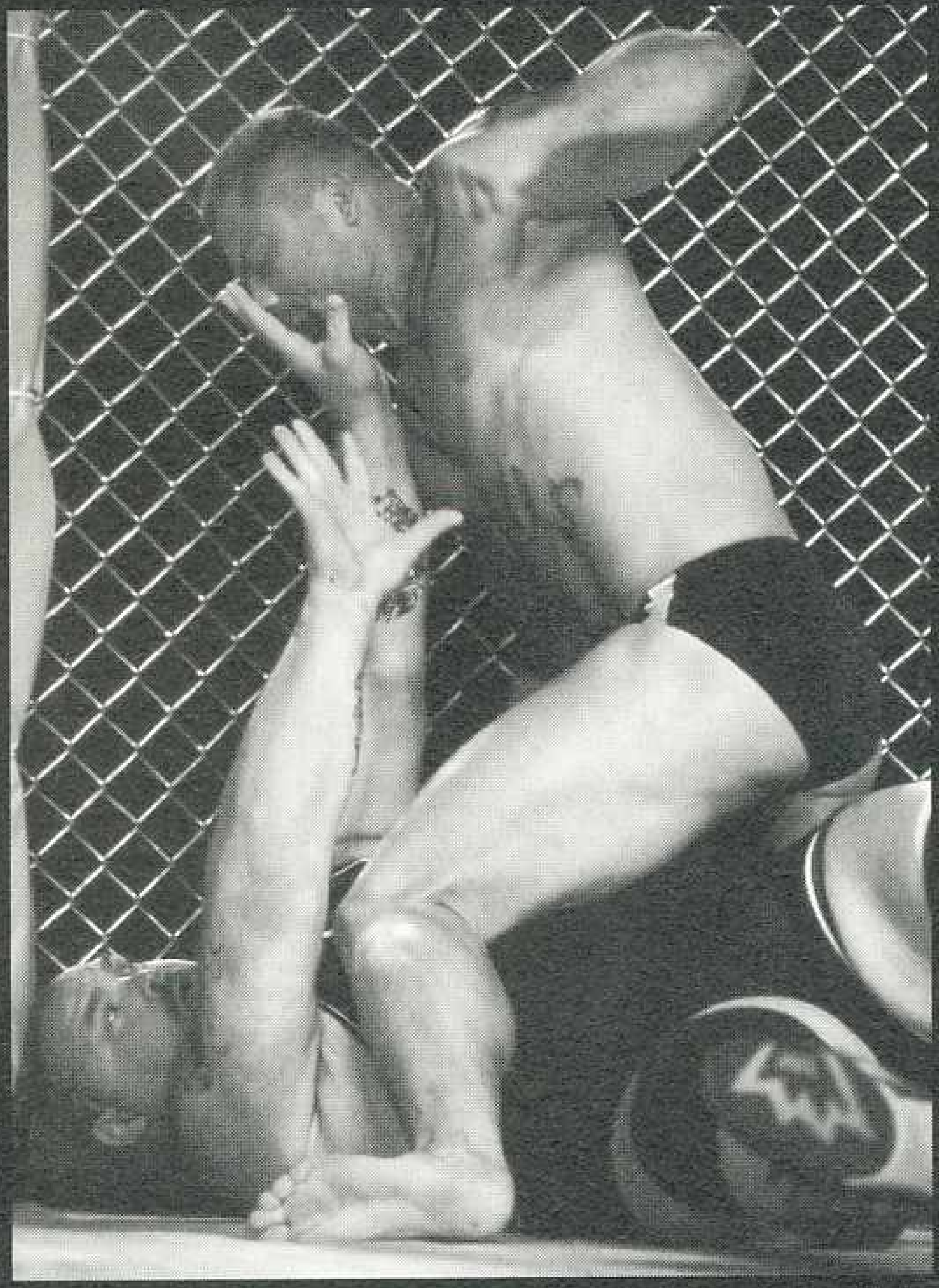
――本当に言っていたのかは定かではありませんが、「オレはほうきが相手でも闘えるんだ」っていう猪木さんばりの発言もありましたね。

阿部 それは北尾光司のデビュー戦で実証されましたよね（笑）。

二郎 ホント、（サルマン・）ハシミコフ戦（89年4月24日／東京ドーム）、北尾戦、テイラー戦、全部お客さんを沸かせていますからね。テイラー戦のときの最後のダイビング・ラリアットなんて、凄い説得力を持たせましたからね

阿部 ハシミコフ戦も良かったですよね。

GAMY ロックを二重にする水車落としね。テレビで（ビクトル・）ザンギエフを背負ってスクワットやってて、「スゲェ～！ 人間離れしているヤツがいる!!」って驚いた（笑）。



96年11月に開催された「U−JAPAN」でのキモ戦で総合格闘技戦にも挑戦しているビガロ。当時はまだプロレスラーの総合挑戦は少なく、バックボーンはなくてもデカいレスラーならいけるんじゃないかという幻想もあったが、ビガロはキモのマウントパンチであっさりタップを喫してしまった。

阿部 「でも、ビガロは絶対に負けるわけがない！」って思ってたんだけど、あっさり負けちゃって（笑）。

GAMY その頃から、北尾戦も含めて、ビガロ人気が凄くて、完全に新日の思惑を上回ってたよね。北尾なんて大ブーイングだったもんね。

二郎 あのときのドームは凄い「ビガロ」コールでしたよね（笑）。オレん中では、Uインターとの対抗戦のときを抜いたら、2・10がベスト・ドーム興行ですよ。

阿部 初めての「1、2、3、ダーッ!!」もあったし。

GAMY 昭和から平成のプロレスに変わる時期にちょうど来て、うまく順応したレスラーだったよね。

二郎 よく飛んでたビガロだけに昭和も平成も関係なかったんでしょうね。でも、昭和的な要素もあって、平成的なエンターテインメントもしっかりあって。

――総合も経験しちゃったし。ビガロは『U−JAPAN』というバーリ・トゥードの大会にも出場しているんですよね。「あれは余計だった」って言う人もいれば、逆に「いいお金を稼いでビガロらしい」って言う人もいますけど。

阿部 相手はキモでしたよね。

GAM いま考えたら「絶対に負ける」ってわかるけど、その当時はまだ幻想がちょっとあったから、「勝つんじゃねぇかなぁ～？」って思ってたね（笑）。

とにかくねぇ、ビガロは闘った相手みんなを光らせたよ！（GAMY）

二郎 その『U−JAPAN』の前に桜庭（和志）が道場でビガロとスパーリングをやったらしいんですけど、桜庭が20連勝くらいして話にならなかったそうですよ。桜庭はけっこう遊ばせてそれだったって聞いて、ちょっとショックでしたね。

阿部&GAMY そうなんだぁ……（しょんぼりと）。

二郎 でも、あのとき、もしビガロが出てなかったから、その後あんまりプロレスラーは総合に出ていかなかったと思うんですよ。なんの格闘技のバックボーンもなくて行っちゃうっていうのは、やっぱり陽気なんでしょうね（笑）。

阿部 キモもわりとプロレスラーチックじゃないですか。だからどこかイージーなイメージもあったんじゃないですかね。

二郎 ホーガンが殿堂入りしたときに「レスラーはマイレージを稼ぐんじゃなくて、金を稼ぐもんだ」って言っていたのを聞いて、ビガロはプロに徹していたのかなぁって思うんですよ。

二郎 「本当のプロレスラーは1ドルでも多く稼ぐこと」ってビガロが考えて出たんだったら、オレは『U−JAPAN』出場は〝あり〟だったと思いますよ。でも、新日には新日のリングでキモに勝たせるくらいのことをやってあげてほしかったですね。キモも新日に上がっていたわけですから。

阿部 ……でも、もうちょっと亡くなったことに対して、〝熱〟があってもよかったんじゃないかなぁって思いますねぇ。

GAMY いつもそうなんだよな、なんかサラ～と過ぎちゃってさ……。

阿部 それが、ちょっと悲しかったですよね。

――レスラーが死ぬのがあたりまえになってきちゃってますよね……。

二郎 やっぱりジン・キニスキーくらいまでは生きてほしいですよねぇ。

阿部 WWEでもオープニングにちょっと流れただけで、少し寂しかったですね。エディ（・ゲレロ）が亡くなったときは2時間エディの追悼特集でしたからね……。今日、ここに来る前にアメリカのニュースサイトでビガロの葬式の模様がアップされていたんですけど、凄くひっそりとしてやってましたよ……（※この座談会から数日後、ビンス・マクマホンがお金を出してビガロの葬儀をやることが判明。さすがビンス！）。

二郎 奥さんってまだいるんですかね？

GAMY 一人で死んでいたってことを考えるといなさそうだよねぇ……。

阿部 しかも、バイク事故で同乗した人は奥さんではないですからね。……追悼興行とかやってほしいですよね。

二郎 やっぱり新日がやらないとダメですよね。棚橋（弘至）とか見ていると、ビガロみたいな外国人レスラーがいるともっと光るのになぁって。（ジャイアント・）バーナードもいいんですけど。

GAMY とにかくねぇ……ビガロは光らせたよ。みんなを光らせた！

阿部 あんなに日本のプロレスファンに愛された外国人レスラーってビガロ以降あまり出てきてないですからね。今後、ああいう外国人が出てくることを望みますね。

二郎 それはやっぱり新日からですよね。

GAM サイモン社長にも言ったけど、それが一番ビガロの供養になる！

――ビガロさんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。

【07年2月2日／都内・高円寺『居酒屋ごっち』にて収録】

イン　サイド　コリア

인 사이드 코리아

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第12回

日本はすでに格闘後進国!?

韓国で燃え上がるPRIDE人気!!

文／大川“隊長”義之　写真／e_ji

■韓国における格闘技熱の「今」

２００６年の大晦日——『ＰＲＩＤＥ』はフジテレビに契約を打ち切られたことによって地上波放送を失ない、大晦日の視聴率競争に参入することができなかった。

また近年、アメリカでＵＦＣが大成功を収めた結果、『ＰＲＩＤＥ』のエースの一人、ミルコ・クロコップが引き抜かれるなど、『ＰＲＩＤＥ』は経営面でも厳しい状況に立たされている。しかし、韓国における『ＰＲＩＤＥ』の状況は、日本とは違った様相を呈している。

今回は日本ではあまり知られていない韓国における『ＰＲＩＤＥ』人気の「今」について紹介したい。

■韓国では大晦日の視聴率戦争は続行中！　そして勝者は『PRIDE』

昨年のフジテレビの『ＰＲＩＤＥ』中継契約解除という大事件は、韓国での『ＰＲＩＤＥ』人気にはなんの悪影響も与えなかった。

というのも、韓国での『ＰＲＩＤＥ』中継は、ＳｋｙＰｅｒｆｅｃＴＶの映像コンテンツを利用した生中継で行なわれているため、もともとフジテレビとはなんの関係もなかったのである（ちなみに日本の『ＰＲＩＤＥ』放送では重要な役割を果たす試合前の煽り映像も、生放送では字幕スーパーがつけられないため、韓国では放送されていない）。

つまり、日本で地上波放送がなくなっても、韓国では依然として無料で全試合の生中継が観られるという状況になんの変化もなかったというわけである。そればかりか日本では危機感や焦燥感が感じられる『ＰＲＩＤＥ』も、韓国ではむしろ景気のよい話ばかりが湧き上がっている。その具体例を挙げてみよう。

韓国での２００６年の大晦日の平均視聴率は『ＰＲＩＤＥ』が２・５８９パーセント（シェア率12パーセント）、『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』が２・０１１パーセント（シェア率９・５９パーセント）という高数値を記録して、韓国では今年も『ＰＲＩＤＥ』が大晦日の視聴率戦争に圧勝している。

この二つの格闘技コンテンツが大晦日の視聴率の一位と二位であった。日本と視聴率の集計方式が違っているのでピンとこないかもしれないが、いまや韓国における格闘技コンテンツは、リピート放送ですら軽くＡ級映画の視聴率をも凌ぐコンテンツに成長しており、すべてのスポーツチャンネルが大枚をはたいてでも手に入れたい『高視聴率の保証された約束手形』なのである。

実際に、韓国で『ＰＲＩＤＥ』の放送をしていたＸＴＭとの契約が切れた今年度初め、各メディアによる激しい放映権獲得競争が繰り広げられた結果、ＯＣＮが５年で約１１８億ウォン（約15億円）という破格の金額で契約した。このことからも『ＰＲＩＤＥ』の商品価値が韓国において非常に高いことがわかる。

韓国で格闘技コンテンツがこれほどまでに大きな人気を得ている理由は、現在の格闘技コンテンツの人気がまだ頂点に達していないという点にある。それは大晦日に放送された『ＰＲＩＤＥ男祭り２００６』の平均視聴率が、一昨年の『男祭り』よりも２パーセントも高くなっていることや、これまで視聴率の低かった女性層も『ＰＲＩＤＥ』への関心を強めていることからもうかがうことができる。女性のみを対象にした視聴率の調査結果によると、最近若い女性のあいだでも格闘技人気が急激に高まっており、『ＰＲＩＤＥ男祭り２００６』の視聴率が、同じ時間帯の地上波ドラマの視聴率を上回ったという。

一方でＫ−１の放映権も契約終了の時期が近づいており、この放映権獲得を目指してさまざまなスポーツチャンネルが熾烈な争奪戦を展開している。このほかにも韓国



編集長のオキニだった“宮本武蔵”ことローマン・ゼンツォフも韓国でファイト!!

ではプロレス団体であるWWEや、アメリカのUFC、韓国の格闘技団体であるSPIRIT MCなどもここ数年で着実に視聴率を上げており、韓国における格闘技コンテンツの評価は高まるばかりである。

■韓国で高まるヒョードル人気

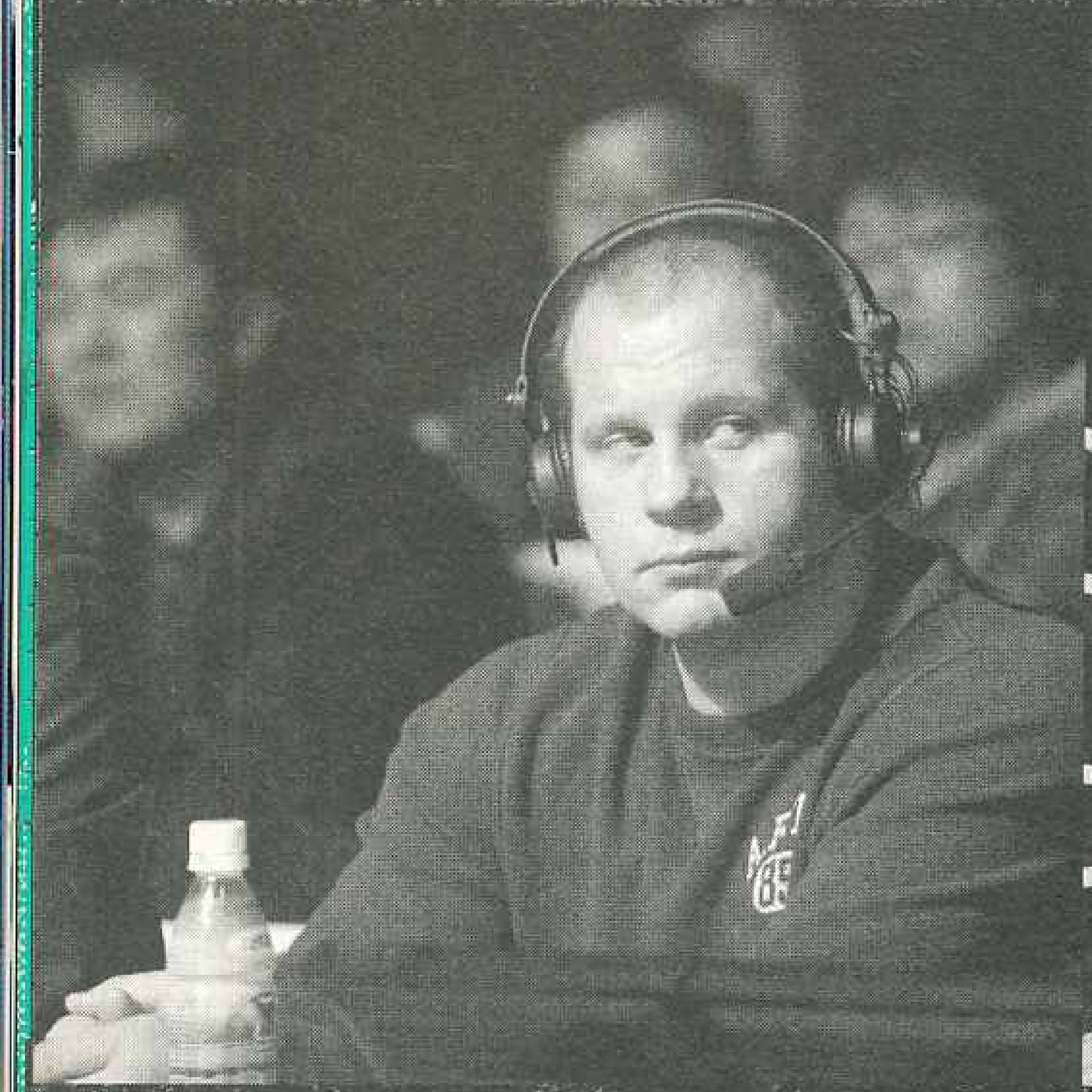
昨年の大晦日に韓国で『Dynamite!!』と『PRIDE』が生放送されたことは前述したとおりだが、これらの放送の中で瞬間最高視聴率を記録したのが、エメリヤーエンコ・ヒョードルvsマーク・ハントの試合（6・287パーセント）だった。これは韓国での『PRIDE』放送史上、最高記録をさらに塗り替えた数字だという。『Dynamite!!』には秋山成勲、チェ・ホンマン、ランディ・キム、キム・ドンウック、金泰泳らの韓国系の選手が多数参戦していたにもかかわらず、彼らを抑えてヒョードルの試合が最高視聴率を記録したというのは、非常に興味深い事実である。

日本でももちろんヒョードルの人気は高いが、それはあくまでも格闘技好きかスポーツ好きの人たちの認識であって、一般的にはまだまだ魔裟斗やKIDの知名度には及ばない。ところが韓国におけるヒョードル人気は凄まじいものがあって、ヒョードルが『PRIDE』で試合をするたびに韓国のインターネットの検索語件数がとんでもない具合で跳ね上がるのだ。

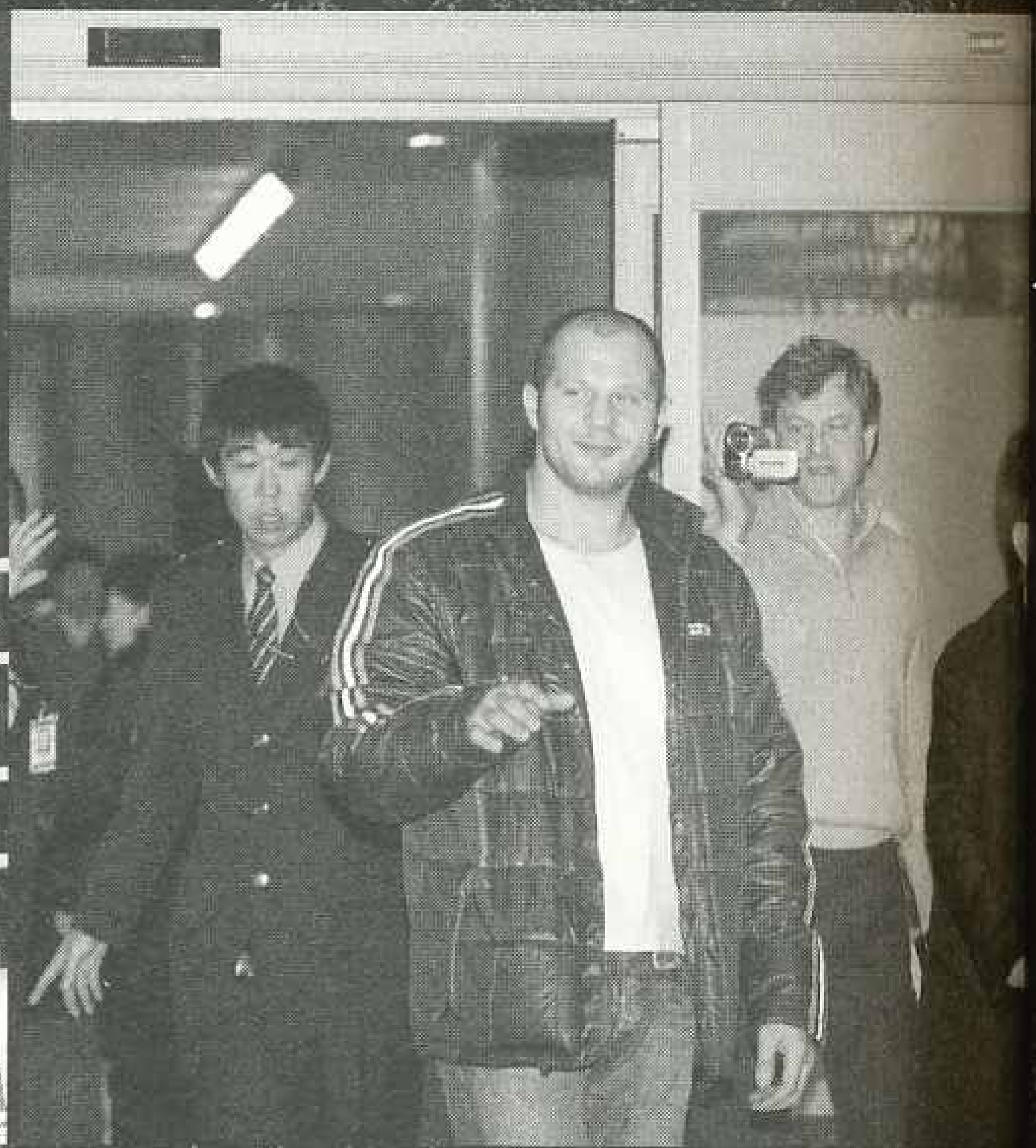
この検索語件数というものは、韓国では著名人の勲章とされるもので、いわばいまの旬の人物や情報を知るうえで重要なキーワードであることを意味している。

例を挙げれば、ヒョードルがミルコと世紀の対決をしたとき、ヒョードルとミルコ関連のキーワードが検索語ランキングベスト10のうち5つを占め、対マーク・コールマン戦、ハーク・ハント戦時にも10位中、4つが彼らの試合関連の検索語であった。試合ごとに知名度を上げていった結果、2006年度の検索語ランキングでヒョードルは18位にランクインした。上位20位の中で半数以上は韓国人だが、ヒョードルよりも上の位置にランクインした外国人スポーツ選手はマリア・シャラポワ（2位）、デビッド・ベッカム（12位）、ジネディーヌ・ジダン（15位）のみであり、格闘技部門ではチェ・ホンマン（4位）に次ぐ数字だった。この数字を見ても韓国でのヒョードル人気が格闘技畑を越えたものであることがわかるだろう。

韓国06年度の検索語ランキングで ヒョードルは18位にランクイン







"60億分の1"のブランドは各国共通なのか？　韓国で大人気のヒョードル。訪韓しただけでニュース番組が取り上げ、20～30代の男子で皇帝を知らない人間はいないとまで言われている。

韓国でヒョードルの人気が高い理由は、彼がたびたび韓国を訪問していることとも関係がある。ヒョードルはこれまでに格闘技関連のイベント参加やゲーム産業とのスポンサー契約、テレビ番組への出演などの名目で韓国を3度訪れているが、そのたびに国賓級の歓待を受け、どこへ行くにも大きな注目を浴びた。

韓国滞在中はニュース番組やスポーツ番組への出演はもちろん、人気の娯楽番組への出演に障害者施設への慰問、ファン・サービスのイベントなど、まさに分刻みでスケジュールが組まれるほど多忙さを極める。

そんなヒョードル人気に市場価値があると判断したのか、今年の1月20日にはヒョードルが所属するレッドデビルと大韓サンボ協会の共同主催によるMFC KOREA大会が開催された。

大会はレッドデビル所属選手vs韓国選抜チームによる11対11（女子の一試合を含む）の対抗戦の形式で行なわれたが（ヒョードルはサンボのエキシビションで登場）、韓国では無名の選手が多いという理由で、なんと大会は入場無料で行なわれ、多くのファンが詰めかけた。

入場無料でヒョードルや『PRIDE』出場歴のあるローマン・ゼンツォフ、アマール・スロエフ、キム・ジンオーらのガチンコファイトを観ることができる韓国人は、ある意味日本人よりも幸せかもしれない。入場無料の羽振りのよさもそうだが、MBC ESPNでこの大会が生中継されていたこと、そしてすでに次回大会の開催も決定している様子からすると、相当しっかりしたスポンサーがついていると見ていいだろう。まさにヒョードルさまさまである。

これまで韓国での『PRIDE』人気の高さが日本に報道されても、『PRIDE』が韓国に進出するという具体的な話は出てこなかったが、ヒョードルら中心選手の知名度の上昇、デニス・カーン、ユン・ドンシク、イ・テヒョンらのように韓国スポーツ界のビッグネームらが参戦していることを鑑みれば、韓国で『PRIDE』が開催できる条件は整いつつあると言える。

新 卓球少女(仮)松下ミワのハガキ愛ランド



だって、それは久子おばさんのせいだろ～（口を尖らせて）。というわけで、もうすぐ卒業の季節ですね。しかし、卒業式の日だって理不尽に出前を頼まれたりすることもあると思います。そういうときはえなりのように「なんで久子がいないんだよぉ」と言って全部久子のせいにすると気持ちがスッキリ爽快ですよ！　さあ、それでは今月も始めましょう～。3、2、1、店長、店長、う～、困り顔!!（聖子はニッコリ）。

kamipro107号へのお便り紹介

今号は榊原DSE代表の「PRIDE10年目の逆襲」インタビューが一番よかったように思う。いろいろ不安だったが、2007年の『PRIDE』がますます楽しみになってきた。
【三重県・田添章吾さん・会社員・23歳】

⬇どうなるかわかりませんが、見守りましょう。

佐藤大輔の〝俺だけの〟なんでもランキングがよかった。こういうマニア泣かせの企画を待っていた！
【石川県・浅井清治さん・会社員・34歳】

⬇投稿していただいたそばから、今回も佐山聡さんチョイスのかなり〝マニア〟向けな企画になっているようですが、皆さん、ぜひ怖がらずにチェックしてみてください～。

藤波夫妻のインタビューが最高でした！　はつらつとした妻、一歩引きつつ見守る夫と思いきや、娘の恋バナになると突如〝ダーク・ドラゴン〟出現！「もう電話すんな！」といってガチャ切りし、彼氏を潰す様はまさしく「DDT（ダーク・ドラゴン・タツミ）」！　あと、いまでも娘と一緒に風呂に入ってる様子をちょっぴり想像しちゃいました。
【宮城県・毒柴さん・スーダラ社員・35歳】

⬇ドラゴンは自分が電話魔だったにも関わらず、お嬢さんへの電話は許さないというのは非常に問題があると思うのですが、父親ってそういうものなんでしょうか？　というのはさておき、やっぱりドラゴン邸サイコー！

突然ですが、I編集長とボクのエピソードを語りたいと思います。15年ほど前、リングス大阪大会を観戦しにいったときの話ですが、せっかく大阪に来たのでI編集長と会いたいと思い、突然だったのですが『週刊ファイト』編集部に電話をしてしまいました。すると、I編集長に会うことは難しいというお返事だったのですが、「手短かに」と前置きされた上でお話させてもらえることになりました。そのとき質問したのは、ミスター高橋さんの疑惑のレフェリングについてで、「ミスター高橋は、最近タイガー服部さんにメインを奪われているから、ひがんであういうおかしなレフェリングをしているのですか？」という内容だったのですが、I編集長は「高橋はそんな男じゃないですよ。誠実な良い人ですよ」と答えてくれました。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・41歳】

⬇佐々木さんのようにI編集長マニアの方は、ぜひ2月23日発売予定のI編集長追悼本『殺し』を読んでください。いまだ知られざるマル秘エピソード満載です!!

NOSAWA論外、彼の流浪の人生がおもしろかった。「そんなにプロレスは好きじゃなかった」って書いてあったけど、PWC以前に彼はしょっちゅう『週刊プロレス』のレスラーと撮影した写真が載っていたぞ、本名で。前からプロレスに興味あったんじゃん！
【三重県・バイタミンさん・会社員・33歳】

⬇ちなみに『週刊ファイト』に写真を投稿していた事実は、左ページのS波氏による「衝撃ショット」の投稿で証明済みですね。ちなみに、以前バイタミンさんのハガキのメッセージを本名で掲載してしまったようで、大変失礼しました～。あれはたしか、105号の『いままでに出会ったマット界の人々』への投稿だったと思うんですけど……。

いままで格闘技にまったく興味がなかった母が今回の青木選手の写真や記事を見て「かわいい、かわいい」とずっと言ってます。さらにボクが保存している過去の『kamipro』の青木選手の記事を昨日もすみからすみまで読んでいました。あのハマりようは少し異常にも思えるんですが、でも最近、親子での会話が少なかったので、共通の話題ができてうれしい気持ちでいます。今年は家族みんなで青木選手を応援しようと思います。
【兵庫県・田丸克也さん・学生・18歳】

⬇青木選手はご自身のブログで「『kamipro』は俺が読んでもおもしろい」と書いていただいたようで。ありがとうございます！

ミルコ選手のUFC移籍が決まってから、本人のコメントが聞けてよかったです。なかでも、本人の口から「間違いなくまた日本で試合をする」という言葉があったので、とてもうれしかったです!!
【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇UFC67で見事にアメリカKOデビューをはたしたミルコのインタビューがさっそく掲載されてるので、紺野さんのようなミルコ大好きっ子はぜひ読んでください。

格闘オイルショックの記事がよかった！　秋山の明らかに意図的な反則に対して、ほかの雑誌が距離を置いてる中、正面切ってこの問題に取り組む姿勢がよい。
【長崎県・田村憲一さん・会社員・41歳】

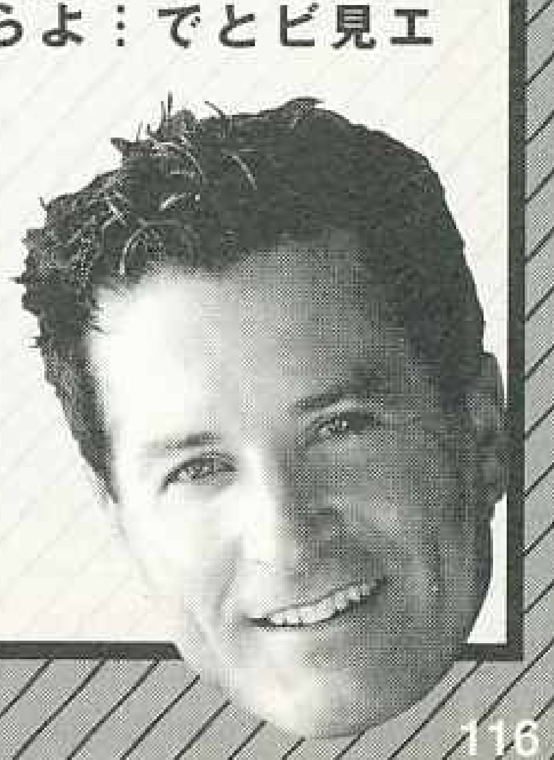
⬇さらに今号は正面切って「わるいやつら」特集。いろんなところに正面からぶつかっていってますが、いくらなんでも全46ページはやりすぎ!?

田村選手のブチ切れ度が最高でした。たのむぞ、田村！　坊主にはならないでくれ～!!
【大阪府・山内義久さん・自遊業・38歳】



⬇秋山成勲選手への衝撃的な宣戦布告がファンを惹きつけたのか、なんと前号では田村選手インタビューへのおハガキがダントツトップ！　秋山選手の復帰戦は田村戦？　それとも、なぜか星野勘太郎さんが熱望している吉田秀彦戦か!?

ボードッグのカルビン・エアーさんの写真には衝撃を受けた。これこそ〝衝撃ショット〟に掲載すべき写真じゃないかと思う。エアーさんのあの笑顔を見ていると、どうしても『ビバリーヒルズ青春白書』という文字が頭に浮かんできて仕方がないのだが……。ぼくもエアーさんのように、美しい女性をはべらせられるような立派な大人になりたいと思う！
【北海道・黒い目のビリオネアさん・学生・18歳】



⬇私も、「遊んでおいで」とポンッと1000万円くらい渡されてみたいものです。そんな私の財布は1000円ぽっち……。文字的には一文字しか違わないのに、心の中は木枯らしです。

玉ちゃんの『男のための人生のルール』読みました！　玉ちゃんはやっぱ最高です!!　本の中には「風呂」の話が頻繁に出てくるのですが、玉ちゃんは風呂が好きなのですか？　あと、「心のチンポを剥け！」というメッセージがありましたが、女である私にも「心のチンポ」はあるのでしょうか？
【高知県・金沢あかねさん・学生・17歳】

⬇女の人に「心のチンポ」はあるのか？　これはまた、なんとも言えない質問ですね。どうなんでしょう、玉袋さん。女性にも心のチンポはありますか!?　さあ、心のチンポは!!（連呼）。

107号・おもしろかった記事ランキング

1位	田村潔司
2位	ミルコ・クロコップ
3位	藤波夫妻
4位	青木真也
5位	NOSAWA論外

107号の1位に輝いたのは、バリカンを持って秋山成勲に牙を剥いた田村さんでした。はたして、田村vs秋山って実現したりするんでしょうか??　続いてはUFC67で見事KOデビューを飾ったミルコのインタビュー。次回UFC参戦時は早くもタイトルマッチでUFC制覇か!?　そしてそして、ドラゴンインタビュー第二段・藤波夫妻インタビューが3位という、前編をはるかに上回る人気ぶり！

kamipro速報号・冬・おもしろかった記事ランキング



1位	ミルコUFC電撃参戦 全真相
2位	追悼I編集長 涙の嵐山
3位	語録で振り返るマット界2006
4位	PRIDE創成期を支えた男たち
5位	PRIDE男祭り 全試合レビュー座談会

今年一発目に発売された『kamipro Special』にもたくさんのおハガキをいただきました。ありがとうございました～。さっそくランキングをドーンと発表しようと思いますが、1位に輝いたのは大晦日大戦前に超ビッグニュースを飛び込ませたミルコのUFC移籍騒動。全権代理人・今井賢一氏がその真相を語ったインタビューがトップとなりました。そして、2位は哀しいビッグニュースとなってしまったI編集長の特集がランクイン。さらに3位はひさびさの特集となった「語録で振り返るマット界」でした。ちなみに、話題沸騰の〝オイルショック〟企画は逆の意味でトップに輝きました！

衝撃ショット!!

『週刊プロレス』に うら若きS波氏の写真が！ そして前号に登場したあの人も!!



もはやこのコーナーはS波氏のためのもの！ 今回もS波氏から素敵な投稿写真が届きました。しかも、なんのためらいもなく『週刊プロレス』の投稿コーナーに掲載された記事を送ってくるあたり、さすがだ!!（しかも若い）。そして、なお驚きなのが左上に掲載されている「野沢一茂さん」（現・NOSAWA論外さん）。いま読み返すと、なんともいえず感慨深いページです。



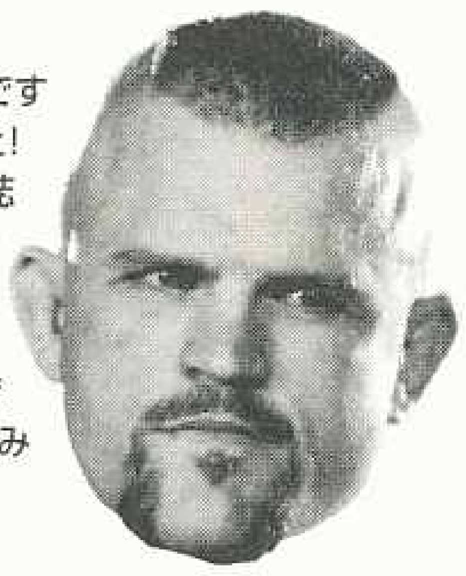
兵庫県・蝶吉さん
➡初めての投稿ありがとうございます。早くお身体を治されてください。



広島県・山田彰さん・37歳
➡私も「かいーの」でいろんなことを見逃してほしいです。

スクープ！ ザ・目撃!!

●先日、吉田豪さんのトークショーを聞きに行ったのですが、そこで元『紙プロ』編集者・片山ボンさんに会いました。自分の想像とはだいぶ違い、とても腰の低い温和そうな方でしたが、照れながら恐ろしい逸話をいろいろ話してくれました。ボンさん、ありがとうございました。
【ツル・パチーノさん（kamipro Hand投稿）】



●アメリカにUFCの取材に行ったときのことですが、帰り際、空港の本屋に立ち寄ったら、なんと！ チャック・リデルが表紙になっているセレブ雑誌があるじゃないですか！ その名も『セレブリティ』。中面ではカラー7ページで華々しく特集されていました。惜しくも本人を目撃したわけではなかったのですが、「やっぱりアメリカではUFCファイターって人気者なんだなあ」としみじみ実感した出来事でした。
【東京都・上杉さん】

●もう、だいぶ前の話ですが、テレビをつけたらいきなりジェロム・レ・バンナがドラマに登場していました。話の流れはまったくわからなかったのですが、バンナは車に乗ってる若者をひっぱりだして、何やらお仕置きをしているようでした。『古畑任三郎』に出ていたイチローのごとく、スポーツマンながら、なかなかの演技力だったように思います。バンナはもしかしたらプロレスにも向いているんじゃないでしょうか？
【神奈川県・田中美鈴さん・25歳】

●コンビニで買いものをして編集部に戻ってきたら、突然、王拳聖さんが出現していました。どうやら王さんはご自身が出演される映画の売り込みに編集部を訪れたようで、真下さんやチョロさんに撮影現場の写真を次から次へと取り出して、映画の内容を細かく説明していました。たぶん、情報ページにその映画の詳細が掲載されていると思うので、ぜひチェックしてください。
【東京都・ハガキページ担当】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

- ●ザ・目撃!!
- ●おもしろ写真投稿
- ●選手に対するご意見、試合の感想
- ●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「指名手配犯」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

ヌルヌルパラダイスもつかの間……

編集見習い・辻ちゃんが『kamipro』編集部から必死の逃走！

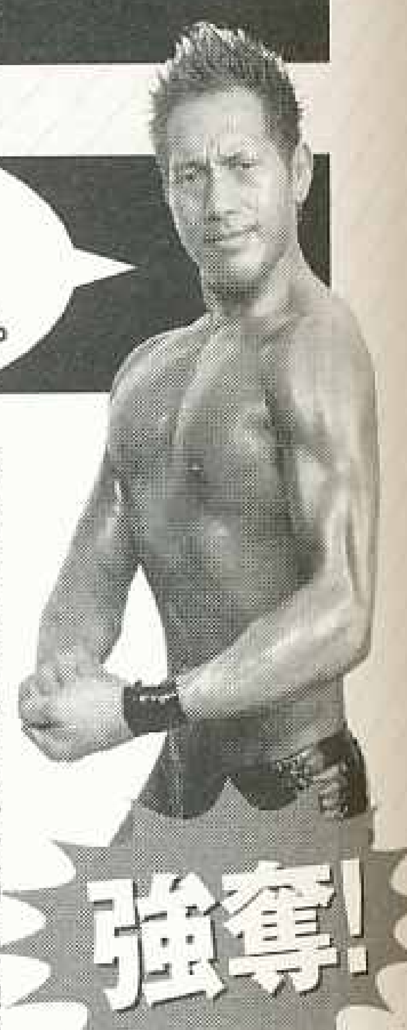

注：指名手配犯ではありません

96ページのヌルヌル企画であれだけ幸せそうな顔をしていた辻ちゃんが、なんと！ 編集部から逃走～ッ!! **自ら引き起こしたあらゆるトラブルが原因**で、事実上のクビを宣告された辻ちゃんは、「せめてやりかけのデータを整理しておけ」という編集部からのラストメッセージをまったく無視したままフェードアウト。それだけならまだマシだが、恐ろしいことに辻ちゃんは**「誰が（データを）フォルダに入れるか、ハゲ！」**という“捨てゼリフ”ならぬ**“捨てメール”**を恨みがましく本誌編集長ジャン斉藤に送りつけ、男らしいことにメールが届かぬうちにそそくさとカバン一つを持って逃亡していたのだ!!（ブチ切れたジャン斉藤は「俺は3年後にはハゲるかもしれんが、いまはハゲじゃない!!」と無駄に力説。そのまま歌舞伎町の雀荘に直行、鬱憤を晴らす）。そんな男気あふれる逃亡劇を繰り広げた辻ちゃん。中澤マイケルのヌルヌルパワーで**“死んだイワシの目”**は一瞬輝きを見せたものの、それもつかの間、翌日以降まったくヌルヌル状態を維持していなかったためか、辻ちゃんの瞳はおろか、この下がりきった口角が再び上向くことはなかったのだった。

※逃亡直後の辻ちゃん情報＝入稿前のクソ忙しい黄川田くん（さおとめの事務所のデザイナー）を無理やり食事に連れ出し、人生相談にのってもらった模様（黄川田くん談）。**「自分は編集部では猫かぶってましたけど、昔は喧嘩ばっかしてたんっスよ！」**ほか、黄川田くんは辻ちゃんからさまざまな名言を聞かされたらしいが、じつはこの二人、二回くらいしか会ったことがない間柄だという。

メカ相談にすべり込み!!

～恐るべし、ヌルヌルパワー～



残念な辻ちゃんとは対照的に、絶好調のマイケルさんは人生相談コーナーにまですべり込んできた!! メカマミーもアメリカ遠征に行ってることですし、せっかくですので、今回はヌルヌル人生相談に変更ダーッ!!

隠れ変態趣味の彼と結婚すべきか

お悩みごと

■結婚問題（東京都・ティファニーで定食をさん・24歳・OL・♀）

「私ごとではありますが、先日ミクシィで知り合った人にプロポーズされてしまいました。彼とは実際に会ってから一年以上もお付き合いが続いており、そんな中でのプロポーズでした。このまま結婚してもいいのかなあと思ったりもしますが、一つだけ、彼はどうやら変態趣味があるらしいのです。それは彼の友人に聞いたことなので実際に私が変態な目に遭ったりはしてないのですが……。そういうネット上で知り合った上に変態趣味があるらしい彼と、私は結婚しても大丈夫でしょうか？」

中澤マイケル

せっかく『kamipro』編集部に来たので、ボクが答えちゃいまーす！ テヘッ。ってことで、ミクシィで知り合った人と結婚するかどうかですね？ う～ん、どっかで聞いたことある話のようにも聞こえるけど……ま、いっか！ まあ、最近は「ミク婚」って言葉もあるくらいですからね。ミクシィで知り合った人と結婚するのは全然問題ないと思うんだけど、それより気になってるのは、たぶん〝変態〟ってことだよね。ミクシィヘビーユーザーのボクから言わせてもらうと、その彼の入ってるコミュニティをチェックするところから始めてみたらどうかな？ そうするとね、彼の性的嗜好が多少なりともわかるんじゃない。彼がSかMかが、それがわかるだけでも大きな前進だと思うよ。あなたがSなのに彼がSだったら話にならないからね！ でもさあ、（小声で）こんなこと言うのもアレだけど、ハッキリ言って男女なんて結婚してからも互いに隠してることなんていくらでもあると思いますよ！ うわ～、言っちゃった!! でも、ボクなんかはキャラでもなんでもなく真性の変態だからさ。毎日のように女性に●●させたりしてるし、ヌルヌルだって大好きだしね（得意げに）。でも変態で良かったこともあって、ボクはケータイのハメ撮り画像を先輩に見られたおかげでめでたくデビューできたんだよ！ どういうことかというと、ボクって先輩からしたら最初は凄く絡みづらいタイプだったんだって。でもね、ハメ撮り画像を見られたおかげでこんなキャラっていうか変態性を引き出してもらえたんだよお。……（急に涙ぐんで）うっ、うっ、グスン。泣ける話でしょ？ だからボクみたいに変態であるおかげで人生がガラッと変わる可能性だってあるんだから、変態を恐れずに、あなたが彼の変態キャラを引き出してあげるのもいいんじゃないかな！ うん、うん!!



人生相談コーナーを奪われたメカマミーの近況!! 2月18日、ECWアリーナで〝森の番人〟木人ケンと対決!! 試合結果は締切の都合上、間に合わないので、各自調査せよ!!

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event February 2

21 WED.
◆NOAH／広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ(18:30)
◆SUN／東京・新木場1st RING(19:30)

22 THU.
◆ZERO1・MAX／神奈川・秦野市総合体育館(18:30)
◆El Dorado／東京・新木場1st RING(19:30)
◆NOAH／岡山・津山総合体育館(18:30)
◆JDスター／東京・新木場1st RING(18:30)

23 FRI.
◆無我ワールド・プロレスリング／千葉・船橋アリーナ(19:00)
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス(19:30)

24 SAT.
◆PRIDE／米国・ネバダ州ラスベガス、トーマス&マックセンター
◆NOAH／大阪・大阪市中央公会堂(17:00)
◆DRAGON GATE／埼玉・越谷市桂スタジオ(18:30)
◆みちのく／東京・新木場1st RING(19:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO／愛知・名古屋西区ワンダーシティ(18:30)
◆WMF／大阪・アゼリア大正(19:00)
◆NKB／東京・後楽園ホール(17:30)

25 SUN.
◆無我ワールド・プロレスリング／大阪・ABCホール(18:00)
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING(18:30)
◆バトラーツ／埼玉・越谷市桂スタジオ(17:00)
◆NOAH／愛知・Zepp Nagoya(17:00)
◆DDT／東京・後楽園ホール(12:00)
◆DRAGON GATE／愛知・岡崎市竜美丘会館(18:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆K-DOJO／大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
◆NEO／神奈川・横浜NEO道場(14:00)
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール(18:00)

26 MON.
◆大日本／東京・後楽園ホール(19:00)

27 TUE.
◆無我ワールド・プロレスリング／兵庫・明石市立産業交通センター(18:00)

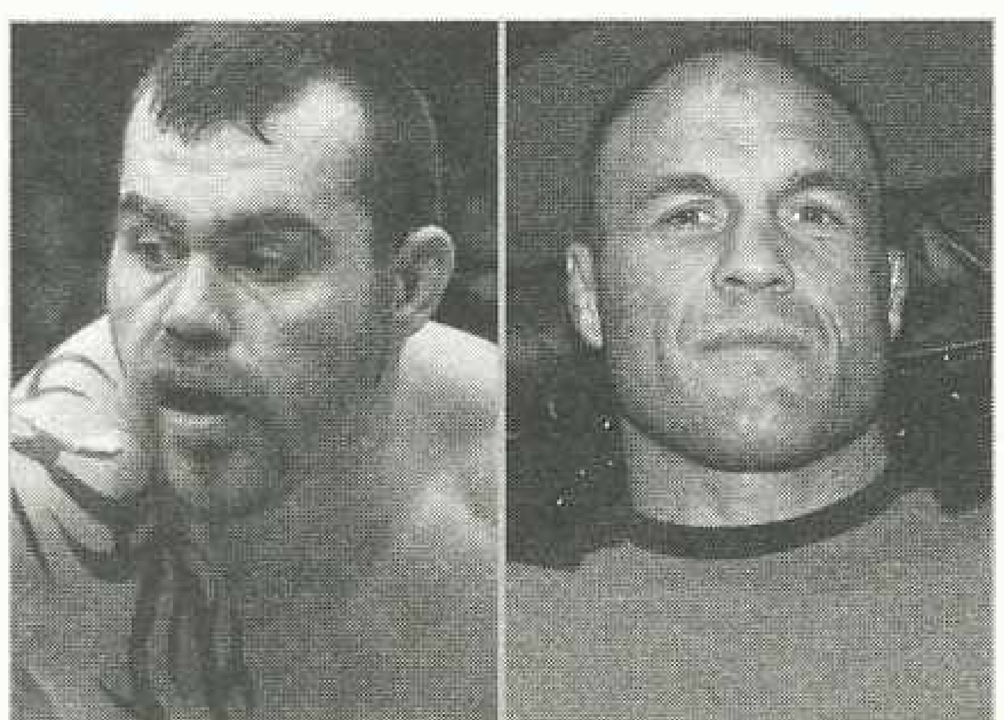
28 WED.
◆パンクラス／東京・後楽園ホール(19:00)
◆NOAH／茨城・水戸市民体育館(18:30)
◆ユニオン／東京・新木場1st RING(19:30)
◆JWP／東京・板橋グリーンホール(19:00)

Fight & Event March 3

2 FRI.
◆NOAH／神奈川・小田原アリーナ(18:00)

3 SAT.

ランディ・クートゥアーがまさかの現役復帰！ティム・シルビアのヘビー級王座に挑戦!!



『UFC68 THE UPRISING』
米国・オハイオ州コロンバス、ネイションワイドアリーナ

決定対戦カード
【UFCヘビー級タイトルマッチ 5分5R】
ティム・シルビア vs ランディ・クートゥアー
【ウェルター級 5分3R】
クリス・リトル vs マット・ヒューズ
【ミドル級 5分3R】
リッチ・フランクリン vs ジェイソン・マクドナルド
【ヘビー級 5分3R】
ジェイソン・ランバード vs レナート・ババル ほか

◆新日本／神奈川・平塚総合体育館(18:30)
◆無我ワールド・プロレスリング／愛知・豊田市柳川瀬公園体育館(18:00)
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

4 SUN.

K-1が100kg超と以下で新王座を設立 チェ・ホンマンはマイティ・モーと激突!!



『K-1 WORLD GP 2007 in YOKOHAMA』
神奈川・横浜アリーナ(15:00)

決定対戦カード
【3分3R延長2R】
セーム・シュルト vs レイ・セフォー
チェ・ホンマン vs マイティ・モー
ハリッド"ディ・ファウスト" vs 天田ヒロミ
シリル・アビディ vs 野田貢
【K-1ヘビー級(100kg以下)タイトルマッチ挑戦者決定戦】
武蔵 vs 藤本祐介、ルスラン・カラエフ vs バダ・ハリ
チケット情報
SRS席＝25,000円、SS席＝15,000円、S席＝10,000円、A席＝5,000円
◎問＝FEG 03-3796-5060

◆NOAH／東京・日本武道館(17:00)
◆新日本／静岡・アクトシティ浜松(15:00)
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋国際会議場(18:30)
◆DDT／栃木・栃木県総合文化センターサブホール(14:00)
◆大日本／埼玉・越谷市桂スタジオ(13:00&16:00)
◆みちのく／徳島市立体育館(15:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆橋本友彦プロデュース興行／東京・新木場1st RING(18:00)
◆K-DOJO／千葉・Blue Field(13:00&16:00)
◆JWP／東京・足立区JWP道場(13:00)
◆修斗／東京・北沢タウンホール(16:00)

5 MON.
◆無我ワールド・プロレスリング／福岡・北九州市小倉北体育館(19:00)

6 TUE.
◆新日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆無我ワールド・プロレスリング／大分・大分イベントホール(19:00)

7 WED.
◆リアルジャパンプロレス／東京・後楽園ホール(18:30)

8 THU.
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール(19:00)

◆息吹／東京・新木場1st RING（12:30）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（13:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（17:00）
◆NJKF／東京・後楽園ホール（17:00）

19 MON.

◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）
◆DRAGON GATE／岩手・岩手県営体育館（18:30）

20 TUE.

◆DDT／東京・新木場1st RING（25:00）

21 WED.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆ZERO1・MAX／北海道・札幌テイセンホール（16:00）
◆大日本／静岡・キラメッセぬまづ（14:00）
◆DRAGON GATE／福井・福井市体育館（18:00）
◆大阪プロ／東京・新宿FACE（12:30）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（13:00）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（17:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:00）

22 THU.

◆『若武者　プロレスサミットへの道』／東京・新宿FACE（19:00）
◆ZERO1・MAX／北海道・函館市民体育館（18:30）

23 FRI.

◆HEAT／愛知・Zepp Nagoya（19:00）
◆DRAGON GATE／長野・長野運動公園総合体育館（18:30）
◆NEO／茨城・石岡運動公園体育館（18:30）

24 SAT.

◆DRAGON GATE／千葉・千葉ポートアリーナ（18:00）
◆みちのく／福岡・朝倉市甘木青果市場（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

25 SUN.

◆パンクラス／東京・新木場1st RING（18:00）
◆修斗／愛知・Zepp Nagoya（15:00）
◆ZERO1・MAX／北海道・那珂川町小川体育館（15:00）
◆大日本／神奈川・川崎市体育館（17:00）
◆DRAGON GATE／三重・津市体育館（16:00）
◆みちのく／熊本・南阿蘇村白水体育館（17:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆MA日本キック／山梨・小瀬スポーツ公園体育館（15:30）

26 MON.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆みちのく／熊本・熊本興南会館（18:30）

27 TUE.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）

28 WED.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）

29 THU.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）

30 FRI.

◆全日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆修斗／東京・東京キネマ倶楽部（18:30）

31 SAT.

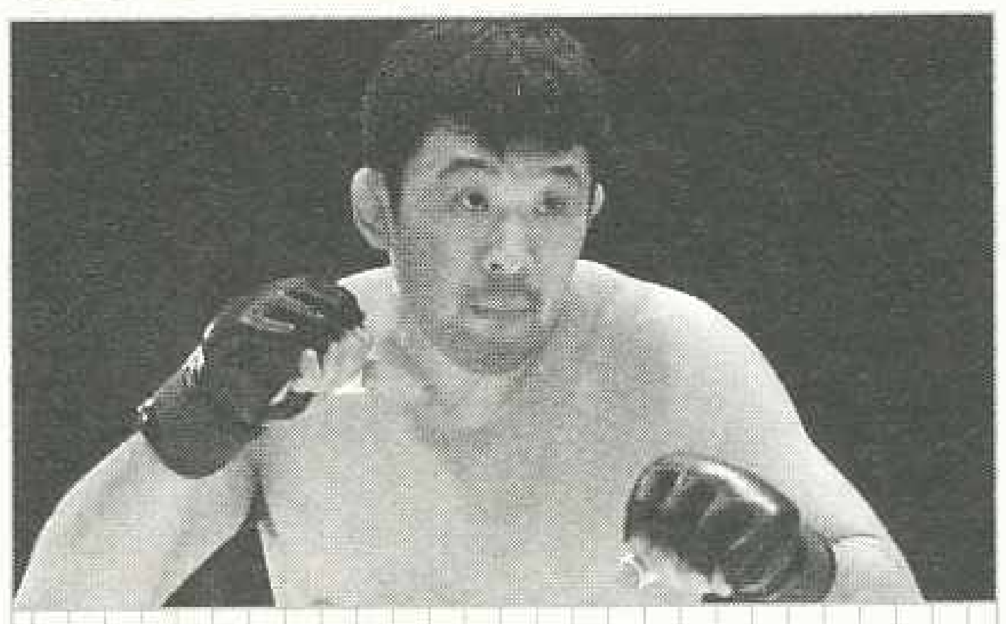
◆ZERO1・MAX／神奈川・横浜市金沢産業復興センター（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆SUWA引退興行／東京・後楽園ホール（12:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆スマックガール／東京・新宿FACE（13:00&18:00）
◆新日本キック／東京・後楽園ホール（17:00）

12 MON.

あのオイルショックから3ヵ月……
桜庭和志が名古屋で復活!!



HERO'S
『OLYMPIA HERO'S 2007 開幕戦
～名古屋初上陸～』
愛知・名古屋市体育館レインボーホール（18:00）

出場予定選手
桜庭和志／宇野薫／所英男／永田克彦／
宮田和幸／J.Z.カルバン ほか
チケット情報
SRS席＝23,000円、S席＝15,000円、
A席＝6,000円
◎問＝HERO'S実行委員会 03-5775-5065

◆全日本／群馬・伊勢崎市民体育館（18:30）

13 TUE.

◆新日本／東京・八王子市民会館（19:00）
◆全日本／富山・高岡テクノドーム（18:30）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）

14 WED.

◆全日本／大阪・松下IMPホール（18:30）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）

15 THU.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆新日本／福島・スポーツアリーナそうま（18:30）
◆DRAGON GATE／青森・青森産業会館（18:30）

16 FRI.

◆全日本／千葉・東金アリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／青森・むつ市民体育館（18:30）
◆修斗／東京・後楽園ホール（18:00）

17 SAT.

◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明（時間未定）
◆全日本／新潟・長岡厚生年金会館（18:30）
◆ZERO1・MAX／愛知・津島市文化会館（18:00）
◆みちのく／宮城・仙台港国際ビジネスサポートセンター（18:30）
◆DRAGON GATE／青森・弘前市河西体育センター（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆BRAVES／東京・西調布格闘技アリーナ（18:30）

18 SUN.

◆ハッスル／愛知・愛知県体育館（17:00）
◆パンクラス／東京・後楽園ホール（12:00）
◆新日本／兵庫・尼崎市記念公園総合体育館（16:00）
◆DDT／愛知・名古屋露橋スポーツセンター剣道場（13:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:00）
◆みちのく／岩手・矢巾町民総合体育館（15:00）
◆IWA JAPAN／東京・新宿FACE（18:30）
◆押忍闘夢／埼玉・越谷バトルスフィア（13:00）
◆東海／愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）

◆無我ワールド・プロレスリング／福岡・アクロス福岡（19:00）
◆DRAGON GATE／大分・大分イベントホール（18:30）

9 FRI.

小林聡ラストマッチ
野良犬の勇姿を目に焼きつけろ！



『Departure～野良犬FINAL～』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
【小林聡引退記念エキシビションマッチ 3分1R】
小林聡 vs X
【スペシャルマッチ 56キロ契約 5分3R】
藤原あらし vs 山本真弘
チケット情報
野良犬FINALシート＝20,000円、
RS＝10,000円、S＝7,000円、
A＝5,000円（大会当日全席種500円増）
◎問＝全日本キックボクシング連盟 03-3365-1171

◆新日本／埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／福岡・北九州市小倉北体育館（18:30）
◆みちのく／東京・新宿FACE（18:30）

10 SAT.

俺の興行だけ見てりゃいいんだ、オラ！
蝶野正洋が大会をプロモート!!



『蝶野正洋～CRASH』
千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール（18:00）

チケット情報
特別リングサイド＝7,000円（前売）、
リングサイド＝5,000円（前売）、
指定席＝3,000円（前売）、
シニア・中学・高校生＝2,000円（当日券のみ※要学生証）、
小学生＝1,000円（当日券のみ）
◎新日本プロレス 03-6407-3111

◆DRAGON GATE／長崎・佐世保市体育文化館（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（18:30）
◆Ozアカデミー／東京・新宿FACE（19:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）

11 SUN.

◆ジャガー横田デビュー30周年記念大会／東京・ホテルラフォーレ東京御殿場ホール（14:00）
◆新日本／愛知・愛知県体育館（18:00）
◆DDT／東京・北沢タウンホール（15:00&18:30）
◆DRAGON GATE／佐賀・佐賀市立諸富文化体育館（16:00）

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
045-313-3922
〒222-0073 神奈川県横浜市中区岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7階ネオプラス内
http://www.gtkn.com/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/˜shooto/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP：http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104 株式会社EWF

■G-STYLE
03-3441-5268
〒141-0022 東京都品川区五反田2-5-11-704
http://www.g-shooto.jp

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

王者・ブアカーオも参戦!!
K-1 MAX最終選抜大会 魔裟斗が07年初出陣!



小比類巻の衝撃の敗北で幕を明けた『K-1 WORLD MAX』。例年なら、続けてトーナメント開幕戦が開催されるが、今年は「各国ファイターが続々と名乗りを挙げて、絞りきれない!」（谷川プロデューサー）との理由から、開幕戦への選抜大会となる『K-1 WORLD MAX 2007～世界最終選抜～』が決定ッ! この大会には魔裟斗も07年初陣を飾るべく出場! 王者ブアカーオらも参戦予定とゴージャスな前哨戦に期待大!

★開催日時／4月4日（水）／18:00開始 ★会場／神奈川・横浜アリーナ
★問／FEG 03-3796-2977

出産後、初試合が決定!
ジャガー横田の復帰戦はデビュー30周年大会!



昨年12月に第一子を無事出産したジャガー横田が、出産後初となる復帰戦! この大会はデビュー30周年を迎えたジャガー横田の記念大会となり、記念パーティと合わせて開催。同期のミミ萩原、クイーンエンジェルスら女子プロ黄金時代のメンバーらが約50名も集結! 女子プロファン垂涎の一夜になること間違いなし!

★開催日時／3月11日（水） ★会場／東京・御殿山ガーデンホテルラフォーレ東京
★第一部／記念大会（14:00開始） ★第二部／記念パーティ（18:00開始）
★問／興行事務局 080-5596-6947

春といえばZERO1・MAX恒例!
靖国神社大会『ちから祭り』が今年も開催!



05年に初開催、好評につき06年も開催されたZERO1・MAXの靖国神社大会『大和神州ちから祭り』が今年も開催決定ッ! 05年は武藤敬司が来場し、小川直也がハッスルポーズをキメたり、06年は国会議員レスラーの大仁田厚が靖国で場外乱闘! ついでに革ジャンも紛失など、毎回話題を呼んでいるこの大会。今年はいったい何が起こるのか? 酔拳の使い手、王拳聖は今年も出場するのか? お花見季節の定番興行となったこの大会に注目!

★開催日時／4月7日（土）／17:00開始 ★会場／東京・靖国神社相撲場
★問／ZERO1・MAX 03-5730-3966

「カミプロのミナサン、ヒサシブリ!」
あの王拳聖が日中合作のアクション映画に主演!?



“酔拳の使い手”として、ZERO1・MAXに登場した王拳聖さんが編集部を突如訪問! カンフーアクション俳優でもある王さんは、“日中国交回復35周年記念作品”の『サムライスピリット』を撮り終えたばかり。しかも「ワタシが主演アルヨ!」というから驚きだ。王さんは、なんと女優の伊藤つかささん（写真右）、『キル・ビル』にも出演したゴードン・リューさんらと共演をはたしたとのこと。“カンフーと侍が激突する”この作品。日本公開は未定だが、王さんの活躍を一日も早くスクリーンで目撃したい!

しばらく役者に専念!?
あの大山峻護が、美輪明宏さんの舞台に出演!



『HERO'S』に参戦中の大山峻護がなんと“愛の伝道師”美輪明宏さんの舞台『双頭の鷲』にて舞台デビュー! 19世紀ヨーロッパの王朝秘話を描いたこの舞台。大山は、王妃役の美輪さんに仕える“口の利けない従順な召使”役として出演! 三輪さんから「この舞台をきっかけに大俳優になってもらえれば嬉しい」と期待をかけられた大山は「しばらくは役者に専念する」と宣言し、気合いは充分! アクター大山の演技は必見だ!

★公演日程／3月3日（土）～4月1日（日）
★問／渋谷パルコ劇場 03-3477-5858

新垣結衣さんと“野人”が共演!!
中西学、大日本勢が映画『恋するマドリ』出演!



©「恋するマドリ」製作委員会
2007年夏、シネクイントほか全国でロードショー
配給＝シネカノン、オフィス・シロウズ

あの“野人”中西学が人気アイドル・新垣結衣さんと映画「恋するマドリ」で共演! この映画は、引っ越しをきっかけにしたラブストーリー。米アカデミー助演女優賞候補の菊地凛子さん、松田龍平さんも出演する話題作。中西は引っ越し屋で働くプロレスラー役で、大日本プロレスのアブドーラ小林、伊東竜二らとも共演! 全力投球の演技を見届けよう!

ヴァーッと朗報到着!
健介オフィスの旗揚げ戦、いきなり地上波に進出!



2月11日（日）にディファ有明で開催された健介オフィスの旗揚げ戦『Take The Dream vol.1～夢を掴め～』が、いきなり地上波放送に登場! この大会の模様はテレビ東京にて3月11日（日）深夜2時40分～3時10分の30分枠でオンエアされる。プロレスラーとしては、いま世間的にもっとも知名度を持つ健介夫妻とはいえ、異例の大抜擢!! なお、放送ではメインイベントの佐々木健介vs中嶋勝彦戦を中心に、健介の復帰までを追ったドキュメントVTRや、三島来夢vs小島聡の健介オフィス査定試合も放送予定。正直、観るしかない!

『インディー・サミット』がさらに前進!
新日本&全日本も参戦!! 『プロレス・サミットへの道』



昨年、大晦日に開催した『インディー・サミット』が進化! 主催メンバーのTAKAみちのくらが会見し、『インディー・サミット』を封印、『プロレス・サミット』を目指し、3月22日に『若武者 プロレス・サミットへの道』と題した若手中心の大会開催を発表！『インディー・サミット』に参加した各団体に加え、全日本プロレス、新日本プロレスらも参加。“プロレス界の底上げ”に挑む!

★開催日時／3月22日（水）／19:00開始 ★会場／東京・新宿FACE
★問／プロレスリングjp 045-313-4321



「代理はおまえだ!!」紙マスク代行 "仮マスク"が早春デビュー!?

イラスト 師岡とおる

第16回

度を超えたやつら

リングの汁

花くまゆうさく



いままでUFCは、高山のとぼけた味の解説が妙にクセになりかけていたとこの日テレG+版で観ていたが、ミルコ登場の回はすぐに放送しないようなので、WOWOWに加入しました。同じようにスカパー経由で今回、WOWOW加入した人は多いと思うので、これを気にぜひ『THE ULTIMATE FIGHTER』も放送してほしいね。たのみますWOWOWさん。

それにしても、いまだに腹立たしいヌルヌル問題。あんな度を超えたことをやっといて「悪意はない」と言う秋山&悪意は感じないと同調する谷川。この二人どうかしてるよ。なんで反則負けじゃないのかね。無期限出場停止といったってどうせケガしてしばらく試合できないんだから意味ないんじゃないの。

大会の数合わせ的な試合であんなことやるのと、日本人同士の大一番のメインであんなことやるのとではことの重大さが違うと思うよ。

腹立たしさを沈めるため『ジャッカス・ナンバー2』を観に行きました。自分の口に釣り針をぶっ刺してサメのいる海に入り、自分自身がエサとなりサメ釣りするジャッカスメンバー。取りたての馬の精子をイッキ飲みするジャッカスメンバー。暗室で重量ボールでドッジボールするジャッカスメンバー。巨大ヘビやウシと闘うジャッカスメンバー。みんなのチン毛を集めて、それをつけヒゲにしてアラブ人に変装する……など、海の向こうの度を超えたガンバルマン・度を超えた『お笑いウルトラクイズ』なジャッカスは、ヌルヌルの腹立たしさを沈めてくれた。

日本もこないだ『お笑いウルトラクイズ』が復活したが、ジャッカスの前では、正直ヌルく見えてしまう。それでも『お笑いウルトラクイズ』vsジャッカスの日米対抗戦やったらおもしろそうだね。

そして、秋山&谷川も罰ゲームとしてこのジャッカスメニューをやれば許せてくるのではないかと思えてきた。

自分の口に釣り針をぶっ刺してサメ釣りする秋山&谷川。以下あんなことやこんなことを、2人がキャーキャー言いながらやる姿をいろいろ想像……。

そんな名場面を想像すると、あんなに嫌だった二人がとてもかわいらしく見えてくる。とってもキュートだ。実体のない無期限出場停止より、こっちのほうがよっぽど誠意を感じるかも。

これくらいやれば、桜庭と笑ってリング上で再会できる……わけないか。



Hanakuma Yusaku
◎新刊『不死身のニッポン』(青林工芸舎)『メカ★アフロくん爆裂会社編』(マガジンハウス)二冊発売中。

リング上からプライベートまで!
“なんでもあり”の質問コーナー

所英男のトコロ天国



本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです(こじつけ)。

——さあ、100号で企画していた所さんの質問コーナーが、ようやく108号でついに夢かなうことになりました。所さん、よろしくお願いします!

所 よろしくお願いします! でも、『kamipro』ってそんな企画ありましたっけ?

——ええ、じつは(笑)。しばらく温めておいたので、極めてホットにお届けできると思います! さっそくですが、読者の方から続々と質問が届いてますので、ぜひ赤裸裸にお答えください。

所 赤裸裸ですか……。あっ、じゃあシークレットな部分は全部上原さん(ZST広報)に答えてもらうことにします(真顔で)。

——せっかくですけど、それじゃ意味がないんです(笑)。

所 あ、そうですよね(笑)。

——というわけで、強引にスタートさせていただきます!

『恋の質問』

佐賀県・柏崎涼子さん・13歳

所さんは井上和香さんと噂があると聞きましたが、本当ですか? 所選手の熱狂的ファンである私は信じたくないのですが、『Dynamite!!』の番組でも井上和香さんは「所選手の試合に一番注目しています!」と語っていました……。いったいどうなってるんでしょう?



1月25日号の『ナイスポ』では井上和香と所英男の熱愛報道(?)が、なんと一面でデカデカと掲載されていた! どうする、所英男!?

——という、一発目から熱い質問なんですけど、いかがでしょう?

所 ……修羅場ですね。

——いきなりピンチ到来ですか(笑)。

所 まあ、和香さんは大切な友だちなので、それ以上のことは……(ボソッ)。

——おっ、なんだか芸能人の熱愛発覚記者会見みたいな感じになってまいりましたが、そうなんですか!?

所 いや、ちょっと一回こんなセリフを言ってみたかっただけです(笑)。本当のことを言うと、井上和香さんとは一度お話しさせていただいたことがあるだけなんですよ。

——じゃあ大切な友だちも何も、熱愛報道はまるっきり誤報である、と。

所 ハッキリ言って、まったくの誤報です!(キッパリ)。

——ハハハハ! でも、井上和香さんは『Dynamite!!』でも所さんのことを一番注目して観られてたみたいですね。

所 そうなんですよ。井上和香さんがそういうふうに言ってたことはいろんな人から聞いたんですよね。なんか、ありがたいなって思いましたけど。

——ちなみに、所さんは女優さんやタレントさんとお付き合いしたいなというような乱れた思いもあったりするんでしょうか?

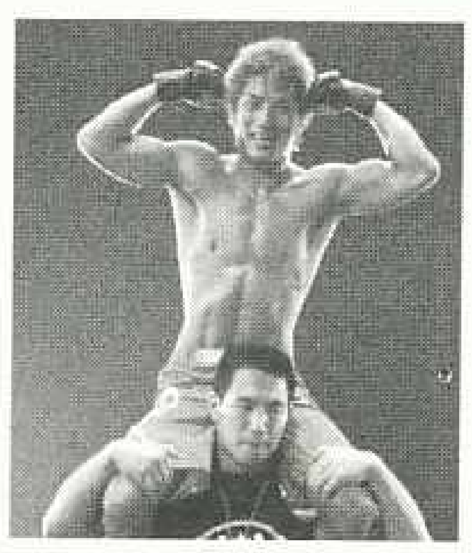
所 あ、もう僕は否定はしないです(即答で)。

——そうですか(笑)。というわけで、これ以上聞くとうら若き13歳をガッカリさせる返答になりそうなので、次の質問にいかせていただきま〜す。

『人生の質問』

京都府・稲垣翔さん・9歳

僕はお母さんから「ピーマンも人参もちゃんと食べないとたくましい男の子になれない」と言われ、嫌いな野菜をどんどん食べさせられます。でも、所選手はコンビニ弁当を食べて闘っているというのをテレビで見ました。なので、所選手からお母さんに「野菜を食べなくてもたくましくなれる」ということを言ってほしんです。



このパワフルな肉体を見て、自分の好き嫌いを正当化しようとする少年に、所さんが答えた無責任な解決法とは……!!

——という悩める少年からの質問です。

所 たぶん、子どもの頃は何も考えずに出されたものを食べたらいいんじゃないですかね(淡々と)。

——また、ずいぶん冷たい返答ですねえ(笑)。この少年は「コンビニ弁当でもあんなに強い所選手に聞きたい!」ということで、わざわざ投稿してきてるわけですけども。

所 でも、僕も小さい頃は何も考えずに出されるものを食べてましたもん。いまも何も考えずにコンビニ弁当食べてます!

——それは“世界のファイター”としてちょっと考え直したほうがいい気がしますよ(笑)。ちなみに、所さんは苦手な食べものはないんですか?

所 嫌いな食べものは……生ガキはちょっと食べられないですねえ。

——それを食べろと言われて毎日おかずに出されたら?

所 食べません(平然と)。

——ダメじゃないですかっ!!

所 ……(急に考え込んで)これって、じつは難しい問題なんですね。ちょっとこの方の気持ちがわかってきました。

——いま頃ですか(笑)。

所 あっ! じゃあ、嫌いなものを食べきったあとに、好きな食べものをねだってみるとかはどうですか? 人参のあとに焼肉とか。

——なるほど。所さんも生ガキのあとに焼肉があれば大丈夫そうですか。

所 いや、僕は焼肉だけでいいです。

——(無視して)というわけで、少年は好き嫌いしないようにお願いします!

『所選手に関する質問』

静岡県・クリーム疑惑さん・25歳

所選手は「闘うフリーター」というキャッチフレーズがしばらく使われているようですが、ボクの感覚ではここ一、二年でだいぶ稼いだのではないかと推測します。なので、そろそろ別のキャッチフレーズを作ったらどうかと思うのですが、所選手はどう思いますか?



「闘うフリーター」のキャッチフレーズで、これまで所さんは男性ファンのみならず、多くの女性ファンをも惹きつけたのだ。

——また失礼な質問が届いてますねえ。ヒドいですね、『kamipro』読者は。

所 でも、その推測はだいぶ正しい(笑)。

——アハハハ! 「闘うフリーター」のイメージが台なしですね。

所 おかげさまで前よりいい生活ができるようになったので(笑)。だから、もし別のキャッチフレーズにするなら、ZSTで使ってる「小さなヴォルク・ハン」がいいなと思ってるんですけど、それが使えないんなら、もうTBSさんにおまかせで!

——所さんとしてはどんなイメージがいいんですか? 「ミスター・ストイック」とか「反骨の柔道王」とか、いろいろあるじゃないですか、カッコいい感じのが。

所 それじゃあ……“闘うファイター”とか、どうですかねえ(恥ずかしそうに)。

——しかし、それだと“闘う闘う人”ってことになりますね(笑)。

所 (聞かずに)あっ! 「逆境ファイター」とかはいいんじゃないですか?

——所ジョージさんに作ってもらった入場曲ですね。ちなみに所さんは最近“逆境”を感じた出来事とかありましたか?

所 そうですねえ、僕ももう今年で30歳になるんで、いよいよ逆境かなって。

——それは“逆境”って言わないんじゃないですか?

所 なんて言うんですかね、そういうの。……下り坂? じゃあ、「下り坂ファイター」でお願いします!

——それは完全に意味が違ってくるので絶対にやめたほうがいいと思います!(笑)。

Hideo Tokoro◎ところひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTオフィシャルHP】http://www.zst.jp/

金ちゃんのどこまでやるの？

●第12回● ビガロとすごした日々の巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara

ある日の朝、高山君（高山善廣）からケータイにメールが入っててね。なんだろうと思って見たら、クラッシャー・バンバン・ビガロの訃報だったんだよ。ビガロといえば、96年に『U－JAPAN』という日本版UFCみたいな大会でキモと試合したけど、あのとき試合前に2週間ぐらいUインターの道場に練習に来てたんだよね。

なんでビガロがUインターの道場に練習しにきたのかわからないんだけど、同じ大会に出た安生さんが道場に連れてきてさ。それで俺と桜庭が夜、いつも道場に居残って、ビガロの練習相手を務めてたんだよ。そう、じつは俺と桜庭があのときのビガロのスパーリング・パートナーだったんだよ（笑）。

俺と桜庭が代わる代わるビガロの相手を務めてね。でも、やってみてビガロの反応の良さにビックリしたよね。あれだけの巨体でタックル切るスピードとか凄く速かったからね。運動神経よかったよ。実際の試合では、やっぱり経験不足ということもあってキモにタックル取られちゃったけど、普段のビガロの実力だったら絶対に勝ってたと思ってたからね。俺はスパーリング・パートナーだけでなく、当日のセコンドも務めたから、ビガロが負けたのが悔しくて、「いつか俺が敵を討ってやる」とか思ってたのを覚えているよ。

ほかに当時の思い出というと、安生さんがビガロに「いま、おまえの練習相手は金原と桜庭が務めているけど、本当に一番強いボスは和田（良覚）さんだから。あの人だけには手を出すな」とか言ってさ。そしたらビガロも本気にして「そうか。彼がUWFのマスターか」とか言って、和田さんのこと「先生」とか呼んじゃったりしてね（笑）。楽しかったなぁ。

それでビガロがある日、「みんなにお世話になってるから」って、肉をいっぱい買ってきて、練習後に分厚いステーキを焼いてくれたりしたこともあったな。ビガロと一緒に練習した2週間は凄くいい思い出だよね。

俺と高山君はブルース・スプリングスティーン（『ボーン・イン・ザ・USA』で知られるアメリカのロック歌手）のファンなんだけどさ、ビガロが「彼なら俺の友だちだからいつでも紹介してやるよ」とか言ってね。すげぇなビガロとか思って。いい人だったよね。そんなビガロが亡くなっちゃったんだから寂しいね。ゲーリー（・オブライト）が亡くなったとき凄く悲しかったけど、ビガロも短期間とはいえ、一緒に練習した仲間だったから寂しいよ。

あれからもう10年だもんなぁ。俺も長くやってるよね（笑）。今度、3月18日のパンクラス後楽園大会で闘う川村亮選手なんて、俺より一回り以上若いからね。まさか自分より一回り年下の選手と闘う日が来るとは思わなかったよ。

川村選手は聞くところによると、シュートボクセの選手に勝ったり、いまパンクラスで一番勢いがある選手らしいね。俺も彼ぐらいの年代の頃は、Uインターでイケイケの頃でいくらでも動けたからね。そんな相手と普通やりたくないもんだけど、俺はさ、このあいだ読んだ将棋の羽生（善治）さんの本に「勢いがある相手とやると自分も勢いが出る」って書いてあったから、受けちゃったんだよね。ここは俺も川村選手の勢いをもらおうと思って（笑）。

この試合に勝って、今年はその勢いでパンクラス・ライトヘビー級のベルトにたどり着くよ！　近藤（有己）選手とは絶対にもう一回やらなきゃいけないと思ってるから。では、3・18川村戦、頑張ります！

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第10回 谷川さんもゾッコン!?　天才少年が『K-1 MAX』デビューの巻

アンディ・オロゴンが小比類巻貴之からまさかのダウンを奪い、勝利した2・5『K－1 MAX』日本代表決定トーナメント。「気にいらないですね」「秒殺します」「正直、どうして自分がって思った」と吠えた上で、アンディのパンチを受けてダウンし、ラウンドへ突入。右ストレートでダウンし、敗北した小比類巻の〝人間力〟は、アンディももちろん、ほかのメンバーからもズバ抜けている。

前回のこのコラムで取り上げた宍戸大樹は一回戦で尾崎圭司に敗北。さらにありがたくないことに、宍戸はこの試合で最高視聴率を獲得。どん底のさらに底を味わうハメになってしまった男にありきたりな慰めなど言いたくないが、徹底的に落ちたいまだからこそ、今後の宍戸、これからの宍戸が見たい。

さて、テレビには流れなかったがマスコミ注目度の異常に高い試合がこの大会にはあった。それが15歳の天才少年・HIROYAである。

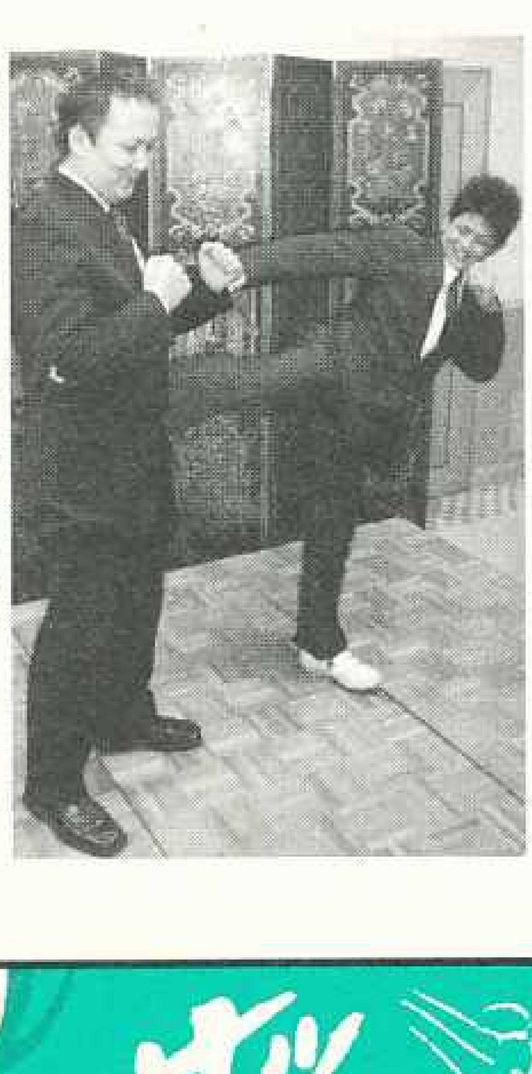
HIROYAは3月に中学を卒業する、1996年生まれの15歳。谷川さんは参戦発表会見で「非常にかわいい、わたくし好みの選手がデビューします！」と満面の笑みを見せた。15歳の中学生男子に対し、報道陣を前に堂々と「わたくし好み」と発言できる代表取締役は、世界中でも谷川さんくらいだろう。

3歳から空手を始め、小学校4年生からキックボクシングを開始したHIROYAは、魔裟斗も認めた〝天才少年〟ぶりで2・5『K－1MAX』のオープニングファイトに登場。15歳ということに放送局が配慮、テレビ中継はされなかったが、見事TKOに追い込んだ戦慄デビュー戦で大会翌日、スポーツ新聞3紙の一面を奪った。

勝利も、内容に納得がいかなかったのか、試合後のHIROYAは「期待に応えられなくて、すみません……」としょんぼり。その落ち込んでいる様を見た谷川さんは「あの試合で満足するファイターはたくさんいるのに、本当にけなげだなぁ、って思った」と、さらに〝HIROYAくんラブ〟を募らせる。「HIROYAくんのことだったら、朝までしゃべってもいいですよ」とまで言った谷川さんだったが、関係者に制止されて囲み取材は終了した。

大会翌日の会見でも「かわいいから、うまく育ってほしい」と、恥じることなくゾッコンぶりをアピールしていた谷川さんだったが、ブアカーオ・ポー・プラムックが7歳からムエタイの試合へ参戦していたことを聞くと「じゃあ、うちも7歳を出さなきゃダメですね」と目の色を変えた。

「だって、7歳からやってる相手に対抗するには、こっちも7歳からやらなきゃダメだと思うんですよ！」とムキになる谷川さん。本気でムエタイ超えにかかっているのか、それともHIROYAくん以上にかわいいファイターを捜しているのか。15歳K－1ファイターに続き、我闘姑娘もビックリの〝7歳K－1ファイター〟が登場する日は、そう遠くない気がする。



参戦会見で谷川さんにキックを見舞うHIROYA。お父さんが自分より年下という事実に、ちょっと落ち込む谷川さんだった

せき詩郎のサムライ三味

シロー

第11回

越中ブームだって!?

街は閑散としていた。人を探すのが大変なくらいだった。

2007年、最初の朝。交通量が少ないせいか、都会だというのに空気が澄んでいた。もしかしたら「元旦」という特別な感情が空気さえも変えたのかもしれない。誰もいないことを確認してから、私は大きく深呼吸した。昨夜、曙が負けたショックはもう残っていなかった。

さっそく私は嘘を書いた。曙敗戦のショックなど本当はなかった。深呼吸は、一睡もしなかったための大きなあくびにすぎなかった。

せっかくの正月だ。なにか正月らしいことをしようと思った。まずは羽根つきだろうか。しかし羽子板もなければ相手もいなかった。羽根つきは断念するしかない。ジャイアント馬場がお風呂で滑って転んだ時に言った台詞と同じようなことを思った。

次に考えられるのはコマ回しだろう。しかし、あいにくコマを持っていなかった。コマがないのならコマ回しは断念するしかない。私はまたジャイアント馬場がお風呂で滑って転んだ時に言った台詞と同じようなことを思った。

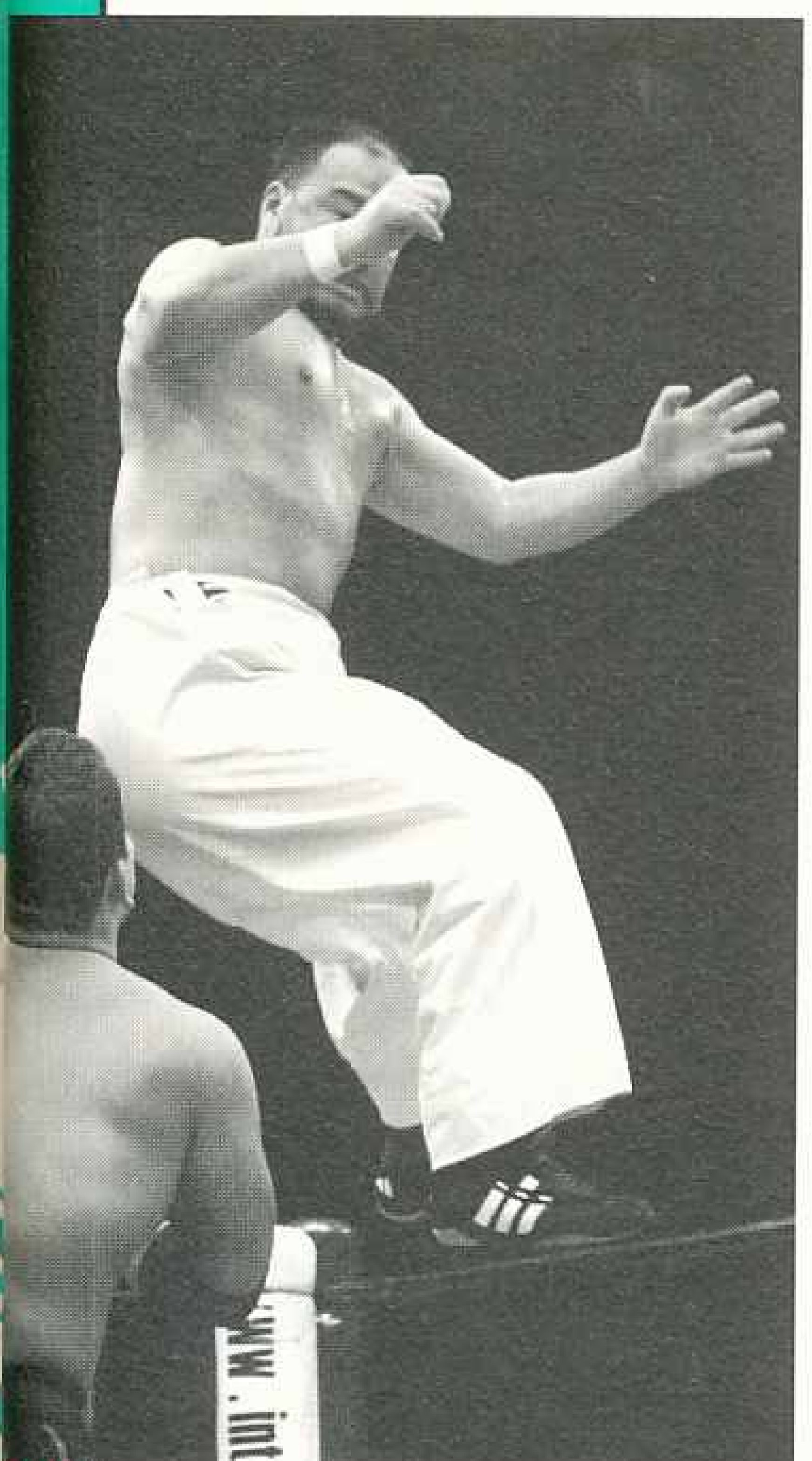
ならばカルタだろう。カルタなら昔『紙プロ』で作った『維震軍カルタ』があったはずだ。だがバックナンバーを探せども『維震軍カルタ』の号は我が家にはなかった。カルタも断念だ。

こうなると残るは凧揚げしかない。凧ならあった。たしか何かの小道具として買って、それをそのまま家へと持ち帰ったものだ。凧は奴凧だ。無造作に押入れに入れておいたのだが、扉を開けるたび奴凧の顔が出てきて驚いたものだった。

私は凧揚げしても問題なさそうな適度な広さがある場所へと移動した。イメージ的には土手が良かったのだが、あいにく近くには川がない。仕方なく大きめな公園へと赴いた。公園を囲むように電線がある。万が一電線に凧が引っかかってしまった時には、自分で取ろうとはせずに電力会社に連絡しよう。

私は凧を揚げることを試みる。凧を地面に垂直にしたとしても、真横から吹いてくる風は凧を上昇させることはない。だが、凧に角度をつけるように糸の長さを調節していくと、どんどん上空へと揚がっていくことだろう。

凧に当たった風はすべて下方へと移動する。その結果、凧の下方で圧力が高くなる。この高くなった圧力が凧の面を上に押し上げるというわけだ。それだけではない。



『アメトーク』の「ガンダム大好き芸人vs越中大好き芸人」に出演したケンドーコバヤシらの熱烈アピールで、いま巷では空前の越中ブームが到来中だって! 覇ッ!!

凧の裏側は空気が少なくなり圧力が低くなる。この低くなった圧力が凧を吸い上げることになる。この凧の上下に出来る圧力の差によってできるのが揚力と呼ばれていて、これによって凧は空へと昇っていくのだ。

理屈はわかっていた。だがなかなか揚がらない。風がほとんどないのだ。凧はすぐに落ちてしまう。私は糸を巻きながら凧を近づけ、手に取る。

その時だった。奴凧が越中に見えた。昔から何かに似てるなあと思っていたが、越中に似ていることに気づいた。

それなら圧力がどうだとか揚力がどうしたなど関係ない。風がないとかガタガタは言わない。必要なのは反骨心だ。あとは私が腹をくくるだけ。すると自ずから風は吹くだろう。そう、維震の風が……。

越中がブームらしい。テレビ番組の影響のようだ。

私も越中について書いてきたが、まったく普及しなかった。元々越中ファンだった者たちをさらにカルト化しただけだった。

しかし今回は新規のファンも増えているらしい。ケンドーコバヤシさんの功績は大きい。

去年、ケンドーコバヤシさんにお会いした。その時、私は某イベントに出るために舞台に上がらなければいけなかったのだが、それに対する激励のメールを斎藤彰俊選手からいただいた。「維震」関係の者たちが交差した瞬間だった。

私は越中が好きだった。もちろん、いまでも好きだ。中学生の頃に初めて見てから彼の虜になった。街を歩いている時、万が一、彼と偶然会ったらどうしようといつも考えていた。カバンの中にはいつも維震軍自主興行で買った旗を入れておいた。

だが彼と会うことはなかった。彼に似た人には会うことはあった。皆、逆さ顔のようだった。

いまでも思いは変わっていない。彼ともし偶然会ったらどうするだろう。きっと私はすれ違いざまに聞き耳を立てるはずだ。越中はどんな会話をしているだろうか。何をしているところだろうか。

「ピザ、ピザ、ピザ、ピザ……ピザ! そこはケツ! 間違った、ヒジか」

維震の仲間たちと10回クイズを楽しんでいる最中かもしれない。

「残念、答えは風邪だって。最初に風邪って言っただろ」

仲間にひっかけ問題を出しているところかもしれない。

「小原、いいか、ここで反骨心の出番ってわけだ」

反骨心の話で盛り上がっているかもしれない。

「イテッ、痛いって! わかった、わかった、小原に反骨心があるのはわかったからもう離せって!」

小原が反骨心を見せすぎているところかもしれない。

「なに? なに? ビートルズの話?」

誰もビートルズの話をしてないのに、話に割り込んできたところかもしれない。

「は……、は……、は……阪神! あっ!」

自分の好きなものを言ってしまい、しりとりで負けたところかもしれない。

「と……、と……、と……寅さん! あっ!」

またしても負けたところかもしれない。

「なんだっけなあ。あれだよ、あれあれ、あの、そうそう、ウエストポーチ」

なんの話かわからないが、何かど忘れしているところかもしれない。

「斎藤、これが一輪車に乗るコツだ」

彰俊に一輪車を手ほどきしている最中かもしれない。

「斎藤、俺が本物の『まじかるバナナ』ってやつを教えてやるって!」

まじかるバナナがただの遊びだと思っていた彰俊に、本当はどれほど危険なものなのか教えているところかもしれない。

「ではまず、ジョージ・ハリスンから……」

越中のモノマネが始まっているところかもしれない。

「続きまして、もしもジョージ・ハリスンが救急車だったら……」

モノマネのレパートリーは広がっているかもしれない。

「なあ、斎藤。お前もしも『むりやりトレパン』があったらどうする?」

ドラえもんの秘密道具の話をしているかもしれない。むりやりトレパンの威力は凄い。脱いでも二人をまだ走らせることだろう。

「いいんだ。みんなが宇宙ターザンを好きになってくれてうれしいよ」

維震軍のみんなとまた宇宙ターザンごっこができて喜んでいるところかもしれない。

「わかったって! お前らがその気ならやってやるって! 束になって来いって! 3分で充分だって!」

仲間割れが始まっているかもしれない。

「お前らが来ないんだったら俺が行くって! ゴングはいらな……あっ、雪だ……」

雪が仲間割れをとめてくれたところかもしれない。

想像は膨らむ。でも私は結局声をかけられないはずだ。好きすぎて緊張し、ただ振り返って後姿を眺めるだけだろう。カバンから旗は出さずじまい。でも心の中で旗は振り続けながら……。

それはともかく、普通に正月の話を書いたが、もうすぐ3月という時期だった。次回から気をつけよう。

椎名基樹の サムライ三昧

第11回

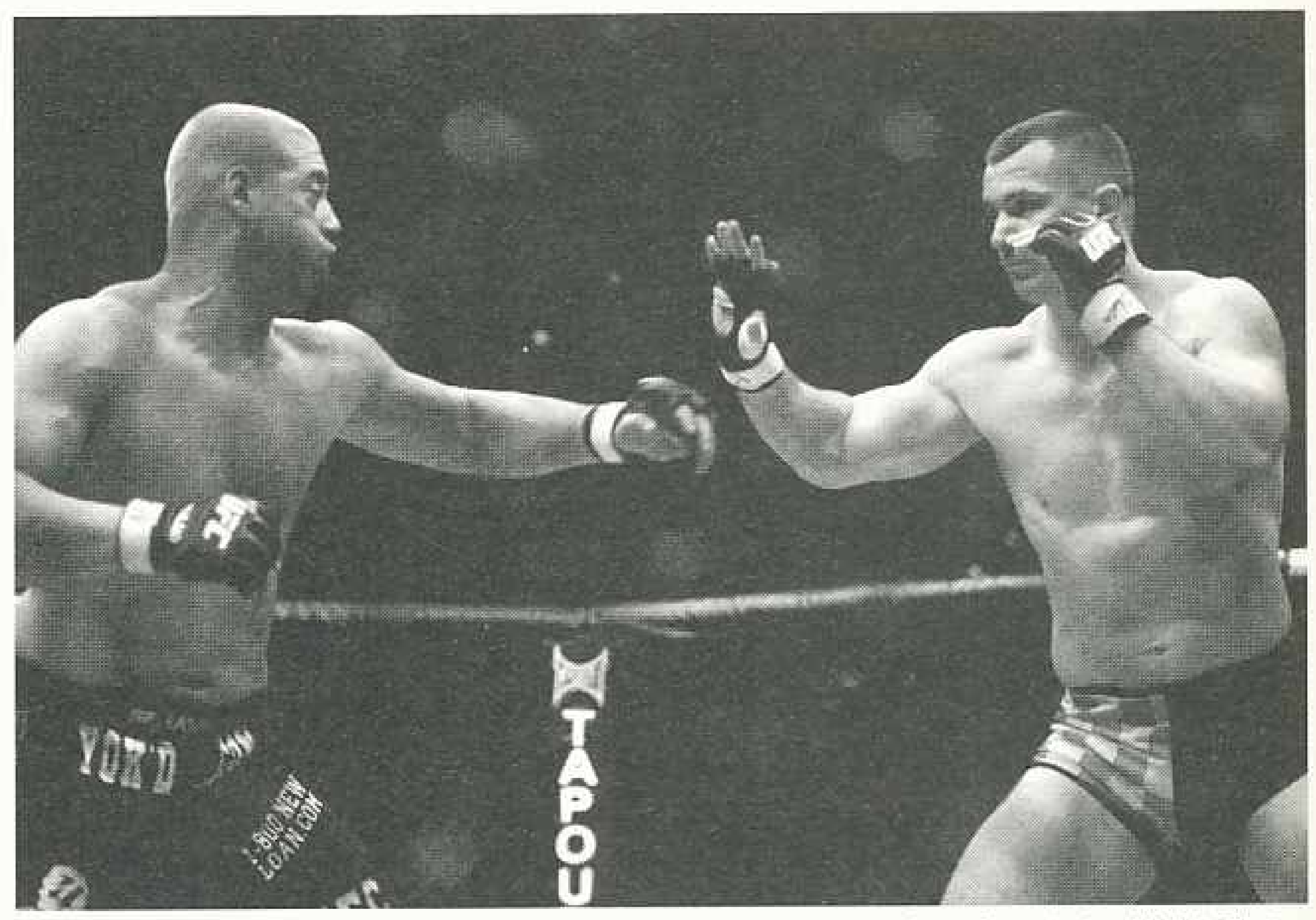
今回はWOWOW三昧!

体調が芳しくない。持病のジンマシンが出る。手のひらに出る。手のひらにできると皮膚が厚いため、その厚い皮膚の下に発疹が出来て、痛痒くて苦痛なのだ。仕方ないので、かゆみ止めの軟膏を塗る。そして、PSPをやる。

現在、『リッジ・レーサー』にハマっているからだ。しかも『1』。今更である。『ベスト・セレクション』とかいって価格が下がっていた。PSPはこの『ベスト・セレクション』を買うのがオススメだと思う。そんな余計なお世話はともかく、軟膏を手のひらに塗ってPSPを操作すると、ヌルヌルとして凄くすべってコントロールできないので苛立つ。……ヌルヌルとして凄くすべる? ……これか! 桜庭もこの感じだったのか!? これじゃあ、ドリフトした後、カウンターで逆ハンドル切る時とか反応できないし、とにかく集中力を欠くよな!? サク、オレ、やっとサクの悔しさを実感できたよ。

と、サクの気持ちを実感したところで、KIDである。山本〝KID〟徳郁選手のアマレス挑戦の初戦は、腕を折られてのフォール負けという最悪の結果で終わった。大会後放送された『情熱大陸』という番組で改めて見ると、ケガした直後のKIDのヒジは、いま思い出しても鳥肌が立つほど骨が飛び出していた(筆者認定・世界三大格闘技衝撃の腕折れ映像はこのKIDと、謙吾vsドスカラスJrのフロントスープレックス、ショーグンvsコールマンの受け身失敗)。ああいう、あり得ない方向に腕が曲がるエグイ映像を見る度に『グラップラー刃牙』を思い出すのだが、KIDのブログにもそう書いてあって、笑ってしまった。やっぱ、読んでんだ(笑)。

ところで、あの試合であるが、件の『情熱大陸』でスローで見たら、KIDの相手の選手はまず右手でKIDの左手の指をつかみ、KIDがそれを嫌って切るために腕を上下に振った瞬間、そのつかんだ手を放して、KIDの右腕を巻き投げにいったのがわかる。指をつかまれた瞬間KIDは一瞬カチンときたのではないか。その瞬間に隙ができたように感じる。筆者が思うに、この指をつかむ反則→嫌ったところに反応して巻き投げのコンビネーションは最初から狙っていたように思える。それくらい動きに無駄がなかった。格闘技ファンとしてKIDの肩を持つわけじゃないが、グラップリング競技で、指をつかむヤツは汚い。秋山選手といい、アマ選手のほうがエグイのかな、なんて思ったりする。まあKIDには次に期待である。



初のオクタゴンにも関わらず大会前から試合後まで自分のペースを崩さず、これまで総合無敗のエディ・サンチェズ相手に圧勝したみせたミルコ。次の試合がいまから楽しみ! 撮影/乾晋也

さて、今月の格闘界は盛りだくさんである。今月の格闘界のトップニュースはなんといってもミルコ・クロコップ、UFC初登場だ。『PRIDE』のテーマ曲に乗って、オクタゴンに登場したミルコのカッコ良さったらなかった。うまく言葉に言い表わすことはできないが、久々に新鮮な興奮を格闘技で味わった思いがした。新日にUターンしたUWF勢のように、五味選手とマッハが同じリングで相対した時のように、吉田選手と小川選手は……これは筆者にとっては軽くゲテ物趣味であるが、とにかくそれが現実であることだけで、夢を見るような興奮があった。不謹慎にも、これがヒョードルだったらどーなっちゃうんだろうとも思ったりもする。

試合のほうもご存知のとおり圧勝である。ミルコが試合後のインタビューで「驚いた」と言っていたように、相手は完全にビビッて腰が引けた状態で逃げまくった挙げ句、最後はマウントパンチで仕留められてしまった。まるで、ミルコが『PRIDE』参戦当初の試合を見ているようだった。UFCの選手もまず「ビビッて下がらない」というところから始めなければならないのか?

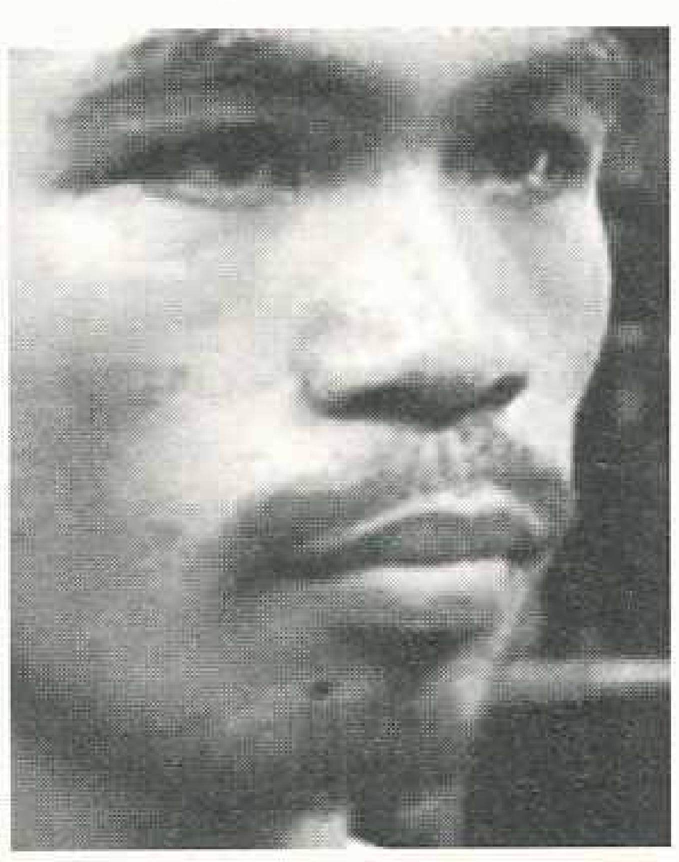
ミルコの強さは衝撃であった。が、しかし、試合内容だけでいうと、ミルコ以上に驚かされたのは、同じくこの日UFC初参戦となったランペイジ・ジャクソンであった。この日解説を務めた宇野薫選手も言っていたが、ランペイジの技術の進歩は驚くべきものがあった。リラックスした構えから的確にパンチが出るボクシング技術。そして、何よりフィニッシュとなった、左腕で相手の頭を固めての右パンチは目を見張るものがあった。この技術は、ダン・ヘンダーソンやランディ・クートゥアーが得意とし、新しい技術ではないが、ランペイジのそれは、フック、アッパーと打ち方、散らし方がじつに的確スムースで、相当練り込んであると感じられた。最後は固めた相手のバイタルゲージを削り取るようにKOし、ダウンの仕方が技術の斬新さを表わしているとすら感じられた。

この二人の他、アンデウソン・シウバは現在ミドル級のチャンピオンであり、UFCが元『PRIDE』の選手に席巻されるのは時間の問題のようにも思える。改めて『PRIDE』の選手の実力を目のあたりにすると、この日本という小国が、総合格闘技において、いかに特異な状態であるのかを実感する。格闘技ファンとしてはじつに幸せなことだ。その奇形状態ともいえる前衛的日本総合格闘技界に置いても、ミルコとヒョードルは特別な存在である。今後、ミルコがアメリカに衝撃を与えるシーンを見られたらじつに痛快である。期待。

それにしても、我らがWOWOW格闘技中継が、こんなにうまく噛み合ったのは初めてではないだろうか?

開局当初、タイソンを目玉としたらタイソンが収監され、第2次UWFを目玉にしようとしたら当然解散し、呪われているとしか思えなかったWOWOW格闘技中継がいま完全に追い風状態だ。UFCは新たなスポーツのトレンドになる気配であり、そしてもう一つ中継するボクシングは、魅力的なチャンピオンに溢れ、ベースボール・マガジン社が『最強の世界王者は誰だ!』などというムック本を出すほど、アメリカだけじゃなくヨーロッパを巻き込み、ボクシングは世界的なブームになりつつある。その原動力の一人といえば、フィリピンの英雄、マニー・パッキャオ(愛称パックマン!)である。そのパックマンはあの馳浩にそっくりなので、プロレスファンにもぜひ注目してもらい、UFC共々ボクシングも盛り上がったら、WOWOWスポーツファンの生粋の男子は嬉しいのである。

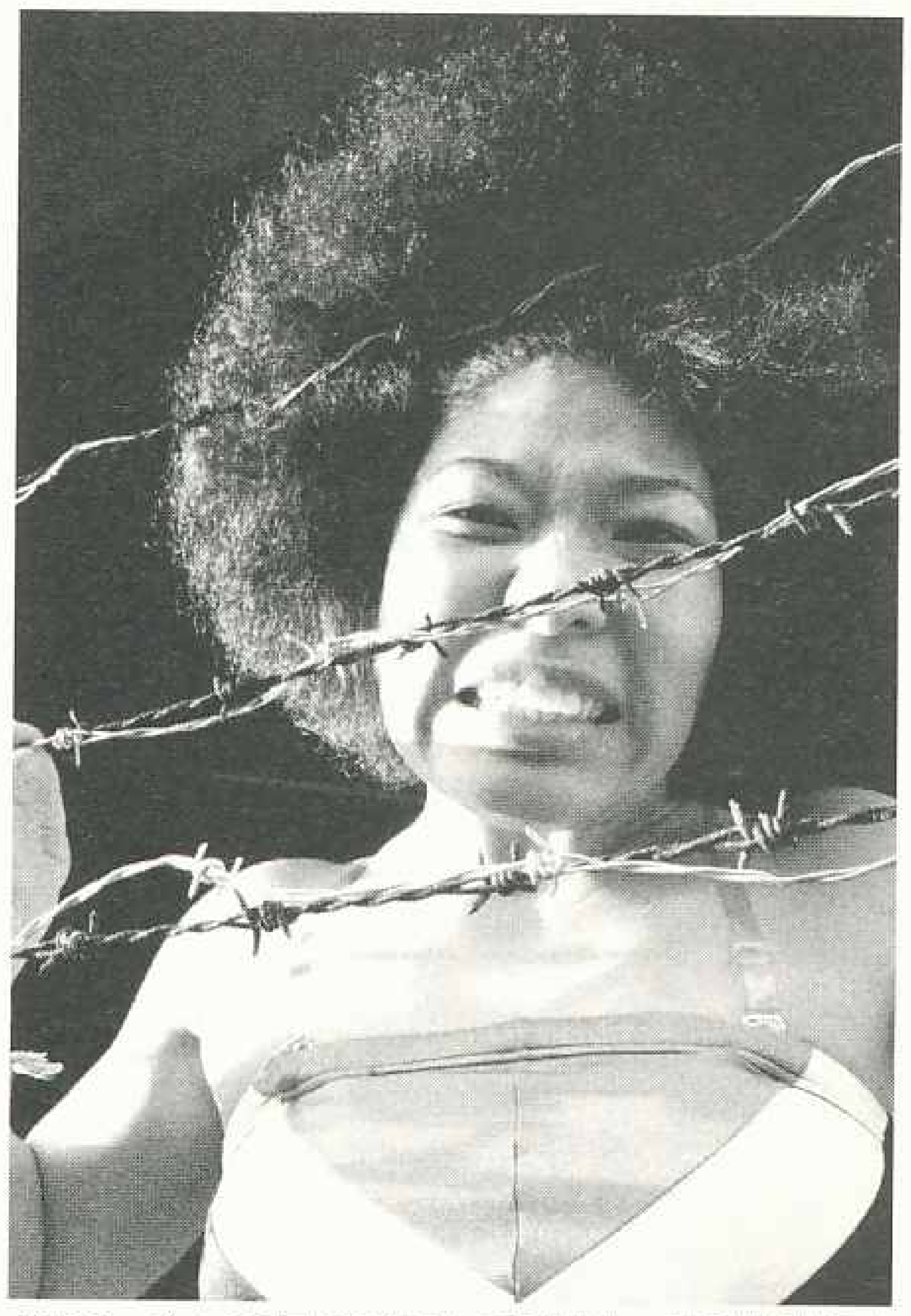
【P.S.】井上編集長が亡くなられたことを、恥ずかしくも先月号の本誌で知りました。そしてその記事で、生き方・暮らしぶりに非常に感銘しました。井上編集長もどうやらWOWOW格闘技ファン。一度、喫茶店トークごっちゃんになりたかったです。ご冥福をお祈りいたします。



見てみぃ、これが本文中に出てくるマニー・パッキャオのどアップだ。たしかに馳先生に似てますね。『kamipro』読者はしっかりメモしてください!

イナズマKの ハードコアドージョー Special

木村響子といえば、アフロのシングルマザーレスラー！　だが、同時に男子も恐れおののく、大日本プロレス名物〝蛍光灯デスマッチ〟に自ら参戦中の世界初（？）の女性デスマッチファイター志望者でもある。今回はそんな彼女を直撃！



きむら・きょうこ■1977年3月19日生まれ。神奈川県横浜市出身。92年にFMWに入団するも約8ヵ月で退団。海外を放浪し、結婚、出産、離婚を経て02年にJWPに入門。05年にはフリーとなり、06年6月4日に大日本プロレスにて念願のデスマッチデビューをはたした。身長164cm、体重62kg。

ハードコアなシングルマザー!! 木村響子の〝デスマッチ子育て論〟

——まず〝デスマッチ大好きっ子〟な木村さんがそもそもプロレスを好きになったきっかけを教えてください。

木村　中学のときに深夜のテレビで、たまたま全日本プロレスの最強タッグの名場面の映像を観たんです。（ザ・）シーク様がテリー・ファンクの腕をフォークで刺してるのを見て「なんじゃ、こりゃあ！」って凄いカルチャーショックを受けたんです。それで「いい仕事だなぁ～」と思って（笑）。

——凶器攻撃を見て「いい仕事」！

木村　ええ。そこからはプロレス全般にハマりましたね。

——で、92年には15歳でFMWに入門されるんですよね。

木村　私は女子校だったから、同級生でプロレスの話がわかる人がいなかったんです。「レスラーになれば、毎日プロレスの話ができる」って思っちゃったんです。

——プロレスの話をするために、プロレス入り！　そこでFMWを選んだのはデスマッチがあったからですか？

木村　はい。いろんな団体を観たけど、最初のカルチャーショックに一番近かったんです。だから有刺鉄線を張ってるだけで、ドキドキしたり（笑）。

——ダハハハ。同期は誰がいましたか？

木村　田中（将斗）くんと（五所川原）吾作くんと中山（香里）、石倉（由加利）ですね。

——うぉー、弾丸戦士と同期!!

木村　田中くんはヒマさえあれば練習して、吾作くんはヒマさえあれば寝てましたね（笑）。

——イメージどおりです（笑）。その頃のFMWで、印象に残った選手は？

木村　シーク様にサブゥーさん、（タイガー・ジェット・）シンさん親子。セコンドついてるだけで、毎日メチャ楽しくて。シンさんにサーベルで殴られてもうれしくて（笑）。

——ワハハハ！　でも、練習生のときに辞めちゃったんですね。

木村　腰をケガして練習ができなくて、もうダメだと思って辞めちゃいましたね。

——そのあとメキシコ、インドネシアと海外を放浪された、と。

木村　メキシコに4ヵ月いたあと、いろんな国を見たくなってインドネシアに行ったんです。そこで現地の人と結婚して居着いちゃって……。

——現地の方と結婚！　それも驚きですが、そのあとお子さんを産まれたんですね。

木村　ええ。子どもが産まれるから、日本に戻ってきたんですが……子どもが3ヵ月の頃にスパッと！　離婚したんです。「この人と一生はいられない！」と思って。

——ダハハハ！　また凄い決断力ですね。

木村　そういうときは即決！　ですね。

——そのあとJWPでレスラーに復帰するんですよね。

木村　ええ。自分では、プロレスをあっけなく挫折したのが、ずっと引っかかってたんです。まだ25歳だったから、「これが最後のチャンス！」と思い立ってしまって。

——思い立ったら止まらないタイプですね。

木村　でも子どもはまだ保育園だし、生活だって厳しいんですよ。でも私は「やりたい！」と思ったら、「やるためにはどうするか？」と考えちゃう、中間がないんです（笑）。

——いきなり「イチか、ゼロか」の二択になる、と。

木村　でもシングルマザーの人は、受け身型より、私みたいな攻撃型が多いと思うんです。受け身の奥さんってひどい状況でも相手と別れないけど、あっさり離婚できる人は踏ん切りがいい。シングルマザーの友だちはみんなパワフルですもん！

——そして昨年、念願のデスマッチ参戦を果たしたわけですね。

木村　デスマッチがやりたくて、フリーになって大日本プロレスの登坂営業部長を紹介してもらったんですけど……試合に出させていただくまで半年はかかりましたね。

——でも、デスマッチ好きとはいえ、恐怖心はなかったんですか？

木村　実際、蛍光灯デスマッチのリングに上がったら、もう凄いアドレナリンが出まくって、「怖い」って感情はなかったです。もちろん痛みだけは鋭いんですけど……なんかもう〝夢の中〟って感じですねぇ。

——〝夢の中〟！　でも、「女の人なのに大丈夫なのかな？」って心配してしまいますけど……。

木村　もうお嫁にもいったし子どもも産んだんで、心残りはないんです！（キッパリ）。

——ワハハハ！　女の人生の重大事を済ませてますもんね（笑）。でもお子さんは心配してません？

木村　最初、娘に蛍光灯を見せて「ママね、これでバシバシ殴り合う試合をするの。たぶん血もたくさん出るけど、観に来る？」って聞いたら、「応援したいから行く！」って言ったんです。……まぁ、最初は大泣きしてましたけど。

——そりゃそうですね（笑）

木村　でも、それも〝慣れ〟だと思うんです。二回目のデスマッチのときは子どもが「泣かなかったよ！」っていうから、「偉いじゃん！」ってほめたら、「泣かなかったら、おばあちゃんがメモ帳買ってくれるっていったの！」だって（笑）。

——ダハハハ！　物につられましたか（笑）。

木村　そういう信頼関係も、試合のたびに私が無事に帰るから築けるんですね。だからケガには人一倍注意してます。

——でも子どものトラウマになったりとか、心配しませんか？

木村　「子どもにプロレスなんて、人格形成に悪い」ともいわれるじゃないですか？　でも世の中にはバイオレンスはあるし、プロレスを観て暴力的になるんじゃなく、「痛いことはやってはいけない」とか、「卑怯なことはしちゃいけない」とか学べると思うんですよね。

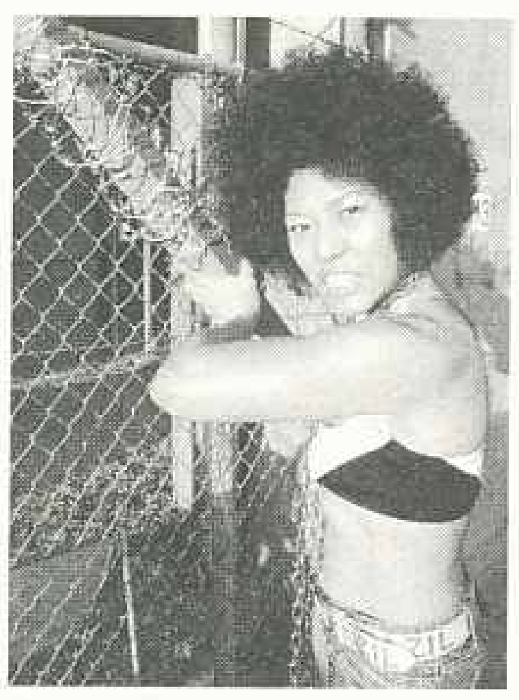
——確かに格闘ゲームより、目の前で殴り合ってるほうが学ぶことは多そうです。

木村　デスマッチをライブで観るのは、精神的にもいいと思います。フラストレーションを持ってる子もスカッとするだろうし。

——デスマッチを通じて子育てもできる！

木村　ええ。引きこもりの人も私のデスマッチを観に来てほしいですね（笑）

——まさに「母は強し！」ですね。今日はありがとうございました！



昨年、7月24日にはアブドーラ・小林と蛍光灯デスマッチでシングル戦も実現！　大日本の埼玉・桂スタジオ大会ではすっかり〝顔〟な活躍ぶり！

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

萌えろー！（アニマル浜口ときこうでんみさを足して2で割ったふうに咆哮）。というわけで今回のゲストは元全日本女子プロレス・平成2年組の金村志保さん（当時・中見川志保）。プロレスと他ジャンルの融合興行『RING』を手がける女社長にお話をうかがってきました！

掟　『RING』は、なぜこういった特殊な興行スタイルを？

金村　K―1とか『PRIDE』はブームと言われているのに、なんで、いまプロレスはブームじゃないんだろう、プロレスブームってどうやったら起きるのかなって思って始めましたね。

掟　プロレスブームを起こそうと！

金村　うん、してますね。プロレスおもしろいのに、なんで一般の方が観なくなったんだろうって。私はプロレス好きなんですけど、たとえば1試合目から7～8試合目まで観てると飽きちゃうんですよ（笑）。

掟　よっぽど好きな人じゃないと興行に行って全試合観てられない、と。

金村　一般の女の子を誘って観に行っても、たいがい3試合目で「帰りたい」って言うんです。それをずっと見てきて、この子たちをファンに取り込まなかったらプロレスはダメなんじゃないかなと思ったんですよ。ホントに東京都内でコアにプロレスを観てるファンって1万人いないと思うし、しかも現状のプロレスってだいたいがプロレスファン向けに作られてると思ったんですね。私はそこを追求していくと頭打ちだなって思ったんですよ。ブームを作っていうことは、何万人、何十万人っていうところに知らせないとブームにならない。そのために格闘技とかプロレスに触れたことのない世代、若い女の子が好きそうなものをまず集めようと思ったんです。

掟　それでBMXだとかダンスとかがプロレス興行とワンセットなんですね。

金村　その中にうまいことプロレスを組み込んだら、もしかしたら女の子たちが反応するかもしれない。ダンスに興味があって観に行ったところでたまたまプロレスを観て「プロレス、ヤバいよ！」っていうことになる可能性もなくないかなって。

掟　蝶野言うところのノーTVの時代ですからね。十代のギャルが見るための入口はたしかにあったほうがいいでしょうね。

金村　何が一番プロレスはダメかっていうと、知名度。ぶっちゃけ「知らない」って言われるんですよ。長州力さんの興行に行ったら、若い女の子が「見て見て、あの人、長州小力にソックリ」って言ったんですよ。逆なんです。そこは正しくないなと思って。

掟　元ネタよりモノマネのほうが有名な時代ですからね。お笑い業界っていう開かれてる業界があって、そこからファンを取り込んでいこうと？

金村　そうそう。だから前回、桜塚やっくんとか長州小力とかも呼んだのは、そこからプロレスを観るきっかけになったらいいなって思ったんですよ。

掟　『kamipro』の読者は小力と力の違いはさすがに全員わかってると思うので（笑）、ちょっと昔の話をお聞きしたいんですけど。金村さんの同期にはぬまっち（沼田三絵美）や李由紀がいて、タイからのプロレス留学生としてパンティップ・ソンティタムとビラスィニー・ソンティタムも来てて。パッと見、凄いメンツですよね。

金村　「私、同期二人タイ人なんだ！」みたいな（笑）。新人の仕事とか、あの頃凄い多くて。それも平成元年組が十何人でやってたことを5人でやれ、と。そのうち二人はタイ人だから、ほぼ3人でやれ、みたいな（笑）。

掟　雑用するのに通訳が要る（笑）。



第16回 金村志保（『RING』代表）の巻

かねむら・しほ■平成２年組として全日本女子プロレスに入門。デビュー後、W★INGの巡業に参加しているときに金村キンタローと知り合い平成3年に結婚＆引退。離婚後にダンスやお笑いなど様々なパフォーマーとプロレスのコラボイベント『RING』を立ち上げ、2005年10月10日に六本木ヴェルファーレで旗揚げし、1000人以上の観客を集める。出演者は毎回100人近くという、この『RING』は現在まで4大会開催し、3月9日には後楽園ジオポリスに初進出！

金村　そうなんです（笑）。日本人だったら一言二言で伝わることを、ジェスチャー入りで5分ぐらいかけないと伝わらないから、全然仕事にならなくて。

掟　しかも日本人の同期二人とはモノ凄く仲悪かったんですよね。ぬまっちの顔面を青アザができるほど殴ったりして。

金村　ハハハハハ！　リング以外の喧嘩のほうが多かったですね（笑）。でも毎日雑用をこなすだけで精一杯で、あの頃の記憶はあんまり残ってないです。

掟　リングスターフィールド（秩父山中にある全女の合宿所兼保養施設）に行かされたこととかも？

金村　ああ、ありましたね。会長に「おまえ、今日から山」って言われて（笑）。で、「帰ってこい」って言うの忘れるんですよ、会長が。で、「中見川はどこ行った？」って言いだして、「会長、3週間前に山に行かせたじゃないですか」。「あ、そうだった。そろそろ帰せ」って。

掟　カール・ゴッチのヒンズースクワットみたいですね（笑）。「やれ」って言って止めさせるの忘れるっていう。で、その全女を2年間ぐらいで辞めちゃうわけですよね。

金村　彼氏ができて、その人と結婚しようと思いました。

掟　金村キンタローさんですよね。

金村　相手がプロレスラーだったので、その人を支えていく人生もいいのかなって思ったんです。自分が表に出ないで支えていくのもプロレス愛なのかなって。

掟　この人の人生のほうがプロレスラーとしておもしろそうだと。

金村　そう。「この人はブレイクする」って思ったの。まだW★ING時代の全然売れてない時代ですよ。自分はアジャ（コング）さんにも北斗（晶）さんにも勝てると思わなかったし、かといって井上貴子さんとかアイドル路線も無理だろうと思って。強くなるか、かわいいかじゃなかったとき、ある程度まではいくかもしれないけど、ブレイクしないだろうなって自分でうっすら思ってたんです。

掟　当時は男ができたら丸坊主になっちゃうような時代ですからね。

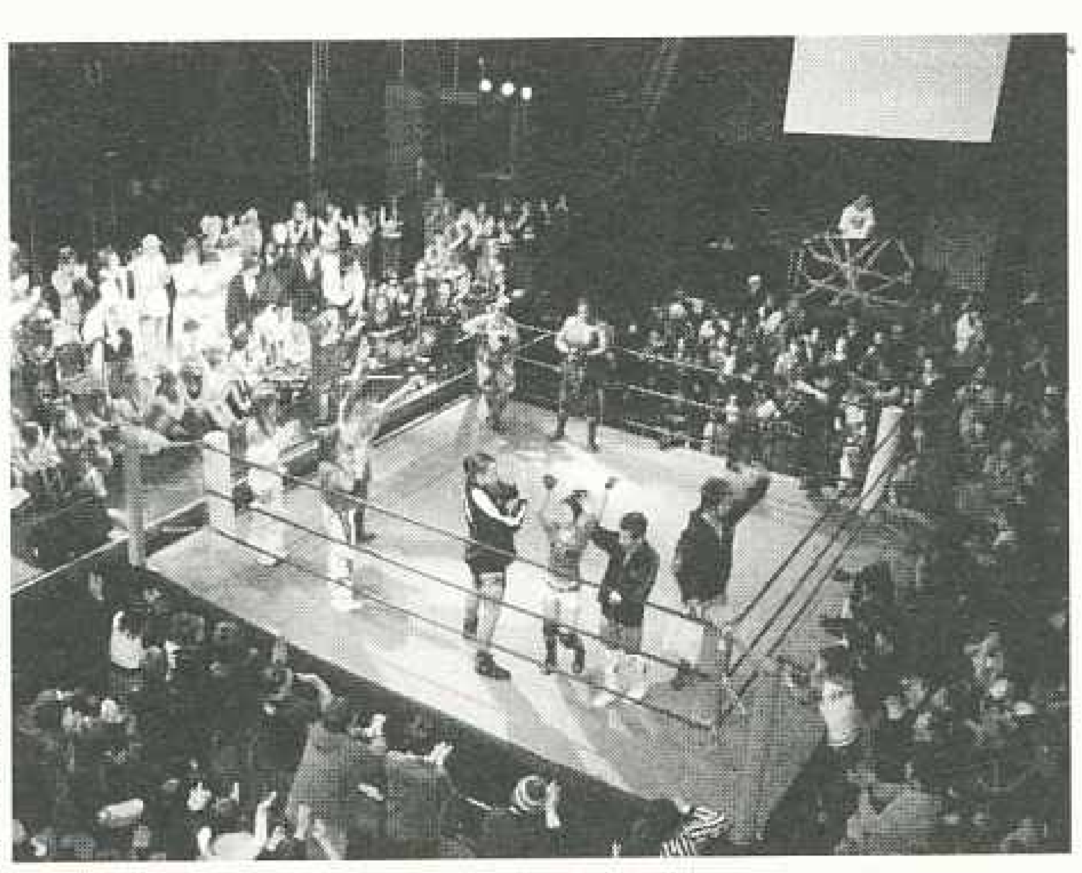
金村　そういう時代だったから怖かったですもん。決断は早かったです。

掟　いまは離婚されてますけど、金村姓のままですよね？

金村　中見川に戻すことで一番嫌だったのは、画数が悪いんですね。それを元旦那に言ったら「じゃあ金村を名乗っときゃいいじゃん」って言ってくれたので。次に結婚して名前が変わるまでは金村志保です（笑）。

掟　では次はいい画数の人と結婚できるよう祈っておきます！

金村　ハハハハハ！　どんな締めですか！



2月4日には渋谷『O―EAST』に初進出した『RING』。アジャのDJ初挑戦や「ダンス甲子園」2連覇のダンサーら多数のパフォーマーが登場した今回も超満員に。次回大会は3月9日（金）後楽園ジオポリスにて19時開演。チケットは前売2000円にてローソンチケットにて発売中・0570-084-003（Lコード35737）詳細はHPでチェック【http://ring2005.com/】

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■男気啓蒙バンド『ロマンポルシェ。』のVo.＆説教を担当。著書『男道コーチ屋稼業』（マガジンファイブ刊）、『説教番長・どなりつけハンター』（文藝春秋刊）。ロマンポルシェ。としての最新CD『男は橋を使わない』も発売中。その他の出演情報＆詳細は掟ブログを参照！【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

第2回

掣圏真陰流・初代タイガーマスク

佐山サトル

『僕の好きな映画、ベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……このコーナーはジャンルにとらわれない、“俺流のこだわり”をファイターや関係者にうかがって、独自のベスト5を選出! 第2回目のゲストは掣圏真陰流を率いる佐山サトル総監の登場! 先人の武士道精神を尊ぶ、佐山総監が厳選してくれた映画ベスト5に刮目せよ!

1 『ムルデカ 17805』

2001年/藤由紀夫監督作品



これが僕のナンバーワンです。これは大東亜戦争が終わったあとに、インドネシアに残った日本人兵士たちがインドネシアの独立戦争で闘ったことを描いた映画で、これこそ歴史の真実を見事に突いている映画ですよ。インドネシア軍が当時、B・C級戦犯として捕らえられた日本兵を救い出して「俺たちと闘ってくれ」という場面があるんですが、そこには本当にグッときましたねぇ。こういった大東亜戦争の英雄伝は長いあいだアメリカによって隠され続けてきたから、そういう意味でもこれは歴史の第一歩的な映画だし、これからはこういった映画がもっと増えていくといいでしょうね。

2 『東京裁判』

1983年/高木俊郎監督

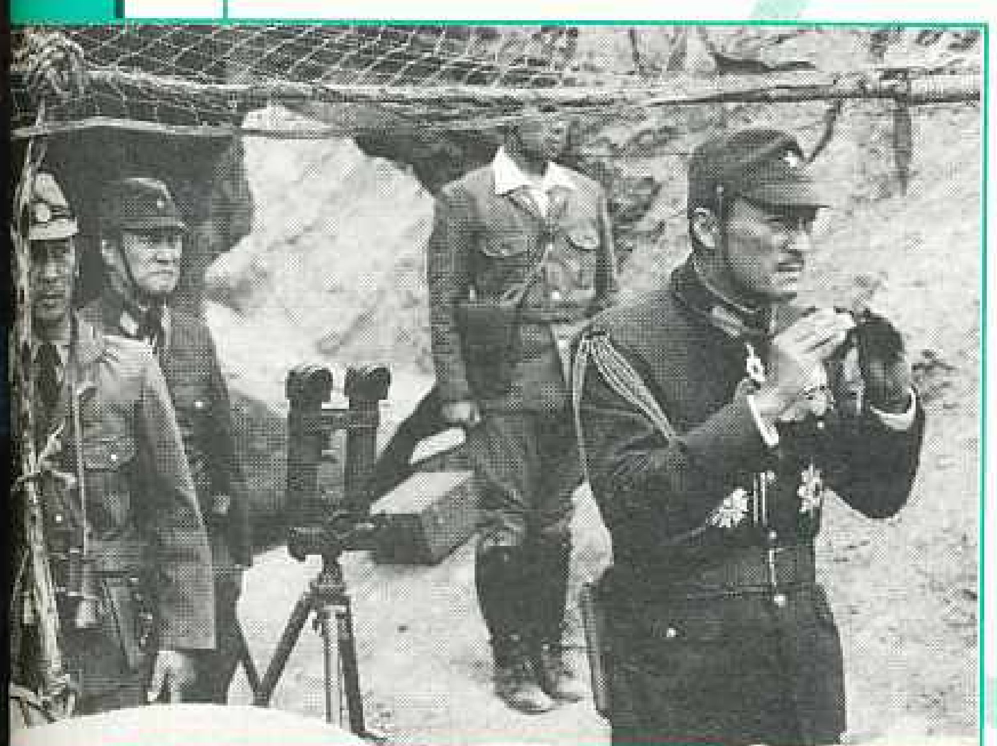


4時間半以上の凄～く長い映画です。大東亜戦争後に行なわれた東京裁判こと極東国際軍事裁判のドキュメントですね。裁判でA級戦犯に問われた東條英機（元首相、元陸軍大将）の堂々とした言動や、東條英機とアメリカのキーナン主席判事が日本の弁護士を通じて、取り引きをしているのがわかるところも興味深いです。この東京裁判は「茶番じゃないのか?」なんて言われたけど、ベン・ブルース・ブレイクニーという日本側の弁護士が素晴らしい弁護をしてくれる場面も見どころですね。日本側の視点でよくここまで映像を捉えてくれたなと思います。

3 『硫黄島からの手紙』

2006年

クリント・イーストウッド監督作品



©2006 Warner Bros. Entertainment Inc.and DreamWorks L.L.C.

じつは僕はまだ観てないんですよ(笑)。でも、みんなが「いい、いい」と言うから、この映画を3位にしようかなと。間違った言説でなければ、こういった機会に硫黄島のことを知ってもらうのはいいと思いますし、当時の硫黄島の2万129名の兵士たちも含めて日本が徹底抗戦してくれたことで、アメリカ側が「もう戦争はやめよう」という内容の講和条約を提示してきた。もし日本が簡単に負けていれば、日本はまだアメリカの植民地になっていたかもしれないし、ヒドい人種差別があったかもしれない。我々は戦没者にもっと感謝しなければいけないと思いますね。

4 『凛として愛』

2002年/泉水隆一監督作品



この映画も先人たちの偉大さを感じますねぇ。これは日清戦争から大東亜戦争までの歴史ドキュメント映像です。当時はフィリピンが400年間ほど植民地で、インドネシアも330年間ほど占領され、中国も半分くらい植民地化されたりして、アジアでは日本が残されているような状況だった。日本人も「敵国がアジアでどんなことをやっていたか?」を知っていたし、小学生だって「俺たちがアジアを守る」という気概を持っていた、そういうことがよくわかる映画だし、植民地の問題では日本が悪く言われるけど、そういった状況を打破する歴史の真実が描かれてます。

5 『日本かく戦えり』

1965年/高木俊郎監督



これは日本軍が大東亜戦争をどういうふうに戦ったのか? を忠実に描いたドキュメント映画です。たとえば日本の特攻機がアメリカ艦隊を見つけたとき、2000メートル上空から急降下して、海面スレスレで500メートル手前から特攻してゆくんですが、普通の水平飛行だとスピードが出過ぎて水平を保つのが難しい。水平に保つために、目を見開いていかなきゃいけないから、“モルヒネ”みたいな麻薬を使って特攻するわけなんです。そういった知られていない戦時中の裏側が映し出されている貴重な記録映像ですね。

若いときは『ローマの休日』なんかも観ましたけど、僕からしたら、映画なんてのはほとんどが宣伝!


ほとんどはアメリカを中心とした“宣伝戦略”なんですよね。だから僕は映画館には行かないし、映画も“催眠”の一種みたいなものですから。集中して仮想現実の世界に入っていく、という意味では映画も“催眠”ですよ。ハリウッドはセックスと音と臨場感で“催眠”にかけるんです。

『硫黄島からの手紙』にしてもそうだけど、いまアメリカから没収された850冊以上の大東亜戦争の真実を書いた記録が日本に返ってきてるんです。これから日本軍の真実や英雄談が明らかになっていくと思う。そこは期待したいですね。

僕にとっての映画というのは、勉強する場であり、意識を高揚させるために利用するんです。そういえば、知り合いに「オーディションを受けてくれ」と頼まれて、映画『ラストサムライ』のオーディションに合格したこともあったけど、海外に2ヵ月間も拘束されるということで断ったんです。それに「最後のサムライは大東亜戦争の戦士たちだろう!」という強いこだわりもあったしね(笑)。



さやま・さとる■1957年、山口県下関市出身。初代タイガーマスクとして一世風靡した天才レスラーであり、修斗創始者として、格闘技界にも多大に貢献。真のストロングスタイルを追求するために、06年にリアルジャパンプロレスを旗揚げ。



PRIDE.33
THE SECOND COMING

第二次
ラスベガス攻略戦

PRIDE存続を賭けた闘いへ再び!!

生き残るためにはアメリカ開拓しかない!!　巨大なPPV市場を背景にしたUFCの怪物化、潤沢な資金をもって世界制覇を目論むボードッグ、ほか、急上昇するMMA人気を当て込んで、次々に巨大資本が参入しているアメリカMMAシーン。ファイトマネーの高騰、それに伴なう選手争奪戦。『PRIDE』はこの“バブル戦争”を勝ち抜くことできるのか？　昨年10月大会に引き続き、二回目の開催となる2.24ラスベガス大会。その行方を追う!!



「オレはもう、世界しか見えねえ!!」

PRIDEライト級チャンピオン

五味隆典

2.24『PRIDE.33』でアメリカ本土・初上陸決定!!

PRIDEの喧嘩番長 最強の“学ラン”を背負って、いざ、ラスベガスへ

世界に喧嘩を売ってやる!

“PRIDEの番長・五味隆典”が、ついに世界へ喧嘩を売りにいく! 地球規模でのMMA大戦が白熱するいま、「なんぼのもんじゃい!」とばかりにPRIDEライト級チャンピオンがついに2.24『PRIDE.33』でラスベガスへ進出。国内外で飛び交うさまざまな“雑音”を尻目に、五味の頭にはもはや“世界進出”という言葉しかなかった。

聞き手/ジャン斉藤　撮影/菊池茂夫　写真協力/April Pishna



“アメリカの暴れん坊”ニック・ディアスと対戦決定!!

この日、『kamipro』編集部の取材陣は練習が行なわれている午後8時すぎに五味隆典のラスカルジムにお邪魔したのだが、なんと! そこにはプラスチックのバットを振り回しながらジム生を指導する〝番長〟五味隆典の姿があるではないか!! 五味がバットをプラプラちらつかせていたから……かどうかはわからないが、この日はジム生もかなり熱の入ったスパーリングを展開。本インタビューはそんな熱気ムンムンのジム内で収録されたものであるが、初のラスベガス進出を一ヵ月後に控えている当の五味はというと、大晦日の快勝を祝した新年会ラッシュだったのか、若干ながらお疲れモードの表情でインタビューに答えてくれたのだった——。

——五味さん! あいかわらずバットが非常に似合いますね。

五味　ああ、これ?

——たしか、前回のインタビューもこんな会話の始まりでしたけど(笑)。そのバット、プラスチックですけど、五味さんが持っていると、物騒な凶器に見えて仕方ないんですよ。

五味　これを持って指導すると違うんですよ、みんなの動きが。魔法のバットだね、魔法!

——練習生からすれば、リアルな〝恐怖〟ですけどね。

五味　いいの。オレにとっては疲れたときの魔法の杖だから(バットでマットを突きながら)。

——ハハハハ! それで、ずいぶん前の話題になっちゃいますが、今日は『PRIDE男祭り』のことからうかがおうと思うんです。

五味　はいはい。

ボクは人に何か言われると もう、ダメなんですよ。 「いま宿題しようと思ったのに！」 ってなっちゃう



——それにしても、石田（光洋）戦は〝圧倒〟という二文字がふさわしい見事な内容でしたね。

五味　う〜ん、なんだろうなあ。まあ、海外進出ですから、ボクは。

——は？　海外進出？

五味　はい。これからはそのテーマに切り替えないといけないですから。いままでは、ボクを追ってきた選手と試合をしてきて、ほかにもみんな〝ライト級の顔〟になろうとして対戦要求してきますけど、ボクはもう海外に目を向けたいんですよね。

——確かに、五味さんはずっと対戦要求されてばっかりですもんね。そこは番長だからしょうがないんでしょうけど。

五味　毎回そうなっちゃうんですよね（苦笑）。ボクには一番やりたいことがあるけど、ただ、向かってくるならこっちもやるから。

——試合前の煽り映像でも、〝喧嘩上等の五味隆典〟が浮き上がっていて非常に魅力的で。「仲良しこよしやってんじゃねえ」っていう挑発的なセリフにしても。

五味　……あれはですね、ちょっと違うんですよねえ。

——え？　何か違ったんですか？（笑）。

五味　う〜ん、なんつったらいいんだろ。あれって、前にボクがいた木口道場のチームに言ってることなんですよ。とくに帯谷（信弘）に向けての言葉なの。

——えっ⁉　そうだったんですか！

五味　うん。「なぜ石田選手たちみたいに団結してできないんだ？」っていう思いがあったんですよね。もちろん石田選手たちに対しての言葉なんですけど、心の中では「なんでああいうふうにできないんだ？　みんなでサポートし合ってやれよ」って。焼肉食うだけ食って、オレにわがまま言って、何を考えてんだって……。

——……しかし、五味さん。インタビューすると、いつも焼肉の話が必ず出てきますよね。テーマと関係ないときが多いから、削っちゃってますけど。

五味　だって、食ってばっかなんだもん！　アイツら（笑）。

——食いますか、とにかく（笑）。

五味　さんざん食うの！　オレも早くご馳走してもらいたいのにさあ……。

——それはともかく。五味さんって、ファンが想像している以上にそういう横のつながりを大事にしている面がありますけど、練習生だけのいまのジムの状況だと、精神的には孤独なんじゃないですか？

五味　いやいや、確かにプロの選手はいませんけどね、アマチュアの子がいいスパーリングできるようになってますから。自分の10年前を見ている感じだし、なんかね、自分が教えて伸びていくのは、凄く楽しいですよねえ。

——「長」という立場ではなく、一人のファイターとして、自分をどう捉えてるんですか？　たとえば、石田戦なんかにしても。

五味　そうですねえ。大晦日はあまりにも〝雑音〟が多かったですね。石田選手の評価ですとか、自分のファイトスタイルとか、いろんな〝雑音〟が。

——要するに五味さんが「苦戦するんじゃないか？」という〝雑音〟。

五味　……「そんなわけねえだろ‼」って感じなんですけど！（笑）。

——ハハハハ！　その〝雑音〟に対する怒りがとてつもないエネルギーに化けたんですかね？

五味　ボクはね、人に何か言われるとダメな

んですよ。ほら、よくあるじゃないですか。「いま宿題しようとしたのに！」っていう。

——「いまやろうとしてたのに、うっせなあ」って感じですか（笑）。

五味　そうそう。それでこんな人間になっちゃったわけなんですけど（笑）。結局、全部自分に跳ね返ってくることですから。自分の責任でやってますからね。

——繰り返しますけど、その〝雑音〟が燃料になったということもあるわけですよね。

五味　でもさあ、みんな遠回しに言うじゃないですか。（しかめっツラで）ハッキリ言えよ！　って。

——怖いなあ（笑）。でも、試合後のマイクでは一転して笑顔で「……強すぎるんだけど」ってこぼしてましたよね。

五味　1分ちょいで終わりましたかね。自分でもビックリしちゃった（笑）。

——なんて強いんだ、オレ様は！　って感じで（笑）。もう一つ、マイクアピールで印象的だったのが『PRIDE』やめらんないね！」という力強い言葉だったんですけど。

五味　まさかあそこでお客さんの気分を悪くするようなこと言えませんし。

——ハハハハハ！　何を言い出してるんですか！

五味　いやいや、へんな意味じゃなくて。マイクをするにしても、その場にいるお客さんを楽しませないといけないわけですから。去年の『PRIDE』にはいろいろネガティブなことがありましたけど、それでもお客さんが瞬間的に興奮するような内容になったのはよかったですよね。



五味のラスベガス進出が正式に発表された1月23日の会見で、五味は「このあいだの試合（石田戦）みたいに一気に潰したい」と殺気満点のコメント。アメリカ出身のニック・ディアスが相手、という完全アウェー状態の中、五味はどんな闘いを繰り広げるのだろうか。

〝UFC参戦〟の記事？ まあ、それだけ周りが夢を持って見てくれてるってことでしょう

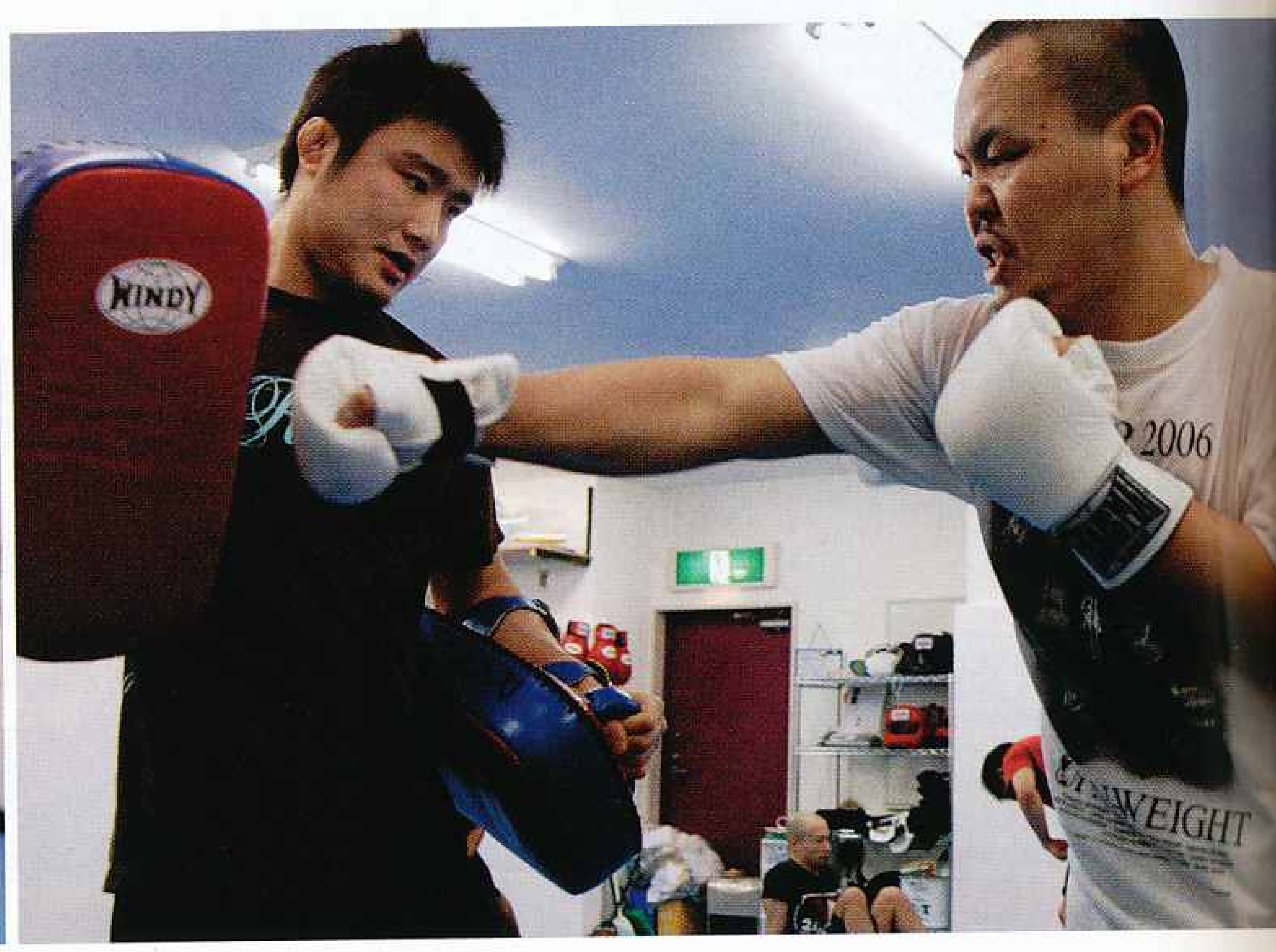
——ボクは、大晦日前の五味さんのインタビューから深読みすると、これで『PRIDE』を辞めてしまうんじゃないかって思ってたんですよ。五味さんの場合って、新しい舞台とか、新しい目標がないと燃えない印象がありますし。そして、最近の新聞報道なんかで「五味隆典UFC参戦」という記事が誌面をにぎわせていて。

五味　ね。なんなんですかね、あれは。

——他人ごとですね、また（笑）。

五味　まあ、それだけ周りの人が夢を大きく持って見てくれてるってことじゃないですか？　ボクは全然、いいように捉えてますね。やっぱりマスコミの皆さんとしては、『PRIDE』でこれだけ結果を残してるんだから、何か新しいことにチャレンジしてもいいんじゃないかというような気持ちでしょ。





——ボクが知りたいのは、五味さん自身の気持ちというか。

五味　そのへんはじっくりやろうと思ってますね。もちろん『PRIDE』だって、スタッフの皆さんは1ミリでもいい舞台になるように努力してくれてますしね。それにボクのことも〝PRIDEの顔〟とまで言ってくれるようになりましたし、みすみすいままで作り上げてきたものを手放しても仕方がないわけですから。だから一番いいかたちで自分が現役を続けられるようにしたいと思ってます。

——なるほど。じゃあ、つい最近、PRIDE無差別級GP王者になったばかりのミルコ・クロコップ選手がUFCに参戦したことについてはどう思いますか？

五味　まあ、ミルコ選手は外国の選手ですし、それこそ『PRIDE武士道』からヘビー級、スーパーヘビー級と闘ってきましたから。新たなヘビー級選手がいる場所に行くっていう気持ちもわかりますしね。闘うことが好きなんでしょ、単純に。

——五味さんは、将来的なことって本能的に判断するほうなんですか？　それともじっくり考えて答えを出す感じですか？

五味　いろいろだと思います。タイミングであったり、もちろんボクが『PRIDE』に出会えたのも幸運なタイミングでしたし。いままでもやりたいようにやらせていただいたんですけどね。ありがたいことに。

——では、今年はライト級GPが開催されますが、今後の目標にはなりえますか？

五味　う〜ん……。

——チャンピオンという立場からすれば、「オレが出る必要はねえだろ！」っていう感

覚があるんですかね。

五味　できれば、海外と、夏と大晦日だけに出たい。大晦日にGPのチャンピオンとやる。そういったかたちがいいですね。

―たとえば、GPのシード出場は？

五味　う～ん……。

―あまり気が乗らない。

五味　まあ、試合は試合で同じことなんですけどね。

―番長からすれば、「GP？　前にシメただろ！」というか（笑）。チャンピオンなのにほかの選手と並ばされるのがイヤっていう気持ちがあるんですかね？

五味　並ばされるのがどうっていうことは思いませんけど、ちょっと『PRIDE』の場合、試合数が多いでしょ？

―GPを勝ち進むとなると、隔月ペースで試合しないといけないですよね。

五味　海外と並行することを考えるとね。それに、選手にとって波ってあると思うんですよ。徐々によくなっていく波もあれば、沈んでいく波もある。

―……いまは、だいぶ気が抜けてるような印象がありますけど、大丈夫ですか？（笑）。

五味　1月はね、私生活で飛ばしすぎたところはあったけど（笑）。大丈夫ですよ。トレーニングは（1月の）9日から始めてますし、いま一気に頑張っちゃおうかなって思ってるんでね。だから（マーカス・）アウレリオ戦のような間違いをやらないように。もちろんファンの方も、向こうでもKOしてくれるだろうと思ってるでしょうから、ボク自身にとっても、ここはちょっとKOで勝たなきゃいけないと思ってますから。

―ある意味では、ラスベガスの試合も追い詰められたかたちになるわけですよね。

五味　毎試合、追いつめられますけどね。上に行けば行くほど、道も狭まってきますし。追っかけている選手は楽ですよ。まあ、それはそれで楽ってこともないんでしょうけど。ボクの場合、ここで失敗すれば、またふりだしって捉えられちゃいますし。ですから、いつでもギリギリの勝負ですよ。

―そこは、ほかの選手は背負えていないプレッシャーですね。ちょっと話は変わりますが、親友の須藤元気さんが昨年末の『Dynamite!!』をもって引退されました。

五味　ああ、元ちゃんからは試合の一週間前から連絡いただいて聞いていたんですけどね。

―どうですか、親友が引退されたことは。

五味　でも、べつになんとも思わないですね！　試合をやっててもやってなくても関係ないでしょ、元ちゃんの場合は。

―まあ、元気さんの場合は表現する舞台は、リングだけじゃないですし。

五味　逆に「まだやってたの？」って感じですよ。こっちからしてみたら（笑）。

―ハハハハ！　五味さんからすれば、それくらい他分野の印象が強かったという。

五味　でも、あの入場シーンは素晴らしかったですね。いままでで一番よかったなあ。いろんな人にメッセージがあって、新たな目標に向かっていく感じが凄くよかったですよ。

―元気さんのようなパフォーマンスって、やってみたいという興味はありますか？

五味　ボクはやりたいとは思わないですけど、ああいうのは好きですよ。不思議に思うんですよね。同じ人間がねえ……って（しみじみ）。

―で、その『Dynamite!!』のメインに登場した秋山（成勲）選手のことも少しだけ。秋山選手が身体にクリームを塗っていたという反則行為が凄く話題になったじゃないですか。五味さんはこの問題はどう思ってるんでしょうか？



ごみ・たかのり■1978年9月22日、神奈川県出身。第5代修斗世界ウェルター級チャンピオン、初代PRIDEライト級チャンピオン、PRIDEライト級GP2005チャンピオン。PRIDE戦績14戦13勝1敗。バットを振り回しながら弟子に厳しく指導する「ラスカルジム」の長でもある。173cm、72.8kg。

ボクは毎試合追い詰められてますね、上に行けば行くほど

五味　なんとも思わないですよ（キッパリ）。

―なんとも思わない！

五味　絶対に許されない行為ですし、もちろん桜庭選手がもし何か大きなケガをしてたら考えたとは思うけど……。でも、ボクはああいうリングとは関わりなく闘っていきますから。『PRIDE』は競技としてガッチリしているし、『PRIDE』のリングはまったく別ものですから。だからなんとも思わない。

―なるほど。

五味　だから、いまは海外にね、目を向けたいなって。ボクは世界進出しか考えてないんでね。いまはラスベガスのことだけ。

―ちなみにラスベガスという街にはどういうイメージがあるんですか？

五味　それこそボクが格闘技に興味持った頃に、MGMでマイク・タイソンが闘ってたんですよね。ですから、10年あまりでそこまでたどり着けたなって。そういう実感がありますね。

―けっこう感慨深いものがあるですね。

五味　あとはカジノかなあ。

―前回のラスベガス大会では、マッハさん（桜井マッハ速人）がさんざんな目に遭ってますね（笑）。数百万円近く負けたとか。

五味　ねえ。ボクはギャンブルをやらないんですよね。全然わからない。日本でもパチンコも何もやりませんし。ギャンブルは人生だけですね、ボクは。

―人生がギャンブル！　今度の試合は、そういう意味でも重要な第一歩ですよね。

五味　そう。今度の2月をクリアできなければ、アメリカ進出がどうのとかも言ってられませんし。

―アメリカ本格進出を考えるなら、マイクアピールも重要になってきますよね。英語でアピールする五味さんは見てみたい（笑）。

五味　いやいや、あえて英語はやめます。わかる人だけに笑ってもらうっていうのがいいんじゃないですか。

―それもまた不親切ですよ！（笑）。

五味　う～ん。媚びじゃないですけど、「何も気にしないんだね」っていうふうに捉えてもらえばいいですよ。もちろん、「サンキュー！」とか、そういったことは言うと思いますけど。

―ズバリ、五味さんの英会話能力ってどうなんですか？

五味　な～んもない（キッパリ）。だって、日本語も危ないから。

―何を言ってるんですか、いったい（笑）。


五味　本当にそうなんだもん。

―カッコよく言うと、拳で伝えるということですよね（笑）。

五味　そうそう（笑）。そんな感じでいいですか？　ちょっと、みんなとメシを食いにいかなきゃいけないんで。

―ああ、練習終わりなのにすいません！焼肉でもなんでも行かれてください（笑）。

【07年1月30日／都内・久我山ラスカルジムにて収録】



2.24『PRIDE.33 SECOND COMING』Las Vegas

この男がシウバの“絶対政権”を終わらせる!!

Dan Henderson

ダン・ヘンダーソン

「ヴァンダレイに勝つ方法はもうわかっている」

『PRIDE』ラスベガス進出第二弾の目玉、シウバのPRIDEミドル級タイトルマッチの相手に抜擢されたダン・ヘンを米国カリフォルニアにあるチーム・クエストで直撃！ 昨年まで一階級下のウェルター級で闘っていたこともあり、下馬評こそ高くないダン・ヘンだが、本人はこの二階級制覇のチャンスに自信満々。シウバの“絶対政権”を終わらせるのは、この男か!?

聞き手／堀江ガンツ 撮影／乾晋也 通訳／シルク・ド・上杉

――ほぼ半年ぶりに、ダン選手の豪邸にお邪魔させていただきました！

ダン　ようこそ！　たったいま練習が終わったばかりなんだよ。

――お疲れのところすみません！　かなりハードな練習をされていましたが、試合に向けて調子はどうでしょう？

ダン　かなりいいよ。試合まであと3週間を切っているけど、ここまでいいトレーニングができているんだ。試合当日は素晴らしい仕上がりになりそうだよ。

――今回はタイトルマッチということですが、何か特別なトレーニングは積んでいるんですか？

ダン　うん。クリンチ・ワークやテイクダウンの練習をいつもより多くやっているよ。なぜかというと、ヴァンダレイ・シウバというファイターは、KOするのはかなり難しい相手。もちろんKOで勝ちたいとは思っているし、右フックでヤツのテンプルを狙っていくけど、それよりも各ラウンドで確実にポイントを重ねていくスタイルで攻めたいと考えているんだ。もっとわかりやすく説明すると、テイクダウンして上からパウンドを落としてダメージを与えるという試合展開だね。

――確実に勝ちを狙っていくということですね。ヴァンダレイは「ダン・ヘンダーソンが組みついてくるときのバッティングが怖い」と言っていますが？

ダン　（鋭い目つきで）……それは偶然のバッティングということかい？　それとも反則の頭突きかな？

――ヴァンダレイの指摘しているのは……、両方の意味でしょうかね。

ダン　誤解があるようだから言っておくけど、俺はそんな反則をしたことは絶対にない。なぜなら俺はスポーツマンシップに則って闘うことに一番の誇りを持っているからだ。



闘い方はいつもと一緒さ 殴って、倒して、寝技で コントロールするだけだ

――了解しました。ところで、今回は日本での『PRIDE』とは違って、ネバダ州のアスレチック・コミッションが承認したルールで闘うわけですが、その点についてはどのように考えていますか？

ダン　ルールの変更を、多くの選手、関係者はヴァンダレイにとって不利だと考えているようだな。グラウンドでのヒザも使えないし、ストンピングもできない。

――ヴァンダレイの危険な足技を封じられることで、ダン選手のほうが有利になると考えてますか？

ダン　それはどうかな。というのは、いずれにせよ、このゲームで彼が上のポジションを取ることはありえないから、ルールによる問題でもないんじゃないかな（笑）。

――つまり、たとえ通常の『PRIDE』でも俺が勝つ！　ということですね。

ダン　そういうことだね。

――では、ネバダ州ルールだからといって、とくにゲームプランは変わらないということですね？

ダン　実際に闘ってみないとわからないところはあるけど、まあ、変わらないと思うよ。殴って、組みついて、上のポジションを取ってコントロールする。それだけさ。

――それと、この試合はタイトルマッチということで、5分5ラウンドになるわけですが、この長丁場はスタミナ的には問題ないですか？

ダン　まったく問題ないね。試合時間は最長25分ということになるけど、1ラウンドで10分闘うことよりしんどいことはないからね（笑）。

――『PRIDE』のオリジナルルールのほうが全然キツい（笑）。

ダン　おそらく、普段1ラウンド5分でやってるUFCファイターたちが『PRIDE』のリングに上がったら、10分間闘うことがどんなにキツいかわかるだろうね。でも、俺自身も5分5ラウンド、フルにやったことがないからどうなるか。その質問は試合後にもう一度聞いてくれないかな？　もっとも早い段階でヴァンダレイをKOしてるかも知れないし（笑）。

――わかりました（笑）。で、6年前の対戦でも、4点ポジションでの頭部へのヒザ蹴りなしのルールで闘っているんですよね。

ダン　そうだよ。だけど、彼はそのとき反則のヒザ蹴りを俺の頭に入れてきたんだ！

――そういえば、ヴァンダレイが上からがぶった体勢で、ダン選手の頭にヒザ蹴りを入れたんでしたね。あの反則のヒザで、かなりダメージがあったように見えましたけど。

ダン　負けた言い訳はしたくないけど、あそこからゲームの流れが変わってしまった。

――とはいえ、結果的に負けてしまったわけですけど、振り返ってみて何か反省点はありますか？

ダン　あの試合について言えば、試合そのものというよりもコンディションがよくなかったね。試合直前の追い込みで無理をしてしまって、試合当日に実力を発揮できなかった。だから、あの試合から学んだことというのをあえて言えば、コンディショニングの調整が大事ということだよ。

—決してヴァンダレイに負けたのではない、と。

ダン　そうだ。精神的には俺は昔もいまも強いし、技術的には、あの頃よりも格段に成長している。だから今回こそは必ず勝つと信じているよ。

—今回は、お互いハードなパンチを持つ者同士の試合になるわけですが、ヴァンダレイの打撃については、どのように評価していますか？

ダン　ヴァンダレイがかなりのパンチ力を持っているのは充分に理解している。でも俺も右のパンチには自信はある。自分のパンチをもらったことはないからどれぐらい強烈かはわかんないけど、かなりハードだと思うよ（笑）。

—ボクの観るかぎり、かなりどころの威力じゃないと思いますけど（笑）。

ダン　そのとおり（笑）。だから、パンチ力でヴァンダレイに負けるとはまったく思ってないね。

—ただ、通常体重が上のヴァンダレイのほうが優位だという声も挙がっていますけど。

ダン　体重は関係ないね。だって、それを言うなら前回の試合のときは、体重制限もなくてヴァンダレイはもっと重たかったんだから。今回は205ポンド（93キロ）の体重規定があるだけましさ。それに俺はいつも自分よりも重い選手とばかりやってきたんだ。

—そういえば、優勝したリングスKOKトーナメントにしても、『PRIDE』でも体重差を越えた闘いは頻繁でしたね。

ダン　だから今回はまだ楽なほうだ。体重差ハンデだとは一切感じてないよ。

—体重について言えば、ヴァンダレイは昨年、無差別級GPに参加しましたが、そのときの闘いをどう見ましたか？

ダン　じつは……ハンティングに出ていて試合を見逃してしまったんだ（笑）。

—もしかして、ミルコ・クロコップ戦をまだ観てないんですか？

ダン　うん（苦笑）。

—昨年度ベストバウトの呼び声も高い試合を！　対戦相手のラストファイトをまだ観てないとは、やや余裕も感じられますね。

ダン　いや、決して油断しているわけではないよ（笑）。本当に壮絶な試合だったという話は聞いている。負けはしたけど、ヴァンダレイはさらに強くなってリングに帰ってくるだろう。だいたい、あのトーナメントに参戦しただけでも凄いことだよ。

—ミルコ、ジョシュ、ノゲイラとヘビー級のトップファイターがズラリと並んでましたもんね。

ダン　俺もその無差別級のトーナメントに出たかったんだよ。いまだから言えるけど、本音では、ウェルター級GPより俺は無差別級GPに出たかったんだ（笑）。





2000.12.23『PRIDE.12』で一度対戦しているダン・ヘンとシウバ。この一戦は、リングスKOK王者として鳴り物入りで参戦してきたダン・ヘンのPRIDEデビュー戦。ダン・ヘンは前半、得意の右フックでシウバの左目を大きく腫れ上がらせ、試合を優位に進めるも、途中、当時は反則だった4点ポジションでのヒザを脳天に食らい悶絶。シウバにイエローカードが与えられたものの、これで流れが変わり判定負けを喫した。今回はどうなるか？







昨年の夏にできたばかりのチーム・クエストのジム。ダン・ヘンの住む南カリフォルニアの小都市テメキュラに建つこのジムは、フルサイズのリングと広いマット、そして最新のマシンを備えたじつに立派なもの。ジムの壁には「男祭り2005」のリングマットが飾られていた。

—無差別級GP開幕前には、さかんに参戦を希望されてましたよね。

ダン　だから、そのモチベーションの低さがウェルター級GPに表われてしまったんだろうね。ミサキ（三崎和雄）との試合中も何かが足りない気がしていたんだ。

—三崎戦の敗戦は、そういった心理的な影響もあったんですか。そういう意味では、ウェルター級のベルトを懸けて三崎選手と再戦するよりも、ミドル級のヴァンダレイとの対戦するほうがモチベーションが高かったりするんですか？

ダン　もちろん、ヴァンダレイと闘うことは気分的に盛り上がっているよ。ただし言っておきたいのは、ウェルター級を軽んじているわけではないということだね。前回負けたミサキとのリマッチはぜひやりたい。PRIDEウェルター級で最強は俺だ！　ということを示しておかないといけないし。それと、ヒョードルが持つヘビー級のベルトもほしい。

—夢は三階級制覇ですか！

ダン　ヘビー級の王座が自分にとってのゴールというわけじゃないけど、『PRIDE』からすれば、俺が三階級を狙う展開はかなりおもしろいだろ？　実際、俺だけがいま、それを狙える立場にいるわけだからね。

—確かにそんな可能性がある選手なんてほかにいませんもんね。ヒョードルと言えば、ダン選手のチームメイトで、かつ同じ93キロ級のマット・リンドランドが『ボードッグ』で闘うという噂がありますね。

ダン　ああ、その話は聞いているよ。

—マッチメイクの信憑性も含めて、日本ではやるのかやらないのか、ファンも半信半疑の状況ですけどね。

ダン　俺とマットは同じレスリングのバックグラウンドを持っているし、昔から闘ってきたから強いのは知っている。それに前も『kam-pro』のインタビューで言ったと思うけど、WFAでのクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンとの試合は、『PRIDE』での判定なら彼が勝っていたと思うしね。まあ、俺だけじゃなくて、マットの今後も期待してくれよ。

—わかりました！　それでダン選手の話に戻しますが、今回、初めて母国でタイトル戦を行なうわけですけど、精神的に張り合いはありますか？

ダン　やっぱり、ファミリーや友だちの前で闘うのは素晴らしいことだよ。今回のタイトルマッチは、自分が生まれ育った町から車で2時間の距離で行なわれるわけだし、ジムのメンバーも来てくれる。もの凄く頼もしいことだね。それに日本ではあまり友だちがいなかったからね（笑）。

――ああ、そうだったんですか（笑）。前回の『ＰＲＩＤＥ』ラスベガス大会のビクトー・ベウフォート戦のときも、家族を会場に招いているんですか？

ダン　じつは、母親と子どもたちだけは会場に招待してなかったんだ。自分が引退するまでには、一度は招待したいとは思っているんだけど。

――マーク・コールマンのように、子どもをリングに上げたりとかは考えていない？

ダン　うん。それはあまり考えてないね。コールマンはバックステージにいた子どもたちを待たせておいて、試合後にだけリングに上げたみたいだけど。父親として、ヒョードルに殴られる姿を見せるのはよくないと思ったんだろうね。

――なるほど。やっぱり、子どもにファイトを見せるのは抵抗がありますか？

ダン　ＭＭＡの試合を見せることには抵抗はないよ。彼らはテレビで試合を観ているし、会場にも行っている。ただ、自分の試合をライブで見せることだけはしてないんだ。なぜなら何があるのかわからないのがこのスポーツだからね。

――危険な職業ですもんね。とくに今回はヴァンダレイが相手ですし。

ダン　まあ、多くのファンは俺が負けると思っているんだろうけどね。そう思ってくれたほうが俺には好都合だよ（ニヤリ）。

――それで、今回で『ＰＲＩＤＥ』のラスベガス大会は二回目になりますけど、前回の感想を聞かせていただけますか？

ダン　前回は、自分の試合順序がちょうど真ん中ぐらいだったので、ちゃんと観られてない試合も多いんだけどな。でも、俺が感じたかぎりでは、演出面では日本の大会と同じクオリティを保てたと思うし、大満足だ

Dan Henderson



勝ったら次はヒョードルとやりたい。三階級制覇が狙えるのは俺だけだから

PRIDEファイターなら王者クラスじゃなくてもチャック・リデルを倒せる

よ。ただ、観客が日本より少なかったと思うけどね。

―ああ、さすがに4～5万を集めるGPクラスの大会に比べると、そもそも会場の大きさが違いますからね。実際に大会を観ての、奥さんや周りの人間の反応はいかがでしたか？

ダン　みんな本当に楽しんでいたよ。みんなUFCのライブしか観てなかったから、『PRIDE』のほうが楽しめたって言ってたし。

―そんなに評判がよかったですか。次の大会もUFCの大会と開催時期が近いこともあって、あらゆる面が比較されることになりますが、UFCは意識していますか？

ダン　（間髪入れずに）ノー。いまその質問を受けるまでそんなことすら考えなかったよ。というのは、『PRIDE』もUFCもファイト自体は素晴らしいと思うけど、イベントとしての質が全然違う。UFCの大会は試合しかないけど、『PRIDE』は試合に加えて、全体的なショーアップがあるから、ライブで味わう感覚は別ものさ。二つのイベントは、比べることすらできないね。でも、いまの『PRIDE』にはマーケティングが必要だね。正直言って、アメリカのファンは『PRIDE』で何が起こっているかよくわかってないからね。

―それを解決するとなると、やはりテレビのバックアップが必要ということですか？

ダン　そう。テレビは大事だね。いまはFOXスポーツなどで『PRIDE』も露出が増えてきている。これまで『PRIDE』はライト層のファンにはほとんど認知されてなかったんだけど、やっと変わってきたんだ。これまでまったく認知されてなかったものが短いあいだでこれだけ変わったってことは、逆に言うと、もう少し頑張れば、一気にUFCに迫れるんじゃないかなとも思うんだよね。

―そうはいっても、一方のUFCって持っている番組の数が多いんですよね。

ダン　そう。『TUF』に加えて『インサイドUFC』とか、多くの番組がある。でも、そういった番組数が多いことよりも、スパイクTVという視聴者が多いネットワークと組んでいることが強みだよ。あとスパイクTVにかぎらず、ほかの局でもUFCのテレビ広告はよく観るけど、『PRIDE』はまだまだそういう露出も多くないからね。まぁ、これからどんどん増えてはいくだろうけど。

―やっぱり、テレビの影響は大きいんですね。

ダン　そうだね。テレビを観ている視聴者がそのままPPVを観るようになるわけだからね。

―テレビといえば、有料ケーブルテレビのショータイムも、『ストライク・フォース』や新団体エリートXCを放映するなどMMAに本格進出するんですよね。

ダン　それはどうなるかわからないけど、一流の選手にオファーをかけているみたいだし、打撃が得意な選手中心のマッチメイクをしているから、成功する可能性は高いね。

Dan Henderson



Dan Henderson■1970年8月24日、米国カリフォルニア州出身。グレコローマン・レスリングで二度オリンピックに出場したスーパーアスリート。現PRIDEウェルター級王者。『PRIDE.33』でシウバの持つミドル級王者に挑戦し、二階級制覇を狙う。180cm、82.9kg。

―ホントにアメリカではMMAがどんどん盛り上がっているんですね。

ダン　いまアメリカでもっとも発展しているスポーツだよ。ほかの国では知らないけどね（笑）。

―う～ん。日本でもファンの熱は冷めてないんですけどねぇ。ミルコがUFCに移ったことについてはどう思いますか？

ダン　ミルコは、たぶんヘビー級戦線を通りすぎるように、あっさりとベルトを獲るだろうね。

―あ、そんなに簡単に（笑）。『PRIDE』からUFCにファイターが続々と移籍するという危機感はないですか？

ダン　ファイターは勝つために闘う。でも、どうせ闘うのなら、多くギャラを払ってもらえるほうがいいに決まってるさ。それがビジネスってものだろ？　当然、ファイターの選手寿命はにも限りがあるわけだしね。

―選手側からすればしょうがない話だと。

ダン　それに『PRIDE』より簡単にチャンピオンになれるしね。チャック・リデルもアンデウソン・シウバも二人ともいい選手だけど、『PRIDE』の選手なら王者クラスじゃなくても、チャックを叩きのめすことはできる。

―相当の実力差がある、と？

ダン　そうだね。アンデウソンも進化しているとは思うけど、『PRIDE』では勝てなかっただろ？　その選手がトップを張っているんだから、やはり『PRIDE』の選手のほうがUFCより強いということを証明していると思うけどな。

―そういう意味では、チャックに勝てる可能性も高いホジェリオ（・ノゲイラ）相手に、ダン選手のチームメイトのソクジュが『PRIDE』デビュー戦で試合をするのは凄いことですよね。

ダン　今日の練習を見てどう思った？

―体裁きもいいですし、ダン選手とスタンドレスリングで互角に闘っていたんで、驚きましたよ。

ダン　彼はテイクダウンの技術が凄いだろ。そしてキックも強いし。初めての大舞台でナーバスにならなければ、いい試合をすると思う。彼は経験が足りないだけで、本当に才能があるんだ。どの選手も彼の写真を見ると、強そうだから対戦を避けるんだ。だから、本当は彼の知名度を上げていかないといけない時期なんだけど、逆に写真をネットから削除しているんだよ（笑）。

―ダハハハ！　それは幻想が高まりますね（笑）。

ダン　それに出稽古に来たほかのチームの選手が彼の強さを広めるから、ますます対戦相手がいなくなって、ホジェリオみたいな強敵しか残ってないんだ（苦笑）。

―大変ですねぇ。

ダン　まあ、そんなヤツと俺は毎日スパーリングしてるんだけどね（笑）。

―では、3週間後には新王者インタビューができることを楽しみにしてます！

【07年1月31日（現地時間）／米国カリフォルニア州テメキュラ、ダン・ヘンダーソン邸にて収録】

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報 Special



ブッカーK 川崎浩市の

ヴァンダレイ・シウバ裏情報!!

いよいよヴァンダレイ・シウバvsダン・ヘンダーソンのPRIDEミドル級タイトルマッチが近づいてまいりました。

私がマネージメントする王者ヴァンダレイは試合に向けて猛トレーニングを積んでいますが、ダンより厄介な敵とリング外で闘うことになってしまいました。それは2月17日から21日まで行なわれるリオのカーニバルの誘惑！……ではありません。ちなみにこの5日間はブラジルでは公休扱いになります。もっともファイターたちには関係ありませんが。

話を戻します。いままさにヴァンダレイが闘っているもの。それはアメリカ滞在のためのビザの取得です。手続きのトラブルのために、想定外の時間ロス。一苦労どころの騒ぎではありません。

まず、手続きをするためにはサンパウロまで足を運ばなければなりませんが、地元のクリチバからサンパウロまで飛行機で約1時間、空港から街まで約1時間、往復で4時間強の時間を割くことに。ヴァンダレイはセコンドのビザの取得を含め、都合3度もサンパウロに足を運びました。セコンドのビザだからといって、ないがしろにはしない。それがヴァンダレイ・シウバという男です。ショーグンも兄貴分のヴァンダレイにももちろん、付き添いました。

しかもサンパウロには前日入りせねばならないのですが、用事を済ませたヴァンダレイは必ずその足でクリチバに戻りトレーニングに励みます。1月の10日前後にはアメリカへのPRへ出かけましたし、じっくり練習する時間がじつはありませんでした。

リング外の仕事に追われるのは、メンタル的によいことではありません。かつてカール・ゴッチさんが、「選手にとって一番大切なものはメンタル・コンディショニングである」と言い表わしましたが、まさにそのとおり。とくにヴァンダレイのような経験が豊富な選手ほど、そこが重要視されます。本来ならば、こんな苦労を選手は強いられてたくはないのですが……いろいろな手配が遅れてしまって残念です。

そのうえ、今回の相手はあのダン・ヘンダーソンなのですから。

ヘンダーソンは私がマネージメントして『PRIDE』に登場したのですが、皆さんもご存知のとおり、非常にハートが強い選手です。はっきり言って、あのランディ・クートゥアーよりも強い。どんなオファーにも臆することなく快諾します。『PRIDE・24』のノゲイラ兄戦なんて、試合直前も直前、わずか10日前のオファーでした。

それに一昨年の大晦日、近藤有己戦では試合直前には急なインフルエンザにより、おう吐と下痢で39度の熱を出してしまい、吉田（秀彦）選手と対戦したルーロン・ガードナーのセコンドにもつけず、自分の試合の直前まで控室で点滴を打ちながら出番を待つというありさま。しかし、そんな状態でフルラウンドを闘い抜きました。

『PRIDEミドル級GP』リザーブマッチのブスタマンチ戦でも、親指を骨折したままパンチのラッシュでのTKO、その精神力は私が知るかぎり一、二を争う強さなのです。

ヘンダーソンはここ何年もヴァンダレイとの対戦をずっと待ってました。今回の試合に向けて、堅実な攻めで勝利を狙うとインタビューで語っていましたが、私はそのとおりに闘うとは思えません。アグレッシブにKOを狙ってくる。それがダン・ヘンダーソンの性格であり、精神性の高さでもあるのです。

ヴァンダレイもヘンダーソンも、ジェームス・トンプソンではありませんが、もともとはゴング&ダッシュの戦法でKOの山を築いてきたファイターでした。ラスベガスの夜は興奮するような殴り合いが展開されると思います。



PRIDE初のアフリカ人ファイターが 2.24『PRIDE.33』でホジェリオ・ノゲイラと激突!!

ジャングルの王者 PRIDEに現わる!

まさに、見てみぃ、このツラ! この野性味あふれるグッドルッキンの持ち主こそ、『PRIDE』初のアフリカ人ファイター、ソクジュだ! 幼少期をジャングルですごし、多くのライオンを倒してきたという、インチキ臭い経歴を自称するこの男だが、その実力はダン・ヘンも認めるところ。超新星か、とんだ一杯食わせものか!? どっちでもいいが、とにかく2.24ホジェリオ戦は見逃せない!!

聞き手/堀江ガンツ　通訳/シルク・ド・上杉　撮影/乾晋也

ソクジュ

SOKOUDJOU

ASSASSIN

――『PRIDE』初のアフリカ出身ファイターということですが、日本のメディアに出るのは初めてだと思いますので、今日はプロフィールなど基本的なことからいろいろとうかがいたいと思います!

ソクジュ　プロフィール? それは簡単に言うとだな、俺はこれまで多くのライオンを殺してきたってことだな、ガッハハハ。

――〝熊殺し〟ならぬ〝ライオン殺し〟! それはまた〝アフリカン・アサシン(アフリカの暗殺者)〟と呼ばれるだけのことはありますね。ちなみにこの名前はもちろん本名じゃないですよね?

ソクジュ　あたりまえだろ! 本当の名前はソクジュって言うんだ。84年生まれの22歳だ。

――22歳! ずいぶん若いんですね。


ソクジュ　そうか? よく童顔だって言われるけどな。

――どこが! ちなみに生まれはアフリカのどちらなんですか?

ソクジュ　カメルーンにあるホムラっていう小さな町だ。カメルーンは知ってるだろ? サッカーが強いからな。

――そういえば02年に日本で行われたワールドカップにも、カメルーンのチームは来てました。

ソクジュ　カメルーンの選手は身体のバネが強いから、サッカーに向いているんだ。俺も子どもの頃はよくサッカーをしてたよ。小さな村でほかにやることなかったからな。あとは、ヒマで悪さばかりしてたから、親父がみかねて、町の柔道場に通わされるハメになっちまったんだ。



AFRICAN

——柔道を始めたのはそんな理由でしたか(笑)。ちなみに〝悪さ〟というと何をしてたんですか?

ソクジュ (筋肉を見せながら) わかるだろ? 田舎だったし、昔から体力を持て余していたんだよ。ま、アフリカではみんな路上で闘って育っていくもんなんだけどな。

——生まれながらにして、ストリートファイターだ、と。当時住んでいた環境というのは、いまのアメリカでの環境とはまったく違うわけですか?

ソクジュ そりゃ、もうまったく違うさ。なんたってジャングルの中で育ったんだからな、俺は。家の周りは動物だらけだし、モンキーもキリンもカバもゾウもいたよ。あとは住んでる人間自体、アメリカとはまったく違う。

——どう違うんですか?

ソクジュ アメリカ人は靴を履いて生活してるだろ? でも、ホムラの人間はいっつも裸足だよ。

——常に裸足で生活してましたか (笑)。

ソクジュ あとアメリカ人は服を着てるけど、ホムラの人間はほとんど裸だしな。

——じゃあ、みんなパンツ一丁みたいな生活スタイルなんですか?

ソクジュ おいおい、俺の言うことを信用しないのかい? だったら、パソコンで「カメルーン、ホムラ」ってググってみろよ、わかるから。ドアもないし、電気もないし、アスファルトの道路もないんだ。もちろん、チーム・クエストのような立派なジムなんかあるわけない。ボクシングジムに行ったら、そこには2セットのグローブしかなくて、それをみんなで使うんだからな。

——はぁ~。まるで吉幾三の世界ですね。テレビもねぇ、ラジオもねぇ、車もそれほど走ってねぇ!

ソクジュ そう、そいつが歌ってるとおりだよ! 車なんかねぇから、みんな自分の足で走るんだよ。いま俺は車を持っているけど、あのまま村に残ってたら、おそらく一生、車に乗ることはなかっただろうな。

——で、ソクジュさんは「オラこんな村いやだ~」って感じで、アメリカに出てきたんですか?

ソクジュ ま、ジャングルにいたら、子どもを作ることぐらいしかやることはないからな。何かやろうとしたら、外に出るしかないんだよ。だから俺には兄弟が3人いて、姉妹が二人いるけど、兄弟のうち一人はヨーロッパでバスケットボールのプロ選手をやっていて、もう一人はロシアで空手をやってるんだ。

——へ~、スポーツ一家なんですね。ちなみにお父さんは何をやられているんですか?

ソクジュ 親父はもう引退してるけど、軍隊にいた頃は、たくさんの人を殺していたよ (笑)。

——ずいぶん直接的な表現ですね (笑)。

ソクジュ それが軍隊の仕事だからな。

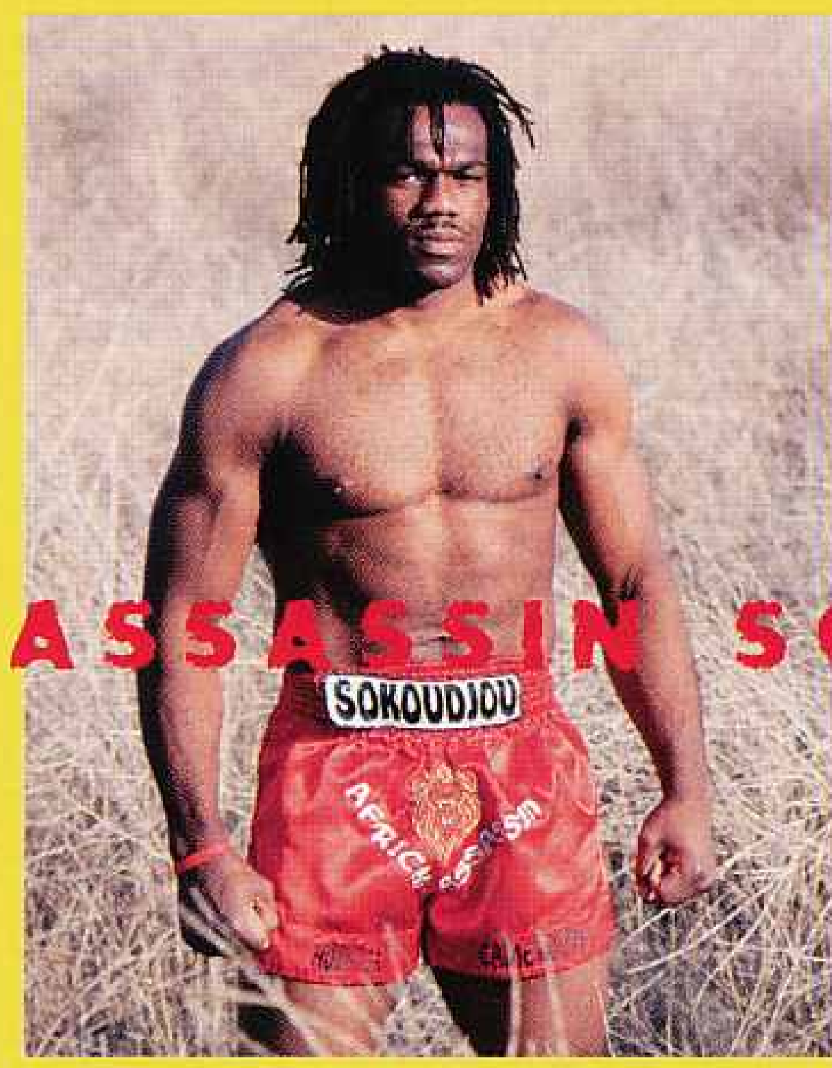
——そのお父さんに無理やりやらされた柔道ですけど、戦績が凄いですよね。

ソクジュ ああ。俺は13歳のときにはもう大人の部で試合をやっていたんだ。で、17歳で柔道全米オープンを制して、2003年にはシノハラ (篠原信一) にも勝ったんだ。

——幻の金メダリストと言われる、篠原選手に勝ってますか! それは凄いですね。

ソクジュ さすがに俺もシノハラと闘うときはビビってたよ。「絶対、殺される」ってな(笑)。でも、シノハラはあまりにも有名な選手で左の内股が得意だってことは俺もよくわかってたけど、逆に俺は彼にとってなんのデータもない選手だから、大外刈りで有効を取ることができたんだ (嬉しそうに)。

AFRICAN ASSASSIN SOKOUDJOU



アフリカのサバンナ(に似た草原)でたたずむソクジュ。ヒクソンが森の精霊の力を借りているのならば、ソクジュは生命の起源となる大自然の力を借りて闘うのだろう、きっと。

——そんな柔道家だったソクジュさんが、総合格闘家に転向したきっかけというのはなんだったんですか?

ソクジュ いまでも俺は柔道家だよ。MMAファイターでもある。そしてMMAを始めたきっかけを話すと長くなるんだけど……まず、俺は柔道でナショナル・チャンピオンにもなったのさ。で、オリンピックを狙っていたんだ。

——オリンピック選抜候補だったんですか?

ソクジュ そうだよ。じつを言うと、俺が最初にアメリカに来たのもオリンピックに向けてレベルの高い練習をするためだったんだ。あれは01年のことなんだけど、俺は04年のアテネオリンピックに出るためにアメリカに練習に来たんだ。でも、そこで、なけなしのお金をトレーニングのために使い果たしてしまって、国に帰れなくなってしまった。それで最終予選に出ることができず、オリンピックを逃すことになっちまった。

——えーっ!?

ソクジュ だから俺はそれ以来、この国にずーっといるわけだ (笑)。

——つかぬことをうかがいますけど、ビザとかは大丈夫なんですか?

ソクジュ いまはグリーンカードを持っているから問題はないよ。

——では、柔道でオリンピック出場の道を断たれて、総合の世界へ入ってきたわけですか?

ソクジュ そうだな。自分から飛び込んだわけじゃないんだけど、約3年前に偶然、ダン・ヘンダーソンと知り合うことになったんだ。あれは、ダンがナカムラ (中村和裕) と試合をする前で、柔道経験がある選手を探していたんだ。で、当時の勤務先のボスに紹介されて、ダンとスパーリングするようになったのさ。

——それがチーム・クエストとの出会いだと。

ソクジュ そうだ。対柔道要員というわけさ。だから (ルーロン・) ガードナーがヨシダ (吉田秀彦) とやるときも、俺がスパーリング・パートナーを務めたんだぜ。

——へぇ~。ダン・ヘンやガードナーが、カズや吉田選手に勝った陰には、ソクジュさんの活躍があったわけですね。

ソクジュ ま、そういうこった。ただ、最初にダンとスパーリングやったときは、俺は何もできなかったけどな (笑)。体重は俺のほうが重いのに、完敗だったんだ。悔しかったからそれ以来、俺はこのチームでMMAの練習をやるようになったってわけさ。

——チーム・クエストに所属するようになったのも偶然だったわけですね。ちなみにそのとき働いていたという仕事は?


ソクジュ そのときは、まだ学生だったんだけど、夜はバウンサーとしてバーで働いていたんだ。アフリカでは、「働かざるもの食うべからず」っていうからな。

——あ、日本と同じですね (笑)。

ソクジュ バウンサー時代はけっこう、ムチャクチャしてたな。暴れる酔っぱらいを〝窓越しの大腰〟でぶん投げたりね (笑)。

——当時から実戦柔道家だったんですね

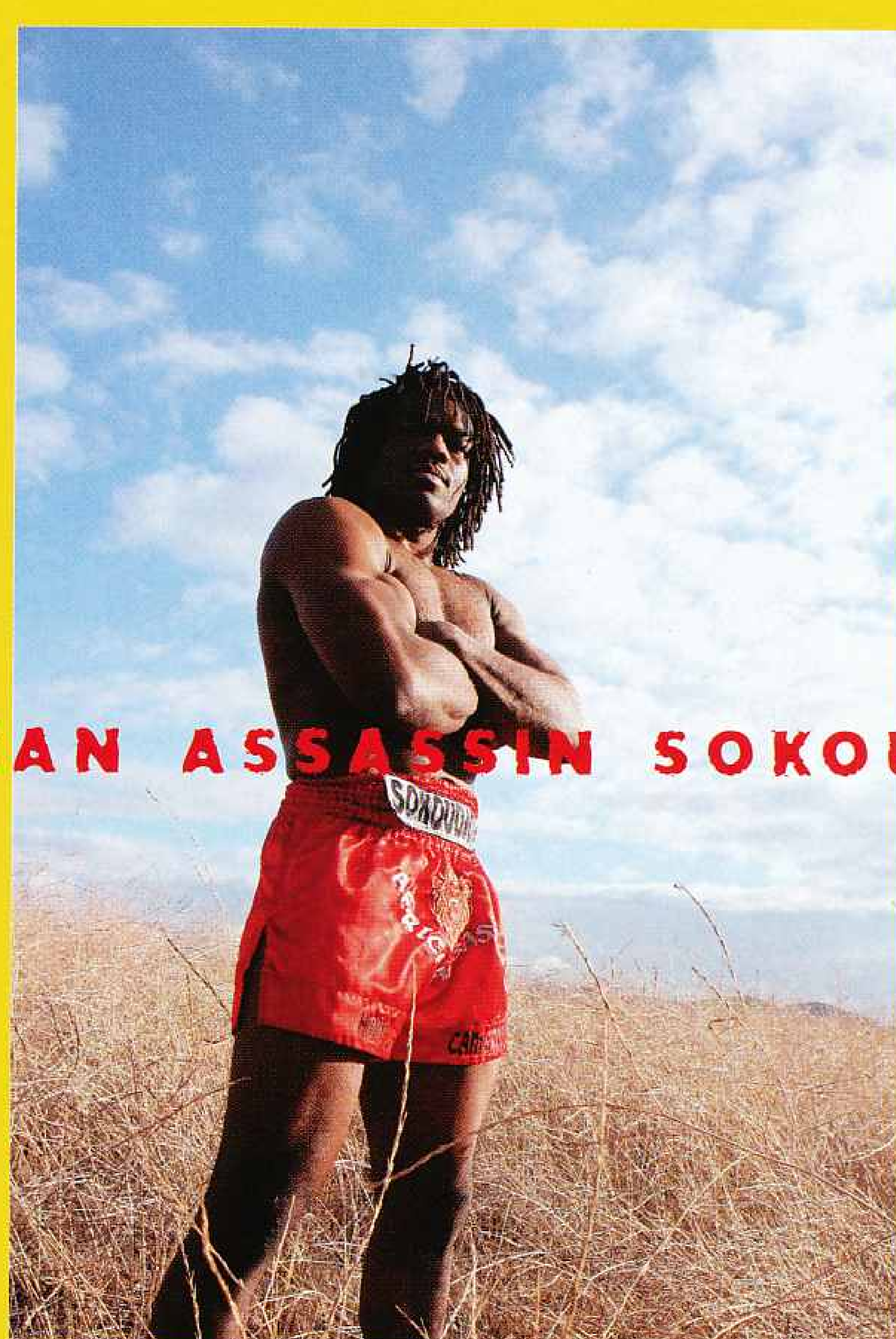
人間相手のMMAは負けても殺されないが
ジャングルで負けたら食べられちゃうんだよ！



（笑）。もともと、MMAには興味があったんですか？
ソクジュ　いや、正直に言うと、テレビでチラチラと見ていたけど、そんな興味があったわけでもなかったんだ。でも、やっぱりダンに負けてからは変わったね。「誰にも負けねぇ」と思っていた自分をここまで叩きのめすヤツがいるっていう事実に打ちのめされたよ。で、これこそが次の自分の目標だって思ったんだ。
——そしていまは、ダン先生のもと、MMAの練習に励んでいるわけですね。
ソクジュ　いや、彼は先生というか……スパーリングでいつも俺をボロ雑巾にするだけのクソ親父だな（笑）。
——身体で教えてもらってるだけだと（笑）。これまでのMMAキャリアはどんなもんなんですか？
ソクジュ　戦績？　それは、人間相手のMMAでのキャリアか？
——はい、人間相手限定でお願いします（笑）。
ソクジュ　『トータル・コンバット』やWECなどでこれまでに、3試合したよ。
——あ、まだキャリア3戦なんですか。
ソクジュ　なにぃ〜〜！　確かにちょっと試合数は少ないけど、俺はこれまでジャングルで、ライオンやキリンと闘ってきたんだからな。普通のファイターより、ずっと経験は積んでるのさ。それに人間相手のMMAは簡単だよ。負けても殺されないだろう？　でも、ジャングルのルールは違う。負けたら、彼らの胃袋に入ってしまうんだからな（真顔で）。
——はあ〜、厳しい世界ですね（笑）。では今回、ジャングルでの闘いを含めた実績が評価され、ついに『PRIDE』という大きな舞台に出ることになったわけですけど、それについてはどう考えてますか？

ホジェリオは確かに強いがキリンよりは弱いだろう

ソクジュ　世界最高峰のリングに上がれることは光栄だけど、自分にとってはあたりまえのことだと思っているね。だいいち、本来なら俺はもっと試合経験を積んで、もっと多くの人に見られて評価されていてもいいはずなんだ。ただ、自分と闘いたくないという選手が多くて、これまで試合が決まらなかったんだ。本当ならもう10勝はしていると思うね。
——相手から逃げられていた、と。
ソクジュ　ああ、そうさ。ダンが俺のことを「強い、強い」言いふらしたおかげで、みんな対戦を断るんだ。ほめてくれるのは嬉しいが、そういう意味ではちょっと迷惑だな（笑）。
——それでいきなり、ホジェリオ・ノゲイラという強豪中の強豪が相手になったわけですね（笑）。ホジェリオについてはどんな印象を持ってますか？
ソクジュ　おまえさんたちもご存知のとおり、ホジェリオは動きが早くて、スタンドでもグラウンドでも勝つことのできる強敵だ。それは間違いない。でも、いくら強いといってもキリンよりは弱いだろ。
——ホジェリオはキリンより弱い！（笑）。
ソクジュ　彼は俺との試合で"野生のアフリカの味"を知って驚くことになるな。
——なんだかわかりませんけど、凄そうですね。
ソクジュ　なんなら、いまここでその味を教えてやろうか？（ニヤリ）。



Sokoudjou■1984年4月18日、カメルーン共和国出身。"アフリカン・アサシン"の異名をとる、PRIDE初のアフリカ出身ファイター。幼少の頃よりジャングルや草原を走り回り、野生動物と戯れて育つ。渇いた大地で鍛えられた足腰を活かして柔道を始め、01年のUSオープン選手権で優勝。柔道二段。チームクエスト・アフリカ支部所属。182cm、93kg。

——いや、いまはけっこうです（笑）。
ソクジュ　俺自身が野生動物みたいなもんだからな。人間は素手で野生動物に勝つことは不可能だってことを教えてやるぜ！
——その野生動物的に言うと、自分のセールスポイントは？
ソクジュ　テイクダウンだ。小内刈り、大外刈り、送り足払いだね。大腰は、総合ではバックを取られやすいからよくないんだ。
——野生動物のわりには、けっこうテクニックがありますね。
ソクジュ　おいおい！　野生動物こそテクニックが必要なんだよ！　なぜなら、殺さないと殺されてしまうからな。そのために頭がついているんだろ？　たとえば、ライオンに同じ手は二度は通じないんだからな！
——そうなんですか（笑）。では、野生動物的に考える、今後の目標を教えてください。
ソクジュ　俺がアメリカに来た最初の目標は柔道だっただろ。だからヨシダとはぜひ闘いたいな。柔道の夢は、半ばあきらめたけど、柔道のメダリストと『PRIDE』で闘って、彼らより、自分のほうが強いことを証明したいね。あとは具体的には来年予定されているという、PRIDEミドル級GPを制することが夢だよ。
——夢はGP制覇ですか。
ソクジュ　もっと具体的に言うと、GP優勝して、大金稼いで、いいオンナを抱いて、ジャングルに連れて帰ることだな（笑）。
——欲望に忠実な夢を語っていただき、ありがとうございます（笑）。でも、このキャラクターなら、きっと日本でも人気が出ると思いますよ。日本に来たことはありますか？
ソクジュ　ないね。ぜひ行きたいよ。なんたって、日本は柔道の国だからね。コードーカン（講道館）に行くことが、俺の長年の夢なんだ。コードーカンはオキナワにあるんだろ？
——違います（笑）。東京です。思い入れがあるわりには、かなり間違った知識をお持ちですね。じゃ、最後にその日本のファンにアピールしたいことがあれば、お願いします。
ソクジュ　ジャングルの味に備えときな、ベイビー！

【07年1月31日／米国・カリフォルニア州、アフリカのサバンナに似た風景の空き地で収録】

笹原DSE広報局局長の PRIDEだけ見てりゃいいんだ!! from Los Angeles

第二弾・2.24『PRIDE.33 "THE SECOND COMING"』編



『PRIDE』アメリカ進出・第二弾! いよいよ迫ってきた2.24『PRIDE.33 "THE SECOND COMING"』の見どころを全部教えて! というわけで、現地の反応を含め、ロサンゼルス出張ですっかりアメリカナイズされた笹原DSE広報局局長からジャスト・ナウな情報をお聞きしました〜!!

――えー、今日は華々しくアメリカに左遷……じゃなくて、栄転されたという笹原DSE広報局局長にお話をうかがうべく、遠くDSE USAまでやってまいりました!(笑)。

笹原 いやいや、さっそく来週、日本に戻らせてもらいますから。合宿のような生活はそろそろ限界です!

――ダハハハ! では、そんな笹原さんに今日は、大会の見どころをおおいに広報していただこうと思います!

笹原 見どころはですねえ、満載ですよ! みんな二回目ということで非常に油断していると思うんですけど。

――ええ。多くの人が油断してるでしょうね(笑)。

笹原 そういう人は必ず後悔する!!

――ちなみに、アメリカ現地での反応はいかがですか?

笹原 いや、もちろんいいですよ! とくにベガス入りして準備しているスタッフから話を聞くと、相当に反応がいいみたいですね。まあ、前回大会が評判を呼んでいるってことなんでしょうけど。ただ、ここロスだと、UFCのビルボードは見かけるんですけど、『PRIDE』はあんまり見かけなかったりするんですよ(笑)。

――ダメじゃないですか(笑)。

笹原 いや、やるのはベガスですから! もちろん、ここロスでもいろいろなプロモーションをやってますよ。ただ、ロスのあちこちに大量の看板を出してるところに、UFCのいまの勢いが見て取れますよね。我々もそこに乗り遅れないように頑張ってるところなんで。いまアメリカ人の中でも、トレンドを追ってるような人たちは、急激なMMA業界の変化に凄く敏感ですからね。

――そういう方たちのあいだでは、「次に"来る"可能性があるのは『PRIDE』だ」と思われてたりも?

笹原 そのとおりです! 今日も関係者と打ち合わせをしているときに、まさしくそんなことを言われたんですよね。「いまUFCがアメリカで人気があるのは確かだ。ただ、『PRIDE』にはそれ以上のポテンシャルがある!『PRIDE』にはUFCにはない、ジャパニーズ・テイストっていう最大の武器があるからだ!」って。

――ジャパニーズ・テイストというのはどういうことですか?

笹原 いわゆる日本のアニメやテレビゲームみたいな、アメリカにはない独特のテイストと完成度があるから、UFCなんかより断然、可能性があるんじゃないかってことでしょうね。彼らからすると、あの『PRIDE』の世界観にわび・さびを感じるってことでしょう(笑)。でも真面目な話、そこは今後アメリカでプロモーションしていく上でのヒントが隠されている気がしますね。

アメリカでのプロモーションは人気上昇中のUFCを利用するのが一番

――要は、いかにもアメリカ人が作ったものじゃないところがウケるんじゃないか? ということですね。

笹原 それから、もう一つ言われて感心したのは、いまアメリカの若い人たちは新しいスポーツの出現を望んでいる、と。そういう気運が凄く高まってるらしいんですね。アメリカって、もともと4大メジャースポーツってあるじゃないですか。

――MLB(ベースボール)、NFL(フットボール)、NBA(バスケットボール)、NHL(アイスホッケー)の4つですよね。

笹原 その4競技は当然安定しているんでしょうけど、決して人気が上がってるわけでもなく、どちらかというと、むしろ人気は落ちている、と。

――日本でいうプロ野球や相撲みたいな世界ってことですよね。普遍的ではあるけれども……っていう。

笹原 そんな中で若い人たちが新しいスポーツの出現を望んでいる、まさにそういう状況らしいんです。そういう意味では、新しく『PRIDE』とかMMAを世に広めていくには、本当にジャスト・ナウだと!

――ジャスト・ナウですか!(笑)。

笹原 いまやらなきゃ、いつやるんだ! と。「やれんのか!」みたいなそういう感じですね(笑)。まあ、そういう意味で、今回は『PRIDE』のチャンピオンが5人もラスベガスに登場して勝負をかけてるわけですからね。

――五味隆典、三崎和雄、ダン・ヘンダーソン、ヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ショーグンはタイトル、GP含め王者になった5人ですもんね。まさに、チャンピオンカーニバル(笑)。

笹原 本当そうですよ! 甘く見るな、と。だから現地でのプロモーションとしては人気上昇中のUFCを使うのが一番ですから、こっちのラジオ局に渡した資料なんかには「2月に二人の"シウバ"が試合をするけど、どっちが凄いんだ?」というような挑発的なものを渡したりしてるんですよね。

――ああ、UFC67に出たアンデウソン・シウバとヴァンダレイのことですね。

笹原 言葉は悪いですけど、そういうえげつない方法のプロモーションは我々の得意とするところです!(笑)。でも、UFCはUFCでヴァンダレイ・シウバvsミルコ・クロコップ(『PRIDE無差別級GP決勝戦』)の映像とか、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンがヴァンダレイ戦(『PRIDE・28』)で攻めてるところだけを使っちゃったりしてますからね。当然、我々が使用許諾していない映像なので、あわててストップしてたりしてましたけど(笑)。だから、とにかくこっちもそれを利用するしかない! ということで今月のFOX TVなんかではミルコがケビン・ランデルマン(『PRIDEGP2004開幕戦』)にボコッってKOされたりしてる映像を繰り返し流してますから!

――ダハハハハ! つまりは、足のひっぱり合いじゃないですか。

笹原 違いますよ! 正々堂々とした闘いと言ってください! まあでも、日本でも同じようなことやってますから、そこの経験値はUFCより我々のほうがまさってる!(笑)。

――アメリカはコーラとペプシの戦争の本場ですしね。

笹原 だから、ある意味、UFCの認知度を上げてくれれば、より『PRIDE』を際立たせることができるということです!

――なるほど! というわけで、今日は『PRIDE・33』の見どころというよりも、笹原広報局局長のプロモーション講座になりましたが(笑)。

笹原 じつは、全米中が震撼する超ド級のプロモーション方法も考えていますから、期待しててください!

――なんの期待ですか、まったく(笑)。

【07年1月31日/部室のようなDSE USAにて収録】



1月14日の『LAタイムス』にはUFC66の試合を一面でフィーチャー。日本でいうと、朝日新聞や読売新聞の一面に『PRIDE』の記事が載るようなもの。そう考えると、アメリカでのMMAバブルっぷりがよくわかる!

kamipro SHOPPING

ラスベガス大会記念Tシャツ、アメリカから逆輸入!!
kamipro Hand、kamipro通販 [TEL.03-5368-1797] **にアクセス!!**

PRIDE.33 THE SECOND COMING 開催記念Tシャツ限定発売!!



PRIDE SKULL MMA Tee
¥4,200（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Black



WANDERLEI SILVA vs DAN HENDERSON Tee
¥4,200（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Black



BTT WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Green / Black



CHUTE BOXE WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Ivory / Black



CHUTE BOXE BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



WANDERLEI BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



BTT PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Black / Green



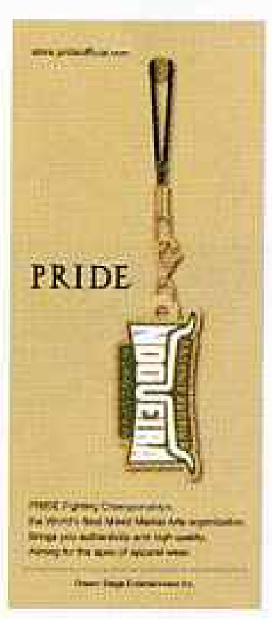
CHUTE BOXE PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI PARKA
¥13,440（税込）
S･M･L･XL　COLOR : Ivory / Black



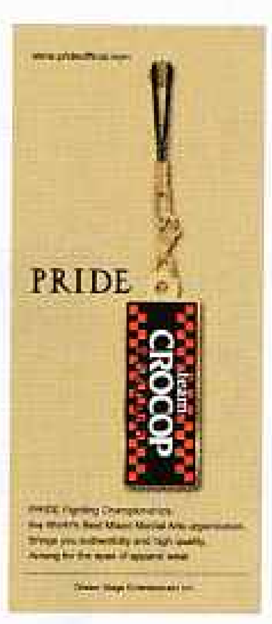
BTT BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



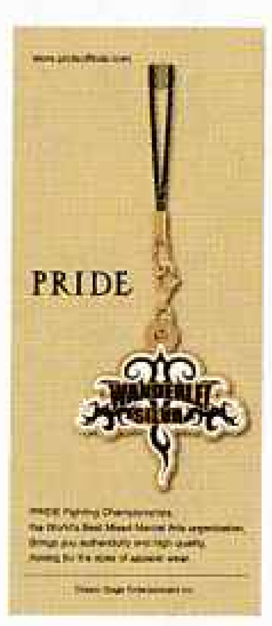
NOGUEIRA



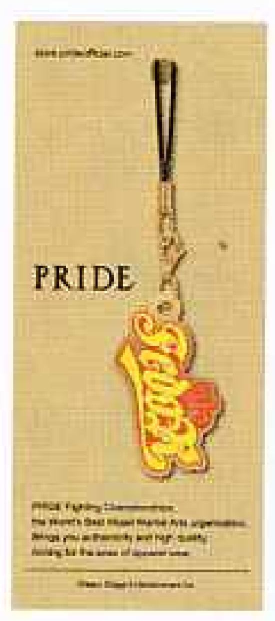
MARK HUNT



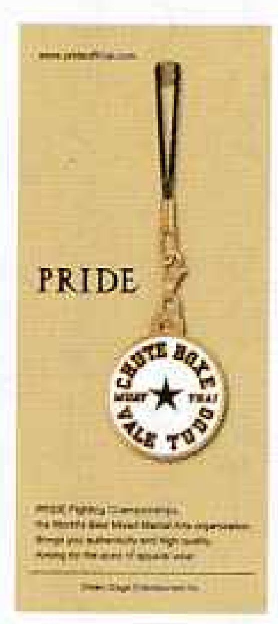
TEAM CROCOP



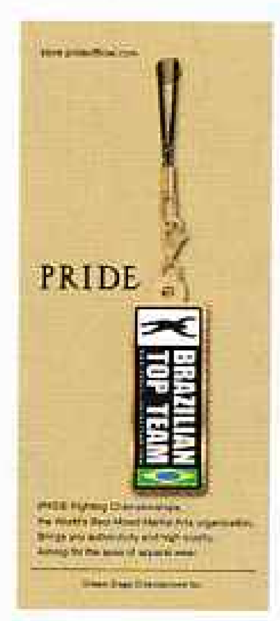
WANDERLEI SILVA



FEDOR



CHUTE BOXE



BRAZILIAN TOP TEAM

PRIDE NEW STRAP
各¥1,050（税込）

※掲載されている商品以外のPRIDEグッズもkamipro Handで購入できます。

販売元／（株）ドリームステージエンターテインメント

こちらの商品は『kamipro』通販でご購入できます。
電話、メール注文もできます。

非会員でもショッピング可能!!

（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1797
（平日13:00～19:00まで）

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!				
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

※kamipro通販に関する詳細に関しては、157ページのkamipro通販方法をご覧ください。



『ハッスル』新体制で調子に乗ってエース宣言



“『ハッスル』の新エース(予定)”

RG

「2007年、時は来た!」

3.15後楽園ホールでタイガー・ジェット・シン戦が緊急決定!

2月に入ると同時に『ハッスル』が急激に動きだした。なんと母体であるDSEから独立することが明らかになったのだ。髙田総統が支配権を握り、あらゆる価値観がフラットになった『ハッスル』でいま一人の男が立ち上がろうとしている。その名はRG――。ちょうど一年前にHGのオマケとして登場したRGが、なぜかここに来て“天下獲り”に向けて猛アピールを開始したのだが……その自殺行為とも言える無謀な発言の数々をここに独占掲載したい。そして、まるで罰ゲームのようなタイガー・ジェット・シン戦が緊急決定!! 死んでも知らないぞ、RG!!

聞き手/井上崇宏(THE PEHLWANS) 試合写真/平工幸雄 写真提供/DSE

髙田総統新体制で「今年はボクが大躍進する」とうそぶいた直後……RGが顔面蒼白に!!

―あれ？　また身体が大きくなりました？

RG　あ、わかりますか？　去年の『ハッスル・マニア』の頃より5キロぐらい増えてるんですよぉ。

―それは、あえて増量してるんですか？

RG　いえ、増やしてるというか、先輩方とゴハンに行ってボクがいっぱい食べると先輩が喜ぶんですよぉ。それで5キロ太りまして。

―〝棚橋式〟というか〝立命館式〟ですか（笑）。

RG　〝立命館式〟、または昔の極真空手的ですよ！　大山総裁はよく食べるヤツが大好きだったらしいじゃないですか。ついにボクもその境地に至りまして。

―ちなみにどんなものを食べてるんですか？

RG　まぁ、鍋の残りだとか……みんなが食べない「オイ、残ってるぞ」っていうのを片づけるっていうのが多いですね。

―どこが極真的なんだ（笑）。

RG　おかげでずいぶん〝鎧〟がつきましたよ。いま80キロくらいですね。それに加えてですね、最近バイクが壊れてかなり徒歩での移動が多いんで、バイク生活の時と比べて相当に体力もついてますよ。もっぱら大江戸線を利用してるんで、凄い階段が長いじゃないですか。

―徒歩で体力つけたって、練習はもっぱら〝馬場式〟ですか（笑）。たしかに大江戸線は地下に深いですからねえ。

RG　あの～そんなことより、今回ボク以外にも新生『ハッスル』から誰かにインタビューするんですか……？

―いや、RGさんだけですよ。

RG　あ、そうなんですか!?　ほほぅ、悪くないですねぇ（嬉しそうに）。

―いま、露骨に元気になりましたね（笑）。まぁ、ある意味2006年の『ハッスル』において、もっとも躍進を遂げた男なんで、単独登場も当然といえば当然かなと思いますけど。



あーるじー■1974年6月8日、愛媛県八幡浜市出身。お笑いコンビ「レイザーラモン」HGの相方。相方のパクリでのし上ろうとハッスル参戦。なぜか4代目GMに抜擢されて現場を大混乱に陥れた。最近は試合出場の機会も増え、金村キンタロー、鈴木みのる、チーム3Dらと対戦。壮絶なまでにボコボコにされるが、その“受け”を一部マニア層が高く評価しており、本人も調子に乗っているらしい。

RG　う～ん、悪くないですっ！　まぁホント、自分でも「2007年、時は来た！」って感じですけどね。去年の途中くらいまでは参加しつつも、『ハッスル』ってまだ自分にとって他人事だったんですよ。それがだんだんこう、『ハッスル』を背負うというか、けっこう神輿の重要なところを担がなくてはいけなくなってきたなという責任みたいなものは感じてきてるんですよ。

―ほう。詳しくお聞かせ願えますか？（笑）。

RG　以前まではやっぱり「リングに上がらせてもらえるだけでありがとうございます」という感じだったんですけど、これからはやっぱりボクが『ハッスル』を盛り上げなくてはいけない、『ハッスル』をもっと世に広めなくてはいけないという〝使命感〟ですよね。いや～、やっぱり立場が人を育てますねぇ。

―だんだん言ってることがかつての小川直也みたいになってきてますよ（笑）。

RG　あぁ、いまのボクはたぶん小川さんが『PRIDEヘビー級GP』に出たときと同じ気持ちですよ。ボクも『ハッスル』のためにと思って、今年も『R―1ぐらんぷり』に出場しまして……まぁ二回戦であっさり敗退しましたけど。

―小川直也もなんとか二回戦までは勝ち上がったっていうのに（笑）。ところで最近、『ハッスル』以外のリングでも芸人さんが試合をしてたりしてますよね。

RG　あ！　こないだ人から聞いた話なんですけど、他のリングでも芸人さんが試合をしてるっていうんで『ハッスル』の関係者が「それなら、ウチは芸人にもっとヒドいことをやらせてやる！」って言ってたらしいんですよぉ。

―それは穏やかじゃない情報ですね（笑）。でも、すでにもうほかの芸人にはできないレベルのことをやってると思いますけどね。レスラーの技をあれだけ受けられるのはレイザーラモンのお二人だけですよ。

RG　あ、そう言ってもらえるのは嬉しいですねぇ。こないだ相方のHGとも話したんですけど、「『ハッスル』を仕事の軸にしていけたら最高やな」って。大好きなプロレスを中心として関わりながら、ご飯を食べていけるっていう、それは最高やなぁと。そうなるためにも、ボクら一人一人が身体を張って頑張らないといけないなと思うんですよ。

―ずいぶんと殊勝な発言が続いていますけど、そもそもRGさんはなんのために『ハッスル』のリングに上がってるんですか？

RG　なんのために？　う～ん……やっぱり「ウケたい」ってことですよね。とにかくウケたいです。テレビ番組とか舞台とかでそんなにウケてないので……。

―どんな芸人ですか、それ（笑）。

RG　いやいや、ネタじゃなくて「生き様で笑わす」というか。ボクで笑っていただけたらそれでいいかなと思います。いま、すっかり仏の心になりつつあるというか……。

―仏の心？

RG　やっぱり救いたいんですよね、世の中のみんなを！　ボクの闘いを観て、みんなが笑って、結果救われてもらえれば。やっぱりプロレス界みんなが「いい試合をしよう」とか「いい格好がしたい」とか思う中、「相手をトコトン光らせたい」とか「とにかくお客さんを笑わせたい」と考えてるヤツが一人くらいいてもいいんじゃないかなと思うんですよ。（小声で）そうとでも思ってなきゃやってられないですよね……。

―アハハハハ。我こそは救世主であるというイメージですか（笑）。ずいぶん大層なイメージですが、悪くないですよ。

RG　だから前号、前々号の『Kamipro』はホントね、何度も何度も読み返しましたけど「よし、ボクのことをたくさんほめてある！」っていうね。で、『Kamiproアワード』でもなんかの賞に入れてくれたりだとかね。「あぁ、みんなの心に残ったんだなぁ。ボクに救われたのかな」と

DSEから独立! どうなるハッスル新体制!

3・15『ハッスル・ハウス』でRGに絶体絶命の大ピンチが到来!!

いう感じがしましたね。「RGが『ハッスル』の屋台骨を支えた」とか書いてありましたけど、そこの箇所も正直、何度も読み返しましたよ!

——それ、自分が救われてるんじゃない!(笑)。

RG (無視して)あと読者コーナーでも、ボクの「イジメに負けるな! 俺を見ろ!」という言葉が名言だというハガキが載ってましたよね。たしか18歳の男の子だったと思うんですけど。そこも何度も読み返しましたよぉ。

——読者コーナーをそこまで読み込んでるのはアナタだけですよ(笑)。

RG それなのに、そんなボクのコラム連載が終わったことだけはいまだに納得いきませんよ!

——救世主がそんなちっちゃいことにこだわってちゃダメだろって(笑)。まぁ、そんな自他ともに認めるご活躍を実際に見せているRGさんですけど、このたび髙田総統が新生『ハッスル』のオーナーに就任したじゃないですか。聞くところによると、その総統が「RGは最近受けがうまくなったといって、調子に乗っているらしいな」って言ってるみたいですよ(笑)。

RG へ? 髙田延彦PRIDE統括本部長はボクのことをほめてましたよ!?

——また『Kamipro』参照ですか(笑)。でも本部長と総統はまったくの別人だから。

RG 「アイツのとぼけたやられっぷりは地上波に乗せたら化けるぞ」って。そこ、何回読み返したことか!

——復唱の嵐ですね(笑)。それで総統は「アイツに新生『ハッスル』のリングに上がる資格があるのか、さまざまな試練を用意してジャッジしてやる」と言ってるみたいなんですね。

RG はい? 「資格があるのか」って……総統は厳しいですねぇ。それならボクも言わせてもらいますけど、去年の『ハッスル』後半3大会ぐらい、あれは誰が一番盛り上げたんだと!



緊急決定!!
RG vs タイガー・ジェット・シン

狂乱ファイトは健在!! RGも顔が命の芸能人だが、大流血は必至!! それどころか生きてリングから降りられるのか!? 今年前半最大の注目カードだ!!

——おお、今日最も大きく出ましたねえ。『『ハッスル』をエイドしたのは俺だろうが!』と。

RG そうですよぉ! そんなボクに資格云々だなんてよく言えますよねぇ……。

——まぁ、RGさんに限らず髙田総統新体制の『ハッスル』は「全員をモンスター化していく。そこでモンスターになれなかったヤツは容赦なくクビを切っていく」という方針みたいなんですよ。

RG クビを切る、ですか……? う〜ん、モンスター化ねえ。

——つまり、今回の3・15『ハッスル・ハウスvol・22』と3・18『ハッスル21』の両大会は髙田総統による査定マッチでもあると。いまハッスル軍や髙田モンスター軍という枠組みがなくなっちゃって、全員が横一線というか誰がトップに躍り出るかも分からないという状況じゃないですか。

RG ほほ〜う。なるほどなるほど。そうすると新生『ハッスル』では、エンディングにリングのど真ん中に立っているのはボクかもしれない、と……?

——話の流れは完全に違ってましたけど(笑)、まぁ活躍次第でその可能性だって充分ありますよね。

RG 去年はですね、エンディングのあいだ、控室にボクしかいないっていう状況がよくありましたからねぇ(しみじみ)。みんなエンディングに参加してたんで、ボクが一人ぼっちでモニターをながめてることがよくあったんですよ。

——だから、今年はその立場が逆になる可能性もあるわけですよ。

RG 悪くないですねぇ、それ! いやぁ、だんだん、ボクの責任も重くなってきましたねぇ。ここまで背負うものが多くなるとは……。ま、今年は大躍進の年になるんじゃないかと思いますね。ホント、査定するって言いますけど、いまのボクは誰が相手でもきっちり受けてみせる自信がありますんで、髙田総統もボクの実力を認めざるを得なくなるんじゃないですかね。

——確かにいまのRGさんなら問題なく査定をクリアするかと思いますけどね。(ここで担当編集者が耳打ち)……えっ!? いま入った情報だと3・15『ハッスル・ハウス』でのRGさんの相手がタイガー・ジェット・シンに決定したらしいですよ!(笑)。

RG エ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ッ!?

【07年2月10日、『kamipro』編集部にて収録】

衝撃の結末を迎えたインタビューだが、その情報を聞いてからRGはすっかり青ざめてしまい、ワナワナと恐怖に打ち震えていたことをつけ加えておきたい。芸能人であるRGは顔に傷を作るのはもちろんご法度。しかし、シンと対戦して流血しないなんてことはあり得ない。生きてリングを降りる可能性のほうが少ないだろう。RGは芸能界的な〝死〟と生物学的な〝死〟、両方が待ちかまえているのだ。大丈夫なのか、本当に!?

「みんなチケット買ってヨゥ!」(RG)

HG&RG単独ライブ「キューバの伊達男」開催!!

【日時】3月2日(金) 開場18:30/開演19:00
3月3日(土) 開場17:30/開演18:00

【会場】ルミネtheよしもと
東京都新宿区新宿3-38-2 JR新宿駅南口
ルミネ新宿店2-7F

【入場料金】前売 3,000円 当日 3,500円(全席指定・税込)

【出演者】HG、RG、住谷正樹、出渕誠

【お問い合わせ】ルミネtheよしもと TEL.03-5339-1112



ヒマでモテない下々の諸君に朗報!!

〝奇跡の人〟が3月シリーズに降臨!!

インリン様が帰ってくる!!

一年三ヵ月ぶりに“ハッスルの女王”が復活する!!

2005年のクリスマスに卵を産み落としたのを最後に、「M字パワーを使い果たした」と戦線離脱したインリン様がハッスルに帰ってくる!!　ちょうど一年のあいだに数々の激闘を繰り広げ、いくつもの“奇跡”を起こして強烈な記憶を我々の脳裏に焼きつけたインリン様。いまだにインリン様の信奉者は多く、その復活を望む声は多かった。そして、高田総統が全権を握る新生「ハッスル」に再びインリン様が降臨。M字ビターンで多くのファンを洗脳するに違いない！

構成／御前平唯郎　撮影／平工幸雄　写真提供／DSE

常に観客の期待の一歩先を進んできたインリン様は今回も我々の予想を上回る!?

こんなに嬉しいお知らせはない。ハッスルの会場に来た観客をM字開脚（M字ビターン！）で洗脳し、「あのムチでしばかれたい……」とつぶやく男性客が続出したインリン様が『ハッスル』に帰ってくるのだ。

05年11月3日の『ハッスル・マニア2005』でHGに初黒星を喫し、同年12月25日に卵（イン卵様）を産み落としたのを最後にインリン様は長い旅に出た。その卵は生物学の常識に反してどんどん大きくなり、3メートルの大きさになったところで孵化してニューリン様が誕生した。

これだけでも充分に信じられない話だが、インリン様はそれ以外にも数々の奇跡を起こしてきた。その偉業は『ハッスル』のダイジェスト映像などで必ずといっていいほど使用される印象的なシーンばかり。

05年2月のデビュー戦ではバルセロナ五輪・柔道銀メダリストの小川直也からM字固めでフォール勝ちを奪ったのが快進撃のノロシだった。この試合で見せた優雅な立ち振る舞いと華麗なムチさばきは、M字ビターン！によって洗脳された観客に大絶賛された。逆に小川直也の出口の見えないスランプはここから始まっているのではないか、という見方もある。

同年7月には当時"ハッスルK"だった川田利明の回転エビ固めを身体の一部であるムチを投げてエスケープするという離れ業を披露!! もはや神がかりともいえる芸術的なムチさばきで観客を完全にKOしてしまったのだった。

だが、そんな快進撃にストップをかけたのはHGだった。同年11月3日の『ハッスル・マニア2005』で激突した両者は並みいるレスラーの中で魅せるファイトを繰り広げた。技を受けきったHGは股間を膨張させた三角絞めでインリン様を失神させると掟破りの逆M字フォールで勝利した。

敗れてもなお、インリン様は観客の心に残る。なんと完全に意識を失なってピクリともしないのだ。"モンスターK"となった川田に抱きかかえられスモークの中に横たわり、ステージの下へと沈んでいったのだった。この光景には涙を流す観客も続出!! さらに年末の『東スポ』主催プロレス大賞で話題賞を受賞。当初は『ハッスル』を評価していなかった多くのマスコミ関係者が、インリン様の活躍を認めたのだ。

そんなインリン様も激しい闘いを繰り広げてきた代償でボロボロに傷ついていた。M字パワーを使い果たしてしまい、もはやリングに立てない身体になっていたのだ。最後の力を振り絞って最後のM字ビターン！で観客を魅了したインリン様。その手にはなんと産み落とした卵が握られていた。この瞬間の観客のリアクションは「呆気にとられた」と表現するのが正しいだろう。常に観客の期待の一歩先を進んできたインリン様は、最後の最後まで観客をいい意味で裏切ってみせたのだった。ちなみに、忘れ形見として遺したインリン様の卵は「イン卵様」と呼ばれ、06年4月に中からニューリン様が誕生している。

一年三ヵ月の沈黙を破って復活するインリン様も、きっと我々の予想をはるかに上回ってくれるはずだ。M字ビターン！で洗脳されるのが、いまから待ち遠しくてしかたがない。

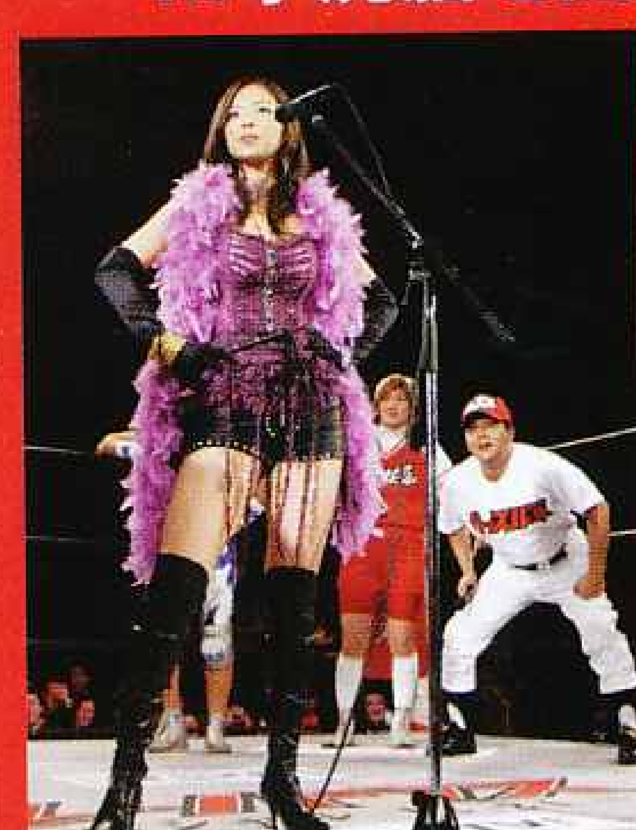


いんりんさま■生年月日、出身地、身長、体重は不明。高田モンスター軍のナンバー2として活躍。04年12月に衝撃的に登場して以来、このページで紹介しているように数々の伝説を残した。毎回異なる衣装で登場して、常に観客を楽しませる高いプロ意識を持つ。手に持ったムチは笹原GM（当時）が「身体の一部」と認定したため、試合で使用しても反則にはならない。娘のニューリン様とは険悪な仲だ。

わずか一年でこれだけの"奇跡"がインリン様によってもたらされた！

2004.12.24
ハッスル・ハウス クリスマススペシャル
東京・後楽園ホール

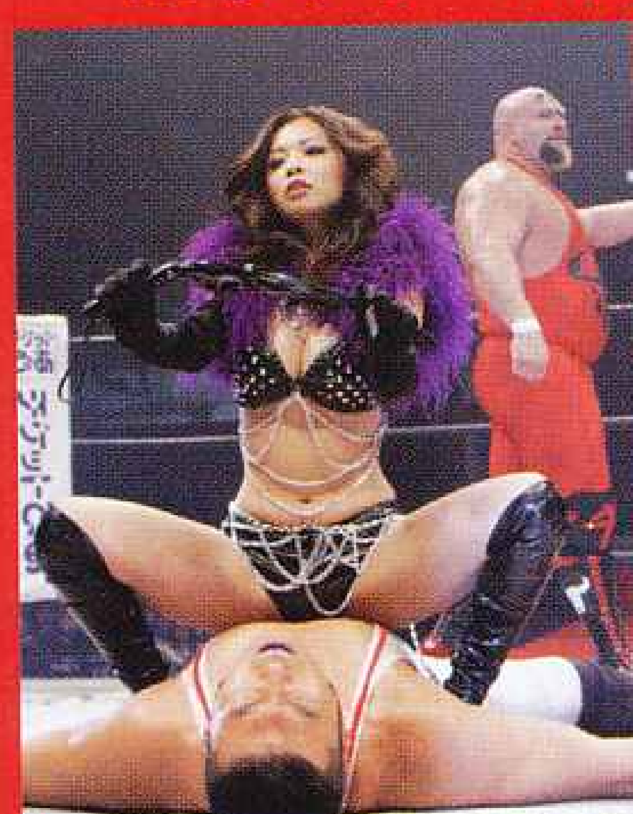
華麗なる初登場でM字洗脳を開始！



ハードでセクシーな衣装のインリン様は登場するなり華麗なるムチさばきとM字ビターン！で後楽園ホールのファンを完全に洗脳した。強烈なインパクトで堂々たる初登場を果たす。

2005.2.11
ハッスル7
愛知・愛知県体育館

デビュー戦で小川にM字フォール勝ち！



過激な衣装でデビュー戦に登場するなり華麗なムチさばきで観客を魅了。"キャプテン・ハッスル"小川直也からM字固めで完全なる3カウントを奪取。『東スポ』の一面を飾った大事件だ。

2005.5.10
ハッスル9
新潟・新潟市体育館



M字コンテストでEricaに判定勝利！

「どちらがいい女か？」という"美"をテーマにしたEricaとの抗争ではラウンド制で対決。台の上でM字を競うという画期的な対決で判定2-1で見事に勝利。この時点ですでに貫禄すら漂っている。

2005.7.15
ハッスル11
大阪・大阪府立体育会館

誰もがため息をつく芸術的ムチさばき！



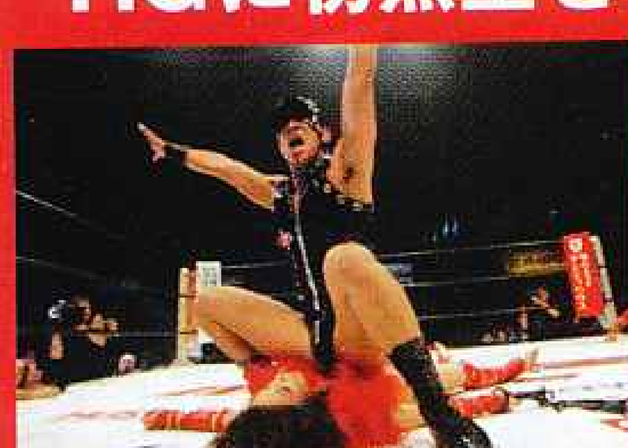




M字固めをエビ固めで返される大ピンチ。しかし、機転を利かせたインリン様はとっさに"身体の一部"であるムチを投げてロープ・エスケープ。ノーコンテストに持ち込んだ。

2005.11.3
ハッスル・マニア2005
神奈川・横浜アリーナ

インリン様、死す!? HGに初黒星を喫する





デビュー戦を迎えたHGと激突したニューリン様はムチだけでなくスタナーなども駆使して大暴れ。しかし、HGの三角絞めで絶命!? モンスターKに抱えられ、花道奥に沈んでいった。

2005.12.25
ハッスル・ハウス クリスマススペシャル
東京・後楽園ホール





涙のラストM字！そして奇跡の産卵

「M字パワーが尽きました」と戦線離脱を髙田総統に申し入れたインリン様。観客が涙を流す中、最後のM字ビターン！で、なんと産卵！ 山口百恵『さよならの向こう側』が流れる中、静かにムチを置いた。

DSEから独立！
どうなるハッスル新体制！

『ハッスル』がDSEから独立！ すべては髙田総統の支配下に！



『ハッスル』がDSEから独立！ このショッキングなニュースを最初に報じたのはプロレス・格闘技の専門誌ではない。なぜか『夕刊フジ』（1月27日付）がデカデカと報じ、それがYahoo!のトップにもリンクが貼られたので記事を読んだ人も多いはずだ。昨年のフジテレビ・ショックから立ち直り地上波放送を獲得するために、『ハッスル』が経営母体である株式会社ドリームステージエンターテインメントから独立するという内容の記事だった。

それを受けるかたちで2月1日に髙田総統が記者会見を行ない、『ハッスル』を買収したことを明らかにした。買収金額は100億モンスタードル（日本円換算金額は不明）という超破格の値段だ。これを受けて榊原信行DSE代表は「いいんじゃないの？」とあっさりコメントしたという。

『ハッスル』の全権を掌握した髙田総統は「我がモンスター軍とハッスル軍の決着はすでについている。よって、これからは、髙田モンスター軍＝『ハッスル』、になるということだ！ 『ハッスル』のスタート以来、常々、日本のプロレス界を壊滅させると宣言してきたが、昨年末をもって、そのミッションはすべて終了した。これからは、プロレスとは違う〝ハッスル〟という新たなジャンルを確立することが我々のミッションだ」と高らかにハッスルの組織改変を宣言した。

髙田総統の支配により、ハッスル軍、モンスター軍、坂田軍団といった軍団編成は白紙になり、髙田モンスター軍の一党独裁体制となった。さらにはGM職もなくなり、マッチメイクをはじめとする権限は髙田総統の手に握られた。

『ハッスル』始まって以来の重大な組織改変は、テレビ中継の獲得が念頭にある。本気モードの髙田総統はどんな組織運営をするのだろうか？ そして、『ハッスル』を立ち上げてからトップを走ってきた小川直也の立場はますます厳しくなった。「私に盾突く者は排除する」と宣言している髙田総統は当然、小川に対する風当たりを強めるはず。ますます小川の真価が問われることになるはずだ。



あのプライドの塊のような坂田亘がGMの象徴であるジャケットを脱いで最敬礼。もはや髙田総統には誰も逆らえないのか!?

風雲急を告げる3月シリーズ 大会スケジュール

ハッスル・ハウスvol.22

3月15日（木）東京・後楽園ホール（18:00開場／19:00開演）
【チケット料金】※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 7,000円／スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円
【決定対戦カード】**RG vs タイガー・ジェット・シン　KUSHIDA vs ＼(^o^)／チエ**

ハッスル21

3月18日（日）愛知・愛知県体育館（16:00開場／17:00開演）
【チケット料金】※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP（特典=ハッスルグッズつき）12,000円／RRS 8,000円／スタンドS 6,000円／スタンドA 4,000円
【決定対戦カード】**HG vs タイガー・ジェット・シン　小川直也 vs TAJIRI**

【オフィシャルHP】http:www//hustlehustle.com/
【お問い合わせ】DSEハッスル事業局 TEL.03-5464-1731

小川は髙田総統の新体制を断固拒否！ 『ハッスル』離脱!? ハッスル軍解散!?



髙田総統の記者会見を受けて特訓中のハッスル星から緊急帰国した小川直也は2月3日に東京・八王子の宝生寺で豆まきに参加。そのあとの囲み取材で「日本のプロレスを根こそぎブチ壊すとか言っておきながら、金で解決しようとする姿勢が許せねえ」と不快感をあらわにした。「あいつの下でやっていくことはあり得ない」と総統の支配下に入ることは断固として拒否した小川。発表された新体制にも断固として立ち向かう決意を固めた小川は「もし裏切るようなヤツがいたら許さない。寝返るヤツが出たらハッスル軍を解散する方向でいく」と厳しい姿勢で臨むことを明かした。

kamipro SHOPPING

kamipro通販哀歌(エレジー)? あるいはkamiproウェアという名の公園

銀河系で唯一の"I編集長公認"Tシャツ



I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990(税込) S･M･L･XL





ハリトーノフ"死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200(税込)
S･M･L･XL



ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ¥6,300(税込)
M･L･XL



ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド ¥7,350(税込)
M･L･XL



ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ／ホワイト／レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



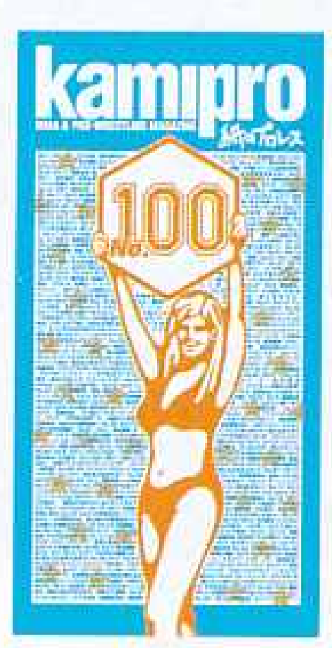
ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製
巨大バスタオル[★]
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150(税込)



[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]



(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

★左ページの商品も同様のサイズです。

★kamipro Handでは、このほかにもおトクな商品をたくさん取り揃えております。ぜひアクセスしてください。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

- DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
  ※もしくは「kamipro」で一発検索!!
- au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
- WILLCOM エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[通販の問い合わせ先]
株式会社ダブルクロス
TEL.03-5368-1797
(受付時間／平日13:00〜19:00)
販売元：株式会社ダブルクロス

こんな会社辞めてやる!!

フォルダにも入れません!

kamipro PRESENTS

というわけで、読プレ担当だった辻ちゃんの突然の逃走により（ハガキページ参照）、今回の読プレページはどこにどんな読プレが眠っているのかわからぬまま手探り状態でかき集められた賞品でしたが……、なぜかいつも以上に素敵な賞品が勢ぞろい！　読者の皆さま、今号も必要事項とおもしろコメントを必ず書いて、心おきなくどんどん応募してきてください〜!!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は3月21日以降発送予定です）。

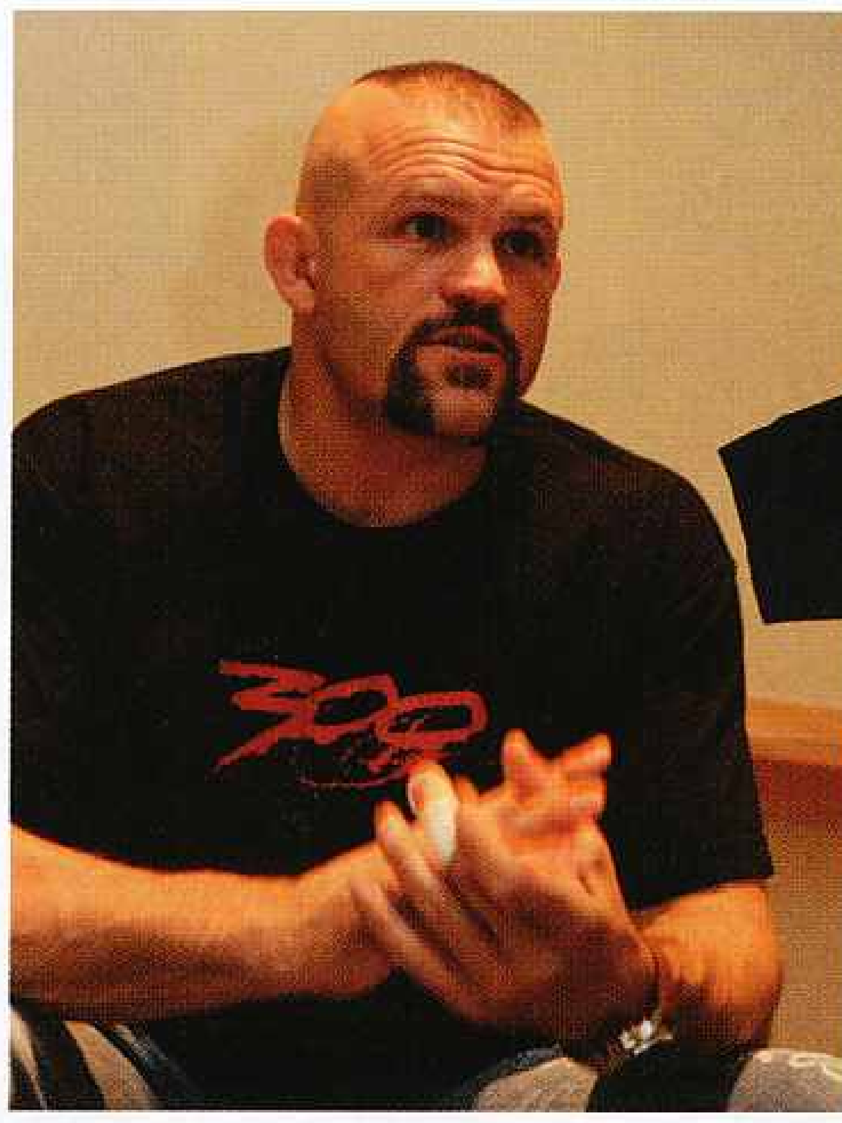
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦いま、あなたが逃げ出したいこと⑧UFCについて思うこと

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス「kamipro」編集部「今日辞めます」係まで
※締切は2006年3月20日（火）当日消印有効

kamipro 108 応募券
鍵を返してください

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

USA

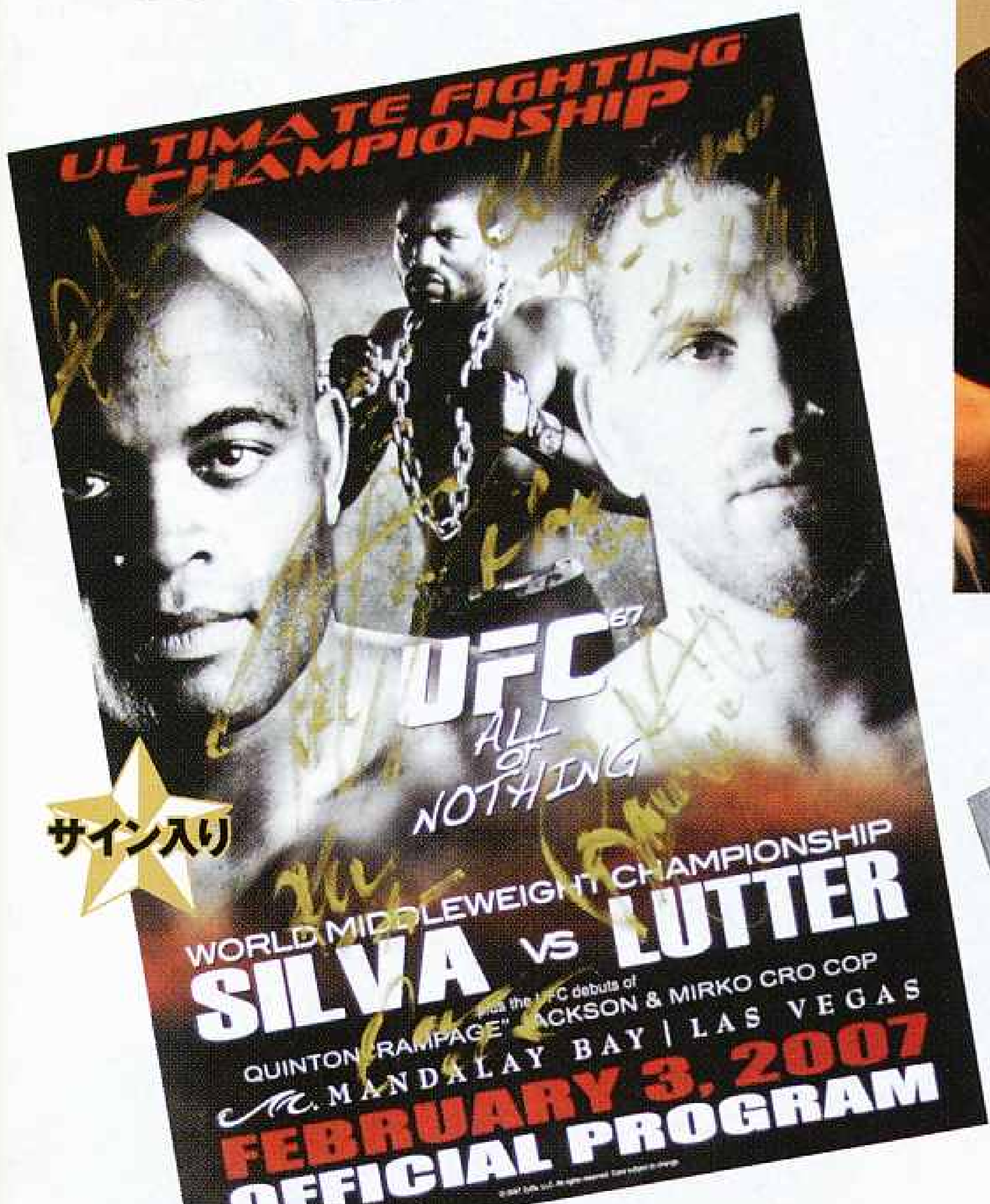


UFC Tシャツ

各1名様

アメリカ組からのお土産であるUFC Tシャツは、一つがUFCライトヘビー級王者チャック・リデルのサイン入りTシャツ、もう一つはUFC67の大会記念Tシャツです。ほしいTシャツの番号を書いて応募してください〜。



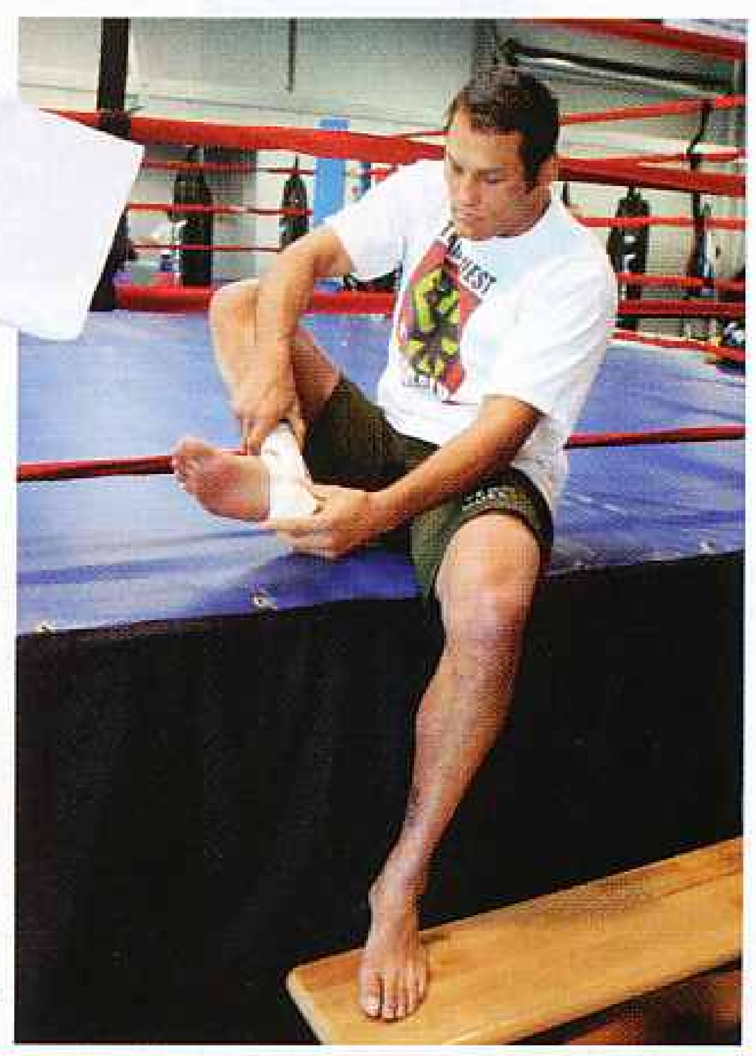


UFC67 選手サイン入りパンフレット

1名様

UFC67のパンフを1名様に。表紙には、ランディ・クートゥアー、チャック・リデル、アンデウソン・シウバ、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンほか、そうそうたる方々のサインが入ってます。これは貴重!





チーム・クエストTシャツ

各1名様

我らがダンヘンが所属するチーム・クエストTシャツをそれぞれ1名様に！　これを着たら誰もがダンヘンのようにカッコよくなれる!!　というわけではありませんので悪しからず。

UFC■http://www.ufc.com/

PRIDE



笹原PRIDE広報局長サイン入りアメリカンキャップ

1名様

素敵なアメリカンコスプレに応じてくれた男の中の男・笹原広報局長から、サイン入りアメリカンキャップをプレゼント。しかし、今回の笹原氏は、どっからどう見ても変質者!!



PRIDEストラップ ¥1050（税込）①

各1名様

PRIDEから新商品のストラップをプレゼント！　オフィシャルHPではヒョードル、ノゲイラ、シウバら超人気のラインナップで一斉発売!!　ハズれた人はHPへアクセスしよう。



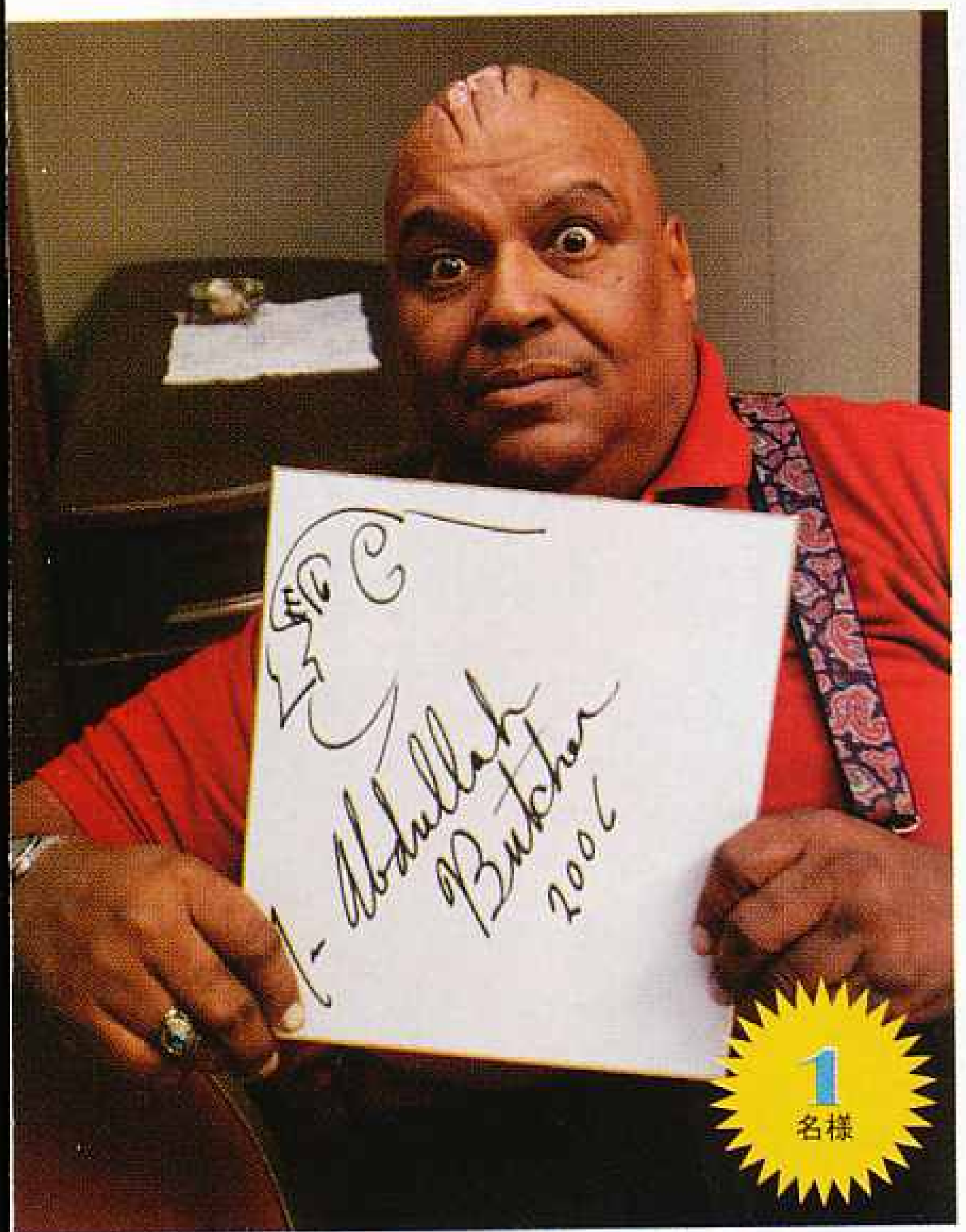
ジョシュ・バーネットキャッチTシャツ②

1名様

今号のアートジャンキーさんからのプレゼントは、ジョシュ・バーネットが"最強"と信じてやまない「キャッチ・レスリング」をモチーフにした一着です!

①PRIDE■http://www/prideofficial.com/　②ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/index.html

WARU



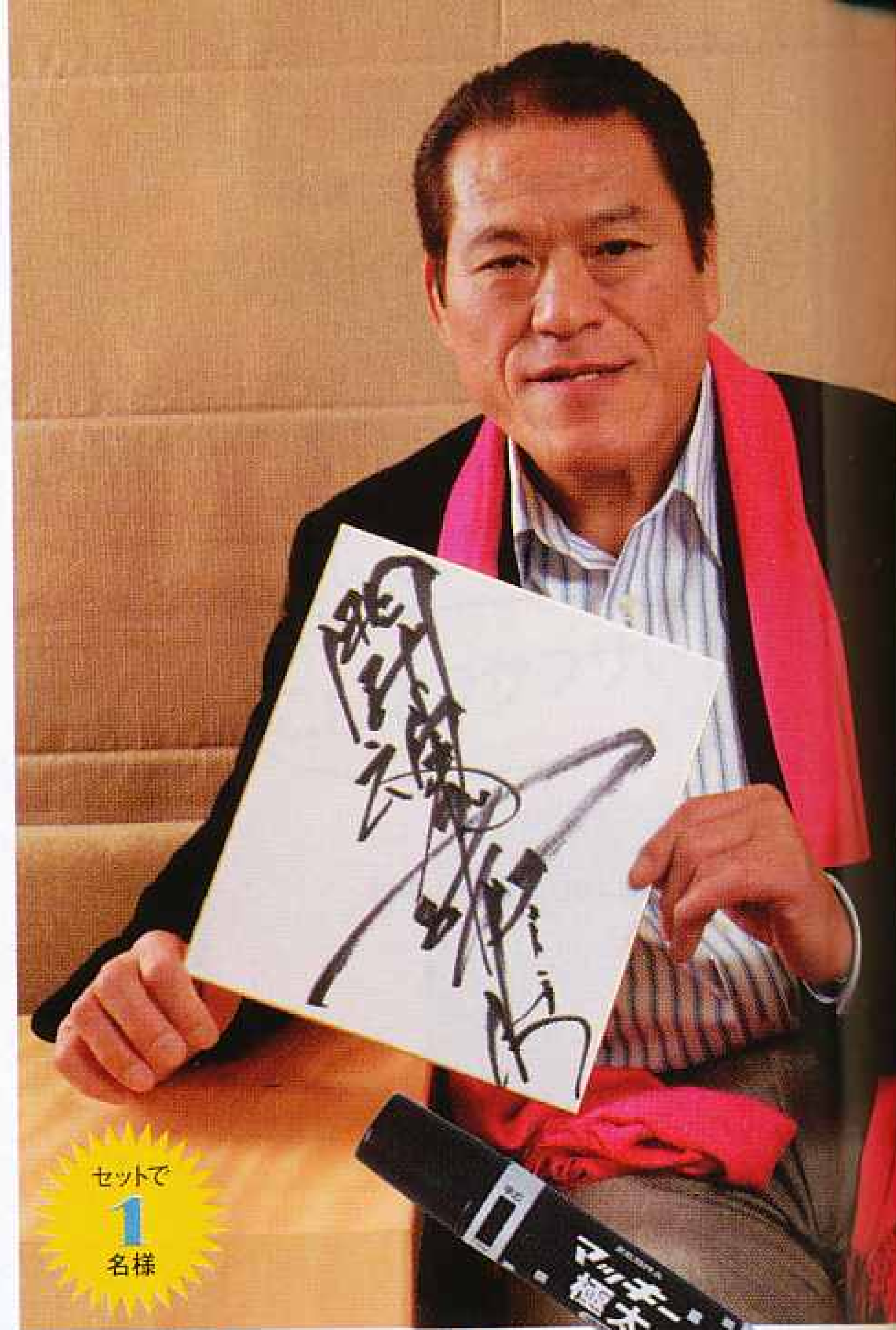
アブドーラ・ザ・ブッチャー サイン色紙

3年G組のスペシャル・ティーチャーを務めてくれたブッチャー先生からは、ご自身の似顔絵(?)つきサインをいただきました〜。当選した人は「金をよこせ」と迫られたりしないようにくれぐれもご注意を!!



小林邦昭×佐山聡サイン色紙

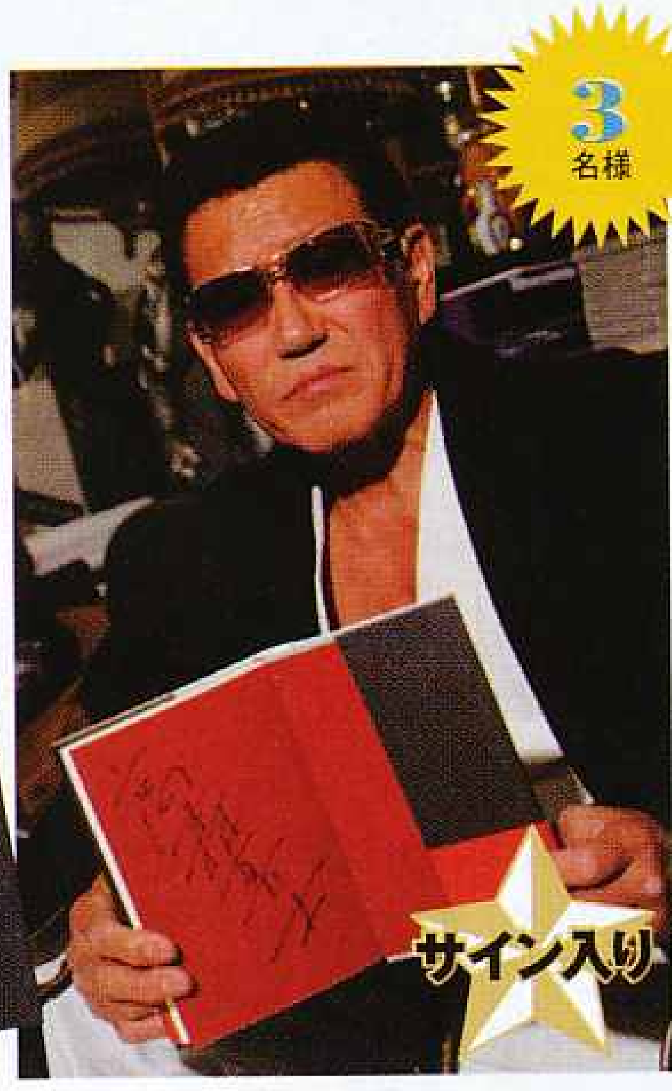
夢の対談、小林邦昭さんと佐山聡さんのコラボサイン色紙を1名様に! これはぜひタイガーマスクに憧れたお父さん世代の人にどんどん応募してきてほしい!! それにしてもこの写真から"殺し"を感じるのはなぜ……。



アントニオ猪木サイン色紙&極太マジック

ひさしぶりに『kamipro』に登場してくれたアントン。持参した極太マジックで書いた「闘魂」の文字は達筆すぎる! せっかくなので、マジックとサイン色紙セットでプレゼントします。元気があればなんでもできる! 元気があれば逃走もできる! 1、2、3、ダー!!

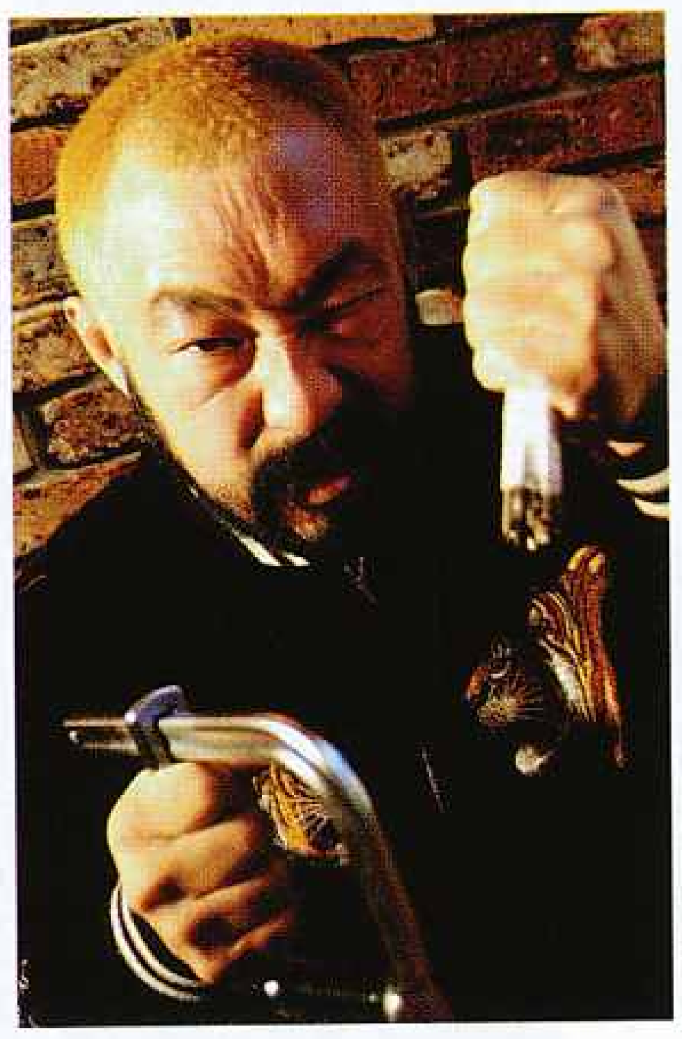




真樹日佐夫 サイン入り『渾身のシニア』

高森真士著/¥1680(税込)

前号でも紹介した高森真士著(真樹先生のペンネーム)『渾身のシニア』をサイン入りでプレゼント。空手道場を主催する60歳すぎの男を主人公とした怒濤のストーリーです。



松永光弘 凶器セット

ミスター・デンジャーからは試合で本当に使用したという釘と万力をセットでプレゼントしていただきました。観賞用なので、当たった人は絶対に親やお友だちに対して使わないように! もちろん自分にも。



UWAI





上井駅長の名刺

上井駅長からは名刺のプレゼント! というのも、この名刺は失敗作だとか……。しかし、駅長の素敵なショットならびに、ケータイ画面をきれいにするクリーナーつきという豪華さ。マニアにはたまらない一枚です。

KENSUKE

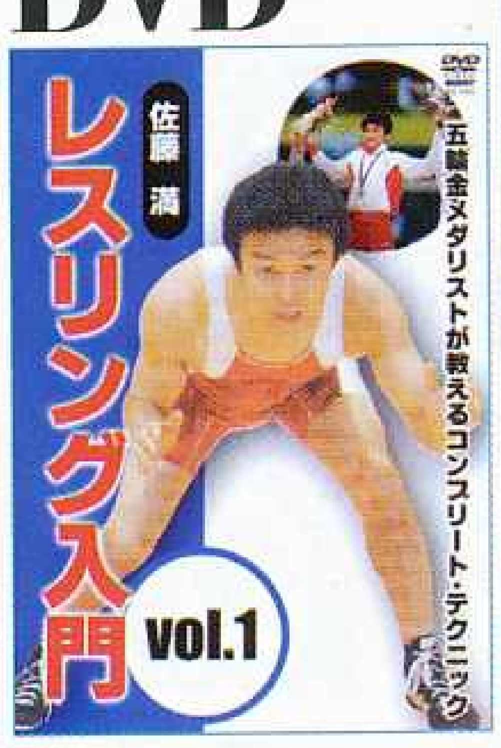


健介オフィス新作Tシャツ

2月11日、ディファ有明で開催された健介オフィスの旗揚げ戦『Take The Dream vol.1〜夢を掴め〜』にちなんで作られたオリジナルTシャツ、そのほか全3着をそれぞれ1名様に。当会場で手に入れられなかった読者は、ほしい番号を書いてぜひ応募してくださ〜い。

健介オフィス■http://www.kensuke-office.com/

DVD





サンボ完全教則 中級篇

116分/¥5880(税込)

程聖龍内家拳〜八卦掌〜

54分/¥5880(税込)

初見良昭 口伝 その三

91分/¥5040(税込)

各
1
名様

佐藤満 レスリング入門 vol.1

100分/¥5880(税込)

山本KID徳郁のオリンピック挑戦で注目が集まるレスリング。その技術をソウルオリンピック金メダリストの佐藤満さんが解説してくれる一枚です。レスリング初心者の人は、これでレスリングのおもしろさを学ぶべし!!

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOK



王樹金老師 太極拳真伝

¥2940(税込)

太極拳を武術的に使う極意が記された注目の一冊。太極拳の本当の強さ、強くなるための秘伝はこれで学ぶしかない!! 型や実践の動きをしっかり確認できるDVDつきです。

東邦出版■http://www.toho-pub.com/

GAME



モンスターハンターポータブル 2nd

PSP ¥5229(税込)

プレイヤーは巨大なモンスターを狩るハンターとなり、自然を舞台に狩猟生活を送るアクションゲーム! 仲間との協力、一人での挑戦と、遊び方は自由。前作をはるかに上回るボリュームです!!

カプコン ユーザーサポートセンター■06-6946-3099

kamipro 紙のプロレス

No.108
2007年3月7日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
シルク・ド・上杉
八木賢太郎（秘密の書籍制作中のため非番）

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

ハートはパンク!
辻ちゃん

終身名誉バイザー
吉田 豪

秘書?
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

超神業
入江ドラリオン（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石"またSpecial出すんですか"芳司

"タグをつけてくださいね"な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

2.24 PRIDEラスベガス大会徹底詳細、ボードッグ in コスタリカ現地潜入号

kamipro Special 2007 SPRING
3月7日(水) 発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

次号No.109は 3月23日(金) 発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2007 108 オタクゴンに♪ダン!ダン!! ダダン!!!

2007年3月7日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社　©2007 ENTERBRAIN,INC.　©2007 DOUBLECROSS

enterbrain



定価:本体838円+税
雑誌61954-74 Ⓗ2007.6
Printed in Japan 図書印刷

9784757733831
ISBN978-4-7577-3383-1
C9476 ¥838E
1929476008381